

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第399集

# 泉屋遺跡第16・19・21次発掘調査報告書

—開遊水地事業関連遺跡発掘調査

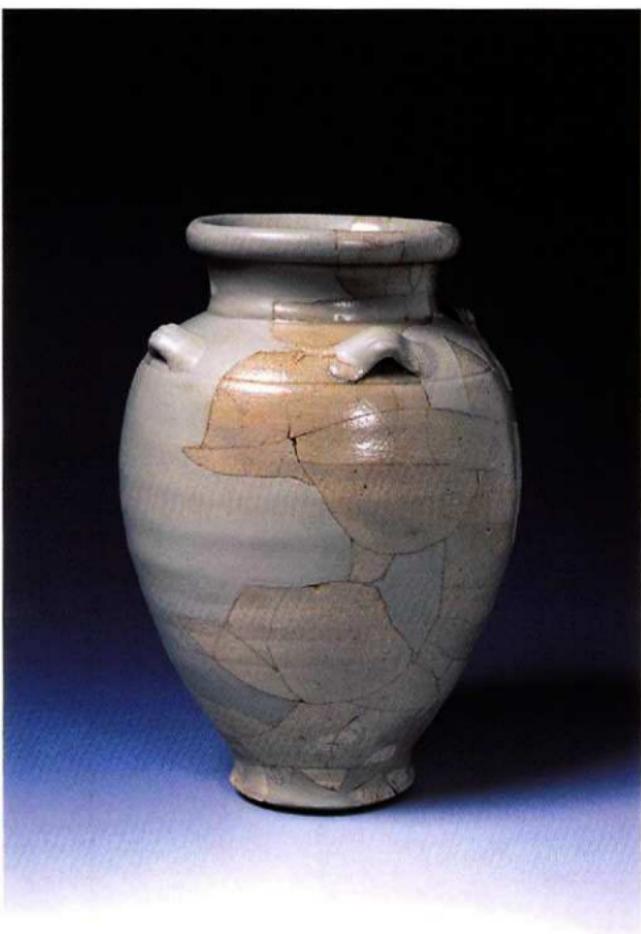
(第2分冊)

国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

# **泉屋遺跡第16・19・21次発掘調査報告書**

**(第2分冊)**



白磁四耳壺



旧河道路 調査状況



木柱列

## 第2分冊目次

巻頭カラー図版

目次・凡例

第5章 泉屋遺跡第19・21次調査

第1節 検出した遺構	1
1 掘立柱建物	1
2 井戸	14
3 土坑	21
4 溝	32
5 古代の堅穴住居	39
6 焼土（19次調査分）	41
7 土器埋設遺構	42
8 カマド状遺構・焼土（21次調査分）	44
9 旧河遺跡・木柱列	47
第2節 出土遺物	62
1 純文時代の遺物包含層について	62
2 純文時代の出土遺物	62
3 土師器	65
4 須恵器	66
5 かわらけ	67
6 国産陶器	67
(1) 猿投產陶器	68
(2) 湿炎產陶器	68
(3) 常滑產陶器	68
(4) 須恵器系陶器	68
(5) 水沼產陶器・壺器系陶器	69
7 中国產陶器・朝鮮產陶器	69
8 中国產磁器	69
9 中・近世陶磁器	70
10 土製品	70
11 石製品	71
12 金属製品	71
13 木製品	72
14 その他の遺物	72
第3節 まとめ	273
1 遺構	273
2 遺物	274
第4節 自然科学的分析（5篇）	278
報告書抄録	

## 〈図版目次〉

第1図 遺構配置図		第49図 縄文時代の石器④	91
第2図 挖立柱建物①	2	第50図 縄文時代の石器⑤	92
第3図 挖立柱建物②	4	第51図 縄文時代の石器⑥	93
第4図 挖立柱建物③	6	第52図 縄文時代の石器⑦	94
第5図 挖立柱建物④	8	第53図 縄文時代の石器⑧	95
第6図 挖立柱建物⑨	9	第54図 縄文時代の石器⑨	96
第7図 挖立柱建物⑩	11	第55図 縄文時代の石器⑩	97
第8図 挖立柱建物⑪・柱列	12	第56図 縄文時代の石器⑪	98
第9図 井戸①	15	第57図 縄文時代の石製品①	99
第10図 井戸②	16	第58図 縄文時代の石製品②	100
第11図 井戸③	18	第59図 縄文時代の土器①	101
第12図 井戸④	19	第60図 縄文時代の土器②	102
第13図 井戸⑤	20	第61図 縄文時代の土器③	103
第14図 土塙①	23	第62図 縄文時代の土器④	104
第15図 土塙②	25	第63図 縄文時代の土器⑤	105
第16図 上塙③	29	第64図 縄文時代の土器⑥	106
第17図 潟①	33	第65図 縄文時代の土器⑦	107
第18図 潟②	34	第66図 縄文時代の土器⑧	108
第19図 潟③	35	第67図 縄文時代の土器⑨	109
第20図 潟④	37	第68図 縄文時代の土器⑩	110
第21図 古代の堅穴住居	40	第69図 縄文時代の土器⑪	111
第22図 燃土・土番理段遺構（19次調査分）	43	第70図 縄文時代の土器⑫	112
第23図 カマド状遺構・燃土（21次調査分）	45	第71図 縄文時代の土器⑬	113
第24図 旧河道全体図	49	第72図 縄文時代の土器⑭	114
第25図 Ⅲ河道断面①	51	第73図 縄文時代の土器⑮	115
第26図 Ⅲ河道断面②	52	第74図 縄文時代の土器⑯	116
第27図 Ⅲ河道断面③	53	第75図 縄文時代の土器⑰	117
第28図 Ⅲ河道断面④	54	第76図 縄文時代の土器⑱	118
第29図 木柱跡（平面図）	56	第77図 縄文時代の土器⑲	119
第30図 木柱（断面図）	57	第78図 縄文時代の土器⑳	120
第31図 縄文時代の石器①	73	第79図 縄文時代の土器㉑	121
第32図 縄文時代の石器②	74	第80図 縄文時代の土器㉒	122
第33図 縄文時代の石器③	75	第81図 縄文時代の土器㉓	123
第34図 縄文時代の石器④	76	第82図 縄文時代の土器㉔	124
第35図 縄文時代の石器⑤	77	第83図 縄文時代の土器㉕	125
第36図 縄文時代の石器⑥	78	第84図 縄文時代の土器㉖	126
第37図 縄文時代の石器⑦	79	第85図 縄文時代の土器㉗	127
第38図 縄文時代の石器⑧	80	第86図 縄文時代の土器㉘	128
第39図 縄文時代の石器⑨	81	第87図 縄文時代の土器㉙	129
第40図 縄文時代の石器㉚	82	第88図 縄文時代の土器㉚	130
第41図 縄文時代の石器㉛	83	第89図 縄文時代の土器㉛	131
第42図 縄文時代の石器㉜	84	第90図 縄文時代の土器㉜	132
第43図 縄文時代の石器㉝	85	第91図 縄文時代の土器㉝	133
第44図 縄文時代の石器㉞	86	第92図 縄文時代の土製品㉑	134
第45図 縄文時代の石器㉞	87	第93図 縄文時代の土製品㉒	135
第46図 縄文時代の石器㉞	88	第94図 縄文時代の土製品㉓	136
第47図 縄文時代の石器㉞	89	第95図 土師器①	137
第48図 縄文時代の石器㉞	90	第96図 土師器㉔	138

第97回	土師器③	139	第147回	越美產陶器③	189
第98回	土師器④	140	第148回	深美產陶器④	190
第99回	土師器①	141	第149回	深美產陶器⑤	191
第100回	土師器⑥	142	第150回	深美產陶器⑥	192
第101回	土師器⑦	143	第151回	越美產陶器⑦	193
第102回	土師器⑧	144	第152回	越美產陶器⑧	194
第103回	土師器⑨	145	第153回	深美產陶器⑨	195
第104回	須恵器①	146	第154回	深美產陶器⑩	196
第105回	須恵器②	147	第155回	常滑產陶器①	197
第106回	須恵器③	148	第156回	常滑產陶器②	198
第107回	須恵器④	149	第157回	常滑產陶器③	199
第108回	須恵器⑤	150	第158回	常滑產陶器④	200
第109回	須恵器⑥	151	第159回	常滑產陶器⑤	201
第110回	須恵器⑦	152	第160回	常滑產陶器⑥	202
第111回	須恵器⑧	153	第161回	常滑產陶器⑦	203
第112回	かわらけ①	154	第162回	常滑產陶器⑧	204
第113回	かわらけ③	155	第163回	常滑產陶器⑨	205
第114回	かわらけ⑤	156	第164回	常滑產陶器⑩	206
第115回	かわらけ④	157	第165回	常滑產陶器⑪	207
第116回	かわらけ⑥	158	第166回	常滑產陶器⑫	208
第117回	かわらけ⑥	159	第167回	常滑產陶器⑬	209
第118回	かわらけ⑦	160	第168回	常滑產陶器⑭	210
第119回	かわらけ⑧	161	第169回	常滑產陶器⑮	211
第120回	かわらけ⑨	162	第170回	常滑產陶器⑯	212
第121回	かわらけ⑩	163	第171回	常滑產陶器⑰	213
第122回	かわらけ⑪	164	第172回	常滑產陶器⑱	214
第123回	かわらけ⑫	165	第173回	常滑產陶器⑲	215
第124回	かわらけ⑬	166	第174回	常滑產陶器⑳	216
第125回	かわらけ⑭	167	第175回	常滑產陶器㉑	217
第126回	かわらけ⑮	168	第176回	常滑產陶器㉒	218
第127回	かわらけ⑯	169	第177回	常滑產陶器㉓	219
第128回	かわらけ㉔	170	第178回	常滑產陶器㉔	220
第129回	かわらけ㉕	171	第179回	常滑產陶器㉖	221
第130回	かわらけ㉗	172	第180回	常滑產陶器㉘	222
第131回	かわらけ㉙	173	第181回	常滑產陶器㉚	223
第132回	かわらけ㉛	174	第182回	常滑產陶器㉛	224
第133回	かわらけ㉜	175	第183回	須恵器系陶器①	225
第134回	かわらけ㉝	176	第184回	須恵器系陶器②	226
第135回	かわらけ㉞	177	第185回	水沼產陶器①	227
第136回	かわらけ㉟	178	第186回	水沼產陶器③・吏器系陶器	228
第137回	かわらけ㉟	179	第187回	中國產陶器①	229
第138回	かわらけ㉟	180	第188回	中國產陶器③・朝鮮產陶器	230
第139回	かわらけ㉟	181	第189回	中國產磁器①	231
第140回	かわらけ㉟	182	第190回	中國產磁器③	232
第141回	かわらけ㉟	183	第191回	中國產陶器③	233
第142回	かわらけ㉟	184	第192回	中國產磁器④	234
第143回	かわらけ㉟	185	第193回	中國產陶器④	235
第144回	猿投窯陶器	186	第194回	中國產陶器⑦	236
第145回	深美產陶器①	187	第195回	中國產陶器⑨	237
第146回	深美產陶器②	188	第196回	中國產陶器⑩	238

第197回	中・近世陶磁器①	239
第198回	中・近世陶磁器②	240
第199回	中・近世陶磁器③	241
第200回	中・近世陶磁器④	242
第201回	中・近世陶磁器⑤	243
第202回	中・近世陶磁器⑥	244
第203回	中・近世陶磁器⑦	245
第204回	中・近世陶磁器⑧	246
第205回	中・近世陶磁器⑨	247
第206回	中・近世陶磁器⑩	248
第207回	中・近世陶磁器⑪	249
第208回	中・近世陶磁器⑫	250
第209回	土製品①（土鉢）	251
第210回	土製品②（土瓶）	254
第211回	土製品③（土瓶）	255
第212回	土製品④（フイゴ羽口・土鉢ほか）	256
第213回	土製品⑤（12世紀の瓦）	257
第214回	石製品①（砾石・石塊・苔石）	258
第215回	石製品②（焼けた疊ほか）	259
第216回	石製品③（石臼）	260
第217回	石製品④（板磚）	261
第218回	金属製品①	262
第219回	金属製品②	263
第220回	金属製品③	264
第221回	金属製品④	265
第222回	金属製品⑤	266
第223回	金属製品⑥	267
第224回	金属製品⑦	268
第225回	木製品①	269
第226回	木製品②	270
第227回	木枕	271
第228回	その他の遺物（ガラス製品ほか）	272
第229回	中国產陶器の比較	275

(付図) 泉屋遺跡第19-21次調査遺構配置図 (S = 1 / 100)

### 〈写真図版目次〉

写真図版 1	空中写真	309
写真図版 2	遺跡近景・基本構造	310
写真図版 3	掘立柱建物・洞壳風景	311
写真図版 4	井戸①	312
写真図版 5	井戸②	313
写真図版 6	井戸③・土坑①	314
写真図版 7	土坑②	315
写真図版 8	土坑③	316
写真図版 9	土坑④	317
写真図版 10	土坑⑤	318
写真図版 11	土坑⑥	319
写真図版 12	土坑⑦	320
写真図版 13	土坑⑧	321
写真図版 14	土坑⑨	322
写真図版 15	溝①	323
写真図版 16	溝②	324
写真図版 17	溝③	325
写真図版 18	古代の堅穴住居	326
写真図版 19	燧土①	327
写真図版 20	燧土②	328
写真図版 21	土器埋設遺構・カマド状遺構①	329
写真図版 22	カマド状遺構②	330
写真図版 23	カマド状遺構③	331
写真図版 24	遺物出土状況	332
写真図版 25	旧河道の調査状況①	333
写真図版 26	旧河道の調査状況②	334
写真図版 27	旧河道の調査状況③	335
写真図版 28	縄文時代の石器①	336
写真図版 29	縄文時代の石器②	337
写真図版 30	縄文時代の石器③	338
写真図版 31	縄文時代の石器④	339
写真図版 32	縄文時代の石器⑤	340
写真図版 33	縄文時代の石器⑥	341
写真図版 34	縄文時代の石器⑦	342
写真図版 35	縄文時代の石器⑧	343
写真図版 36	縄文時代の石器⑨	344
写真図版 37	縄文時代の石器⑩	345
写真図版 38	縄文時代の石器⑪・石製品	346
写真図版 39	縄文時代の土器①	347
写真図版 40	縄文時代の土器②	348
写真図版 41	縄文時代の土器③	349
写真図版 42	縄文時代の土器④	350
写真図版 43	縄文時代の土器⑤	351
写真図版 44	縄文時代の土器⑥	352
写真図版 45	縄文時代の土器⑦	353
写真図版 46	縄文時代の土器⑧	354
写真図版 47	縄文時代の土器⑨	355
写真図版 48	縄文時代の土器⑩	356
写真図版 49	縄文時代の土器⑪	357
写真図版 50	縄文時代の土器⑫	358
写真図版 51	縄文時代の土器⑬	359
写真図版 52	縄文時代の土器⑭	360
写真図版 53	縄文時代の土器⑮	361
写真図版 54	縄文時代の土器⑯	362
写真図版 55	縄文時代の土器⑰	363
写真図版 56	縄文時代の土器⑱	364
写真図版 57	縄文時代の土器⑲	365
写真図版 58	縄文時代の土器⑳	366

写真図版59	縄文時代の土器④	367
写真図版60	縄文時代の土器⑤	368
写真図版61	縄文時代の土製品①	379
写真図版62	縄文時代の土製品②	370
写真図版63	縄文時代の土製品③	371
写真図版64	土器部①	372
写真図版65	土器部②	373
写真図版66	土器部③	374
写真図版67	土器部④	375
写真図版68	土器部⑤	376
写真図版69	土器部⑥・須恵器①	377
写真図版70	須恵器②	378
写真図版71	須恵器③	379
写真図版72	須恵器④	380
写真図版73	須恵器⑤	381
写真図版74	須恵器⑥	382
写真図版75	かわらけ①	383
写真図版76	かわらけ②	384
写真図版77	かわらけ③	385
写真図版78	かわらけ④	386
写真図版79	かわらけ⑤	387
写真図版80	かわらけ⑥	388
写真図版81	かわらけ⑦	389
写真図版82	かわらけ⑧	390
写真図版83	かわらけ⑨	391
写真図版84	かわらけ⑩	392
写真図版85	かわらけ⑪	393
写真図版86	かわらけ⑫	394
写真図版87	かわらけ⑬	395
写真図版88	かわらけ⑭	396
写真図版89	かわらけ⑮	397
写真図版90	かわらけ⑯	398
写真図版91	かわらけ⑰	399
写真図版92	かわらけ⑱	400
写真図版93	かわらけ⑲	401
写真図版94	かわらけ⑳	402
写真図版95	かわらけ㉑	403
写真図版96	かわらけ㉒	404
写真図版97	かわらけ㉓	405
写真図版98	かわらけ㉔	406
写真図版99	かわらけ㉕	407
写真図版100	かわらけ㉖	408
写真図版101	かわらけ㉗	409
写真図版102	かわらけ㉘	410
写真図版103	かわらけ㉙	411
写真図版104	猪鉢差陶器	412
写真図版105	南美差陶器①	413
写真図版106	南美差陶器②	414
写真図版107	南美差陶器③	415
写真図版108	南美差陶器④	416
写真図版109	南美差陶器⑤	417
写真図版110	南美差陶器⑥	418
写真図版111	南美差陶器⑦	419
写真図版112	南美差・常滑差陶器①	420
写真図版113	常滑差陶器②	421
写真図版114	常滑差陶器③	422
写真図版115	常滑差陶器④	423
写真図版116	常滑差陶器⑤	424
写真図版117	常滑差陶器⑥	425
写真図版118	常滑差陶器⑦	426
写真図版119	常滑差陶器⑧	427
写真図版120	常滑差陶器⑨	428
写真図版121	常滑差陶器⑩	429
写真図版122	常滑差陶器⑪	430
写真図版123	常滑差陶器⑫	431
写真図版124	常滑差陶器⑬	432
写真図版125	常滑差陶器⑭	433
写真図版126	常滑差陶器⑮	434
写真図版127	常滑差陶器⑯	435
写真図版128	常滑差陶器⑰	436
写真図版129	常滑差陶器⑱	437
写真図版130	常滑差陶器⑲	438
写真図版131	常滑差・須恵器系陶器①	439
写真図版132	須恵器系・②水沼差陶器①	440
写真図版133	水沼差陶器②	441
写真図版134	盃器系陶器・中國差陶器①	442
写真図版135	中國差③・朝鮮差陶器	443
写真図版136	中國差磁器①	444
写真図版137	中國差磁器②	445
写真図版138	中國差磁器③	446
写真図版139	中國差磁器④	447
写真図版140	土製品①	448
写真図版141	土製品②	449
写真図版142	土製品③	450
写真図版143	石製品④	451
写真図版144	石製品⑤	452
写真図版145	石製品⑥・動物遺存体	453
写真図版146	金銀製品①	454
写真図版147	金銀製品②	455
写真図版148	金銀製品③	456
写真図版149	金銀製品④	457
写真図版150	木製品	458
写真図版151	木枕・その他の遺物	459

## ＜表目次＞

表1	柱穴計測表	58-61
表2	中・近世陶器総観察表	251-252

## 凡　　例

1. 本報告書に掲載した遺構図の方位は、平面直角座標第X系の座標北を、遺構図の水糸レベルは海拔高度を示す。
2. 遺構図の縮尺は、掘立柱建物・溝断面図・旧河道路跡断面図1／100、溝平面図・旧河道路平面図1／200、井戸・土坑・古代の堅穴住居・焼上・カマド状遺構・木柱列平面図・杭断面図は1／60、土器埋設遺構は1／30とした。図版内にはそれぞれスケールを付している。
3. 遺構・遺物図版に使用したスクリートーン等は、本文中あるいは図版内にその内容を示した。
4. 卷末に付図として遺構配置図を縮尺1／100で添付した。この中で、第19次調査で確認された柱穴については、次の5に示す「19」を省略した。同じ遺構配置図を第1図に掲載しているが、これは任意縮尺である。
5. 遺構名については、その遺構が検出された順の連番を遺構を表す略号の後ろに付け、さらに調査次を示す「19」および「21」の数字を一番前に付けて呼称した（例：19S B 1、21S E 2など）。遺構にはそれぞれ次の略号を用いた。  
S B：掘立柱建物、S E：井戸、S K：土坑、S D：溝、堅穴住居：S I、他の遺構：S X  
なお、柱列と木柱列については、S Xを使わずそのまま連番を付けた。
6. 墓名は墓石肩序にはローマ数字を、遺構の埋土にはアラビア数字を用いて区別した。なお、旧河道路の肩序についてはこれらとは別扱いとし、大別層にはアラビア数字を用いた。
7. 土層の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』を使用した。
8. 本報告書掲載遺物についての選択基準は、明確なものを作けていない。遺物の種類が多岐にわたっており、より多くの遺物を載せることを心がけたつもりである。
9. 報告書中の遺物番号は、時期および種類毎に次のように付けている。

1～240：縄文時代の石器・石製品

301～802：縄文時代の土器・土製品

1001～1096：土師器

1101～1170：須恵器

2001～2534：かわらけ

3001～3381：国産陶器

4001～4018：中国産陶器・朝鮮産陶器

5001～5112：中国産磁器

6001～6085：中・近世陶磁器

7001～7078：縄文時代以外の土製品

7101～7118：縄文時代以外の石製品

7201～7258：金屬製品

7301～7315：木製品

7401～7404：その他の遺物（ガラス製品・琥珀・珊瑚）

10. 遺物実測図の縮尺は、1／2・1／3を基本にした。遺物の種類や大きさによって、2／3・1／4・1／5・1／6・1／8としたものもある。これらについては、それぞれの図版内にスケールを付けて

示している。

11. 遺物観察表は、中・近世陶磁器を除いてそれぞれ実測図と同じページに掲載した。観察表の掲載順は、遺構内出土遺物をまず最初にまとめ、次ぎに遺構外の出土遺物をグリッド毎に整列させた。金属製品等、一部の遺物に種類を優先させて扱ったものもある。
12. 各遺物観察表において、( )内の数値は、残存値または推定値を示している。
13. 石器・石製品以外の遺物観察表においても、法量の単位は「cm」重量は「g」である。
14. かわらけ観察表の項目において、「残存」とはあくまでも観察者の感覚による残存率であり、数値的な裏付けがあるものではない。
15. 遺物写真図版の縮尺は、遺物実測図のそれには準じたものとした。
16. 国産陶器・中国産陶磁器・朝鮮系陶器の産地同定および分類は、平泉町教育委員会八重樋忠郎氏に依頼した。
17. 中・近世陶磁器の産地同定・分類は、当センター羽柴直人が行った。
18. 第4節「自然科学分析」は、次の5編である。  
「泉屋遺跡第21次調査出土材の樹種」(高橋利彦)  
「泉屋遺跡出土ガラス玉の非破壊分析法による調査結果」(咲山まどか・赤沼英男)  
「泉屋遺跡の火山灰分析」(パリノ・サーヴェイ株式会社)  
「動物遺存体鑑定結果」(熊谷 賢)  
「平泉町泉屋遺跡から産出した植物遺体群」(辻誠一郎・辻 由子)



第1図 造構配置図

## 第5章 泉屋遺跡第19・21次調査

### 第1節 検出した遺構

泉屋遺跡19・21次の2カ年にわたる調査で検出した遺構は、掘立柱建物（略号：S B）17棟、柱列3条、井戸（S E）9基、土坑（S K）34基、溝（S D）12条、古代の豊穴住居（S I）3棟、焼土（S X）10基、縄文時代の土器埋設遺構（S X）2基、近世以降のカマド状遺構（S X）5基と、調査区東端に確認された旧河道路1箇所である。

各遺構の検出面は、縄文時代に属するものは基本層序のV～VI層上面、古代以降はIV層上面（旧河道内で検出された遺構は除く）である。IV層面においては、時期の異なる遺構が複雑に重複し合い、また本層と遺構埋土との区別が不明瞭なこともあります、遺構間の新旧関係を明確にできなかったものも多い。

遺構名は、これらの略号を用いて確認された年次およびその同一遺構での連番を付したが、掘立柱建物については、21次調査検出の遺構として扱っている。

#### 1 掘立柱建物・柱列

確認した柱穴650基あまりを検討した結果、掘立柱建物は17棟、柱列は3条示すことができた。うち12世紀に所属するものは1棟のみで、それ以外は主に16世紀後半から18世紀代に所属するものと思われる。

##### 21SB1（第2図、写真図版3）

【位置】調査区北西側のⅢH 6 a・7 a・8 a・6 b・7 b・8 b・6 c・7 c・8 cに位置する。

【重複】21SB2、21SB4、21SB6、21SB7、21SB8とプランが重複するが、いずれの建物よりも本遺構が古い。

【平面形式】桁行3間（675cm）、梁間2間（436cm）の身舎の四面に庇がまわる掘立柱建物である。使用した柱穴は20個である。

【建物方位】桁行の軸方向はN-87°-Eである。

【柱間寸法】桁行では226cm（7.4尺）、梁間で214cm（7.0尺）が多く使われるが、他に様々な寸法があり基準寸法は不明である。

【出土遺物】出土していない。

【性格】唯一の12世紀に所属すると思われる建物跡である。具体的な性格は不明である。

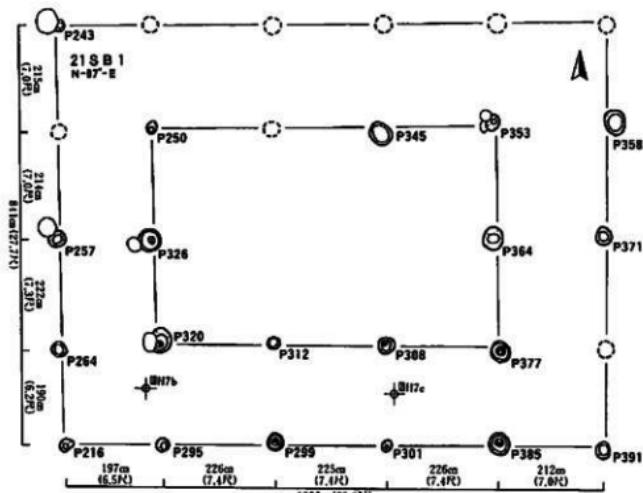
【推定年代】平面形式・柱間などから12世紀の掘立柱建物と考えられる。

##### 21SB2（第2図）

【位置】調査区北西側のⅢG 7 i・6 j・7 j・ⅢH 6 a・7 a、21SB1の西側に隣接する。

【重複】21SB1、21SB4、21SB7とプランが重複するが、柱穴間に切り合いがなく新旧関係は不明である。

【平面形式】掘立柱建物で、桁行4間以上、梁間1間（392cm）の北側と南側の二面に庇が付く。使用した柱穴は10個である。

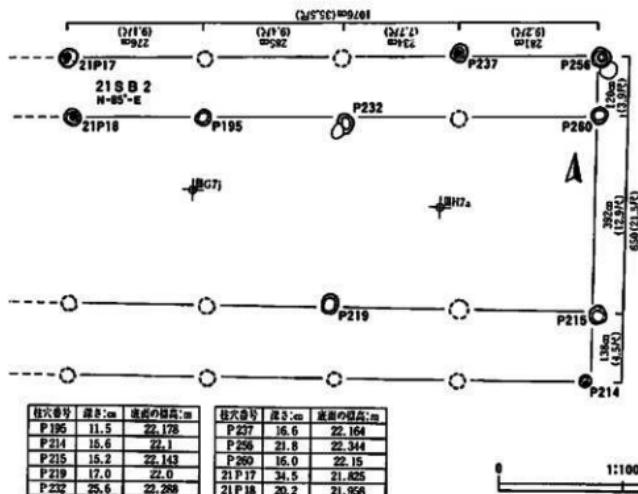


柱穴番号	直径:cm	底面の標高:m
P236	12.2	22.164
P243	15.4	22.256
P250	19.6	22.108
P257	17.4	22.144
P264	11.4	22.153

柱穴番号	直径:cm	底面の標高:m
P295	40.2	22.257
P299	11.3	22.134
P301	42.6	21.863
P308	23.2	22.046
P312	14.8	22.1

柱穴番号	直径:cm	底面の標高:m
P320	40.7	21.869
P345	21.1	22.099
P353	33.6	22.069
P364	19.7	22.155

柱穴番号	直径:cm	底面の標高:m
P371	31.3	22.039
P377	16.0	22.15
P385	18.0	22.1
P391	15.7	22.043
P391	18.9	21.931



第2図 柱立柱建物①

〔建物方位〕 梁行の軸方向はN-85°-Eである。

〔柱間寸法〕 梁行は28cm(9.2尺)前後、梁間は392cm(12.9尺)が使われるが、梁行では使われる寸法が区々で基準となるものは不明である。

〔出土遺物〕 出土していない。〔性格〕 不明である。

〔推定年代〕 平面形式・柱間などから16世紀後半から17世紀代の掘立柱建物と考えられる。

#### 21S B 3 (第3図)

〔位置〕 調査区北西側のⅢH 5 c・6 cに位置し、21S B 5と規模(柱間等)・軸方向をほぼ同じとする。本造構北側で21S B 6・21S B 7と平面プランが重複する。

〔重複〕 21S B 5との前後関係は、P399とP400との重複関係から、本造構のほうが古い。21S B 6・21S B 7との関係も同様である。

〔平面形式〕 梁行3間(687cm)、梁間1間(300cm)の掘立柱建物である。使用した柱穴は7個である。

〔建物方位〕 梁行の軸方向はN-4°-Eである。

〔柱間寸法〕 梁間は300cm(9.9尺)が使われるが、梁行では寸法が区々である。

〔出土遺物〕 出土していない。〔性格〕 21S B 2の付属屋となる可能性がある。

〔推定年代〕 平面形式・柱間などから16世紀後半から17世紀代の掘立柱建物と考えられる。21S B 5の建築えか。

#### 21S B 4 (第3図、写真図版3)

〔位置〕 調査区北西端のⅢG 6 j・7 j、ⅢH 6 a・7 a・6 b・7 bに位置する。建物規模や平面形式を同じくする21S B 2の西側4mに平行移動した形である。

〔重複〕 21S B 2と平面プランが重複するが、直接柱穴どうしの切り合いがないため、前後関係は明らかでない。

〔平面形式〕 既述のとおり、21S B 2と同様の形式をもつ掘立柱建物である。梁行4間以上、梁間1間(391cm)の北側と南側の二面に庇が付く。使用した柱穴は19個である。

〔建物方位〕 梁行の軸方向はN-88°-Eである。

〔柱間寸法〕 梁行は219cm(7.2尺)・233cm(7.7尺)など、梁間は392cm(12.9尺)が使われる。基準寸法は不明である。

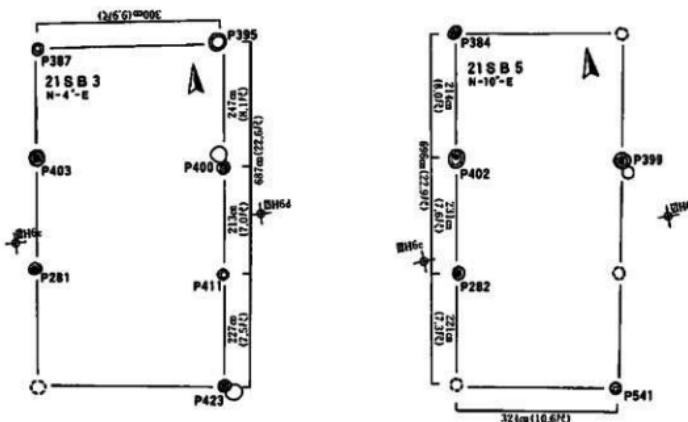
〔出土遺物〕 出土していない。〔性格〕 不明である。

〔推定年代〕 平面形式・柱間などから16世紀後半から17世紀代の掘立柱建物と考えられる。前後関係は不明であるが、21S B 2あるいは本造構が建替えたものであろう。

#### 21S B 5 (第3図)

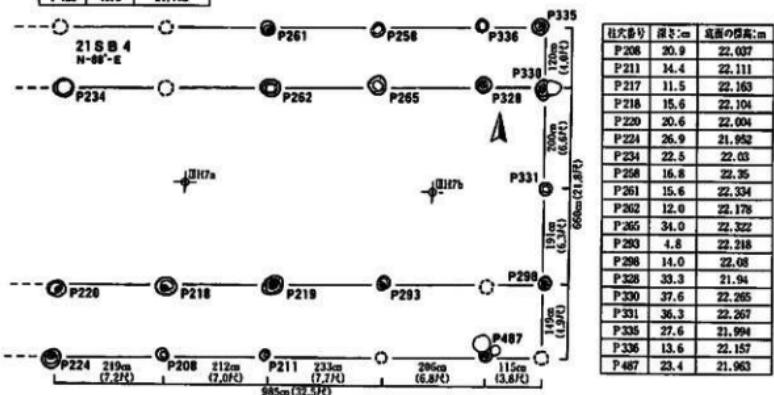
〔位置〕 調査区北西側のⅢH 5 c・6 cに位置し、21S B 3で記載したように規模・軸方向をほぼ同一にする。軸方向は、21S B 3よりも東に6°傾いている。

〔重複〕 21S B 3との前後関係は、柱穴間の切り合い関係から本造構のほうが新しい。本造構北側で21S B 1・21S B 6・21S B 7と平面プランが重複するが、本造構は、21S B 1より新しく21S B 6・7よりは古いものと考えられる。



柱穴番号	径さ:cm	底面の標高:m
P281	12.7	22.097
P287	28.1	22.226
P395	18.8	21.912
P400	33.1	21.809
P403	22.4	21.853
P411	16.1	22.009
P423	49.6	21.702

柱穴番号	径さ:cm	底面の標高:m
P282	20.2	22.005
P384	23.5	21.976
P399	31.0	21.826
P402	29.2	21.917
P541	20.7	21.897



0 1:100 5m

第3図 挖立柱建物②

【平面形式】桁行3間(696cm)、梁間1間(324cm)の掘立柱建物である。使用した柱穴は5個である。

【建物方位】桁行の軸方向はN-10°-Eである。

【柱間寸法】梁間は324cm(10.6尺)、桁行では寸法が区々であるが230cm前後のものが使われている。

【出土遺物】出土していない。【性格】21SB4の付属屋となる可能性がある。

【推定年代】平面形式・柱間などから16世紀後半から17世紀代の掘立柱建物と考えられる。21SB3に示したような建替えがあったのであろう。

#### 21SB6-1・2(第4図)

【位置】調査区北側のⅢH6b・7b・6c・7c・6d・7dに位置する。

【重複】21SB1、21SB2、21SB7、21SB8と平面プランが重複する。直接柱穴間の切り合いがないため、前後関係は明らかでない。

【平面形式】21SB6-1は21SB2・21SB4と同様の形式をもつ掘立柱建物である。桁行3間以上、梁間2間(419cm)の南側に庇が付く。北側にも庇が廻るものと思われるが、確認できなかった。使用した柱穴は14個である。21SB6-2はこれに付属する付属屋と思われる。

【建物方位】桁行の軸方向はN-87°-Wである。

【柱間寸法】21SB6-1では、桁行は265cm(8.7尺)・309cm(10.2尺)など、梁間は222cm(7.3尺)・197cm(6.5尺)が使われている。21SB6-2では、240cm(8.1cm)が使われている。

【出土遺物】出土していない。

【付属施設・性格】21SB6-1が主屋で、21SB6-2は同時に使用された付属屋か。

【推定年代】主屋の平面形式・柱間などから、17世紀後半から18世紀代の掘立柱建物と考えられる。

#### 21SB7-1・2(第5図、写真図版3)

【位置】掘立柱建物が集中する調査区北西側のⅢG7j・8j、ⅢH7a・8a・7b・8b・6c・7c・8c・7d・8dに位置する。

【重複】21SB1~6、21SB8の複数の建物と平面プランが重複している。本遺構は、柱穴間の切り合いなどから、これらのいずれの建物よりも新しい。

【平面形式】21SB7-1は、桁行1637cm、梁間783cm、面積128.2m<sup>2</sup>の掘立柱建物である。使用した柱穴は25個である。21SB7-2は、桁行868cm、梁間413cmで使用した柱穴は4個である。

【建物方位】前者の軸方向はN-83°-W、後者のそれはN-7°-Eである。

【柱間寸法】梁・桁、それぞれの総長が割り切れる6尺台の寸法がうまく見いだせなかつた。

【出土遺物】P242・P246から石臼(7116・7117)が出土した。礎盤として利用されたものである。

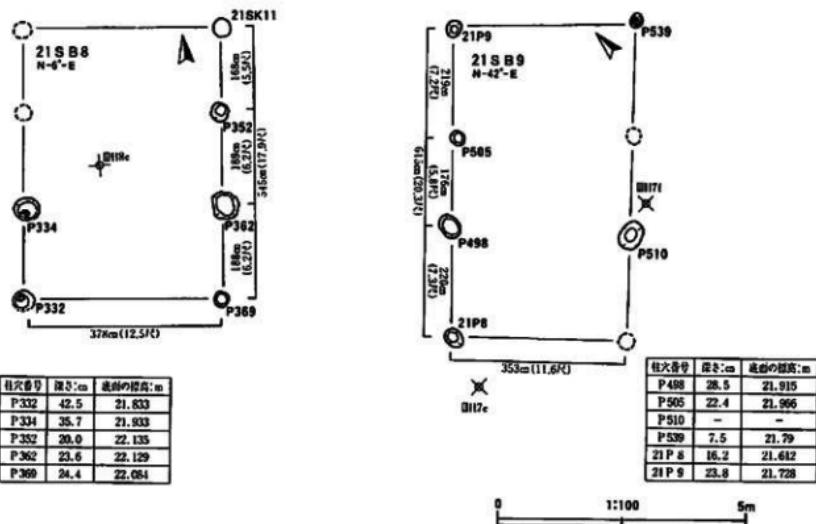
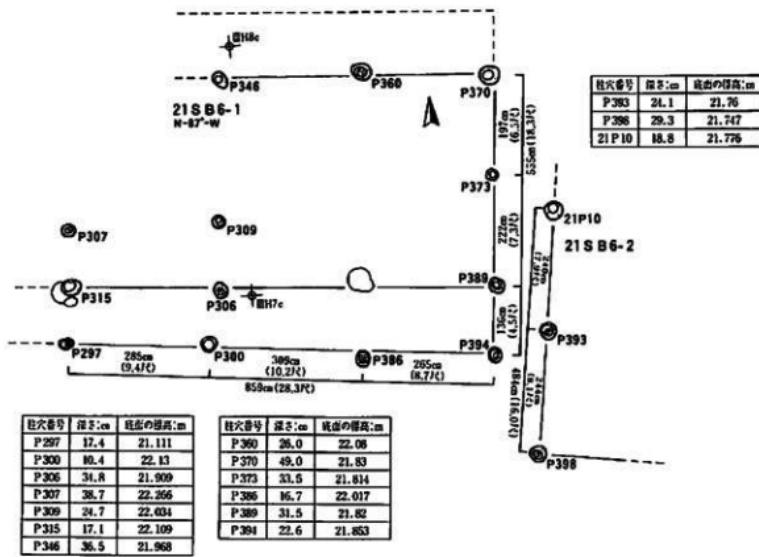
【付属施設・性格】近世民家の主屋(21SB7-1)と付属屋(21SB7-2)と思われる。

【推定年代】平面形式・柱間、他の建物との関係などから18世紀前半頃の掘立柱建物と考えられる。

#### 21SB8(第4図)

【位置】調査区北西部のⅢH7b・8b・7c・8cに位置する。

【重複】21SB1、21SB6、21SB7と平面プランが重複する。直接柱穴間の切り合いがないため、前後関係は明らかでない。



第4図 埋立柱建物③

〔平面形式〕掘立柱建物で、桁行3間(545cm)、梁間1間(378cm)の規模を有する。使用した柱穴は6個である。

〔建物方位〕桁行の軸方向はN-6°-Eである。

〔柱間寸法〕桁行は188cm(6.2尺)と168cm(5.5尺)、梁間は378cm(12.5尺)が使われる。

〔出土遺物〕出土していない。〔性格〕不明である。

〔推定年代〕所属時期は不明である。

#### 21S B 9 (第4図)

〔位置〕調査区北側の中央部、III H 6 e・7 e・7 fに位置する。

〔重複〕他造構との重複はない。

〔平面形式〕桁行3間(615cm)、梁間1間(353cm)の掘立柱建物である。使用した柱穴は6個である。

〔建物方位〕桁行の軸方向はN-42°-Eである。

〔柱間寸法〕桁行は220cm(7.3尺)と176cm(5.8尺)、梁間は353cm(11.6尺)が使われる。

〔出土遺物〕出土していない。〔性格〕不明である。

〔推定年代〕所属時期は不明である。

#### 21S B 10 (第6図、写真図版3)

〔位置〕調査区西側の中央部、III H 3 a・4 a・3 b・4 bに位置する。

〔重複〕他造構との重複はない。

〔平面形式〕桁行3間(612cm)、梁間1間(381cm)の掘立柱建物である。使用した柱穴は8個である。

〔建物方位〕桁行の軸方向はN-85°-Wである。

〔柱間寸法〕桁行は206cm(6.8尺)等、梁間は381m(12.6尺)である。基準寸法は不明である。

〔出土遺物〕出土していない。〔性格〕不明である。

〔推定年代〕所属時期は不明である。

#### 21S B 11 (第6図)

〔位置〕調査区西側の中央部、III H 2 b・2 cに位置する。

〔重複〕21S B 17と平面プランが重複するが、柱穴間の切り合いがなく新旧関係は不明である。

〔平面形式〕桁行3間(594cm)、梁間1間(375cm)の掘立柱建物である。使用した柱穴は8個である。

〔建物方位〕桁行の軸方向はN-86°-Eである。

〔柱間寸法〕桁行は192-204cm(6.3-6.7尺)、梁間は375cm(12.4尺)が使われる。

〔出土遺物〕出土していない。〔性格〕不明である。

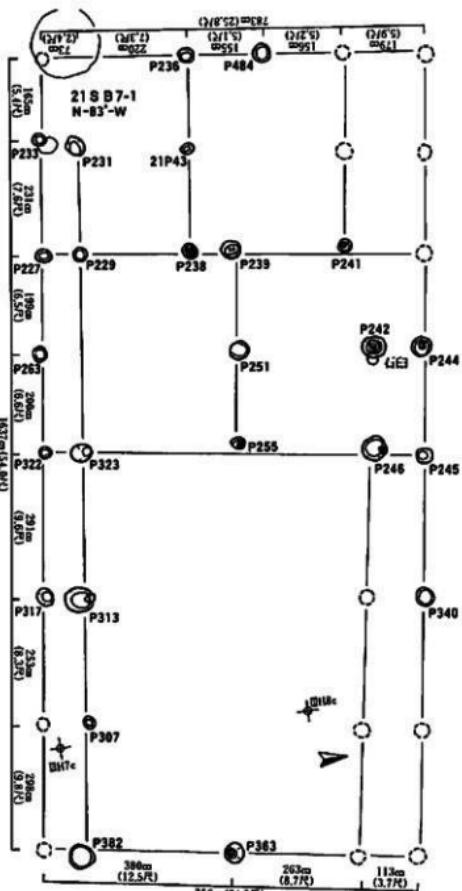
〔推定年代〕所属時期は不明である。

#### 21S B 12 (第6図)

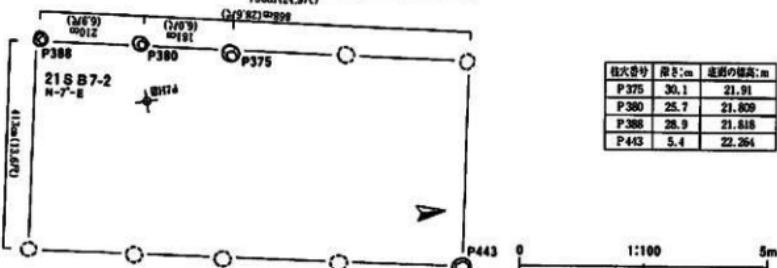
〔位置〕調査区西部南寄りのIII G 1 i・2 i・1 j・2 jに位置する。

〔重複〕平面プランが19S D 6と重複する。それと柱穴の切り合いがなく新旧関係は不明である。

〔平面形式〕桁行3間(670cm)、梁間1間(364cm)の掘立柱建物である。使用した柱穴は7個である。

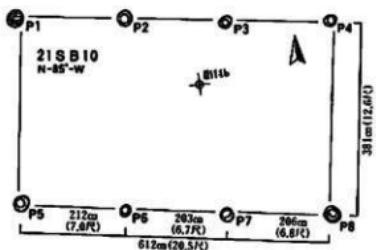


柱大番号	埋込深さ:cm	底面の標高:m
P227	24.0	22.006
P229	25.9	22.014
P231	16.7	22.101
P233	26.2	22.06
P236	15.2	22.206
P238	24.2	22.172
P239	19.2	22.25
P241	4.1	22.322
P242	33.8	22.058
P244	22.4	22.208
P245	14.3	22.179
P246	29.7	22.007
P251	31.2	22.272
P255	9.8	22.234
P263	15.1	22.198
P307	38.7	22.366
P313	46.8	21.817
P317	44.3	21.822
P322	14.5	22.272
P323	24.8	22.04
P340	28.5	22.007
P363	46.1	21.678
P382	17.7	21.968
P484	13.1	22.259
21P43	9.5	22.18

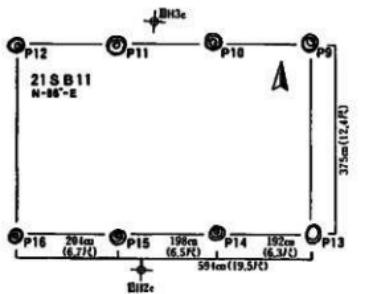


柱大番号	埋込深さ:cm	底面の標高:m
P375	30.1	21.91
P380	25.7	21.809
P388	28.9	21.818
P443	5.4	22.264

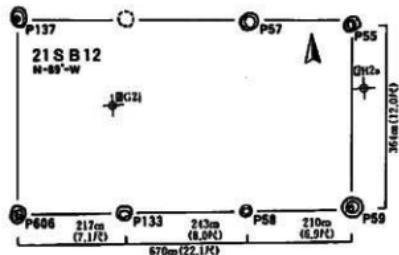
第5図 挿立柱建物④



柱穴番号	底さ:cm	底面の標高:m
P 1	29.6	21.932
P 2	25.9	21.908
P 3	24.1	21.863
P 4	22.5	21.884
P 5	16.5	21.96
P 6	20.3	21.863
P 7	8.2	21.988
P 8	11.0	21.96



柱穴番号	底さ:cm	底面の標高:m
P 9	33.8	21.577
P 10	15.9	21.825
P 11	33.2	21.649
P 12	23.2	21.745
P 13	36.3	21.907
P 14	29.0	21.615
P 15	35.1	21.553
P 16	29.5	21.60



柱穴番号	底さ:cm	底面の標高:m
P 55	18.4	21.994
P 57	13.2	21.917
P 58	10.6	21.894
P 59	22.0	21.754
P 133	14.4	22.135
P 137	23.0	22.08
P 606	20.9	21.96

0 1:100 5m

第6図 据立柱建物⑤

〔建物方位〕 衍行の軸方向はN-89°-Wである。

〔柱間寸法〕 衍行は210~243cm(6.9~8.0尺)、梁間は364m(12.0尺)が使われる。

〔出土遺物〕 出土していない。〔性格〕 不明である。

〔推定年代〕 所属時期は不明である。

#### 21S B 13 (第7図)

〔位置〕 調査区南西隅のII H 0 a、III H 1 aに位置する。

〔重複〕 平面プランが21S B 14と重複するが、柱穴間の切り合いがないため前後関係は不明である。

〔平面形式〕 衍行・梁間とも1間の掘立柱建物である。使用した柱穴は4個である。

〔建物方位〕 衍行の軸方向はN-10°-Wである。

〔柱間寸法〕 衍行は487cm(16.0尺)、梁間は304m(10.0尺)である。

〔出土遺物〕 出土していない。〔性格〕 不明である。

〔推定年代〕 所属時期は不明である。

#### 21S B 14 (第7図)

〔位置〕 調査区南西隅のII H 9 a・9 b・0 aに位置する。

〔重複〕 21S B 13に記載のとおりであるが、21S B 16の平面プランとも重複している。P99とP98の柱穴同士の切り合いから、本遺構が21S B 16よりも古い。

〔平面形式〕 衍行・梁間とも1間の掘立柱建物である。使用した柱穴は4個である。

〔建物方位〕 衍行の軸方向はN-7°-Wである。

〔柱間寸法〕 衍行は569cm(18.7尺)、梁間は306m(10.0尺)である。

〔出土遺物〕 出土していない。〔性格〕 不明である。

〔推定年代〕 所属時期は不明である。

#### 21S B 15 (第7図)

〔位置〕 調査区南西隅のII H 9 b・0 b・9 c・0 cに位置する。

〔重複〕 これも21S B 16の平面プランと重複している。柱穴間の切り合いはなく前後関係は不明である。

〔平面形式〕 衍行3間(589cm)、梁間1間(373cm)の掘立柱建物である。使用した柱穴は6個である。

〔建物方位〕 衍行の軸方向はN-7°-Wである。

〔柱間寸法〕 衍行は193~200cm(6.3~6.6尺)、梁間は373m(12.3尺)が使われる。基準は不明である。

〔出土遺物〕 出土していない。〔性格〕 不明である。

〔推定年代〕 所属時期は不明である。

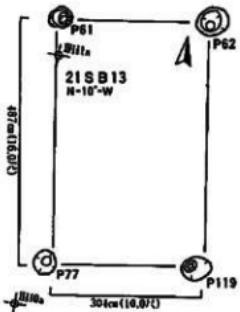
#### 21S B 16 (第8図、写真図版)

〔位置〕 調査区南西隅のII H 9 b・9 c・0 cに位置する。

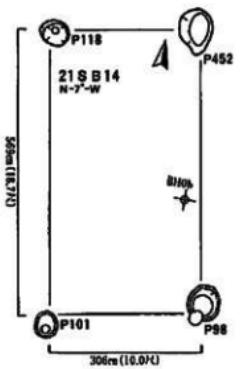
〔重複〕 21S B 14・15に記載したとおりである。

〔平面形式〕 衍行4間(870cm)、梁間3間(395cm)の掘立柱建物である。使用した柱穴は10個である。

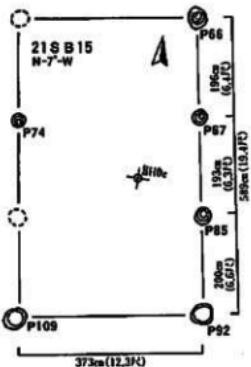
〔建物方位〕 衍行の軸方向はN-78°-Eである。



柱穴番号	直径:cm	完成の標高:m
P61	41.3	21.534
P62	29.6	21.627
P77	67.8	21.308
P119	48.4	21.085



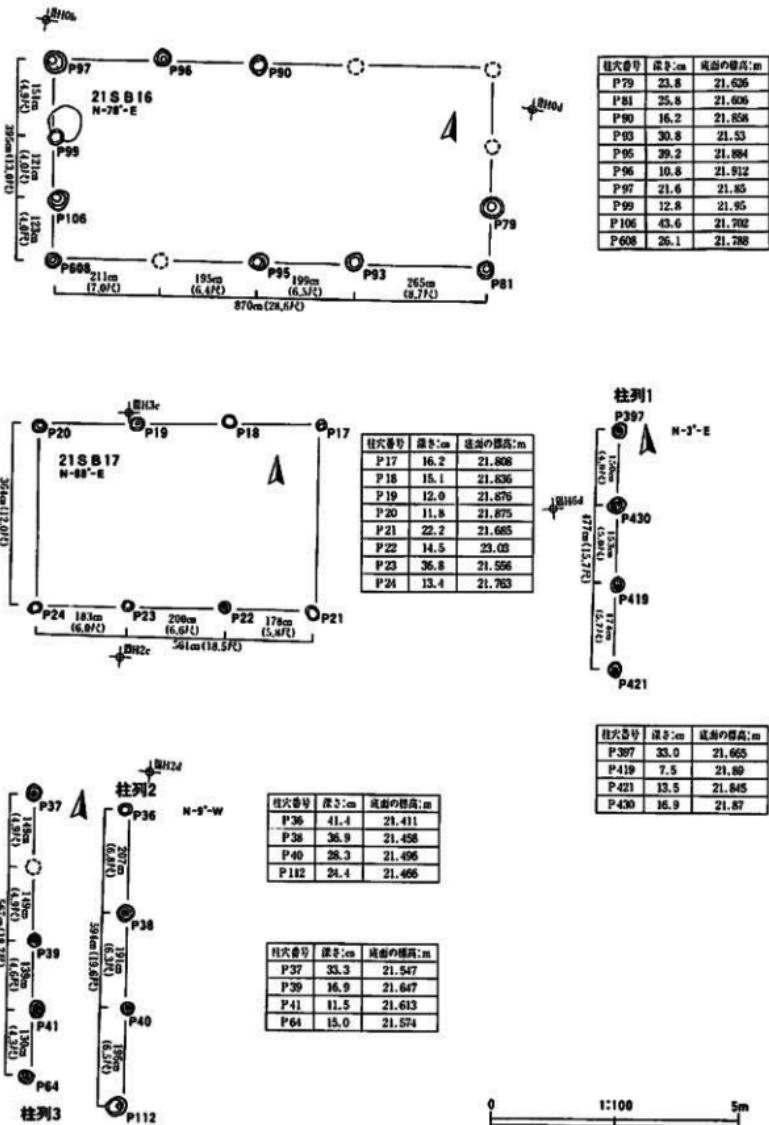
柱穴番号	直径:cm	完成の標高:m
P98	12.6	21.05
P101	20.2	21.05
P118	41.0	21.285
P452	24.0	21.375



柱穴番号	直径:cm	完成の標高:m
P66	22.4	21.528
P67	13.6	21.79
P74	15.4	21.694
P85	23.8	21.598
P92	30.2	21.51
P109	41.0	21.661

0 1:100 5m

第7図 摂立柱建物⑥



第8図 埋立柱建物⑦・柱列

〔柱間寸法〕 桁行は195~265cm (6.4~8.7尺)、梁間は121~151cm (4.0~4.9尺) である。

〔出土遺物〕 P 95から16世紀末~17世紀の志野皿が出土している。〔性格〕 不明である。

〔推定年代〕 出土遺物からその頃の年代が考えられるが、詳細な時期は不明である。

#### 21S B 17 (第8図、写真図版3)

〔位置〕 調査区中央西寄りのⅢ H 2 b・2 cに位置する。

〔重複〕 21S B 11で記載したとおり、平面プランがそれと重複している。柱穴間に切り合いはない。

〔平面形式〕 桁行3間 (561cm)、梁間1間 (364cm) の掘立柱建物である。使用した柱穴は8個である。

〔建物方位〕 桁行の軸方向はN-88°-Eである。

〔柱間寸法〕 桁行は178~200cm (5.8~6.6尺)、梁間は364cm (12.0尺) である。基準寸法は不明である。

〔出土遺物〕 出土していない。〔性格〕 不明である。

〔推定年代〕 所属時期は不明である。

#### 柱列1 (第8図)

〔位置〕 調査区北側中央部のⅢ H 5 d・6 dに跨っている。

〔重複〕 21S B 6の平面プランと重複するが、新旧は不明である。

〔軸方向〕 N-3°-Eである。

〔柱間寸法〕 3間で、柱間は150~174cm (4.9~5.7尺) である。

〔出土遺物〕 出土していない。

〔性格〕 不明である。

〔推定年代〕 所属時期は不明である。

#### 柱列2 (第8図)

〔位置〕 調査区南西隅、Ⅱ H 0 c、Ⅲ H 1 cに跨がる。柱列3と1.5mほどの距離で平行する。

〔重複〕 遺構間の重複はない。

〔軸方向〕 N-9°-Wである。

〔柱間寸法〕 3間で、柱間は191~207cm (6.3~6.8尺) である。

〔出土遺物〕 出土していない。〔性格〕 不明である。

〔推定年代〕 所属時期は不明である。

#### 柱列3 (第8図)

〔位置〕 Ⅱ H 0 d、Ⅲ H 0 cに跨っている。〔重複〕 重複はない。

〔軸方向〕 N-9°-Eである。

〔柱間寸法〕 4間で、柱間は130~149cm (4.3~4.9尺) である。

〔出土遺物〕 出土していない。〔性格〕 不明である。

〔推定年代〕 所属時期は不明である。

## 2 井戸

井戸跡は19次調査で9基確認されている。そのうち、12世紀に属するものは1基のみで、その他は近世に所属するものがほとんどである。

### 19S E 1 (第9図、写真図版4)

〔位置・検出面〕 II H 9 b に位置する。検出面はIV層である。〔重複〕なし。

〔規模〕 開口部径215×220cm、底部径71×72cm、深さ342cm。

〔底面・壁〕 底面には四凸がある。壁は底面から直立気味に立ち上がり、その後外傾する。漏斗状を呈する。

〔埋土〕 人為的に埋められた様相である。11層に分層される。上位～中位にかけて礫が混入する。

〔出土遺物〕 かわらけ数片、繩文土器片、珪化木が出土した。

〔年代〕 近世に属するものと思われる。

### 19S E 2 (第9図、写真図版4)

〔位置・検出面〕 II G 0 j に位置する。検出面はIV層である。〔重複〕なし。

〔規模〕 開口部径118×122cm、底部径82×85cm、深さ343cm。

〔底面・壁〕 底面には僅かな四凸がある。壁は底面から直立気味に立ち上がる。

〔埋土〕 人為的に埋められた様相である。11層に分層される。最上位と最下部に礫が混入する。

〔出土遺物〕 かわらけ、繩文土器片、石器剥片、近世陶器、10層から漆塗椀1点が出土した。

〔年代〕 出土遺物から、近・現代に属する。

### 19S E 3 (第10図、写真図版4)

〔位置・検出面〕 II G 9 i・9 o・9 j・9 l に跨っている。検出面はIV層である。

〔重複〕 19P 148・162と重複する。柱穴のほうが新しい。

〔規模〕 開口部径298×320cm、底部径150×174cm、深さ383cm。

〔底面・壁〕 底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

〔埋土〕 人為堆積の様相を呈する。39層に分層された。上位に礫が多數混入している。

〔出土遺物〕 手づくねかわらけを主体とし、中国産陶器・白磁・石器剥片・植物種子・焼成粘土塊・炭化材などのほか、漆塗皿2点が出土した。

〔年代〕 出土遺物から、12世紀後半に属するものである。

### 19S E 4 (第10図、写真図版4)

〔位置・検出面〕 III G 5 j に位置する。検出面はIV層である。

〔重複〕 19S D 6 と重複するが、本造構のほうが旧い。

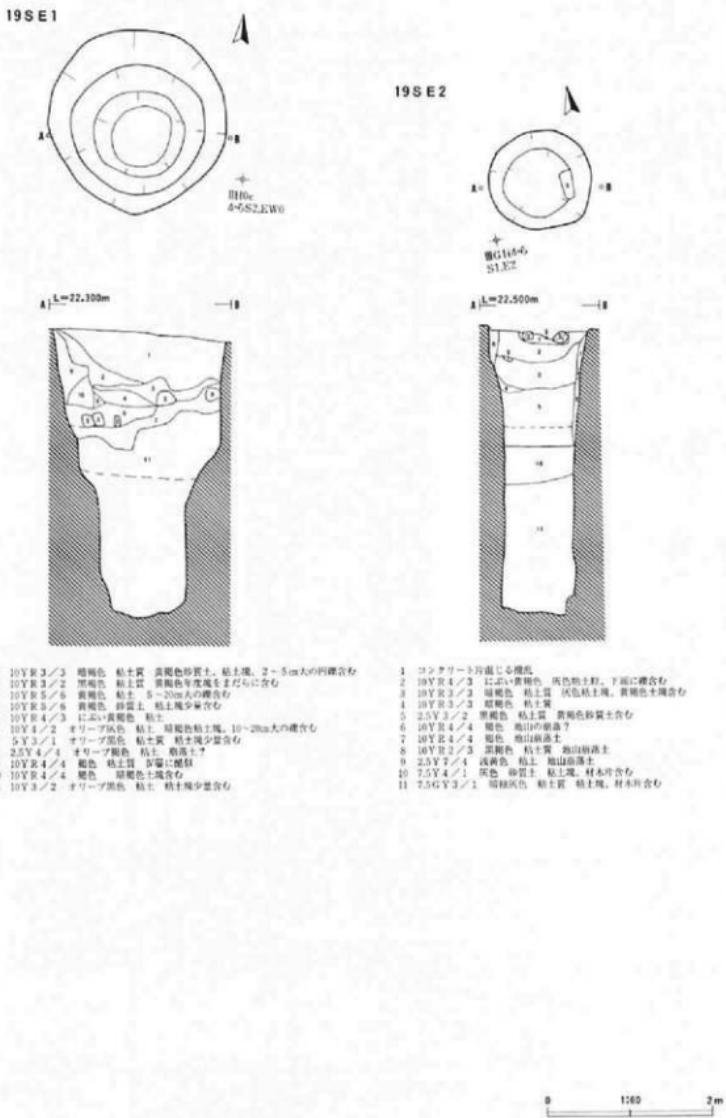
〔規模〕 開口部径184×214cm、底部径71×81cm、深さ368cm。

〔底面・壁〕 底面はほぼ平坦で、断面形は漏斗状を呈する。

〔埋土〕 人為堆積と思われる。精査途中で断面が崩落し不明な部分があるが、8層に分層した。

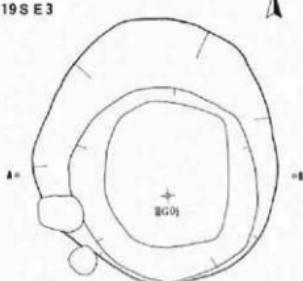
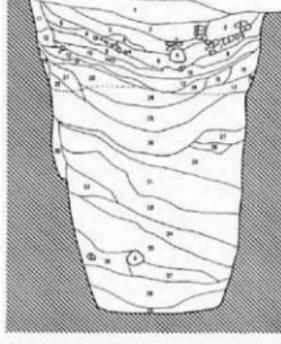
〔出土遺物〕 かわらけ・土師器の細片・近世陶器・植物種子などが出土した。

〔年代〕 出土遺物から、近世に属する井戸と思われる。



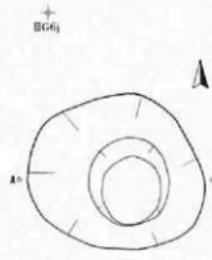
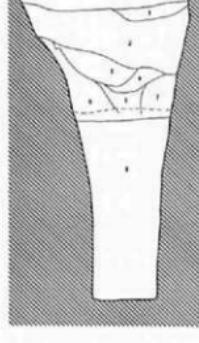
第9図 井戸①

19S E3

 $A_1 L=22,400m$ 

- 1 10Y R 3-/1 黑褐色 土壤、粘土、泥炭化含む
- 2 10Y R 3-/2 黑褐色 硅化材を含み透水少蓄水土
- 3 10Y R 3-/3 黑褐色 硅化材を含む透水少蓄水土
- 4 5 Y R 3-/2 に近い赤褐色 硅化材を含む透水少蓄水土
- 5 10Y R 3-/3 黑褐色 黑褐色粘土含む
- 6 10Y R 3-/1 黑褐色 多くの砂粒物、粘土含む
- 7 10Y R 3-/2 黑褐色 黑褐色土柱 5 - 20cmの間隔。国産陶器片含む
- 8 2.5Y R 3-/2 黑褐色 黑褐色粘土層、炭化物少蓄水土
- 9 10Y R 3-/2 黑褐色 黑褐色粘土層、炭化物少蓄水土
- 10 10Y R 3-/4 に近い黄褐色 粘土、黄褐色粘土、炭化物含む
- 11 10Y R 3-/4 黑褐色 黑褐色、蓄水層上部
- 12 10Y R 2-/2 黑褐色 黑褐色土と粘土で炭化物含む
- 13 10Y R 1-/1 黑褐色 炭化した木質物と品土
- 14 10Y R 1-/2 黒褐色 黑褐色土と炭化物含む
- 15 2.5Y 3-/1 黑褐色 粘土含む
- 16 2.5Y 3-/2 黑褐色 粘土、蓄水層がやや薄いた感じ
- 17 2.5Y 3-/1 黑褐色 粘土、炭化物、粘土含む
- 18 10Y R 7-/8 に近い黄褐色、瓦礫の埋蔵土
- 19 10Y R 7-/3 黑褐色、瓦礫の埋蔵土、オーリーブ灰色の粘土含む
- 20 2.5Y 4-/3 黑褐色、瓦礫の埋蔵土、オーリーブ灰色の粘土含む
- 21 2.5Y 3-/2 黑褐色 粘土、炭化物少蓄水土
- 22 2.5Y 3-/2 黑褐色 粘土、炭化物含む
- 23 1号墳墓土 粘土、黑褐色粘土ブロック、地山粘土ブロック含む
- 24 2.5Y 6-/3 黑褐色 粘土、黑褐色粘土ブロック含む
- 25 2.5Y 6-/1 黑褐色 粘土、地山粘土ブロック含む
- 26 2.5Y 7-/1 黑褐色 粘土、灰土、オーリーブ色、オーリーブ黒褐色粘土含む
- 27 10G Y 6-/1 黑褐色 粘土、地山粘土ブロック含む
- 28 10G Y 6-/1 黑褐色 粘土、地山粘土ブロック含む
- 29 10G Y 6-/1 黑褐色 粘土、地山粘土ブロック含む
- 30 10G Y 6-/1 黑褐色 粘土、地山粘土ブロック含む
- 31 10G Y 6-/1 黑褐色 粘土、灰白色土との混土でオーリーブ黒褐色粘土混入
- 32 7.5Y 4-/1 黑褐色 粘土、綠褐色シルト。モーリーブ灰褐色土ブロック含む

19S E4

 $A_1 L=22,500m$ 

- 1 2.5Y 3-/2 灰オーリーブ灰色、黒褐色粘土複合
- 2 10Y R 6-/6 灰青褐色、に近い黄褐色土と粘土に混入
- 3 10Y R 3-/4 黑褐色、黒褐色粘土複合
- 4 2.5Y 4-/2 灰褐色、粘土塊少蓄水土
- 5 2.5G Y 4-/1 灰オーリーブ灰色、粘土少蓄水土
- 6 2.5G Y 4-/1 灰オーリーブ灰色、に近い黒褐色土複合
- 7 2.5G Y 4-/1 灰オーリーブ灰色、に近い黒褐色土複合
- 8 2.5G Y 4-/1 灰オーリーブ灰色、粘土、黒褐色土混在する

- 33 10G Y 7-/1 明緑灰土、粘土、オーリーブ黒褐色土。西側に砂が多く入る
- 34 7.5G Y 7-/1 明緑灰土、砂質、灰褐色粘土少量。下部は淡黄色で酸化している
- 35 7.5G Y 7-/1 明緑灰土、粘土、灰褐色粘土少量。
- 36 5 G V 7-/1 明オーリーブ色、粘土、上部は明緑灰土。西側に灰褐色粘土が入る
- 37 5 G V 7-/1 明オーリーブ色、粘土、灰褐色粘土少量。東側は明緑灰土少量
- 38 5 G V 7-/1 明オーリーブ色、砂質、灰褐色粘土含む
- 39 5 Y 8-/2 从白色 粘土、粘土、少額含む

0 1:500 2m

第10図 井戸②

#### 19S E 5 (第11図、写真図版5)

〔位置・検出面〕 III H 6 a・6 b に位置する。検出面はIV層である。〔重複〕なし。

〔規模〕 開口部径196×197cm、底部径74×92cm、深さ348cm。

〔底面・壁〕 底面はほぼ平坦で、断面形は漏斗状を呈する。

〔埋土〕 15層に分層した。人為堆積と思われる。

〔出土遺物〕 焼成粘土塊が4点出土した。

〔年代〕 不明である。

#### 19S E 6 (第11図、写真図版5)

〔位置・検出面〕 III H 5 b に位置する。検出面はIV層である。〔重複〕なし。

〔規模〕 開口部径208×214cm、底部径60×70cm、深さ342cm。

〔底面・壁〕 底面はほぼ平坦で、断面形は漏斗状を呈する。

〔埋土〕 人為堆積と思われるが、中位以下は土層観察していない。

〔出土遺物〕 かわらけ・土師器、近世陶器十数点のほか、瓦が1点出土した。

〔年代〕 出土遺物から、近世に属する井戸と思われる。

#### 19S E 7 (第12図、写真図版5)

〔位置・検出面〕 III H 6 b に位置する。検出面はIV層である。

〔重複〕 19P329・19S K16と重複するが、前者は本遺構より新しいが後者との関係は不明である。

〔規模〕 開口部径146×180cm、底部径68×75cm、深さ354cm。

〔底面・壁〕 底面はほぼ平坦で、壁面は直立気味に立ち上がる。上位に壁の崩落がある。

〔埋土〕 人為堆積と思われる。6層に分けた。

〔出土遺物〕 かわらけ1点と井戸底が出土している。

〔年代〕 出土遺物から、近・現代に属する。

#### 19S E 8 (第12図、写真図版5)

〔位置・検出面〕 III H 5 e に位置する。検出面はIV層である。〔重複〕 南側に擾乱を受ける。

〔規模〕 開口部径212×?cm、底部径54×60cm、深さ284cm。

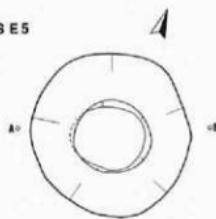
〔底面・壁〕 底面は平坦で、断面形は漏斗状を呈している。

〔埋土〕 人為堆積と思われる。6層に分けたがそれ以下は不明である。中位までは甕を含んでいる。

〔出土遺物〕 近世陶磁器が2点、下駄台1点、下駄差苦1点が出土した。

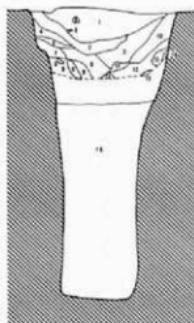
〔年代〕 出土遺物から、近・現代に属すると思われる。

19S E5



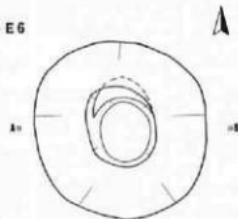
BIIb

L=22.500m



- 1 2.5Y 6/3 黄褐色 地下水中に含む
- 2 2.5Y 4/2 黄褐色 カカドゥイ化・層の粘土塊少部分含む
- 3 2.5Y 6/2 黄褐色 地下 細褐色土塊多く含む
- 4 10Y R 3/4 黄褐色
- 5 10Y R 3/2 黄褐色 褐褐色粘土塊含む
- 6 2.5Y 4/2 黄褐色 黃褐色粘土塊含む
- 7 10Y R 3/2 黄褐色 地下部 黄褐色粘土塊含む
- 8 2.5Y 4/2 黄褐色 地下部 黄褐色粘土塊含む
- 9 2.5Y 4/1 黄褐色 黄褐色地土との混じり
- 10 2.5Y 4/2 黄褐色 地表: 黄褐色粘土塊含む
- 11 2.5Y 4/2 黄褐色 砂質
- 12 2.5Y 4/2 黄褐色
- 13 2.5Y 7/4 黄褐色 黄褐色土塊含む
- 14 10Y R 3/2 黄褐色
- 15 2.5G Y 4/1 黄オリーブ色 黏土質 黄褐色粘土塊含む

19S E6



BIIb

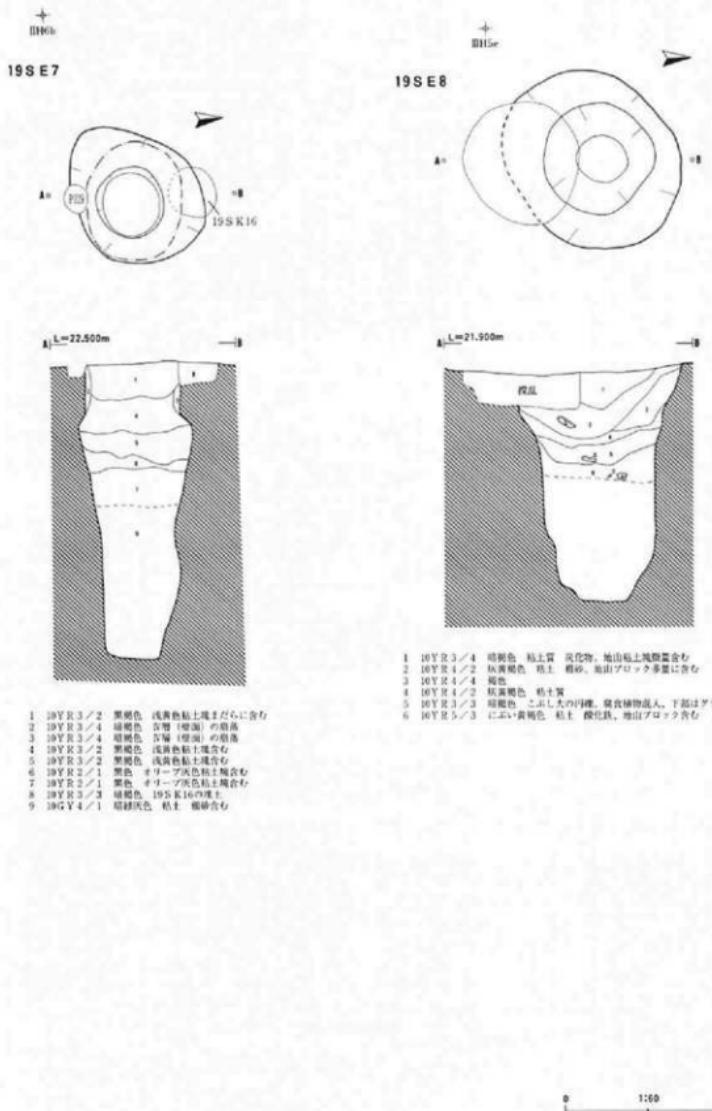
L=22.500m



- 1 10Y R 3/3 黄褐色 明黄褐色粘土塊多く含む
- 2 10Y R 3/2 黄褐色 錆および12世紀～近世の陶器片含む
- 3 10Y R 3/2 黄褐色 地化物含む
- 4 2.5Y 4/2 黄褐色 明黄褐色粘土塊含む
- 5 2.5Y 3/2 黄褐色 カカドゥイ化し酸化鉄斑点
- 6 3Y 4/2 黄オリーブ色 黏土 明黄褐色粘土塊含むグライシテーション

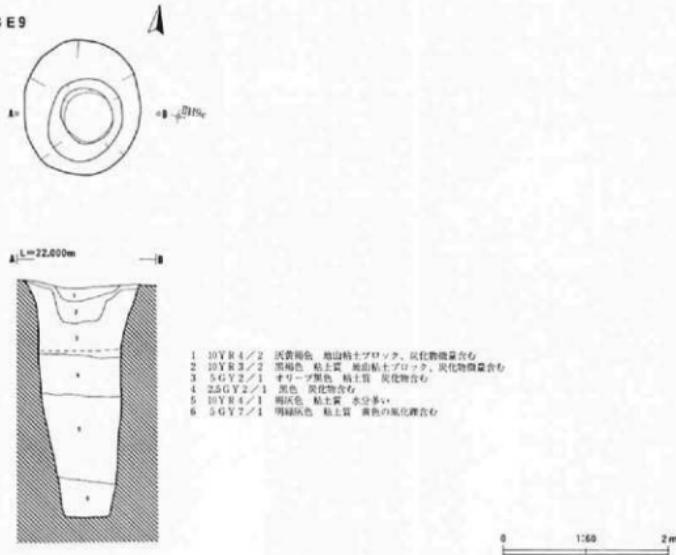
1:60 2m

第11図 井戸③



第12図 井戸④

19S E 9



第13図 井戸⑤

19S E 9 (第13図、写真図版6)

〔位置・検出面〕 II H 8 b・9 bに位置する。検出面はIV層である。〔重複〕なし。

〔規模〕 開口部径140×162cm、底部径59×60cm、深さ278cm。

〔底面・壁〕 底面はほぼ平坦で、壁面は直立気味に立ち上がる。

〔埋土〕 人為堆積と思われる。6層に分層した。

〔出土遺物〕 繩文時代の土器片、土偶1点、鉄製品のほか、近世陶器が2点出土している。

〔年代〕 出土遺物から、近・現代に属する井戸と思われる。

### 3 土坑

19次調査で20基、21次調査で15基の土坑が確認された。このうち12世紀に属する可能性があるものは9基のみで、その他のは時期・性格とも不明のものが多い。

#### 19S K 1 (第14図、写真図版6)

【位置・検出面】Ⅲ H 4 c に位置する。検出面はⅣ層である。

【重複】19S D 3 と重複する。それよりも新しい。

【規模】開口部径67×76cm、底部径57×65cm、深さ24cm。

【底面・壁】底面はほぼ平坦で、壁は直立して立ち上がる。【埋土】自然堆積で、2層に分かれる。

【出土遺物】手づくねかわらけ、縄文土器片、石器片、焼成粘土塊、ビニール片が出土した。

【造構の性格】不明である。

【年代】出土遺物から近・現代に属する。

#### 19S K 2 (第14図、写真図版6)

【位置・検出面】Ⅲ G 6 j に位置する。検出面はⅣ層である。

【重複】あり。19S D 6 に切られる。

【規模】開口部径64×72cm、底部径49×54cm、深さ27cm。

【底面・壁】底面は平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。

【埋土】木桶が埋め込まれている。3層に分層される。

【出土遺物】上記の桶とレンガ片が出土している。

【造構の性格】不明である。

【年代】出土遺物から近・現代に属する。

#### 19S K 3 (第14図、写真図版6)

【位置・検出面】Ⅱ H 9 b に位置する。検出面はⅣ層である。

【重複】あり。P 689に切られる。

【規模】開口部径85×90cm、底部径68×75cm、深さ105cm。

【底面・壁】底面は平坦で、壁は直立している。

【埋土】2層に分層され、いずれも炭化物を含む。

【出土遺物】手づくねかわらけ、縄文時代の石器等が出土している。

【造構の性格】不明である。

【年代】12世紀代を含むそれ遺構の時期としておく。

#### 19S K 4 (第14図、写真図版7)

【位置・検出面】Ⅱ H 0 a に位置する。検出面はⅣ層である。【重複】なし。

【規模】開口部径70×74cm、底部径58×65cm、深さ74cm。

【底面・壁】底面は平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。

【埋土】自然堆積と思われる。5層に分かれるが、下位層に多く遺物が含まれかつ有機質分が多い。

〔出土遺物〕 ロクロかわらけ、縄文土器片、ちゅう木、植物種子（モモ・ウメ・ウリ）、中国産白磁碗1点、近世陶磁器1点が出土している。

〔遺構の性格〕 形状・出土遺物からいわゆるトイレ状遺構と思われる。

〔年代〕 当初12世紀代と予想していたが、近世陶磁器が出土しており、近世に所属する可能性が高い。

#### 19SK5（第14図、写真図版7）

〔位置・検出面〕 II H 9 dに位置する。検出面はⅣ層である。〔重複〕なし。

〔規模〕 開口部径62×84cm、底部径（59×80cm）、深さは不明。〔底面・壁〕不明である。

〔埋土〕 木桶の底？あり。埋土の状況不明。

〔出土遺物〕 近世陶磁器10点あまりが出土している。

〔遺構の性格〕 不明。

〔年代〕 出土遺物から、近世以降に所属する。

#### 19SK6（第14図、写真図版7）

〔位置・検出面〕 II H 9 aに位置する。検出面はⅣ層である。〔重複〕なし。

〔規模〕 開口部径69×80cm、底部径58×64cm、深さ20cm。

〔底面・壁〕 底面は若干高まりを持つ以外は平坦。壁は直立気味に立ち上がる。

〔埋土〕 大量の礫が入れられている。単層である。

〔出土遺物〕 縄文土器片、かわらけ、近世磁器が出土している。

〔遺構の性格〕 不明である。

〔年代〕 出土遺物から、近世以降に所属する。

（19SK7はP452に変更）

#### 19SK8（第14図、写真図版7）

〔位置・検出面〕 II G 8 jに位置する。検出面はⅣ層上部である。

〔重複〕 位置的には19P160・19P454等と重複するが、検出面のレベル差があり遺構同士の重複はない。

〔規模〕 開口部径95～122×164cm、底部径75～104×155cm、深さ7～22cm。

〔底面・壁〕 底面は凹凸あり。壁は直立気味に立ち上がる。

〔埋土〕 3層に分層される。自然堆積と思われる。

〔出土遺物〕 縄文土器片（後・晚期）、剥片石器類、焼成粘土塊、植物種子等が出土している。

〔遺構の性格〕 不明である。

〔年代〕 植物種子や焼成粘土塊が出土しているが、詳細な時期は不明である。

#### 19SK9（第14図、写真図版8）

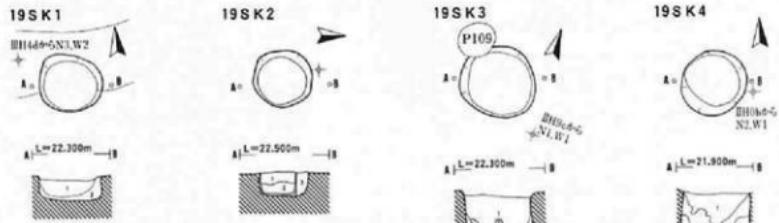
〔位置・検出面〕 II H 9 aに位置する。検出面はⅣ層上部である。〔重複〕なし。

〔規模〕 開口部径83×96cm、底部径58～75cm、深さ21cm。

〔底面・壁〕 底面は凹凸あり。壁はわずかに外傾して立ち上がる。

〔埋土〕 黒褐色土の単層で、自然堆積と思われる。

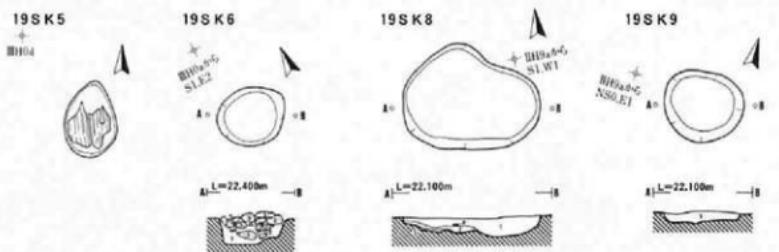
〔出土遺物〕 なし。



- 1 10YR 3 / 4 黄褐色、炭化物、  
鐵土塊よどみ多く含む  
2 10YR 3 / 4 黄褐色

- 1 10YR 4 / 2 黄褐色、炭化物、  
ガラス、粘土含む  
2 5Y 3 / 1 オリーブ黒色、ガラスび  
ん、湯のみ、木片含む  
3 10YR 4 / 3 にぶい黄褐色

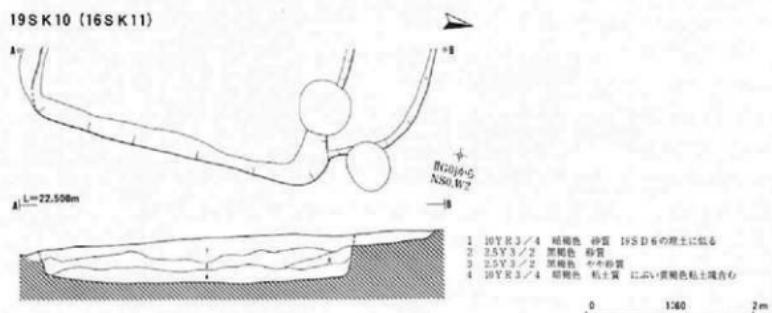
- 1 10YR 2 / 3 黄褐色、炭化物、  
黒色粘土ブロック、褐色土層含む  
2 10YR 4 / 4 黑色、黃白色粘土ブ  
ロック含む  
3 10YR 5 / 2 黄褐色、炭化物、  
黄褐色塊まだらに含む  
4 10YR 4 / 1 鐵汎物、粘土質、水  
分多い  
5 3Y 3 / 1 オリーブ黒色、植物  
遺存体、木製品含む



- 1 10YR 5 / 4 にぶい黄褐色、炭化  
物、角礫が上部には光沢ある

- 1 10YR 3 / 3 黄褐色  
2 10YR 3 / 2 黄褐色、土ブロック混入、  
炭化物上層に含む  
3 10YR 4 / 6 黑色、粘土質、擦り透す

- 1 10YR 3 / 2 黑褐色、シルト質  
炭化物、植山ブロック含む



第14図 土坑①

〔造構の性格〕不明である。

〔年代〕縄文時代の可能性がある土坑である。

#### 19S K 10 <16S K 11と同一> (第14図、写真図版8)

〔位置・検出面〕Ⅱ G 8 i・9 iに位置する。検出面はIV層である。

〔重複〕19P 122・19P 123と重複するが、いずれの柱穴よりも旧い。

〔規模〕開口部径378×?cm、底部径342×?cm、深さ31~56cm。

〔底面・壁〕底面はほぼ平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。

〔埋土〕4層に分層される。自然堆積と思われる。

〔出土遺物〕縄文土器片、石器剥片、かわらけ細片、フイゴの羽11点、植物種子、焼成粘土塊、近世陶磁器等が出土した。

〔造構の性格〕不明。

〔年代〕出土遺物・重複関係から、近世に属するものと思われる。

#### 19S K 11 (第15図、写真図版8)

〔位置・検出面〕Ⅲ G 6 iに位置する。検出面はIV層である。〔重複〕なし。

〔規模〕開口部径77×91cm、底部径54×88cm、深さ20cm。

〔底面・壁〕底面は平坦で、南壁は僅かに内湾して、北壁は垂直に立ち上がる。

〔埋土〕自然堆積の単層である。〔出土遺物〕埋土から植物種子が出土した。

〔造構の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

#### 19S K 12 (第15図、写真図版8)

〔位置・検出面〕Ⅲ H 1 gに位置する。検出面はIV層である。〔重複〕なし。

〔規模〕開口部径84×96cm、底部径76×84cm、深さ20cm。

〔底面・壁〕底面はほぼ平坦。壁もほぼ垂直に立ち上がる。

〔埋土〕自然堆積で2層に分けられる。

〔出土遺物〕かわらけ、中国産白磁碗がともに2点ずつ出土した。

〔造構の性格〕不明である。

〔年代〕出土遺物から、12世紀に属するものと思われる。

(19S K 13は欠番)

#### 19S K 14 (第15図、写真図版9)

〔位置・検出面〕Ⅲ H 5 a・5 bに位置する。検出面はIV層である。〔重複〕なし。

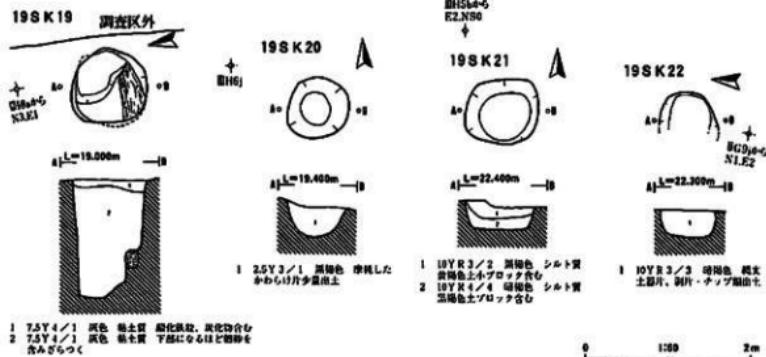
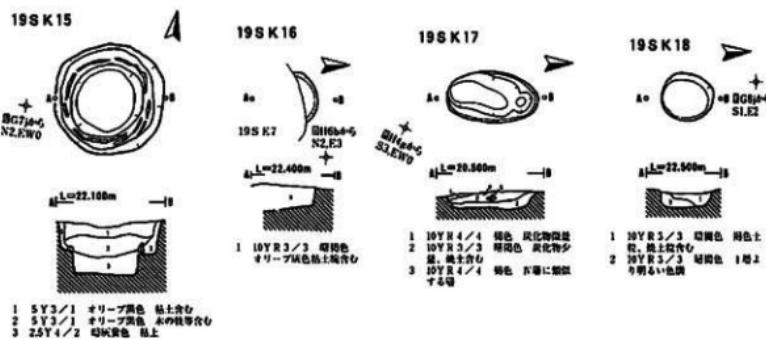
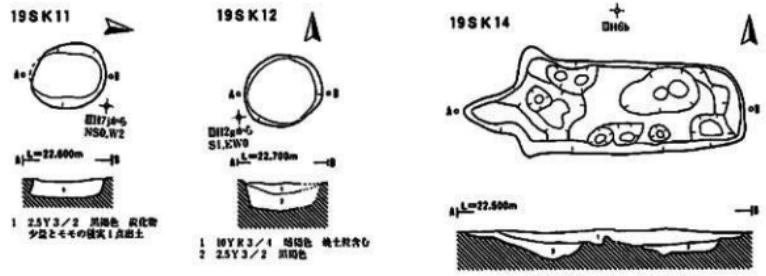
〔規模〕開口部径110×337cm、底部径90×324cmを測る不整長方形、深さ6~32cm。

〔底面・壁〕底面は大きい凹凸を持つ。壁は不明瞭に緩く立ち上がる。

〔埋土〕3層に分けられる。自然堆積か?。

〔出土遺物〕かわらけ、近世陶磁器が出土した。後者が主体である。

〔造構の性格〕不明である。



第15図 土坑②

〔年代〕出土遺物から、近世以降に属するものと思われる。

#### 19SK15（第15図、写真図版9）

〔位置・検出面〕ⅢH7jに位置する。検出面はIV層である。〔重複〕なし。

〔規模〕開口部径130×132cm、底部径70×74cm、深さ63cm。

〔底面・壁〕底面は平坦、壁は中段を持ち、直立気味に外傾して立ち上がる。

〔埋土〕3層に分けられる。人為的な堆積の様相である。

〔出土遺物〕縄文土器片、近世陶器、薬瓶が出土した。

〔造構の性格〕不明である。

〔年代〕出土遺物から、近・現代に属するものと思われる。

#### 19SK16（第15図、写真図版9）

〔位置・検出面〕ⅢH6bに位置する。検出面はIV層である。

〔重複〕19SE7（近・現代）と重複している。本遺構の方が旧い。

〔規模〕開口部径60cm以上、底部径50cm以上、深さ24cm。

〔底面・壁〕底面はほぼ平坦、壁は外傾して立ち上がる。

〔埋土〕自然堆積の単層である。

〔出土遺物〕縄文土器片、かわらけ、土師器、植物種子が出土した。

〔造構の性格〕不明である。

〔年代〕重複関係と出土遺物から、近世以前に所属するものである。

#### 19SK17（第15図、写真図版9）

〔位置・検出面〕ⅢH3fに位置する。検出面はIV層である。〔重複〕なし。

〔規模〕開口部径60×110cm、底部径54×88cm、深さ16~20cm。

〔底面・壁〕底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに外傾して立ち上がる。

〔埋土〕自然堆積で3層に分層される。

〔出土遺物〕かわらけ、土師器、縄文土器片、焼成粘土塊が出土した。

〔造構の性格〕不明である。

〔年代〕出土遺物から、12世紀に属する可能性がある。

#### 19SK18（第15図、写真図版10）

〔位置・検出面〕ⅢG7jに位置する。検出面はVI層である。〔重複〕なし。

〔規模〕開口部径55×63cm、底部径46×55cm、深さ17cm。

〔底面・壁〕底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

〔埋土〕自然堆積で、2層に分層される。

〔出土遺物〕炭化材1点のみである。

〔造構の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

19S K 19 (第15図、写真図版10)

【位置・検出面】旧河道部Ⅲ H 7 aに位置する。検出面は旧河道第31層である。【重複】なし。

【規模】開口部径88×92cm、底部径42×63cm、深さ80~140cm。

【底面・壁】南側底面は傾斜し、壁は直立気味に立ち上がる。

【埋土】自然堆積で2層に分層される。深さ80cm付近に流木が横たわっている。

【出土遺物】鉄滓1点、炭化材1点、植物種子が16点出土している。

【造構の性格】不明である。

【年代】検出面から12世紀に所属するものと思われる。

19S K 20 (第15図、写真図版10)

【位置・検出面】旧河道部Ⅲ H 5 jに位置する。検出面は旧河道大別層第4層である。

【重複】なし。【規模】開口部径71×74cm、底部径17×18cm、深さ34cm。

【底面・壁】底面は皿状に丸みを持ち、壁は外傾して立ち上がる。【埋土】自然堆積の単層である。

【出土遺物】なし。【造構の性格】不明である。

【年代】不明である。

19S K 21 (第15図、写真図版10)

【位置・検出面】旧河道部Ⅲ H 4 bに位置する。検出面は旧河道大別層第4層である。

【重複】なし。【規模】開口部径76×88cm、底部径56×62cm、深さ33cm。

【底面・壁】底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

【埋土】自然堆積で2層に分層される。

【出土遺物】かわらけ20点あまりのほか、土師器壊が出土した。

【造構の性格】不明である。

【年代】出土遺物から、12世紀に属する可能性が高い。

19S K 22 (第15図、写真図版10)

【位置・検出面】II G 9 jに位置する。検出面は第IV層である。

【重複】不手際から造構の半分ほどを失った。本来は19S D 6 (近・現代)に切られていたものと思われる。

【規模】開口部径70×?cm、底部径49×?cm、深さ32cm。

【底面・壁】底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

【埋土】自然堆積の単層である。【出土遺物】縄文土器片、珪化木1点が出土している。

【造構の性格】不明である。

【年代】不明である。

21S K 1 (第16図、写真図版10)

【位置・検出面】III H 6 fに位置する。検出面はVI層である。

【重複】第19次調査の段階で擾乱としたものと一部重複するが、検出面がVI層であることから重複はない。

【規模】開口部径121×164cm、底部径108×152cm、深さ8cm。

〔底面・壁〕底面はほぼ平坦で、壁は緩く立ち上がる。〔埋土〕自然堆積の単層である。

〔出土遺物〕なし。〔造構の性格〕不明である。

〔年代〕検出面から縄文時代に属するものと思われる。

#### 21SK2 (第16図、写真図版11)

〔位置・検出面〕ⅢH4eに位置する。検出面はⅤ層である。

〔重複〕中央部に雨裂痕あり。

〔規模〕開口部径84×114cm、底部径50×90cm、深さ13cm。

〔底面・壁〕底面は皿状で、壁は緩く立ち上がる。〔埋土〕自然堆積の単層である。

〔出土遺物〕なし。〔造構の性格〕不明である。

〔年代〕検出面から縄文時代に属するものと思われる。

#### 21SK3 (第16図、写真図版11)

〔位置・検出面〕ⅢH9dに位置する。検出面はⅥ層である。〔重複〕なし。

〔規模〕開口部径84×110cm、底部径43×56cm、深さ31cm。

〔底面・壁〕底面は僅かに凹凸を持ち、壁は緩やかに外傾しながら立ち上がる。

〔埋土〕自然堆積で4層に分けられる。4層めは振り過ぎか。

〔出土遺物〕かわらけの細片と縄文土器が数点出土している。〔造構の性格〕不明である。

〔年代〕出土遺物から、12世紀以降とする。

#### 21SK4 (第16図、写真図版11)

〔位置・検出面〕ⅢH0dに位置する。検出面はⅥ層である。〔重複〕なし。

〔規模〕開口部径44×65cm、底部径18×51cm、深さ13cm。

〔底面・壁〕底面はほぼ平坦、壁は緩やかに立ち上がる。

〔埋土〕自然堆積で2層に分けられ、黄褐色のブロックが混入する。〔出土遺物〕なし。

〔造構の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

#### 21SK5 (第16図、写真図版11)

〔位置・検出面〕ⅢH7a・8aに位置する。検出面はIV層である。〔重複〕なし。

〔規模〕開口部径70×106cm、底部径48×82cm、深さ34cm。

〔底面・壁〕底面は皿状に丸みを持ち、壁は緩やかに立ち上がる。

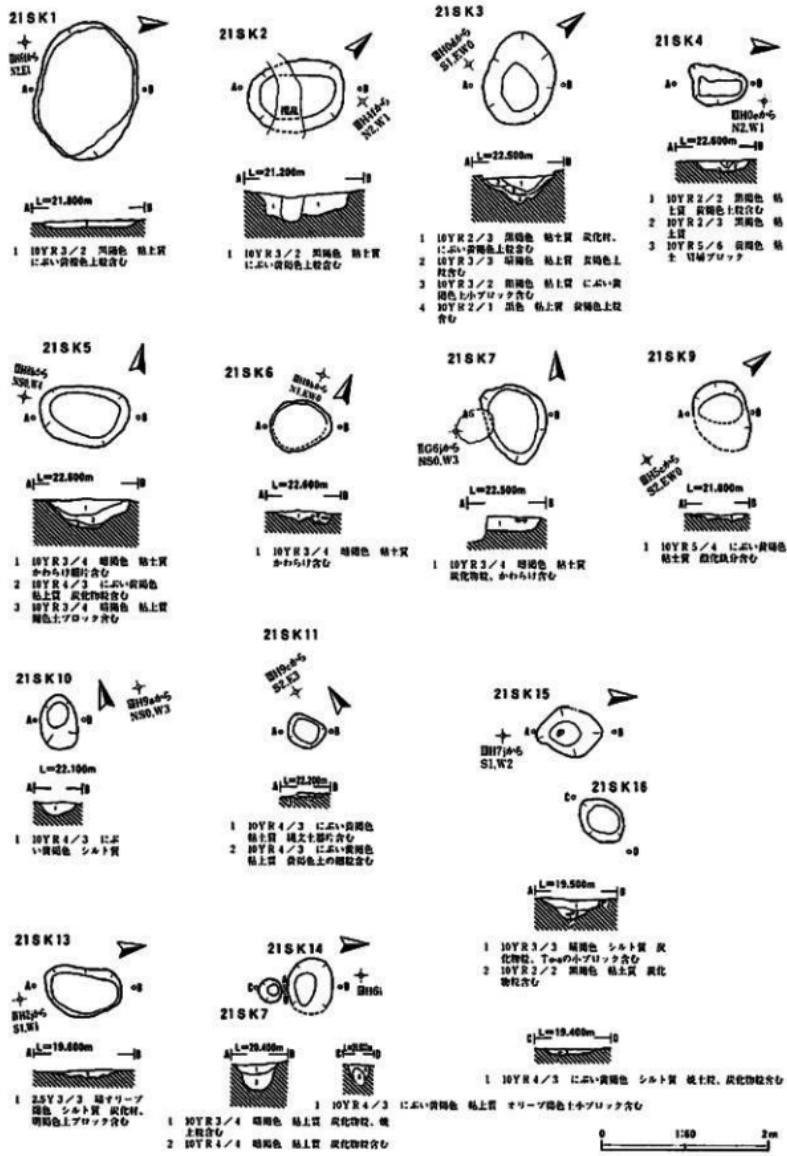
〔埋土〕自然堆積で3層に分けられる。

〔出土遺物〕かわらけ数十点が出土している。〔造構の性格〕不明である。

〔年代〕検出面・出土遺物から、12世紀後半に所属する可能性がある。

#### 21SK6 (第16図、写真図版12)

〔位置・検出面〕ⅢH8aに位置する。検出面はⅣ層である。〔重複〕なし。



第16図 土坑③

〔規模〕開口部径57×72cm、底部径?×64cm、深さ7~14cm。  
〔底面・壁〕底面は大きな凹凸を持ち、西側の壁はごく緩やかに立ち上がる。  
〔埋土〕自然堆積の単層である。  
〔出土遺物〕かわらけ數十点が出土している。〔遺構の性格〕不明である。  
〔年代〕検出面・出土遺物から、12世紀後半に所属する可能性がある。

#### 21SK7 (第16図、写真図版12)

〔位置・検出面〕Ⅲ G 5 i・6 iに位置する。検出面はIV層である。  
〔重複〕19P 182・486と重複するがいずれの柱穴よりも古い。19P 185とも重複するが新旧関係は不明。  
〔規模〕開口部径73×96cm、底部径55×78cm、深さ17cm。  
〔底面・壁〕底面は平坦、東側の壁は外傾して立ち上がる。〔埋土〕自然堆積の単層である。  
〔出土遺物〕かわらけの細片數十点が出土している。〔遺構の性格〕不明である。  
〔年代〕検出面・出土遺物から、12世紀後半に所属する可能性がある。

#### (21SK8は欠番)

#### 21SK9 (第16図、写真図版12)

〔位置・検出面〕Ⅲ H 4 b・4 cに位置する。検出面はV層である。  
〔重複〕19SD 3と重複するが、新旧関係は不明である。  
〔規模〕開口部径73×?cm、底部径66×?cm、深さ4~7cm。  
〔底面・壁〕底面には凹凸があり、壁は明瞭な立ち上がりを持たない。  
〔埋土〕自然堆積と思われる単層である。〔出土遺物〕なし。〔遺構の性格〕不明である。  
〔年代〕19SD 3との新旧関係が不明なため、時期が定かでない。

#### 21SK10 (第16図、写真図版13)

〔位置・検出面〕Ⅲ G 6 j・7 jに位置する。検出面はVI層である。  
〔重複〕19SK 2と重複するが、検出面から本遺構が古い。  
〔規模〕開口部径44×65cm、底部径24×30cm、深さ15cm。  
〔底面・壁〕底面は皿状で、壁は緩く立ち上がる。〔埋土〕自然堆積と思われる単層である。  
〔出土遺物〕なし。〔遺構の性格〕不明である。  
〔年代〕検出面から、绳文時代の土坑の可能性がある。

#### 21SK11 (第16図、写真図版13)

〔位置・検出面〕Ⅲ H 8 cに位置する。検出面はV層である。〔重複〕なし。  
〔規模〕開口部径36×44cm、底部径24×31cm、深さ4~7cm。  
〔底面・壁〕底面はほぼ平坦で、壁は緩く立ち上がる。  
〔埋土〕自然堆積で2層に分けられる。  
〔出土遺物〕绳文時代後期あるいは晩期の土器が2個体出土している。〔遺構の性格〕不明である。  
〔年代〕出土遺物から、绳文時代に属するものと思われる。  
(21SK12は欠番)

21S K 13 (第16図、写真図版13)

〔位置・検出面〕旧河道部、H 1 i に位置する。検出面はVI層（27層下）である。〔重複〕なし。  
〔規模〕開口部径56×92cm、底部径44×80cm、深さ4～10cm。  
〔底面・壁〕底面は全体に波打ち、壁との境が不明瞭である。  
〔埋土〕自然堆積の単層である。〔出土遺物〕なし。〔造構の性格〕不明である。  
〔年代〕不明である。

21S K 14 (第16図、写真図版13)

〔位置・検出面〕旧河道部Ⅲ H 5 i ～ 5 i に位置する。検出面はVI層である。〔重複〕なし。  
〔規模〕開口部径53×?cm、底部径14×38cm、深さ31cm。  
〔底面・壁〕底面は皿状で、壁は外反気味に立ち上がる。  
〔埋土〕自然堆積で2層に分けられる。  
〔出土遺物〕かわらけの細片がおよそ20点出土した。〔造構の性格〕不明である。  
〔年代〕出土遺物から、12世紀後半以降に所属する。

21S K 15 (第16図、写真図版14)

〔位置・検出面〕旧河道部Ⅲ H 6 i ～ 7 i に位置する。検出面はVI層である。〔重複〕なし。  
〔規模〕開口部径57×63cm、底部径29×31cm、深さ13cm。  
〔底面・壁〕底面は皿状で、壁は外反気味に立ち上がる。  
〔埋土〕自然堆積で3層に分けられる。  
〔出土遺物〕土器器の破片のみ出土している。〔造構の性格〕不明である。  
〔年代〕出土遺物から、平安時代（9～10世紀）に属するものと思われる。

21S K 16 (第16図、写真図版14)

〔位置・検出面〕旧河道部Ⅲ H 6 i ～ 7 i に位置する。検出面はVI層である。〔重複〕なし。  
〔規模〕開口部径46×62cm、底部径32×39cm、深さ6～8cm。  
〔底面・壁〕底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。  
〔埋土〕自然堆積の単層である。  
〔出土遺物〕土器器の破片のみ出土している。〔造構の性格〕不明である。  
〔年代〕出土遺物から、平安時代（9～10世紀）に属するものと思われる。

21S K 17 (第16図、写真図版14)

〔位置・検出面〕旧河道部Ⅲ H 5 i 、21S K 14に隣接する。検出面はVI層である。〔重複〕なし。  
〔規模〕開口部径直徑28cm、底部径直徑13cm、深さ26cm前後。  
〔底面・壁〕底面の状況は不明、壁は直立気味に立ち上がる。  
〔埋土〕単層で楕円形の石が埋め込まれている。  
〔出土遺物〕石以外なし。〔造構の性格〕不明である。  
〔年代〕不明である。

#### 4 溝

溝は19次調査においてのみ12条検出された。その性格及び時期は明らかでないものが多いが、旧河道内に検出された道路側溝と思われる19S D12など、12世紀後半に所属するものもある。

##### 19S D 1 (第17図、写真図版15)

【位置】Ⅲ H 1 e ~ 3 e、Ⅲ H 3 d ~ 8 d、Ⅱ H 0 e に位置する。ほぼ南北方向に走る溝である。

【重複】調査区北側で19S D 7と重複するが本造構が切られている。また21S B 6 - 2・21S B 7 - 2とプランが重複するが、新旧関係は不明である。

【規模】上幅は1.0~6.6cm、確認された長さは41mほどで、北側で幅を広げる。深さは10~40cmである。

【埋土】北側では4層に分けられる。暗褐色を主体とし、これには炭化物を含んでいる。

【出土遺物】肥前産の染付(6001)や瀬戸・美濃産の陶器(6044・6045)、この他に縄文土器・土師器・かわらけなどが出土した。

【性格】排水のための溝か。

【時期】埋土の状況等から、近世以降の構築と思われる。

##### 19S D 2 (第18図、写真図版15)

【位置】Ⅲ G 3 i ~ 3 j、Ⅲ H 3 b ~ 3 f、Ⅲ H 2 g に位置する。16S D13と同一の造構である。

【重複】調査区西側では19S D 6に切られている。また、Ⅲ H 3 f付近で19S D10と重複しているが、本造構のほうが旧い。

【規模】上幅は30~40cmを測る。数カ所で途切れているが、総長は28mほどである。深さは10cm前後の浅い溝である。

【埋土】暗褐色土の単層で、炭化物を含んでいる。

【出土遺物】須恵器(1102)、縄文土器片・かわらけ片が出土している。

【性格】不明であるが、第16次調査の報告では区画溝の可能性があるとしている。

【時期】重複関係等から、第16次調査では13~14世紀の可能性を指摘している。

##### 19S D 3 (第18図、写真図版15)

【位置】調査区西端北側から中央部にかけて、Ⅱ H 4 i ~ 4 j、Ⅲ H 4 a ~ 4 d に位置する。第16次調査区から東に真っ直ぐに延び、Ⅲ H 4 d で収束している。

【重複】15個あまりの単独の柱穴および19S D 6と重複するが、いずれも本造構を切っている。

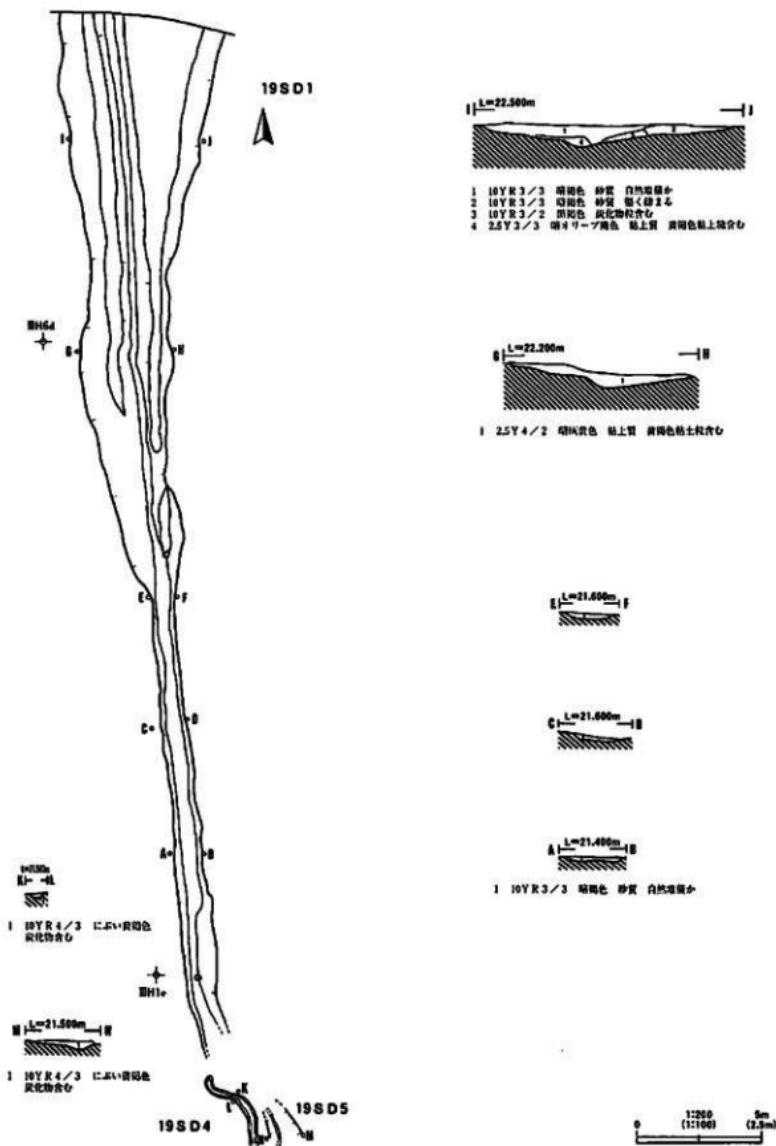
【規模】上幅は0.7~1.2m、下幅は0.2~0.8mで、深さは25m前後である。全長は約25mを測る。

【埋土】4層に分けられ暗褐色土を基調とする。これは、炭化物が混入する褐色土のブロックを含む。自然堆積か否かは不明である。

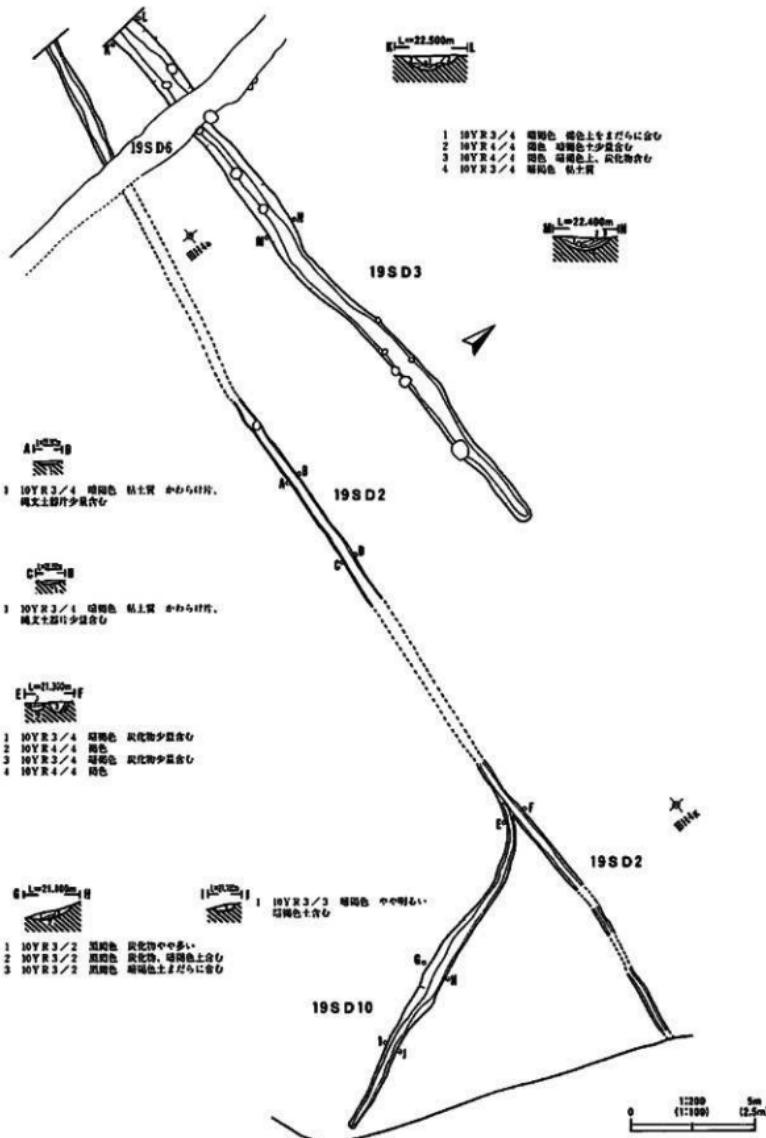
【出土遺物】埋土中から、須恵器(1103・1104)、手づくねかわらけ(2013)、ロクロかわらけ(2014・2015)、手あぶり形?のかわらけ(2016)、縄文土器などが出土した。

【性格】規模や出土遺物から、12世紀の区画溝と考えられる。

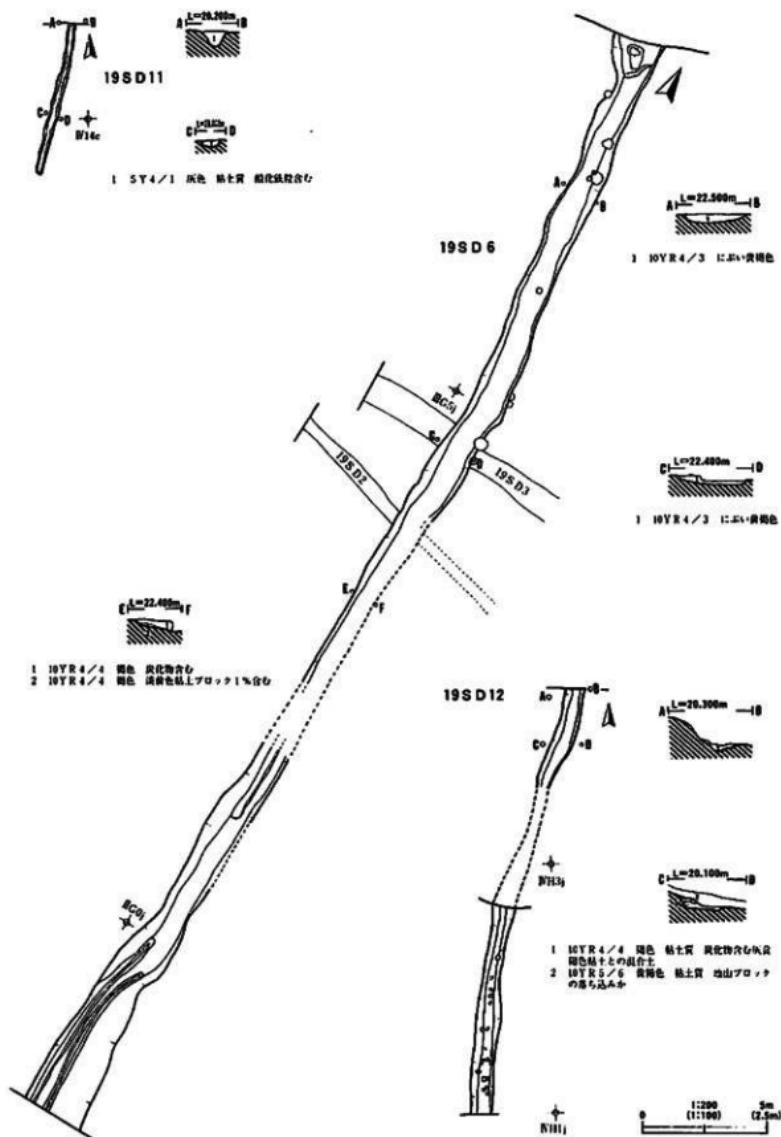
【年代】12世紀後半に属する溝と思われる。



第17図 満跡①



第18図 溝跡②



第19図 溝跡③

#### 19SD4（第17図、写真図版15）

【位置】 II H 9 e・0 eに位置する。【重複】重複する遺構はない。

【規模】上幅30~40cm、長さ3.5mほどで施行している。深さは10cm程度である。

【埋土】 にぶい黄褐色土の単層である。【出土遺物】出土していない。

【性格】不明である。

【年代】不明である。

#### 19SD5（第17図、写真図版15）

【位置】 II H 9 e、19SD4の東に隣接する。【重複】なし。

【規模】 精査できた長さは1mあまりで、深さは最大で20cm程度である。南側に伸びるものと思われる。北側は自然に収束している。

【埋土】 にぶい黄褐色土の単層である。【出土遺物】出土していない。

【性格】不明である。

【年代】不明である。

#### 19SD6（第18図、写真図版16）

【位置】 調査区西端部をほぼ南北方向に走る。II G 8 j ~ 0 j、III G 1 j ~ 8 j・7 i・8 iに位置する。

【重複】 19SD2・19SD3・19SE3・19SE4と重複するが、いずれもよりも本遺構が新しい。

【規模】 上幅0.9~2.5m、下幅0.7~1.0m、深さ20cm前後で、全長は約49mである。

【埋土】 にぶい黄褐色土の単層で、自然堆積か否かは不明である。

【出土遺物】 墓土中から、手づくねかわらけ（2017）、国産陶器（3016・3017以上湯美産、3331~3333以上常滑産）、肥前産陶器（6002~6004）、瀬戸・美濃産陶器（6046）、火打ち金具（7248）などが出土した。

【性格】 水が流れた形跡がなく、区画溝と考えられる。

【年代】 近世以降に属する溝と思われる。

#### 19SD7（第20図、写真図版16）

【位置】 調査区北端III H 8 c ~ 8 h、III H 9 c ~ 9 eに位置する。III H 8 f付近に直行する溝があるが、これとの関連は不明である。

【重複】 柱穴数個および19SD1と重複する。いずれの柱穴よりも旧く、滑よりは新しい。

【規模】 全長約31.0m、上幅0.8~3.5mほどで、西側は調査区外に延びる。

【埋土】 炭化材を含む暗オリーブ褐色と砂利層からなる。溝は東側に傾斜している。

【出土遺物】 19世紀代の陶器（6047~6050）、肥前産磁器（6005・6006）などが出土した。

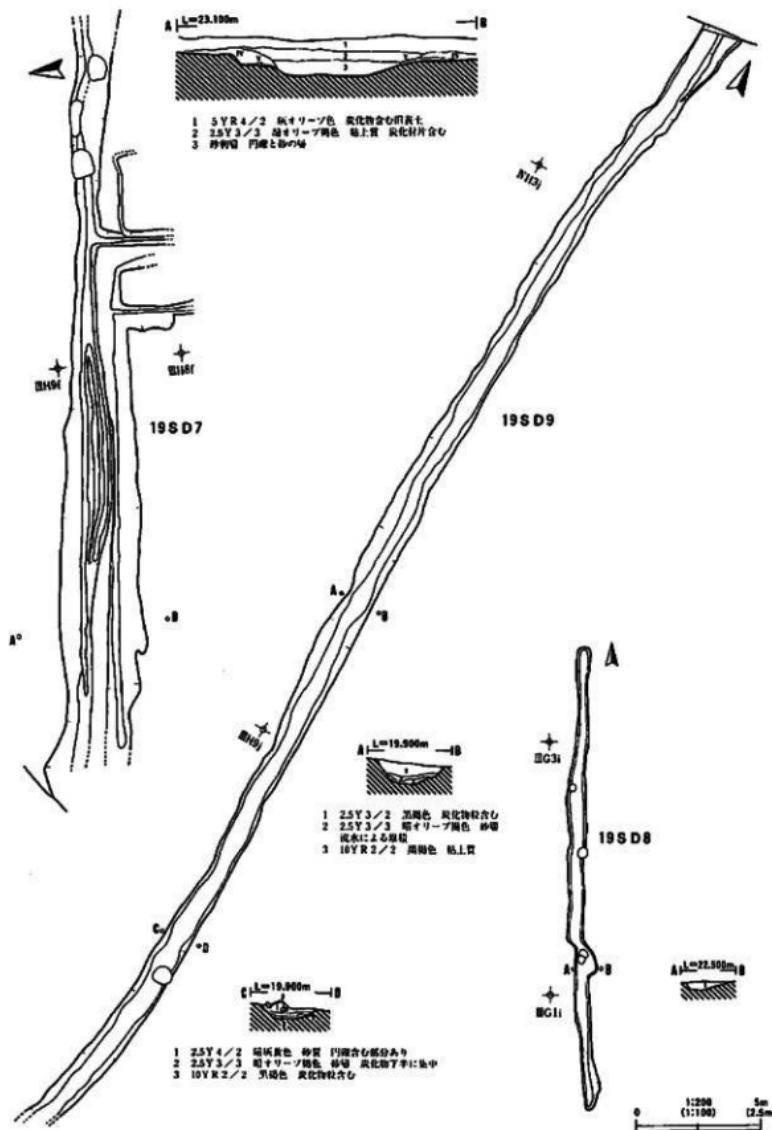
【性格】 排水用の溝か。

【年代】 出土遺物から、近世以降に所属すると思われる。

#### 19SD8（第20図、写真図版16）

【位置】 調査区西端II G 0 i、III G 1 i ~ 3 iに位置する。【重複】 柱穴数個と重複するが新旧は不明。

【規模】 全長約18.5m、上幅30~85cmほどで、ほぼ南北方向に真っ直ぐに延びる。



第20図 溝跡④

【埋土】単層である。【出土遺物】埋土から、手づくねかわらけ（2018・2019）、近世陶器（6007・6008）、火打ち金具（7249）などが出土した。

【性格】不明である。

【年代】出土遺物から、近世以降に所属すると思われる。

#### 19S D 9（第20図、写真図版16）

【位置】調査区東側の旧河遺部、Ⅲ H 5 i・5 j・6 i～0 i、Ⅳ H 1 i～5 iにかけて位置する。

【重複】柱穴1個と重複するが、本遺構が柱穴に切られている。

【規模】全長約51.5m、上幅は90～140cmほどで、ほぼ南北方向に真っ直ぐに延び北側は調査区外に続く。

【埋土】3層に分層される。炭化物を含む黒褐色土を基調とする。2・3層は流水による堆積土である。

【出土遺物】埋土から、国産陶器（3018～3023以上渥美産、3207・3208・3336・3337以上常滑産、3379・3380以上宮城県北産か？）、中国産陶器（4001）、中国産磁器（5110）、角釘（7201）などが出土した。

【性格】不明である。

【年代】出土遺物から、12世紀を含むそれ以降に属する構と思われる。

#### 19S D 10（第18図、写真図版17）

【位置】Ⅱ H 0 g、Ⅲ H 1 f・2 fに位置する。

【重複】Ⅲ H 3 f グリット付近で19S D 2と重複しているが、本遺構のほうが新しい。

【規模】上幅は30～80cm、深さ15cm前後、総長は28mほどである。

【埋土】黒褐色土・暗褐色土を主体とし、炭化物を含んでいる。【出土遺物】なし。

【性格】不明である。19S D 2との関連はないと思われる。

【時期】19S D 2の時期（13～14世紀）より新しいが、詳細な時期は不明である。

#### 19S D 11（第19図、写真図版19）

【位置】調査区東側の旧河遺部、Ⅳ I 3 b・4 bに位置する。北側は調査区外に延びる。

【重複】なし。【規模】上幅は30cm、深さ10～25cm前後、長さは6mほどである。

【埋土】灰色土の單層である。【出土遺物】なし。

【性格】不明である。

【時期】時期は不明である。

#### 19S D 12（第19図、写真図版19）

【位置】旧河遺部、Ⅳ H 1 i～3 i、Ⅳ H 4 jに位置する。崩落のため、Ⅳ H 3 j付近は精査できなかった。

【重複】重複は認められない。

【規模】全長約17.5m（未精査部分含む）、上幅1m、下幅20～40cmほどで、深さは20cmを測る。

【埋土・検出】褐色土の单層からなり、かわらけを多く含む。12世紀の遺物包含層（5層）直下で確認した。

【出土遺物】埋土から、手づくねかわらけ（2020～2037）、ロクロかわらけ（2038・2039）などが出土した。

【性格】12世紀の整地層との関連から、道路側溝の可能性がある構である。

【年代】出土遺物から、12世紀後半に属するものと思われる。

## 5 古代の堅穴住居

平安時代、9～10世紀代に属すると思われる堅穴住居が3棟確認された。いずれも住居廃絶後に行われた（その時期は不明）造成等によるものなのか、床面まで削られており、住居全体を精査できたものはない。

### 19S I 1 (第21図、写真図版18)

【位置】調査区北西隅のⅢ G 7 j・Ⅲ G 8 jに位置する。道幅北側ほぼ半分は調査区域外にある。

【検出面】IV層である。

【重複】P236 (21S B 17)・P482・P483に切られる。

【規模】一辺3.5～4.0m前後の方形を呈するものと思われる。東側の壁はやや張り出す。形状から、古代の住居跡と判断した。

【床面・壁】掘り方まで削られた状況で、使用時の床面は存在しない。壁もほとんど失われている。

【出土遺物】須恵器 (1109・1110) が東側から出土した。

【年代】出土遺物・住居形態から、平安時代（9～10世紀代）に所属するものと思われる。

### 21S I 1 (第21図、写真図版18)

【位置】調査区西側のⅢ G 4 iに位置する。カマド右袖の一部、燃焼部焼土、煙出と想定した柱穴状のビットのみ残存する。【検出面】VI層である。

【重複】煙道部付近が19S D 3に切られる。煙出はその底面に確認された。

【規模】南壁に設置されたカマドである。残存する施設だけからは全体規模が推定できないが、カマドの大きさなどから標準的な住居跡と思われる。

【カマド】残存する燃焼部焼土の規模は直径50cm、厚さ8cmで焼けは良好である。袖部は砂質土で構築され、土器片も入れられている。燃焼部と煙出部間の距離は1.1mほどである。

【床面・壁】住居の範囲がわからないので不明である。壁は失われている。

【出土遺物】土師器壺 (1016～1019)、土師器甕 (1020～1026)、須恵器 (1111) などが出土している。

【年代】出土遺物から、平安時代（9～10世紀代）に所属するものと思われる。

### 21S I 2 (第21図、写真図版18)

【位置】調査区北側中央部のⅢ H 7 cに位置する。カマド燃焼部の焼土と煙出の小ビット、貯蔵穴と思われる土坑があることから住居跡と判断した。【検出面】VI層である。

【重複】21S B 1・21S B 8など、12世紀・近世の掘立柱建物に切られる。

【規模】21S I 1同様、全体規模を推定することは難しいが、カマド燃焼部と貯蔵穴間の距離から、一辺は3.7～4m弱と思われる。

【床面・壁】燃焼部と同一のレベルは平垣であるが、それが住居使用時の床面であるかは不明。壁はない。

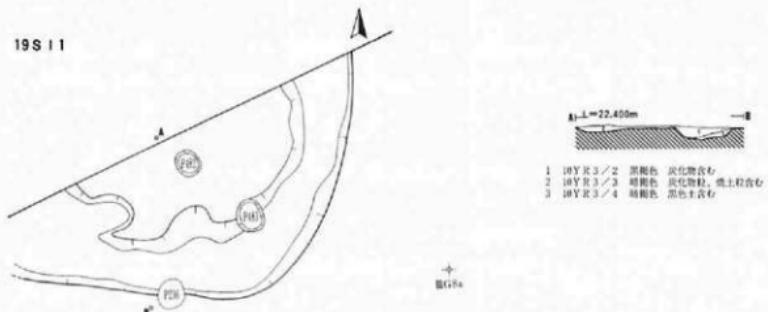
【カマド】東カマドと思われる。燃焼部焼土の規模は、直径50cmの円形で厚さは5cmである。

【貯蔵穴】75×90cmの略円形で、深さは23cmである。土師器の壺が数枚重なって出土した。

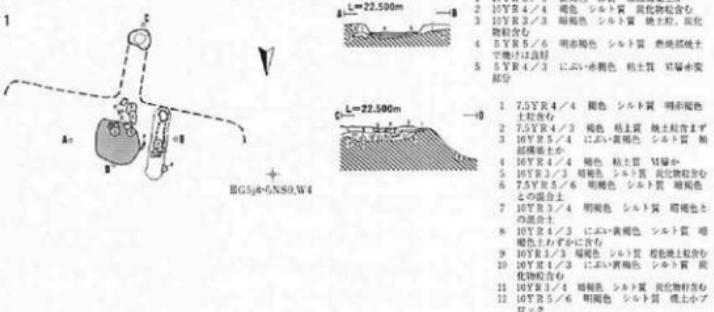
【出土遺物】貯蔵穴から土師器壺 (1006～1013)、土師器甕 (1014) などが出土している。壺は体部下端および底部にヘラによる再調整が施されている。

【年代】平安時代（9～10世紀代）に属するが、壺に古手のものがあり、9世紀代で収まるものか。

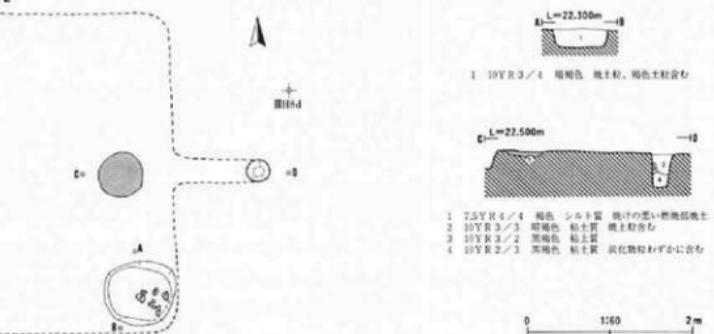
19S11



21S11



21S12



第21図 古代の竪穴住居

## 6 焼土（19次調査分）

ここでは、19次調査で検出された焼土8基について記述する。出土遺物から、12世紀後半に属するものもあるが、それ以外については時期が明らかでない。

### 19S X 1 (第22図、写真図版19)

【位置・検出面】Ⅲ H 5 b に位置する。検出面はⅣ層である。【重複】なし。

【規模など】55×65cmの不整形で、燃焼部の厚さは5cmである。赤褐色を呈する燃焼部は、土坑状の凹地部分の底面に作られている。

【出土遺物】土坑状の凹地部分から、図示したかわらけ(2070~2072)、瀬美産陶器(3044)の他、かわらけの細片が出土した。【遺構の性格】不明である。

【年代】検出面および出土遺物から、12世紀を含むそれ以降に属するものと思われる。

### 19S X 2 (第22図、写真図版19)

【位置・検出面】Ⅲ G 1 j に位置する。検出面はⅣ層である。【重複】なし。

【規模など】85×90cmの格円形状で、厚さは最大で15cmである。焼け具合(色調)から3層に分けた。

【出土遺物】出土しなかった。【遺構の性格】不明である。

【年代】不明である。

### 19S X 3 (第22図、写真図版19)

【位置・検出面】Ⅲ H 3 i に位置する。【重複】なし。

【規模など】65×75cmの不整形を呈する。焼けの悪い部分を含む全体の厚さは15cmで、赤褐色の燃焼部は、数cmである。色調から3つに分層した。これらも19S X 1同様、浅い土坑状の凹地に形成されている。

【出土遺物】出土遺物はない。【遺構の性格】不明である。

【年代】不明である。

### 19S X 4 (第22図、写真図版19)

【位置・検出面】Ⅲ H 2 f 付近に位置する。検出面はⅣ層である。【重複】なし。

【規模など】80×104cmの格円形状で、厚さは最大で8cmである。土坑状の掘り込み部分の埋土に、赤褐色の焼土と炭化物を含んでいる。土坑として扱うべきものかもしれない。

【出土遺物】出土しなかった。【遺構の性格】不明である。

【年代】不明である。

### 19S X 5 (第22図、写真図版20)

【位置・検出面】旧河道内の斜面、Ⅳ H 2 i に位置する。旧河道5d層で検出した。【重複】なし。

【規模など】平画形は25×80cmの不整形である。焼けは悪い。厚さは5cm程度である。

【出土遺物】出土遺物はない。

【遺構の性格】投げ込まれた焼土で、19S X 6・19S X 7と一連のものである。

【年代】19S X 6・19S X 7の出土遺物および検出状況から、12世紀後半に属するものと思われる。

#### 19S X 6 (第22図、写真図版20)

【位置・検出面】19S X 5と同様である。【重複】なし。

【規模など】平面形は最大140×280cmの広がりを有する不整形である。色調等から、4層に分けられた。厚さは全体で10~15cm程度である。

【出土遺物】手づくねかわらけ(2075~2084)、ロクロかわらけ(2085~2086)が出土した。

【遺構の性格】焼土の状態や出土遺物から、何らかの儀式の後にかわらけとともに廃棄された焼土の可能性が考えられるが、詳細は不明である。

#### 19S X 7 (第22図、写真図版20)

【位置・検出面】19S X 6の南西80cmに位置する。検出面は同じである。【重複】なし。

【規模など】平面形は最大幅80×長さ195cmの細長い菱形である。焼土自体は、色調から3層に分けられた。厚さはそれぞれ数cmである。

【出土遺物】手づくねかわらけ(2087~2090)などが出土した。

【遺構の性格】19S X 6と同じ。

【年代】出土遺物から、12世紀後半に属すると思われる。

#### 19S X 8 (第22図、写真図版20)

【位置・検出面】旧河道内、ⅣH 3 iに位置する。【重複】なし。

【規模など】平面形は470×65cmの長方形である。色調から3層に分けた。全体の厚さは10cmである。

【出土遺物】出土していない。

【遺構の性格】不明である。

【年代】不明である。

(19S X 9は欠番)

### 7 土器埋設遺構

土器埋設遺構は、19次調査で1基確認された。時期は縄文時代晚期初頭(本報告分類一Ⅲ群1類)である。

#### 19S X 10 (第22図、写真図版21)

【位置・検出面】調査区中央部西寄りのⅢH 2 cに位置する。検出面はⅣ層上面である。

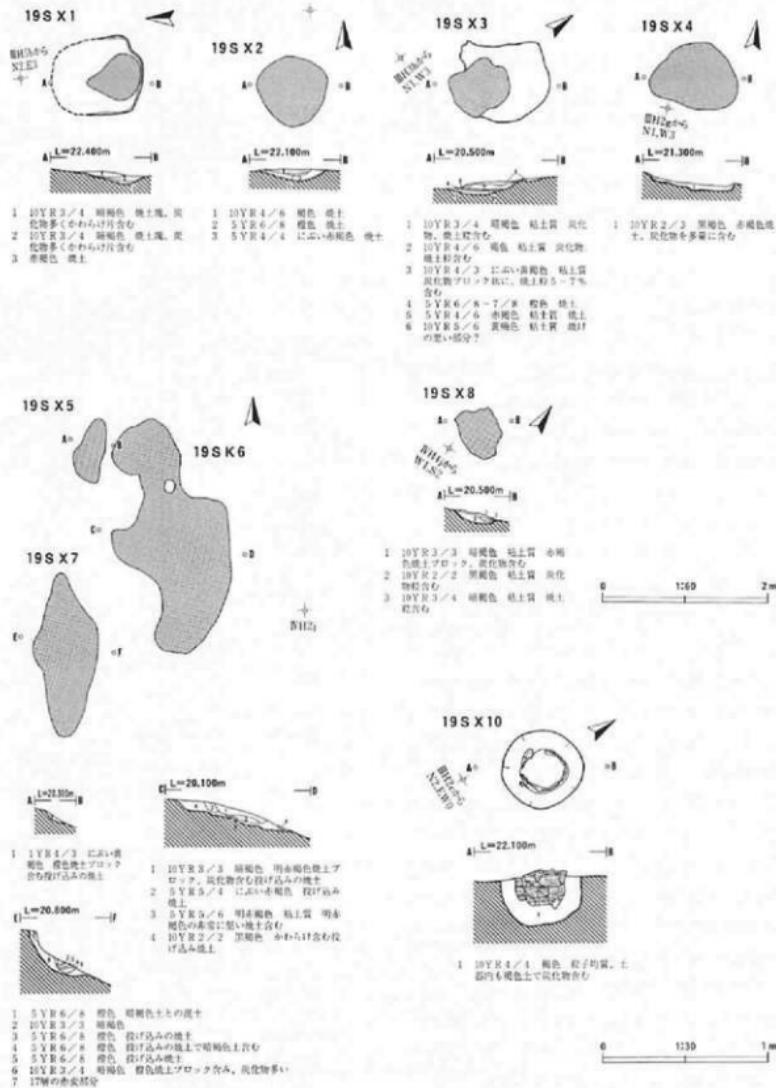
【重複】重複する遺構はない。

【規模など】土器は正位に埋設され、直径50cmほどの円形の掘り方を有する。その深さは30cmあまりで、土器の周囲に10cm程度の土が入れられている。土器の底部を欠いているが、欠損した状態で埋設されたものと思われる。

【遺物】土器は、縄文晚期初頭の深鉢(346)である。口唇部には山形突起を有し、胴部との境には連続する横位の长短沈線が巡る。口縁部と胴部には入組文・三叉文が施されているが、入組部には刺突が入れられている。地文はLRである。

【遺構の性格】幕の可能性が考えられるが、土壤分析も行っておらず不明である。

【年代】縄文時代晚期初頭に属する。



第22図 燐土：土器埋設遺構（19次調査分）

#### 8 カマド状遺構・焼土（21次調査分）

カマド状遺構は、近世以降、麻などを煮るために使われた施設と思われるもので、火床部以外の構造がわかるものは5基確認された。焼土は1基確認されたが、検出状況から古代の住居に伴うものとした。

##### 21S X 1 (第23図、写真図版21)

【位置・検出面】Ⅲ H 5 gに位置する。検出面はⅥ層である。【重複】なし。

【構造】前庭部、掛け口、煙道部からなり明瞭に構造がわかる。火床部は、前庭部と掛け口の境に微かに觀察された。また、掛け口から前庭部間に下がる浅い溝が見られる。

【規模】前庭部上面の直径68cm、掛け口上面の径32×78cm、煙道部幅18cm・長さ130cm以上、深さ5~16cm。

【埋土】崩落した掛け口の粘土質土と後の堆積土からなり、6層に分層される。

【出土遺物】なし。【遺構の性格】何らかの煮炊きに使われたカマドである。

【年代】確認はないが、近世以降の所属と思われる。

##### 21S X 2 (第23図、写真図版21)

【位置・検出面】Ⅲ H 6 eに位置する。検出面はⅣ層である。【重複】なし。

【構造】後世に壊され、かろうじて残存したカマド状遺構の火床部と思われる。

【規模】径40×62cm。火床部の厚さ7cm。【出土遺物】なし。

【遺構の性格】カマド状遺構火床部である。

【年代】近世以降の所属と思われる。

##### 21S X 3 (第23図、写真図版22)

【位置・検出面】Ⅲ H 5 fに位置する。検出面はⅣ層である。

【重複】21S X 5・6と重複するが、調査の不手際から新Ⅲ関係は不明である。特に後者との重複は複雑で、お互いの掛け口と煙道部同士が切り合う状況である。

【構造】前庭部、掛け口、煙道部、烟出しからなるが、埋土の状況から西側が掛け口となる。よって前庭部から煙道が延びていることになり、通常の構造とは異なる。他のカマド状遺構との重複もあって、この構造の解釈自体が正しいものか不明である。煙道は例り貰式である。

【規模】前庭部上面の直径138cm、掛け口上面の直径90cm、煙道部幅20cm・長さ90cm、深さ25cmを測る。

【埋土】崩落した掛け口の粘土質土と後の堆積土からなり、6層に分層された。

【出土遺物】なし。【遺構の性格】何らかの煮炊きに使われたカマドである。

【年代】近世以降の所属と思われる。

##### 21S X 4 (第23図、写真図版22)

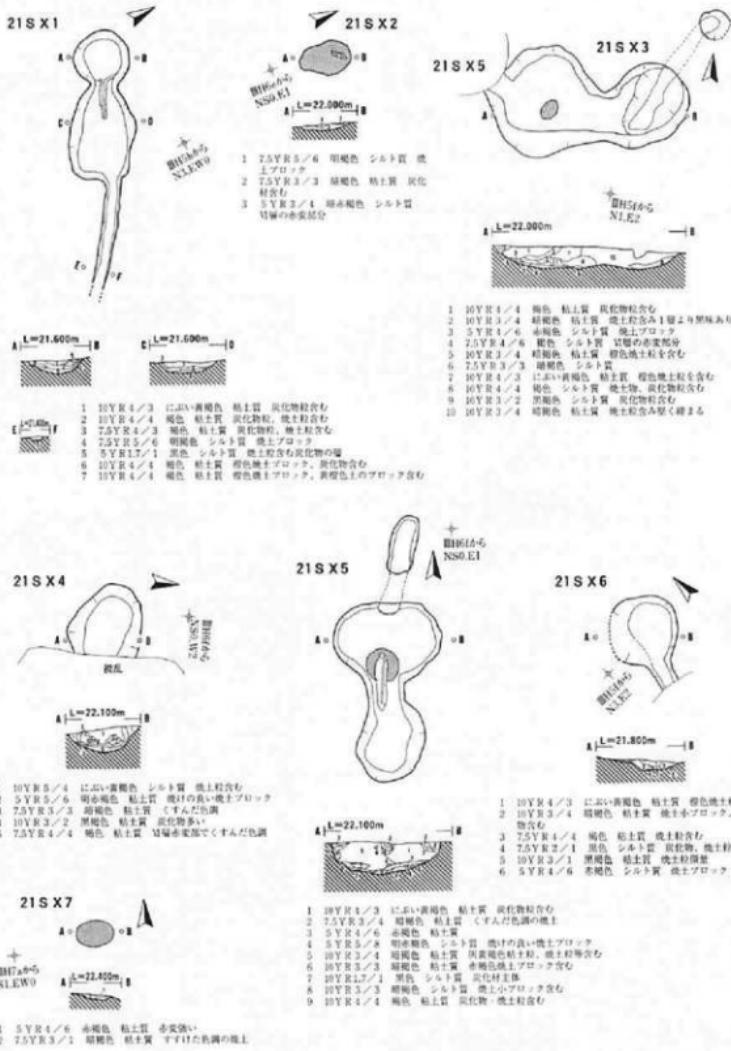
【位置・検出面】Ⅲ H 5 eに位置する。検出面はⅣ層である。

【重複】遺構の東側は擾乱を受けている。

【構造】埋土の状況から、残存しているのは掛け口部分のみと思われる。

【規模】掛け口上面幅86cm前後・深さ27cm前後。

【埋土】崩落した掛け口の粘土質土と後の堆積土からなり、5層に分層された。



第23図 カマド状遺構・焼土（21次調査分）

【出土遺物】なし。【遺構の性格】何らかの煮炊きに使われたカマドである。

【年代】近世以降の所持と思われる。

#### 21S X 5 (第23図、写真図版22)

【位置・検出面】Ⅲ H 5 e・5 f に位置する。検出面はIV層である。【重複】なし。

【構造】前庭部、2個口の掛け口、煙道部からなり全体構造は明瞭にわかる。火床部は掛け口の前庭部寄りにあり、前庭部と掛け口をつなぐ部分に浅い溝が観察された。煙道は倒り貯き式である。

【規模】前庭部上面の径81×124cm、掛け口上面の径90×132cm、煙道部幅20cm・長さ120cm、深さ36cm。

【埋土】掛け口部分の埋土は、粘土質の崩落土と後の堆積土からなり、9層に分層された。

【出土遺物】なし。【遺構の性格】何らかの煮炊きに使われたカマドである。

【年代】近世以降の所持と思われる。

#### 21S X 6 (第23図、写真図版22)

【位置・検出面】Ⅲ H 5 f に位置する。検出面はIV層である。

【重複】21S X 3 と重複するが、新旧は不明である。

【構造】残存しているのは前庭部か掛け口部のいずれかであるが、不明である。煙道は21S X 3側に延びている可能性もある。

【規模】直径80cm前後、煙道部幅24cm、深さ8~14cm。【埋土】6層に分けられる。

【出土遺物】なし。【遺構の性格】カマド状遺構と思われる。

【年代】近世以降の所持と思われる。

#### 21S X 7 (第23図、写真図版23)

【位置・検出面】Ⅲ H 6 a に位置する。検出面はIV層である。【重複】なし。

【構造】かろうじて残存した住居跡に伴うカマド燃焼部である。

【規模】径31×44cm。燃焼部の厚さ4cm。【出土遺物】なし。

【遺構の性格】平安時代の住居跡カマド燃焼部と思われる。

【年代】平安時代(9~10世紀)に属するものと思われる。

## 9 旧河遺跡・木柱列

### (1) 旧河遺跡（第24～28図、写真図版25～27）

ここでは、泉屋遺跡19次・21次調査の主体となった旧河遺跡について記述する。2カ年にわたって調査した旧河遺跡は、調査区の東端でほぼ南北方向に検出された。調査した地点の流路方向は、南北軸からわずかに東側に振れているようである。19次調査では、トレンチ調査による土層堆積状況の把握、および12世紀の遺物包含層上層（大別層4層：次頁の層序参照）までの掘削・精査、21次調査では、それ以下の層の掘削・精査と全体圖の作成、層位の確認を主な調査内容とした。

ここからは、12世紀後半に属するかわらけ・国産陶器・中国産陶磁器・木製品・鉄製品・ガラス製品・平安時代の土師器・須恵器・土製品・鉄製品・繩文土器などのほか、植物遺体（モモ・ウメの種子）や獸骨・獸歯（ウマ・シカ）など、多くの遺物が出土した。これらで今回出土した遺物総数の8割ほどを占めていると思われる。遺構では、12世紀後半ごろの整地層とそれと同時期の道路側溝になる可能性がある溝のほか、土坑が數基検出された。また、詳しくは次で述べるが、2列1組で橋状施設を構成する木柱列が検出されている。この他、二次堆積したと思われる灰白色火山灰が最大で厚さ40cmあまり、河道中央部全域に確認された。この火山灰は、10世紀前半に降下したとされる十和田a降下火山灰との分析結果を得ている。

〔位置〕 調査区最東端部のⅢH 4 i～0 i、ⅣH 1 i～4 i、ⅢH 4 j～0 j、ⅣH 1 j～4 j、ⅣI 1 aなどに位置する。旧河道は南北いずれの方向にも延びている。

〔規模〕 確認できた河幅は15.5～23.0mで、それは南側に向かって徐々に狭くなる。第24図に示した全長はおよそ35.0mであるが、21次調査の際に大雨による地盤崩落のため、北側6mあまりを作図できなかった。よって、実際は長さ40mあまりにわたって精査している。

〔流路・深さ〕 各時代における深さは、河幅とは逆に南側のレベルが下がっていた。よって、流路は北側から南にある現太田川方向であったと考えられる。しかし、平安時代以前（十和田a火山灰堆積以前）は、あまり水の流れがない湿地・沼地であった様相である。現地表面から12世紀の整地層までの深さは最大で2.7m、十和田a火山灰の堆積面までのそれは3.5mである。最終的に、一部を現地表面下4.7mで掘り下げたところで掘削を断念した。

〔各時代における状況〕 これらの状況から、この旧河道は①繩文期以降には流れのある沢、②平安期前後に湿地・沼地、③12世紀後半には凹地を利用し、整地を施した道路、④12世紀後半以降は徐々に埋り（人为的に埋められた可能性もある）、⑤現代には水田となったと考えられる。時代によって、人の手が加えられながら利用されてきた痕跡を残している。

〔堆積状況〕 この旧河遺跡を精査した結果、整地層・灰白色火山灰層などの鉛層が数枚存在することがわかった。旧河道内における層序を次頁に示したが、大別層2層・4層（近世）・6層（整地層）・8層（十和田a火山灰層・10世紀前半）・10層（繩文？）がそれである。第25～28図には調査で得た土層断面すべてを掲載したが、表は各断面の鉛層のあり方から旧河道における堆積状況を総合的に判断して作成したものである（層名の後ろに付く括弧内の数字は調査時に付けた旧層名）。表中の6層（整地層）と8層（十和田a火山灰層）以外については、概ねそれくらいの時期といった大まかなもので、明確な時期を示していない。以下に各大別層の詳細について記述する。

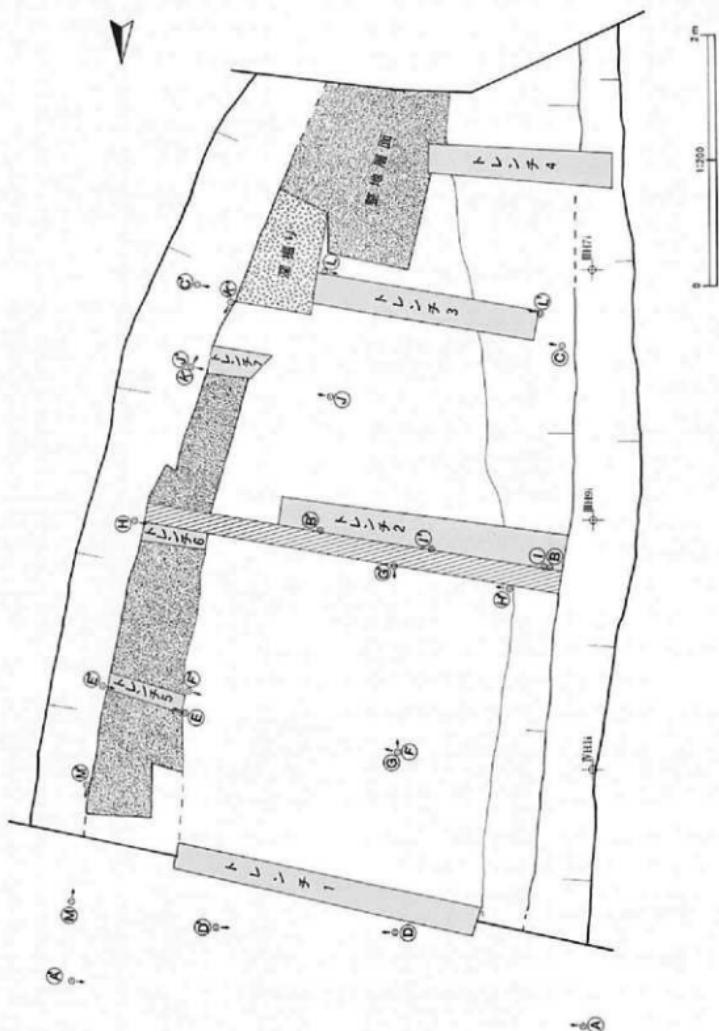
大別層1層—確實に近・現代に堆積した層で、最近はすっかり埋まりきって水田として利用されていた。

2層—暗褐色のシルト質土で構成される層。近・現代に堆積。

3層—2層と4層との間に存在する。陶磁器等含む。

## 旧河道における層序

層序番号	層序名	A-A'	B-B'	C-C'	D-D'	E-E'	F-F'	G-G'	H-H'	I-I'	J-J'	K-K'	L-L'	M-M'	N-N'
C1-1(2)	1	A1a(1)	B1a(1)	C1a(1)	D1a(1)	E1a(1)	F1a(1)	G1a(1)	H1a(1)	I1a(1)	J1a(1)	K1a(1)	L1a(1)	M1a(1)	N1a(1)
		b1b(1)	c1b(1)	d1b(1)	e1b(1)	f1b(1)	g1b(1)	h1b(1)	i1b(1)	j1b(1)	k1b(1)	l1b(1)	m1b(1)	n1b(1)	
		A1c(1)	C1c(1)	E1c(1)	G1c(1)	I1c(1)									
		A1d(1)	C1d(1)	E1d(1)	G1d(1)	I1d(1)									
		A1e(1)	C1e(1)	E1e(1)	G1e(1)	I1e(1)									
		A1f(1)	C1f(1)	E1f(1)	G1f(1)	I1f(1)									
		A1g(1)	C1g(1)	E1g(1)	G1g(1)	I1g(1)									
		C1h(1)													
		C1i(1)													
		C1j(1)													
		C1k(1)													
		C1l(1)													
		C1m(1)													
		C1n(1)													
		C1o(1)													
		C1p(1)													
		C1q(1)													
		C1r(1)													
2	層序名	A2(5)	C1(5)												
3		A3(5)	C1(5)												
		A3a(1)	C1a(1)												
		A3b(1)	C1b(1)												
		A3c(1)	C1c(1)												
		A3d(1)	C1d(1)												
		C1e(1)													
		C1f(1)													
		C1g(1)													
4		A4(9)													
5		A5a(1)	B5a(1)	C5a(1)											
		A5b(1)	B5b(1)	C5b(1)											
		A5c(1)	B5c(1)	C5c(1)											
		A5d(1)	B5d(1)	C5d(1)											
		A5e(1)	B5e(1)	C5e(1)											
6	層序名	A6(6)	C6(6)	D6(6)	E6(6)	F6(6)	G6(6)	H6(6)	I6(6)	J6(6)	K6(6)	L6(6)	M6(6)	N6(6)	O6(6)
7		A7a(6)	C7a(6)	D7a(6)	E7a(6)	F7a(6)	G7a(6)	H7a(6)	I7a(6)	J7a(6)	K7a(6)	L7a(6)	M7a(6)	N7a(6)	O7a(6)
		A7b(6)	C7b(6)	D7b(6)	E7b(6)	F7b(6)	G7b(6)	H7b(6)	I7b(6)	J7b(6)	K7b(6)	L7b(6)	M7b(6)	N7b(6)	O7b(6)
		A7c(6)	C7c(6)	D7c(6)	E7c(6)	F7c(6)	G7c(6)	H7c(6)	I7c(6)	J7c(6)	K7c(6)	L7c(6)	M7c(6)	N7c(6)	O7c(6)
		A7d(6)	C7d(6)	D7d(6)	E7d(6)	F7d(6)	G7d(6)	H7d(6)	I7d(6)	J7d(6)	K7d(6)	L7d(6)	M7d(6)	N7d(6)	O7d(6)
		A7e(6)	C7e(6)	D7e(6)	E7e(6)	F7e(6)	G7e(6)	H7e(6)	I7e(6)	J7e(6)	K7e(6)	L7e(6)	M7e(6)	N7e(6)	O7e(6)
		A7f(6)	C7f(6)	D7f(6)	E7f(6)	F7f(6)	G7f(6)	H7f(6)	I7f(6)	J7f(6)	K7f(6)	L7f(6)	M7f(6)	N7f(6)	O7f(6)
		A7g(6)	C7g(6)	D7g(6)	E7g(6)	F7g(6)	G7g(6)	H7g(6)	I7g(6)	J7g(6)	K7g(6)	L7g(6)	M7g(6)	N7g(6)	O7g(6)
8	Tan-3	A8(3)	C8(3)	D8(3)	E8(3)	F8(3)	G8(3)	H8(3)	I8(3)	J8(3)	K8(3)	L8(3)	M8(3)	N8(3)	O8(3)
9		A9(3)	C9(3)	D9(3)	E9(3)	F9(3)	G9(3)	H9(3)	I9(3)	J9(3)	K9(3)	L9(3)	M9(3)	N9(3)	O9(3)
		C9a(1)	D9a(1)	E9a(1)	F9a(1)	G9a(1)	H9a(1)	I9a(1)	J9a(1)	K9a(1)	L9a(1)	M9a(1)	N9a(1)	O9a(1)	P9a(1)
		C9b(1)	D9b(1)	E9b(1)	F9b(1)	G9b(1)	H9b(1)	I9b(1)	J9b(1)	K9b(1)	L9b(1)	M9b(1)	N9b(1)	O9b(1)	P9b(1)
		C9c(1)	D9c(1)	E9c(1)	F9c(1)	G9c(1)	H9c(1)	I9c(1)	J9c(1)	K9c(1)	L9c(1)	M9c(1)	N9c(1)	O9c(1)	P9c(1)
		C9d(1)	D9d(1)	E9d(1)	F9d(1)	G9d(1)	H9d(1)	I9d(1)	J9d(1)	K9d(1)	L9d(1)	M9d(1)	N9d(1)	O9d(1)	P9d(1)
		C9e(1)	D9e(1)	E9e(1)	F9e(1)	G9e(1)	H9e(1)	I9e(1)	J9e(1)	K9e(1)	L9e(1)	M9e(1)	N9e(1)	O9e(1)	P9e(1)
		C9f(1)	D9f(1)	E9f(1)	F9f(1)	G9f(1)	H9f(1)	I9f(1)	J9f(1)	K9f(1)	L9f(1)	M9f(1)	N9f(1)	O9f(1)	P9f(1)
		C9g(1)	D9g(1)	E9g(1)	F9g(1)	G9g(1)	H9g(1)	I9g(1)	J9g(1)	K9g(1)	L9g(1)	M9g(1)	N9g(1)	O9g(1)	P9g(1)
		C9h(1)	D9h(1)	E9h(1)	F9h(1)	G9h(1)	H9h(1)	I9h(1)	J9h(1)	K9h(1)	L9h(1)	M9h(1)	N9h(1)	O9h(1)	P9h(1)
		C9i(1)	D9i(1)	E9i(1)	F9i(1)	G9i(1)	H9i(1)	I9i(1)	J9i(1)	K9i(1)	L9i(1)	M9i(1)	N9i(1)	O9i(1)	P9i(1)
		C9j(1)	D9j(1)	E9j(1)	F9j(1)	G9j(1)	H9j(1)	I9j(1)	J9j(1)	K9j(1)	L9j(1)	M9j(1)	N9j(1)	O9j(1)	P9j(1)
		C9k(1)	D9k(1)	E9k(1)	F9k(1)	G9k(1)	H9k(1)	I9k(1)	J9k(1)	K9k(1)	L9k(1)	M9k(1)	N9k(1)	O9k(1)	P9k(1)
		C9l(1)	D9l(1)	E9l(1)	F9l(1)	G9l(1)	H9l(1)	I9l(1)	J9l(1)	K9l(1)	L9l(1)	M9l(1)	N9l(1)	O9l(1)	P9l(1)
		C9m(1)	D9m(1)	E9m(1)	F9m(1)	G9m(1)	H9m(1)	I9m(1)	J9m(1)	K9m(1)	L9m(1)	M9m(1)	N9m(1)	O9m(1)	P9m(1)
		C9n(1)	D9n(1)	E9n(1)	F9n(1)	G9n(1)	H9n(1)	I9n(1)	J9n(1)	K9n(1)	L9n(1)	M9n(1)	N9n(1)	O9n(1)	P9n(1)
		C9o(1)	D9o(1)	E9o(1)	F9o(1)	G9o(1)	H9o(1)	I9o(1)	J9o(1)	K9o(1)	L9o(1)	M9o(1)	N9o(1)	O9o(1)	P9o(1)
		C9p(1)	D9p(1)	E9p(1)	F9p(1)	G9p(1)	H9p(1)	I9p(1)	J9p(1)	K9p(1)	L9p(1)	M9p(1)	N9p(1)	O9p(1)	P9p(1)
		C9q(1)	D9q(1)	E9q(1)	F9q(1)	G9q(1)	H9q(1)	I9q(1)	J9q(1)	K9q(1)	L9q(1)	M9q(1)	N9q(1)	O9q(1)	P9q(1)
		C9r(1)	D9r(1)	E9r(1)	F9r(1)	G9r(1)	H9r(1)	I9r(1)	J9r(1)	K9r(1)	L9r(1)	M9r(1)	N9r(1)	O9r(1)	P9r(1)
		C9s(1)	D9s(1)	E9s(1)	F9s(1)	G9s(1)	H9s(1)	I9s(1)	J9s(1)	K9s(1)	L9s(1)	M9s(1)	N9s(1)	O9s(1)	P9s(1)
		C9t(1)	D9t(1)	E9t(1)	F9t(1)	G9t(1)	H9t(1)	I9t(1)	J9t(1)	K9t(1)	L9t(1)	M9t(1)	N9t(1)	O9t(1)	P9t(1)
		C9u(1)	D9u(1)	E9u(1)	F9u(1)	G9u(1)	H9u(1)	I9u(1)	J9u(1)	K9u(1)	L9u(1)	M9u(1)	N9u(1)	O9u(1)	P9u(1)
		C9v(1)	D9v(1)	E9v(1)	F9v(1)	G9v(1)	H9v(1)	I9v(1)	J9v(1)	K9v(1)	L9v(1)	M9v(1)	N9v(1)	O9v(1)	P9v(1)
		C9w(1)	D9w(1)	E9w(1)	F9w(1)	G9w(1)	H9w(1)	I9w(1)	J9w(1)	K9w(1)	L9w(1)	M9w(1)	N9w(1)	O9w(1)	P9w(1)
		C9x(1)	D9x(1)	E9x(1)	F9x(1)	G9x(1)	H9x(1)	I9x(1)	J9x(1)	K9x(1)	L9x(1)	M9x(1)	N9x(1)	O9x(1)	P9x(1)
		C9y(1)	D9y(1)	E9y(1)	F9y(1)	G9y(1)	H9y(1)	I9y(1)	J9y(1)	K9y(1)	L9y(1)	M9y(1)	N9y(1)	O9y(1)	P9y(1)
		C9z(1)	D9z(1)	E9z(1)	F9z(1)	G9z(1)	H9z(1)	I9z(1)	J9z(1)	K9z(1)	L9z(1)	M9z(1)	N9z(1)	O9z(1)	P9z(1)
		C9A(1)	D9A(1)	E9A(1)	F9A(1)	G9A(1)	H9A(1)	I9A(1)	J9A(1)	K9A(1)	L9A(1)	M9A(1)	N9A(1)	O9A(1)	P9A(1)
		C9B(1)	D9B(1)	E9B(1)	F9B(1)	G9B(1)	H9B(1)	I9B(1)	J9B(1)	K9B(1)	L9B(1)	M9B(1)	N9B(1)	O9B(1)	P9B(1)
		C9C(1)	D9C(1)	E9C(1)	F9C(1)	G9C(1)	H9C(1)	I9C(1)	J9C(1)	K9C(1)	L9C(1)	M9C(1)	N9C(1)	O9C(1)	P9C(1)
		C9D(1)	D9D(1)	E9D(1)	F9D(1)	G9D(1)	H9D(1)	I9D(1)	J9D(1)	K9D(1)	L9D(1)	M9D(1)	N9D(1)	O9D(1)	P9D(1)
		C9E(1)	D9E(1)	E9E(1)	F9E(1)	G9E(1)	H9E(1)	I9E(1)	J9E(1)	K9E(1)	L9E(1)	M9E(1)	N9E(1)	O9E(1)	P9E(1)
		C9F(1)	D9F(1)	E9F(1)	F9F(1)	G9F(1)	H9F(1)	I9F(1)	J9F(1)	K9F(1)	L9F(1)	M9F(1)	N9F(1)	O9F(1)	P9F(1)
		C9G(1)	D9G(1)	E9G(1)	F9G(1)	G9G(1)	H9G(1)	I9G(1)	J9G(1)	K9G(1)	L9G(1)	M9G(1)	N9G(1)	O9G(1)	P9G(1)
		C9H(1)	D9H(1)	E9H(1)	F9H(1)	G9H(1)	H9H(1)	I9H(1)	J9H(1)	K9H(1)	L9H(1)	M9H(1)	N9H(1)	O9H(1)	P9H(1)
		C9I(1)	D9I(1)	E9I(1)	F9I(1)	G9I(1)	H9I(1)	I9I(1)	J9I(1)	K9I(1)	L9I(1)	M9I(1)	N9I(1)	O9I(1)	P9I(1)
		C9J(1)	D9J(1)	E9J(1)	F9J(1)	G9J(1)	H9J(1)	I9J(1)	J9J(1)	K9J(1)	L9J(1)	M9J(1)	N9J(1)	O9J(1)	P9J(1)
		C9K(1)	D9K(1)	E9K(1)	F9K(1)	G9K(1)	H9K(1)	I9K(1)	J9K(1)	K9K(1)	L9K(1)	M9K(1)	N9K(1)	O9K(1)	P9K(1)
		C9L(1)	D9L(1)	E9L(1)	F9L(1)	G9L(1)	H9L(1)	I9L(1)	J9L(1)	K9L(1)	L9L(1)	M9L(1)	N9L(1)	O9L(1)	P9L(1)
		C9M(1)	D9M(1)	E9M(1)	F9M(1)	G9M(1)	H9M(1)	I9M(1)	J9M(1)	K9M(1)	L9M(1)	M9M(1)	N9M(1)	O9M(1)	P9M(1)
		C9N(1)	D9N(1)	E9N(1)	F9N(1)	G9N(1)	H9N(1)	I9N(1)	J9N(1)	K9N(1)	L9N(1)	M9N(1)	N9N(1)	O9N(1)	P9N(1)
		C9O(1)	D9O(1)	E9O(1)	F9O(1)	G9O(1)	H9O(1)	I9O(1)	J9O(1)	K9O(1)	L9O(1)	M9O(1)	N9O(1)	O9O(1)	P9O(1)
		C9P(1)	D9P(1)	E9P(1)	F9P(1)	G9P(1)	H9P(1)	I9P(1)	J9P(1)	K9P(1)	L9P(1)	M9P(1)	N9P(1)	O9P(1)	P9P(1)
		C9Q(1)	D9Q(1)	E9Q(1)	F9Q(1)	G9Q(1)	H9Q(1)	I9Q(1)	J9Q(1)	K9Q(1)	L9Q(1)	M9Q(1)	N9Q(1)	O9Q(1)	P9Q(1)
		C9R(1)	D9R(1)	E9R(1)	F9R(1)	G9R(1)	H9R(1)	I9R(1)	J9R(1)	K9R(1)	L9R(1)	M9R(1)	N9R(1)	O9R(1)	P9R(1)
		C9S(1)	D9S(1)	E9S(1)	F9S(1)	G9S(1)	H9S(1)	I9S(1)	J9S(1)	K9S(1)	L9S(1)	M9S(1)	N9S(1)	O9S(1)	P9S(1)
		C9T(1)	D9T(1)	E9T(1)	F9T(1)	G9T(1)	H9T(1)	I9T(1)	J9T(1)	K9T(1)	L9T(1)	M9T(1)	N9T(1)	O9T(1)	P9T(1)
		C9U(1)	D9U(1)	E9U(1)	F9U(1)	G9U(1)	H9U(1)	I9U(1)	J9U(1)	K9U(1)	L9U(1)	M9U(1)	N9U(1)	O9U(1)	P9U(1)
		C9V(1)	D9V(1)	E9V(1)	F9V(1)	G9V(1)	H9V(1)	I9V(1)	J9V(1)	K9V(1)	L9V(1)	M9V(1)	N9V(1)	O9V(1)	P9V(1)
		C9W(1)	D9W(1)	E9W(1)	F9W(1)	G9W(1)	H9W(1)	I9W(1)	J9W(1)	K9W(1)	L9W(1)	M9W(1)	N9W(1)	O9W(1)	P9W(1)
		C9X(1)	D9X(1)	E9X(1)	F9X(1)	G9X(1)	H9X(1)	I9X(1)	J9X(1)	K9X(1)	L9X(1)	M9X(1)	N9X(1)	O9X(1)	P9X(1)
		C9Y(1)	D9Y(1)	E9Y(1)	F9Y(1)	G9Y(1)	H9Y(1)	I9Y(1)	J9Y(1)	K9Y(1)	L9Y(1)	M9Y(1)	N9Y(1)	O9Y(1)	P9Y(1)
		C9Z(1)	D9Z(1)	E9Z(1)	F9Z(1)	G9Z(1)	H9Z(1)	I9Z(1)	J9Z(1)	K9Z(1)	L9Z(1)	M9Z(1)	N9Z(1)	O9Z(1)	P9Z(1)
		C9A(1)	D9A(1)	E9A(1)	F9A(1)	G9A(1)	H9A(1)	I9A(1)	J9A(1)	K9A(1)	L9A(1)	M9A(1)	N9A(1)	O9A(1)	P9A(1)
		C9B(1)	D9B(1)	E9B(1)	F9B(1)	G9B(1)	H9B(1)	I9B(1)	J9B(1)	K9B(1)	L9B(1)	M9B(1)	N9B(1)	O9B(1)	P9B(1)
		C9C(1)	D9C(1)	E9C(1)	F9C(1)	G9C(1)	H9C(1)	I9C(1)	J9C(1)	K9C(1)	L9C(1)	M9C(1)	N9C(1)	O9C(1)	P9C(1)
		C9D(1)	D9D(1)	E9D(1)	F9D(1)	G9D(1)	H9D(1)	I9D(1)	J9D(1)	K9D(1)	L9D(1)	M9D(1)	N9D(1)	O9D(1)	P9D(1)
		C9E(1)	D9E(1)	E9E(1)	F9E(1)	G9E(1)	H9E(1)	I9E(1)	J9E(1)	K9E					



第24図 旧河道全体図

- 4層—近世の陶磁器等含む層。
- 5層—整地層の直上に形成された12世紀の遺物包含層で、大量の遺物を含む。層厚は30~70cmを測る。これを掘りきったところで、12世紀後半の溝跡（19S D12）が確認された。
- 6層—12世紀後半頃の整地層である。厚さは10~40cmで、黄褐色土のブロックと黒色土の混土からなる。遺物も含まれる層であるが、かわらけ・土師器の細片である。都市平泉の東端を区切る道路状の遺構の可能性を考えている。
- 7層—概ね10世紀前半から12世紀の間に堆積した層で、土師器・須恵器を含む。有機質の多い土壤である。
- 8層—十和田a（To-a）降下火山灰層である。片栗粉が固まったような状態で、掘削にはとても人力では倒立たず、重機によって除去した。
- 9層—9~10世紀の土師器・須恵器・木製品（鉢・曲げ物など）・土製品（土器ほか）を含む層で、有機質の土壤で水の流れがあまり認められない。この段階では、湿地あるいは沼地となっていたものと思われる。
- 10層—黒い帯状の土で、河道の中心部側に厚くなる。绳文時代の比較的新しい時期かと思われる。
- 11層—10層と基盤層の間にある層で、この層には深い沢となっていたものと思われる。
- 12層—基盤層（礫層）である。河道の中心部であとの程度掘削すればこの基盤層が出るか、ボーリング調査を行ったが、1、2m確認したところであらわれる気配は全くなかった。
- 【出土遺物】既述した多種多様な遺物が出土している。特にかわらけは、夥しい量の出土をみたが、手づくねかわらけとロクロかわらけの出土割合は、8:2ぐらいである。出土遺物については、ここでは記述しきれないので、詳細はそれぞれの遺物観察表を参照していただきたい。
- 【検出遺構】検出した遺構も既述のとおりである。
- 【その他】筆者はこの河道について、現太田川の旧河道であると思い込んでいたが、様々な資料から、かつての太田川の流路はさらに東側の調査区外にあることが判明した。厳密に言えば、今回調査した旧河道がある程度の流量を有する川であったのは、绳文時代以前から古代以前にかけてのわずかな期間であり、これを「旧河道」としたのは適切でなかったような気がしている。

## （2）本柱列

旧河道内、12世紀代に普請された整地層（大別層第6層）面に木柱列が二箇所確認された。一つは、総数50本余りの木柱2列からなり、岸から向こう岸への橋状施設を構成していたと考えられるものである。もう一つは、1列に3本の木柱が並ぶだけのもので性格は不明である。前者を木柱列1、後者を木柱列2として記述する。

### 木柱列1（第29・30図）

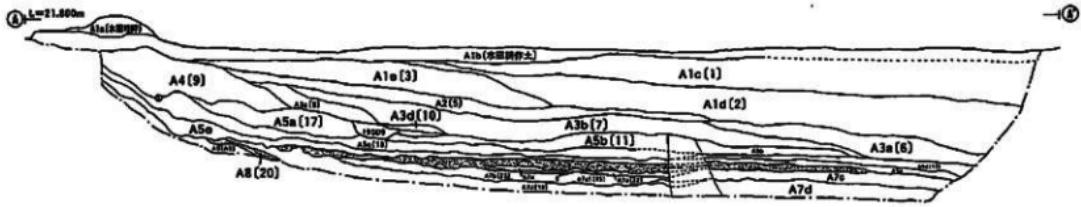
【位置】旧河道中央からわずかに南側のIII 8 j・9 j、III 8 a~8 bに位置する。

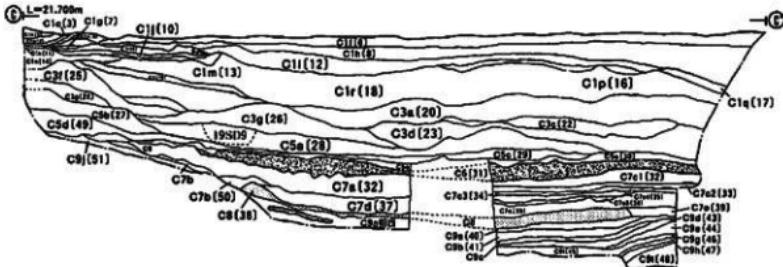
【重複】重複は認められない。

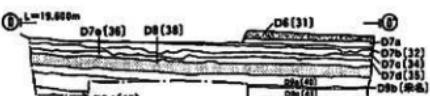
【規模など】木柱2~37までの全長は11.8m、幅（南北方向）は1.5~1.8mを測る。橋状の施設であるとして、進行方向（東西方向）の木柱の間隔は概ね50cm、最大で70cmである。橋を構成する杭はすべて打ち込み杭であるが、ほとんどが十和田a降下火山灰層途中で止まっており、それを打ち抜くものは火山灰の堆積が深い地点のものの数個だけである。

第25回 ① 日河道断面

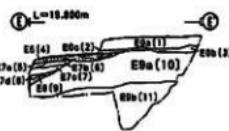
- 151 -





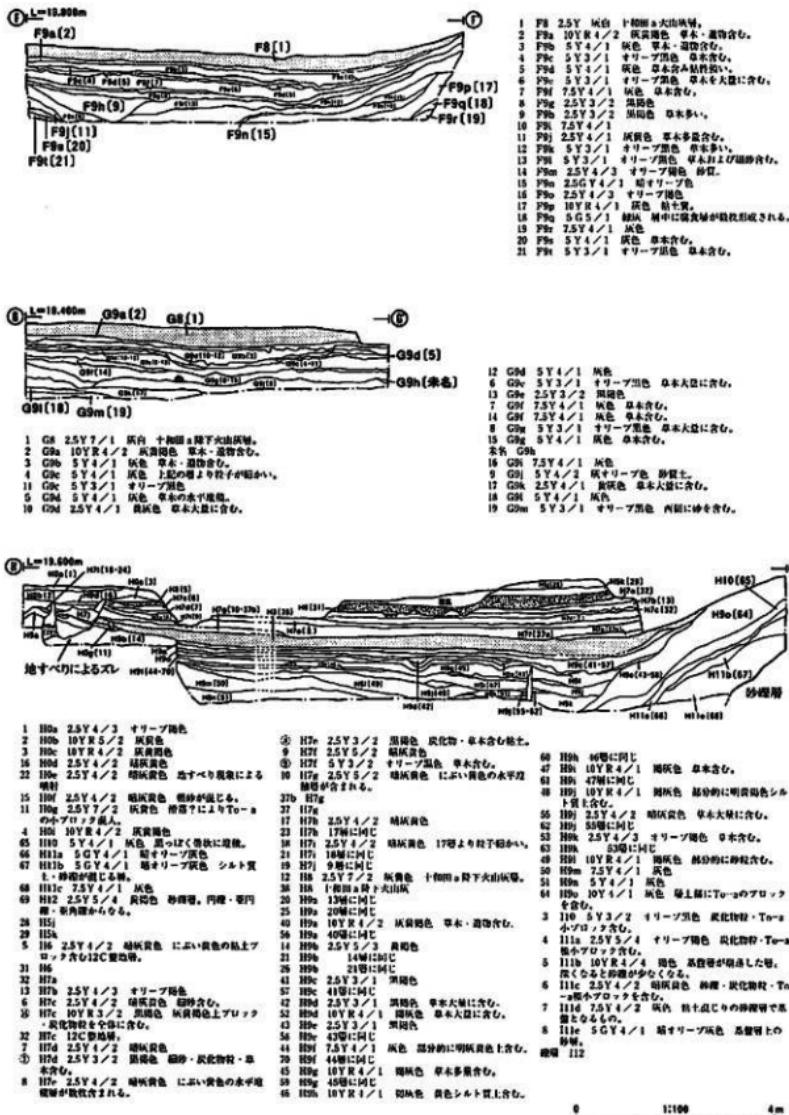



- |    |     |                                   |
|----|-----|-----------------------------------|
| 31 | D7c | 12°C地被。                           |
| 32 | D7e | 10YR 4 / 2 黄褐色 地被均匀地形成斑块。         |
| 33 | D7f | 5°C地被。                            |
| 34 | D7c | 10YR 4 / 1 浅褐色 在不自然色调的混土上自然地形成斑块。 |
| 35 | D7d | 10YR 4 / 2 黄褐色 地被均匀地形成斑块。         |
| 36 | D7e | 5°C地被。                            |
| 38 | D8  | 十化度土是丘陵山地。                        |
| 39 | D9a | 内层的土壤带环状。                         |
| 40 | D9b | 10YR 4 / 2 带黄褐色。带1-5带。            |
| 41 | D9c | 5°C地被。                            |
| 42 | D9d | 5°C地被。                            |

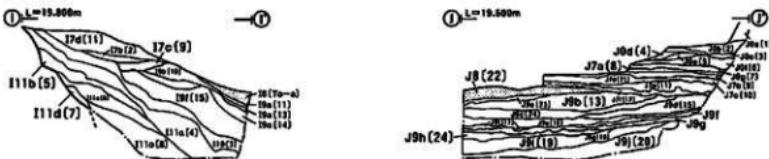


- 1 E09 10YR 5/2 [に] 赤褐色。 色調なし。  
 2 E09 10YR 5/6 [青] 赤褐色。 シルト土で堅くしまる。  
 3 E09 10YR 5/1 [に] 赤褐色。 色調があり。  
 4 E09 10YR 4/1 [黄] 明黄色。 黄色の土の上にブロカ含む。 12C 発見か?  
 5 E09 10YR 4/2 [黄] 明黄色。 黄色の土の上にブロカ含む。  
 6 E70 10YR 5/1 [に] 赤褐色。 パウダーベースに赤褐色土を含む。  
 7 E70 10YR 4/3 [黄] 明黄色。 パウダーベースに赤褐色土を含む。  
 8 E70 10YR 5/2 [黄] 明黄色。 布ヨコ模様。  
 9 E70 10YR 5/2 [黄] 明黄色。 「土壁」下部は灰白色とに赤褐色土の底層で構成。  
 10 E09 10YR 4/4 [に] 赤褐色。 硬さ・粘性とともにあり。  
 11 E09 2.5YR 5/2 [黄] 赤褐色。 硬さ・粘性とともにあり。

第26圖 旧河道断面②



第27図 旧河道断面③



- 17a 2SY 5/1 ナリワヨ色 混色比アロマ・酸化鉄分含む。  
 17b 2SY 5/4 ナリワヨ色 混色比含む。  
 9c 2SY 4/2 塩化鉄色 酸化鉄分、Te-aをいかに含む。

Te-a 13

11a 2SY 3/2 黒色系、基本色に含む。Te-aアロマ含む。  
 10a 10YR 5/2 黒風景色 混色比、Te-aを40~50%含む。  
 13b 5Y 2/2 ナリワヨ色 混色比とその派生。  
 12d 2SY 4/2 黒アリヤー 酸化鉄分、Te-aを3~5%含む。  
 11b 7.5Y 3/2 ナリワヨ色、基本色とリード鉛色の上塗。  
 15b 7.5Y 1/4 黒 Te-aアロマ 1%、酸化鉄分含む。

3. Jyo 10Y 5' 2 / 黄褐色 鳞片なし。  
3. Jyo 2.5Y 5' 4 / 黄褐色 鳞化を含む。  
4. Jyo 2.5Y 3' 2 / 黄オリーブ色 鳞片・黒化粧との混在。  
5. Jyo 2.5Y 3' 3 / 黄オリーブ色 鳞片 4等と同じだが、それよりも石岩少ない。  
6. Jyo 2.5Y 3' 4 / 黄オリーブ色 鳞片 黑化粧との混在。  
7. Jyo 2.5Y 3' 5 / 黄褐色 水平斑模様が特徴的。  
8. Jyo 2.5Y 3' 6 / 黄褐色 黑化粧と並んで移行せず。  
9. Jyo 2.5Y 3' 7 / 黄褐色 黑化粧と並んで移行せず。  
10. Jyo 1H 1 / 黄褐色。  
21. Jyo 10Y R 2 / 黄色  
11. Jyo 10Y 4 / 黄褐色斑 玄木多く含む。  
12. Jyo 10Y 4 / 黄褐色斑 玄木含む。  
13. Jyo 2.5Y 4 / 黄褐色斑 下穴山脈。

23. Jyo 2.5Y 4 / 黄褐色 玄木含む。

13. Jyo 7.5GY 4 / 黄褐色斑

14. Jyo 5.5GY 4 / 黄オリーブ色 玄木含む。

15. Jyo 7.5GY 4 / 黄褐色斑

16. Jyo 2.5GY 4 / 黄オリーブ色 玄木含む。

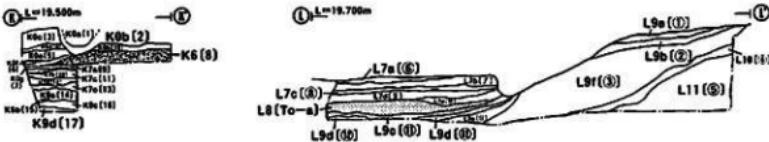
17. Jyo 2.5GY 4 / 黄褐色斑

18. Jyo 7.5Y 4 / 黄色

21. Jyo 5.5Y 4 / 黄オリーブ色 玄木含む。

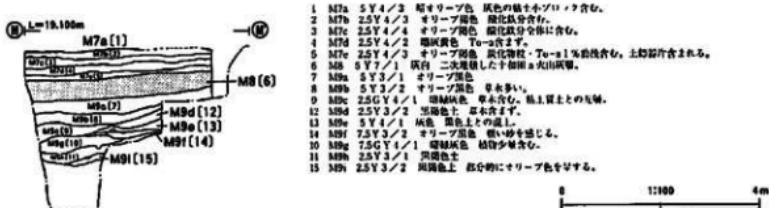
19. Jyo 7.5Y 4 / 黄色 玄木含む。

20. Jyo 10Y 4 / 黄色 玄木含む。



- 1 K0a 2.5Y3/3 柄毛一組 色合:時代の新しい道徳性。  
 2 K0b 10Y3/3 柄毛一組  
 3 K0c  
 4 K0d  
 5 K0e  
 6 K0f 2.5Y4/4 オリーブ褐色  
 7 K0g E11の別同上  
 8 K0h  
 9 K0i 2.5Y2/2 黒褐色  
 10 K0j 黏土プロテク・糊上、成化物含む12Cを歴史。  
 11 K0k  
 12 K0l  
 13 K0m  
 14 K0n  
 15 K0o  
 16 K0p  
 17 K0q

- |      |         |                                 |
|------|---------|---------------------------------|
| L7a  | 2.5Y3/1 | 栗褐色<br>細胞と葉上の互生。                |
| L7b  | 2.5Y3/1 | 褐色<br>細胞と葉上の互生。含む。              |
| L7c  | 2.5Y5/2 | 栗褐色<br>7枚より異葉あり。                |
| L7d  | 5 Y3/2  | 栗褐色<br>細胞と葉上の互生。                |
| L7e  | 5 Y3/2  | 栗褐色<br>細胞と葉上の互生。                |
| T-9a | 1.5Y3/2 | オリーブ緑色<br>細胞と葉上の互生。             |
| T-9b | 1.5Y3/2 | 栗褐色<br>細胞と葉上の互生。                |
| T-9c | 1.5Y3/2 | 栗褐色<br>細胞と葉上の互生。                |
| L8   | N7R6/4  | に高い黒褐色<br>葉上色斑・葉脈色合む。           |
| L9   | 2.5Y5/4 | 栗褐色<br>葉縁銀白色ブッキ化。               |
| L10  | 5 Y3/2  | 栗褐色<br>葉縁銀白色ブッキ化。<br>葉上色斑・葉脉合む。 |
| L11  | 5 Y4/2  | 栗褐色<br>葉縁銀白色・葉脉合む。              |
| L12  | 2.5Y5/4 | 栗褐色<br>葉縫白化。                    |
| L13  | 2.5Y3/2 | 栗褐色<br>葉縫白化・葉脉合む。               |



第28図 旧河道断面④

【検出】旧河道大別層第6層において、腐って黒く変色した木柱の先端が数cm、それぞれ確認された。杭の地表面に近い部分は、それ自体が腐って短くなっているものと思われる。本来どの深さにおいて打ち込まれたものか、使用時の杭の長さはどれほどか、といった問題は不明である。

【材の状態】打ち込まれた杭の先端は、いずれもナタ状の工具で鋸く加工されているが、先端部以外には加工痕は認められない。これらの材はいずれも丸材が用いられている。材の直径は10cm前後で、残存する長さは30~50cmくらいのものが多く、最大で75cmである。また木柱16・21・22のように、木柱間に横たわるよう検出されたものがあるが、これらには明瞭な加工痕が見当たらない。この中には板状の材も見られる。

【その他】周辺に數本横たわる木材との関係は不明であるが、それに加工された痕跡が認められないことから、ともに使われた部材である可能性は低い。

【性格】2列1組で橋状施設を構成する木柱列と思われる。材の大きさなどからは木橋の橋脚とまで言つていいものか、判断に迷う。これまで棧橋状と述べてきたことでもあったが、「向う岸」を意識して作られたものと考えたい。水を塞き止めるような施設の杭列との見方もあるが、何らかの上部構造があった橋状の遺構と考えたい。

【年代】検出された層位等を検討した結果、12世紀後半を含むそれ以降に属するもの、としか言えないとの結論に至った。地元野外作業員の一人に「子供の時にこの辺に橋が架かっていた」という話をすると人がいたが、眞偽のほどは定かでない。

#### 木柱列2（第29・30図）

【位置】旧河道中央北側のIV I 1 a・1 bに位置する。

【重複】重複する遺構はない。

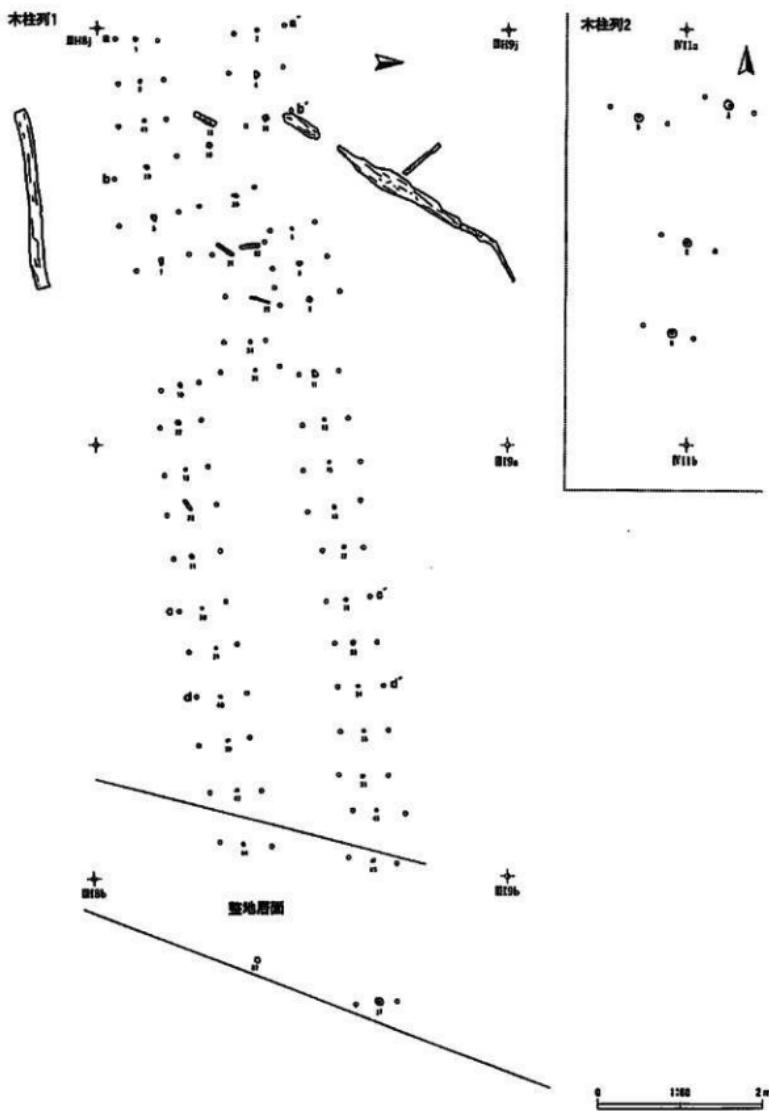
【規模など】全長2.8m、幅1m前後で木柱の間隔は区々である。

【検出】旧河跡内に堆積した十和田a降下火山灰層上面において、木柱の先端が確認された。

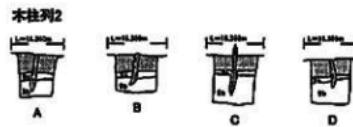
【材の状態】いずれも丸材で、先端に加工跡を有する。直径は10cm前後、長さは30~60cmである。杭はすべて打ち込まれたものであるが、打ち込まれた面は不明である。

【性格】不明である。

【年代】火山灰降下後の10世紀前半を含む、それ以降に属するものとしておく。



第29図 木柱列（平面）



6 1:00 2m

第30図 木柱（断面）

表1 柱穴計測一覧表

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号	柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号	柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P 1	29.6	21.93	21S B10	P 57	13.2	21.92	21S B12	P 113	14.0	21.61	
P 2	25.9	21.91	21S B10	P 58	10.6	21.90	21S B12	P 114	9.3	21.93	
P 3	24.1	21.86	21S B10	P 59	22.0	21.75	21S B12	P 115	14.4	21.59	
P 4	22.5	21.88	21S B10	P 60	11.0	21.84		P 116	4.8	19.75	
P 5	16.5	21.96	21S B10	P 61	41.3	21.53	21S B13	P 117	3.1	19.72	
P 6	20.3	21.85	21S B10	P 62	29.6	21.63	21S B13	P 118	41.0	21.28	21S B14
P 7	8.2	21.99	21S B10	P 63	39.2	21.37		P 119	48.4	21.08	21S B13
P 8	11.0	21.96	21S B10	P 64	15.0	21.57	柱列 3	P 120	11.6	21.81	
P 9	33.8	21.58	21S B11	P 65	14.8	21.76		P 121	16.6	21.79	
P 10	15.9	21.83	21S B11	P 66	22.4	21.53	21S B15	P 122	20.3	21.95	
P 11	33.2	21.65	21S B11	P 67	13.6	21.79	21S B15	P 123	15.1	22.00	
P 12	23.2	21.74	21S B11	P 68	11.2	21.54		P 124	46.4	21.82	
P 13	36.3	21.91	21S B11	P 69	37.0	21.28		P 125	45.5	21.69	
P 14	29.0	21.61	21S B11	P 70	10.4	21.56		P 126	27.1	21.85	
P 15	35.1	21.55	21S B11	P 71	10.0	21.49		P 127	33.3	21.88	
P 16	29.5	21.60	21S B11	P 72	14.0	21.49		P 128			
P 17	16.2	21.81	21S B17	P 73	20.0	21.32		P 129	14.9	21.96	
P 18	15.1	21.83	21S B17	P 74	15.4	21.67	21S B15	P 130			
P 19	12.0	21.88	21S B17	P 75	13.0	21.50		P 131	31.0	21.94	
P 20	11.8	21.87	21S B17	P 76	20.0	21.75		P 132	11.4	22.15	
P 21	22.2	21.68	21S B17	P 77	67.8	21.31	21S B13	P 133	14.4	22.13	21S B12
P 22	14.5	23.03	21S B17	P 78	18.8	21.58		P 134	19.1	22.04	
P 23	36.8	21.56	21S B17	P 79	23.8	21.63	21S B16	P 135	22.4	22.29	
P 24	13.4	21.76	21S B17	P 80	11.2	21.77		P 136	49.5	21.80	
P 25				P 81	25.8	21.61	21S B16	P 137	23.0	22.03	21S B12
P 26	24.8	21.88		P 82	13.2	21.75		P 138	9.0	22.11	
P 27	19.4	21.96		P 83	14.4	21.66		P 139	19.0	22.04	
P 28	6.7	22.09		P 84	19.0	21.62		P 140	33.9	21.92	
P 29	30.3	21.84		P 85	23.8	21.60	21S B15	P 141	23.3	22.06	
P 30	39.5	21.76		P 86	9.6	21.72		P 142	14.0	22.16	
P 31	31.9	21.79		P 87	20.2	21.63		P 143	15.2	21.64	
P 32	17.6	21.76		P 88	12.6	21.71		P 144	12.7	21.74	
P 33	11.7	21.88		P 89	15.6	21.69		P 145	19.2	21.62	
P 34	14.3	21.82		P 90	16.2	21.86	21S B16	P 146	22.5	21.71	
P 35	10.3	21.90		P 91	15.6	21.88		P 147	26.8	21.59	
P 36	41.4	21.41	柱列 2	P 92	30.2	21.51	21S B15	P 148	47.9	21.65	
P 37	33.3	21.55	柱列 3	P 93	30.8	21.53	21S B16	P 149	30.8	21.94	
P 38	36.9	21.46	柱列 2	P 94	12.0	21.72		P 150	37.3	22.30	
P 39	16.9	21.65	柱列 3	P 95	39.2	21.88	21S B16	P 151	19.0	22.05	
P 40	28.3	21.50	柱列 2	P 96	10.8	21.91	21S B16	P 152	41.5	21.83	
P 41	11.5	21.61	柱列 3	P 97	21.6	21.85	21S B16	P 153	15.5	22.12	
P 42	49.8	21.36		P 98	12.8	21.95	21S B14	P 154	13.4	22.11	
P 43	19.3	21.65		P 99	27.6	21.86	21S B16	P 155		21.85	
P 44	9.9	21.77		P 100	16.7	22.16		P 156	28.5	21.88	
P 45	10.1	21.80		P 101	20.2	21.95	21S B14	P 157	13.0	22.09	
P 46	7.7	21.72		P 102	19.0	22.01		P 158	24.6	22.25	
P 47	27.9	21.60		P 103	欠番			P 159	5.0	21.99	
P 48	21.5	21.66		P 104	26.6	21.92		P 160	22.6	21.99	
P 49	19.4	21.95		P 105	43.8	21.75		P 161	29.6	21.91	
P 50	16.2	21.79		P 106	43.6	21.70	21S B16	P 162	35.4	21.75	
P 51	23.9	21.74		P 107	15.2	21.96		P 163	39.9	21.85	
P 52	12.5	21.82		P 108	15.0	21.92		P 164			
P 53	6.8	21.94		P 109	41.0	21.66	21S B15	P 165	15.4	22.19	
P 54	43.8	21.50		P 110	19.0	21.83		P 166	14.6	22.18	
P 55	18.4	22.00	21S B12	P 111	17.6	21.71		P 167	27.1	22.02	
P 56	22.1	21.70		P 112	24.4	21.47	柱列 2	P 168	24.6	22.05	

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号	柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号	柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P169	28.0	22.09		P225	22.6	22.23		P281	12.7	22.10	21S B 3
P170	37.9	22.00		P226	18.9	22.06		P282	20.2	22.00	21S B 5
P171	15.1	22.16		P227	24.0	22.03	21S B 7-1	P283	18.5	22.01	
P172	4.0	22.33		P228	11.7	22.09		P284	44.6	21.76	
P173	4.1	22.40		P229	25.9	22.01	21S B 7-1	P285	32.3	21.91	
P174	5.1	22.32		P230	13.9	22.12		P286	14.3	22.09	
P175	24.7	22.13		P231	18.7	22.10	21S B 7-1	P287	21.9	22.00	
P176	20.9	22.17		P232	25.6	22.29	21S B 2	P288	11.6	22.10	
P177	37.9	22.00		P233	26.2	22.02	21S B 7-1	P289	22.0	22.00	
P178	52.0	21.87		P234	22.5	22.03	21S B 4	P290	9.7	22.15	
P179	36.7	22.03		P235	44.6	21.47		P291	10.4	22.11	
P180	40.0	21.95		P236	15.2	22.20	21S B 7-1	P292			
P181	33.1	21.93		P237	16.6	22.16	21S B 2	P293	4.8	22.22	21S B 4
P182	27.3	22.13		P238	24.2	22.17	21S B 7-1	P294	22.6	22.06	
P183	12.4	22.25		P239	19.2	22.25	21S B 7-1	P295	40.2	22.26	21S B 1
P184	15.5	22.23		P240	9.6	22.31		P296	15.0	22.11	
P185	14.6	22.22		P241	4.1	22.32	21S B 7-1	P297	17.4	21.11	21S B 6-1
P186	39.3	22.02		P242	33.8	22.10	21S B 7-1	P298	14.0	22.08	21S B 4
P187				P243	15.4	22.26	21S B 1	P299	11.3	22.13	21S B 1
P188				P244	22.4	22.21	21S B 7-1	P300	10.4	22.13	21S B 6-1
P189	6.9	22.30		P245	14.3	22.18	21S B 7-1	P301	42.6	21.80	21S B 1
P190	53.8	21.91		P246	29.7	22.02	21S B 7-1	P302	13.2	22.12	
P191	18.4	22.18		P247	13.2	22.27		P303	14.4	22.10	
P192	20.6	22.18		P248	19.8	22.36		P304	22.8	22.26	
P193	18.9	22.21		P249	14.4	22.16		P305	15.7	22.07	
P194	23.0	22.07		P250	19.6	22.11	21S B 1	P306	34.8	21.91	21S B 6-1
P195	11.5	22.18	21S B 2	P251	31.2	22.27	21S B 7-1	P307	38.7	22.27	21S B 6-1
P196	13.3	22.17		P252	10.6	22.28		P308	23.2	22.05	21S B 1
P197	14.9	22.17		P253	12.0	22.24		P309	24.7	22.03	21S B 6-1
P198	12.4	22.28		P254	11.4	22.23		P310	39.3	21.84	
P199				P255	9.8	22.23	21S B 7-1	P311	13.6	22.11	
P200				P256	21.8	22.34	21S B 2	P312	14.8	22.10	21S B 1
P201				P257	17.4	22.14	21S B 1	P313	45.8	21.82	21S B 7-1
P202	5.6	21.96		P258	16.8	22.35	21S B 4	P314	17.7	22.28	
P203	16.3	21.96		P259	11.2	22.21		P315	17.1	22.11	21S B 6-1
P204	10.5	22.11		P260	16.0	22.15	21S B 2	P316	22.1	22.04	
P205				P261	15.6	22.33	21S B 4	P317	44.3	21.82	21S B 7-1
P206	18.4	22.26		P262	12.0	22.18	21S B 4	P318	15.9	22.13	
P207	24.6	22.00		P263	15.1	22.20	21S B 7-1	P319	38.2	22.00	
P208	20.9	22.04	21S B 4	P264	11.4	22.15	21S B 1	P320	40.7	21.90	21S B 1
P209	28.1	22.24		P265	34.0	22.32	21S B 4	P321	18.1	22.10	
P210	26.3	21.95		P266	9.4	22.21		P322	14.5	22.27	21S B 7-1
P211	14.4	22.11	21S B 4	P267	12.4	22.10		P323	24.8	22.04	21S B 7-1
P212	13.5	22.25		P268	12.6	22.08		P324	15.2	22.17	
P213	16.8	22.25		P269	13.5	22.24		P325	9.3	22.22	
P214	15.6	22.10	21S B 2	P270	12.0	22.10		P326	11.2	22.33	21S B 1
P215	15.2	22.14	21S B 2	P271	12.5	22.25		P327	8.6	22.27	
P216	12.2	22.16	21S B 1	P272	24.1	21.96		P328	33.3	21.94	21S B 4
P217	11.5	22.16	21S B 4	P273	13.4	22.08		P329	11.7	22.14	
P218	15.6	22.10	21S B 4	P274	22.5	21.98		P330	37.6	22.26	21S B 4
P219	17.0	22.00	21S B 2	P275	17.1	22.02		P331	26.3	22.27	21S B 4
P220	20.6	22.00	21S B 4	P276	12.3	22.01		P332	42.5	21.83	21S B 8
P221				P277	12.8	22.07		P333	17.8	22.13	
P222	16.2	22.12		P278	12.2	22.16		P334	35.7	21.93	21S B 8
P223	5.5	22.17		P279	11.5	22.16		P335	27.6	21.99	21S B 4
P224	26.9	21.95	21S B 4	P280	10.6	22.18		P336	13.6	22.16	21S B 4

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号	柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号	柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P337	41.1	21.88		P393	24.1	21.76		P449	6.5	22.25	
P338	24.2	22.09		P394	22.6	21.85	21S B 6-1	P450			
P339	14.2	22.18		P395	18.8	21.91	21S B 3	P451	22.3	21.76	
P340	28.5	22.00	21S B 7-1	P396	22.8	21.72		P452	24.0	21.38	21S B 14
P341	14.1	22.25		P397	33.0	21.66	柱列1	P453	13.0	21.99	
P342	22.9	22.04		P398	29.3	21.75	21S B 6-2	P454	28.2	22.91	
P343	13.7	22.30		P399	31.0	21.83	21S B 5	P455	15.4	22.03	
P344	16.0	22.16		P400	33.1	21.81	21S B 3	P456	22.0	21.99	
P345	21.1	22.10	21S B 1	P401	35.5	21.82		P457	16.3	21.06	
P346	36.5	21.97	21S B 6-1	P402	29.2	21.92	21S B 5	P458	16.3	21.10	
P347	12.5	22.13		P403	22.4	21.95	21S B 3	P459	16.1	21.10	
P348	9.3	22.21		P404	20.2	22.00		P460	9.8	21.17	
P349	14.6	22.00		P405	23.5	21.95		P461	37.4	20.86	
P350	17.5	22.18		P406	44.3	21.76		P462	14.9	21.08	
P351	14.5	22.00		P407	26.9	21.91		P463	15.0	21.04	
P352	20.0	22.13	21S B 8	P408	39.1	21.78		P464	22.2	21.00	
P353	33.6	22.01	21S B 1	P409	37.9	21.78		P465	25.7	21.01	
P354	33.6	22.01		P410	41.9	21.80		P466	13.4	21.05	
P355	35.5	22.00		P411	16.1	22.01	21S B 3	P467	9.8	21.11	
P356	17.1	22.19		P412	30.6	21.89		P468	20.0	21.02	
P357	9.2	22.27		P413	55.6	21.67		P469	9.7	20.95	
P358	19.7	22.15	21S B 1	P414	21.1	22.00		P470	10.7	20.88	
P359	20.9	22.15		P415	46.9	22.14		P471	37.4	20.84	
P360	26.0	22.08	21S B 6-1	P416	29.3	21.87		P472	61.4	20.21	
P361	32.8	22.00		P417	40.9	22.18		P473	46.9	20.89	
P362	23.6	22.13	21S B 8	P418	33.6	21.75		P474	16.3	21.70	
P363	46.1	21.88	21S B 7-1	P419	7.5	21.89	柱列1	P475	17.0	21.70	
P364	31.3	22.04	21S B 1	P420	7.5	21.88		P476			
P365	31.3	22.05		P421	13.5	21.84	柱列1	P477	34.7	21.82	
P366	30.8	22.06		P422	29.7	21.75		P478	23.5	21.94	
P367	18.0	22.18		P423	40.6	21.70	21S B 3	P479	35.0	21.80	
P368	22.0	22.14		P424	22.2	21.88		P480	34.6	21.81	
P369	24.4	22.06	21S B 8	P425	22.1	21.91		P481	15.0	22.52	
P370	49.0	21.83	21S B 6-1	P426	20.5	21.88		P482			
P371	16.0	22.15	21S B 1	P427	21.4	21.81		P483	20.9	22.17	
P372	30.9	21.98		P428	8.0	22.00		P484	13.1	22.26	21S B 7-1
P373	33.5	21.81	21S B 6-1	P429	16.5	21.98		P485	21.0	22.07	
P374	35.4	21.82		P430	16.9	21.87	柱列1	P486	6.5	22.30	
P375	30.1	21.91	21S B 7-2	P431	25.3	21.77		P487	23.4	21.96	21S B 4
P376	40.4	22.28		P432	27.3	21.75		P488	39.0	21.81	
P377	18.0	22.10	21S B 1	P433	27.0	21.75		P489	16.6	22.05	
P378	13.9	22.05		P434	18.5	21.91		P490	19.8	22.02	
P379	21.1	21.99		P435	2.5	22.19		P491	22.0	21.98	
P380	35.7	21.80	21S B 7-2	P436	2.9	22.31		P492	10.8	21.94	
P381	29.1	21.88		P437	10.0	22.23		P493	29.4	21.85	
P382	17.7	22.00	21S B 7-1	P438	7.5	22.26		P494	4.5	22.09	
P383	27.3	21.92		P439	19.0	22.14		P495	6.2	22.08	
P384	23.5	21.98	21S B 5	P440	23.1	21.93		P496	10.4	22.05	
P385	15.7	22.01	21S B 1	P441	5.2	22.22		P497	19.2	21.91	
P386	16.7	22.02	21S B 6-1	P442	8.7	22.21		P498	28.5	21.91	21S B 9
P387	28.1	22.23	21S B 3	P443	5.4	22.26	21S B 7-2	P499	24.7	22.15	
P388	28.9	21.82	21S B 7-2	P444	11.7	22.23		P500			
P389	31.5	21.82	21S B 6-1	P445	4.8	22.24		P501			
P390	32.7	21.80		P446	5.5	22.27		P502	欠番		
P391	18.9	21.93	21S B 1	P447	8.6	22.22		P503	欠番		
P392	25.2	21.84	21S B 6-2	P448	4.4	22.27		P504	欠番		

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号	柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号	柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P505	22.4	21.97	21S B 9	P561	28.8	21.47		P617	10.2	21.38	
P506	18.7	21.93		P562	10.9	21.66		P618	26.3	21.34	
P507				P563	22.4	21.56		21P 1	17.2	22.00	
P508				P564	33.0	21.49		21P 2	10.2	22.09	
P509				P565	9.1	21.67		21P 3			
P510				P566	7.0	21.62		21P 4	8.8	21.93	
P511				P567	47.6	21.27		21P 5	欠番		
P512				P568	21.7	21.49		21P 6	15.8	21.65	
P513	17.1	21.96		P569	27.1	21.40		21P 7	9.0	21.80	
P514	欠番			P570	25.5	21.38		21P 8	16.2	21.61	21S B 9
P515	欠番			P571	10.8	21.88		21P 9	23.8	21.73	21S B 9
P516	欠番			P572	31.0	21.33		21P 10	18.8	21.78	21S B 6-1
P517	69.8	21.20		P573	14.3	21.69		21P 11	欠番		
P518	20.1	21.69		P574				21P 12	39.3	21.89	
P519	欠番			P575				21P 13	7.8	21.86	
P520	66.2	21.37		P576	11.4	21.64		21P 14	欠番		
P521	60.0	21.42		P577	7.2	21.63		21P 15	欠番		
P522	27.2	21.81		P578	18.0	21.42		21P 16	19.6	21.98	
P523	45.2	21.54		P579	16.6	21.38		21P 17	34.5	21.82	21S B 2
P524	46.4	21.55		P580	37.5	21.25		21P 18	20.2	21.96	21S B 2
P525	62.0	21.37		P581	5.4	21.48		21P 19	16.5	22.01	
P526	24.0	21.72		P582	12.1	21.54		21P 20	9.5	22.06	
P527	34.8	21.57		P583	9.0	21.58		21P 21	18.3	21.87	
P528	15.5	22.02		P584	3.8	21.59		21P 22	20.5	22.13	
P529	10.0	21.86		P585	34.5	21.26		21P 23	21.2	22.15	
P530	2.4	21.94		P586	25.8	21.34		21P 24	8.3	22.44	
P531	1.3	22.00		P587	11.5	21.46		21P 25	6.5	22.44	
P532	6.1	22.06		P588	17.0	21.42		21P 26	11.5	22.37	
P533	5.9	22.06		P589	18.5	21.38		21P 27	6.8	22.32	
P534	1.6	21.92		P590	28.8	21.25		21P 28	15.5	22.26	
P535	23.0	21.69		P591	29.2	21.29		21P 29	8.6	22.26	
P536	21.3	21.70		P592	7.0	21.54		21P 30	9.7	22.23	
P537	7.4	21.80		P593	6.1	21.44		21P 31	17.5	22.20	
P538	16.5	21.86		P594	14.6	21.36		21P 32	9.9	22.29	
P539	7.5	21.79	21S B 9	P595	15.1	21.36		21P 33	9.4	22.08	
P540	10.7	21.77		P596	4.7	21.44		21P 34	13.0	22.05	
P541	20.7	21.90	21S B 5	P597	24.2	21.58		21P 35	欠番		
P542	35.0	21.42		P598	36.0	21.44		21P 36	5.8	21.82	
P543	13.3	21.58		P599	59.7	21.23		21P 37	9.5	21.99	
P544	9.0	21.57		P600	35.9	21.66		21P 38	7.5	21.99	
P545	17.6	21.75		P601	16.8	21.95		21P 39	12.9	22.04	
P546	42.6	21.30		P602	12.5	21.78		21P 40	11.7	22.12	
P547	7.8	21.78		P603	欠番			21P 41	13.5	22.36	
P548	7.3	21.79		P604	欠番			21P 42	8.5	22.19	
P549	10.9	21.85		P605	23.6	21.96		21P 43	9.5	22.18	21S B 7-1
P550	15.5	21.82		P606	20.9	21.96	21S B 12	21P 44	19.3	21.88	
P551	15.8	21.83		P607	28.0	21.41		21P 45	欠番		
P552	11.3	21.87		P608	26.1	21.79	21S B 16	21P 46	28.6	21.68	
P553	33.7	21.65		P609	36.2	21.73		21P 47	8.0	22.41	
P554	7.5	21.89		P610	17.8	21.56		21P 48	18.0	22.21	
P555	17.4	21.66		P611	21.1	20.76		21P 49	17.6	22.07	
P556	20.4	21.65		P612	欠番						
P557	16.5	21.68		P613	16.8	21.54					
P558	7.4	21.78		P614	12.2	21.32					
P559	欠番			P615	9.6	21.37					
P560	17.8	21.57		P616	11.3	21.36					

## 第2節 出土遺物

### 1 繩文時代の遺物包含層について

19次及び21次調査区における基本土層のIV層とV層が、縄文時代に形成された遺物包含層である。調査区東側の旧河道部を除き、ほぼ全域に認められた。V層の層厚は平均15cm程度で、まばらに遺物が含まれている。これは、IV層遺物にもいえることだが、土器の消耗が著しく、したがって原位置からの移動も含めた時間差も否定できないものの、出土遺物の特徴から、縄文時代早中期葉期から前期初頭期に形成されたものと思われる。

V層の層厚は20~70cmを測り、この層の上~中位に遺物を含有する。大局的に見て時間的所産のことなる遺物集中区が二区域に認められた。A区は縄文時代後期前葉期から中葉期の土器を主体とし、B区では縄文時代後期後葉期から晚期初頭期のものを主体とする。A区の現況は比較的小規模な凹地状を呈する所に堆積していた。他方B区は自然堤防状の周囲より一段高まった所に形成されていた。特にB区は炭化物を多量に含有し、遺物の種類も少なくなく、周囲と様相を異にしていた。少數の混入的性格の遺物を除外して言及することが可能であるならば、両区とも比較的時間の限定された遺物の集中的な「廢棄」行為によって形成されたものと考えられるが、諸般の事情により、細かな廢棄の単位を追及するには至らなかった。また、両区の面的関係は遺物の示す時間関係より示唆されたが、両者を当時の空間軸に還元してその差異を追跡できる程、良好な状態に保たれてはいなかった。

### 2 縄文時代の出土遺物（石器・石製品 1~240、土器・土製品 301~820）

19次及び21次調査で出土した縄文時代の遺物を、ここで一括して扱うこととする。なお、遺物の分類にあたっては、遺構内出土分、遺構外出土分を合わせておこなった。

2年間の調査で出土した遺物の総量は、当センターの大コンテナに換算して土器21箱、土製品7点、石器・石製品1595点である。本稿に掲載した遺物は、遺構内外を問わず通し番号となっており、遺構内、グリッド順に配列した。土製品及び石製品は、それぞれ土器、石器の後に掲載した。なお、選別時の不手際から配置に変更を加えるべき所もあったが、観察表の備考欄に記すに留めた。また、出土点数の多い遺物に関しては、他遺跡の事例を参考にし、若干の分類を試みたが、報告者の力量不足から大枠を提示するに過ぎない。個別の所産に関しては観察表の分類欄に記してある。

#### （1）石器・石製品（第31~58図、写真図版28~38）

本遺跡から出土した縄文時代（一部弥生時代を含む）の石器・石製品の種類は、石錐194点、尖頭器52点、石匙73点、石鑿43点、石範97点、異形石器1点、磨石・凹石・鐵石類88点、磨製石斧2点、打製石斧9点、石鍬7点、礫器6点、石皿・砥石・台石類28点、有孔石製品11点、石棒・石劍・石刀類18点、不定形石器類654点、原石類141点である。この他、石器製作時の剥片・碎片類は、19次調査だけで約16.5kgを量る。

##### ・石錐（1~87）

194点出土しており、87点掲載した。有茎錐の割合が高い。なお、掲載していないがこのうちの1点はアメリカ式石錐で、弥生時代のものと思われる。

##### ・ 尖頭器（88~113）

52点出土し、26点掲載した。固化出来なかったが、薄手の所謂石槍状の破片も存在する。

- ・ 石匙 (136~162)  
73点出土し、22点掲載した。全体的に縦形のものが多い。縦・横中间の形態も認められる。つまみが2つあるものもある。
- ・ 石鎌 (136~162)  
43点出土し、17点掲載した。
- ・ 石斧 (169~184・191)  
97点出土し、17点掲載した。172などのように、刃部に抉入を持つものも認められる。
- ・ 异形石器 (185)  
1点確認された。
- ・ 磨石・凹石・敲石類 (203~210)  
88点出土し、8点掲載した。比較的小さいの自然石の一部に、磨痕、擦痕、凹痕、打痕等の各種使用痕が認められる一群である。複数の使用痕が観察されるものもあり、磨石・凹石・敲石類として一括した。204~206、208~210は、所謂特殊磨石に類似する。
- ・ 磨製石斧 (211・212)  
2点出土した。ともに刃部を欠損する。
- ・ 打製石斧 (214~219)  
9点出土し、7点掲載した。
- ・ 石鎌 (220~222)  
7点出土し、3点掲載した。
- ・ 球器 (223・224)  
6点出土し、2点掲載した。扁平な自然縁の側縁部に強い加熱による刃部が作り出されているものである。
- ・ 石重・砾石・台石類 (225)  
28点出土し、1点掲載した。破損品が多く種類(用途)が特定出来ないため、いずれかに属すると思われるものを一括した。
- ・ 有孔石製品 (226~234)  
11点出土し、9点掲載した。II H 8 a区からの出土が多い。なお、図示していないが、232の端部には十字状の刻みが認められ、同様の表現手法が観察される土器群との関連を考える上で、興味深い資料である。
- ・ 石棒・石劍・石刀類 (235~239)  
18点出土し、5点掲載した。破損品が多いため、このいずれかに分類されると思われるものを一括した。  
236・237は石劍であろう。
- ・ 不定形石器 (186~190、192~200)  
645点出土し、14点を掲載した。スクレイバー各種、横形石器、残核、および製品の破損片で分類が困難なものを一括した。
- ・ 原石類 (240)  
141点出土し、1点のみ掲載した。明瞭な加工痕を認めることが出来ないものの、石器の素材用などとして、遺跡に持ち込まれた可能性のあるものを一括した。ただし、これらは特別集中して確認されたものではない。

## (2) 土器・土製品（第59～94図、写真図版39～63）

縄文時代早・前期、後期、晩期の土器が出土している。主体は縄文時代後期末葉期から晩期初頭期である。

### 第Ⅰ群土器

縄文時代早・中期から晩期初頭期に位置付けられる土器群である。出土量は多くない。出土層はV層で、胎土に纖維を含有する。器種は全て深鉢と思われる。

### 第Ⅱ群土器

縄文時代後期の土器群である。

#### <Ⅱ群1類>

後期前葉期から中葉期に属するものを一括した。本類土器はⅡH 8 c 区周辺の、層上～下位で主体的に出土したもので、前節のA区出土の土器群を中心とする。器種には深鉢、鉢、浅鉢、壺がある。本類土器は外傾する口縁部、多重沈線文、刺突の多用等に特徴を持つものが認められる。これらは、金子氏の新山椎現社Ⅱ群1類及びⅣ群1類（金子：1993、1994）、鈴木氏の板井跡内A式（鈴木：2001）などの一部に相当するものと思われる。これらの土器に対する両氏の見解は、かなりの程度において背反するもので、ここで委細を尽くして検討を加える余裕はない。後期前葉期から中葉期に属するものと記すに留める。

#### <Ⅱ群2類>

後期後葉期の土器群で、高柳（小林）氏編年縦付土器第I・Ⅱ段階（高柳：1988 a、b、1999）及び田柄貝塚IV・V群（手塚他：1986）に類似するものを一括した。ⅡH 8 c、9 c 区等のV層上位から出土している。器種には深鉢、鉢、壺が確認された。

#### <Ⅱ群3類>

後期後葉期から末葉期の土器群で、高柳氏編年縦付土器第Ⅲ・Ⅳ段階（高柳：1988 a、b、1999）及び田柄貝塚VI・VII（手塚他：1986）に類似するものを一括した。IV層上位の出土で、ⅡH 8 a 区に多い。器種には深鉢、鉢が確認された。

### 第Ⅲ群土器

縄文時代晩期の土器群である。

#### <Ⅲ群1類>

晩期初頭期の大洞B 1式に比定される土器群である。ⅡH 9 a、9 b、9 c 区からの出土が多い。IV層上位で確認された。なお本類土器を、高柳氏編年（高柳：1988 a、b、1999）及び金子氏編年（金子：1993）に照らし、古・新の段階をそれぞれ1a・1bとして細分したものもある。また、新段階の検討に際しては中沢目貝塚の出土資料（須藤：1998）も参考にした。

#### <Ⅲ群2類>

晩期初頭期の大洞B 2式に類似するものを一括した。Ⅲ層及び、層上位の出土で、ⅡH 0 a、ⅡH 8 a、ⅡH 9 b、ⅡG 9 j 区等で確認されている。器種には深鉢、鉢、壺がある。

#### <Ⅲ群3類>

晩期中葉期の大洞C 2式に類似するものである。637の壺が該当する。ⅢG 8 j 区の、層上位から出土した。

#### <Ⅲ群4類>

晩期後葉期から末葉期の土器群で、大洞AないしA'式に相当するものである。ⅢH 7 i、8 i 区のC 5 d 層からの出土が比較的多い。本類土器は調査区の各区域に散見されたが、主体層を確認するには至らなかつ

た。調査区東側の旧河道付近の未完掘区に、該期の文化層が存在する可能性も残される。

#### 第IV群土器

縄文時代後期ないし晩期の土器群で、今同上記の分類にスムーズに対応できなかったものを一括した。このうち、その所属時期が推定されるものを、次のように類別した。

<IV群1類>…後期前半期に位置付けられる可能性のあるもの。

<IV群2類>…後期後葉期から末葉期に位置付けられる可能性のあるもの。

<IV群3類>…後期末葉期から晩期初頭期に位置付けられる可能性のあるもの。

<IV群4類>…晩期初頭期から前葉期に位置付けられる可能性のあるもの。

<IV群5類>…晩期後半期に位置付けられる可能性のあるもの。

土製品には、土偶、土製円盤、耳飾、腕輪形土製品？スタンプ形土製品、装飾品、ミニチュア土器がある。

##### ・土偶（786～788、790）

包含層から3点、19S K 8から1点出土している。作りはいずれも中実である。787と788は同一個体で、III H 0 b区で別々に出土している。文様及び形態の特徴から、縄文時代後期最終末期から晩期初頭期の所産と思われる。786、790は後期後葉期から晩期初頭期のものであろうか。

##### ・土製円盤（791～795）

5点出土している。いずれも土器片の開口を打ち欠いている。縄文時代後期後葉期から晩期前半期のものと思われる。

##### ・耳飾（796、798～802）

6点確認された。臼形及び環状形（金子：1993）のものがある。文様から、800は縄文時代晩期初頭期、801は晩期後葉期から末葉期のものと考えられる。また、800には赤色顔料の付着が認められる。

##### ・腕輪形土製品（804）

804は腕輪形土製品に分類したが、別種の可能性も否定できない。

##### ・スタンプ形土製品（797）

1点出土した。赤色顔料が付着している。

##### ・装飾品（803）

803が該当する。相応しい呼称を探し得なかつて装飾品として報告した。赤色顔料の付着が認められる。

##### ・ミニチュア土器（806～820）

15点掲載した。このうち、811、814、817～820等は、ミニチュア土器として報告することは不適当かもしれない。なお、812、817、818は文様から、縄文時代晩期初頭期とみて差し支えないものと思われる。

（吉川）

### 3 土師器（1001～1096）（第95図～103図、写真図版64～69）

9～10世紀代に属すると思われる土師器は、主に旧河道と後世に破壊された堅穴住居の一部からある程度まとめて出土した。具体的には、前者では12世紀の築地畠や十和田a降下火山灰を挟んでその上層および下層から、後者では残存する貯蔵穴やカマドの周辺である。土師器は96点掲載したが、この他に不掲載分がおよそ65kgほどある。本遺跡から出土した土師器の器種は壺・甕・鉢などで、甕にはロクロが使用されたものとされないものがある。

実測図において、例えば1012・1013など断面が網かけされているものがあるが、これは胎土等から判断して須恵器の出来損ないと思われる土器で、還元不足を示したものである。これらを土師器として扱うか須恵器で扱うかは迷うところではあるが、ここで取り上げることとした。また、坏の内面が黒色処理されたものについてはドットのスクリーントーンを入れているが、それがドットでなく薄いものは、当初の黒色処理が再被覆により失われたことを示す。

坏には概ね次の三種が認められる。いずれも成形にはロクロが使用されている。

①酸化炎焼成で、内面がヘラミガキ調整後に黒色処理され、外面底部および体部下端に再調整が施されるもの。

(1010・1011・1015・1027・1035・1042・1050・1066・1075・1076・1077・1080・1083・1091・1092など)

②酸化炎焼成で、内面は①と同様ながら外面に再調整の痕跡が認められないもの。

(1001・1006・1009・1016・1029・1036・1046・1061・1089など)

③須恵器を目指したが(還元炎焼成)、結果として還元不足となった酸化炎焼成のもの。

(1012・1013・1019・1035・1042・1043・1064・1066・1075～1080・1091・1093・1096など)

この他に、④に高台が付くもの(1040・1041・1054など)や、内外面がヘラミガキ黒色処理されるもの(1028・1074など)などがある。また、墨書き土器は4点(1051・1053・1064・1096)出土しているが、このうち「忠」と読むことができるものは、1064・1096の2点である。他の2点は欠損部が多く判読できない。

壺・鉢類では、既述のようにロクロ成形と非ロクロ成形のものがある。いずれも酸化炎焼成で、それぞれ器面調整からいくつかの種類に分けられるが、主に次の四種が挙げられる。

①非ロクロ成形で、口縁部はヨコナデ調整、体部外面の調整がヘラケズリ、内面はヘラナデが主体のもの。

(1020・1021・1032・1038・1082・1087)

②非ロクロ成形で、①の体部内面がハケメ調整主体のもの。

(1002・1023・1024～1026・1033・1034・1039・1057・1072・1086・1088・1095)

③ロクロ成形で、内外面ともロクロ調整のみ観察されるもの。

(1031・1049・1055・1062・1067)

④ロクロ成形で、内面がヘラミガキ後に黒色処理されているもの(鉢としている一群)。

(1069・1073・1084・1085)

この他には、ロクロ成形後、体部外面にヘラケズリ調整が認められるもの(1068)や、須恵器になり得なかった還元不足と判断されるもの(1068・1082)も出土している。

#### 4 須恵器(1101～1170)(第104～111図、写真図版69～74)

今回出土した土師器とほぼ時期を同じとする(9～10世紀代)須恵器は、旧河道部を中心として溝や堅穴住居の周辺から出土した。坏は4点(1113・1114・1153・1165)出土したのみで、ほとんどが壺・大甕類の破片である。70点掲載したが、この他に不掲載分のものが16.5kgほどある。これには、タタキメを有するいわゆる生焼けの壺の破片も含んでいる。なお、甕類で内面に当て具痕が見られないものについては、その拓本は掲載していない。器種ごとに若干記述する。

壺では、1153は底部を欠くが、器高が計測できる唯一の個体である。1165は底部にヘラによる再調整が明瞭である。壺は、長頸壺(1142・1147・1150・1168)、広口壺(1160・1162?)などの器種が見られる。甕は、多くが外面に平行するタタキメを有する。内面の当て具痕も同心円状のものは少ない。1144・1145・

1148などは蓋に近い器形で、体部中央から下端部にかけてヘラケズリ調整が施されている。

掲載した70点のうち、旧河道部に堆積した十和田a降下火山灰層より下から出土したものは1119と1141である。前者は口縁部にかすかな器面調整痕を残し、最大径を体部のほぼ中央に有している。肩部が張らない、いわゆるなで肩の器形である。

##### 5 かわらけ（2001～2534）（第112～143図、写真図版75～103）

かわらけは、手づくねかわらけとロクロかわらけが出土した。これらの中には、前者に内折れかわらけと手あぶり形のかわらけ、後者に柱状高台かわらけを含んでいる。時期は12世紀後半のものがほとんどで、それ以前の土師器の可能性があるもの（2152）は1点のみである。それ以後13～14世紀のかわらけについては判断出来なかった。図示したかわらけは534点で、うち手づくねかわらけは436点（内折れかわらけ13点、手あぶり形かわらけ1点含む）、ロクロかわらけ（柱状高台かわらけ8点含む）は98点である。報告書に掲載しなかった手づくねかわらけの総重量は352kg、ロクロかわらけは23kgで、報告書掲載分をあわせた出土かわらけの総重量は、400kgを優に超えるものと思われる。

かわらけの分類にあたっては、柳之御所跡における松本達三の編年（1994）に準拠した。その分類基準は、以下に示したとおりである。

###### ・手づくねかわらけ

C<sub>1</sub>類：二段なで技法、上段と下段のなで面がほぼ同じ幅で、口唇部断面形が丸いもの。

C<sub>2</sub>類：二段なで技法、上段を強くつまみ、上段は下段のなで面より幅が狭い。口唇部断面形が丸いもの。

C<sub>3</sub>類：二段なで技法、口唇部が面取りされ、口唇部断面形が三角形のもの。

D<sub>1</sub>類：一段なで技法、口縁部は直線的に立ち上がり、口唇部断面形が丸いもの。

D<sub>2</sub>類：一段なで技法、口縁部は弱く内湾ぎみで、口唇部断面形が丸いもの。

D<sub>3</sub>類：一段なで技法、口縁部が面取りされ、口唇部断面形が三角形のもの。

###### ・ロクロかわらけ

<R d（大皿）・r d（小皿）・R b（碗形）>

R d 0型・R b 0型：口縁部が底部から丸く立ち上がるもの。

R d 1型：口縁部が底部からほぼ真っ直ぐに立ち上がるもの。

R d 2型：口縁部が内湾し、均等の割合で口縁部・底部が二分されるもの。

R d 00類：R d 0型で明確な段を持つなで痕がなく、表面が滑らかなもの。

R d 01類：R d 0型で明確な段を持つなで痕がなく、表面に粗い調整痕が付くもの。

R d 02類：R d 0型で段が2段あるもの。

R d 10類：R d 1型で明確な段を持つなで痕がなく、表面が滑らかなもの。

R d 12類：R d 1型で段が2段あるもの。

R d 22類：R d 2型で口縁部に上半1段、下段1段、計2段のなで痕があるもの。

R d 23類：R d 2型で口縁部に上半1段、下段2段、計3段のなで痕があるもの。

R b 01類：R b 0型で明確な段を持つなで痕がなく、表面に粗い調整痕が付くもの。

この基準により分類した結果は、「まとめ」に示すこととする。

## 6 國產陶器（3001～3381）（第144～186図、写真図版104～134）

國產陶器は、井戸・土坑・溝などの遺構や旧河道路跡の12世紀遺物包含層（大別層5層）を主体として出土した。総出土量は、当センター収納用コンテナ（容量28t）で7箱、総重量はおよそ80kgである。種類には、猿投産・渥美産・常滑産・須恵器系・水沼産・壺器系陶器があり、大半は渥美・常滑産で占められる。渥美産と常滑産の出土重量における割合はほぼ1:2（21kg:45kg）で、それ以外の出土重量はいずれも数kg程度である。接合作業の結果、実測可能な程度まで復原された個体は、全体で60個体あまりである。これらについては実測図を作成し掲載したが、その他の接合しなかったものは拓本を採った。その中には、同一個体の破片も多く含まれていると思われるが、観察表にはそれについて触れていない。以下に、上に示した順に記述する。

### （1）猿投産陶器（3001～3013）

猿投産陶器は13点図示したが、他に不掲載のものが10点ほどある。器種は壺・壺類で、いずれも12世紀後半ごろの製作と思われる。3004・3007は短い口縁端部が直立気味に立ち上がるもので、短頸壺とした。3011は底部内面から体部にかけてヘラ状工具による引きあげ痕が明瞭に残り、外面の体部下端には水平方向にヘラケズリが見られる。3012・3013は外面に軸がかかる。

### （2）渥美産陶器（3014～3115）

渥美産陶器は102点図示した。この他に不掲載のものが15kgほどある。器種には山茶碗・皿・鉢（片口）・壺・壺類があり、壺では刻画文・装模印文が描かれる破片も見られる。時期は概ね12世紀後半と思われるが、3020の皿、3069の鉢、3076の片口鉢などは12世紀中葉に、3028の刻画文壺は12世紀第3四半期の年代が与えられる。復原された個体は多くないが、3051は暗緑色の軸がかかる壺で、肩部に耳が付くもの。3091は注ぎ口の両端に押さえつけた指頭の痕跡が残る片口鉢である。

### （3）常滑産陶器（3116～3353）

常滑産の陶器は238点掲載した。不掲載遺物の総重量は37kgで、収納用コンテナ（容量28t）3箱分ほどになる。時期は、ほぼ12世紀の年代が与えられる常滑陶器2型式・3型式、およびそのいずれかに属するもののほか、7型式と18世紀代のものある。器種は壺・壺類・鉢（片口）で、壺には三筋壺（3352など）や耳の付く三筋壺（3346）、仏器と思われる長頸瓶（3335）、頸部に突帯の付くもの（3128・3162）などがありバリエーションに富む。壺で特徴のあるものとしては、横耳の付くもの（3338a）がある。3338bはその底部であるが接合しなかった。また、壺で最大的ものは3337で、器高は約70cm、肩部付近にある最大径は73cmを計る。接合した破片の総数は130片あまりで、主に旧河道路跡と井戸内から出土したものが接合した。鉢では、高台のつくりや形状に微妙な違いが見られる。また、描り鉢としての使用による内面の摩耗が観察される個体（3264・3265など）もある。

なお、3334～3353の20点については、復原された大型の個体として、本項の図版では最後にまとめて掲載した。これらは筆者の不手際により、平泉町教育委員会八重樫氏の鑑定外となってしまったものであるが、編年上は、常滑2型式あるいは3型式に相当する一群と思われる。

### （4）須恵器系陶器（3354～3366）

13点掲載したが、この他に数片不掲載のものがある。器種には、壺類・鉢（片口）があり、3355・3362・3363～3365などの壺の破片には平行するタキメが明瞭である。3356・3358～3361・3366は鉢で、3356・3359はほぼ復原された個体である。いずれの体部も内沟ぎみに立ち上がるが、3359のほうが口縁部付近の丸味が強

い。3356は注ぎ口を欠くが、片口が付くであろう。この2点のほか、3360・3361など底部が残るものにはいずれもクロ回転糸切り痕が観察される。

#### (5) 水沼産陶器・壺器系陶器（3367～3381）

水沼産陶器は12世紀中頃から、在地産壺器系陶器は13世紀後半～14世紀前半ごろの時期が推測される。前者は15点、後者は3点掲載した。器種は、3380が鉢であるほかはすべて壺である。3367・3369・3373・3374・3377・3378は細かい方形からなる押印が見られ、同一個体の可能性が高い。3368がその底部、3375・3376がその口縁部となるかは不明であるが、砂粒を含む胎土はよく似ている。3379～3381は、具体的には宮城県北（伊豆沼周辺か）産と推定される。3379は外面にヘラ状工具の跡が残る。3381は外側に平行する横方向のケズリが明瞭である。3380は片口か。

### 7 中国産陶器（4001～4015）・朝鮮産陶器（4016～4018）（第187・188、写真図版134・135）

中国産陶器は、12世紀後半の井戸（19S E 3）、12世紀以降の溝（19S D 9）、旧河道内の12世紀遺物包含層などから、朝鮮産陶器は近世の井戸（19S E 6）から出土した。前者の出土総重量は、2.4kgである。

4001～4015が中国産とされる陶器の壺・壺類である。同一個体と思われるものは、①4001、4006～4008、4012～4015、②4002・4009、③4003・4004の3個体である。①の壺の特徴としては、肩部から内側に大きく内消し無頭であることが挙げられる。外面には暗緑色の釉が部分的にかかり、ひねりの入った耳が上部に付く。②は壺と思われるが、これにも耳が付きその上方には凸線が全周する。③も壺と思われる。4005の器表は褐色を呈するが、この色調は他には見られない。これらはいずれも12世紀代に属するものである。朝鮮産陶器は、4016～4018で壺類と思われる。4017には16世紀の年代が与えられる。

### 8 中国産磁器（5001～5112）（第189～196図、写真図版136～139）

出土した中国産磁器には、青白磁碗（掲載点数：5点）・皿（7点）・小壺（1点）・水注（1点）、青磁碗（19点）・皿（3点）、白磁碗（39点）・皿（7点）・壺（30点）がある。ほとんどが12世紀代に属するものであるが、13世紀後半の青磁碗が2点、15世紀の青磁碗が1点出土している。出土した地点は旧河道内の12世紀遺物包含層（大別層5層）を主体とし、他に大別層1層～4層から出土したものもある。ここに掲載した中国産磁器は、総出土破片数（212点）のほぼ半数（112点）で、掲載しなかったものは、白磁四耳壺（5086）の接合しなかった同一個体の破片と同様に耐えなかった小破片である。

なお、16世紀～17世紀ごろの中国産磁器の染付皿（6017）が1点出土しているが、これは次の「中・近世陶磁器」で扱うこととした。以下に、青白磁・青磁・白磁の順に記述する。

5001～5014が青白磁で、いずれも12世紀後半の年代が与えられるものである。5001～5003は薄手のつくりの碗で、繩描きの文様が施される。5004は明緑灰色を呈する碗である。5005は見込み釉の描き取りがない。5006・5007は輪花頭で白堆線を有する。前者は12世紀の井戸（19S E 3）から出土した。5008は内面に段を、5009は白堆線が付く。5013は菊花文が施される小壺の蓋で、胎土は白色で緻密である。5014は水注の注ぎ口の破片である。

5015～5036は青磁で、産地は5015～5018が同安窯、5019～5036は龍泉窯である。同安窯青磁の4点は、外面に縱方向の繩書き文様が明瞭である。5019は12世紀前半（1150～）龍泉窯青磁碗0類とされるもので、推定口径は16.0cmである。外面には深く幅の広い繩書きがあり、内面の上位に片彫りの線が入る。5020～5022は太宰府編年皿I類、5023～5025は碗I類、5026～5027は碗I・2類に分類される。5028～5033は繩状の施文

具による文様が施されるもので、碗Ⅰ2類あるいは3類に分類される。5028～5030の内面には片彫りの線がみられる。5034は13世紀後半の鍋連弁文の碗、5035も13世紀後半の碗である。5036は厚く釉がかかる15世紀の碗である。

5037～5112は白磁で、5037～5043（皿）・5044～5049（碗）には、12世紀前半の年代が与えられる。化粧土が施される個体が多く、玉縁口縁を有するものや底部破片では露胎のものが見られる。これらは、太宰府編年Ⅱ類あるいはIV類、V類に分類される。5050～5082はそれ以後の碗で、V類・Ⅵ類、あるいはそれのいずれかに分類されるものである。口縁の端部が屈曲するものや内面に描きが施される個体、底部では見込みの釉薬が掻き取られた個体や露胎のものなどがある。5083～5112は盃で、5083～5085はⅡ系に分類される。5084は四耳盃と思われる。5086～5112はⅢ系に分類される。5086は唯一復原された白磁四耳盃で、接合した破片は50点以上と思われる。器高25.0cm、口径10.5cm、底径7.0cmを有り、最大径は体部中央からわずかに上位にある。肩部はわずかに張らずに口縁部に至り、口縁端部はほぼ真下に屈曲している。この器形から、柳之御所遺跡出土の四耳盃よりもやや新しい時期の製作年代が考えられる。5087～5090は口縁端部の資料であるが、それぞれ特徴のある形状を呈している。5091・5096も耳を欠く四耳盃の肩部破片である。5090・5101には漆巻ぎの跡が残っている。

#### 9 中・近世陶磁器（6001～6085）（第197～208図）

中・近世に属する陶磁器は、主に井戸・溝・土坑といった遺構内、および基本層序第Ⅲ層や搅乱層から出土した。ここで掲載した85点の他に当該期に属するものが、収納用の中コンテナ（容積28L）で3箱ほど出土している。うち1箱は近・現代の掘り鉢片である。

年代は、16世紀前半・後半、16世紀～17世紀初頭、17世紀、18世紀、18世紀末～19世紀初頭、19世紀、20世紀前半である。製作地は、磁器では肥前産、瀬戸産、東北地方在产地など、陶器では肥前産、瀬戸・美濃産、瀬戸産、大堀・相馬産などが挙げられる。器種は、磁器は碗・皿・香炉・火入れ・徳利、陶器では碗・皿・壺・鉢・壺・壺・壺・火入れ・急須・汽車茶瓶などがある。

これら中・近世陶磁器の実測図版は、文様を省いた外形のみの実測図と実測図下にその遺物写真を付したものとした。それぞれ、文様などは写真で見てもらうスタイルであるが、引用しにくいものとなってしまった。通常の遺物図版は実測図下に観察表を入れているが、中・近世陶磁器については、P251・252に遺物観察表をまとめて掲載した。また、ここでは磁器→陶器の順に掲載したつもりであったが、陶器のほうに磁器が1点混じっている（6075）。先に述べた中国産の磁器皿は6017である。

観察表には「年代」が示してあるが、肥前系磁器については、大橋康二：考古学ライブラリー「肥前陶磁」の幅年を参考にした。「備考」には、文様や高台、見込みの特徴、釉薬の状態などを記載しているので、参照していただきたい。

#### 10 土製品（7001～7078）（第209～213図、写真図版140～142）

縄文時代に属する土製品以外のものについてここで記述する。平安時代前期の土製品（土鉢）と後期のもの（瓦）が主体である。

7001～7059は土鉢である。遺構内（19P272）から出土したものは7001の1点のみで、他は12世紀の遺物包含層あるいは下和田a火山灰層下から出土したものである。形状から大きく2種に分けられるが、一つは縦に細長いタイプ（7001・7004など）、もう一つは丸くした幅の広いタイプ（7005・7006など）である。

この中間のもの（7012・7016など）もある。投網の錘とされているが、形状や重量からは用途に違いは見出せない。7060・7061はフィゴの羽口の欠損品で、推定される直径は8～9cm前後である。7062・7063は土鉢である。7062は十和田a火山灰層下から出土した完形品である。上部には5mm程度の細長い穿孔があり、袋状の空洞部分には土玉が入る。振るとかすかにぶい音を出す。7063は下部を欠くが土鉢とした。上部にある孔は貫通していない。7064は双耳壺の耳か？7065は手づくね土器と思われるもの。7066は不明の土製品、7067～7069は、出土した層位から古代のものと思われる円錐状のものである。用途は不明である。7070は何らかの容器に付く脚か？7071は円く穿孔された孔を有する。胎土は新しい感じがするが、種類はわからなかった。7072～7078は12世紀の平瓦である。主に12世紀の遺物包含層から出土している。7072～7077は布目が明瞭であるが、7078の内側はヘラによるケズリのような調整痕を有している。

#### 11 石製品（7101～7118）（第214～217図、写真図版143～145）

ここでは、绳文時代に属する石製品以外のものを一括して取り扱う。

7101～7107は砥石と思われる。7101は19S E 3の埋土から出土した仕上げ砥石である。7102・7103・7105は二面が使われる仕上げ砥石で、使用された面は滑らかに凹状になっている。7107は一面のみに使用痕が観察されるものである。7106は砥石としたが、道具ではない別の石製品の可能性がある。7108は7101と同様、19S E 3から出土した滑石製石鍋の体部破片で、外側にはかすかな接線が見られる。7109・7110は頁岩製の碁石と思われるもの。7111・7112は大削層5層から出土した焼成を受けている砾である。19S X 5・6・7の一連の焼土に関係している可能性がある（実測図のスクリーントーンは焼け焦げた範囲を示す）。7113・7114も5層出土のもので、用途等は不明なものである。7115は凹面を有する台石かと思われるもので19S D 6から出土した。7116・7117は近世民家の柱穴から出土した石臼である。礎盤として埋められたものである。7117は井戸（19S E 6）に投げ込まれていた頁岩製の板磚である。種子が彫られるが上部が欠損している。刻まれた銘は第217図にあるとおりである。

#### 12 金属製品（7201～7258）（第218～244図、写真図版146～149）

金属製品は、いわゆる鉄製品のほか、キセル2点と鍛貨7点が出土した。これらは種類ごとに遺構内から順に掲載している。

7201～7232は角釘とした鉄製品である。7201～7203で、7202と7203は12世紀後半の年代が与えられる井戸（19S D 3）の埋土から出土している。12世紀の遺物包含層から出土したものも多い。長さも4cm前後から16cmのものまで様々である。7229～7232はあおり止めと思われるもので、何らかのものを固定するための金具であろう。7233はミシン針状の製品と考えた。あおり止めの可能性もある。7234～7236は鉄鎌で、いずれも形状が異なる。7236はいわゆる雁又鎌で先端部を欠く。7237は環状の鉄製品で種類・用途は不明である。7238は大振りな刀子である。7239～7245は種類・用途不明の製品である。7243は耳搔き状の形状である。7244は最先端部がフックのように曲がり、中央部が穿孔される。7245は全体が釣針状に屈曲している。7246・7247は近世の刀である。7246は19P 1から出土したもので、先端と中子部を欠く。7247は最先端部を僅かに欠くだけで、切羽も付く。刀身の長さは21cmほどである。7248・7249は火打ち金具、7250・7251キセルの雁首である。7252～7258は鍛貨で、7252が初鋤1086年の「元祐通寶」、7253が初鋤1017年の「天禧通寶」で、前者は12世紀の遺物包含層から出土している。これら以外は「寛永通寶」であるが、いずれも新寛永である。7254は11波の四文銭である。

### 13 木製品（7301～7315）（第225～227図、写真図版150）

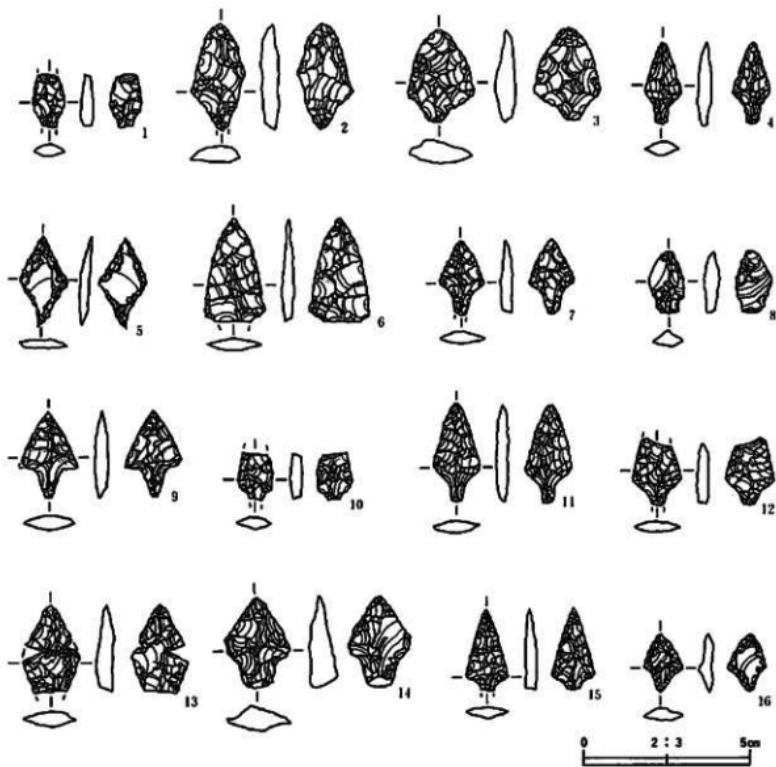
木製品は、主に井戸の堆土や旧河道大別層7層・9層から出土したほか、木柱列の杭がある。ここには掲載しなかったが、近世井戸19S E 4から50本以上のちゅう木が出土している。これについては10本あまり樹種同定しているが、スギ、サワタガ、アスナロなどの材の使用が確認されている。

7301・7302は漆塗りの椀である。7301は旧河道大別層7層から出土した古代に所属する椀である。7302は19S E 2の埋土中位から出土したもので、高台内に「叶」の文字が書かれている。他の出土遺物から、近・現代の遺物と思われる。7303～7305は曲物の一部で、いずれも十和田a火山灰層の下層（大別層9層）から出土した。層位からいずれも平安時代ごろの遺物と思われる。7303は底板の欠損品で、周囲は一段低く加工され、その部分と体部との留めにサクラの樹皮が使われている。7304は周囲の面取りが明瞭な底板の未製品？である。7305は木釘が残る桶底とその周囲に付いていたタガである。タガは合わせ目を樹皮で接合している。7306・7307は19S E 8の埋土から出土した下駄台と差歎で、前者はケヤキ、後者はクリが用いられている。7308は鐵の基部である。大別層9層から出土しており、十和田a火山灰降下以前の農具である。本製品は一体の材から削り出しているが、加工が少なくてような角度をもつ材を選んでいるようと思われる。先端部に歯先が付いた痕跡は認められない。7309～7315は木柱列の杭である。7313以外は、いずれも先端部が加工されている。7313は木柱間にあった板状の材で、これを除く他の杭はすべて打ち込み杭である。使われる材は、クリやコナラ等が多い。

### 14 その他の遺物（7401～7404）（第228図）

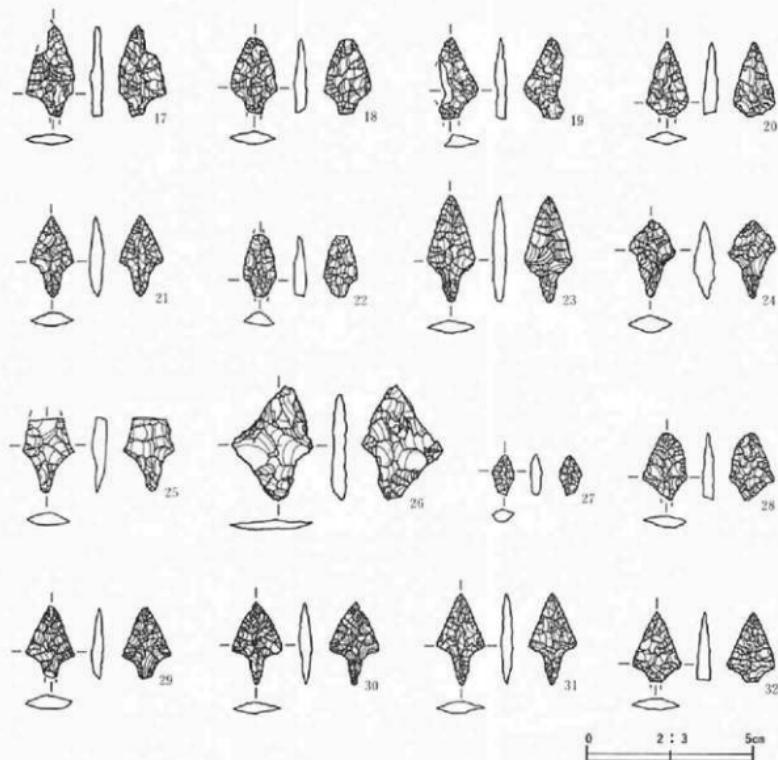
ここに掲載したものは、いずれも旧河道内の大別層5層（12世紀遺物包含層）から出土したものである。7401は直径1.3cmを計るガラス平である。色調は淡緑色で、中心からほんの半分が欠損している。成分分析結果は第4節に掲載しているが、地下水との反応による風化物の付着のため淡い色調となつたらしい。7402もガラス製品であるが、壊と思われる破片である。推定される口径は4.2cmで、製品自体には色がつかず透明であるが、わずかに黄赤色を帯びている。ガラス内には小さな気泡が観察され、器表にある縱長の小さな瘤は全周しているものと思われる。室内作業における不手際から、成分分析を行わないのでしまった。7403は琥珀でこの1点のみ出土した。明瞭な加工痕は認められない。7404は増堀と思われる口縁部付近の破片である。

この他に、旧河道内の12世紀遺物包含層を主体とする層および19S D12の埋土から、歯齒・歯骨等の動物遺存体が出土した。第4節に鑑定結果の一覧を掲載したが、シカ・ウマのいずれかに同定されているものが多い。同定不可能な小片もそのいずれかの可能性は高い。同定番号44・45・60は鹿角で、44には金属器による傷のような痕跡があるとの分析結果であった。60は十和田a火山灰が降下する以前に生存したシカの角である。12世紀の遺物包含層（大別層5層）や整地層（大別層6層）、道路側溝となる可能性がある溝の埋土に、動物遺存体が含まれていることは何を意味するのであろうか。さらに、この層においては植物遺体も多数出土した。ウメ・モモの種子などで、焼けて炭化しているものもある。古函を占う儀式に使われた証である可能性が指摘されたが、詳細は不明である。



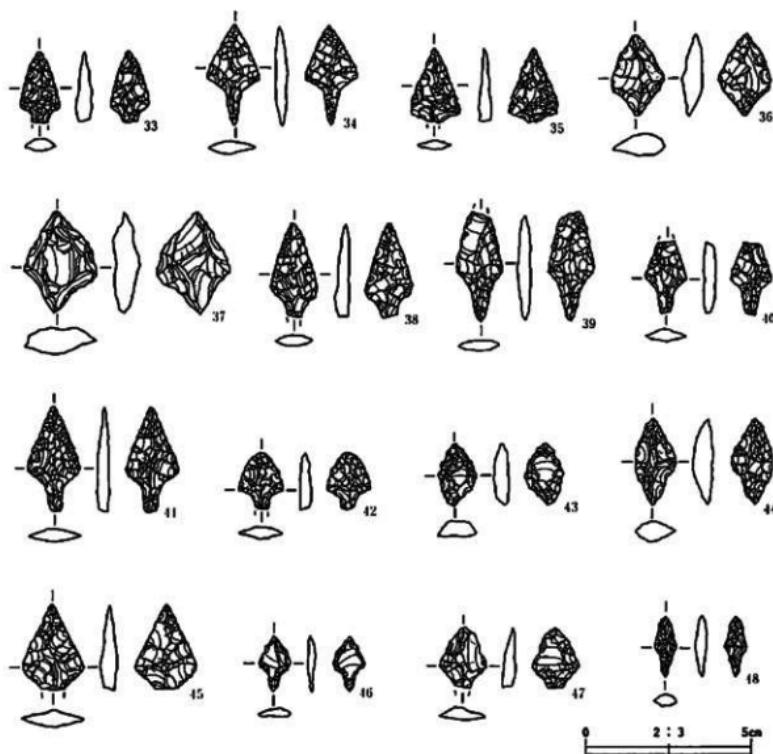
番号	出土地点	層位	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	产地
1	I9P105		石鋸凸有	(1.5)	0.9	0.4	0.6	頁岩	奥羽山脈
2	I9SK3	埋上	石鋸凸有	(3.2)	1.7	0.6	1.8	珪質頁岩	奥羽山脈
3	I9SK23		石鋸凸有	2.7	2.0	0.6	2.3	頁岩	奥羽山脈
4	I9SK24		石鋸凸有	2.4	1.1	0.4	0.9	頁岩	奥羽山脈
5	BG 0 j	剖上	石鋸凸有	2.7	1.9	0.3	0.9	珪質頁岩	奥羽山脈
6	BG 8 j	剖上	石鋸凸有	(3.1)	1.8	0.4	1.9	頁岩	奥羽山脈
7	BG 9 j	剖上	石鋸凸有	(2.2)	1.3	0.3	0.8	頁岩	奥羽山脈
8	BG 9 j	剖上	石鋸凸有	1.9	1.1	0.5	0.8	頁岩	奥羽山脈
9	BG 9 j	剖上	石鋸凸有	2.6	(1.7)	0.4	1.3	頁岩	奥羽山脈
10	BG 9 j	剖上	石鋸凸有	(1.4)	1.1	0.4	0.4	珪質頁岩	奥羽山脈
11	BG 9 j	剖上	石鋸凸有	2.9	1.4	0.4	1.1	頁岩	奥羽山脈
12	BH 2 a	剖上	石鋸凸有	(2.0)	1.5	0.3	0.9	頁岩	奥羽山脈
13	BH 8 a	剖上	石鋸凸有	(2.6)	1.7	0.5	2.0	赤色頁岩	奥羽山脈
14	BH 8 a	剖上	石鋸凸有	2.7	1.9	1.8	2.8	赤色頁岩	奥羽山脈
15	BH 8 a	剖上	石鋸凸有	(2.4)	1.3	0.3	0.7	頁岩	北上山地
16	BH 8 a	剖上	石鋸凸有	1.7	1.2	0.4	0.5	頁岩	奥羽山脈

第31図 繩文時代の石器①



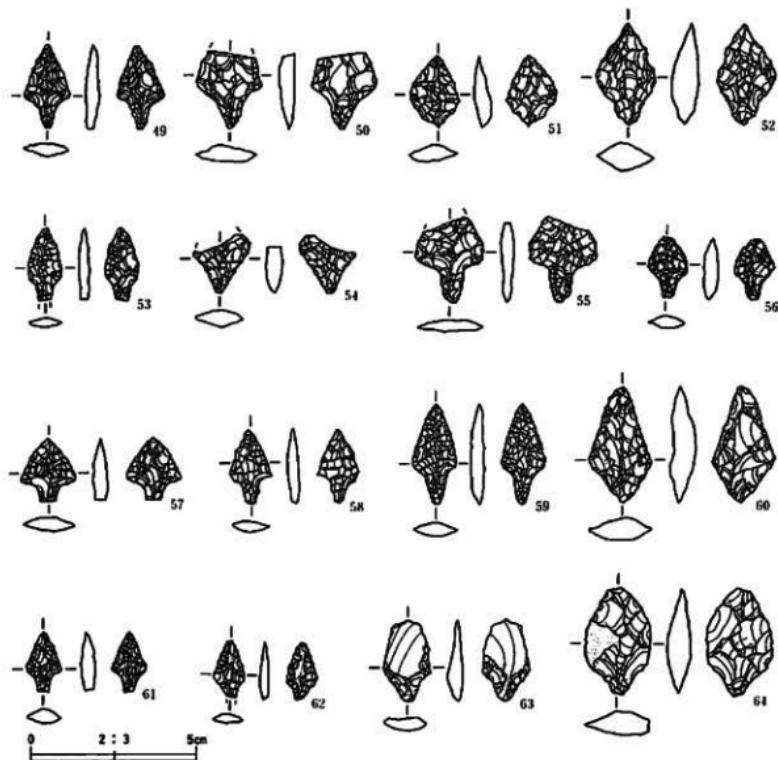
番号	出土地点	層位	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	产地
17	II H 8 a	Ⅴ上	石鋸凸有	(2.7)	1.4	0.4	1.1	頁岩	奥羽山脈
18	II H 8 a	Ⅴ上	石鋸凸有	(2.3)	1.4	0.4	1.0	頁岩	奥羽山脈
19	II H 8 a	Ⅴ上	石鋸凸有	(2.4)	(1.2)	0.3	0.8	頁岩	奥羽山脈
20	II H 8 a	Ⅴ上	石鋸凸有	(2.2)	1.2	0.4	0.8	頁岩	奥羽山脈
21	II H 8 a	Ⅴ上	石鋸凸有	2.3	1.3	0.4	0.8	頁岩	奥羽山脈
22	II H 8 a	Ⅴ上	石鋸凸有	(1.8)	0.9	0.4	0.6	頁岩	奥羽山脈
23	II H 8 a	Ⅴ上	石鋸凸有	3.2	1.4	0.4	1.2	頁岩	奥羽山脈
24	II H 8 a	Ⅴ上	石鋸凸有	2.3	1.3	0.6	1.2	頁岩	奥羽山脈
25	II H 8 a	Ⅴ上	石鋸凸有	(2.2)	1.6	0.4	0.7	珪化木	奥羽山脈
26	II H 8 a	Ⅴ上	石鋸凸有	3.5	2.5	0.4	1.6	磨拭刃	奥羽山脈
27	II H 8 b	Ⅴ上	石鋸凸有	1.2	0.7	0.4	0.3	赤色頁岩	奥羽山脈
28	II H 8 b	Ⅴ上	石鋸凸有	(2.0)	1.3	0.3	0.8	且賀頁岩	奥羽山脈
29	II H 8 b	Ⅴ上	石鋸凸有	(2.1)	1.5	0.4	0.7	メノウ	奥羽山脈
30	II H 8 b	Ⅴ上	石鋸凸有	2.5	1.5	0.4	0.7	頁岩	奥羽山脈
31	II H 8 c	Ⅴ上	石鋸凸有	2.8	1.9	0.3	0.8	頁岩	奥羽山脈
32	II H 9 a	Ⅴ上	石鋸凸有	(2.1)	1.4	0.4	0.8	頁岩	奥羽山脈

第32図 繩文時代の石器②



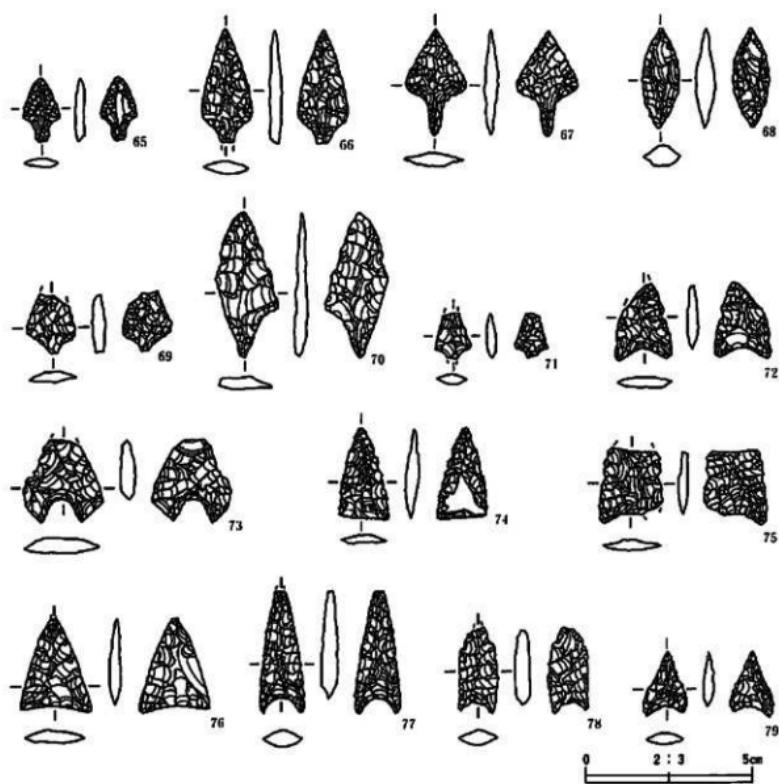
番号	出土地点	層位	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	产地
33	BII 9 a	Ⅱ上	石器凸有	(2.1)	1.2	0.5	0.6	赤色頁岩	奥羽山脈
34	BII 9 a	Ⅱ上	石器凸有	3.0	1.6	0.3	0.9	塊状頁岩	奥羽山脈
35	BII 9 a	Ⅱ上	石器凸有	(2.2)	1.5	0.4	0.8	塊状頁岩	奥羽山脈
36	BII 9 a	Ⅱ上	石器凸有	2.4	1.5	0.6	1.7	塊状頁岩	奥羽山脈
37	BII 9 a	Ⅱ上	石器凸有	3.0	2.2	0.8	4.0	石英	北上山地
38	BII 9 a	Ⅱ上	石器凸有	(2.8)	1.4	0.4	1.2	頁岩	奥羽山脈
39	BII 9 a	Ⅱ上	石器凸有	(3.2)	1.4	0.4	1.4	頁岩	奥羽山脈
40	BII 9 a	Ⅱ上	石器凸有	(2.1)	1.2	0.3	0.7	頁岩	奥羽山脈
41	BII 9 a	Ⅱ上	石器凸有	3.1	1.6	0.4	1.3	頁岩	奥羽山脈
42	BII 9 a	Ⅱ上	石器凸有	(1.7)	1.3	0.3	0.8	頁岩	奥羽山脈
43	BII 9 a	Ⅱ上	石器凸有	1.4	1.2	0.5	1.0	頁岩	奥羽山脈
44	BII 9 a	Ⅱ上	石器凸有	2.6	1.2	0.6	1.4	頁岩	奥羽山脈
45	BII 9 a	Ⅱ上	石器凸有	(2.5)	1.8	0.5	1.5	頁岩	奥羽山脈
46	BII 9 a	Ⅱ上	石器凸有	1.6	0.9	0.2	0.2	頁岩	奥羽山脈
47	BII 9 a	Ⅱ上	石器凸有	(1.8)	1.4	0.3	0.8	頁岩	奥羽山脈
48	BII 9 a	Ⅱ上	石器凸有	1.8	0.7	0.4	0.3	頁岩	奥羽山脈

第33図 繪文時代の石器③



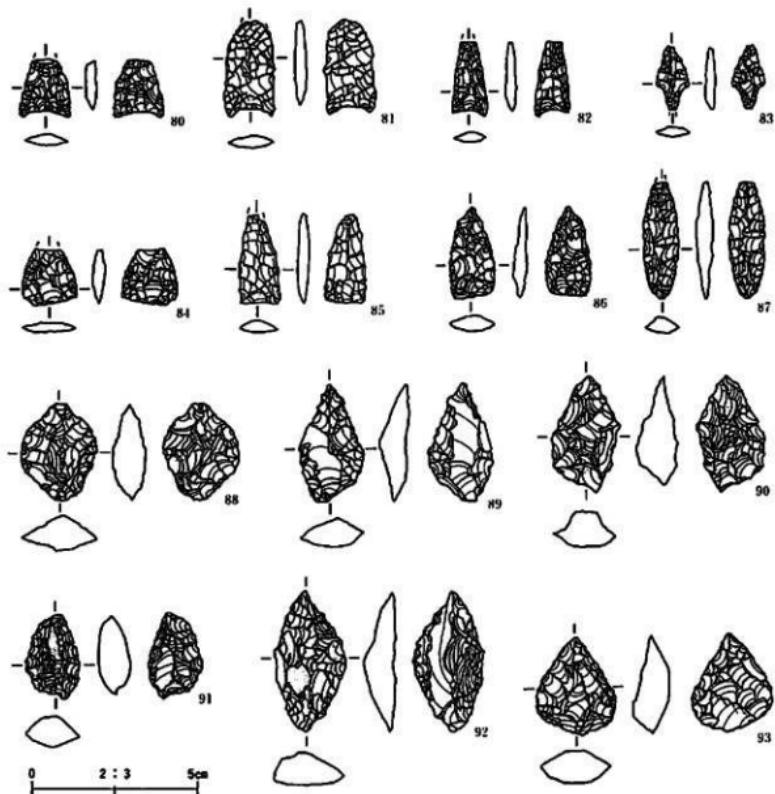
番号	出土地点	層位	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	产地
49	II H 9 a	Ⅳ上	石器内有	3.0	1.4	0.4	1.0	頁岩	奥羽山脈
50	II H 9 a	Ⅳ上	石器内有	(2.3)	2.0	0.5	1.8	頁岩	奥羽山脈
51	II H 9 b	Ⅳ上	石器内有	2.1	1.5	0.5	1.1	頁岩	奥羽山脈
52	II H 9 b	Ⅳ上	石器内有	3.0	1.8	0.8	3.1	頁岩質岩	奥羽山脈
53	II H 9 b	Ⅳ上	石器内有	(2.2)	1.0	0.3	0.5	頁岩質岩	奥羽山脈
54	II H 9 b	Ⅳ上	石器内有	(1.7)	1.7	0.5	0.8	頁岩	奥羽山脈
55	II H 9 b	Ⅳ上	石器内有	(2.5)	2.0	0.4	1.2	頁岩	奥羽山脈
56	II H 9 b	Ⅳ上	石器内有	1.8	1.2	0.3	0.6	頁岩	奥羽山脈
57	II H 9 b	Ⅳ上	石器内有	1.8	1.7	0.5	0.9	珪化木	奥羽山脈
58	II H 9 b	Ⅳ上	石器内有	2.2	1.3	0.3	0.5	頁岩	奥羽山脈
59	II H 9 c	Ⅳ上	石器内有	2.0	1.4	0.4	1.2	頁岩	奥羽山脈
60	II H 9 c	Ⅳ上	石器内有	3.4	1.9	0.7	3.1	頁岩	奥羽山脈
61	II H 9 c	Ⅳ上	石器内有	1.8	1.1	0.4	0.6	頁岩	奥羽山脈
62	II H 9 c	地表	石器内有	(1.7)	0.9	0.3	0.3	頁岩	奥羽山脈
63	II H 9 d	Ⅳ上	石器内有	2.4	1.4	0.4	1.0	赤色頁岩	奥羽山脈
64	II H 9 d	Ⅳ上	石器内有	3.1	2.0	0.7	3.9	頁岩質岩	奥羽山脈

第34図 縄文時代の石器④



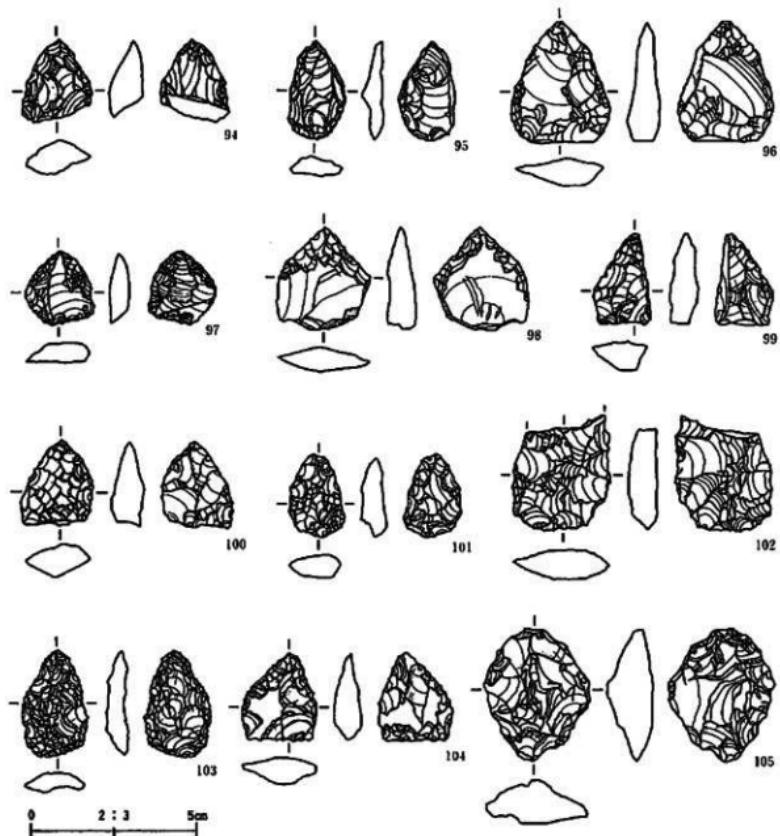
番号	出土地点	層位	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	产地
65	Ⅲ H 9 i	N上	石器凸有	1.9	1.1	0.3	0.6	珪質頁岩	奥羽山脈
66	Ⅲ H 9 j	N上	石器内有	(3.3)	1.5	0.3	1.6	頁岩	奥羽山脈
67	Ⅲ G 2 j	N上	石器内有	3.1	1.7	0.4	1.4	頁岩	奥羽山脈
68	Ⅲ H 0 d	N?	石器内有	2.9	1.5	0.6	1.4	頁岩	奥羽山脈
69	Ⅲ H 1 b	N上	石器凸有	(1.8)	1.5	0.4	0.8	頁岩	奥羽山脈
70	Ⅲ H 3 c	N上	石器内有	4.3	1.9	0.3	2.3	頁岩	奥羽山脈
71	Ⅲ H 3 i	C 1 i	石器凸有	(1.3)	1.1	0.3	0.4	頁岩	奥羽山脈
72	19P353		石器凹無	(2.3)	1.7	0.3	1.1	頁岩	奥羽山脈?
73	Ⅲ H 9 a	N上	石器凹無	(2.4)	2.4	0.4	2.0	頁岩	奥羽山脈
74	Ⅲ H 0 a	N F	石器凹無	2.7	1.5	0.4	1.3	頁岩	奥羽山脈
75	Ⅲ H 0 i	C 1 d	石器凹無	(2.2)	1.9	0.3	1.1	黑曜石	不明
76	Ⅲ H 4 d	N F	石器凹無	(2.8)	2.1	0.3	1.6	頁岩	奥羽山脈
77	Ⅲ H 5 b	V F	石器凹無	(3.0)	1.4	0.5	1.9	頁岩	奥羽山脈
78	Ⅲ H 6 g	Ⅲ	石器凹無	(2.6)	1.2	0.4	1.2	頁岩	奥羽山脈
79	Ⅲ H 8 d	V	石器凹無	1.9	1.3	0.3	0.5	頁岩	奥羽山脈

第35図 縄文時代の石器⑤



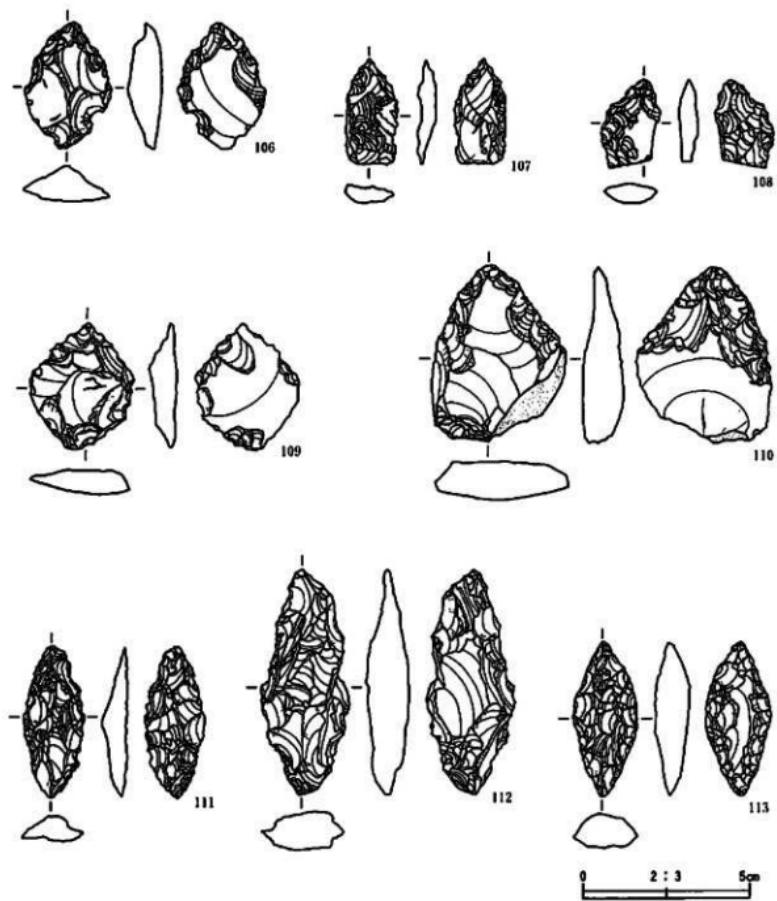
番号	出土地点	層位	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	産地
80	ⅣH 1 e	V上	石鋸切削器	1.7	1.5	0.3	0.9	頁岩	奥羽山脈
81	ⅣH 1 j	C 1 b	石鋸切削器	2.8	1.5	0.1	1.7	頁岩	奥羽山脈？
82	ⅣH 2 j	C 1 b	石鋸切削器	2.2	1.1	0.3	0.8	頁岩	奥羽山脈
83	ⅣS D 6 Ⅱ G 8 j		石鋸平打	1.9	1.0	0.3	0.5	頁岩	奥羽山脈
84	ⅢH 5 f	鐵丸	石鋸平打	1.7	1.6	0.4	1.0	黑曜石	小明
85	ⅢH 7 e	Ⅲ	石鋸平打	2.6	1.2	0.4	1.2	頁岩	奥羽山脈
86	ⅣH 3 i	C 1 r	石鋸子鉗	2.7	1.4	0.5	1.2	頁岩	奥羽山脈
87	ⅣH 1 e	V上	石鋸尖端器	3.4	1.1	0.5	1.7	頁岩	奥羽山脈
88	ⅡG 9 i	N	尖端器	2.9	2.3	1.0	5.1	メノウ	奥羽山脈
89	ⅡG 9 j	N上	尖端器	3.5	1.9	0.8	4.5	頁岩	奥羽山脈
90	ⅡG 9 j	N上	尖端器	3.4	2.0	1.1	5.6	メノウ	奥羽山脈
91	ⅡH 8 a	N上	尖端器	2.5	1.6	0.9	3.5	頁岩	奥羽山脈
92	ⅡH 8 a	N上	尖端器	4.2	2.1	1.0	6.7	頁岩	奥羽山脈
93	ⅡH 8 a	N上	尖端器	2.9	2.1	0.9	6.2	珪化木	奥羽山脈

第36図 繩文時代の石器⑤



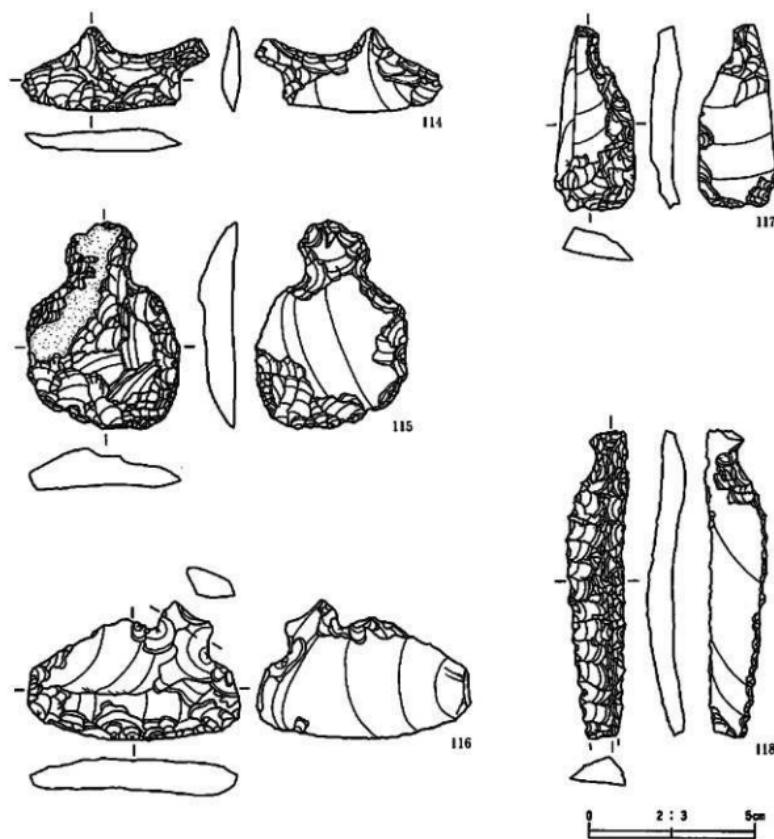
番号	出土地点	層位	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	产地
94	III H 8 a	Ⅴ上	尖頭器	2.4	2.1	1.0	3.8	赤色頁岩	奥羽山脈
95	III H 8 a	Ⅴ上	尖頭器	2.9	1.6	0.6	3.4	赤色頁岩	奥羽山脈
96	III H 8 a	Ⅴ上	尖頭器	3.6	2.9	0.7	9.7	頁岩	奥羽山脈
97	III H 8 a	Ⅴ上	尖頭器	2.2	2.0	0.6	3.0	頁岩	奥羽山脈
98	III H 8 a	Ⅴ上	尖頭器	3.1	2.9	0.9	7.3	頁岩	奥羽山脈
99	III H 8 b	Ⅴ上	尖頭器	2.7	1.6	0.8	4.1	赤色頁岩	奥羽山脈
100	III H 8 b	Ⅴ上	尖頭器	2.1	2.0	0.9	5.1	頁岩	北上山地
101	III H 8 b	Ⅴ上	尖頭器	2.5	1.7	0.8	3.3	頁岩	奥羽山脈
102	III H 9 a	Ⅴ上	尖頭器	(3.4)	3.0	0.9	8.3	綠色木	奥羽山脈
103	III H 9 a	Ⅴ上	尖頭器	3.2	2.0	0.7	4.0	赤色頁岩	奥羽山脈
104	III H 9 a	Ⅴ上	尖頭器	2.6	2.2	0.8	1.8	赤色頁岩	奥羽山脈
105	III H 9 a	Ⅴ上	尖頭器	3.9	3.2	1.3	14.6	赤色頁岩	奥羽山脈

第37図 繩文時代の石器⑦



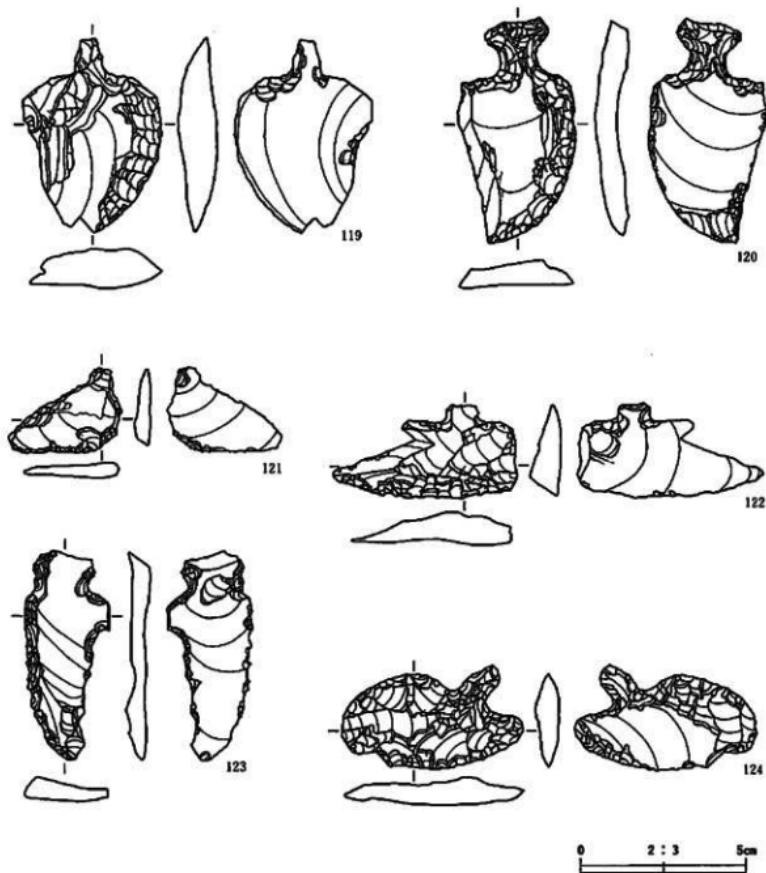
番号	出土地点	層位	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	東地
106	三羽山	Ⅳ上	尖頭器	3.8	2.6	1.0	7.9	頁岩	奥羽山脈
107	三羽山	Ⅳ上	尖頭器	3.1	1.5	0.5	2.9	珪化木	奥羽山脈
108	三羽山	Ⅳ上	尖頭器	2.5	1.6	0.4	2.8	頁岩	奥羽山脈
109	三羽山	Ⅳ上	尖頭器	3.7	3.1	0.8	9.0	頁岩	奥羽山脈
110	三羽山	Ⅳ上	尖頭器	5.3	4.0	1.2	24.3	頁岩	奥羽山脈
111	三羽山	V	尖頭器	4.6	1.8	0.8	5.7	頁岩	奥羽山脈
112	三羽山	Ⅳ下	尖頭器	6.7	2.7	1.3	18.6	ホルンフェルス	北上山地
113	不明	?	尖頭器	4.6	2.0	1.0	8.2	頁岩	奥羽山脈

第38図 縄文時代の石器⑥



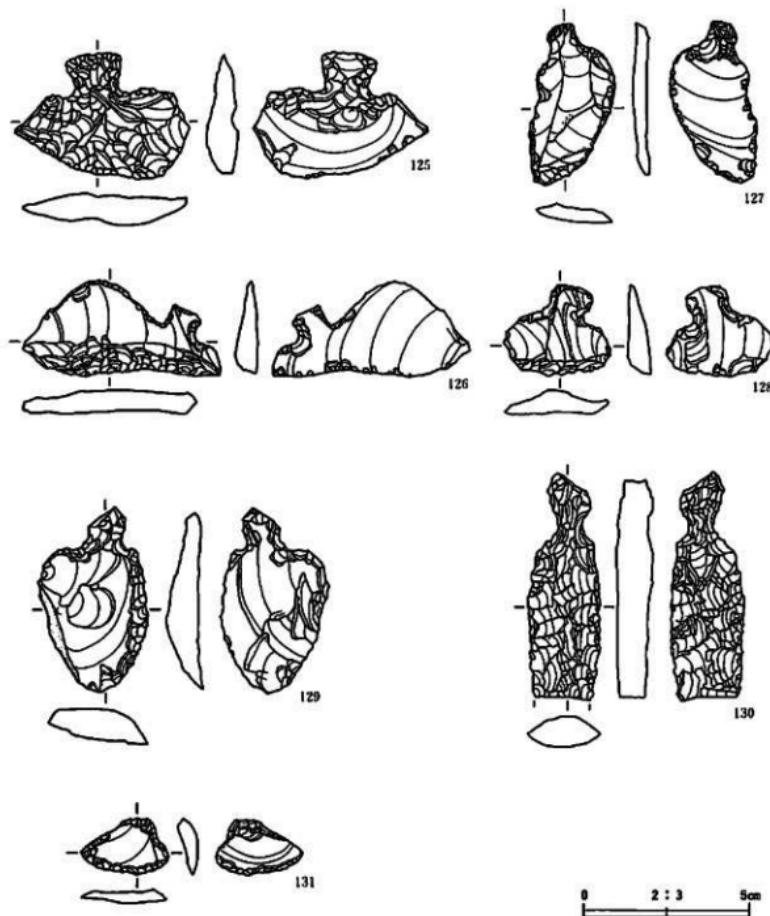
番号	出土地点	層位	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	産地
114	E G O j	鹿廻	石芯(縞)	2.5	5.6	0.6	6.6	珪質頁岩	奥羽山脈
115	B H 8 b	背土	石芯(縞)	6.2	4.6	1.2	30.8	赤色頁岩	奥羽山脈
116	19 S K 8	1	石芯(縞)	4.1	6.5	1.1	27.6	頁岩	奥羽山脈
117	E G 9 j	背土	石芯(縞)	5.6	2.3	0.9	11.3	頁岩	奥羽山脈
118	E H O n	背土	石芯(縞)	(9.2)	1.9	0.8	12.3	頁岩	奥羽山脈

第39図 縄文時代の石器⑨



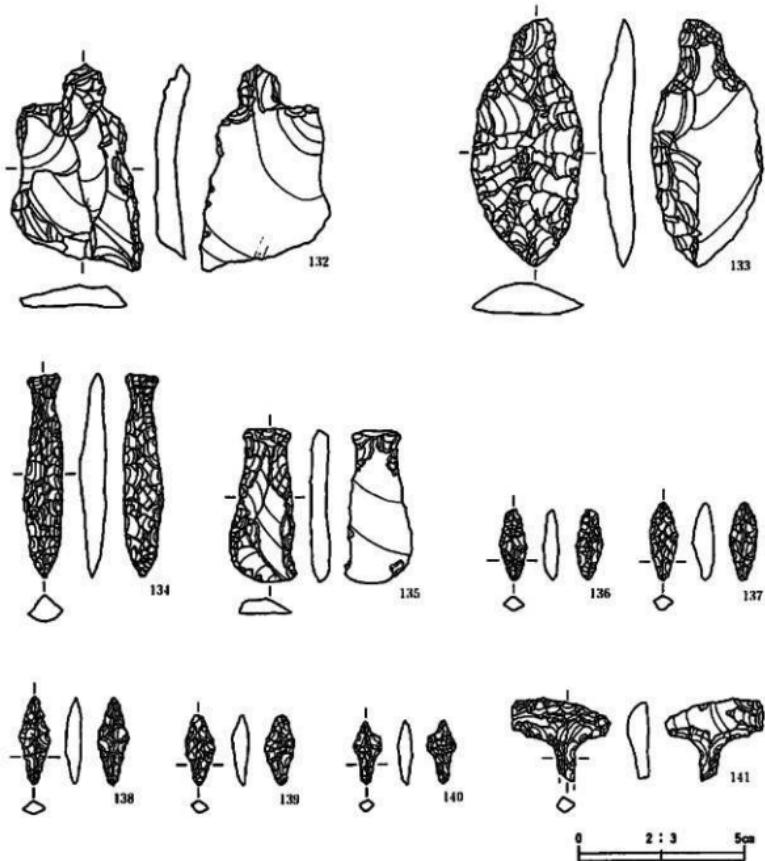
番号	出土地点	層位	地質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	産地
119	II H 0 b	Ⅳ上	石路(砾)	5.8	4.2	1.2	24.8	頁岩	奥羽山脈
120	II H 8 a	Ⅳ上	石路(砾)	6.7	3.5	1.0	19.4	頁岩	奥羽山脈
121	II H 8 b	Ⅳ上	石路(砾)	3.0	3.5	0.5	3.0	頁岩	奥羽山脈
122	II H 8 b	Ⅳ上	石路(砾)	2.8	5.6	0.8	10.6	頁岩	奥羽山脈
123	II H 8 c	Ⅳ上	石路(砾)	6.3	2.5	0.6	9.7	頁岩	奥羽山脈
124	II H 9 a	Ⅳ上	石路(砾)	3.2	5.5	0.8	12.8	赤色頁岩	奥羽山脈

第40図 繩文時代の石器⑮



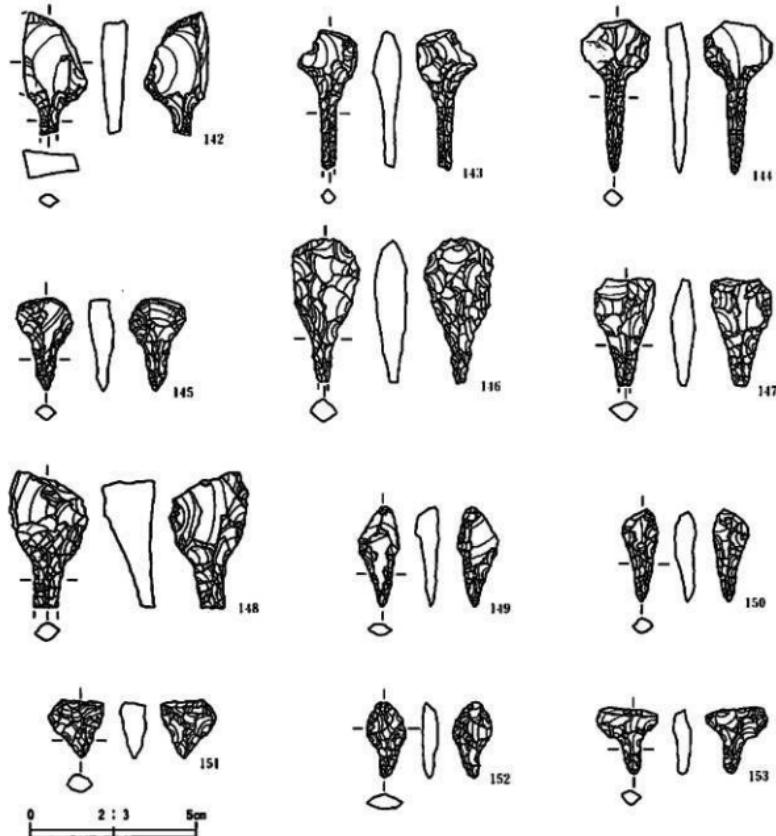
番号	出土地点	層位	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	产地
125	IIH 9 a	Ⅳ上	石槌(楕)	3.6	4.9	0.7	14.7	頁岩	奥羽山脈
126	IIH 9 a	Ⅳ上	石槌(楕)	2.9	5.2	0.6	9.3	頁岩	奥羽山脈
127	IIH 9 a	Ⅳ上	石槌(楕)	4.8	2.6	0.5	5.2	頁岩	奥羽山脈
128	IIH 9 b	Ⅳ上	石槌(楕)	2.7	3.1	0.7	4.8	玲貴頁岩	奥羽山脈
129	IIH 9 b	Ⅳ上	石槌(楕)	5.5	3.3	1.0	15.3	頁岩	奥羽山脈
130	IIH 9 c	Ⅳ上	石槌(楕)	(6.6)	2.2	1.1	16.7	頁岩	奥羽山脈
131	IIH 9 d	Ⅳ上	石槌(楕)	1.7	2.6	0.6	1.9	頁岩	奥羽山脈

第41図 縄文時代の石器①



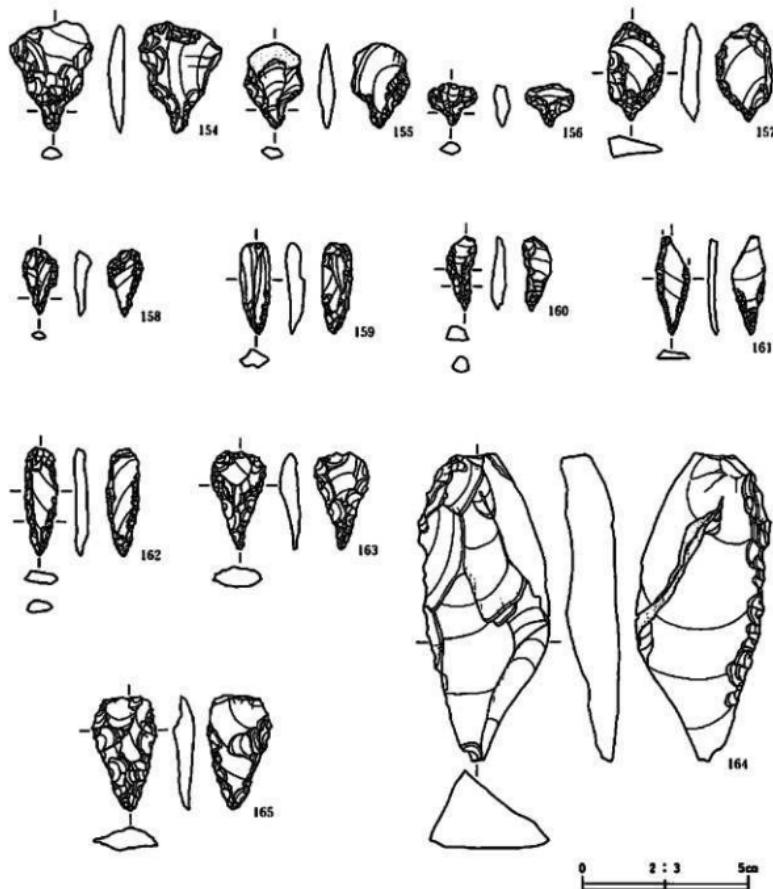
番号	出土地点	層位	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	産地
132	II H 9 d	II上	石器(縫)	6.1	4.0	0.7	17.1	頁岩	奥羽山脈
133	III H 6 e	V	石器(縫)	7.4	3.4	1.0	20.6	メノウ	奥羽山脈
134	III H 7 c	V	石器(縫)	6.0	1.1	0.8	4.4	頁岩	奥羽山脈?
135	III H 7 f	III	石器(縫)	4.6	1.9	0.6	5.4	頁岩	奥羽山脈
136	II G 8 a	II上	石器 I	2.1	0.8	0.1	0.7	頁岩	奥羽山脈
137	II H 8 a	II上	石器 I	2.3	0.8	0.6	1.0	頁岩	奥羽山脈
138	II H 8 a	II上	石器 I	2.6	0.9	0.1	0.9	頁岩	奥羽山脈
139	II H 9 a	II上	石器 I	2.1	0.9	0.5	0.7	頁岩	奥羽山脈
140	II H 9 d	II上	石器 I	1.9	0.9	0.1	0.4	頁岩	奥羽山脈
141	II H 8 a	II上	石器 II	(2.5)	3.0	0.6	3.3	頁岩	奥羽山脈

第42図 縄文時代の石器②



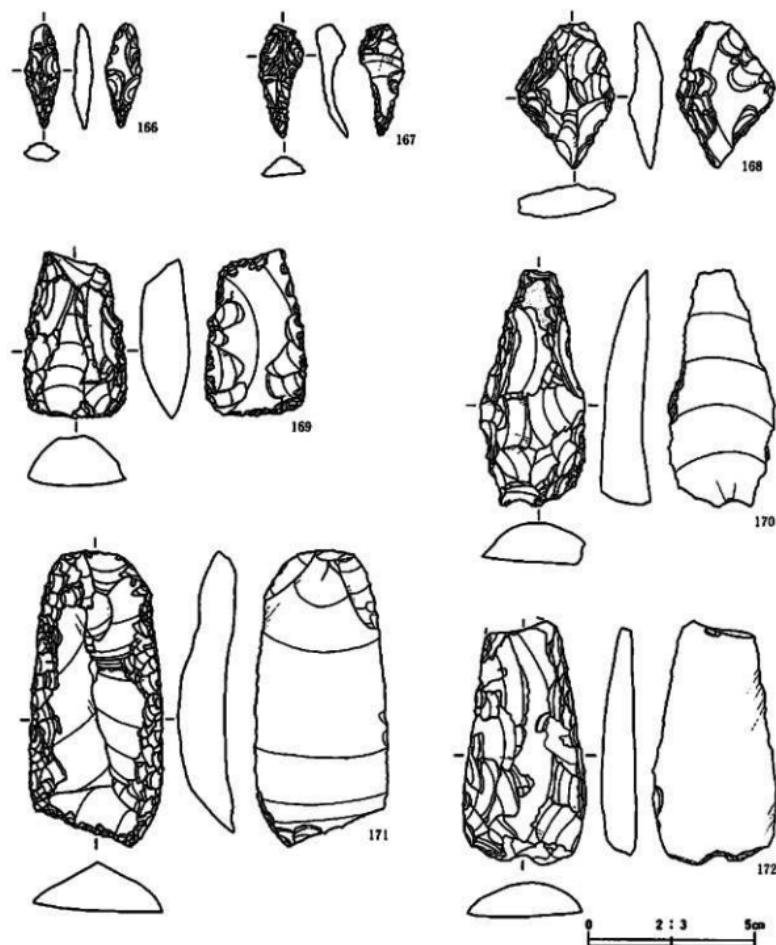
番号	出土地点	層位	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	产地
142	II H 8 b	IV上	石鏟Ⅱ	(3.7)	1.9	0.8	5.1	頁岩	奥羽山脈
143	II H 9 a	IV上	石鏟Ⅱ	(4.2)	1.8	0.8	3.3	頁岩	奥羽山脈
144	II H 9 b	IV上	石鏟Ⅱ	4.6	2.1	0.6	3.0	頁岩	奥羽山脈
145	II G 9 j	IV上	石鏟Ⅲ	2.7	1.7	0.7	2.8	頁岩	奥羽山脈
146	II H 8 b	IV上	石鏟Ⅲ	4.3	2.0	0.9	6.6	珪化木	奥羽山脈
147	II H 8 b	IV上	石鏟Ⅲ	(3.2)	1.8	0.7	2.9	小色頁岩	奥羽山脈
148	II H 9 a	IV上	石鏟Ⅲ	(4.0)	2.3	1.5	12.0	頁岩	奥羽山脈
149	II H 9 a	IV上	石鏟Ⅲ	3.0	1.2	0.7	1.7	頁岩	奥羽山脈
150	II H 9 b	IV上	石鏟Ⅲ	2.7	1.1	0.6	1.4	頁岩	奥羽山脈
151	19 S D 6 II G 9 j	現土上	石鏟Ⅳ	1.7	1.7	0.8	2.1	赤色頁岩	奥羽山脈
152	II H 8 a	IV上	石鏟Ⅳ	2.3	1.2	0.5	0.8	珪化木	奥羽山脈
153	II H 8 b	IV上	石鏟Ⅳ	2.0	1.8	0.5	0.9	頁岩	奥羽山脈

第43図 繩文時代の石器⑬



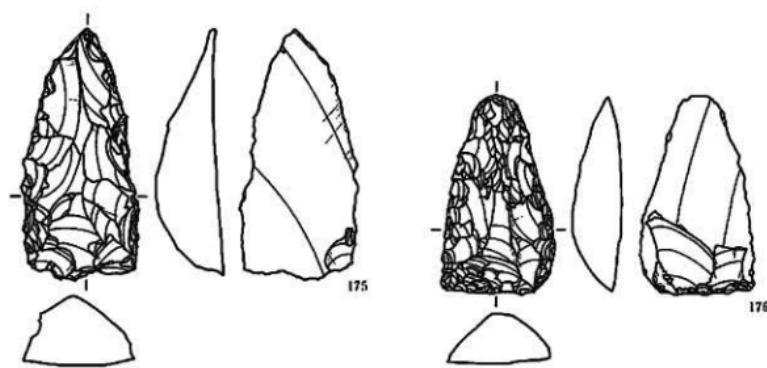
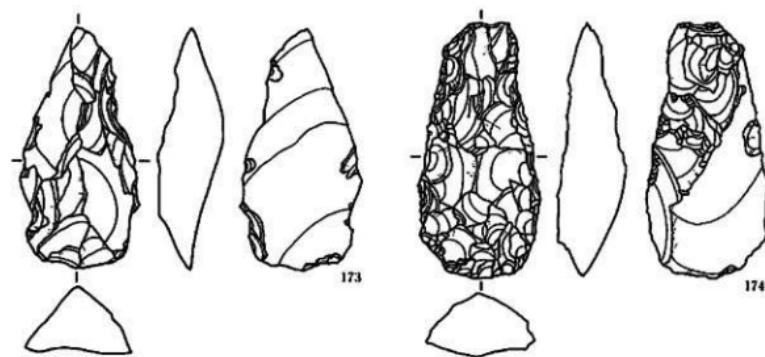
番号	出土地点	層位	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	産地
154	II H 9 a	IV上	石鋸Ⅳ	3.3	2.5	0.5	2.6	珪化木	奥羽山脈
155	II H 9 a	IV上	石鋸Ⅳ	2.6	1.7	0.5	1.8	頁岩	奥羽山脈
156	II H 9 b	IV上	石鋸Ⅳ	1.3	1.5	0.4	0.6	珪質頁岩	奥羽山脈
157	II H 9 b	IV上	石鋸Ⅳ	3.0	1.7	0.6	2.9	頁岩	奥羽山脈
158	II H 9 b	IV上	石鋸Ⅳ	2.0	1.0	0.5	0.8	頁岩	奥羽山脈
159	195 D 6 II G 8 j		石鋸V	2.7	0.9	0.6	1.3	珪質頁岩	奥羽山脈
160	II H 8 a	IV上	石鋸V	2.2	0.9	0.4	0.7	頁岩	奥羽山脈
161	II H 8 a	IV上	石鋸V	(2.9)	1.0	0.2	0.8	頁岩	奥羽山脈
162	II H 8 a	IV上	石鋸V	3.2	1.0	0.3	1.4	頁岩	奥羽山脈
163	III H 6 d	V	石鋸	2.9	1.7	0.5	2.3	頁岩	奥羽山脈?
164	III H 7 e	V	石鋸	9.3	4.1	2.4	58.1	ノノウ	奥羽山脈
165	III H 7 f	V	石鋸	3.4	1.9	0.6	3.7	頁岩	奥羽山脈?

第44図 繩文時代の石器④



番号	出土地点	層位	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	産地
166	Ⅲ H 8 c	V	石鑿	3.1	1.1	5.1	1.1	頁岩	鳥羽山脈
167	Ⅲ H 8 c	Ⅳ下	石鑿	3.3	1.3	0.8	1.7	頁岩	奥羽山脈？
168	Ⅲ H 8 c	V	石鑿	4.3	2.9	1.0	10.1	メノウ	鳥羽山脈
169	Ⅲ S D 1 Ⅲ H 6 d		石鑿	5.0	3.0	1.5	24.6	頁岩	鳥羽山脈
170	Ⅱ G 0 j	Ⅳ上	石鑿	7.0	3.2	1.5	31.9	頁岩	鳥羽山脈
171	Ⅱ G 8 j	Ⅳ上	石鑿	8.8	4.1	1.8	59.0	頁岩	鳥羽山脈
172	Ⅲ H 0 d	表土	石鑿	(7.2)	3.7	1.0	35.3	ホルンフェルス	北上山地

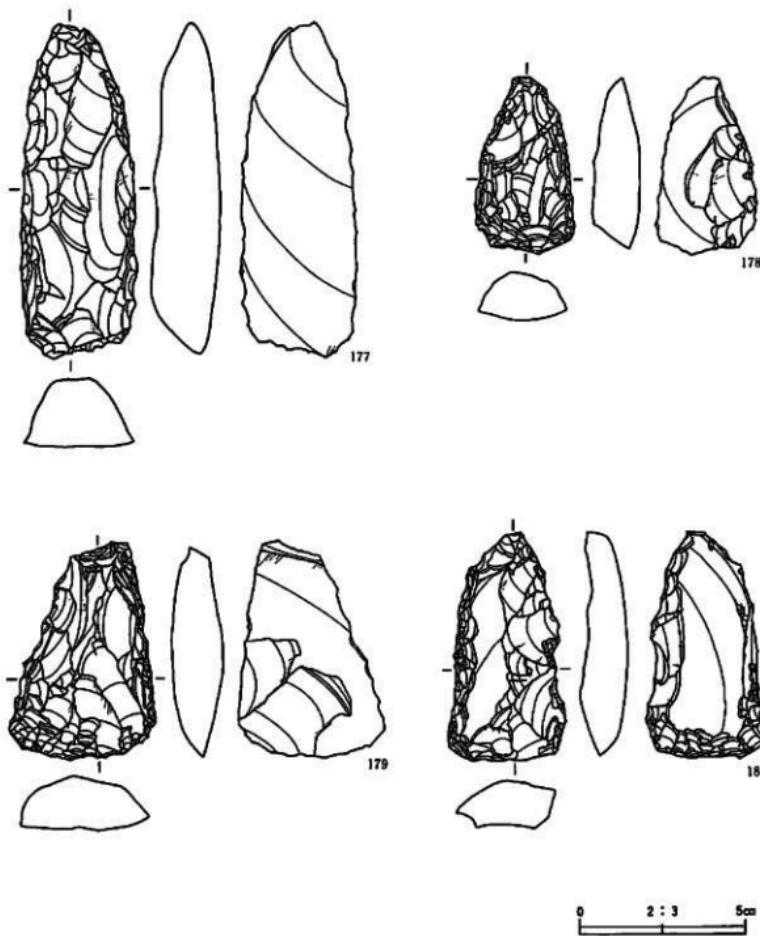
第45図 縄文時代の石器⑮



0 2 : 3 5cm

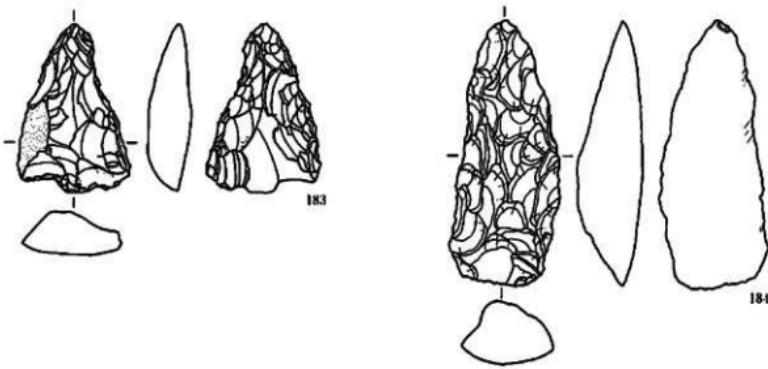
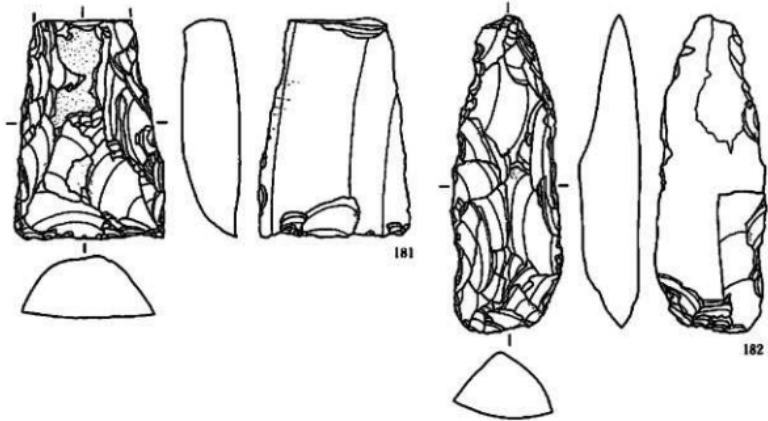
番号	出土地点	層位	特徴	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	産地
173	ⅢH 2 g	5	石器	7.2	3.6	2.0	41.8	ホルンフェルス	奥羽山脈
174	ⅢH 3 h	5	石器	7.6	3.7	2.1	50.7	頁岩	奥羽山脈
175	ⅢH 5 g	N'F	石器	7.5	3.6	2.1	47.4	頁岩	奥羽山脈？
176	ⅢH 6 g	6	石器	5.9	3.4	1.5	28.9	頁岩	奥羽山脈

第46図 縄文時代の石器⑤



番号	出土地点	層位	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	産地
177	ⅢH 7 f	B'下	石器	9.9	3.6	1.9	94.3	ホルンフェルス	北上山地
178	ⅢH 7 f	V	石器	5.2	3.0	1.4	20.3	頁岩	奥羽山脈
179	ⅢH 7 g	混乱	石器	6.4	4.4	1.6	45.6	頁岩	奥羽山脈
180	ⅢH 7 i	C 5 b	石器	6.7	3.6	1.4	37.2	頁岩	奥羽山脈

第47図 繩文時代の石器①



0 2 : 3 5cm

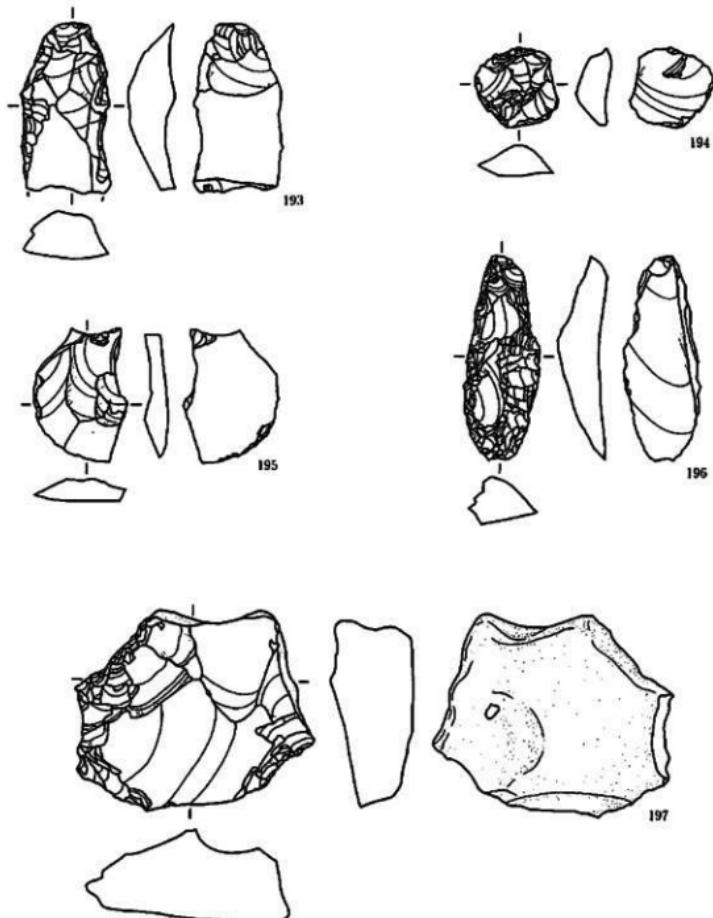
番号	出土地点	場所	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	产地
181	Ⅲ H 9 a	前上	石器	(6.4)	4.5	1.8	66.3	頁岩	奥羽山脈
182	Ⅲ H 9 g	亂	石器	9.3	3.4	1.9	60.5	ホルンフェルス	北上山地
183	Ⅲ H 4 i	C 1 i	石器	4.9	3.4	1.3	19.6	頁岩	北上山地
184	Ⅲ H 4 j	C 1 q	石器	7.8	3.4	2.0	46.2	ホルンフェルス	北上山地

第48図 縄文時代の石器⑩



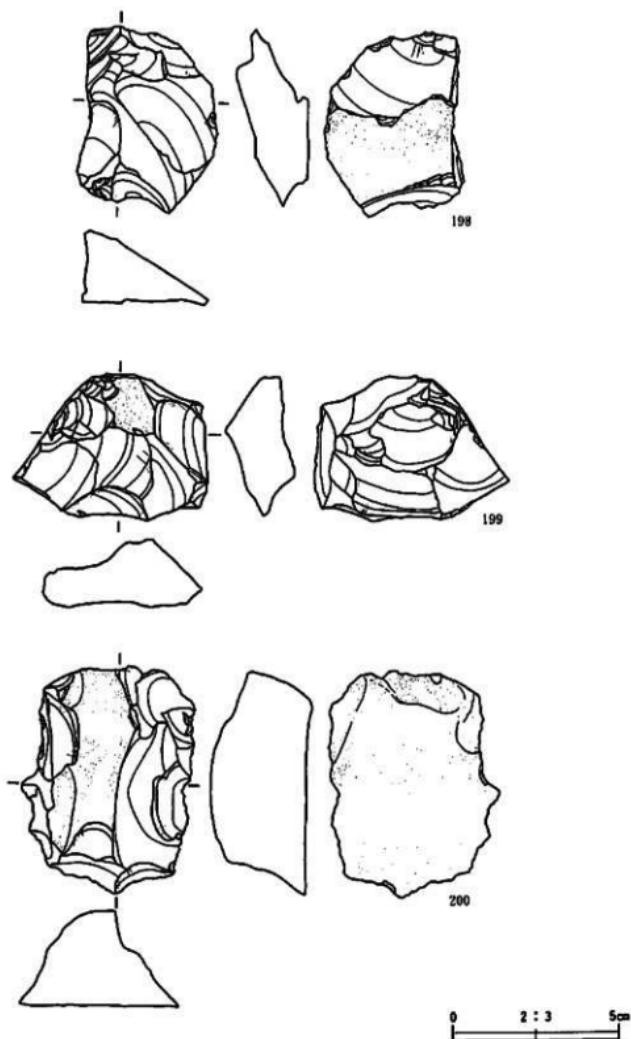
番号	出土地点	層位	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	产地
185	II H 9 a	Ⅲ上	圓形石器	1.8	2.3	0.6	1.7		
186	II H 8 a	Ⅲ上	橢形石器	3.0	2.0	1.5	9.1	珪化木	奥羽山脈
187	II H 8 a	Ⅲ上	圓形石器	2.8	2.0	0.8	6.1	頁岩	奥羽山脈
188	II H 7 e	V	圓形石器	3.2	2.1	1.1	6.8	頁岩	奥羽山脈？
189	II H 8 e	V	橢形石器	(2.2)	2.5	0.8	4.7	白雲母	奥羽山脈
190	II H 9 e	Ⅲ上	橢形石器	2.7	2.2	1.1	5.9	白雲母	奥羽山脈？
191	II H 8 f	Ⅲ F	不定形	5.9	3.95	1.4	37.5	白雲母	奥羽山脈
192	II H 5 f	V	橢形	5.9	2.3	1.5	23.7	白雲母	奥羽山脈

第49図 縄文時代の石器⑩



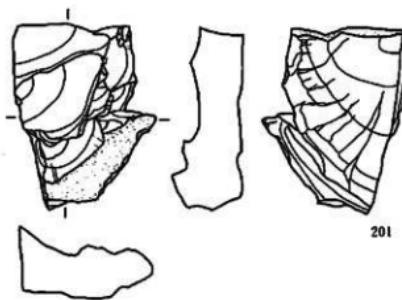
番号	出土地点	層位	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	产地
193	ⅢH 6 d	V	核器	5.0	2.7	1.3	18.3	頁岩	奥羽山脈
194	ⅢH 6 e	V	核器	2.4	2.5	0.9	4.8	頁岩	奥羽山脈
195	ⅢH 7 d	IV	核器	3.9	2.9	0.7	8.0	頁岩	奥羽山脈
196	ⅢH 7 f	V	核器	6.0	2.2	1.5	15.5	頁岩	奥羽山脈
197	ⅢH 4 b	V	純核	5.4	7.2	2.8	123.0	頁岩	奥羽山脈

第50図 縄文時代の石器②

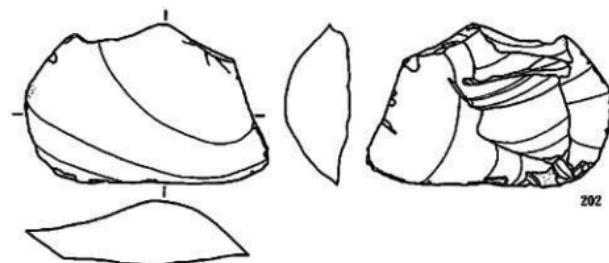


番号	出土地点	層位	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	産地
198	ⅢH 5 c	V	残核	5.5	4.2	2.2	37.2	頁岩	奥羽山脈
199	ⅢH 9 d	V	残核	4.0	5.5	1.9	34.8	頁岩	奥羽山脈
200	ⅢH 9 e	VI	残核	6.3	4.8	2.8	76.0	頁岩	奥羽山脈

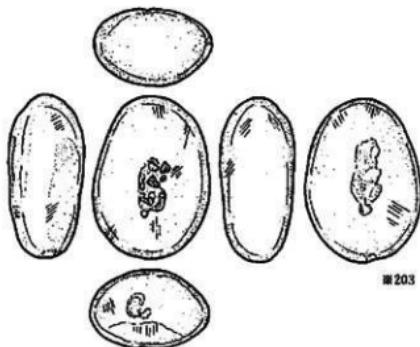
第51図 縄文時代の石器①



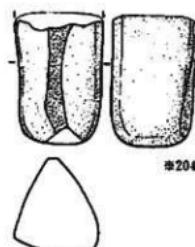
201



202



203

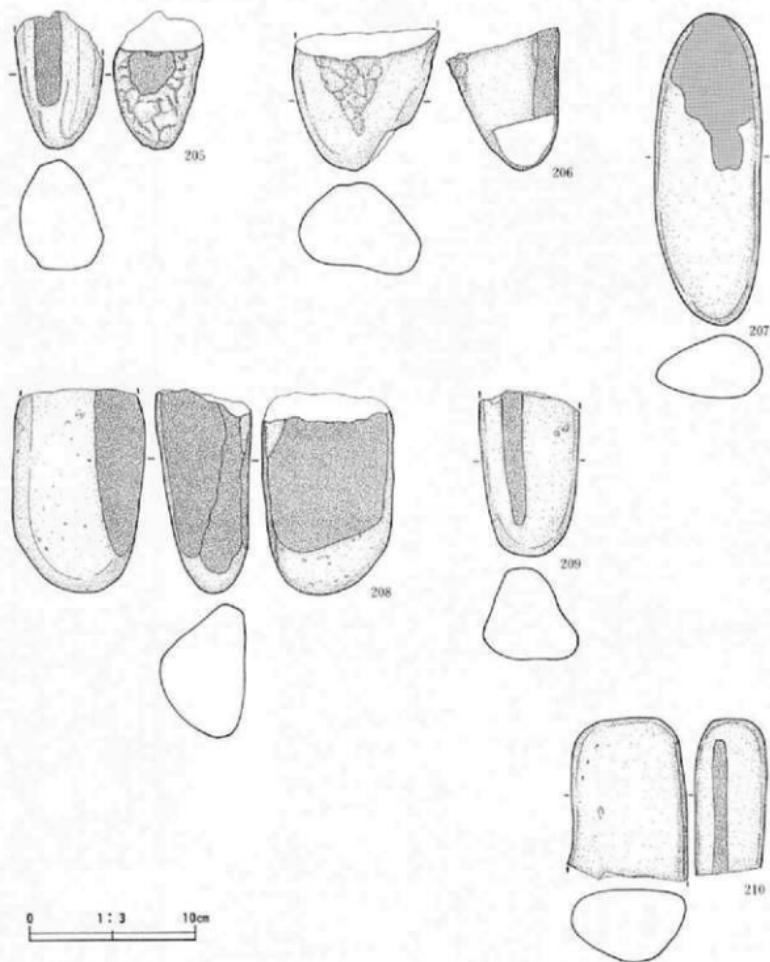


204

基 (1 : 3)  
2 : 3  
10cm  
5cm

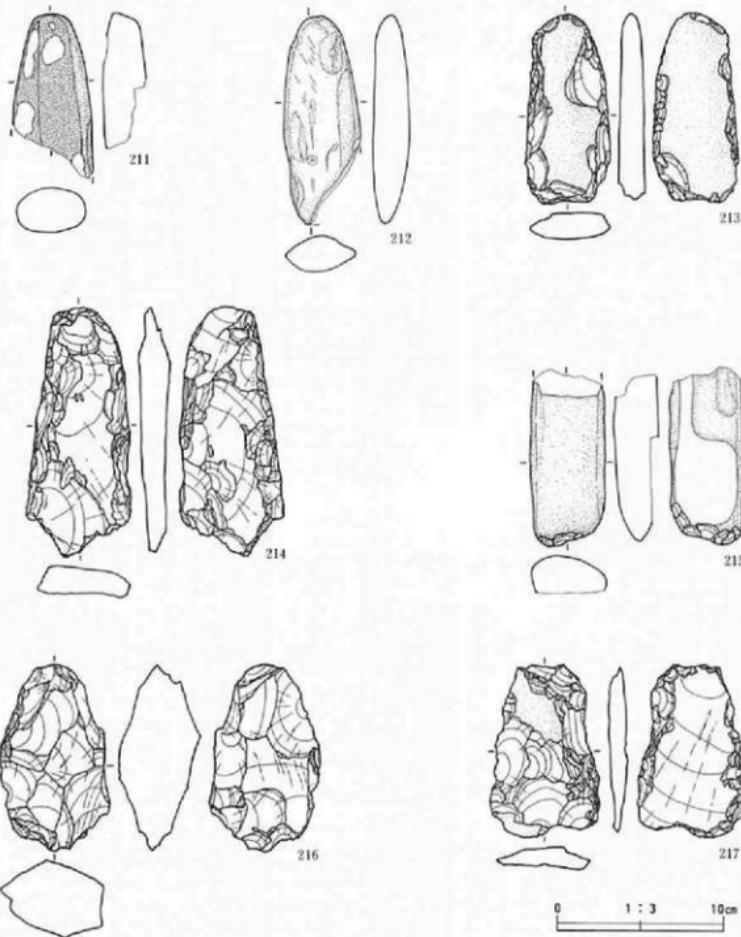
番号	出土地点	層位	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	产地
201	Ⅲ H 4 a	V上	剥片	5.5	4.3	2.0	47.1	頁岩	奥羽山脈?
202	Ⅲ H 7 e	V	剥片	4.7	7.3	1.9	61.0	メノウ	奥羽山脈
203	19S K24		磨石頭	9.7	7.1	4.5	422.1	安山岩	奥羽山脈?
204	Ⅲ G 7 j	V	特殊磨石	(7.7)	5.4	5.7	330.1	安山岩	奥羽山脈?

第52図 繪文時代の石器②



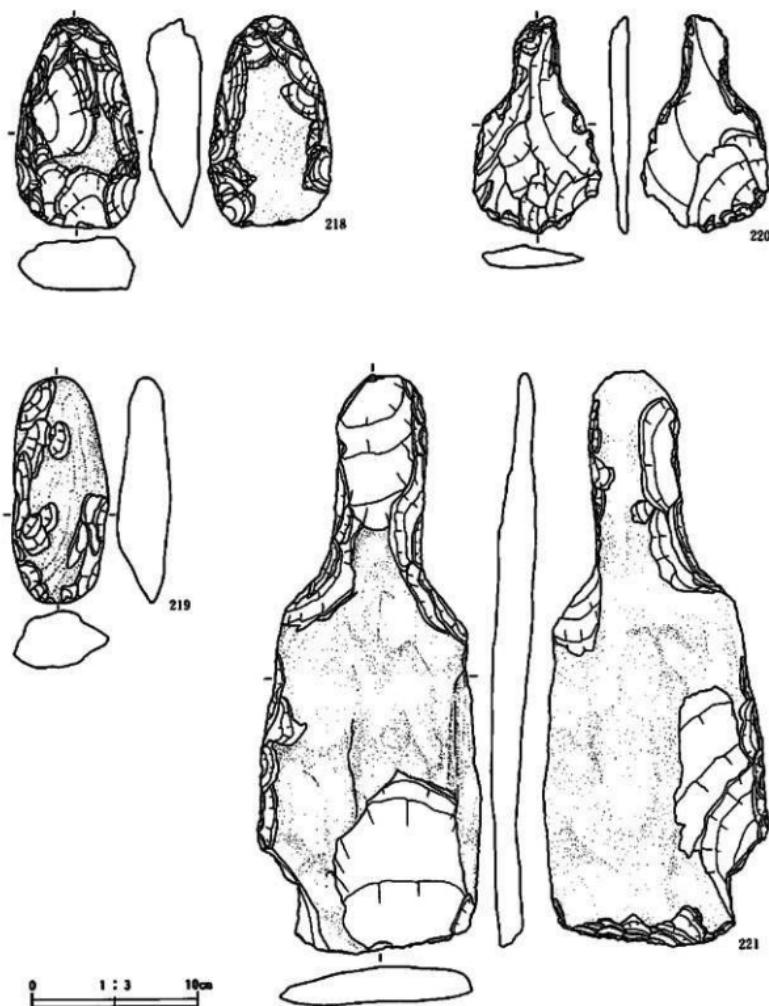
番号	出土地点	層位	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	产地
205	III H.3 b	V F	特殊磨石	(8.1)	4.8	6.5	312.8	安山岩	奥羽山脈
206	III H.3 c	V	特殊磨石	(8.5)	8.9	5.5	473.0	安山岩	奥羽山脈
207	III H.5 f	V F	特殊磨石	18.5	6.4	3.7	678.1	安山岩	奥羽山脈
208	III H.5 g	V F	特殊磨石	(12.0)	7.8	5.8	268.1	安山岩	奥羽山脈
209	III H.8 c	V F	特殊磨石	(9.8)	6.0	5.5	418.6	安山岩	奥羽山脈
210	III H.9 e	II	特殊磨石	(9.5)	6.9	4.2	514.1	安山岩	奥羽山脈

第53図 繩文時代の石器②



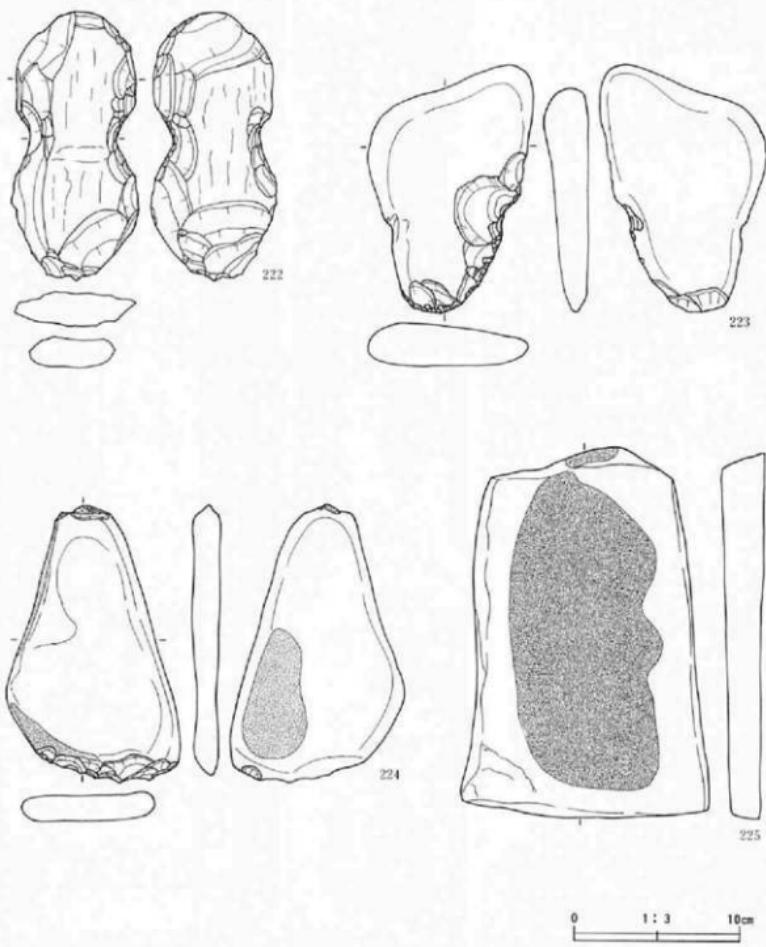
番号	出土地点	層位	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	産地
211	Ⅲ H 0 c	N上	磨製石斧	(9.7)	4.9	2.6	143.8	閃綠岩	北上山地
212	Ⅲ H 7 e	N下	磨製石斧	(12.3)	4.6	2.0	121.8	ホルンフェルス	北上山地
213	19S E 6 前半		打製石斧	11.3	5.2	1.6	127.5	頁岩	北上山地
214	II G 9 j	N上	打製石斧	14.8	6.3	1.9	203.1	頁岩	北上山地
215	II H 4 i	C 5 b	打製石斧	(10.5)	4.5	2.7	184.1	ホルンフェルス	北上山地
216	II H 9 a	N上	打製石斧	11.1	6.8	4.9	349.3	ホルンフェルス	北上山地
217	II H 9 a	N上	打製石斧	10.2	6.6	1.2	95.8	ホルンフェルス	北上山地

第54図 縄文時代の石器④



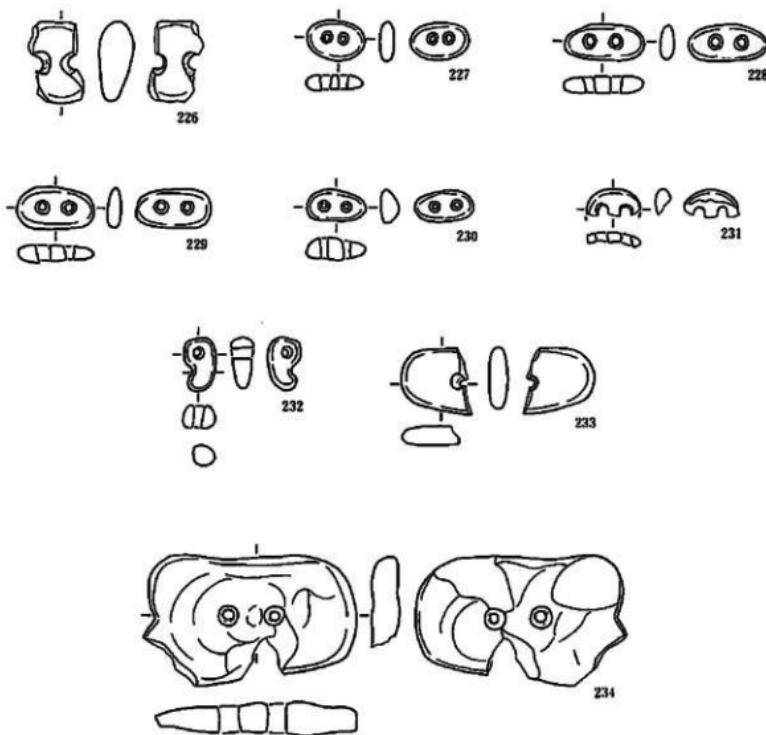
番号	出土上地点	層位	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	产地
218	Ⅲ G 1 j	Ⅳ上	打製石斧	12.6	7.5	3.2	399.0	燧灰岩	奥羽山脈
219	Ⅲ H 0 d	Ⅳ下	打製石斧	13.3	5.9	3.2	337.5	中ルンフェルス	北上山地
220	Ⅲ H 9 c	Ⅳ上	石鎌	12.9	7.8	1.1	169.0	熱板岩	北上山地
221	Ⅲ H 2 d	Ⅳ上	石鎌	34.5	13.6	2.3	1136.6	粘板岩	北上山地

第55図 繩文時代の石器②



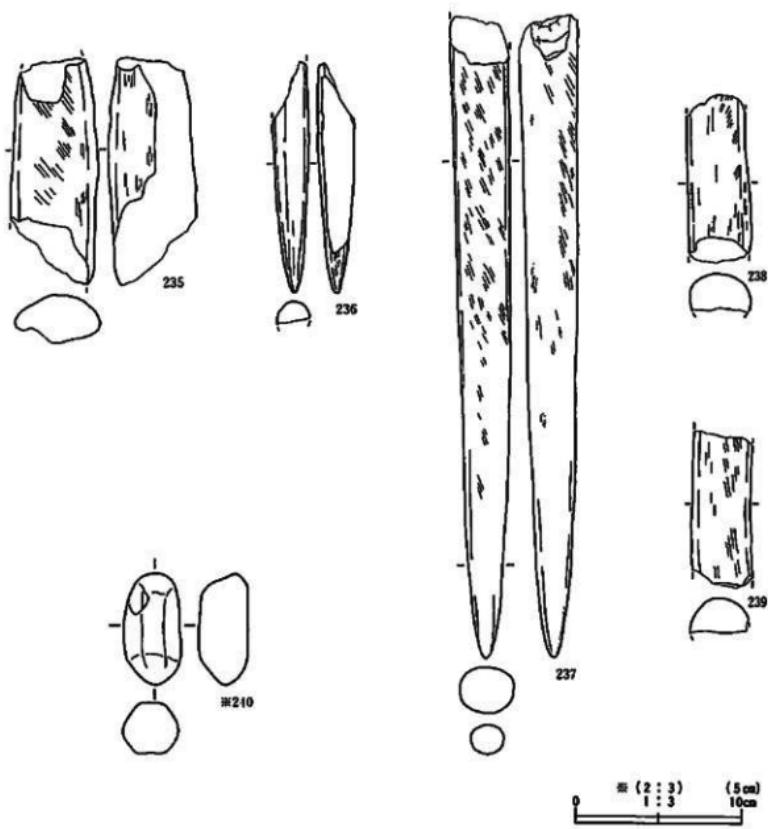
番号	出土地点	場位	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	産地
222	II H 4 a	Ⅳ上	石斧	16.0	7.7	2.1	312.7	カルンフェルス	北上山地
223	II H 8 b	Ⅳ	石斧	14.7	10.1	2.7	451.5	頁岩	北上山地
224	II H 8 b	Ⅳ	石斧	16.5	10.5	1.8	411.9	石英安山岩	奥羽山脈
225	II G 3 i	Ⅳ上	石斧	22.0	14.9	2.6	1544.0	安山岩	奥羽山脈

第56図 縄文時代の石器◎



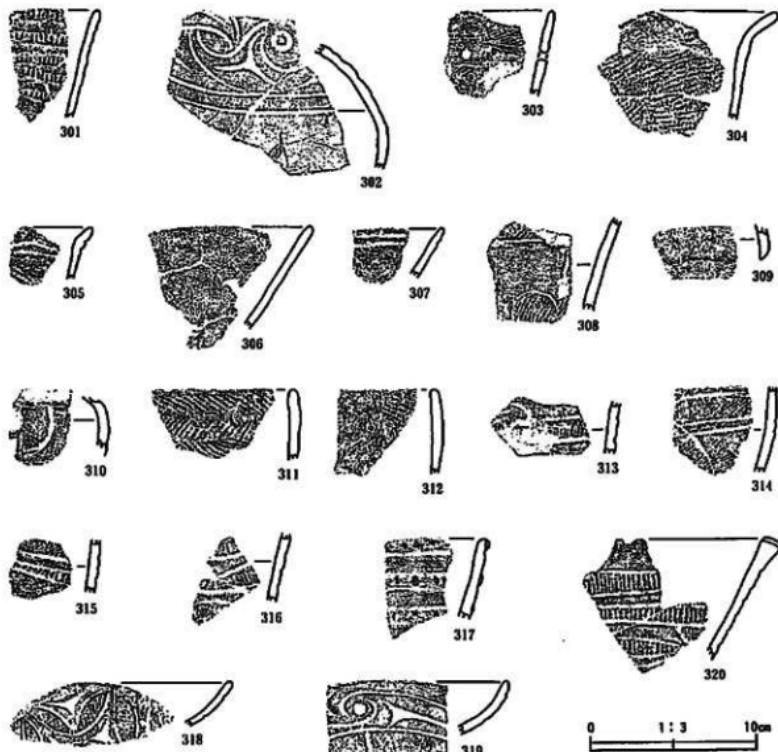
番号	出土地点	層位	後類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	产地
226	H G 9 j	Ⅳ上	有孔石製品	(3.2)	(2.2)	1.4	6.6	石英安山岩	奥羽山脈
227	H H 8 a	Ⅳ上	有孔石製品	1.6	2.3	0.5	2.6	石英安山岩	奥羽山脈
228	H H 8 n	Ⅳ上	有孔石製品	1.4	3.1	0.6	3.6	石英安山岩	奥羽山脈
229	H H 8 n	Ⅳ上	有孔石製品	1.6	3.1	0.5	3.9	石英安山岩	奥羽山脈
230	H H 8 a	Ⅳ上	有孔石製品	1.2	2.3	0.7	2.4	燧灰岩	奥羽山脈
231	H H 8 a	Ⅳ上	有孔石製品	(1.0)	2.1	0.5	1.1	燧灰岩	奥羽山脈
232	H H 9 n	Ⅳ上	有孔石製品	2.0	1.3	0.9	3.1	綠色變質岩	奥羽山脈
233	H H 9 c	Ⅳ上	有孔石製品	2.8	(2.6)	0.7	7.5	石英安山岩	奥羽山脈
234	H H 9 b	Ⅳ上	有孔石製品	5.2	8.5	1.1	43.8	燧灰岩	奥羽山脈

第57図 縄文時代の石製品①



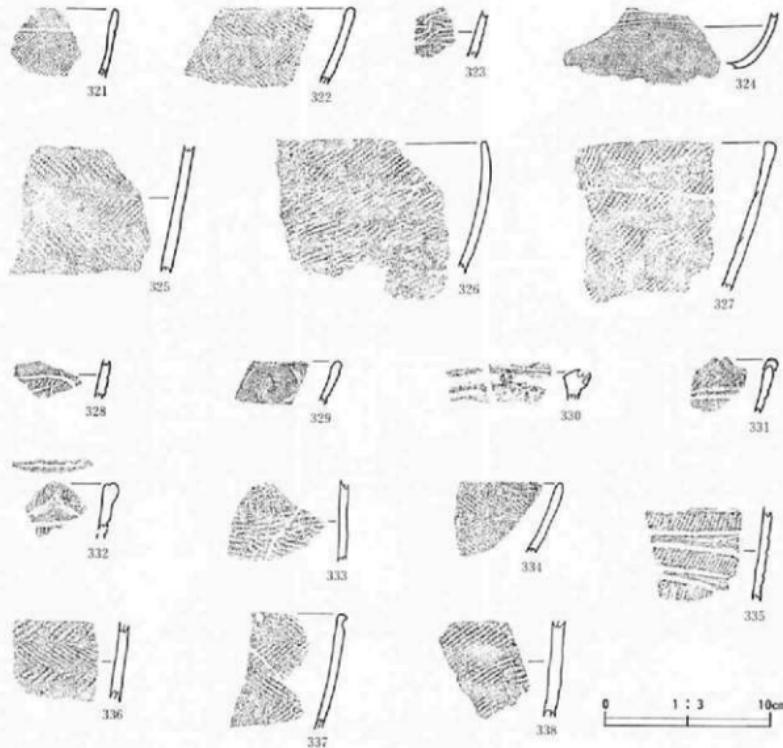
番号	出土地点	層位	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	産地
235	II H 8 b	Ⅱ	石刀	(13.5)	5.2	2.9	229.3	ホルンフェルス	北上山地
236	II G 9 j	Ⅱ上	石劍	(13.8)	2.2	(1.2)	41.6	熱板岩	北上山地
237	II G 9 i	Ⅱ中	石劍	38.5	3.6	2.7	512.7	熱板岩	北上山地
238	II H 8 a	Ⅱ上	石劍か石棒	(10.0)	3.8	(2.1)	89.9	頁岩	北上山地
239	II H 9 b	Ⅱ上	石劍か石棒	(9.1)	2.8	(2.1)	115.9	熱板岩	北上山地
240	II H 9 f	V	原石	3.3	1.7	1.5	12.0	滑水島	奥羽山脈?

第58図 縄文時代の石製品②



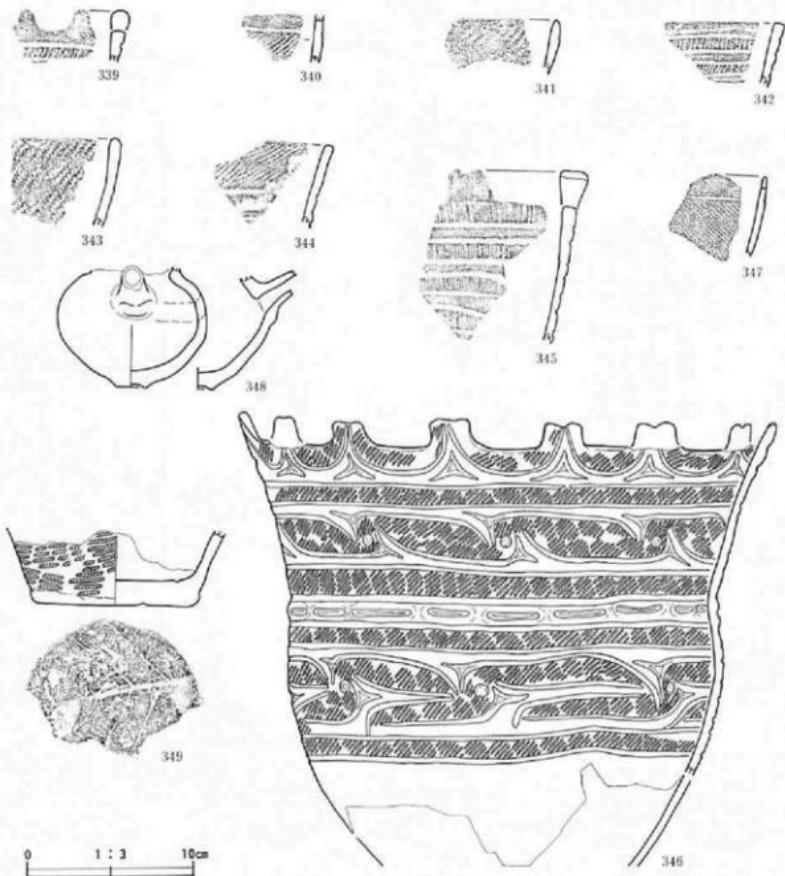
番号	出土地点	層位	器種	部位	文様ほか	地文	内面	分類	備考
301	19P 96	埋土	深鉢	口縁	横線平行彫線、入組文？斜目			磨耗	Ⅱ 3
302	19P 118	埋土	鉈	刃	横線平行彫線、呂巻文、三叉文、ミガキ	L R	ケメリ	Ⅱ 1 b	
303	19P 185	埋土	深鉢	口縁	横線平行彫線			磨耗	Ⅱ 3
304	19P 350	埋土	深鉢	口一削		L R ?	ミガキ	Ⅱ 4	口縁波状、縦條孔
305	19S D 1	鉈	口縁	並行彫線、彫線による文様		磨耗	磨耗	Ⅱ 2	
306	19S D 1	鉈	口一削	ミガキ			ミガキ	Ⅱ 3	
307	19S D 2	亞高砂質土	鉈	口縁	横線平行彫線			磨耗	Ⅱ 4
308	19S D 3	深鉢	刃	横線平行彫線					
309	19S D 6	埋土上部	削竹竹?	刃	横線平行彫線、文様による文様、ミガキ	L R	ミガキ?	Ⅱ	
310	19S D 6	埋土上部	盤	刃	横線平行彫線、円文	R L	ナデ	Ⅱ	
311	19S D 6	埋土上部	深鉢	口縁	羽状網文	RL-LR?	ナデ	Ⅱ 3	
312	19S D 6	埋土上部	深鉢	口縁	羽状網文	RL-LR?	磨耗	Ⅱ 3	
313	19S D 6	埋土上部	深鉢	口縁?	横線平行彫線、削目、ミガキ		ミガキ	Ⅱ 3	
314	19S D 6	鉈	刃	横線平行彫線、彫線による文様		L R	ミガキ	Ⅱ 3	
315	19S D 6		深鉢	横線平行彫線			磨耗	Ⅱ 3	
316	19S D 6		深鉢	口縁?	横線平行彫線、入組文、削目、ミガキ		ミガキ	Ⅱ 3	
317	19S D 8	南平	深鉢	口縁	横線平行彫線、波状小尖起(寄)			磨耗	Ⅱ 2
318	19S E 9	深鉢	口一削	入組文、三叉文		L R	ミガキ?	Ⅱ 1 b	
319	19S E 9	深鉢	口一削	横線平行彫線、魚鱗状三叉文、ミガキ			ミガキ	Ⅱ 1 b	
320	19S E 9	深鉢	口縁	横線平行彫線、入組文、削目			ミガキ	Ⅱ 3	底部2分の山形突起

第59図 縄文時代の土器①



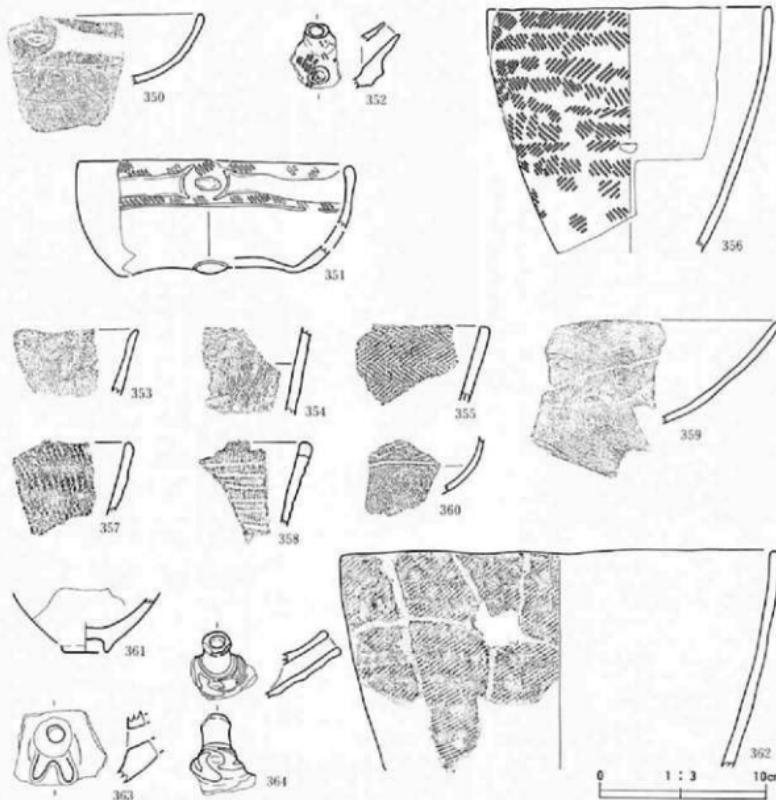
番号	出土地点	層位	器種	部位	文様はか	地文	内面	分類	備考
321	19SK8	I層	鉢	口～側	横位沈線、ミガキ	LR	ミガキ?	Ⅳ	口縁波状
322	19SK8	I層	深鉢	口～側	羽状繩文	RL-LR	ミガキ	Ⅳ	
323	19SK8	No1	鉢	入組文、横位沈線、側目		LR	ミガキ	Ⅳ	
324	19SK8	No10	浅鉢	側	横位平行沈線、ミガキ		ミガキ?	Ⅳ	
325	19SK8	No11	深鉢	側	羽状繩文	LR-LR	ミガキ	Ⅳ	
326	19SK8	No12	深鉢	II～側		LR	ミガキ	Ⅳ	内面に僅
327	19SK8	No13	深鉢	II～側		LR	ナゲ	Ⅳ	内面に輪積痕
328	19SK8	No2	鉢	口部	入組文	LR	ミガキ	Ⅳ	
329	19SK8	No3	浅鉢	口縁	円文	塵粒	ミガキ	Ⅳ	
330	19SK8	No4	鉢?	側	横位平行沈線、粘土粒				
331	19SK8	No5	鉢	口縁	横位平行沈線	LR	磨耗	Ⅳ	頂部2分の山形突起
332	19SK8	No6	鉢	口縁	並行沈線、横位平行沈線、突起端面に沈線、側目		磨耗	Ⅳ	口縁波状
333	19SK8	No7	深鉢	側		LR	ミガキ	Ⅳ	
334	19SK8	No8	深鉢	口縁	羽状繩文	RL-LR	ミガキ?	Ⅳ	
335	19SK8	No9	深鉢	口縁?	横位沈線、入組文? 側目		ミガキ?	Ⅳ	
336	19SK9	No2	深鉢	側	羽状繩文	LR-LR	ミガキ	Ⅳ	
337	19SK9	No3	深鉢	口～側	羽状繩文	RL-LR	ミガキ	Ⅳ	
338	19SK9	No4	深鉢	側		LR	ミガキ	Ⅳ	

第60図 繩文時代の土器②



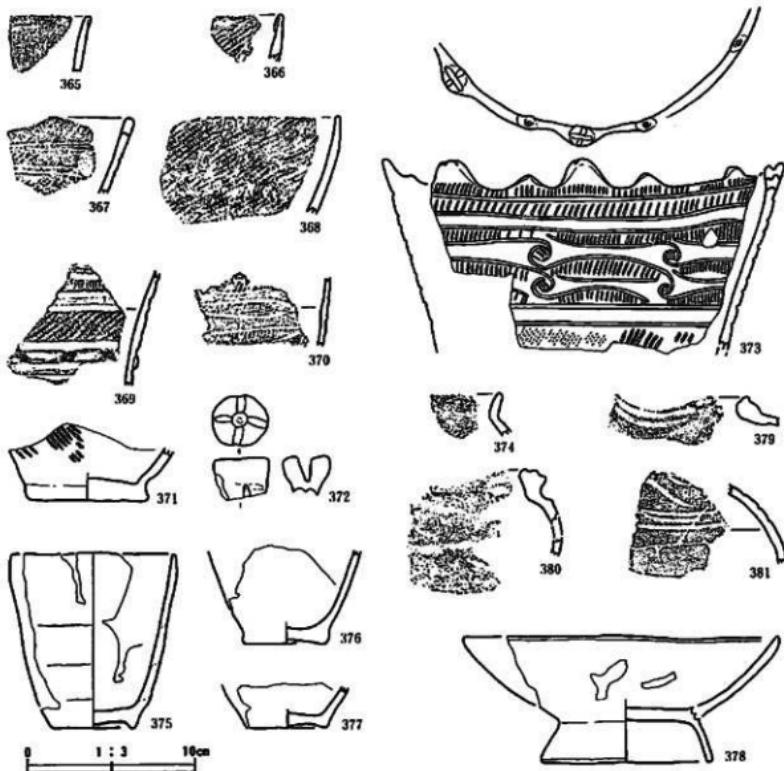
番号	出土地点	層位	器種	部位	文様ほか	地文	内面	分類	備考
339	19S K22	No 1	深鉢	口縁	横粒平行沈線、刷目		ミガキ	Ⅱ 3	
340	19S K22	No 2	深鉢	口～胴	横粒沈線	L R	ミガキ?	Ⅳ 3	
341	19S K22	No 3	鉢	口縁		L R	磨耗	Ⅳ 3	
342	19S K22	No 4	深鉢	口縁	横粒平行沈線、刷目		ミガキ	Ⅱ 3	
343	19S K22	No 5	深鉢	口縁		L R	ナゲ?	Ⅳ 3	
344	19S K22	No 6	深鉢	口縁	横粒平行沈線	L R	ミガキ	Ⅳ	
345	19S K22	No 7	深鉢	口～胴	横粒平行沈線、入粗文、刷目		ミガキ	Ⅱ 3	頂部2分の山形突起
346	19S X30	N上	深鉢	口～胴	並行沈線(連弧文)、三叉文、横粒平行沈線、入粗文、入刷目に刷目、横長粒沈線	L R	ミガキ	Ⅲ 1-a	底部2分の山形突起(14?)
347	EG 0-i	N上	鉢	口～胴	横粒沈線、ミガキ	R L	ミガキ	Ⅲ 1	口縁波状
348	EG 0-j	N上	注口	胴～底	注口下部に刷		ナゲ	Ⅴ 3	
349	EG 3-i	N上	深鉢	底		L R	ナゲ	Ⅲ 1	底部に木葉痕

第61図 繩文時代の土器③



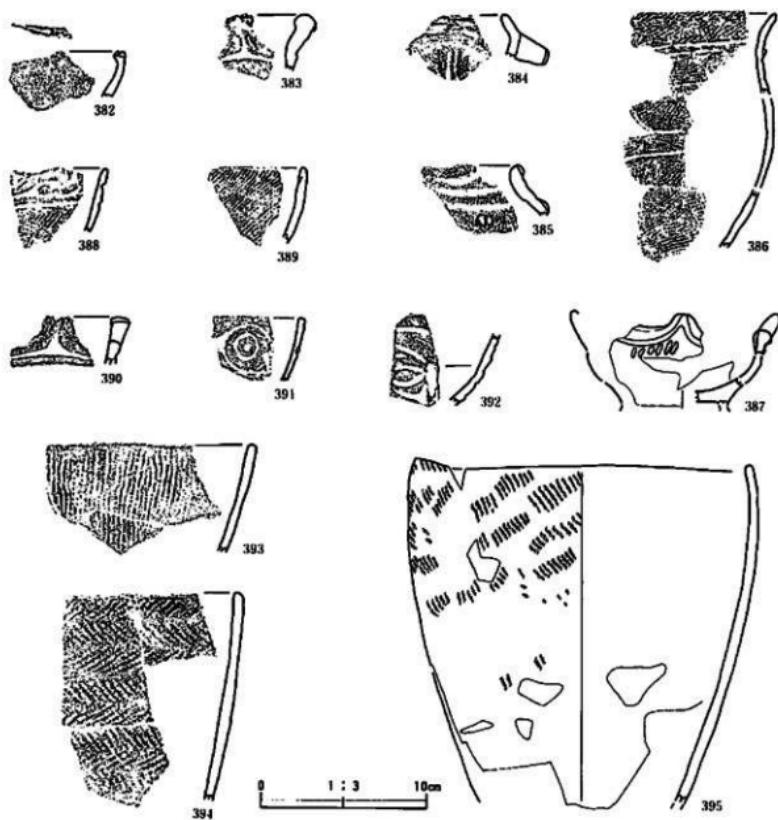
番号	出土地点	部位	器種	部位	文様ほか	地文	内面	分類	備考
350	II G 8 j	III	浅鉢	口～底	稚鳥沈線、円文、ミガキ	R L	ミガキ	III 1 b	
351	II G 8 j	IV上	浅鉢	口～底	稚鳥沈線、円文、ミガキ	R L	ミガキ	III 1 b	4脚のうち2脚残存
352	II G 8 j	III	注口	注口	注口下部に十字状の刻みを持つ瘤	L R	ナデ	IV 3	
353	II G 8 j	IV上	盤？	口縁	ミガキ		ナデ	IV 3	
354	II G 8 j	IV上	深鉢	側	横長状沈線文(波水田)		ナデ	IV 2	砂粒(多)
355	II G 8 j	III	深鉢	口縁	羽代鷺文	R L - L R	ミガキ	IV 3	
356	II G 8 i	III	深鉢	口～側	羽代鷺文	L R - R L	ミガキ	IV 3	
357	II G 9 i	IV	深鉢	口縁		L(無鉢)	磨耗	IV 3	外面に煤
358	II G 9 j	III	深鉢	口縁	稚鳥平行沈線、人組文？刻目		ミガキ	IV 3	低い角形の突起
359	II G 9 j	IV上	浅鉢	口～側	ミガキ		ミガキ	IV 3	
360	II G 9 j	III	鉢	側	稚鳥沈線、菱形文	L R	ミガキ	IV 2	
361	II G 9 j	IV上	鉢(台付)	側～底			ナデ	IV 1	
362	II G 9 j	IV上	深鉢	口～側		L R	ミガキ？	IV 3	
363	II G 9 j	IV上	注口	側	注口下部に2つの瘤		ナデ？	IV 3	
364	II G 9 j	III	注口	注口	稚鳥沈線、注口下部に人組三叉文、ミガキ		ナデ	IV 4	

第62図 繩文時代の土器④



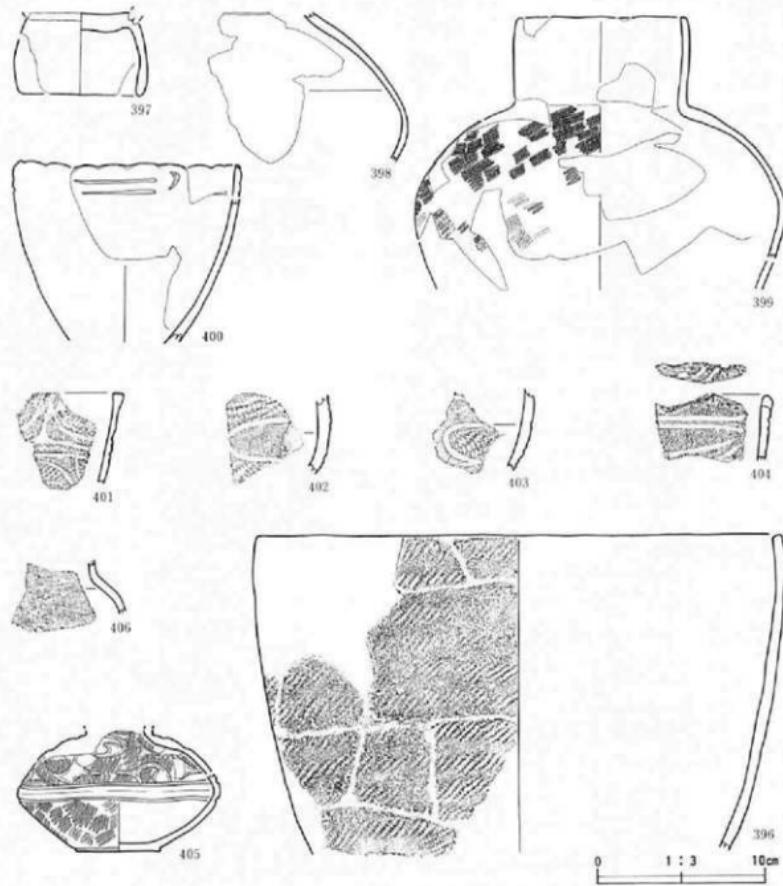
番号	出土地点	層位	器種	部位	文様ほか	地文	内面	分類	図号
365	II G 9 j	Ⅳ上	斧	口縁	ミガキ		ミガキ	Ⅳ 3	
366	II G 9 j	Ⅳ上	斧	口縁		L R	ナデ	Ⅳ 3	
367	II G 9 j	Ⅳ上	深鉗	口縁	横波平行波線	L R	ナデ	Ⅳ 3	砂粒(多)
368	II G 9 j	Ⅳ	深鉗	口~腹		L R	ミガキ?	Ⅳ 3	
369	II G 9 j	Ⅳ上	深鉗	腹	横波平行波線、橋長波波線、師付、断面	L R	ミガキ?	Ⅳ 3	
370	II G 9 j	Ⅳ上	深鉗	刷	入組文、削目		ミガキ	Ⅳ 3	
371	II G 9 j	Ⅳ上	斧	刃~底		R L	ナデ	Ⅳ 3	
372	II G 9 j	Ⅳ		口縁欠起	底部に十字状の刻み、柄突		磨耗	Ⅳ 3	
373	II G 9 j	Ⅳ上	深鉗	口~刷	横波平行波線、入組文、削目、底部に十字状の刻みを持つ先端(大)、底部に刻突を持つ先端(小)	L R	ミガキ?	Ⅳ 3	
374	II H 0 a	Ⅲ	斧	口縁	ミガキ		ミガキ	Ⅳ	
375	II H 0 a	Ⅳ上	斧	口~底			ナデ	Ⅳ 3	内・外面に鈍削面
376	II H 0 a	Ⅳ上	斧	刃~底		磨耗	ミガキ?	Ⅳ 3	
377	II H 0 a	Ⅳ上	斧	刃~底	比線?			Ⅳ 3	
378	II H 0 a	Ⅲ	(復原作)	D-E形			ミガキ?	Ⅳ	
379	II H 0 a	Ⅳ上	斧	口~腹	横波平行波線		ナデ?	Ⅳ	
380	II H 0 a	Ⅳ上	斧	口~刷	横波平行波線、比線による支掛、ミガキ	L R	ナデ?	Ⅳ 1 b	
381	II H 0 a	Ⅳ上	刷						

第63図 繩文時代の土器⑤



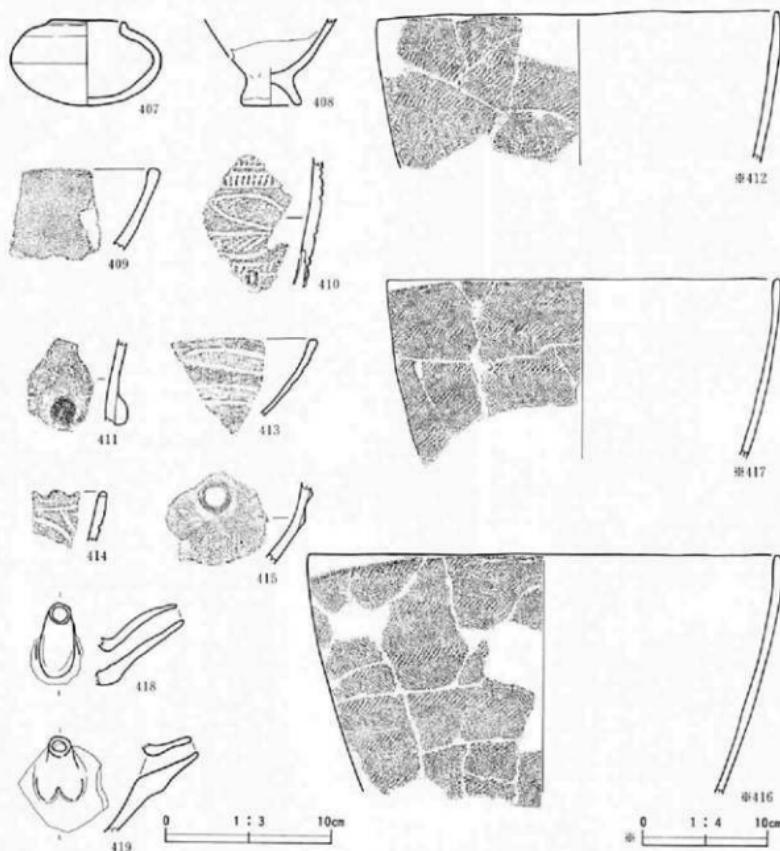
番号	出土地點	層位	器種	部位	文様はか	地文	内面	分類	備考
382	BHO a	層上	鉢	口~側	口唇部に沈線、突起部に割れ		ナデ	III 4	
383	BHO a	層上	鉢		横斜沈線、三叉文、ミガキ	L R	ミガキ	III 1 a	頭部丸い山形突起
384	BHO a	層上	鉢?	口縁	頭部3分の瘤		磨耗	II 2	
385	BHO a	層上	器?	L~頂	平行沈線、横斜平行沈線、頭部3分の瘤		磨耗	IV	
386	BHO a	層上	鉢	口~側	横斜平行沈線、瘤状小尖起	L R	ナデ	II 2	
387	BHO a	層上	鉢	口~底	進行沈線	L R?	磨耗	III 1 a	口縁波状
388	BHO a	層上	深鉢	口~側	横斜沈線、入輪三叉文?	L R	ミガキ	III 2	口縁波状
389	BHO a	層上	深鉢	L縁		L R	ナデ	IV 3	
390	BHO a	層上	深鉢	L縁突起	横斜沈線、三叉状即去		ミガキ	III 1 a	頭部2分の山形突起
391	BHO a	層上	深鉢	L縁	横斜沈線、円文、側突	L R	ミガキ	III 1 b	
392	BHO a	層上	深鉢	口縁?	横斜沈線、沈線による各種文様、ミガキ	L R	ナデ	III 1 b	
393	BHO a	層上	深鉢	口~側		L L	ミガキ?	IV 1	
394	BHO a	層上	深鉢	口~側	羽状網文	L R·KL	ミガキ	IV 3	内・外面に窓
395	BHO a	層上	深鉢	口~側		R(周路)	ミガキ・ナデ	IV 3	

第64図 縄文時代の土器⑥



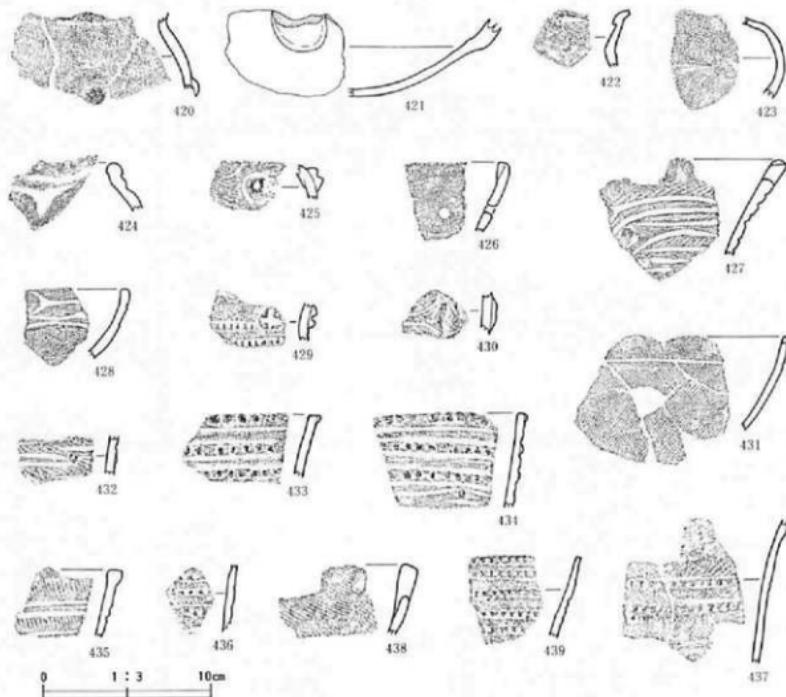
番号	出土地点	層位	器種	部位	文様はか	地文	内面	分類	備考
396	II H 0 b	Ⅳ上	深鉢	口～胴		L R	ミガキ?	Ⅳ 3	
397	II H 0 b	Ⅳ上	深鉢	脚			ミガキ?	Ⅳ 3	
398	II H 0 b	Ⅳ上	鉢	脚	横位化粧、ミガキ		ミガキ	Ⅲ 1	
399	II H 0 b	Ⅳ上	鉢	口～脚	ミガキ	L R	ミガキ+ナメ	Ⅲ 1	
400	II H 0 b	Ⅳ上	鉢	口～底	横位平行沈線、入組三叉文?		ミガキ	Ⅲ 2	口縁波状
401	II H 0 b	Ⅳ上	鉢?	口縁	並行沈線、三叉文、横位沈線、入組文	L R	ミガキ	Ⅲ 1 a	頂部2分の山形突起
402	II H 0 b	Ⅳ上	深鉢	脚	沈線区画による曲線文様	L R	ミガキ	IV	
403	II H 0 b	Ⅳ上	深鉢	脚	沈線区画による曲線文様、ミガキ	L R	ミガキ	IV	
404	II H 0 b	Ⅳ上	深鉢	口縁	横位平行沈線、入組文? 入組文? 沈線区画による平行沈線	II L R	ミガキ?	Ⅳ 3	口縁波状
405	II H 0 c	Ⅳ上	鉢	脚～底	横位平行沈線、三叉文、菱形入組文? 沈線区画	L R	ナデ	Ⅲ 2	赤色塗彩
406	II H 0 c	Ⅳ上	鉢	口～脚			ナデ	IV	

第65図 繩文時代の土器⑦



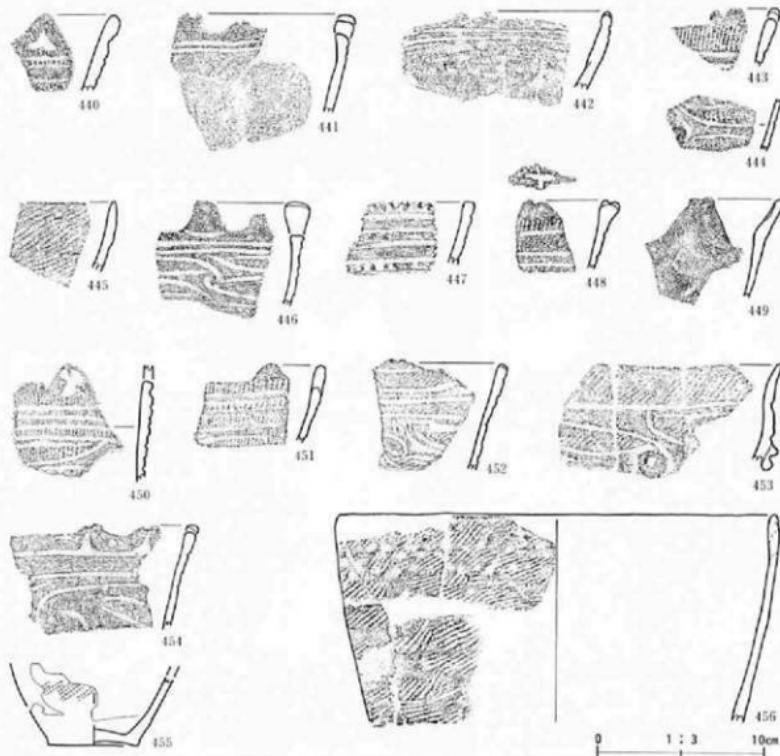
番号	出土地点	層位	形態	部材	文様	地文	内面	分類	備考
407	II H 0 c	Ⅳ上	圓	石英岩	ミガキ	ナゲ	ミ		
408	II H 0 c	Ⅳ上	錐(有柄)	刷~底	ミガキ	磨耗	Ⅳ 3		
409	II H 0 c	Ⅳ上	錐	口~側	ミガキ	ミガキ	Ⅳ 3		
410	II H 0 c	Ⅳ上	深鉢	刷	横平行沈縞、沈縞による文様、粗目、粗目1分の毛端	L R	ナゲ	Ⅱ 3	
411	II H 0 c	Ⅳ上	深鉢?	刷	ミガキ?	ミガキ?	Ⅳ 2		
412	II H 1 b	Ⅲ	深鉢	口~側		L R	ミガキ	Ⅳ 3	
413	II H 8 a	Ⅲ下	浅鉢	口~側	横平行沈縞、沈縞による文様、ミガキ	L R	ミガキ	Ⅳ 3	
414	II H 8 a	Ⅲ下	鉢	口縁	横模状沈縞、沈縞による文様	ミガキ	ミ	口縁小波状	
415	II H 8 a	Ⅳ上	鉢	底	ミガキ	ナゲ	N		
416	II H 8 a	Ⅳ上	深鉢	口~刷	羽状梳文	L R - RL	ミガキ	Ⅳ 3	
417	II H 8 a	Ⅳ上	深鉢	口~刷	羽状梳文	RL - LR	ナゲ	Ⅳ 3	
418	II H 8 a	Ⅳ上	注口	注口	注口下部に瘤		N 2		
419	II H 8 a	Ⅳ上	注口	刷	注口下部に2つの瘤		磨耗	Ⅳ 3	

第66図 繩文時代の土器⑧



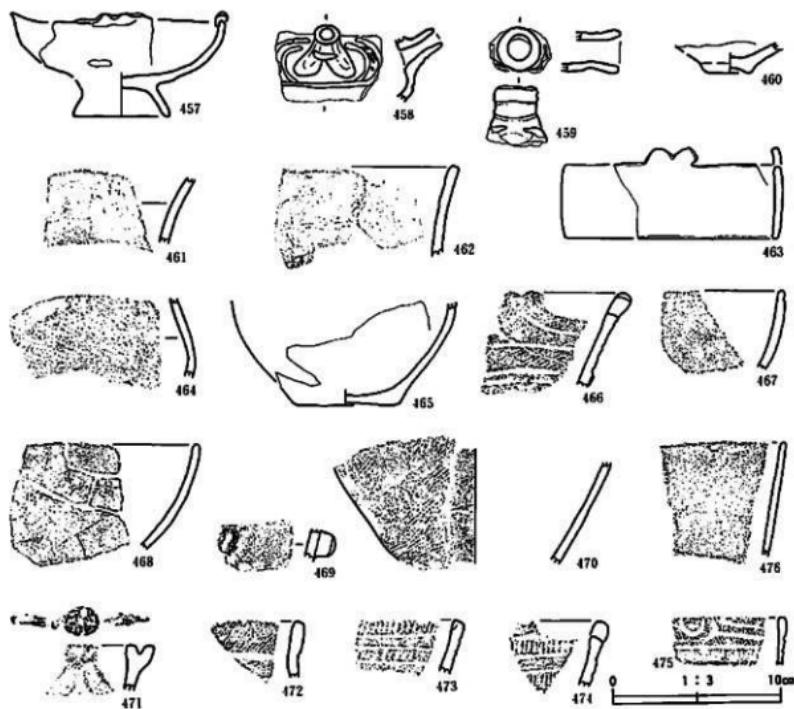
番号	出土地点	層位	器種	部位	文様はか	地文	内面	分類	備考
420	II H 8 a	Ⅷ上	壺	腹	横位沈線、點竈		磨耗	Ⅱ 2	
421	II H 8 a	Ⅷ上	鉢口	鉢			磨耗	Ⅱ 3	
422	II H 8 a	Ⅷ上	壺?	肩?			ナガ	Ⅳ	
423	II H 8 a	Ⅷ上	壺	肩?			ナガ	Ⅳ	
424	II H 8 a	Ⅷ上	壺?	口縁	横位沈線、三叉状肩張去		ナガ	Ⅲ 1 a	円窓?
425	II H 8 a	Ⅷ上	壺?	腹	突突如もつ點竈、S字状沈線(入顔文?)	L R	ナガ	Ⅱ 2 ?	
426	II H 8 a	Ⅷ上	鉢	口縁			ナガ	Ⅳ 3	補修孔
427	II H 8 a	Ⅷ上	鉢	口縁	横位沈線、入顔文、點竈、横長切沈線	L R	ミガキ	Ⅲ 3	円窓付切沈線付鉢
428	II H 8 a	Ⅷ上	鉢	口~肩	横位沈線、三叉文、ミガキ	L R	ミガキ	Ⅲ 2	口縁波状
429	II H 8 a	Ⅷ上	鉢	肩	横位平行沈線、直目、十字状の刻みを持つ點竈		磨耗	Ⅲ 3	
430	II H 8 a	Ⅷ上	鉢?	不明	垂行沈線、縦長の點竈		唐長	ミガキ?	Ⅳ 2
431	II H 8 a	Ⅷ上	鉢	口~肩	横位沈線、ミガキ	L R	ミガキ	Ⅲ 1 b	口縁波状
432	II H 8 a	Ⅷ上	深鉢	?	横位平行沈線、頂部2分の點竈	R L	ミガキ?	Ⅱ 2	
433	II H 8 a	Ⅷ上	深鉢	口縁	横位平行沈線、発状小突起(直)		ミガキ?	Ⅱ 2	
434	II H 8 a	Ⅷ上	深鉢	口縁	横位平行沈線、発状小突起(密)		ナガ	Ⅱ 2	433と同一個体?
435	II H 8 a	Ⅷ上	深鉢	口縁	横位平行沈線、刺目(押引的)		ミガキ	Ⅲ 3	丸い山形突起
436	II H 8 a	Ⅷ上	深鉢	肩?	横位平行沈線、刺突?		磨耗	Ⅲ 3	
437	II H 8 a	Ⅷ上	深鉢	肩	横位平行沈線、刺突?	L R	磨耗	Ⅲ 3	
438	II H 8 a	Ⅲ	深鉢	口縁		III 1 b	ナガ	Ⅱ 2	
439	II H 8 a	Ⅷ上	深鉢	口縁	横位平行沈線、刺突?		磨耗	Ⅲ 3	

第67図 繩文時代の土器⑨



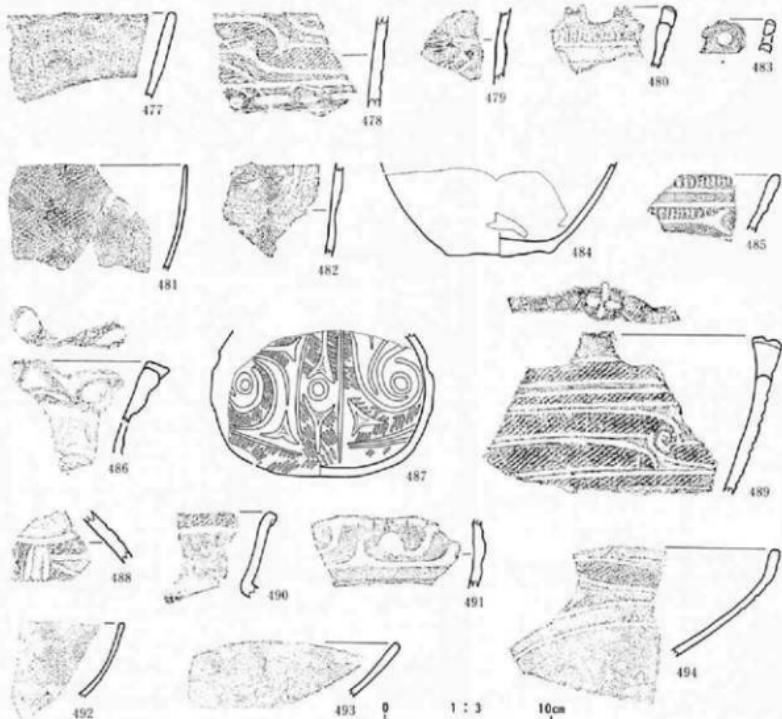
番号	出土地点	層位	器種	部位	文様はか	地文	内面	分類	備考
440	III H 8 a	IV上	深鉢	口縁	三叉状削去、横位平行沈線、刷目、突起部に刺突？		ミガキ	II 3	
441	III H 8 a	IV上	深鉢	口～側	横位沈線、横位平行沈線、刷目	L R	ミガキ	II 3	頂部2分の山形突起
442	III H 8 a	IV上	深鉢	口～側	横位平行沈線		ナデ	IV	口唇部に2個一对の突起
443	III H 8 a	IV上	深鉢	口縁	横位平行沈線、刷目		ミガキ？	II 3	頂部2分の山形突起
444	III H 8 a	IV上	深鉢	口縁？	人面文、刷目、磨擦		ミガキ？	II 3	
445	III H 8 a	IV上	深鉢	LI～側		L R	ミガキ？	IV 3	
446	III H 8 a	IV上	深鉢	口縁	横位沈線、横位平行沈線、人面文	L R	ミガキ	II 3	頂部2分の山形突起（大）
447	III H 8 a	IV上	深鉢	LI縁	横位平行沈線、刷目、頂部に十字状の 筋みを持つ突起		ナデ？	II 2	
448	III H 8 a	IV上	深鉢	II縁	横位平行沈線、刷目、頂部に十字状の 筋みを持つ突起	L R	ミガキ？	II 3	
449	III H 8 a	IV上	深鉢	口縁		L R	磨耗	IV 2	
450	III H 8 a	Ⅳ上	深鉢	口縁	三叉状削去、横位平行沈線、人面文、刷目		ミガキ	II 3	角及び三角状の突起
451	III H 8 a	Ⅳ上	深鉢	口縁	横位平行沈線、刷目		磨耗	II 3	丸い山形突起
452	III H 8 a	Ⅳ上	深鉢	口縁	横位平行沈線、人面文、人面部に刺突	L R	ミガキ	II 1 a	頂部2分の山形突起
453	III H 8 a	Ⅳ上	鉢	口～側	横位沈線、人面文、刺突をもつ磨痕	L R	磨耗	II 2	
454	III H 8 a	Ⅳ上	深鉢	口縁	横位平行沈線、三叉文、人面文	L L	ミガキ	II 1 a	頂部2分の山形突起、表面粗大
455	III H 8 b	Ⅳ上	鉢	刷～底		L R	ナデ	IV 5	内面に傷
456	III H 8 b	Ⅳ上	深鉢	II～側		L (裏面)		IV 3	

第68図 繩文時代の土器⑩



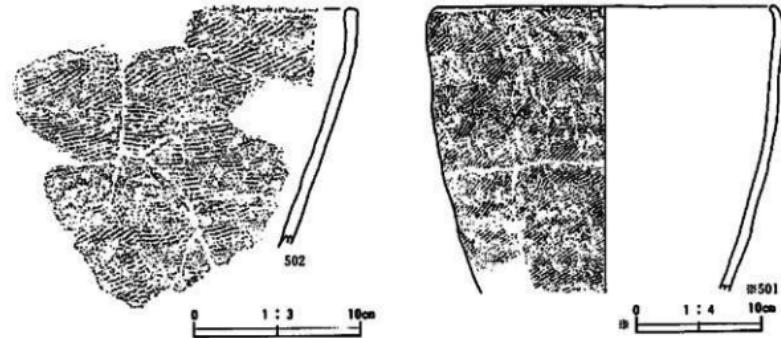
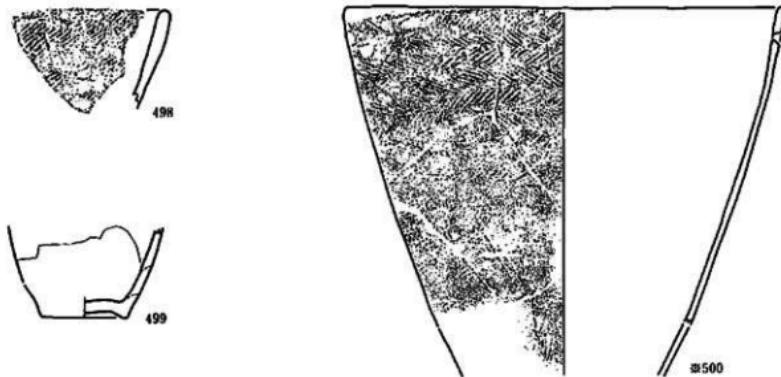
番号	出土地点	層位	器種	部位	文様はか	地文	内面	分類	備考
457	BH8 b	Ⅳ上	深鉢(切付)	L1~底	尖起及び平行斜線に波線	透光	■4	2個一对の突起	
458	BH8 b	Ⅳ上	口縁	口	横斜波線、弧線文、口縁下部に2つの 瘤と短波線、ミガキ	ナデ	IV 3		
459	BH8 b	Ⅳ上	口縁	口	横斜波線、三叉文、ミガキ	不明	IV 4		
460	BH8 b	Ⅳ上	盤?	底	横斜波線、三叉文、ミガキ	磨耗	IV 3		
461	BH8 b	Ⅳ上	盤?	口縁	横斜波線、ミガキ	ミガキ	IV		
462	BH8 b	Ⅳ上	盤?	口縁	ミガキ	ミガキ?	IV		
463	BH8 b	Ⅳ上	盤?	口縁	ミガキ	ミガキ	IV 1	B突起	
464	BH8 b	Ⅳ上	盤	明		ナデ?	IV		
465	BH8 b	Ⅳ上	盤	側~底	ミガキ	ナデ	IV 3		
466	BH8 b	Ⅳ上	盤	L1周	平行波線、横斜平行波線、瘤状波線、網目	L R	ミガキ	II 1 a	底部2分の山形突起
467	BH8 b	Ⅳ上	鉢	口~側	横斜波線、ミガキ	ナデ	IV 3		
468	BH8 b	Ⅳ上	鉢	口~明	ミガキ	ミガキ	IV 3		
469	BH8 b	Ⅳ上	鉢	明	頭面2分の階塗	ナデ	IV 2		
470	BH8 b	Ⅳ上	鉢?	明		L R	ミガキ?	IV 3	
471	BH8 b	Ⅳ上	深鉢	L1N突起	並行波線、面部に十字状の刻みと刺突 を持った突起、ミガキ	ミガキ	II 1 a		
472	BH8 b	Ⅳ上	盤?	口縁	横斜波線、口縁周部に帶状波線	L R	ミガキ?	IV	
473	BH8 b	Ⅳ上	深鉢	口縁	横斜平行波線、削目	ナデ	II 3	赤色施彩	
474	BH8 b	Ⅳ上	深鉢	口縁	横斜平行波線、削目	ナデ	II 3	直筋指輪押圧状の山形突起	
475	BH8 b	Ⅳ上	深鉢	口縁	横斜波線、魚鱗状~三叉文	R L	ミガキ	III b	
476	BH8 b	Ⅳ上	深鉢	口~底		ナデ	IV 3		

第69図 縄文時代の土器①



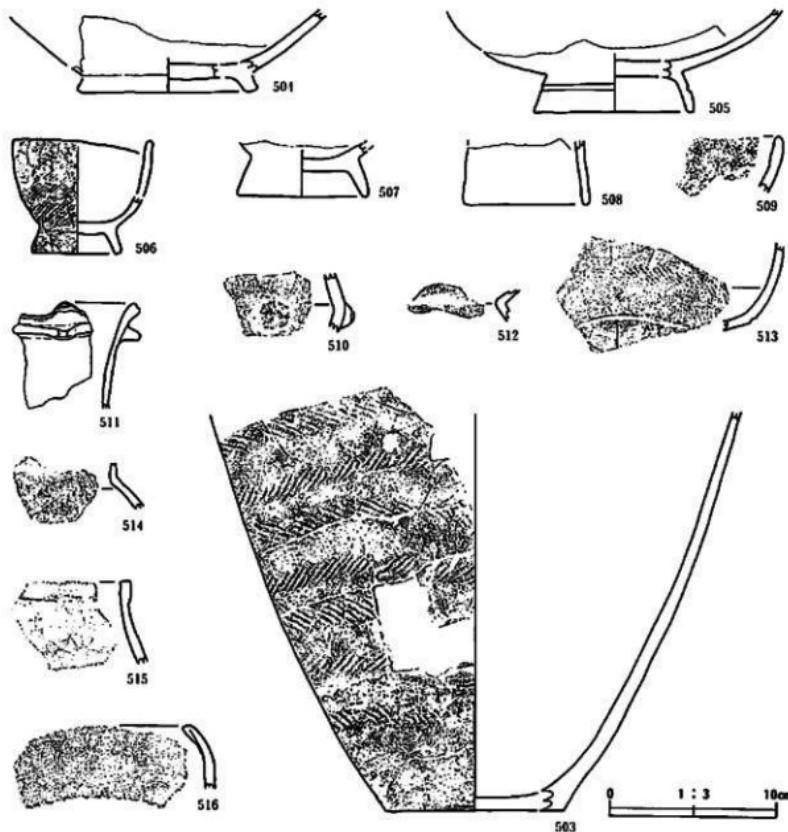
番号	出土地点	層位	形様	部位	文様ほか	地文	内面	分類	備考
477	II H 8 b	IV上	深鉢	口縁		ナデ	IV 3		
478	II H 8 b	IV上	深鉢	縁	入組文、横枝平行沈線、横長短沈線	L R	ナデ	II 3	外面に埋
479	II H 8 b	IV上	深鉢	縁			ミガキ?	II 2	
480	II H 8 b	IV上	深鉢	口縁	横枝平行沈線、削目。ミガキ	L R - RL	ミガキ	IV 3	底部2分の山形突起
481	II H 8 b	IV上	深鉢	口～削	羽状梳文	L R	ミガキ	IV 3	
482	II H 8 b	IV上	深鉢	縁	脚衝状横線文(流水形)	ミガキ?	IV 2		
483	II H 8 b	IV上	不明	口縁突起	孔、円文、端面に刻み		ナデ?	IV 3	
484	II H 8 b	IV上	深鉢	縁～底		磨耗	ナデ?	IV 3	
485	II H 8 b	層位不明	深鉢	口縁	横枝平行沈線、三叉文、削目		ミガキ	IV 3	
486	II H 8 b,c	IV上	縫	口～鋸	三叉状脚云、横枝沈線。ミガキ		ミガキ	III 1 a	
487	II H 8 b,c	IV上	縫	縫	横枝沈線、横枝平行脚雲、轍文色、各種三叉文	R L	ミガキ	III 1 b	
488	II H 6 h	IV上	縫	縫	横枝沈線、横枝平行脚雲、沈線区間にによる文様	R L ?	ナデ?	II 1	
489	II H 8 c	IV上	深鉢	口縁	横枝沈線、横枝平行沈線。入組文、頂部に十字状の削人を持つ突起	L R	ミガキ	II 3	
490	II H 8 c,d	IV上	縫	口縫	口縫端部に帶状梳文。ミガキ	L R	ミガキ	IV	
491	II H 9 a	III	縫	縫?	横枝沈線、C字状入組文。ミガキ		磨耗	IV 4	
492	II H 9 a	IV上	浅鉢	口～削		L R	ミガキ	IV 3	
493	II H 9 a	IV上	浅鉢	口～削	ミガキ		ミガキ	IV 3	
494	II H 9 a	IV上	浅鉢	口～削	横枝平行沈線、沈線区間にによる文様、三叉文。ミガキ	L R		IV 3	

第70図 繩文時代の土器⑫



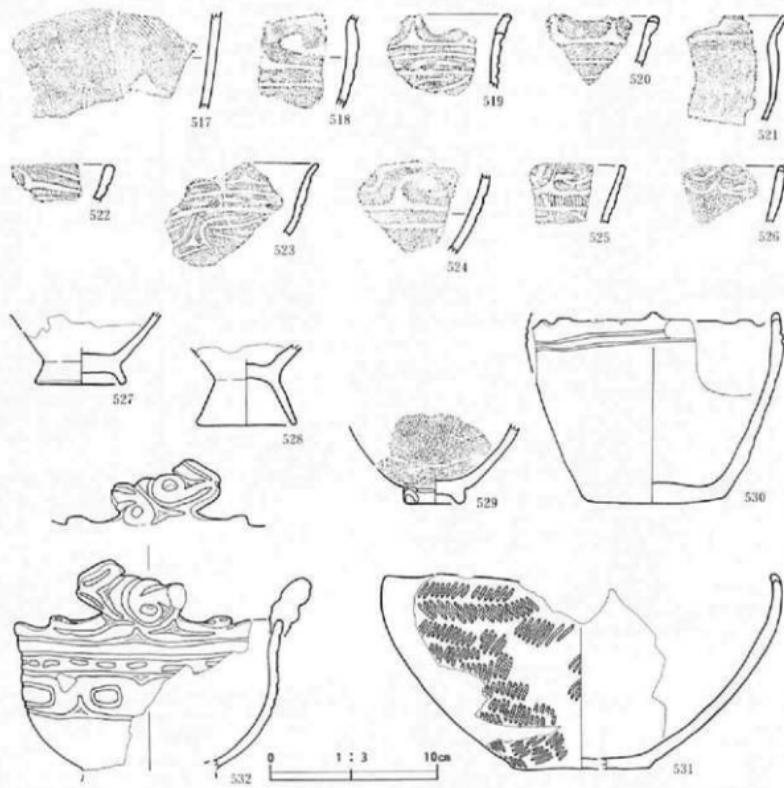
番号	出土地点	層位	器種	部位	文様ほか	地文	内面	分類	備考
495	II H 9 a	Ⅳ上	深鉢	口～刷	横縦平行彎線、沈縫区画による文様	LR	ミガキ?	IV 3	
496	II H 9 a	Ⅳ上	深鉢印?	底	横縦比較、ミガキ		ミガキ?	IV 3	
497	II H 9 a	Ⅳ上	深鉢	口縁	突起部間に三尖状の彎割、ミガキ		ナゲ	IV 3	
498	II H 9 a	Ⅳ上	深鉢	口～刷		LR	ナゲ	IV 3	
499	II H 9 a	Ⅳ上	鉢	側一底			ナゲ	IV 3	内面に施墨痕
500	II H 9 a	Ⅳ上	深鉢	口～刷	羽状縞文	LR?	ナゲ?	IV 3	
501	II H 9 b	Ⅳ上	深鉢	口～刷		LR?	ミガキ	IV 3	
502	II H 9 a	Ⅳ上?	深鉢	口～刷		LR	ナゲ	IV 3	

第71図 繩文時代の土器③



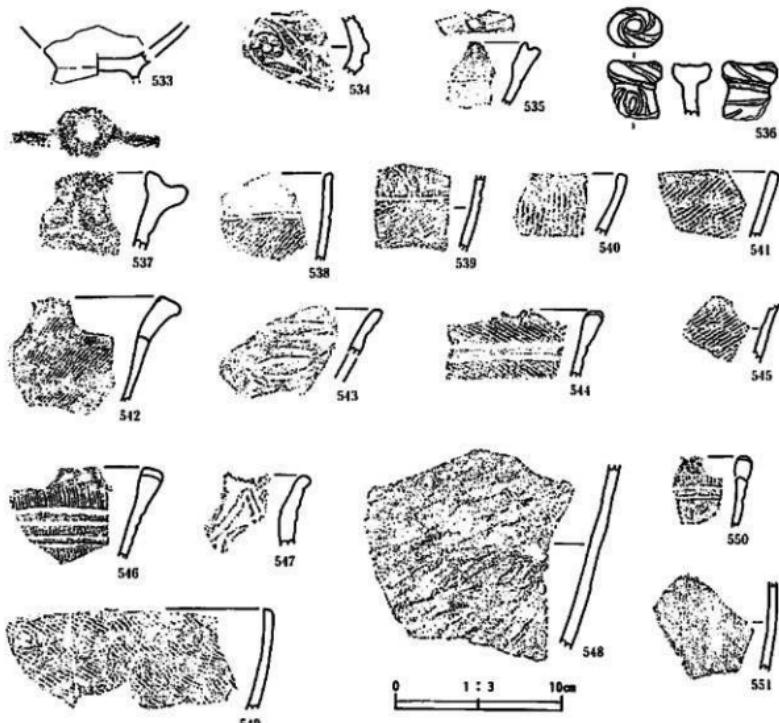
番号	出土地点	層位	器種	部位	文様ほか	地文	内面	分類	備考
503	II H 9 a	W上	石斧	刃~底	羽状文	LR-RL	ミガキ	N'3	
504	II H 9 a	W上	石器(台付)	刃~底	1ガキ		ミガキ	N'3	
505	II H 9 a	W上	石器(台付)	刃~底	横波彫線、ミガキ		ミガキ	N'	
506	II H 9 a	W上	石器(台付)	口~底		LR(横波)	ナデ	N'3	
507	II H 9 a	W上	石器(台付)	底	1ガキ		ミガキ	N'3	
508	II H 9 a	W上	石器(台付?)	底	2ガキ		ミガキナデ	N'3	
509	II H 9 a	W上	深鉢?	口縁		LR	ミガキ	N'	
510	II H 9 a	W上	刷?	刷	點刻、彫波彫。ミガキ		ナデ	N'2	
511	II H 9 a	W上	器?	口縁	隆起、瘤状小突起		麻耗	N'2	
512	II H 9 a	W上	器?	底	1ガキ		ナデ	N'3	
513	II H 9 a	W上	器?	刷	横波彫線、羽状文、ミガキ	LR-RL	ナデ	N'	
514	II H 9 a	W上	器?	追一刀	ミガキ		ナデ	N'	
515	II H 9 a	W上	器?	口~刷	ミガキ		ナデ	N'	内面に輪模痕
516	II H 9 a	W上	器?	口~刷					

第72図 繩文時代の土器④



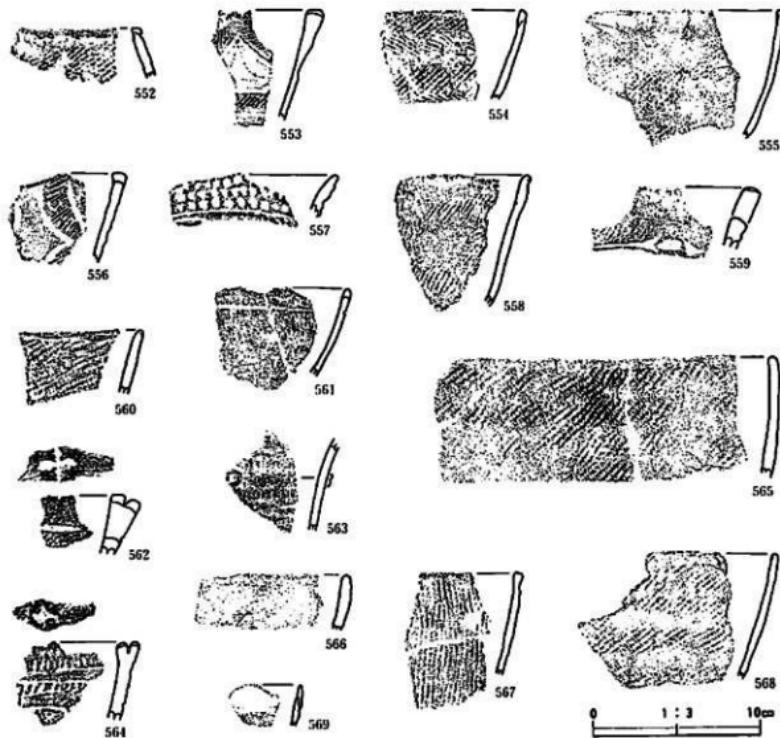
番号	出土地点	層位	器種	部位	文様は	地支	内面	分類	備考
517	II H 9 a	Ⅳ上	?	刷	ミガキ	R.L.	ミガキ	IV 3	
518	II H 9 a	Ⅳ上	体	刷	横條沈線、C字状入織文、ミガキ		磨耗	IV 4	
519	II H 9 a	Ⅳ上	跡	口～刷	横條平行沈線、三叉状取去、重ね延織、刷毛、人面文	L.R.	ミガキ	Ⅲ 1 a	頂部2分の山形突起(大)
520	II H 9 a	Ⅳ上	跡	口縁	横條平行沈線、三叉状取去、凹孔	R.L.?	ミガキ	Ⅲ 1 a	頂部2分の山形突起
521	II H 9 a	Ⅳ上	体	口縁	横條沈線、1万キ		ミガキ	IV	
522	II H 9 a	Ⅳ上	跡	口縁	三叉文、横條沈線	R.L.	ミガキ	Ⅲ 1 b	
523	II H 9 a	Ⅳ上	跡	口～刷	横條平行沈線、三叉状取去、横長短沈線、點瘤、人面文、三叉文	L.R.	ミガキ	Ⅲ 1 a	
524	II H 9 a	Ⅳ上	跡	刷	横條沈線、C字状入織文、ミガキ	L.R.	磨耗	IV 4	
525	II H 9 a	Ⅳ上	跡	口縁	横條平行沈線、沈線による文様、沈線区间による曲線支模、刷目、ミガキ		ミガキ	Ⅲ 1 b	
526	II H 9 a	Ⅳ上	跡	口縁	張織文	L.R.	磨耗	Ⅲ 1 b	口縁小波状
527	II H 9 a	Ⅳ上	跡(右付)	刷～底			ミガキ	IV 3	口縫部に小突起
528	II H 9 a	Ⅳ上	体(右付)	底			磨耗	ナデ	IV 3
529	II H 9 a	Ⅳ上	体(右付)	口～底		L(無記)	ナデ	IV 3	
530	II H 9 a	Ⅳ上	跡	口～底	横條平行沈線		ナデ	Ⅲ 4	
531	II H 9 a	Ⅳ上	跡	口～底	羽状織文	L.R.(無記)	ミガキ?	IV	
532	II H 9 a	Ⅳ上	跡	口～刷	軸形沈線、横條沈線、支縫部にC字状織、口足、各部に三叉状取去、刷毛、ミガキ(左)、ミガキ(右)	磨耗	ミガキ	Ⅲ 1 b	砂粒(多)

第73図 繩文時代の土器⑯



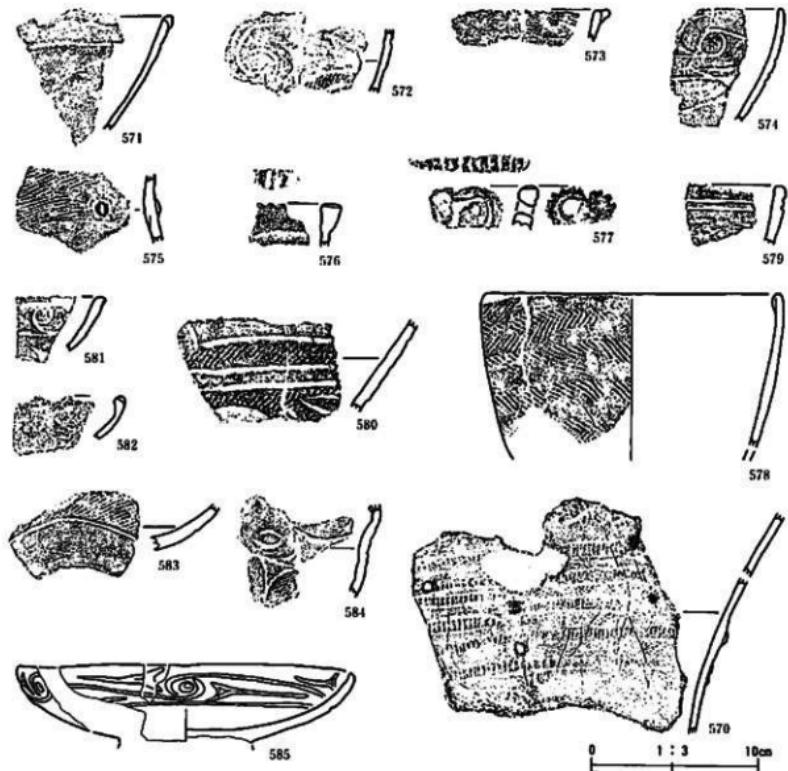
番号	出土地點	種類	器種	部位	文様はか	地文	内面	分類	備考
533	HH 9 a	石上.	鉤(合付)	底	ミガキ		ナゲ	II 3	
534	HH 9 a	石上.	刷	横位比縫、魚眼状三叉文		L R	ミガキ	III 1 b	
535	HH 9 a	石上.	鉤?	横位比縫、突起部に斜突、ミガキ			ミガキ	II 3	
536	HH 9 a	石上.	深鉢?	口縁突起	浜色文、次起面部に凹み		磨耗	II 1 b	
537	HH 9 a	石上.	口縁突起	三叉文、面部に凹みを有する突起				III 1 a	
538	HH 9 a	石上.	深鉢	口縫比縫、ミガキ		L R	ミガキ	III 1	L形波状
539	HH 9 a	石上.	口~刷	横位比縫、円文、三叉文		L R	ミガキ	III 1 b	
540	HH 9 a	石上.	深鉢	口縫		R L	ミガキ	II 1	
541	HH 9 a	石上.	深鉢	口縫		L R	ナゲ	II 3	
542	HH 9 a	石上.	深鉢	口縫		L R	ミガキ	II 2	
543	HH 9 a	石上.	深鉢	口縫	横位比縫、波線による曲輪文様		ミガキ	III 1 b	
544	HH 9 a	石上.	深鉢	口縫	横位平行比縫	R L	ミガキ	II 3	頂部2分の山形突起
545	HH 9 a	石上.	深鉢	刷		L(無跡)	ナゲ	II 3	
546	HH 9 a	石上.	深鉢	口縫	横位平行比縫、割目		ミガキ	II 3	頂部2分の山形突起
547	HH 9 a	石上.	深鉢	口縫突起	進行波状、三叉文、円文? 斜面と面部との山形突起		ミガキ?	III 1 a	面部4分の山形突起
548	HH 9 a	石上.	深鉢	刷	横位状比縫文(淀水形)		ケズリ?	II 2	
549	HH 9 a	石上.	深鉢	口~刷		R L	ナゲ	II 3	背面鋸入
550	HH 9 a	石上.	深鉢	口縫	横位平行比縫、割目	L R	ミガキ?	II 3	頂部2分の山形突起
551	HH 9 a	石上.	深鉢	刷	斜面状比縫文		ナゲ	II 2	

第74図 繩文時代の土器⑮



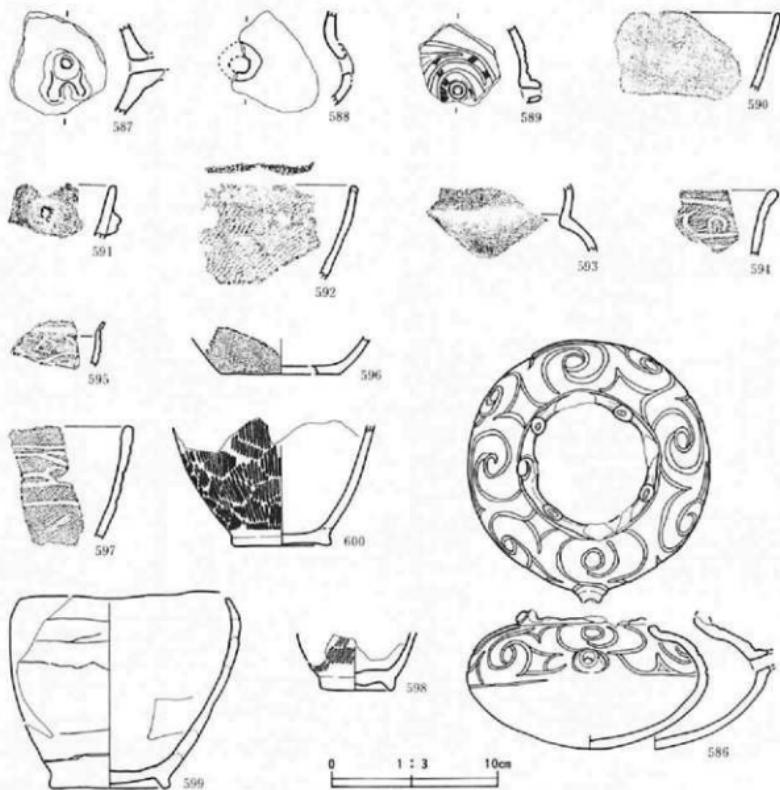
番号	出土地點	場所	器種	部位	文様等	地文	内面	分類	備考
552	II H 9 a	瓦上	深鉢	口様		L R	ナデ	IV 3	
553	II H 9 a	瓦上	深鉢	口様	並行沈線、三叉状切去、棱柱平行沈線	L R	ミガキ	III 1 a	周部3分の山形突起、外側に複
554	II H 9 a	瓦上	深鉢	口～刷	羽状網文	L R 2.0R	ナデ	IV 3	雷神模入
555	II H 9 a	瓦上	深鉢	口～刷		L R	ミガキ	IV 3	外側に複
556	II H 9 a	瓦上	口様		沈線×両による曲線文様、削片		ミガキ	III 1 b	口様波状
557	II H 9 a	瓦上	深鉢	口様	横條平行沈線、削片（下から）		ミガキ	II 1	口様波状
558	II H 9 a	瓦上	深鉢	口～刷		L R	ミガキ	IV 3	
559	II H 9 a	瓦上	深鉢	口～刷		L R	ミガキ	III 1	口様波状
560	II H 9 a	瓦上	口様			L R	ミガキ	IV 3	
561	II H 9 a	瓦上	深鉢	口～刷		L R	ミガキ	III 1 a	周部3分の山形突起、外側に複
562	II H 9 a	瓦上	深鉢	口～刷		L R	ミガキ	IV 3	
563	II H 9 a	瓦上	深鉢	口～刷		L R	ミガキ	IV 3	
564	II H 9 a	瓦上	深鉢	口様	並行沈線、沈線両側による曲線文様、削片、頭部に有史と十字状の削みをもつ突起	L R	ナデ	II 3	
565	II H 9 a	瓦上	深鉢	口～刷	頭部平行沈線、背孔を持つ階層、削口	L R	ミガキ	II 3	
566	II H 9 a	瓦上	深鉢	口様		L R	ナデ	IV 3	
567	II H 9 a	瓦上	深鉢	口～刷		R L	ミガキ	IV 1	
568	II H 9 a	瓦上	深鉢	口～刷		L R	ナデ	IV 3	
569	II H 9 a	瓦上	深鉢	口様	換底比縫、ミガキ	L R	ミガキ	III 1	口様波状

第75図 繩文時代の土器⑦



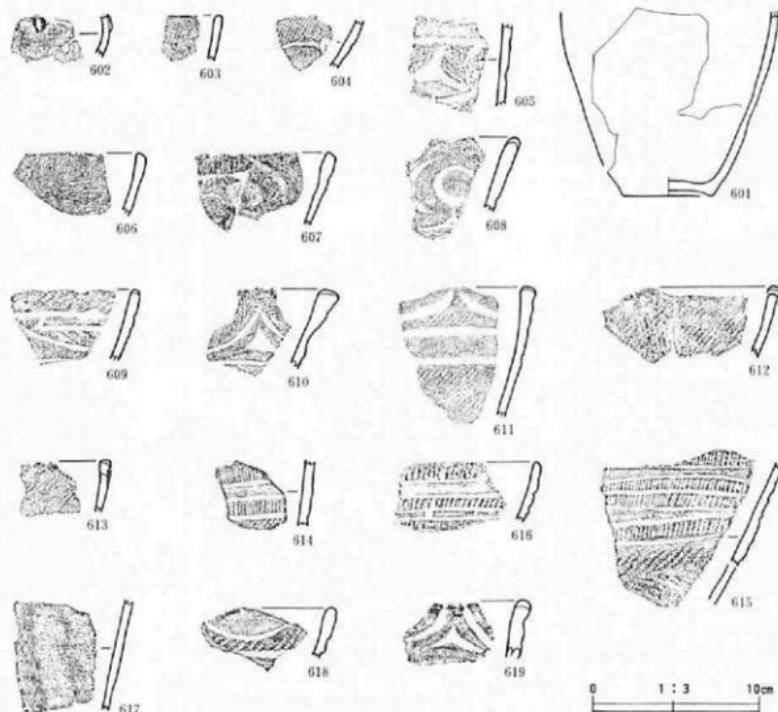
番号	出土地点	場所	器種	部段	文様ほか	地文	内面	分類	備考
570	BH 9 a	Ⅳ上	深鉢	頭	毛刷文、波状平行線、人面、白毛等の施色、鉛	RL	ミガキ?	Ⅱ 3	補修孔、内面に煤?
571	BH 9 a	Ⅳ上	深鉢	口～別	縦條状文	LR	ナデ?	Ⅱ 3	低い山形突起
572	BH 9 a	Ⅳ上	深鉢	LH?	波線による曲線文様、三爻文	LR	ナデ?	Ⅱ 1 b	石夷紋
573	BH 9 a	Ⅳ上	深鉢	口縁	瘤状小突起	LR	ナデ?	Ⅱ 2	
574	BH 9 a	Ⅳ上	深鉢	口～別	縦條状文、波線による曲線文様	ナデ?	ナデ?	Ⅱ 1 b	
575	BH 9 a	Ⅳ上	深鉢	別	底部2分の貼合	LR	ナデ?	Ⅱ 2	
576	BH 9 a	Ⅳ上	深鉢	口附近部	波状文	磨耗	0 3	頂部3分の山形突起	
577	BH 9 a	Ⅳ上	不明	口縁突出部	孔、内・外面上に内文、前面に抓み		ミガキ	Ⅱ 3	
578	BH 8 a	Ⅳ上	深鉢	口～別	羽状網文	RL-LR	ナデ?	Ⅱ 3	折り返し口縁
579	BH 9 a	Ⅳ上	深鉢	口縁	縦條平行文様		ナデ?	Ⅱ 3	
580	BH 9 a	Ⅳ上	深鉢	頭	人面文、底面波線、波線L向による曲線文様	LR	ナデ?	Ⅱ 3	雲母及び砂粒混入
581	BH 9 b	Ⅳ上	鉢	口縁	縦條状文、波線による曲線文様	LR?	ミガキ	Ⅱ 1 b	
582	BH 9 c	Ⅳ上	浅鉢	口～別	口唇部に波線		磨耗	Ⅱ 4	
583	BH 9 b	Ⅳ上	深鉢?	別	縦條状文、ミガキ	LR	ナデ?	Ⅱ 4	
584	BH 9 b	Ⅳ上	深鉢	LH?	波線L向による各種文様	LR	ナデ?	Ⅱ 1 b	
585	BH 9 b	Ⅳ上	浅鉢(台付)	II～底	縦條状文、各種三爻文、ミガキ		ミガキ	Ⅱ 1 b	

第76図 縄文時代の土器⑩



番号	出土地點	場所	器種	部位	文様はか	地文	内面	分類	備考
586	II H 9 b	口上	注口	口・変形	横紋沈綱、菱形入組文、ミガキ		ナデ	Ⅲ 1	
587	II H 9 b	口上	注口	刷	注口下部に2つの瘤、ミガキ		ミガキ?	Ⅲ 1	
588	II H 9 b	口上	注口	刷	ミガキ		ナデ	Ⅲ 3	
589	II H 9 b	口上	注口	刷	渦巻文、ミガキ	L.R.?	ミガキ	Ⅲ 1 b	
590	II H 9 b	口上	壺	頸	ミガキ		ミガキ	Ⅲ 3	
591	II H 9 b	口上	壺?	口縁変形	背孔をもつ壺型		泡糸	Ⅱ 2	
592	II H 9 b	口上	壺?	口縁		L.R.	ナデ	Ⅲ 3	頂部3分の山形突起
593	II H 9 b	口上	壺	頸~刷	ミガキ		ナデ?	否	
594	II H 9 b	口上	鉢	口縁	横紋沈綱、沈綱区間にによる曲線文様	L.R.	ミガキ	Ⅲ 1 b	11縫波状
595	II H 9 b	口上	鉢	口縁	横紋沈綱、菱形文、三叉文、ミガキ		ミガキ	Ⅲ 2	内・外側に煤?
596	II H 9 b	口上	鉢	底		L.R.	ミガキ	Ⅲ 3	
597	II H 9 b	口上	鉢	口~刷	横紋平行沈綱、三叉文	L.R.	ミガキ	Ⅲ 2	11縫波状
598	II H 9 b	口上	鉢(付)	口~底	横紋沈綱	L.R.	ミガキ?	Ⅲ 3	
599	II H 9 b	口上	鉢	刷~底		R.L.	ミガキ	Ⅲ 3	外曲に輪積痕
600	II H 9 b	口上	鉢	刷~底					

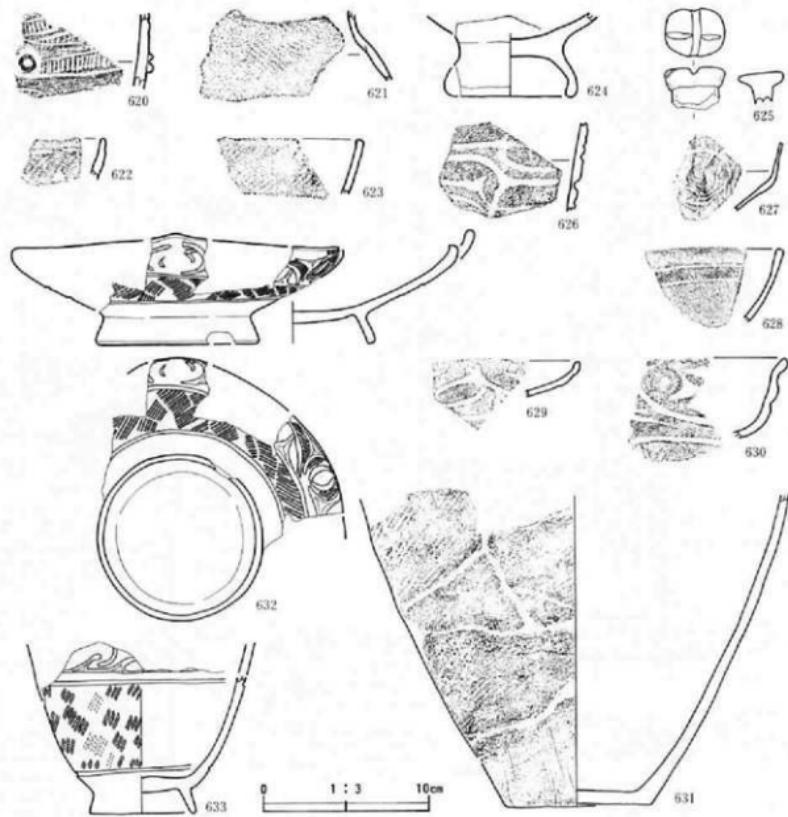
第77図 繩文時代の土器⑨



0 1 : 3 10cm

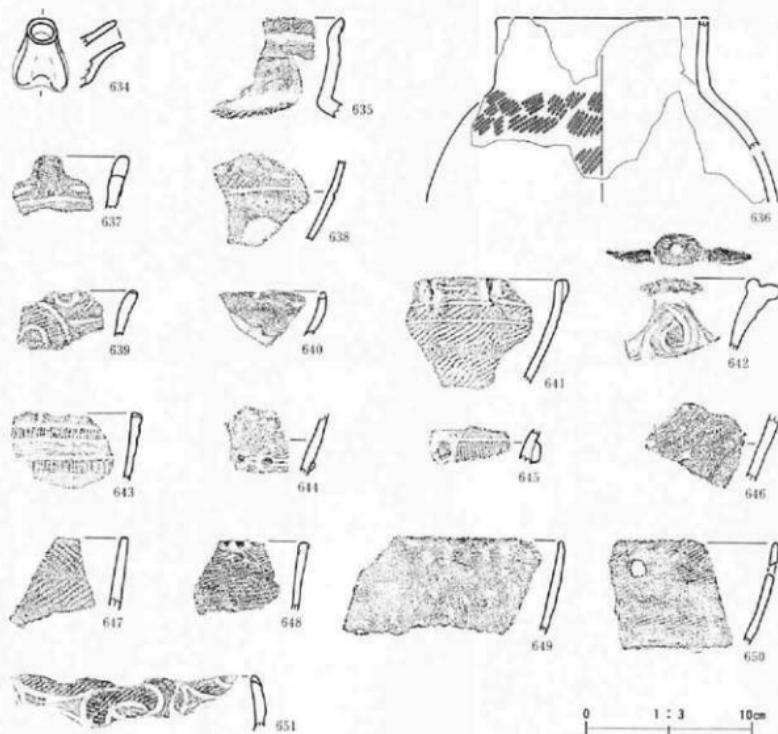
番号	出土地點	朝代	器種	部位	文様はか	地文	内面	分類	備考
601	II H 9 b	II上	鉢	側～底	ミガキ		ナデ	IV 3	
602	II H 9 b	IV上	壺	底部分の貼瘤			ナデ?	IV 2	
603	II H 9 b	IV上	鉢?			L R	ミガキ	IV 3	
604	II H 9 b	IV上	鉢?		横位沈線、ミガキ	L R	ナデ	IV	
605	II H 9 b	IV上	深鉢	頂?	横位沈線、入瓶文、三叉文	L R	ミガキ?	III 1 a	
606	II H 9 b	IV上	深鉢	口縁			ケズリ?	IV 3	
607	II H 9 b	IV上	深鉢	口縁	沈線区画による曲線文様、刻目		磨耗	III 1 b	
608	II H 9 b	IV上	深鉢	口縁	沈線区画による曲線文様	L R	磨耗	III 1 b	口縁波状
609	II H 9 b	IV上	深鉢	口縁	横位沈線、入瓶文、刻目	L R	ミガキ	IV 3	口縁波状
610	II H 9 b	IV上	深鉢	口縁旁起	点行沈線、三叉文、横位沈線	L R	ミガキ	III 1 a	腹部3分の山形突起
611	II H 9 b	IV上	深鉢	口～側	点行沈線、横位平行沈線	L R	ミガキ	III 1 a	豊岡御所の山形突起
612	II H 9 b	IV上	深鉢	口縁		L R	ナデ	IV 2	腹部3分の山形突起
613	II H 9 b	IV上	深鉢	口縁		L R	ナデ	IV 2	腹部3分の山形突起
614	II H 9 b	IV上	深鉢	頂	横位平行沈線、刻目	L R	ナデ	II 3	
615	II H 9 b	IV上	深鉢	頂～側	横位沈線、無位平行沈線(入瓶文?)、刻目、剥離丸	L R + RL	ミガキ?	II 3	
616	II H 9 b	IV上	深鉢	口縁	横位平行沈線、刻目		ミガキ?	II 3?	
617	II H 9 b	IV上	深鉢	側	横位沈線		ナデ	IV 2	移粒(多)
618	II H 9 b	IV上	深鉢	口縁突起	弧文、横位沈線、ミガキ	L R	ミガキ	IV	口縁波状
619	II H 9 b	IV上	深鉢	口縁突起	並行沈線、三叉文、横位沈線、ミガキ		ミガキ	III 1 a	腹部3分の山形突起

第78図 縄文時代の土器⑧



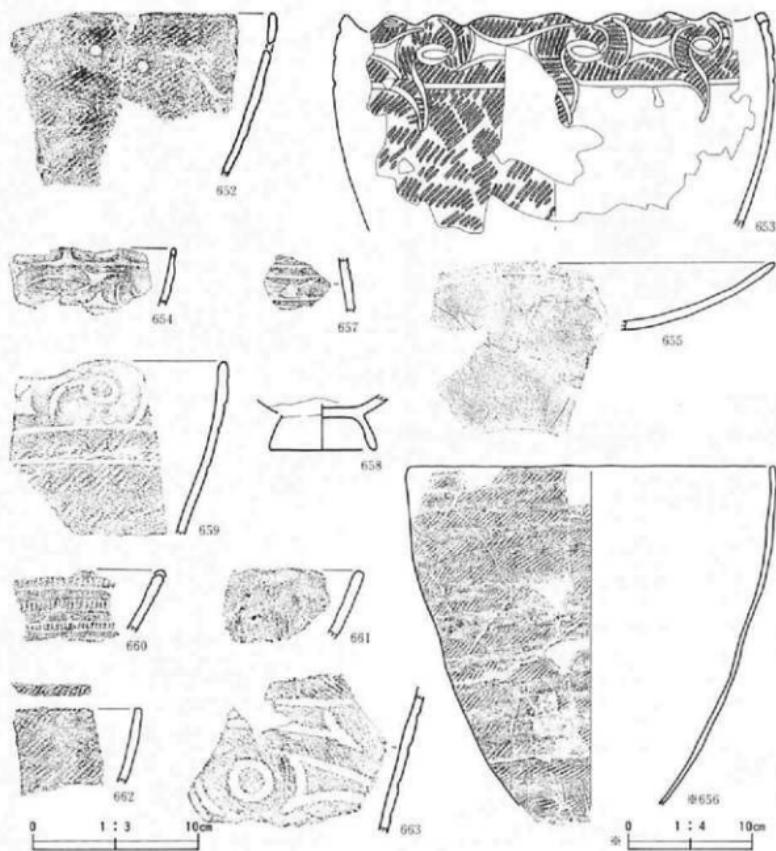
番号	出土地点	層位	器種	部位	文様ほか	地文	内面	分類	備考
620	II H 9 b	Ⅳ上	深鉢	刷	横位平行沈線、入組文、丸目、背孔をもつ點穿		ミガキ	Ⅲ 3	
621	II H 9 b	Ⅳ上	深鉢	口～側		R.L.	消耗	Ⅳ 3?	
622	II H 9 b	Ⅳ上	深鉢	口～側	横位沈線	L.R.	ナデ?	Ⅳ 3	
623	II H 9 b	Ⅳ上	深鉢	口縁		L.R.	ミガキ?	Ⅳ 3	
624	II H 9 b	Ⅳ上	深鉢?	底			ミガキ?	Ⅳ 3	
625	II H 9 b	Ⅳ上		口縁突起	沿部に十字状の刷み		ミガキ?	Ⅳ 3	
626	II H 9 b	Ⅳ上	深鉢	刷	横位沈線、入組文	L.R.	ミガキ?	Ⅲ 1 a	
627	II H 9 c	Ⅳ上	浅鉢?	脚	円文		ミガキ	Ⅲ 1 b	351と同一個体?
628	II H 9 c	Ⅳ上	浅鉢	口～側	横位平行沈線、ミガキ	L.R.	ミガキ	Ⅳ 3	
629	II H 9 c	Ⅳ上	浅鉢	口～側	沈線による曲線文様、ミガキ	L.R.?	ミガキ	Ⅲ 1 b	
630	II H 9 c	Ⅳ上	浅鉢	口～底	横位沈線、魚眼状三文	L.R.	ナデ	Ⅲ 1 b	
631	II H 9 c	Ⅳ上	深鉢	刷～底		L.R.	ミガキ?	Ⅳ 3	
632	II H 9 c	Ⅳ上	浅鉢付	口～底	横位平行沈線、魚眼状三文、三叉文、1ガキ	L.R.?	ミガキ	Ⅲ 1 b	
633	II H 9 c	Ⅳ上	深鉢付	口～底	横位平行沈線、三叉文、横位沈線	L.R.	ミガキ	Ⅲ 1 b	内面に煤、砂粒(多)

第79図 繩文時代の土器②



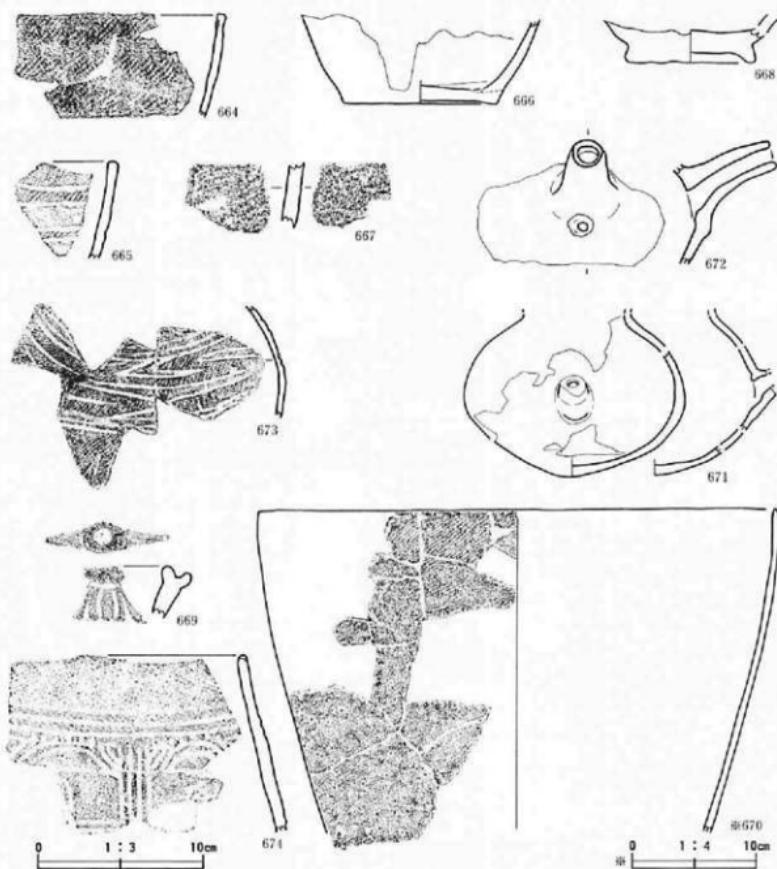
番号	出土地点	器種	部位	文様ほか	地文	内面	分類	備考
634	II H 9 c	口上	注口	注口下部に2つの瘤、ミガキ			Ⅳ 3	
635	II H 9 c	口上	瘤	口縁端部に帶状織文、ミガキ	L R	ミガキ	Ⅳ	
636	II H 9 c	口上	瘤	口縁端部に帶状織文、ミガキ	L R	ナデ	Ⅳ 2	
637	II H 9 c	体	口縁	横位沈線、短沈線、點瘤、ミガキ	L R	ミガキ	Ⅲ 2	
638	II H 9 c	口上	体	横位沈線	L R	ミガキ?	Ⅳ	口縁波状、器母進入
639	II H 9 c	口上	体	沈線口画による曲線文様	L R	ミガキ	Ⅲ 1 b	口縁波状
640	II H 9 c	口上	体	沈線		ナデ	Ⅳ 3	
641	II H 9 c	口上	瘤?	口縁平行沈線、瘤長の點瘤	L (無鉛)	ケズリ?	Ⅳ 2	
642	II H 9 c	口上	深鉢?	横位沈線、直巻文、突出頂部に剥光、ミガキ	L R	ミガキ	Ⅲ 1 b	
643	II H 9 c	口上	深鉢	横位平行沈線、瘤目、ミガキ		ミガキ	Ⅳ 3	口縁波状
644	II H 9 c	口上	深鉢	横位平行沈線、瘤目、ミガキ		ミガキ	Ⅳ 3	
645	II H 9 c	口上	深鉢	横位平行沈線、瘤目、點瘤		ミガキ	Ⅳ 3	
646	II H 9 c	口上	深鉢	横位平行沈線文(流水形)		ミガキ	Ⅳ 2	
647	II H 9 c	口上	深鉢	口縁 羽状織文	R L - L R	ナデ	Ⅳ 3	
648	II H 9 c	口上	深鉢	口縁 縱状小突起	L R	ナデ	Ⅲ 2	
649	II H 9 c	口上	深鉢	口縁		ナデ	Ⅳ 3	
650	II H 9 c	口上	深鉢	口縁		ミガキ	Ⅲ 1 b	口縁波状
651	II H 9 c	口上	深鉢	口縁		ミガキ	Ⅳ 3	補修孔、外側に瘤?

第80図 繩文時代の土器②



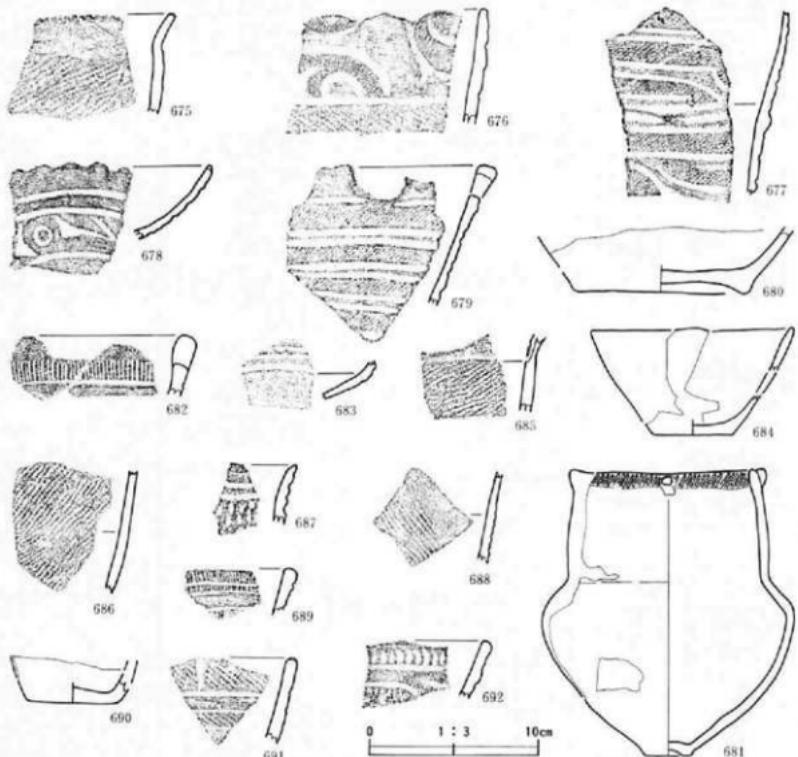
番号	出土地點	層位	器種	部位	文様ほか	地文	内面	分類	備考
652	II H 9 c	Ⅴ上	深鉗	口～側		LR	磨耗	N 3	補修孔
653	II H 9 c	Ⅴ上	深鉗	口～側	横粒波綱、渦巻文、弧線文	LR	ミガキ	II 1 b	口縁波状
654	II H 9 c, 9 d	Ⅴ上	深鉗	口部	横粒波綱、三叉文、洗削凹面による曲面文様、ミガキ	LR	ミガキ	II 1 a	口縁波状、内・外間に横粒波綱
655	II H 9 d	Ⅴ上	浅鉗	口～底	横粒波綱、ミガキ	LR	ミガキ	N 3	
656	II H 9 d	Ⅴ上	深鉗	口～側		LR	ミガキ	N 3	跡柱（多）
657	II H 9 d	Ⅴ上	鉈	側？	横粒平行波綱、弧線文、ミガキ	LR	ミガキ	II 2	
658	II H 9 d	Ⅴ上	鉈（台付）	底		LR	ミガキ	N 3	
659	II H 9 d	Ⅴ上	深鉗	口～側	横粒平行波綱、弧線付円文、ミガキ	LR	ミガキ	II 1 b	口縁波状
660	II H 9 d	Ⅴ上	深鉗	口部	横粒平行波綱、入痕文、削目	LR	ナデ	N 3	低い山形突起、跡柱（多）
661	II H 9 d	Ⅴ上	深鉗	側	横粒波綱文	LR	ナデ	N 2	
662	II H 9 d	Ⅴ上	深鉗	口縁	口縁に原体压痕	LR	ナデ	N 3	
663	II G 0 ±	Ⅴ上	深鉗	口部？	横粒波綱、入痕文	RL	ミガキ	II 1 b	

第81図 繩文時代の土器②



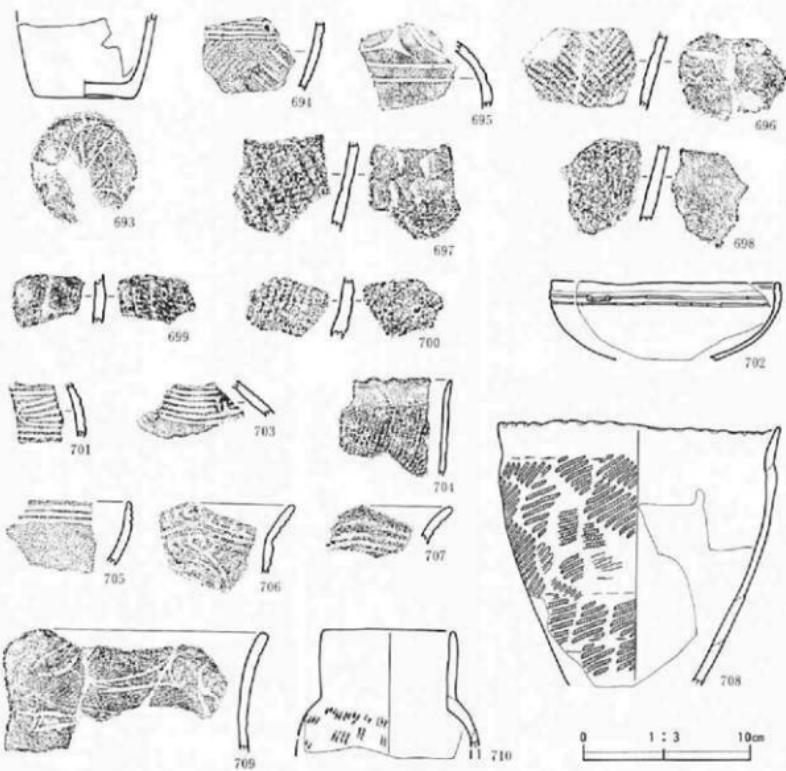
番号	出土点	層位	器種	部位	文様ほか	地文	内面	分類	備考
664	■ G 1 j	IV上	深鉢	口～胴		LR	ナデ	IV 3	
665	■ G 1 j	IV上	深鉢	口縁	横位平行沈線、ミガキ	LR	ミガキ	IV	口縁波状
666	■ G 2 i	IV上他	鉢	胴～底	ミガキ		ナデ	IV 3	
667	■ G 2 i	V	深鉢	胴		磨耗	痕跡	I	繩維彌入（多）
668	■ G 2 j	IV上	浅鉢	底			ナデ	IV 3	波紋（多）
669	■ G 2 j	IV上	深鉢	口縁突起	魚眼状三叉文、面部に凹を持つ突起	磨耗	磨耗	II a	
670	■ G 5 i	IV上	深鉢	口～胴		LR	磨耗	IV 3	波紋（多）
671	■ G 5 j	IV上	注口	胴～底		磨耗	II 1	波紋（多）	
672	■ G 5 j	IV上	注口	胴	注口下部に瘤	磨耗	IV 2		
673	■ G 8 j	IV上	座	肩	機位平行沈線、矢羽根状文	LR	ナデ	III 3	
674	■ II 0 d	IV上	深鉢	口～胴	機位・瓶位平行沈線、多重沈線による 曲線文様、刺突（下から）	RL	磨耗	II 1	波紋（多）

第82図 繩文時代の土器②



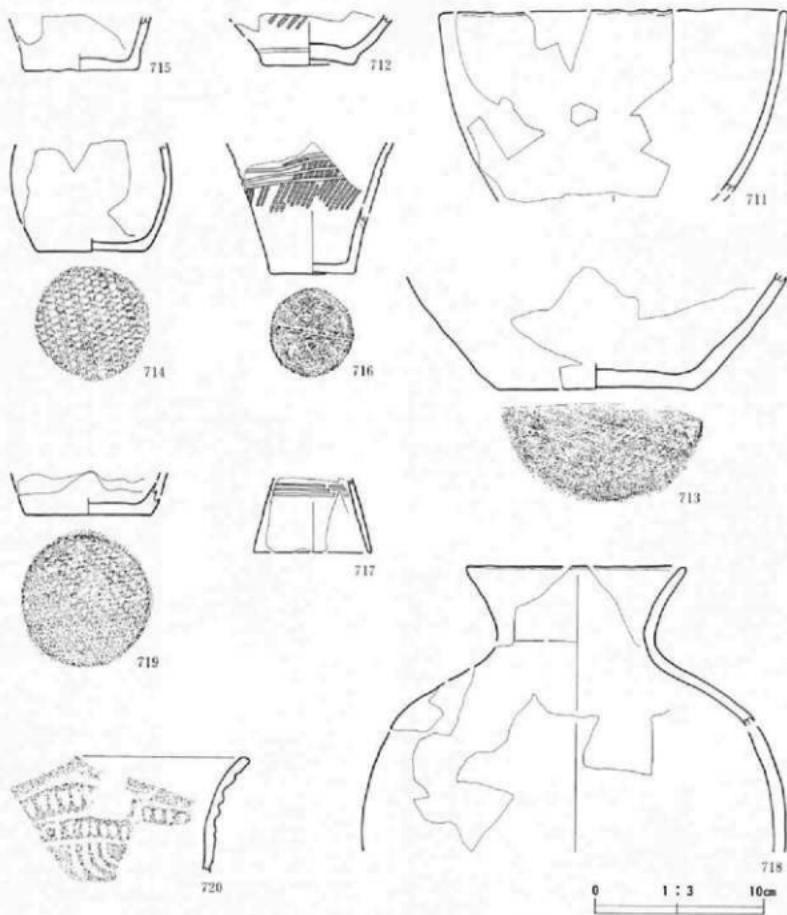
番号	出土地点	層位	器種	部位	文様はか	地文	内曲	分類	備考
675	III H 0 i	5d	鉢	口～側		LR	ナガキ	II型に削み	
676	III H 1 a	IV 上	深鉢	口縁	横位沈織、化粧区画による重ね文様、刻目、ミガキ	(注記有)	ミガキ	II 1 b	口縁波状
677	III H 1 b	IV 上	深鉢	側	横位沈織、入組文、横位平行沈織、横長豆沈織、横位沈織、入組文	LR	ナガキ	II 3	
678	III H 1 b	IV 上	深鉢?	口縁	横位平行沈織、魚鱗状三叉文、横位沈織		ミガキ	II 1 b ?	口縁波状
679	III H 1 b	IV 上	深鉢	口縁	横位沈織	LR	ミガキ	II 3	頂部2分の山形突起
680	III H 1 b	IV 上	深鉢	底			ミガキ?	N'	
681	III H 1 e	IV 上	鉢	口～底	口縁端部に帶状模文、瘤状小突起	LR	(注記有)	II 2	
682	III H 2 c	IV 上	深鉢	口縁	横位沈織、刻目		ナガキ	II 3	丸い山形突起
683	III H 2 h	5b	浅鉢	頂～側	横位平行沈織	RL?	ミガキ?	II 4	
684	III H 3 c	IV 上	鉢	口～底	ミガキ		ミガキ	N' 3	
685	III H 3 h	5b	深鉢	側		LR	ナガキ	II 4	
686	III H 3 h	4・5	深鉢	側		LR	ミガキ?	IV 3	
687	III H 3 h	4・5	深鉢	口縁	横位平行沈織、刺突		ミガキ?	II 1	口縁波状
688	III H 3 h	4・5	深鉢	側	野放文(右巻き?)		ナガキ	II 4 ?	
689	III H 4 b	IV	深鉢	口縁	横位平行沈織、刻目		ミガキ	IV 3	
690	III H 4 h	IV 上	鉢	底		磨耗	磨耗	N	砂輪(多)
691	III H 4 c	IV 上	深鉢	口縁	横位平行沈織	RL	ナガキ	IV 3	頂部指沿押圧状の低い山形突起(2分)。外側に僅?
692	III H 4 c	IV 上	深鉢	口縁	横位沈織、入組文?、刻目		ミガキ	II 3	低い山形突起

第83図 繩文時代の土器◎



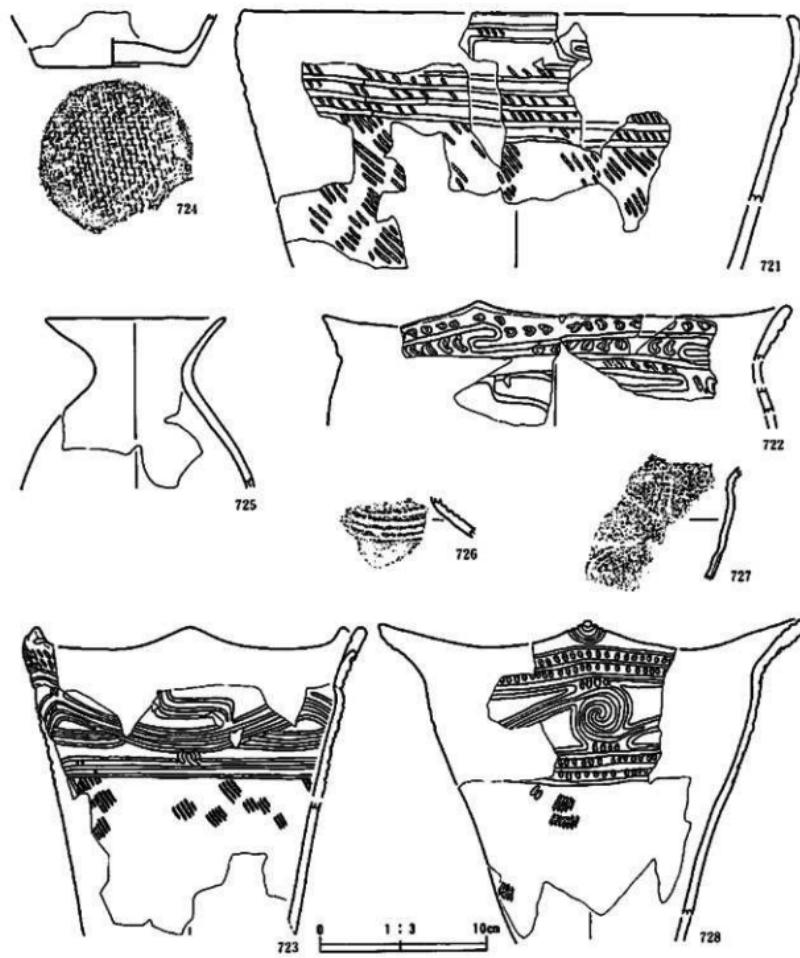
番号	出土地点	層位	器種	部位	文様は	地文	内面	分類	備考
693	III H 5 f	N下	壺?	胴~底		ナデ	II 1		底部に木槧痕
694	III H 6 b	III	深鉢	口~側	横位平行沈線。粘土粒	L R	ミガキ	III 4	
695	III H 7 a	N上	壺	胴	複数平行沈線、三文文、流域による文様。ミガキ		ナデ?	III 1 b	
696	III H 7 e	V	深鉢	側	羽状縞文	L R	ナデ?	I	織縞混入
697	III H 7 e	V	深鉢	側		R L?	崩耗	I	織縞混入(多)
698	III H 7 e	V	深鉢	側	不整齊余文		ナデ?	I	
699	III H 7 e	V	深鉢	側	直裏縞文?		崩耗	I	
700	III H 7 f	V	深鉢	側	直裏縞文	L R		I	織縞混入
701	III H 7 i	5d	浅鉢?	口縁	横位平行沈線、工字文		ミガキ	III 4	
702	III H 7 i	5d	深鉢	口~底	横位平行沈線、毛土粒。ミガキ。内面に複数沈線		ミガキ	III 4	
703	III H 7 i	5d	壺	肩	横位平行沈線(工字文)		ナデ?	III 4	
704	III H 7 i	5d	鉢	口~側		L R	ナデ	III 4	口縁小波状
705	III H 7 i	5d	鉢	口~側	横位平行沈線	L R	ナデ	III 4	
706	III H 7 i	5d	深鉢	口縁	並行沈線、多焦点沈文、刺突		ミガキ?	III 1	口縁波状
707	III H 7 i	5d	深鉢	口縁	並行沈線(多處)	崩耗	崩耗	II 1	口縁波状
708	III H 7 i	5d	深鉢	口~側		L R	ミガキ+ナデ	III 4	口縫小波状、外底削り跡に崩耗
709	III H 8 a	N上	深鉢	口縁	沈線区画による各種文様	L R	ミガキ	III 1 b	口縁波状
710	III H 8 a	N上	壺	口~側	ミガキ	L R?	ナデ	IV 2	

第84図 繩文時代の土器Ⅴ



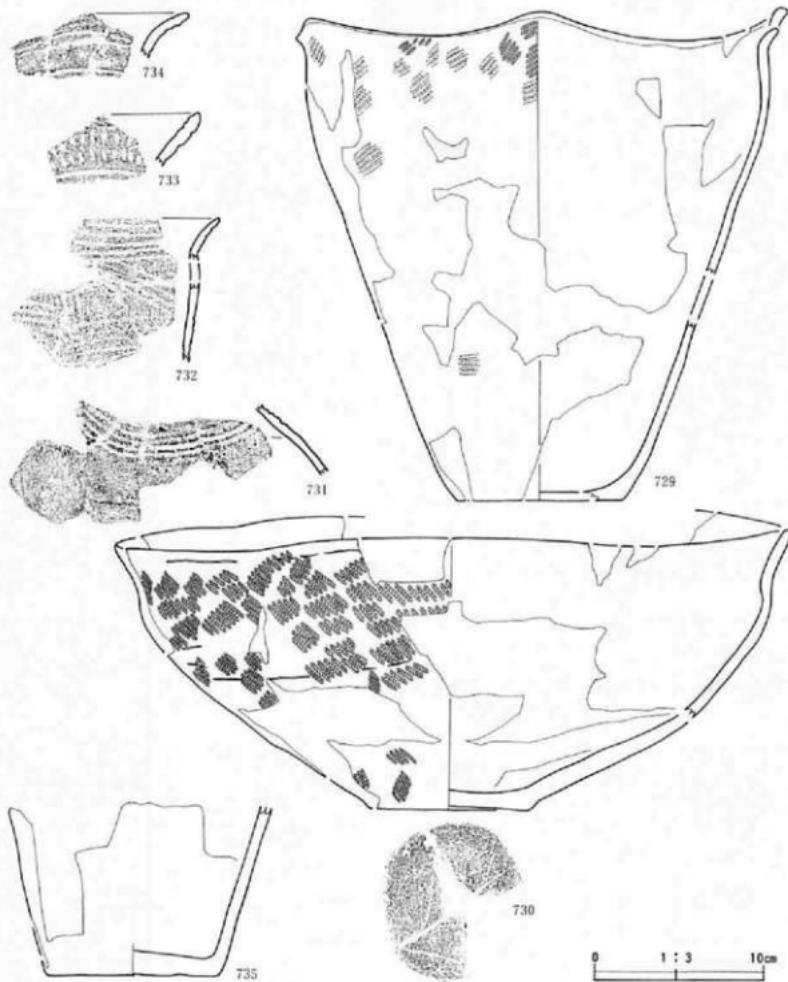
番号	出土地点	型式	器種	部位	文様はか	地文	内面	分類	備考
711	Ⅱ日8 b	深	鉢	口一側	ミガキ	ミガキ	Ⅳ 3		
712	Ⅲ日8 b	IV上	鉢	側一底	横位沈線	L.R	ナゲ	Ⅳ 3	
713	Ⅲ日8 c	IV	鉢	側一底	ミガキ	ミガキ,ナゲ	II 1	底部に網代模、砂粒(多)	
714	Ⅲ日8 c	IV上	素?	側一底	ミガキ	ナゲ	II 2	底部に網代模	
715	Ⅲ日8 c	IV上	素?	側一底		ナゲ?	Ⅳ 3		
716	Ⅲ日8 c	IV上	鉢	側一底	横位平行沈線(多重)、ミガキ	L.R	ミガキ	II 1	底部に木葉痕
717	Ⅲ日8 c	IV	?	口一側	横位平行沈線		ミガキ	II 1	
718	Ⅲ日8 c	IV上	素?	口一側		ナゲ	II 1	砂粒(多)	
719	Ⅲ日8 c	IV上	鉢?	底		磨耗	II 1	底部に網代模	
720	Ⅲ日8 c	IV上	深鉢	口縁	並行沈線、多重沈線文、刺突	ミガキ?	II 1	口縁波状	

第85図 縄文時代の土器⑦



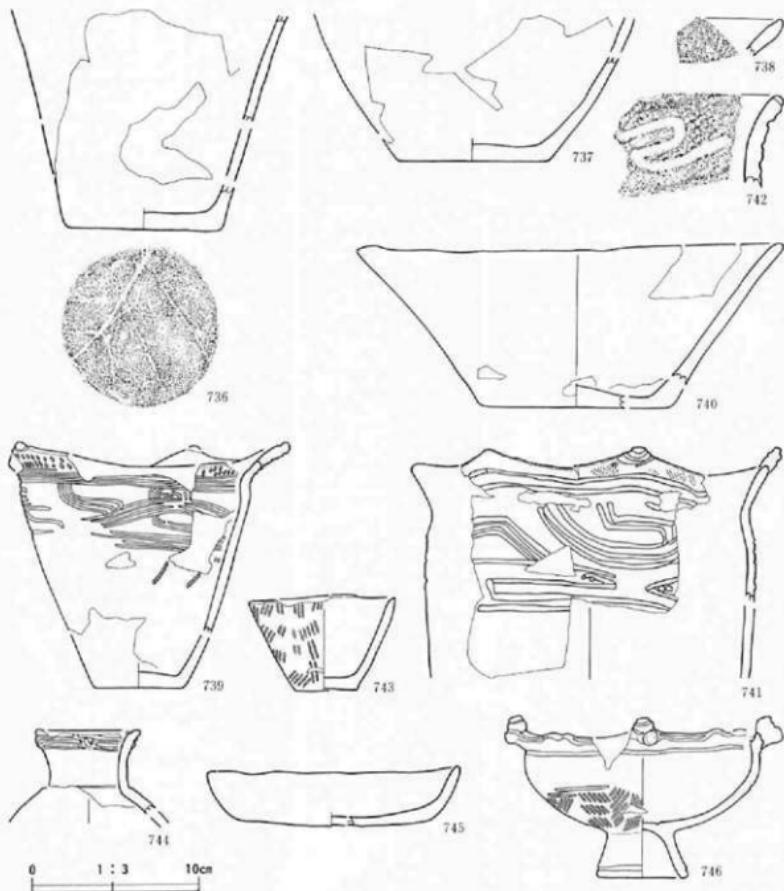
番号	出土地点	時代	器種	部位	文様ほか	地文	内面	分類	備考
721	H 8 c	IV上	深鉢	口～側	縁位平行波線(多量)、沈鶴区画による方形文様	RL	ミガキ	II 1	
722	H 8 c	IV上	深鉢	口～側	縁位波状、波状波紋、螺旋波紋、地面上による方形区画	RL	ミガキ	II 1	口縁波状(6單位?)
723	H 8 c	IV上	深鉢	口～側	縁位平行波線(多量)、多量波紋(ナラシ)、斜面	RL	ミガキ	II 1	口縁波状
724	H 8 c	IV上	深鉢	底		磨耗	II 1	底面に側代痕	
725	H 8 c	IV上	壺	口～肩		ナデ	II 1	砂粒(多)	
726	H 8 c	IV上	壺		縁位平行波線(多量)	RL	ミガキ	II 1	
727	H 8 c	IV上～中	深鉢	側	縁位平行波線、多量波紋	磨耗	磨耗	II 1	砂粒(多)
728	H 8 c	IV上～中	深鉢	口～肩	三輪足、附(側代)、斜面、縫合、縫合(TS)	RL	ミガキ?	II 1	口縁波状(4單位)、砂粒(多)

第86図 繩文時代の土器②



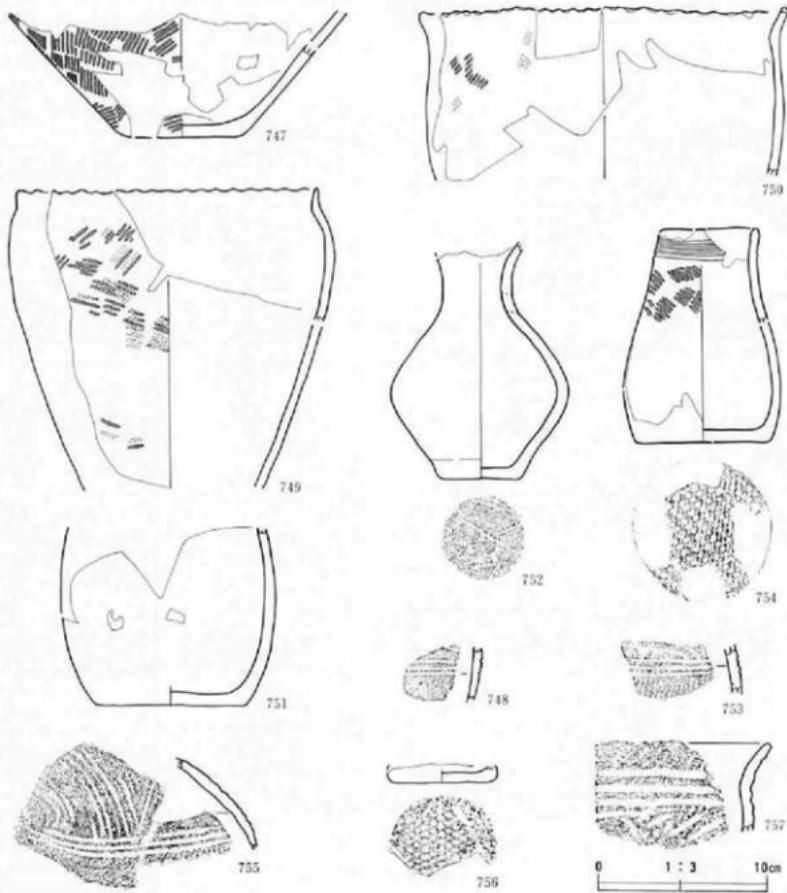
番号	出土地点	層位	器種	部位	文様ほか	地文	内面	分類	備考
729	ⅢH 8 c	IV下	深鉢	口～胴		LR	ミガキ	II 1	口縁波状(6單位), 底部 に網代模? 網粒(多)
730	ⅢH 8 c	IV中	浅鉢	口～底		RL	ミガキ?	II 1	底部に木葉模、砂粒(多)
731	ⅢH 8 c	Ⅴ中	瓶	肩	横位平行沈線(多量)		ナデ	II 1	砂粒(多)
732	ⅢH 8 c	Ⅴ中	深鉢	口～胴	横位平行沈線(多量)、多重波綱文(クラシック文)		ミガキ?	II 1	内・外面に水毛毛形? 網粒(多)
733	ⅢH 8 c	IV中	深鉢	口縁	三角支点、同心円状沈線、横位沈線、刻突(下から)		ミガキ?	II 1	口縁波状
734	ⅢH 8 c	Ⅳ中～下	深鉢	口縁	並行沈線、横位沈線	磨耗	ナデ?	II 1	口縁波状
735	ⅢH 8 c	IV中	深鉢			磨耗	II 1	底部に木葉模? 網粒(多)	

第87図 繩文時代の土器②



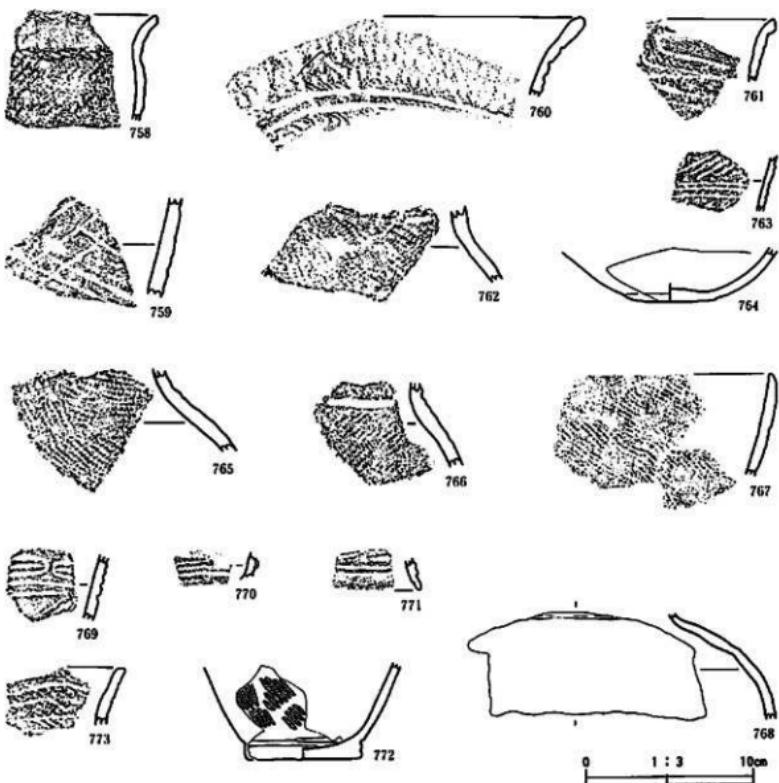
番号	出土地点	層位	形種	部位	文様はなし	地文	内面	分類	備考
736	ⅢH 8 c	Ⅴ中	深鉢	口～底			II 1	底部に木葉痕、砂粒（多）	
737	ⅢH 8 c	Ⅴ中	深鉢	口～底		崩耗	II 1	底部に崩れ痕、砂粒（多）	
738	ⅢH 8 c?	Ⅴ中	深鉢	口縁	三角突起、同心円状沈線、刺突		ミガキ	II 1	口縁波状、砂粒（多）
739	ⅢH 8 c他	Ⅴ上	深鉢	口～底	三角突起、同心円状沈線、横枝平行沈線（多重）、多変形波文〔ケランク文〕、刺突	LR	ミガキ	II 1	口縁波状（4単位）、砂粒（多）
740	ⅢH 8 c他	Ⅴ中	浅鉢	口～底			ミガキ？	II 1	砂粒（多）
741	ⅢH 8 d	Ⅴ上～中	深鉢	口～側	三角突起、同心円状沈線、重行沈線、多変形波文〔ケランク文〕、刺突、沈線による方格文様	RL?	ミガキ	II 1	口縁波状（6単位？）
742	ⅢH 8 f	Ⅴ上	深鉢	口縁	反対式波文	LR	ミガキ？	II 1	口縁波状、外面上赤色施彩
743	ⅢH 8 i	6	鉢	口～底		LR	ミガキ？	II 4	
744	ⅢH 8 i	6	鉢	口～側	横枝平行沈線〔工字文〕、横枝沈線、ミガキ		ナゲ	III 4	
745	ⅢH 8 i	5d	浅鉢	口～底			崩耗	IV	砂粒（多）
746	ⅢH 8 i	5d	浅鉢（付）	口～底	内・外曲面及び脚部に横枝沈線、口縁部に凸棱、内面底部に凹文、ミガキ	LR	ミガキ	III 4	赤色頬料付着

第88図 繩文時代の土器②



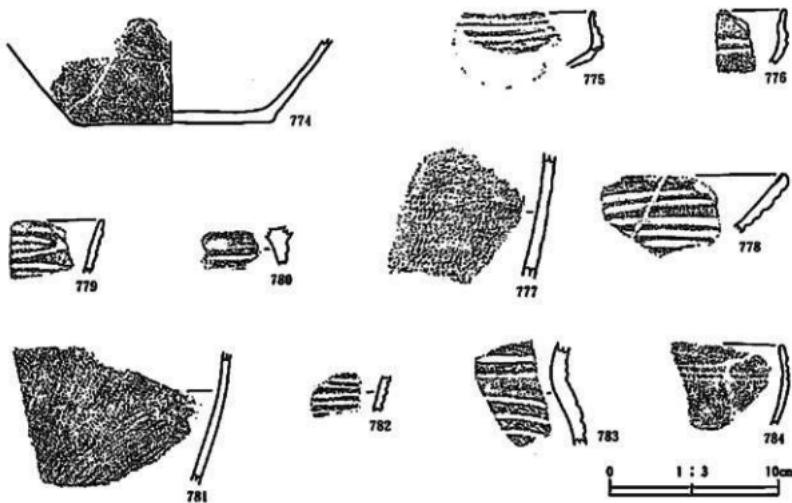
番号	出土地点	層位	器種	部位	文様はか	地文	内面	分類	備考
747	ⅢH 8.5b	5d	碗?	腹~底		LR	ミガキ	Ⅲ.3	
748	ⅢH 8.1	5d	钵?	腹	横位平行沈線	LR	ミガキ	Ⅲ.4	
749	ⅢH 8.1	5d	深鉢	口~胴		LR	ナデ	Ⅲ.4	口縁小波状
750	ⅢH 8.1	5d	深鉢	口~胴		LR	磨耗	Ⅲ.4	口縁小波状
751	ⅢH 8.1	6.5d	深鉢	腹~底	ミガキ		ナデ	Ⅳ	
752	ⅢH 9.b	IV上	碗	腹~底			ナデ	Ⅲ.1	底部に木葉痕、砂粒(多)
753	ⅢH 9.c	II	深鉢	腹	横位平行沈線(多巻)、多重沈線文	LR	ナデ	Ⅲ.1	
754	ⅢH 8.b	IV上	碗	腹~底	横位平行沈線(多巻)	RL	(24.75)	Ⅲ.1	底部に網代板
755	ⅢH 9.c	IV上	碗	腹	横位平行沈線(多巻)、多重沈線文	LR	ナデ	Ⅲ.1	
756	ⅢH 9.c	IV上	鉢?	底			磨耗	Ⅱ	底部に網代板
757	ⅢH 9.c	IV上	深鉢	口縁	横位平行沈線(多巻)、多重沈線文	LR	ナデ?	Ⅲ.1	

第89図 繩文時代の土器③



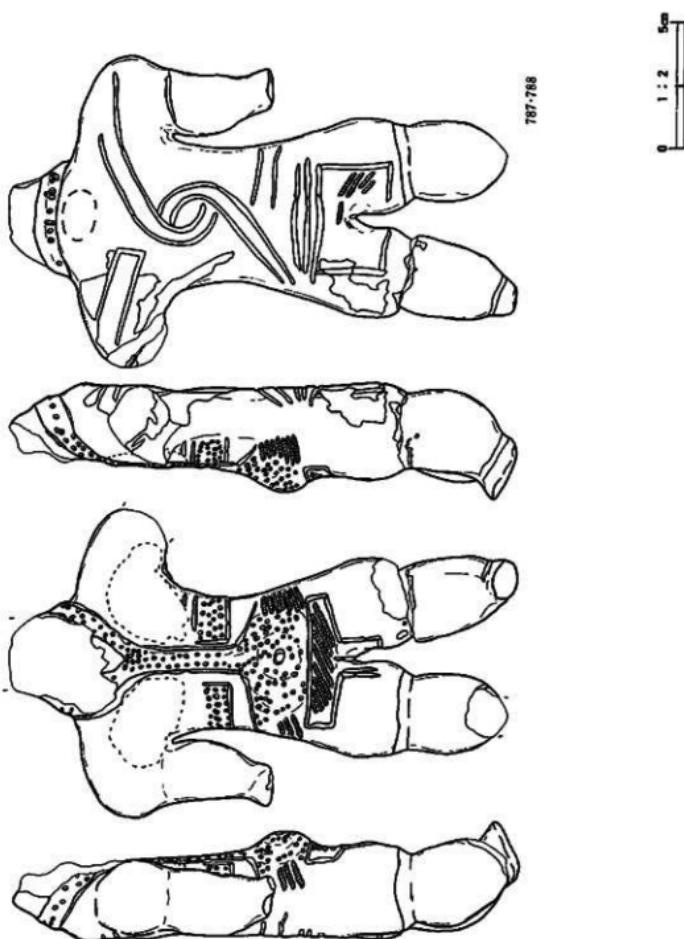
番号	出土地点	層位	器種	部位	文様ほか	地文	内面	分類	備考
758	ⅢH 9 c	IV'	深鉢	口～肩	頭部に原体圧痕、ミガキ	LR	ナゲ?	Ⅲ 4	
759	ⅢH 9 d	IV'上	深鉢	刃	余穂	磨耗	ナゲ?	Ⅲ 1	
760	ⅢH 9 d	IV' F	深鉢	口縁	横紋平行沈線(多束)、剥突(下から)	RL?	磨耗	Ⅲ 1	LI捺波状、砂粒(多)
761	ⅢH 9 d	IV'上	深鉢	口縁	沈紋表面による文様	RL	ナゲ?	Ⅲ 1	
762	ⅢH 9 c	IV'中	深鉢	頭	横紋平行沈線	RL	ナゲ?	Ⅲ 4	
763	ⅢH 9 e	IV'?	刃	横紋平行沈線(多束)、多束沈線文、剥突			ナゲ?	Ⅱ	
764	ⅢH 9 i	5d	浅鉢?	肩～底	ミガキ		ナゲ?	Ⅲ 3?	
765	ⅢH 9 j	IV'中	縦	肩		RL	ナゲ	Ⅲ 4	砂粒(多)
766	ⅣH 1 i	5d	縦	肩	偏位沈線	LR	磨耗	Ⅲ 4	
767	ⅣH 1 i	5d	深鉢	口～肩		RL	ナゲ?	Ⅳ 3	砂粒(多)
768	ⅣH 1 i	5d上	縦	刃	横紋沈線、ミガキ		ナゲ	Ⅳ	
769	ⅣH 1 j	5d	浅鉢?	口縁	横紋沈線、工字文、斜行沈線		ミガキ?	Ⅲ 4	
770	ⅣH 1 j	5d	鉢?	口縁?	横紋平行沈線、筋土粒		ナゲ	Ⅲ 4	
771	ⅣH 2 i	5a	深鉢?	口縁	横紋平行沈線、内面に偏位沈線		ミガキ	Ⅲ 4	
772	ⅣH 2 j	7a	鉢	刃～底	偏位沈線	RL	ナゲ?	Ⅴ 5	砂粒(多)
773	ⅣH 2 j	3e	深鉢	LI棒	並行沈線	RL	磨耗	Ⅲ 1	LI捺波状

第90図 縄文時代の土器⑩



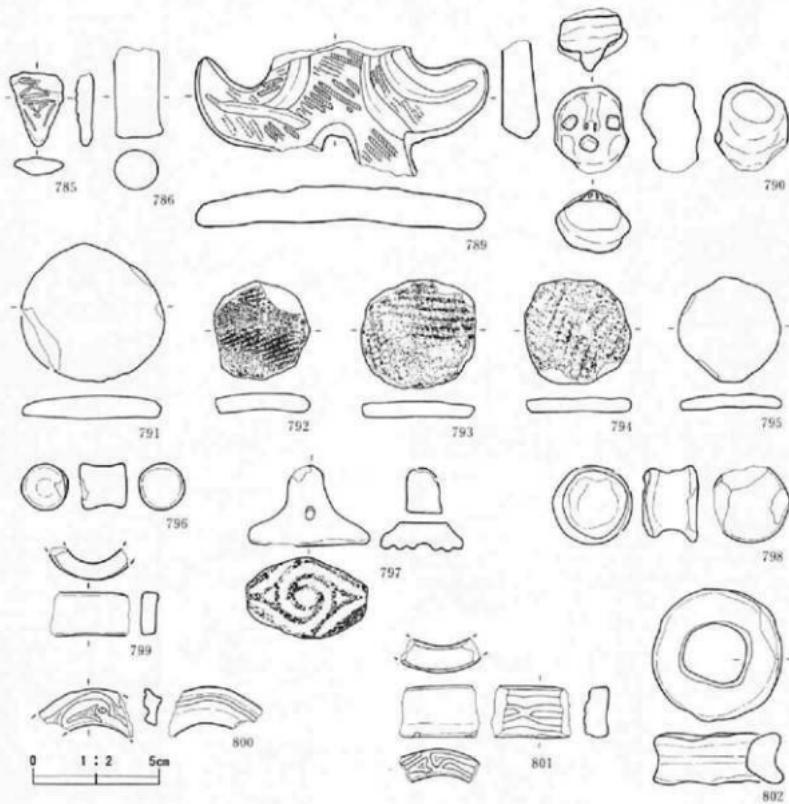
番号	出土地点	層位	器種	部紋	文様ほか	地文	内面	分類	参考
774	NH3 b	4	鉢?	唇~底		LR	ミガキ	Ⅶ 3	
775	NH3 l	5a	浅鉢	口~肩	横位平行沈線		ミガキ	Ⅷ 4	
776	NH3 l	5a	浅鉢	口縁	横位平行沈線、内面に横位沈線		唇托	Ⅷ 4	
777	NH3 l	5a	深鉢	肩?		LR?	ミガキ?	Ⅸ 5	
778	NH3 l	5c	鉢?	口縁	横位平行沈線		唇托	Ⅹ 4	
779	NH3 l	5a	鉢	口縁	横位平行沈線、工字文、粘土粒		ミガキ	Ⅹ 4	
780	NH4 h	A 4	深鉢	肩?			唇托	Ⅺ 4	
781	NH4 h	A 4	深鉢	肩		LR	ミガキ	Ⅺ 5	
782	NH4 h	A 4	鉢	肩	横位平行沈線		唇托	Ⅺ 4	外面上に灰化物?
783	調査区北	不明	鉢?	唇~肩	横位平行沈線、沈線区間にによる曲線文様	LR	ナゲ	Ⅺ 1	
784	耕土中	不明	鉢	口~肩	横位平行沈線、沈線区間にによる文様	唇托	ナゲ?	Ⅺ	

第91図 縄文時代の土器③



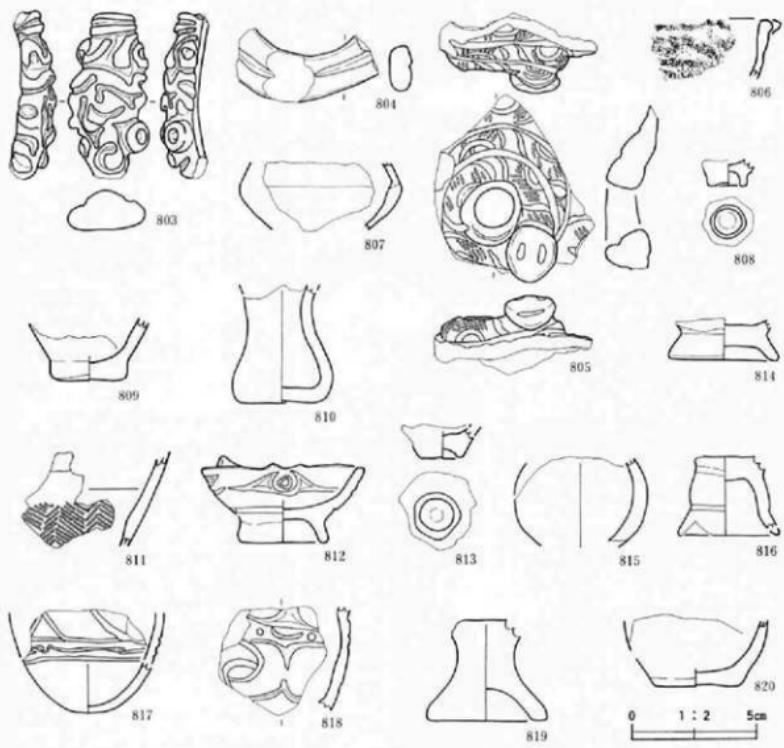
番号	出土地点	層位	器種	文様ほか	備考
787	Ⅲ H 0 b	H上	土偶	部位：頭～右脚。作り：中実、中筋線山吹型、下腹部強調。背中上面に高まり。背面に入糸文様、斜窓。LR、面部・左腕・乳房及び右脚先端欠	大賀山H11にアスファルト張。788と複合
788	Ⅲ H 0 b	H上	土偶	部位：左脚。作り：中実	大賀山にアスファルト張。787と複合

第92図 繩文時代の土製品①



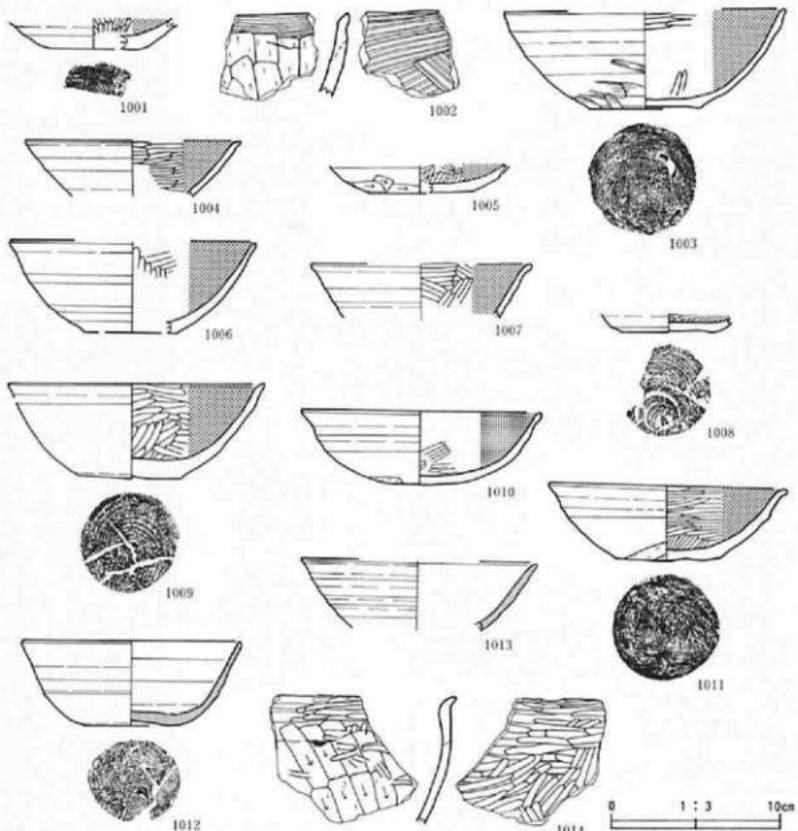
番号	出土地点	層位	器種	文様はか	備考
785	II H 8 b	IV上	口縁突起	並行弦線、堆積平行沈縮、沈縮による文様、刺突	土器分類Ⅱ群1類
786	II H 9 b	IV上	土偶	部位：脚？作り：忠実	
787		IV上	口縁突起？	三叉文、沈縮による文様、四凹、R.L.、内面ミザギ	土器分類Ⅲ群4類
789	II H 9 a	IV上	土偶	部位：頭、作り：忠実	
790	19 SK 8				
791	II H 0 a	IV上	土製円盤	重量：22.0g、削り加工：打ち欠き	底部使用？
792	II H 8 a	IV上	土製円盤	重量：11.3g、削り加工：打ち欠き、LR	
793	II H 9 a	IV上	土製円盤	重量：10.7g、削り加工：打ち欠き、羽状織文（LR・RL）	
794	II H 9 b	IV上	土製円盤	重量：10.1g、削り加工：打ち欠き、羽状織文（LR・RL）	
795	II H 9 d	IV上	土製円盤	重量：8.8g、削り加工：打ち欠き？	磨耗
796	II G 9 i	IV上	耳飾	重量：5.9g、ほぼ完形	
797	II H 9 a	IV上	スランプ	重量：22.2g、ほぼ完形、内文、渦巻状文、三叉状網目、貫通孔	
798	II H 0 a	IV上	耳飾	重量：16.2g、断欠損	
799	II H 8 a	IV上	耳飾	重量：5.2g、破損品 約1/4残存、環状、横面部ガラス	
800	II H 8 a	IV上	耳飾？	重量：3.0g、破損品 約1/6残存、環状、直捻き三叉文	赤色顔料付着
801	II H 9 a	IV上	耳飾	重量：7.2g、破損品 約1/6残存、環状、U字文？	
802	II H 9 b	IV上	耳飾	重量：35.5g、121g完形、環状	

第93図 繩文時代の土製品②



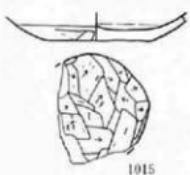
番号	出土地点	場所	器種	文様はか	備考
803	III H 9 a	IV上	鉢形品	重量: 26.9g、ほぼ完形。三叉文地	赤色顔料付着
804	III H 9 a	IV上	圓筒形土製品?	重量: 13.9g、破損品。約1/5残存。横位沈線。LR	赤色顔料付着?
805	III H 9 b	IV上	?	横位平行沈線。各種短沈線と削消手法による文様。LR	上部斜面は、赤色顔料付着。
806	III S K 9	No.1	ミニチュア?	部位: 口沿。小突起	手づくね?
807	III H 0 a	IV上	ミニチュア?	部位: 制。LR	
808	III H 9 a	IV上	ミニチュア?	部位: 底?	
809	III G 2 i	IV上	ミニチュア?	部位: 底	手づくね
810	III H 4 f	IV上	ミニチュア(削)	部位: 箱一部	外表面にタール状の付着物
811	III H 5 h	IV上?	ミニチュア?	部位: 制。羽状縞文 (LR - RL)、ミガキ。内面ナデ?	
812	III H 8 a	IV上	ミニチュア?	部位: 口沿。横位沈線。魚眼状三叉文。内面一部ミガキ	
813	III H 8 a	IV上	ミニチュア?	部位: 底	
814	III H 9 a	IV上	ミニチュア?	部位: 底。外表面ミガキ	
815	III H 9 a	IV上	ミニチュア??	部位: 制一底。内面一部ミガキ	
816	III H 9 b	IV上	ミニチュア?	部位: 制。横位平行沈線。ミガキ	
817	III H 9 b	IV上	ミニチュア?	部位: 制一底。横位平行沈線。沈線による文様。玉造き三叉文	
818	III H 9 c	IV上	ミニチュア?	部位: 制。沈線による文様各種。刺突	
819	III H 4 f	IV上	ミニチュア?	部位: 脚?	砂粒(多)
820	III H 9 i	C 6	ミニチュア?	部位: 底	

第94図 縄文時代の土製品③

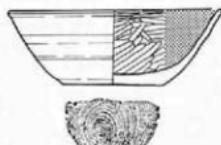


番号	種類	器種	出土地点	層位	口径	底径	器高	外面調整 (口縁部/体部)	内面調整 (口縁部/体部)	備考
1001	土師器	环	19P.369	埋土	(5.5)	(1.9)	ロクロ。体部下端再調整	ヘラミガキ		内黒
1002	土師器	鉢	19S.D.1	埋土		(5.0)	ヨコナデハラケゼリ	ヨコナデハラケメ		輪積み底
1003	土師器	环	19S.D.12	横断面	16.2	6.3	5.7	ロクロ。体部下端再調整	ヘラミガキ	内黒
1004	土師器	环	19S.D.12	埋土	(12.5)		(3.0)	ロクロ	ヘラミガキ	内黒
1005	土師器	环	19S.E.6	埋土		(6.0)	(1.7)	ヨクア。底部下端・底部再調整	ヘラミガキ	内黒
1006	土師器	环	19S.I.2	貯藏穴	(14.3)	(5.3)	5.4	ロクロ	ヘラミガキ	内黒
1007	土師器	环	19S.I.2			(12.7)	(3.2)	ロクロ	ヘラミガキ	内黒
1008	土師器	环	19S.I.2				5.3	(1.0) ロクロ	ヘラミガキ	内黒
1009	土師器	环	19S.I.2	貯藏穴	14.8	6.0	5.5	ロクロ。底部再調整	ヘラミガキ	内黒
1010	土師器	环	19S.I.2	貯藏穴	13.8	3.3	4.2	ヨクア。底部下端・底部再調整	ヘラミガキ	内黒、底部丸味強
1011	土師器	环	19S.I.2	貯藏穴	13.6	6.1	4.5	ヨクア。底部下端・底部再調整	ヘラミガキ	内黒
1012	土師器	环	19S.I.2	貯藏穴	12.6	5.4	5.0	ロクロ	ロクロ	遺失不足
1013	土師器	环	19S.I.2	貯藏穴	(13.6)		(4.0)	ロクロ	ロクロ	遺失不足
1014	土師器	鉢	19S.I.2	貯藏穴			(7.3)	ヨクア/ハラケゼリ/ヘラミガキ	ヘラミガキ/ヘラミガキ	内黒

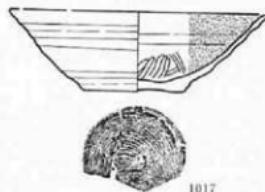
第95図 土師器①



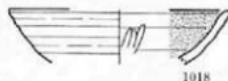
1015



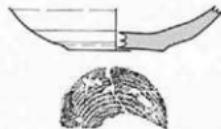
1016



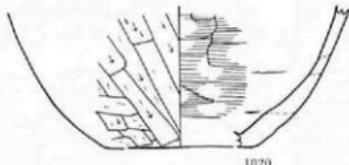
1017



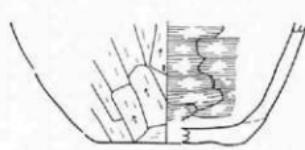
1018



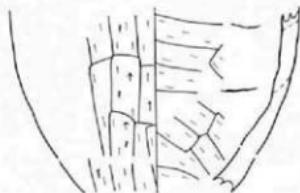
1019



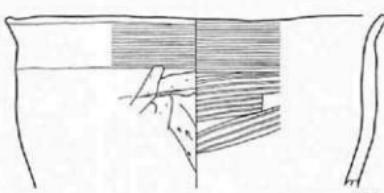
1020



1021



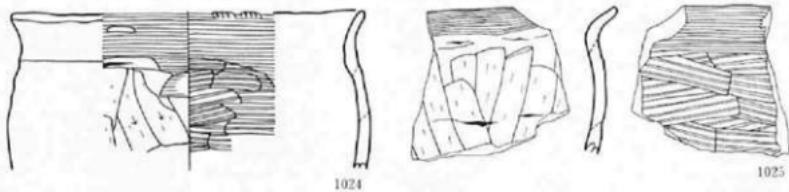
1022



0 1 : 3 10cm

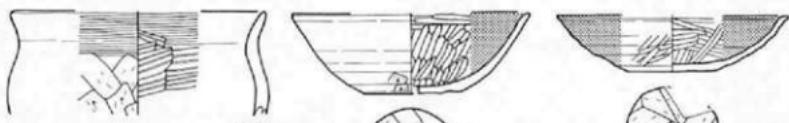
番号	種類	器種	出土地点	層位	L3径	底径	器高	外面調整 (口縁部/体部)	内面調整 (口縁部/体部)	備考
1015	土師器	环	19S X 7	堆土	6.2	(1.8)	ロクロ、器部下唇・先部内調整	ロクロ	邊元不足?	
1016	土師器	环	21S 1 1		12.5	5.9	4.5	ロクロ	ヘラミガキ	内黒
1017	土師器	环	21S 1 1	カマド	15.1	6.0	4.8	ロクロ	ヘラミガキ	内被熱
1018	土師器	环	21S 1 1	カマド周辺	(13.0)		(3.3)	ロクロ	ヘラミガキ	内被熱
1019	土師器	环	21S 1 1	カマド袖	(5.7)	(2.7)	ロクロ	ロクロ	邊元不足	
1020	土師器	甕	21S 1 1	カマド	(8.9)	(8.1)	/ヘラケズリ	/ヘラナデ	輪積み痕	
1021	土師器	甕	21S 1 1	カマド周辺	(8.5)	(7.2)	/ヘラケズリ	/ヘラナデ	輪積み痕	
1022	土師器	甕	21S 1 1	カマド袖			(10.8)	/ヘラケズリ	/ヘラケズリ	内面黒い。輪積み痕
1023	土師器	甕	21S 1 1	カマド	(22.0)		(10.2)	ヨコナデ/ヘラケズリ	ヨコナデ/ハケヌ	

第96図 土師器②



1024

1025



1026

1027

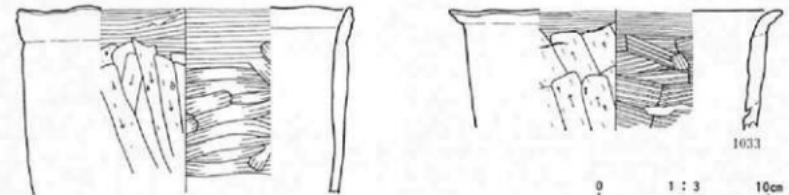
1028



1029

1030

1031



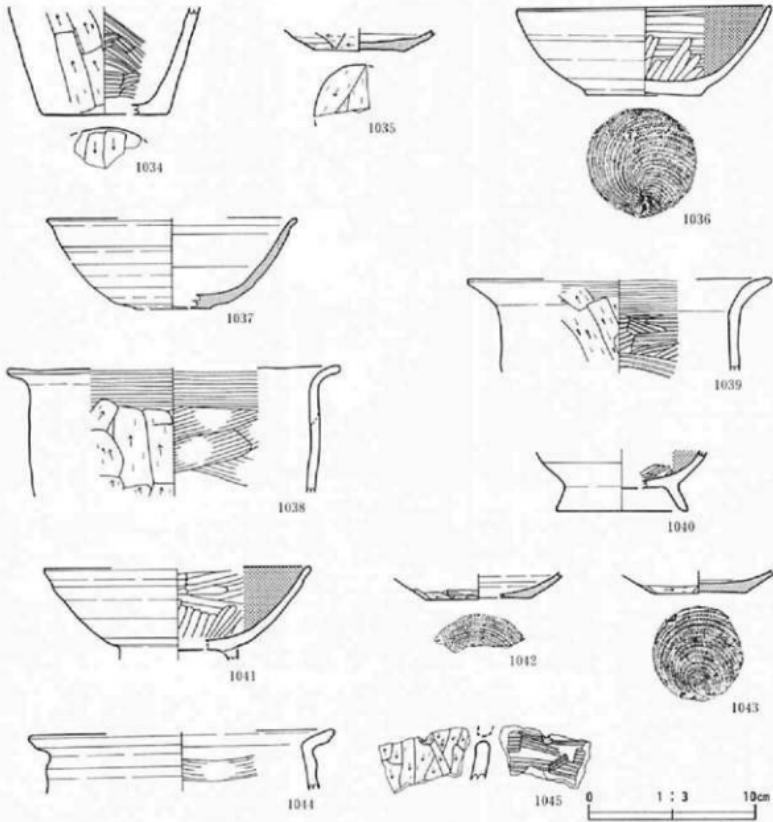
1032

1033

0 1 : 3 10cm

番号	種類	器種	出土地点	層位	口径	底径	器高	外側調整 (口縁部/体部)	内側調整 (口縁部/体部)	備考
1024	土師器	甕	21S 1 1	カマド周辺	(20,3)		(9,0)	ヨコナデ/ハラケズリ	ヨコナデ/ハケメ	輪積み痕
1025	土師器	甕	21S 1 1	カマド周辺			(8,5)	ヨコナデ/ハラケズリ	ヨコナデ/ハケメ	輪積み痕
1026	土師器	甕	21S 1 1	カマド周辺	(14,7)		(6,0)	ヨコナデ/ハラケズリ	ヨコナデ/ハケメ	
1027	土師器	环	21SK 15	埴土	(13,6)	(5,4)	(4,7)	ロクロ、体薄下端・底面剥離	ヘラミガキ	内墨
1028	土師器	环	III G 7 1	直上	13,4	5,4	3,3	ロクロ/ロクロ・ハラ ミガキ、底部再調整	ヘラミガキ	内外面内墨
1029	土師器	环	III H 0 1	7d	12,9	6,5	5,1	ロクロ	(ヘラミガキ)	内墨
1030	土師器	环	III H 0 1	6	(14,3)	(6,1)	5,0	ロクロ	ロクロ	深丸不足
1031	土師器	甕	III H 0 1	5d	(15,5)		(4,9)	ロクロ	ロクロ	
1032	土師器	甕	III H 0 1	6	(19,4)		(10,9)	ヨコナデ/ハラケズリ	ヨコナデ/ハラナデ	
1033	土師器	甕	III H 0 1	5d	(19,2)		(6,9)	ヨコナデ/ハラケズリ	ヨコナデ/ハケメ	輪積み痕

第97図 土師器③



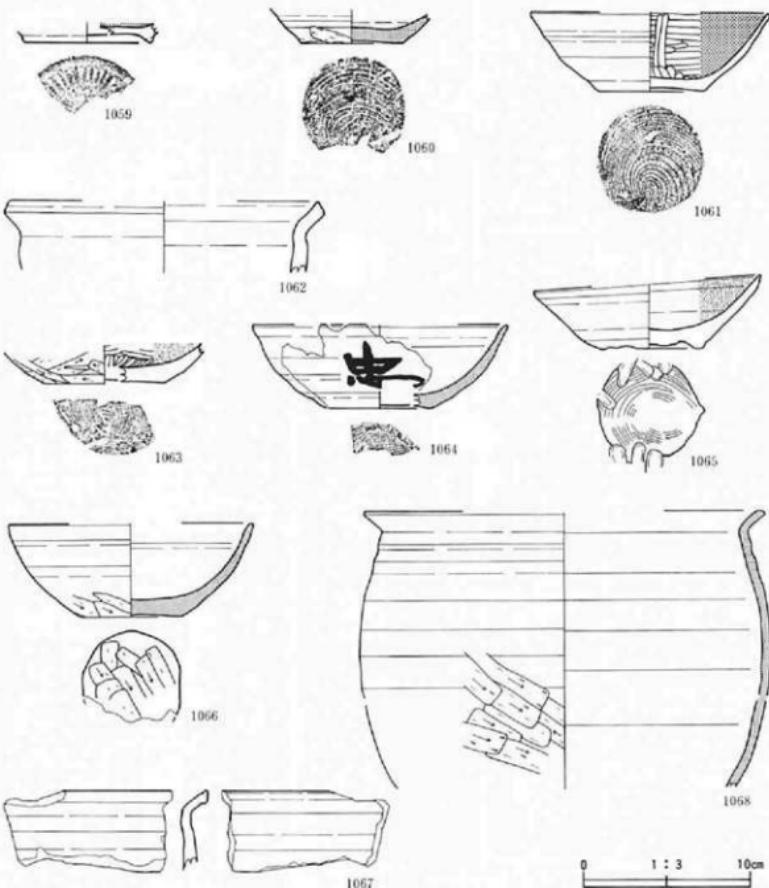
番号	種類	器種	出土地点	層位	口径	底径	器高	外面調整 (口縁部/体部)	内面調整 (口縁部/体部)	備考
1034	土師器	壺	■H10 i	5d			(7.5) (6.3)	/ハラケズリ、底部ハラケズリ	/ハケメ	
1035	土師器	环	■H11 g	5b			5.4 (1.3)	ロクロ		選元不足
1036	土師器	环	■H3 h	5d	15.0	6.7	5.4	ロクロ、体部下端・底辺部調整	ロクロ	内黒
1037	土師器	环	■H3 h	5b	(14.8)	(4.3)	5.3	ロクロ	ロクロ	選元不足
1038	土師器	壺	■H3 i	5b	(19.6)		(7.5)	ヨコナデ/ハラケズリ	ヨコナデ/ハラナデ	輪積み痕
1039	土師器	壺	■H3 i	5b	(17.8)		(5.5)	ヨコナデ/ハラケズリ	ヨコナデ/ハケメ	
1040	土師器	高台付	■H4 i	5b			(7.8) (3.7)	ロクロ	ハラミガキ	内黒
1041	土師器	高台付	■H5 i	6	(15.8)		(5.5)	ロクロ	ハラミガキ	内黒
1042	土師器	环	■H6 i	5d			6.0 (1.6)	ロクロ、体部下端再調整	ロクロ	選元不足
1043	土師器	环	■H6 i	9a			5.4 (1.4)	ロクロ、体部下端再調整	ロクロ	選元不足
1044	土師器	壺	■H6 i	6	(18.0)		(3.5)	ロクロ/ロクロ	ロクロ/ロクロ・ハラナデ	
1045	土師器	壺	■H6 i	5d			(3.0)	/ハラケズリ	/ハケメ	

第98図 土師器④



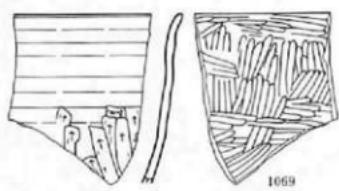
番号	種類	器種	出土地点	層位	口径	底径	高さ	外面調整 (口縁部/体部)	内面調整 (口縁部/体部)	備考
1046	土師器	环	ⅢH 7 i	7 c 5			(5.7)	(2.9) ロクロ	ハウミガキ	内黒
1047	土師器	环	ⅢH 7 i	6	12.9	5.4	(4.3)	ロクロ	ハウミガキ	内黒
1048	土師器	环	ⅢH 7 i	9 b			(4.3)	ロクロ	ハウミガキ	内黒
1049	土師器	甕	ⅢH 7 i	6	(20.5)		(6.0)	ロクロ/ロクロ	ロクロ/ロクロ	
1050	土師器	环	ⅢH 7 j	9 a	(12.8)	4.8	4.7	ロクロ。体部下端再調整	ハウミガキ	内黒。内面剥落
1051	土師器	环	ⅢH 7 j	9 b			(3.7)	ロクロ	ハウミガキ	内黒。墨書「忠?」
1052	土師器	环	ⅢH 7 j	9 b			(6.7)	ロクロ。底部下端・底部再調整	ハウミガキ	内黒
1053	土師器	环	ⅢH 7 j	7 d			(1.8)	ロクロ	ハウミガキ	内黒。墨書「?」
1054	土師器	高台付	ⅢH 7 j	9 i			(2.2)	ロクロ	ハウミガキ	内黒
1055	土師器	甕	ⅢH 7 j	9 a	(15.5)		(4.6)	ロクロ/ロクロ	ロクロ/ロクロ	輪積み板
1056	土師器	甕	ⅢH 7 j	9 a	(18.2)		(5.0)	ヨコナデ/ヘラナデ	ヨコナデ/ヘラナデ	輪積み板
1057	土師器	甕	ⅢH 7 j	9 a	(14.8)		(7.0)	ヨコナデ/ヘラケズリ	ヨコナデ/ハケメ	
1058	土師器	鉢	ⅢH 7 j	9 a	(12.6)		(3.7)	ロクロ	ロクロ/ロクロ・ハウテ	

第99図 土師器⑤



番号	種類	器種	出土地点	層位	口径	底径	器高	外周調整 (口縁部/体部)	内面調整 (口縁部/体部)	備考
1059	土師器	高台付	Ⅲ H 8 i	5d		(7.6)	(1.1)	ロクロ	ハラミガキ	西里、北側に突出状の溝壁有
1060	土師器	环	Ⅲ H 8 j	7c 5		6.2	(1.2)	ロクロ、体部下端西調整	ロクロ	遺文不足
1061	土師器	环	Ⅲ H 9 i	5d	14.2	6.4	4.7	ロクロ	ハラミガキ	内黒
1062	土師器	类	Ⅲ H 9 i	6	(18.4)		(4.3)	ロクロ/ロクロ	ロクロ/ロクロ	内既熱
1063	土師器	环	Ⅲ H 9 j	9a		(7.0)	(2.4)	ロクロ、体部下端西調整	ハラミガキ	遺文不足
1064	土師器	环	Ⅲ H 9 j	9a	(15.2)	(6.1)	5.0	ロクロ	ロクロ	遺文不足、墨書き〔忠〕
1065	土師器	环	Ⅲ I 0 b	9b	13.4	6.0	4.4	ロクロ	ロクロ	再加热、底部凹凸あり
1066	土師器	环	Ⅲ I 1 a	9a	(14.5)	6.0	5.5	ロクロ、外唇下端・近底内調整	ロクロ	遺文不足
1067	土師器	类	Ⅲ I 1 a	5c			(4.8)	ロクロ/ロクロ	ロクロ/ロクロ	遺文不足
1068	土師器	钵?	N H 1 a	9b	(23.7)		(16.5)	ロクロ/ロクロ・ハラミガキ	ロクロ/ロクロ	遺文不足少

第100図 土師器⑥



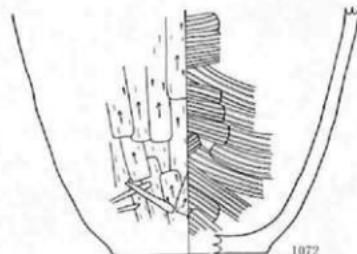
1069



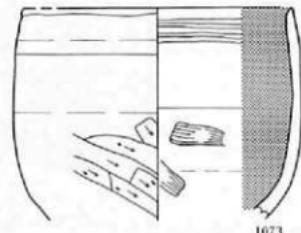
1070



1071



1072



1073



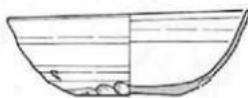
1074



1075



1076

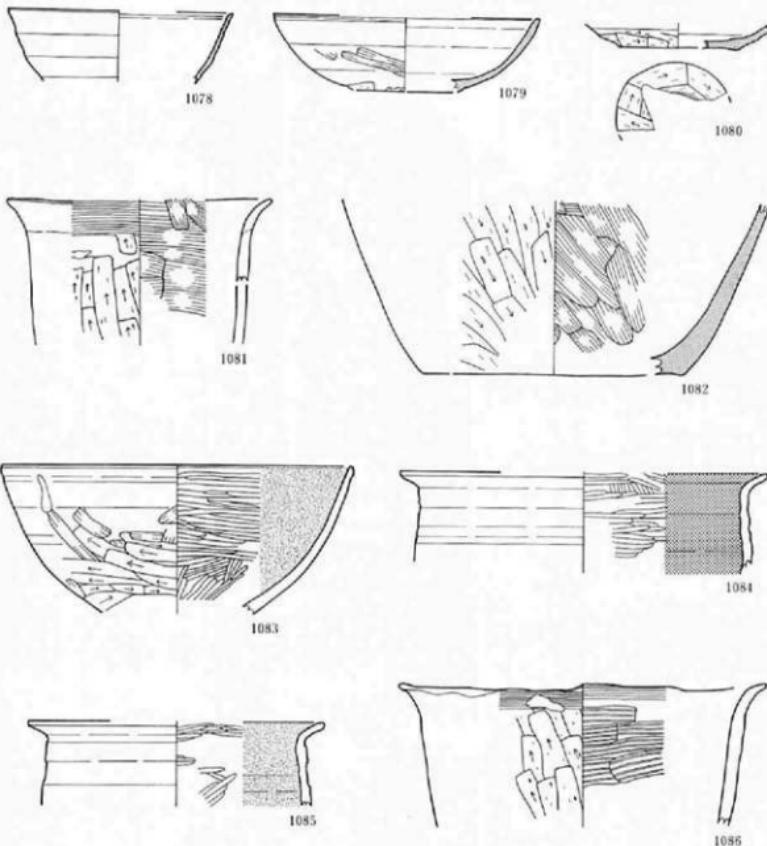


1077

0 1 : 3 10cm

番号	種類	器種	出土地点	層位	口径	底径	器高	外面調整 (口縁部/体部)	内面調整 (口縁部/体部)	備考
1069	土師器	鉢	NH 1 b	9 a			(20.0)	ロクロ/ロクロ・ハラケズリ	ハラミガキ	内黒
1070	土師器	环	NH 1 i	6	(13.8)		(3.7)	ロクロ	ハラミガキ	内黒
1071	土師器	甕	NH 1 j	7 d			(6.4)	ヨコナギ/ハラケズリ	ヨコナギ・ハチメ/ハケメ	
1072	土師器	甕	NH 2 i	1 r		(9.0)	(14.3)	/ハラケズリ・ハリミガキ?	/ハケメ	
1073	土師器	鉢	NH 2 i	1 r	(15.8)		(12.4)	ロクロ/ロクロ・ハラケズリ	ヨコナギ?/ハラナギ・1ゴキ	内外内黒
1074	土師器	环	NH 2 j	7 d	(15.8)		(4.1)	ハラミガキ	ハラミガキ	内黒
1075	土師器	环	NH 3 i	9 g	13.6	5.7	4.5	ヨコナギ・体部下端・底部内調整	ロクロ	適光不足
1076	土師器	环	NH 3 i	9 g	13.7	5.9	5.0	ロクロ・体部下端内調整	ロクロ	適光不足
1077	土師器	环	NH 3 i	9 g	14.0	6.0	4.9	ロクロ・底部下端・底部内調整	ロクロ	適光不足

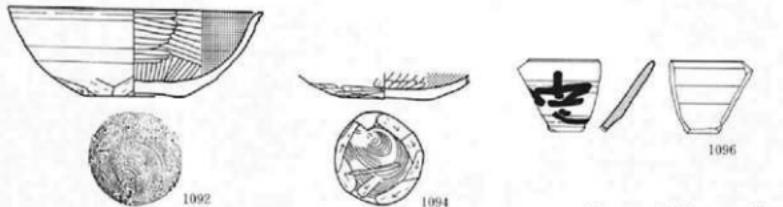
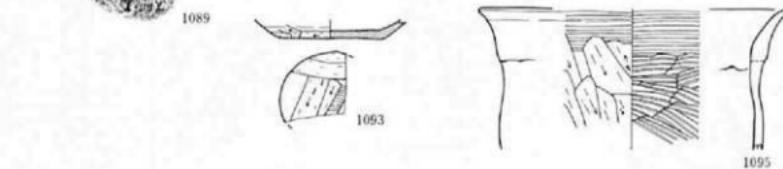
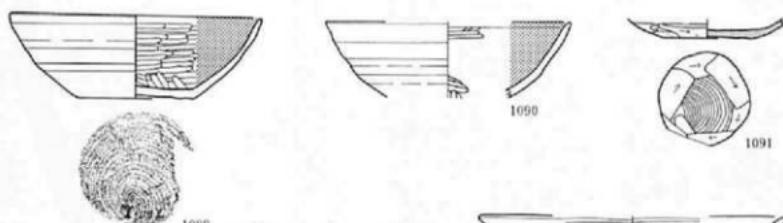
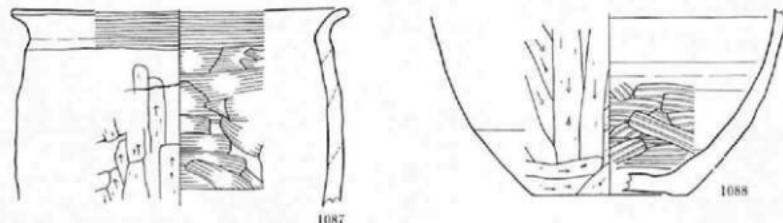
第101図 土師器⑦



0 1 : 3 10cm

番号	種類	器種	出土地点	層位	口径	底径	器高	外側調整 (口縁部/体部)	内側調整 (口縁部/体部)	備考
1078	土師器	坏	NH3-i	不明	(13.4)	(4.1)	ロクロ	ロクロ	遺光不足	
1079	土師器	坏	NH3-i	9g	(15.8)	(6.1)	(4.4)	ロクロ、体部下端再調整	ロクロ	遺光不足
1080	土師器	坏	NH3-i	9f		(7.0)	(1.5)	ロクロ、体部下端再調整	ロクロ	遺光不足
1081	土師器	壺	NH3-i	9g	(15.8)	(8.5)	(8.5)	ヨコナデ/ヘラケズリ	ヨコナデ・ヘラナデ/ヘラナデ	輪様み頭
1082	土師器	壺	NH3-i	9g		(15.5)	(10.3)	/ヘラケズリ	/ヘラナデ	遺光不足
1083	土師器	坏	NH3-i	9g	(21.0)	(8.8)	(8.8)	ロクロ、体部再調整	ヘラミガキ	再被熱
1084	土師器	鉢	NH3-i	9g	(21.8)	(6.0)	(6.0)	ロクロ/ロクロ	ヘラミガキ/ヘラミガキ	内黒
1085	土師器	鉢	NH3-i	9g	(17.5)	(5.0)	(5.0)	ロクロ/ロクロ	ヘラミガキ/ヘラミガキ	再被熱
1086	土師器	壺	NH3-i	9e	(21.8)	(8.5)	(8.5)	ヨコナデ/ヘラケズリ	ヨコナデ/ハケヌ	

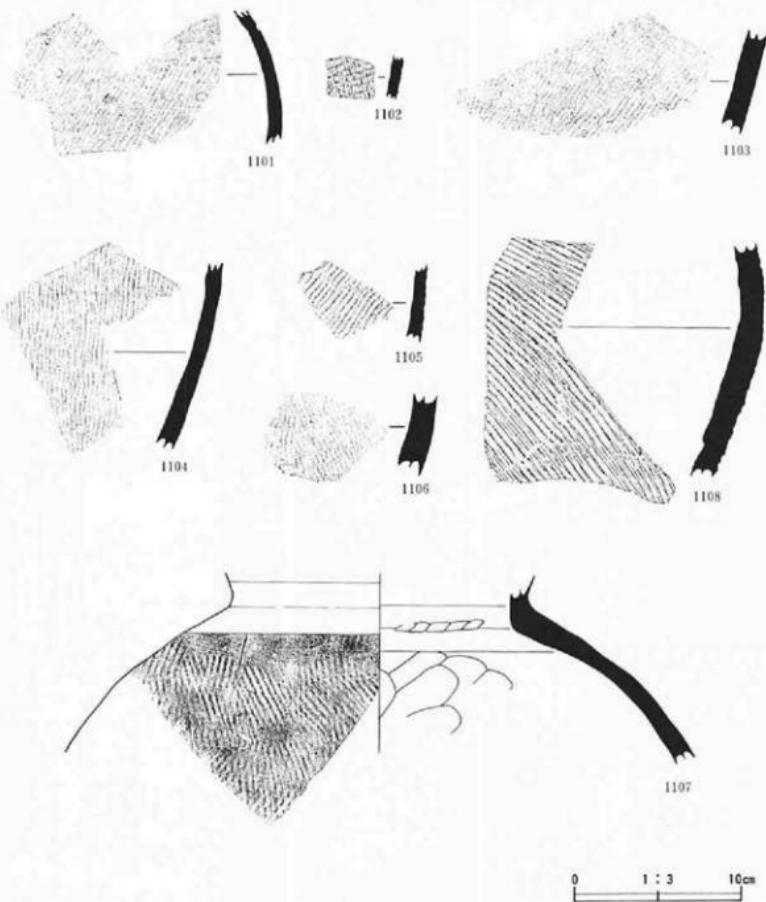
第102図 土師器⑧



0 1 : 3 10cm

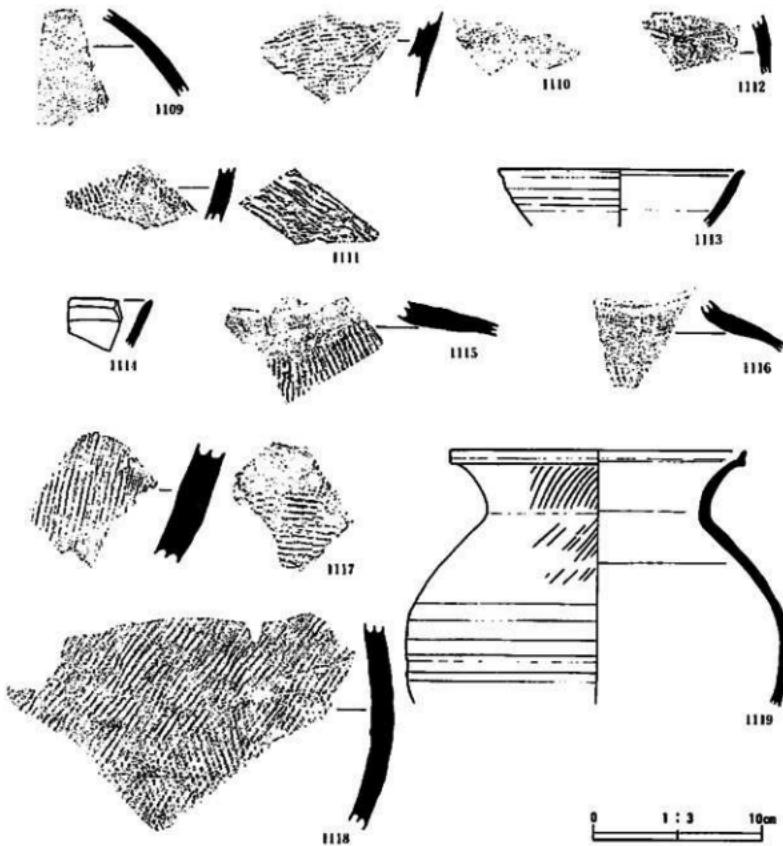
番号	種類	器種	出土地点	層位	口径	底径	器高	外面調整 (口縁部/体部)		内面調整 (口縁部/体部)	備考
								ヨコナダ/ヘラケズリ	ヨコナダ/ハラナダ		
1087	土師器	甕	NH3 j	9f	(19.6)		(31.5)	ヨコナダ/ヘラケズリ	ヨコナダ/ハラナダ	輪様み痕	
1088	土師器	甕	NH3 j	9f			(9.0)	(10.8)	/ヨクロ・ヘラケズリ	/ヨクロ・ハケメ	
1089	土師器	甕	NH7 i	5b	14.7	6.9	5.0	ヨクロ	ヘラミガキ	内黒	
1090	土師器	甕	NH7 i	5d	(14.4)		(4.5)	ヨクロ	ヘラミガキ	内黒	
1091	土師器	甕	N I 1 a	9b			5.2	(1.2) ヨクロ、多筋丁溝・浅筋沟調整	ヨクロ	遺元不足	
1092	土師器	甕	N I 1 b	9a	14.8	5.6	5.3	ヨクロ、体部下端円調整	ヘラミガキ	内黒	
1093	土師器	甕	N I 2 a	9c			6.0	(1.0) ヨクロ、深筋下溝・浅筋沟調整	ヨクロ	遺元不足	
1094	土師器	甕	トレンチ2	9b			5.2	(1.5) ヨクロ、体部下端・浅筋沟調整	ヘラミガキ	内黒	
1095	土師器	甕	トレンチ3	9a	(17.8)		(8.3)	ヨコナダ/ヘラケズリ	ヨコナダ/ハケメ	輪様み痕	
1096	土師器	甕	不明	不明			(4.2)	ヨクロ	ヨクロ	遺元不足、墨書き[志]	

第103図 土師器⑨



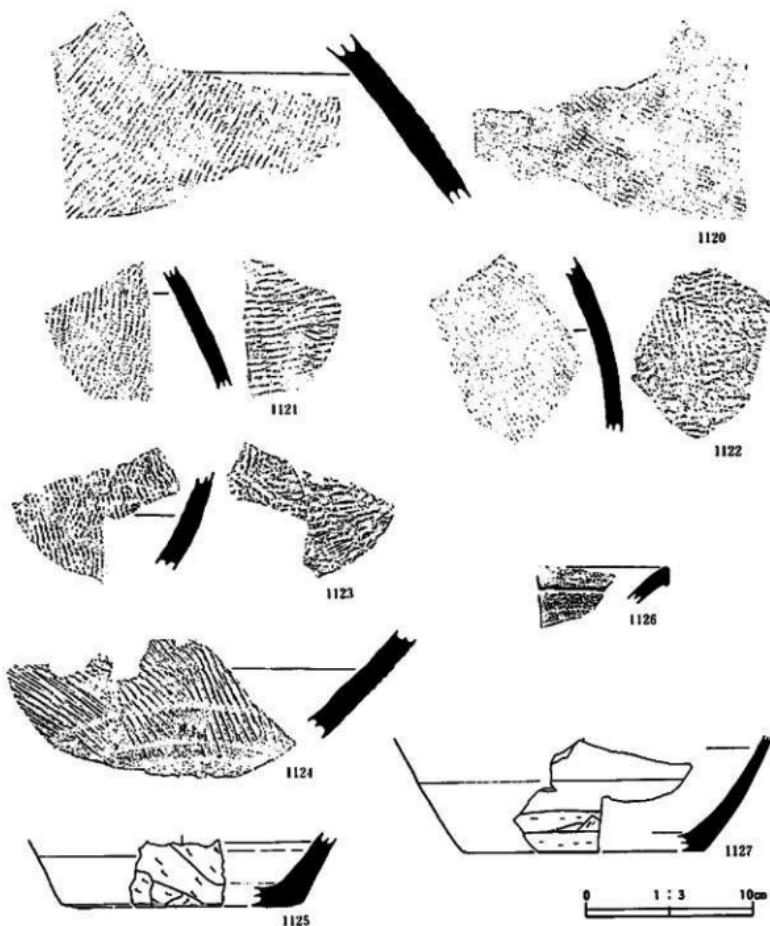
番号	種名	出土地点	層位	芯種	部位	器面調査・年代	法量
1101	須恵器	19P236		裏	体部	タタキメ、9~10C	
1102	須恵器	19S D 2	理土	裏	体部	タタキメ	
1103	須恵器	19S D 3	Ⅲ H 4 a	裏	体部	タタキメ、9~10C	
1104	須恵器	19S D 3	Ⅲ H 4 a	裏	体部	タタキメ、9~10C	
1105	須恵器	19S D 9	Ⅲ H 4 j	裏	体部	タタキメ、9~10C	
1106	須恵器	19S D 9	Ⅲ H 5 j	裏	体部	タタキメ、9~10C	
1107	須恵器	19S D 9	Ⅲ 19 n	検出面	裏	肩部 タタキメ、内面当て其のへこみ?	
1108	須恵器	19S E 03南半	理土上部	裏	体部	9~12C	

第104図 須恵器①



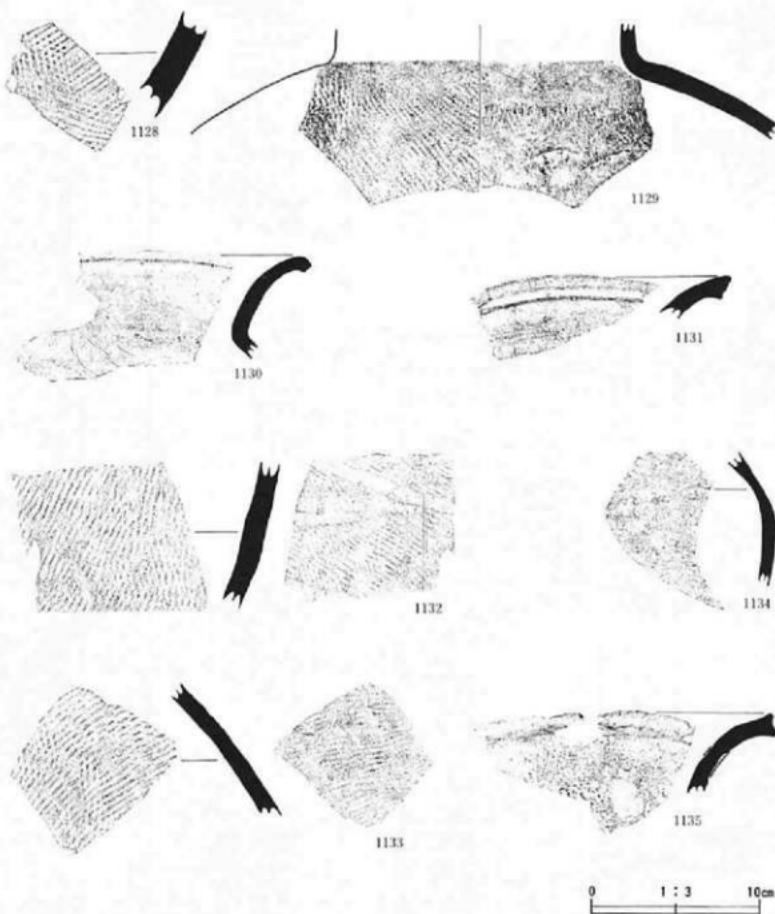
番号	地名	出土地点	層位	器種	部位	器面測量・年代	法號
1109	須恵器	19S 11 東半		壺	肩部	9~10C	
1110	須恵器	19S 11 東半		壺	体部	タタキヌ、9~10C	
1111	須恵器	21S 11	カマド	壺	体部	タタキヌ、内面造其模、9~12C	
1112	須恵器	三日0 b	壁上	壺	体部	外表面自然釉、9~10C	
1113	須恵器	三日0 i	5d	环	口~体部		1113.6
1114	須恵器	三日0 i	5d	环	口輪部	9Cか	
1115	須恵器	三日0 i	7d	壺	肩部	タタキヌ、9~10C	
1116	須恵器	三日0 i	5d	壺	肩部	タタキヌ、9~10C	
1117	須恵器	三日0 i	5d	壺	体部	タタキヌ、当て其痕、9~10C	
1118	須恵器	三日0 i	7d	壺	体部	透光不足、タタキヌ、9~10C	
1119	須恵器	三日0 j	9b	壺	体部	40mmに同一側体あり、9~10C	1119.7

第105図 須恵器②



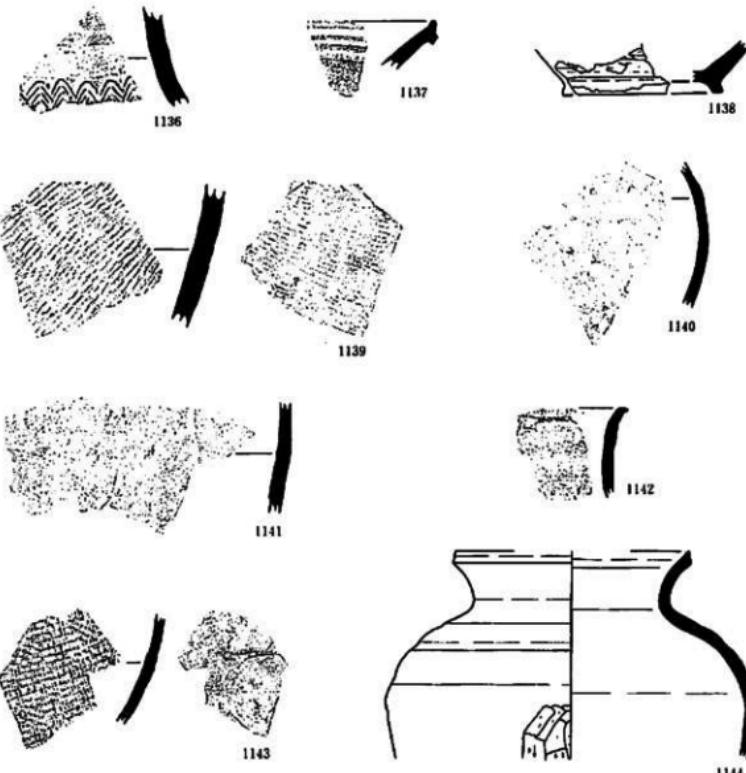
番号	器名	出土地点	層位	器種	部位	器面調査・年代	法量
1120	須恵器	II H 0 j	7d	甕	体部	タタキメ、当て具痕、9~10C	
1121	須恵器	II H 2 g	5b	甕	体部	タタキメ、内面に当て具痕、9~10C	
1122	須恵器	II H 2 g	5d	甕	体部	タタキメ、内面に当て具痕	
1123	須恵器	II H 2 g	5b	甕	体部	タタキメ、内面に当て具痕、9~10C	
1124	須恵器	II H 2 h	5b	甕	体部	タタキメ、9~12C	
1125	須恵器	II H 3 g	5	甕	底部	9~12C	底径 (14.7)
1126	須恵器	II H 3 g	5	甕	口縁部	9~10C	
1127	須恵器	II H 3 g · I95 K24		甕	体部	9~10C	底径 (14.4)

第106図 須恵器③



番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	表面調査・年代	法量
1128	須恵器	Ⅲ H 3 h	5b	壺	体部	タタキメ。9~12C	
1129	須恵器	Ⅲ H 3 h	5d	壺	肩部	タタキメ。9~10C	
1130	須恵器	Ⅲ H 3 h	5b	壺	口縁部		
1131	須恵器	Ⅲ H 3 h	5b	壺	口縁部	9~10C	
1132	須恵器	Ⅲ H 3 h	5b	壺	体部	タタキメ。当て具帆。9~10C	
1133	須恵器	Ⅲ H 3 h	5	壺	体部	タタキメ。当て具帆。9~10C	
1134	須恵器	Ⅲ H 4 g	5b	壺	体部		
1135	須恵器	Ⅲ H 4 i	5b	壺	口縁部	9~10C	

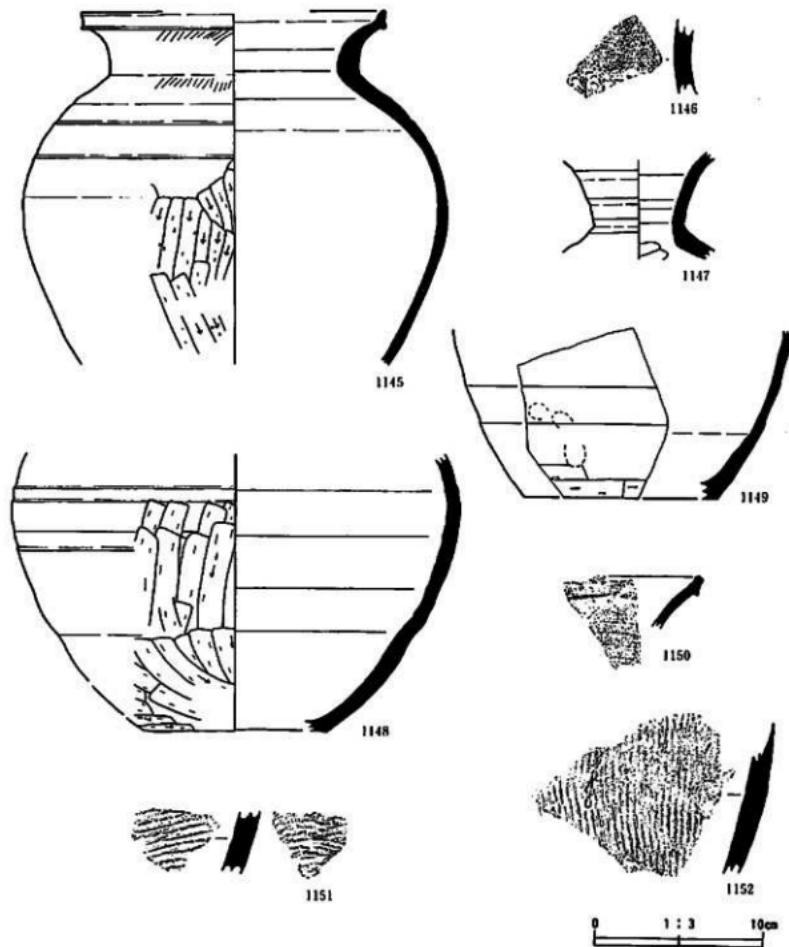
第107図 須恵器④



6 1 : 3 10cm

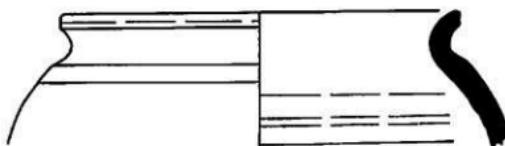
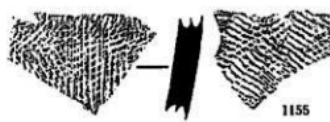
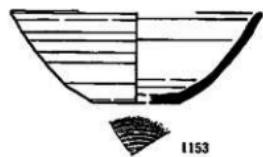
番号	器名	出土地点	層位	器径	部位	器面圖案・年代	法量
1136	須恵器	ⅢⅡ 6 i			縫	縫部	網織波状文、9~10C
1137	須恵器	ⅢⅡ 7 i		5c	縫	口縫部	9~10C
1138	須恵器	ⅢⅡ 7 i		5d	縫	底部	高台、9~10C
1139	須恵器	トレンチ 3		5b	縫	体部	タタキ文、当て具痕、9~10C
1140	須恵器	ⅢⅡ 7 j		7d	縫	体部	9~10C
1141	須恵器	ⅢⅡ 7 j		9a	縫	体部	十和田山火山灰下、9~10C
1142	須恵器	ⅢⅡ 7 j		7d	広口縫	口縫部	9~10C
1143	須恵器	ⅢⅡ 7 j		7c 1	縫	体部	9~10C
1144	須恵器	ⅢⅡ 8 i		5d	縫	体部	口径 (14.1)

第108図 須恵器⑤



番号	器名	出土地点	期位	器形	部位	器面調査・年代	法量
1145	須恵器	Ⅲ H 8 i	5d	壺	底部		口徑 (18.2)
1146	須恵器	Ⅲ H 8 i	5d	壺	体部	9~10C	
1148	須恵器	Ⅲ H 8 j	9a	壺	体部	9~10C	底径 (10.8)
1149	須恵器	Ⅲ H 8 j	9a	壺	体~底部	9~10C	底径 (11.4)
1150	須恵器	Ⅲ H 9 d	W Y?	壺	口縁部	9~10C	
1151	須恵器	Ⅲ H 9 h	鏡瓦	壺	体部	9~10C	
1152	須恵器	Ⅲ H 9 i	5d	壺	体部	9~10C	

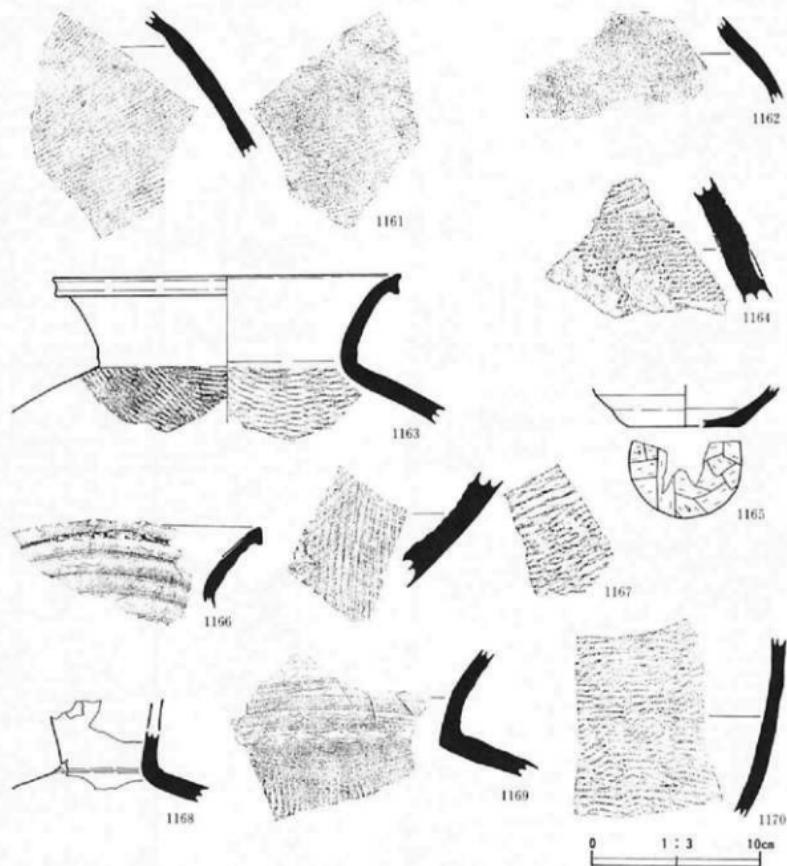
第109図 須恵器⑥



0 1 : 3 10cm

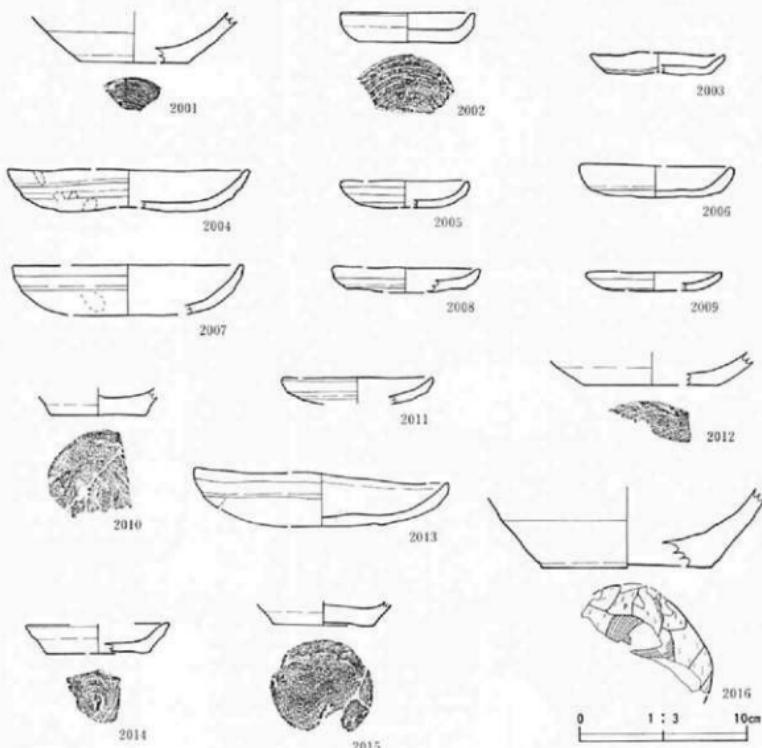
番号	器名	出土地点	層位	器種	部位	器座図案・年代	法蓋
1153	須恵器	トレンチ2	5d	壺	口縁部	口徑(24.0)/底径(11.6)	
1154	須恵器	ⅢH 9 j	9a	壺	体～底部	9～12C	底径 (11.6)
1155	須恵器	ⅢH 9 j	6	壺	体部	タテキメ、当て具板	
1156	須恵器	トレンチ2	5c	壺	体部	タテキメ、9～12C	
1157	須恵器	Ⅲ I 7 a	横孔環一括	壺	体部	9～10C	
1158	須恵器	ⅣH 1 i	5d	壺	体部	タテキメ、9～10C	
1159	須恵器	ⅣH 1 i	5d	壺	体部	タテキメ、9～10C	
1160	須恵器	ⅣH 1 i	1d	壺	口～肩部	9～12C	口径 (24.0)

第110図 須恵器⑦



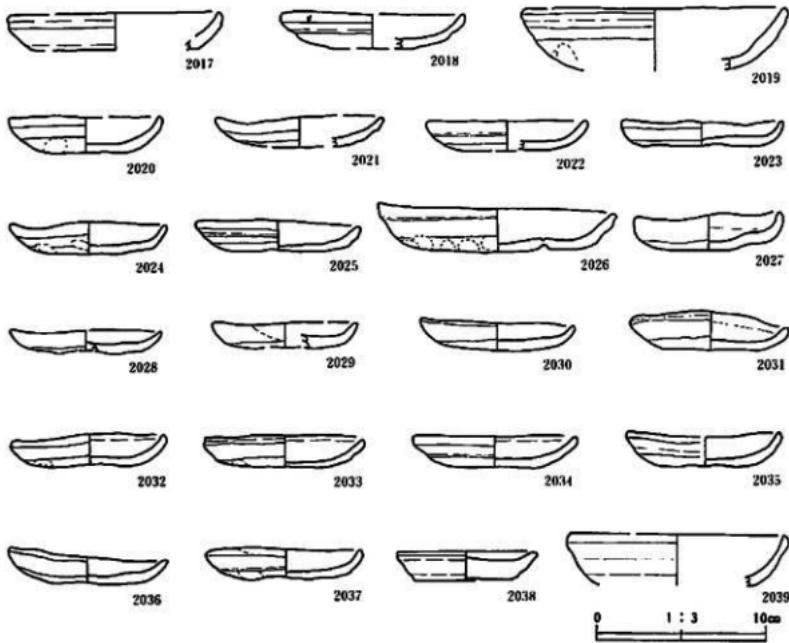
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	器面調整・年代	法量
1161	須恵器	Ⅳ H 1 k	1r	壺	全体	タクナメ、当て具痕、9~10C	
1162	須恵器	Ⅳ H 1 j	7c 5	壺?	肩部	9~10C	
1163	須恵器	Ⅳ H 2 j	7d	壺	口~肩部	タクナメ、当て具痕、9~10C	11621.0
1164	須恵器	Ⅳ H 3 h	1i	壺	全体	9~12C (中世の可能性有り)	
1165	須恵器	Ⅳ H 3 i	1q	壺	底部	9~10C	
1166	須恵器	Ⅳ H 3 i	1q	壺	口縁部	9~10C	底径 (6.6)
1167	須恵器	Ⅳ H 3 i	1r	壺	全体	タクナメ、当て具痕、9~10C	
1168	須恵器	Ⅳ H 3 j	1r	長颈壺	頸部	9~10C	
1169	須恵器	Ⅳ H 3 j	1r	壺	頸部	9~10C	
1170	須恵器	トレンチ1	7e?	壺	全体	タクナメ、9~10C	

第111図 須恵器⑧



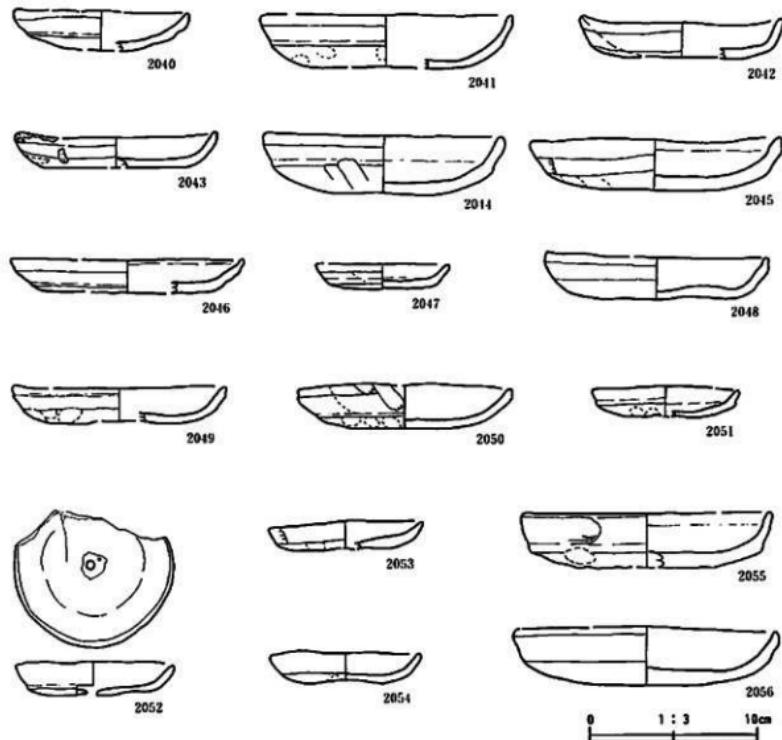
番号	出土地点	層位	分類	D径	或径	器高	内面ナテ	外底・内面	色調	残存	備考
2001	19P26	南半1層	R d	(6,2)	(3,0)			12.赤い黄橙	15%	胎土に海綿骨針	
2002	19P124	埋土	r d	7,7	6,0	1,7		橙	40%	13C以降のかわらけか?	
2003	19P185	埋土	D 2	(7,8)		1,4		赤黄褐	25%		
2004	19P257	埋土	C 3	14,1		2,5	左のこ側、滑枝、粗門み	灰白	35%		
2005	19P262	埋土	C 5	(7,4)		1,6		に赤い黄橙	20%		
2006	19P320	埋土	D 3	8,8		1,9	寸のこ側	に赤い黄橙	70%		
2007	19P385	埋土	C 4	(13,6)		2,9	指紋	灰白	20%		
2008	19P476	埋土	C 3	(8,6)		1,4	指紋	浅黄橙	20%		
2009	19P483	埋土	D 4	(7,8)		1,1	指紋	灰青	15%		
2010	19S D 1	III H 7 d ~ 9 e	r d	5,6	(1,3)		寸のこ側	橙	30%		
2011	19S D 2	III H 3 g ~ 3 h	C 5	(8,8)		(1,6)					
2012	19S D 2	III H 2 f	R d			(7,8)	(2,0)	浅黄橙	10%		
2013	19S D 3		D 4	(15,0)		3,5	指紋	に赤い黄橙	15%		
2014	19S D 3	III G 4 j	r d	(8,3)	(6,0)	1,7		橙	25%	海綿骨針	
2015	19S D 3		R d 7			5,9	(1,4)	に赤い黄橙	20%		
2016	19S D 3	III G 4 i	手筋 k?			(10,0)	(4,7)	赤切り後ヘタで調整	に赤い黄橙	35%	内面黒く変色

第112図 かわらけ①



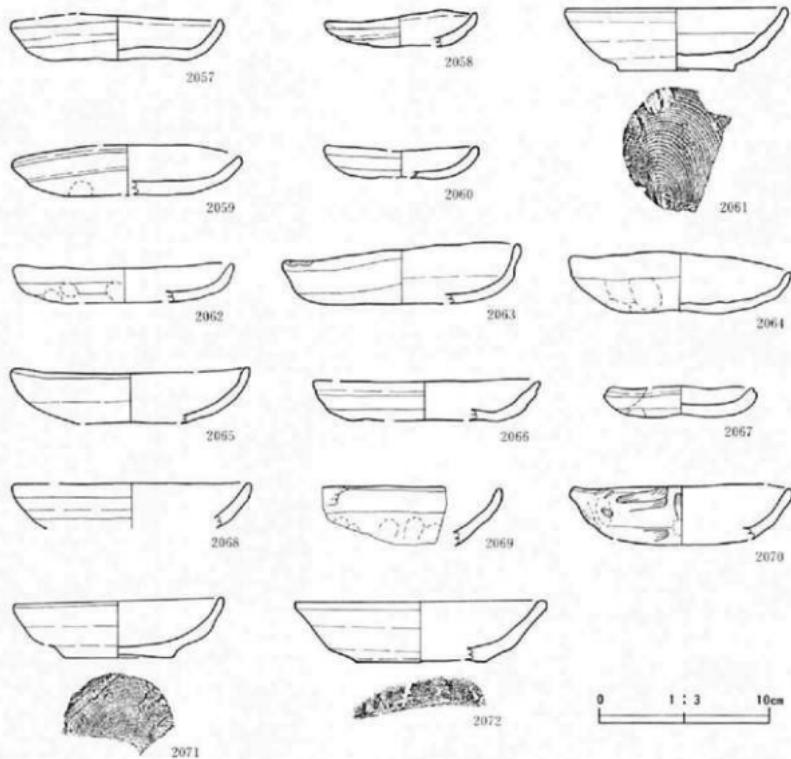
番号	出土地点	層位	分類	口径	底径	器高	内面ナメ	外底・内面	色調	残存	備考
2017	19SD6	B G 0 j	C 4	(12.2)		2.1			にぶい黄緑	10%	
2018	19SD8	B H 2 i	C 3	(10.7)		2.2		成都指紋多い	にぶい黄緑	25%	
2019	19SD8	南半	C 5	15.2		(3.5)	寸のこ痕		浅黄緑	15%	
2020	19SD12	埋土	C 3	8.7		2.1	寸のこ痕、指紋、指凹み		にぶい黄緑	40%	
2021	19SD12	埋土	C 3	(9.7)		1.8	布?	寸のこ痕	にぶい黄緑	45%	
2022	19SD12	埋土	C 3	9.2		1.7	指?	寸のこ痕	浅黄緑	30%	
2023	19SD12<3>	埋土	C 3	9.2		1.5	削	寸のこ痕	にぶい黄緑	100%	
2024	BSB21<1>	検出面	C 3	8.9		1.9		指凹み	にぶい黄緑	100%	
2025	19SD12	壇上上位	C 4	9.4		1.9	削	寸のこ痕、指紋	浅黄緑	100%	
2026	19SD12⑨	埋土	C 4	13.6		3.1	布?	寸のこ痕、指凹み	浅黄緑	100%	
2027	19SD12	埋土	D 3	8.3		2.2	ヘラ?	底部指凹み	浅黄緑	100%	
2028	19SD12	埋土	D 3	(8.7)		1.4		指紋	浅黄緑	30%	
2029	19SD12	埋土	D 3	(8.3)		1.5	寸のこ痕、指紋		にぶい黄緑	30%	
2030	19SD12	埋土	D 4	8.8		1.9	寸のこ痕		にぶい黄緑	60%	
2031	19SD12	埋土	D 4	9.1		2.3	寸のこ痕、指紋、指凹み		浅黄	80%	
2032	19SD12	埋土	D 4	8.7		1.9	寸のこ痕、指紋		浅黄	85%	
2033	19SD12	埋土	D 4	9.2		1.9	寸のこ痕、指紋		にぶい黄緑	70%	
2034	19SD12	埋土	D 4	9.3		1.8	寸のこ痕、指紋		灰黄	40%	
2035	19SD12	埋土	D 4	(6.8)		2.1	寸のこ痕		浅黄緑	45%	
2036	BSB21<5>	検出面⑤	D 4	9.1		2.1	寸のこ痕		にぶい黄緑	100%	
2037	BSB21<5>	埋土	D 4	8.9		1.8	削	寸のこ痕、指凹み	浅黄緑	100%	
2038	19SD12⑩	埋土	r d	7.9	5.7	1.7			浅黄緑	100%	
2039	19SD12	埋土	R d 0	(12.5)		(3.0)			褐	15%	

第113図 かわらけ②



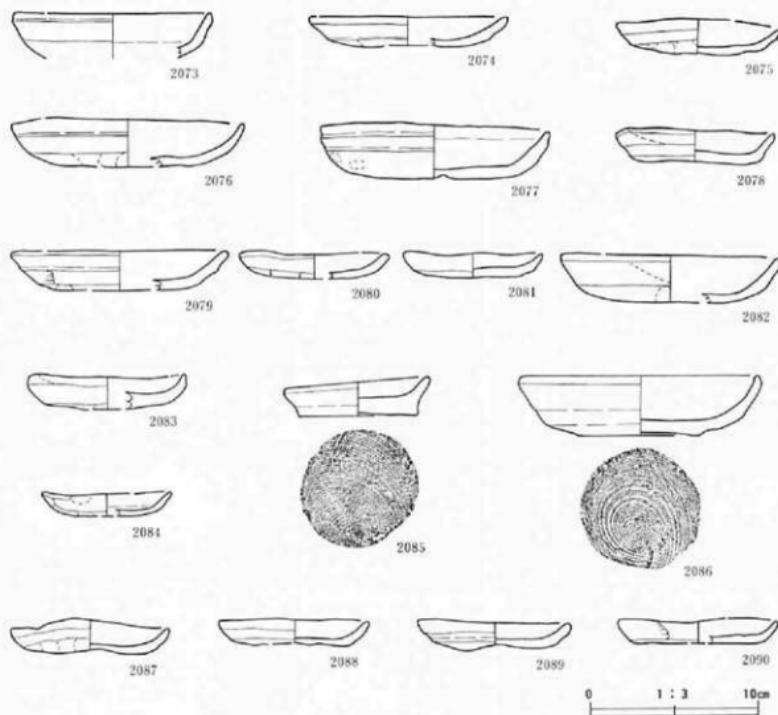
番号	出土地点	朝代	分類	口径	底形	器高	内面ナメ	外底・内面	色調	残存	備考
2040	19S E 2	2世	D 4	(10.2)		2.3	布?		淡黄	35%	
2041	19S E 3	北半13割	C 3	(14.7)		3.1	指	指紋、指凹み	にぶい黄緑	30%	
2042	19S E 3	北半13割	C 3	11.8		2.5	布?	寸のこ痕、指凹み	淡黄	30%	
2043	19S E 3	南半13割上	C 3	(11.6)		2.1	指	指紋	にぶい黄緑	25%	内部(側面)歪 7-8割
2044	19S E 3	南半13割上	C 3	14.0		3.5	指	寸のこ痕、指紋	にぶい黄緑	35%	
2045	19S E 3	南半13割上	C 3	14.6		3.3	指	寸のこ痕、指凹み	淡黄緑	70%	
2046	19S E 3	北半13割	C 4	(13.6)		2.1		指紋、指凹み	淡黄緑	20%	
2047	19S E 3	北半13割	C 4	(7.8)		1.5	布?	指	灰黄	20%	
2048	19S E 3	北半13割14分	C 4	(12.9)		2.7	指	指紋、指凹み	灰黄	45%	
2049	19S E 3	北半25割	C 4	(12.5)		2.2		寸のこ痕、指紋多い	淡黄	20%	
2050	19S E 3	南半13割上	C 4	(12.5)		2.6	布	指凹み	灰黄	25%	
2051	19S E 3	北半13割	D 2	(8.5)		(1.8)		指凹み	にぶい黄緑	45%	
2052	19S E 3	北半13割	D 3	9.2		1.9	指?	寸のこ痕、指紋多い	灰黄	80%	底部中央に穿孔(後成像)
2053	19S E 3	北半2-3層	D 3	9.0		1.6	指?	指凹み、指紋	灰黄緑	60%	
2054	19S E 3	南半13割上	D 3	8.8		1.9	指	指凹み、指紋	灰黄緑	65%	
2055	19S E 3	北半	D 4	(14.5)		3.2	指	指紋	にぶい緑	45%	
2056	19S E 3	北半13割	D 4	(15.3)		3.4	指		にぶい緑	70%	

第114図 かわらけ③



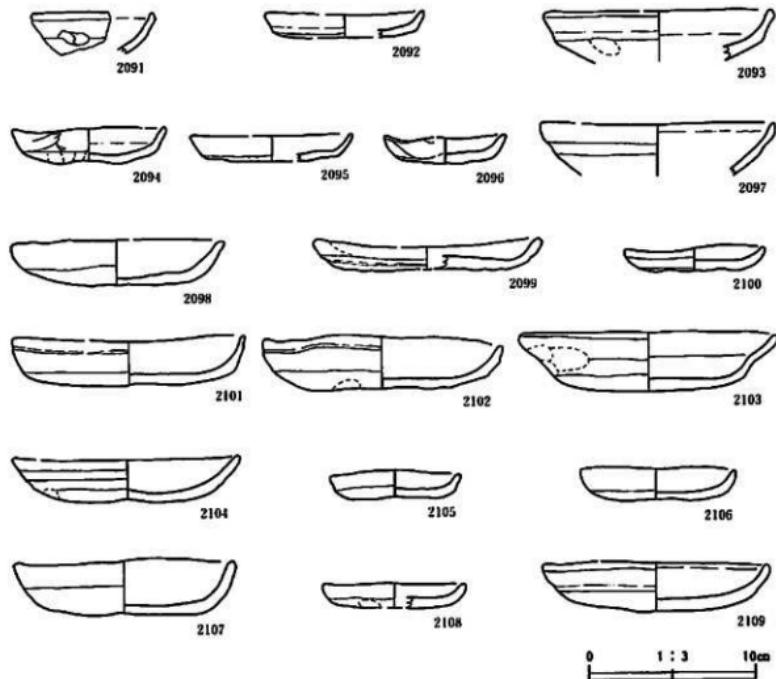
番号	出土地点	層位	分類	口径	底径	高さ	内面ナメ	外底・内面	色調	残存	備考
2057	19 S E 3	北半13層	D 4	(12.1)		2.7		すのこ底	にぶい黄緑	35%	
2058	19 S E 3	北半13層4か	D 4	8.7		2.1	ヘラ	指凹み	にぶい黄緑	53%	
2059	19 S E 3	南半埋土上位	D 4	(13.0)		2.9	指	ヘラによる調整?	にぶい黄緑	45%	
2060	19 S E 3	南半埋土上位	D 4	(8.7)		1.9		指紋	浅黄緑	30%	
2061	19 S E 3	北半1層	R d22	12.6	6.9	3.6			浅黄緑	55%	内面に植物の模(達?)
2062	19 S K 1	1層	C 3	12.6		2.3		すのこ底、指紋	にぶい黄緑	35%	
2063	19 S K 1	北半1層	C 3	13.7		3.5	布	すのこ底	にぶい黄緑	60%	口縁部にタール状物質付着
2064	19 S K 1	1層	D 2	12.6		3.5	ヘラ	指凹み	浅黄緑	95%	
2065	19 S K 1	1層	D 4	(13.5)		3.2			にぶい黄緑	20%	
2066	19 S K 3		C 3	(13.0)		2.4		指凹み、指紋	灰白	15%	
2067	19 S K 3	埋土	C 4	(8.2)		1.7	指	すのこ底	にぶい黄緑	15%	
2068	19 S K 17	2層	C 3	(12.0)	(2.6)				にぶい黄緑	10%	
2069	19 S K 17	2層	D 4		(3.3)	指?	指凹み、指紋		浅黄緑	10%	
2070	19 S X 1	Ⅲ H 5 bは少	D 4	(12.5)		3.5	指	ヘラの粗い調整	浅黄緑	30%	
2071	19 S X 1	Ⅲ H 5 b	R d10	12.0	6.2	3.5		指紋	にぶい黄緑	55%	
2072	19 S X 1	Ⅲ H 5 b	R d10	14.3	(7.6)	3.5			にぶい黄緑	40%	

第115図 カワラケ④



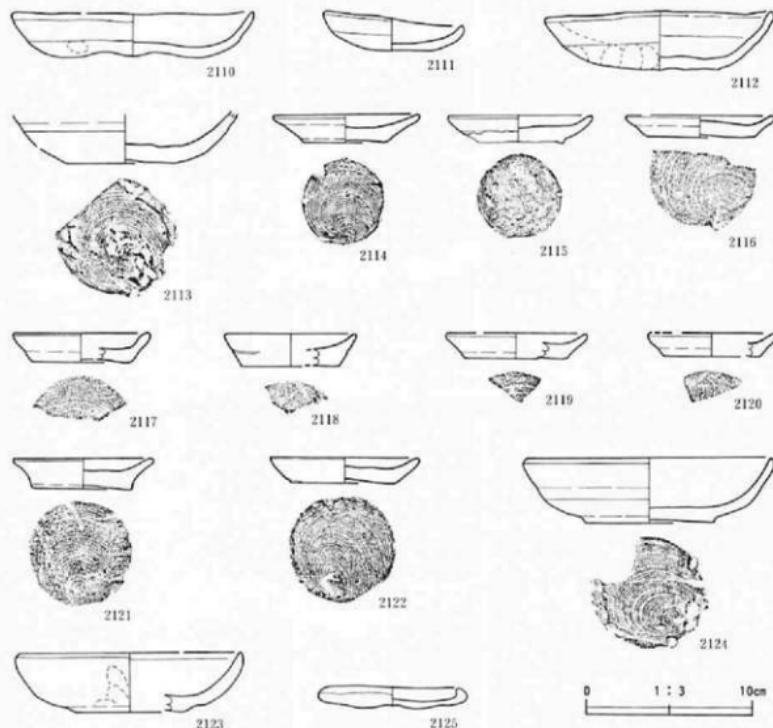
番号	出土地点	層位	分類	口径	底径	器高	内面ナガ	外底・内面	色調	残存	備考
2073	19S X 5		C 4	(14.3)		(2.6)		指凹み	にぶい黄褐色	15%	
2074	19S X 5		D 4	(11.7)		1.8	指	すのこ底、指凹み	にぶい褐	15%	
2075	19S X 6		C 3	(9.6)		布?		すのこ底、指凹み、指紋	にぶい黄褐色	40%	
2076	19S X 6		C 3	(13.5)		2.8	布?	すのこ底、指凹み	にぶい黄褐色	25%	内面にクール状物質付着
2077	19S X 6		C 4	13.3		3.3	指?	すのこ底、指紋	にぶい黄褐色	100%	
2078	19S X 6		C 5	9.2		2.0	ヘラ・指	すのこ底	褐底	100%	
2079	19S X 6		C 5	(12.7)		2.3			褐底	20%	
2080	19S X 6		D 3	(8.6)		1.6	ヘラ?	ヘラ?、指紋	にぶい黄褐色	35%	
2081	19S X 6		D 3	8.1		1.5			にぶい黄褐色	40%	
2082	19S X 6		D 4	(12.8)		2.8	ヘラ?	すのこ底、指凹み	にぶい黄褐色	20%	
2083	19S X 6		D 4	(9.1)		(2.1)	布?	すのこ底、指紋	浅黄褐色	35%	
2084	19S X 6		D 4	(7.4)		1.5			灰褐色	40%	
2085	19S X 6		r d	8.4	7.0	2.2		赤切り明瞭	浅黄褐色	100%	
2086	19S X 6		R d 10	13.8	6.7	3.5		赤切り縦	にぶい黄褐色	100%	
2087	19S X 7		C 3	9.1		2.0		すのこ底、指凹み、指紋	浅黄褐色	100%	
2088	19S X 7		C 3	8.7		1.6		すのこ底、指紋	にぶい黄褐色	75%	
2089	19S X 7		C 3	8.8		1.9		すのこ底、指紋	にぶい黄褐色	100%	
2090	19S X 7		D 3	(9.3)		1.5		すのこ底、指凹み	灰黄	45%	

第116図 かわらけ⑤



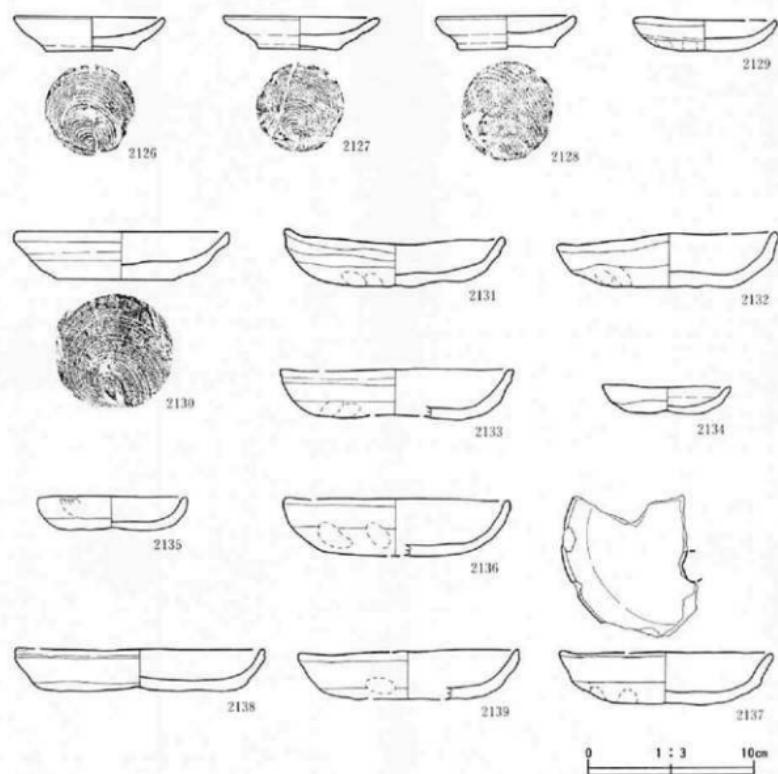
番号	出土地点	層位	分類	口径	底径	高さ	内面ナメ	外底・内面	色調	残存	備考
2091		地土	D 4		(2.5)			にぶい黄緑	15%		内外面カール状物質付着
2092	21SK 5	2層	D 2	(9.3)	1.6		すのこ痕	にぶい黄緑	25%		
2093	21SK 6	地土	D 4	(13.3)	(3.0)	牟?	指凹み、指紋	にぶい黄緑	20%		
2094	21SK 7	地土	D 2	9.0	2.1	牟?	指凹み、指紋多い	黄灰	50%		
2095	21SK 7	地土	D 2	(9.5)	1.6	牟?	指紋	黄灰	25%		
2096	21SK 7	1層	D 4	(7.0)	1.8		指紋、横ぎ目	にぶい黄緑	30%		内面カール状物質少
2097	21SK 14	地土	C 3	(13.6)	(3.1)	牟?	指凹み	浅黄緑	15%		
2098	■H 0 i	5	D 3	(12.5)	2.8			にぶい黄緑	40%		
2099	■H 0 i	5d	C 3	(13.3)	1.9	牟?	すのこ痕、指紋	にぶい黄緑	30%		
2100	■H 0 i	5d	C 3	8.1	1.6	牟?	すのこ痕	にぶい黄緑	55%		
2101	■H 0 i	5d	C 4	(13.7)	2.9		すのこ痕	浅黄緑	40%		
2102	■H 0 i	5d	C 4	14.9	3.2		すのこ痕、指凹み	にぶい黄緑	100%		
2103	■H 0 i	5b	C 5	14.4	3.5	ヘウ?	すのこ痕?、指凹み	浅黄緑	55%		
2104	■H 0 i	5d	C 5	(13.4)	2.7	牟?	底部指凹み多い	浅黄緑	45%		
2105	■H 0 i	5d	D 2	7.7	1.8		すのこ痕	板黄緑	50%		
2106	■H 0 i	5d	D 3	9.2	2.0	牟?	すのこ痕	灰白	60%		内外面カール状物質付着
2107	■H 0 i	5d	D 3	13.0	3.2	牟?	指紋	浅黄緑	100%		
2108	■H 0 i	5d	D 3	(8.3)	1.5		指凹み	にぶい黄緑	45%		
2109	■H 0 i	5d	D 4	(13.2)	3.1			にぶい黄緑	75%		

第117図 かわらけ⑥



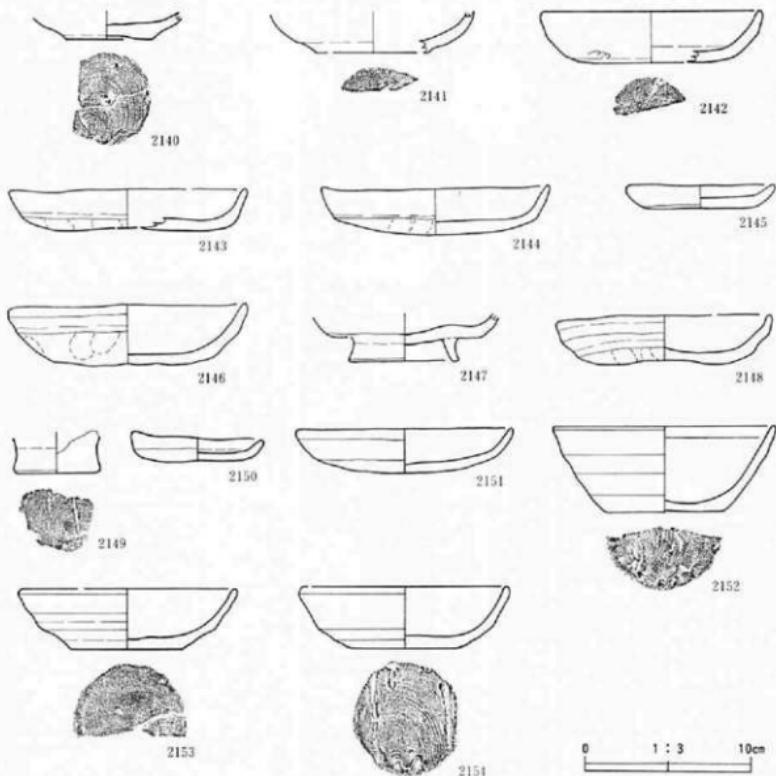
番号	出土地点	層位	分類	DH桂	底径	器高	内面ナメ	外底・内面	色調	残存	備考
2110	Ⅲ H 0 i	5d	D 4	(14.3)		2.7	ヘラ	すのこ板、指凹み	にぶい黄緑	30%	
2111	Ⅲ H 0 i	5d	D 4	8.3		2.3		すのこ板	にぶい黄緑	90%	
2112	Ⅲ H 0 i	5d	D 4	13.4		3.6	粉	指凹み	浅黄緑	80%	
2113	Ⅲ H 0 i	6	R d		6.6	(2.9)		すのこ板	浅黄緑	45%	
2114	Ⅲ H 0 i	6	r d	8.7	4.8	1.7			にぶい緑	100%	
2115	Ⅲ H 0 i	7a	r d	8.5	5.1	1.6			浅黄緑	95%	底部掌滅
2116	Ⅲ H 0 i	5d	r d	(8.8)	6.2	1.3			にぶい緑	40%	
2117	Ⅲ H 0 i	5d	r d	8.0	5.9	1.8			にぶい黄緑	40%	
2118	Ⅲ H 0 i	5d	r d	7.8	(5.8)	2.0			にぶい緑	15%	
2119	Ⅲ H 0 i	5d	r d	(8.3)	(6.1)	1.5			緑	20%	
2120	Ⅲ H 0 i	5d	r d	(7.4)	(5.7)	1.4			にぶい黄緑	20%	
2121	Ⅲ H 0 i	5d	r d	8.3	6.0	1.9			にぶい黄緑	90%	海綿着付含む
2122	Ⅲ H 0 i	5d	r d	8.8	6.3	1.5			にぶい黄緑	100%	
2123	Ⅲ H 0 i	5d	R d 0	(13.3)	(8.6)	3.6			浅黄緑	35%	
2124	Ⅲ H 0 i	5d	R d 22	14.7	7.7	3.9			浅黄緑	60%	
2125	Ⅲ H 0 i	5d	内折れ	8.0		1.3	すのこ板		にぶい黄緑	50%	

第118図 カワラケ⑦



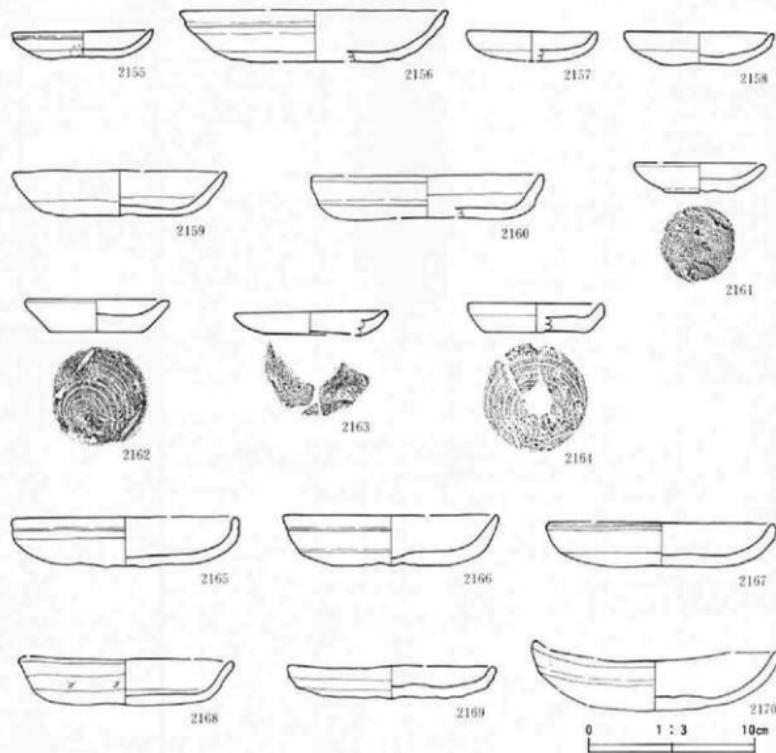
番号	出土地點	層位	分類	口径	底形	表面	内面ナメ	外底・内面	色調	残存	備考
2126	III H 0 j	6	r d	8.9	5.3	2.1			浅黄褐	100%	
2127	III H 0 j	6	r d	9.2	4.9	2.0			にぶい黄褐	80%	
2128	III H 0 j	6	r d	8.2	5.7	2.0			にぶい黄褐	100%	
2129	III H 1 f	5	D 4 (8.4)		2.1		すのこ板、指紋	網状	65%		
2130	III H 1 f	5	R d 22	12.6	6.6	2.8	布?	すのこ板	帶	90%	
2131	III H 1 g	5b	C 4	13.0		3.3	ヘラ明瞭	筋凹み、指紋多い	浅黄褐	85%	
2132	III H 1 g	5d	C 4	13.0		3.2	ヘラ・鋸	すのこ板、指凹み	浅黄褐	90%	
2133	III H 1 g	5d	C 4 (13.7)		3.0	鋸	すのこ板、指凹み	浅黄褐	20%		
2134	III H 1 g	5d	D 3	7.5		1.6			浅黄褐	35%	内外面ケル状物質付着
2135	III H 1 g	5d	D 3	8.8		2.0	鋸	すのこ板、指紋	にぶい帶	50%	
2136	III H 1 g	5d	D 4 (13.3)		3.4	ヘラ	すのこ板、指凹み	浅黄褐	30%		
2137	III H 1 g	5d	D 4 (12.4)		3.1		すのこ板、指凹み	にぶい黄褐	35%	内部ケル状物質付着、剥離	
2138	III H 1 g	5d	D 4 (14.7)		2.5		すのこ板、指紋	底白	40%		
2139	III H 1 g	5d	D 4 (13.0)		2.9		すのこ板、指凹み	帶	30%		

第119図 カワラケ⑧



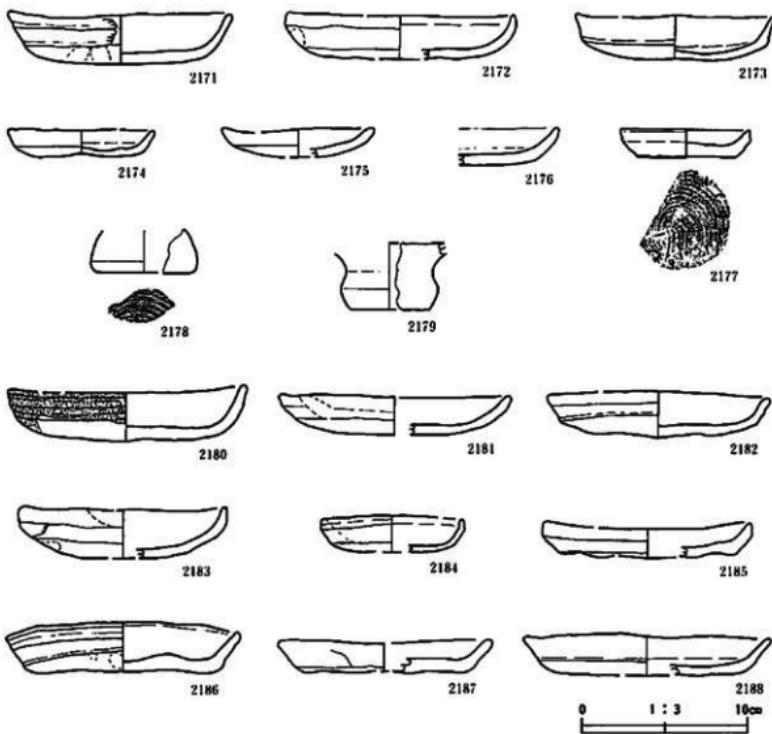
番号	出土地点	層位	分類	口径	底径	高さ	内面ナメ	外底・内面	色調	残存	備考
2140	■H 1 g	5d	r d		5.2	(1.6)		すのこ痕	褐	45%	
2141	■H 1 g	5d	R d		(6.7)	(2.4)			浅黄褐	15%	
2142	■H 1 g	5d	R d 00	(12.9)	(5.0)	(3.0)			にぶい黄褐	25%	
2143	■H 2 g	5b	D 2	(14.0)		2.4	布・指?	すのこ痕	浅黄褐	35%	
2144	■H 2 g	5b	D 2	13.5		2.8	指	すのこ痕、指凹み	浅黄褐	95%	
2145	■H 2 g	5b	D 3	8.7		1.4	布?	すのこ痕	にぶい黄褐	40%	
2146	■H 2 g	5d	D 4	14.1		3.5	ヘラ明瞭	すのこ痕、指凹み	浅黄褐	80%	
2147	■H 2 g	5b	高台付		6.6	(2.8)	指		にぶい黄褐	40%	
2148	■H 2 h	5b	C 3	(12.7)		2.8	布?	すのこ痕、指凹み	浅黄褐	45%	
2149	■H 2 i	5d	無柄		4.5	(2.6)			にぶい褐	10%	
2150	■H 3 g	5	D 3	7.6		1.9		縦ぎ目	浅黄	100%	
2151	■H 3 g	5	D 4	12.8		2.6	ヘラ・布	すのこ痕、指紋	浅黄褐	45%	
2152	■H 3 g	5	R b 01	13.1	7.0	5.0			にぶい黄褐	40%	土師器坏?
2153	■H 3 g	5	R d 02	12.8	6.7	3.5			にぶい黄褐	45%	胎土なめらか
2154	■H 3 g	5	R d 23	(12.2)	6.4	3.6		すのこ痕	褐	50%	

第120図 かわらけ⑨



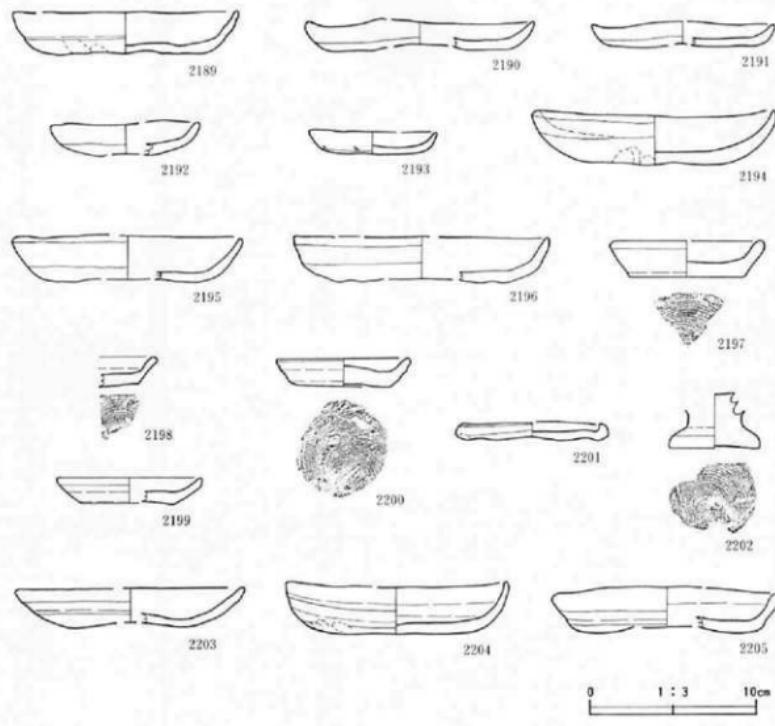
番号	出土地点	層位	分類	口径	底径	器高	内面ナメ	外底・内面	色調	残存	備考
2155	III H 3 h	5b	C 4	8.3		1.6			浅黄橙	50%	
2156	III H 3 h	5b	C 4	(15.8)		3.0			にぶい黄橙	30%	内外面タル状物質有り
2157	III H 3 h	5b	D 3	7.6		1.8		すのこ板	浅黄橙	45%	
2158	III H 3 h	5b	D 3	8.8		1.9	へら?		浅黄橙	50%	
2159	III H 3 h	5d	D 3	(12.7)		1.7		すのこ板	にぶい黄橙	40%	
2160	III H 3 h	5b	D 4	(13.7)		2.6		すのこ板	浅黄橙	40%	
2161	III H 3 h	5b	r d	(7.7)	4.2	1.7		すのこ板	浅黄橙	50%	
2162	III H 3 h	5b	r d	8.3	5.5	1.9		すのこ板	にぶい黄橙	75%	
2163	III H 3 h	5b	r d	(9.1)	(5.8)	1.5			褐	40%	
2164	III H 3 h	5	r d	(7.9)	(6.1)	1.8			浅黄橙	80%	
2165	III H 4 i	5b	C 3	13.2		3.0	布?	指紋	灰黄	45%	
2166	III H 4 i	5b	C 4	(12.7)		3.0		すのこ板	浅黄橙	40%	
2167	III H 4 i	5b	C 5	(13.4)		2.7	布?	すのこ板	にぶい黄橙	60%	
2168	III H 5 i	5d	C 3	(12.5)		2.9		すのこ板	浅黄橙	55%	
2169	III H 5 i	5d	C 3	(12.1)		2.0			にぶい黄橙	30%	
2170	III H 5 i	5d	C 3	(14.3)		4.2		剥落あり	灰黄	70%	

第121図 かわらけ⑩



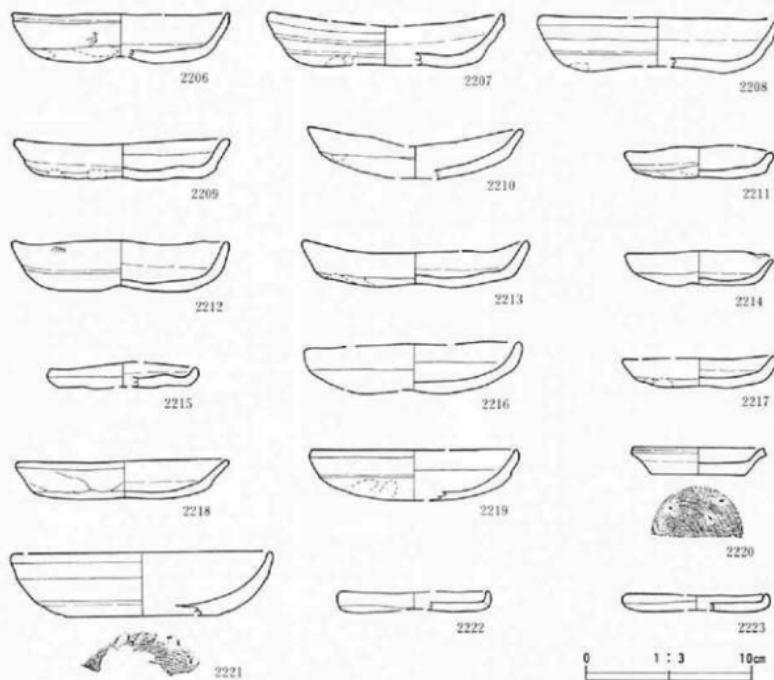
番号	出土地点	層位	分類	口径	底径	器高	内面ナメ	外底・内面	色調	残存	備考
2171	裏H5 i	5b	C 4	13.2		3.1	布?	すのこ底	浅黄褐	50%	
2172	裏H5 i	5d	C 4 (13.4)		2.7				浅黄褐	20%	
2173	裏H5 i	5b	D 2 (11.7)			2.6			浅黄褐	20%	
2174	裏H5 i	5b	D 3 (8.6)		1.7	布?	指紋		にぶい黄褐	80%	
2175	裏H5 i	5d	D 3 (9.0)		1.7				にぶい黄褐	25%	
2176	裏H5 i	5d	D 3			(2.2)	指紋	沿	15%		
2177	裏H5 i	5d	r d	7.5	5.8	1.6			にぶい黄褐	70%	
2178	裏H5 i	5d	粗鉢台	(5.4)	(2.6)				浅黄褐	10%	
2179	裏H5 i	5d	粗鉢台	(4.5)	(4.1)				にぶい黄褐	20%	
2180	裏H6 i	5b	C 3 (14.0)		3.3	指			浅黄	55%	内外面タール状物質付着
2181	裏H6 i	5d	C 3 (13.6)		2.4				にぶい黄褐	25%	
2182	裏H6 i	5d	C 3 (13.0)		2.7		すのこ底		にぶい黄褐	30%	
2183	裏H6 i	5d	C 3 (12.1)		3.0	布?	指紋		にぶい黄褐	25%	
2184	裏H6 i	5b	C 4 (8.3)		2.2		すのこ底		にぶい黄褐	50%	
2185	裏H6 i	5d	C 4 (12.2)		2.0	指			浅黄褐	20%	
2186	裏H6 i	5b	C 5 (13.8)		3.0	指	すのこ底、指凹み、指紋		浅黄褐	40%	
2187	裏H6 i	5b	D 2 (12.5)		1.9		すのこ底		浅黄	25%	
2188	裏H6 i	5b	D 2 (14.6)		2.5				にぶい黄褐	45%	

第122図 かわらけ①



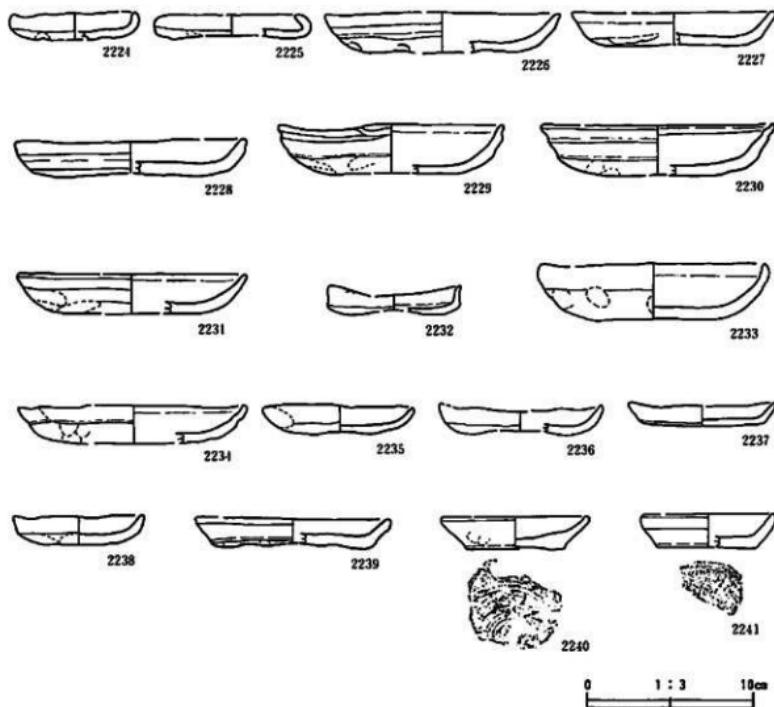
番号	出土地点	層位	分類	口径	底径	器高	内面ナメ	外底・内面	色調	残存	備考
2189	ⅢH 6 i	5d	D3	(13.3)		2.5	布	すのこ痕、指紋	浅黄橙	20%	
2190	ⅢH 6 i	5d	D3	(13.4)		1.9			浅黄橙	20%	
2191	ⅢH 6 i	5d	D3	(10.8)		1.5			浅黄橙	35%	
2192	ⅢH 6 i	5d	D3	(8.7)		(2.0)			浅黄橙	25%	内外面テール状物質付着
2193	ⅢH 6 i	5d	D3	(7.5)		1.5			にぶい黄橙	35%	
2194	ⅢH 6 i	5d	D4	14.3		3.3		指凹み	にぶい黄橙	100%	内外面テール状物質付着
2195	ⅢH 6 i	5d	D4	(13.5)		2.8			にぶい黄橙	30%	
2196	ⅢH 6 i	5d	D4	(15.1)		2.7		すのこ痕	にぶい黄橙	25%	
2197	ⅢH 6 i	5d	r d	8.8		6.9	2.1		にぶい黄橙	25%	
2198	ⅢH 6 i	5d	r d				(1.7)		須黄	20%	
2199	ⅢH 6 i	5d	r d	8.5		(5.4)	1.6		にぶい黄橙	30%	
2200	ⅢH 6 i	5d	r d	7.8		5.5	1.7		浅黄橙	90%	
2201	ⅢH 6 i	5d	内折れ	8.2		1.1			浅黄橙	30%	
2202	ⅢH 6 i	5d	粗鉢形			5.3	(3.3)		にぶい黄橙	35%	
2203	ⅢH 7 i	5b	C3	(13.5)		2.3		すのこ痕	にぶい黄橙	40%	内外面テール状物質付着
2204	ⅢH 7 i	5b	C3	(13.0)		3.1		すのこ痕	にぶい黄橙	40%	
2205	ⅢH 7 i	5d	C3	(13.2)		(2.7)		すのこ痕	須黄	35%	

第123図 かわらけ⑫



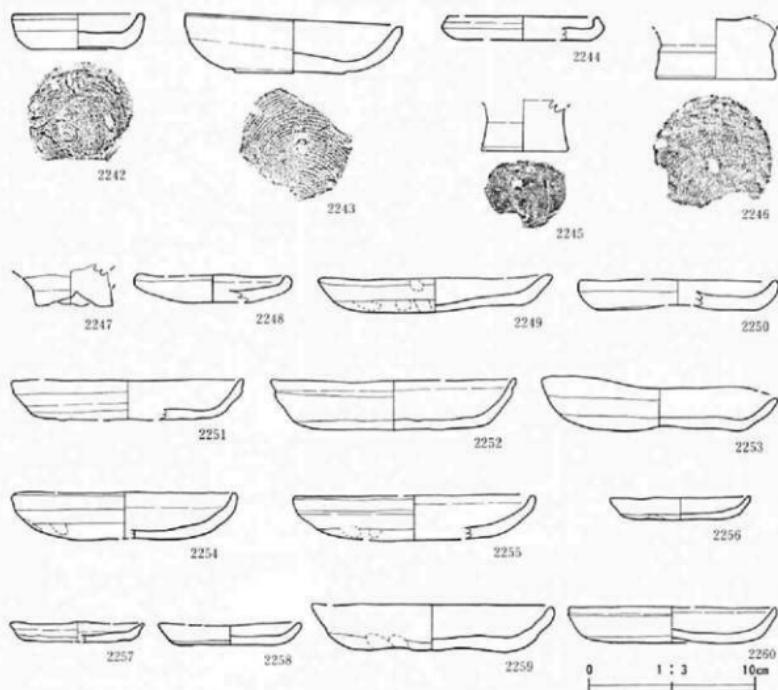
番号	出土地點	層位	分類	口径	底形	器高	内面ナメ	外底・内面	色調	残存	備考
2206	■ H 7 i	5c	C 4	(12.9)		(3.0)	布?	指凹み	浅黄橙	30%	
2207	■ H 7 i	5b	C 5	(14.0)		3.2			浅黄橙	35%	
2208	■ H 7 i	5d	C 5	(14.2)		3.2			浅黄橙	45%	
2209	■ H 7 i	5b	D 2	12.7		2.5		すのこ痕、指凹み	浅黄橙	60%	
2210	■ H 7 i	5b	D 2	(12.7)		(3.0)		すのこ痕	にぶい黄橙	35%	
2211	■ H 7 i	5b	D 2	(8.6)		2.0		指紋	灰黄	50%	
2212	■ H 7 i	5d	D 2	12.8		3.0		すのこ痕	にぶい黄橙	95%	
2213	■ H 7 i	5d	D 2	(13.3)		2.8	布?	麻目	にぶい黄橙	55%	内面ラール状物質付着
2214	■ H 7 i	5b	D 3	8.7		2.0			灰白	90%	
2215	■ H 7 i	5d	D 3	(8.7)		1.6			灰黄	30%	
2216	■ H 7 i	5d	D 3	(12.7)		3.0	布?	すのこ痕、指紋	灰黄	60%	
2217	■ H 7 i	5d	D 3	(9.1)		2.0		すのこ痕、麻目	灰黄	80%	
2218	■ H 7 i	5d	D 4	12.6		2.4	指	すのこ痕、麻目	浅黄橙	100%	
2219	■ H 7 i	5b	D 4	(12.2)		3.0		麻目、指凹み	浅黄橙	40%	
2220	■ H 7 i	5d	r d	7.8	5.7	1.6			浅黄橙	50%	
2221	■ H 7 i	5d	R d 02	(15.5)	(6.0)	3.7		すのこ痕?	にぶい橙	40%	
2222	■ H 7 i	5b	内折れ	(9.4)		1.3			灰黄	30%	
2223	■ H 7 i	5b	内折れ	(8.4)		1.1			灰黄	25%	

第124図 かわらけ⑬



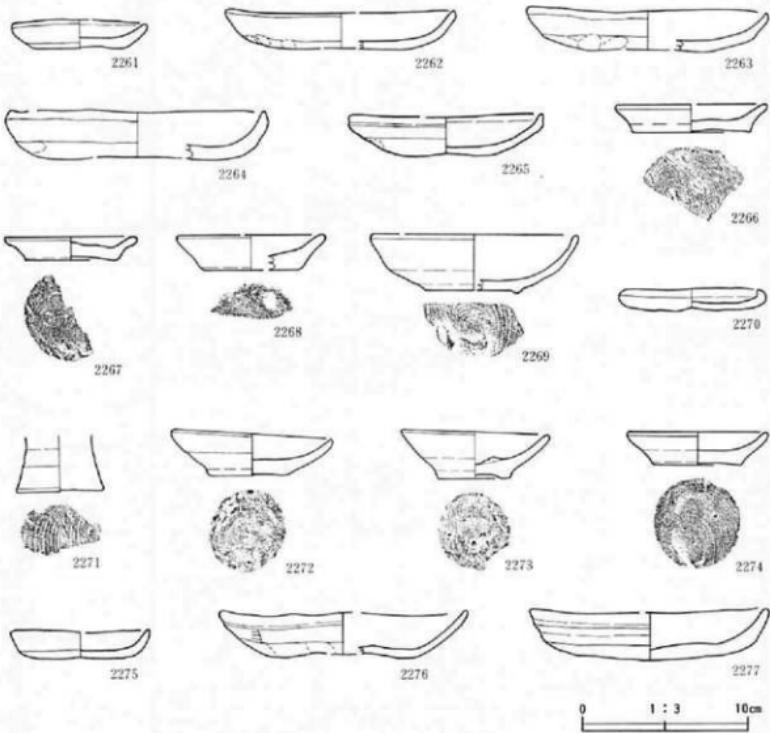
番号	出土地点	層位	分類	口径	底径	器高	内面ナメ	外底・内面	色調	残存	備考
2224	ⅢH 7 i	5d	内折れ	(7.4)		1.6		指紋	にぶい黄緑	25%	
2225	ⅢH 7 i	5d	内折れ	(8.6)		1.4			褐灰	20%	
2226	ⅢH 8 i	5d	C 3	(13.6)		2.4		爪のよう跡	灰青	40%	
2227	ⅢH 8 i	5d	C 3	(12.0)		2.1		微ざ凸	灰青	30%	
2228	ⅢH 8 i	5d	C 3	(13.6)		2.2		微ざ目	灰青	45%	
2229	ⅢH 8 i	6	C 4	(13.2)		3.0	ヘラ?	指紋	にぶい黄緑	40%	
2230	ⅢH 8 i	5d	C 5	(13.7)		3.1	舟?	寸のこ痕	灰青	30%	
2231	ⅢH 8 i	5d	C 5	(13.4)		2.5		寸のこ痕、折凹み	灰青	20%	
2232	ⅢH 8 i	5d	D 2	(7.8)		(1.8)			灰青	20%	
2233	ⅢH 8 i	5d	D 3	(13.4)		3.4		指紋	浅黄緑	20%	
2234	ⅢH 8 i	5d	D 3	(13.5)		2.3		微ざ目、指紋	灰白	15%	
2235	ⅢH 8 i	5d	D 3	8.9		1.9		寸のこ痕	にぶい黄緑	95%	
2236	ⅢH 8 i	5d	D 3	(9.6)		(1.8)			灰青	25%	
2237	ⅢH 8 i	5d	D 3	(8.6)		1.5			灰青	35%	
2238	ⅢH 8 i	5d	D 3	7.6		1.7		指紋	灰青	90%	
2239	ⅢH 8 i	5b	D 4	(11.5)		1.7	ヘラ?	指紋	浅黄緑	20%	
2240	ⅢH 8 i	5d	r d	(8.7)	5.8	2.0			にぶい黄緑	55%	
2241	ⅢH 8 i	5d	r d	(7.8)	(5.8)	2.0			にぶい黄緑	20%	

第125図 かわらけ④



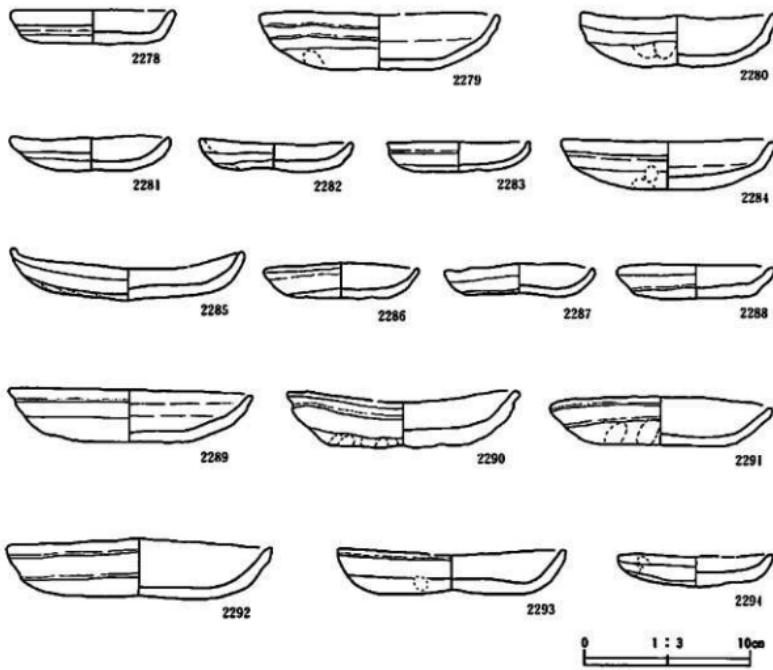
番号	出土地点	層位	分類	口径	底径	器高	内面ナメ	外底・内面	色調	残存	備考
2242	Ⅲ H 8 i	5d	r d	7.7	5.6	2.0			にぶい黄橙	80%	
2243	Ⅲ H 8 i	5d	R d O	12.9	6.5	3.4			にぶい黄橙	85%	
2244	Ⅲ H 8 i	5d	内折丸	(9.0)		1.4			灰黄	15%	
2245	Ⅲ H 8 j	6	内折角		5.1	(3.0)			にぶい黄橙	40%	
2246	Ⅲ H 8 j	6	内折角		7.0	(3.5)			にぶい橙	40%	
2247	Ⅲ H 8 j	5e	内折角			(2.4)			浅黄橙	20%	
2248	Ⅲ H 9 h	5d	D 2	(8.9)		1.6		すのこ底	灰黄	30%	
2249	Ⅲ H 9 i	5b	C 3	13.7	2.1	指	すのこ底、出紋		浅黄橙	45%	
2250	Ⅲ H 9 i	5b	C 4	(11.7)		1.7		すのこ底	にぶい黄橙	30%	
2251	Ⅲ H 9 i	5d	C 4	(13.7)		2.4		すのこ底	にぶい黄橙	25%	
2252	Ⅲ H 9 i	5d	C 4	14.5		3.0	指凹み		にぶい黄橙	55%	
2253	Ⅲ H 9 i	5b	C 5	13.9		3.3			灰黄	85%	
2254	Ⅲ H 9 i	5b	C 5	(13.0)	2.9	布?	指紋		にぶい黄橙	15%	
2255	Ⅲ H 9 i	5d	C 5	(14.3)	2.6	指	指紋		浅黄	20%	
2256	Ⅲ H 9 i	5b	D 2	8.3		1.5	棘さ目		浅黄橙	40%	
2257	Ⅲ H 9 i	5d	D 2	(7.8)		1.3	棘さ目		灰黄	35%	
2258	Ⅲ H 9 i	5d	D 2	(8.3)		1.3			浅黄橙	80%	六面にリム状突起の瓦張れ
2259	Ⅲ H 9 i	5d	D 3	(14.4)	2.8	指	すのこ底、指紋		浅黄橙	75%	
2260	Ⅲ H 9 i	5b	D 4	12.2	2.1	ヘラ	すのこ底、指紋		にぶい黄橙	40%	

第126図 かわらけ⑮



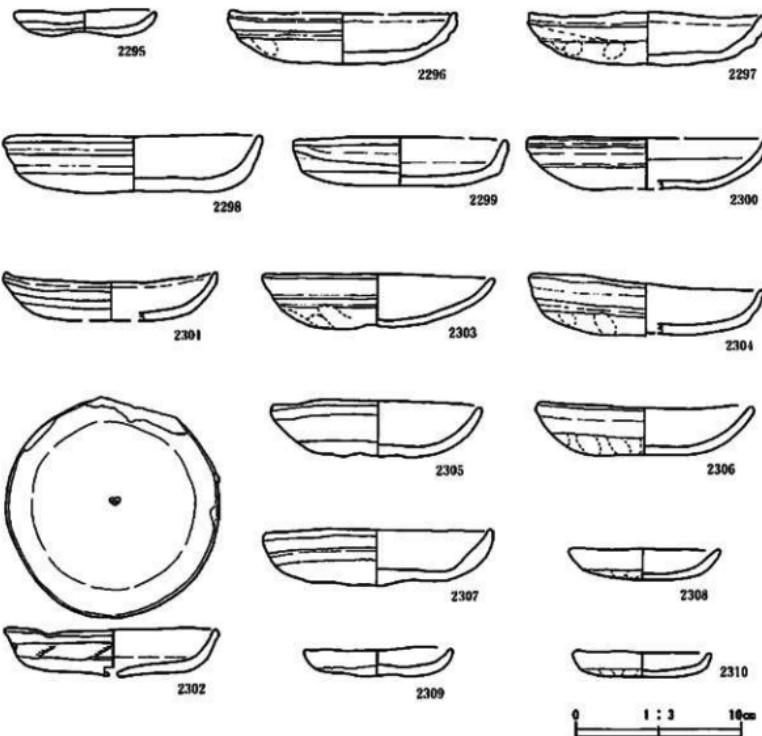
番号	出土地点	層位	分類	口径	底径	器高	内面ナメ	外底・内面	色調	残存	備考
2261	III H 9 i	5b	D 4	7.9	5.5	1.8	すのこ痕	灰黄	45%		
2262	III H 9 i	5d	D 4	13.5		2.4	布?	指紋	灰白	45%	
2263	III H 9 i	5d	D 4	14.3		2.6	すのこ痕	にぶい橙	35%		
2264	III H 9 i	5d	D 4	(15.3)		(2.9)		にぶい黄橙	20%		表面にタール状物質付着
2265	III H 9 i	5d	D 4	(11.5)		2.5		にぶい黄橙	30%		
2266	III H 9 i	5d	r d	8.8	7.0	1.7		橙	35%		
2267	III H 9 i	5d	r d	7.7	5.5	1.4		橙	35%		
2268	III H 9 i	5d	r d	(8.6)	(5.5)	2.1		橙	30%		
2269	III H 9 i	5d	R d 23	(12.2)	5.7	3.5		にぶい黄橙	35%		
2270	III H 9 i	5d	内折R	7.9		1.4		浅黄橙	40%		
2271	III H 9 i	5b	柱孔附		9.1	(3.3)		にぶい橙	20%		
2272	III H 9 j	7a	r b	9.5	4.5	2.8		にぶい橙	75%		海綿骨針
2273	III H 9 j	7a	r b	8.8	4.3	3.0		橙	75%		海綿骨針
2274	III H 9 b	3d?	r d	6.2	5.2	2.0		にぶい黄橙	60%		海綿骨針
2275	III H 1 g	5d	D 2	(8.1)		1.8	すのこ痕	灰黄褐	30%		
2276	III H 1 i	1q	C 3	(14.6)		(1.8)	布?	指紋	灰白	35%	
2277	III H 1 i	1r	C 3	(14.1)		3.2	ヘラ明瞭 すのこ痕、指紋多い	浅黄橙	50%		

第127図 カワラケ⑯



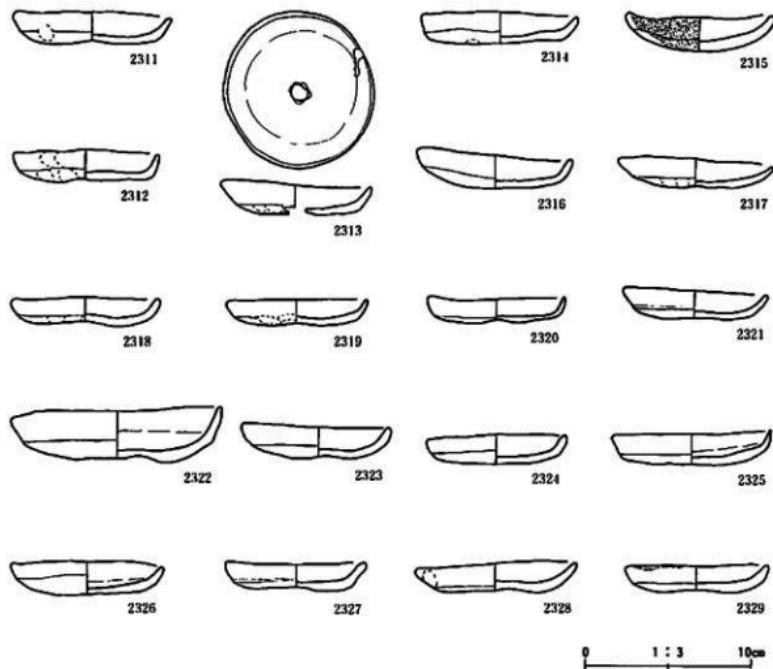
番号	出土地点	場位	分類	口径	底径	器高	内面ナメ	外底・内面	色調	残存	備考
2278	NH1 i	lr	C 3	9.4		2.0	ヘラ?	すのこ底	淡黄緑	65%	
2279	NH1 i	lr	C 3	14.1		3.4	ヘラ明瞭	すのこ底、指凹み	にぶい黄緑	55%	
2280	NH1 i	5d	C 3	11.4		3.2		すのこ底、指凹み	にぶい黄緑	50%	
2281	NH1 i	5d	C 3	9.3		2.1		すのこ底	にぶい黄緑	95%	
2282	NH1 i	5d	C 3	9.0		1.8		指紋	にぶい黄緑	100%	
2283	NH1 i	5d 縦葉中部	C 3	8.4		1.7		指紋	にぶい黄緑	55%	
2284	NH1 i	5d	C 3	12.5		2.9		すのこ底、指凹み	淡黄緑	55%	
2285	NH1 i	5d	C 3	13.6		3.0		すのこ底、指凹み	にぶい黄緑	50%	
2286	NH1 i	5d 縦葉中部	C 3	9.1		2.1		すのこ底、指紋	にぶい黄緑	60%	
2287	NH1 i	1i	C 3	8.8		2.0	治?	すのこ底、指紋	褐色	95%	
2288	NH1 i	1q	C 4	9.0		2.0	布?	すのこ底	にぶい黄緑	80%	
2289	NH1 i	1r	C 4	14.4		3.2		すのこ底	にぶい黄緑	100%	
2290	NH1 i	1r	C 4	(13.7)		3.3	耕	すのこ底、指凹み	にぶい黄緑	60%	
2291	NH1 i	1r	C 4	13.1		2.9		すのこ底、指紋	にぶい黄緑	65%	
2292	NH1 i	1r	C 4	15.7		3.5	布?	すのこ底	にぶい黄緑	55%	
2293	NH1 i	5d	C 4	(13.9)		2.7		すのこ底、指紋	淡黄緑	40%	
2294	NH1 i	5d	C 4	9.1		1.9	布	すのこ底、指紋	淡黄緑	55%	

第128図 かわらけ①



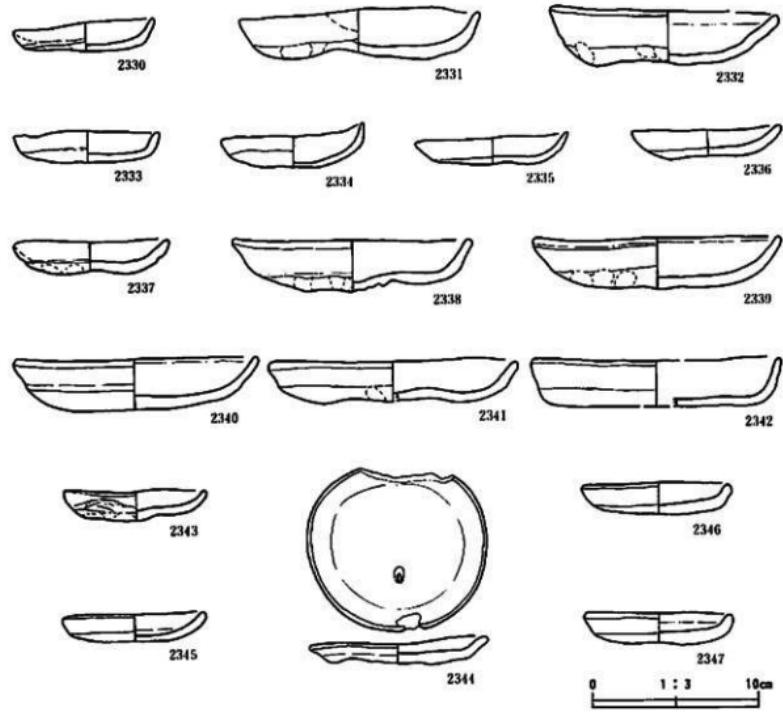
番号	出土地点	層位	分類	口径	底径	器高	内面ナメ	外底・内面	色調	残存	備考
2295	NH1-i	5d	C4	8.4		1.6	指紋	浅黄橙	65%		
2296	NH1-i	5d	C4 (13.5)		3.1	ヘラ明瞭	すのこ底	灰黄褐	60%		
2297	NH1-i	5d 土器集中	C4	14.0	3.2	指	すのこ底、指紋、指凹み	浅黄褐	50%		
2298	NH1-i	1r	C5	15.3	3.6	指?	すのこ底	浅黄	50%		
2299	NH1-i	1r	C5	12.7	3.0	ヘラ	すのこ底	浅黄橙	45%		
2300	NH1-i	1r	C5	14.3	3.1	ヘラ	すのこ底、指紋	淡青	40%		
2301	NH1-i	5d 7	C5	12.6	3.9	指	すのこ底、指紋	にぶい黄橙	40%	内底にタール状質付着	
2302	NH1-i	5d 地盤集中部	C5	12.5	2.9	ヘラ	すのこ底、指紋	浅黄橙	100%	地盤の上、1層剥離なし	
2303	NH1-i	5d	C5	13.6	3.4		すのこ底、指紋、指凹み	にぶい黄橙	75%		
2304	NH1-i	5d	C5	13.9	3.8	指?	指紋多い	にぶい黄橙	75%		
2305	NH1-i	5d 地盤集中部	C5	12.4	3.3	ヘラ	指凹み	にぶい黄橙	75%		
2306	NH1-i	1i	C5	12.8	3.2		指紋、指凹み	灰青	50%		
2307	NH1-i	IPS D12號掛舟	C5	13.5	3.3	指?	すのこ底、指凹み	にぶい黄橙	100%	指凹みの底付近	
2308	NH1-i	1q	D2	8.8	1.9	指?	すのこ底、指凹み	にぶい黄橙	100%		
2309	NH1-i	1q	D2	8.8	1.8		すのこ底	にぶい黄橙	100%		
2310	NH1-i	1q	D2	8.0	1.5		指凹み	浅黄橙	80%		

第129図 かわらけ⑧



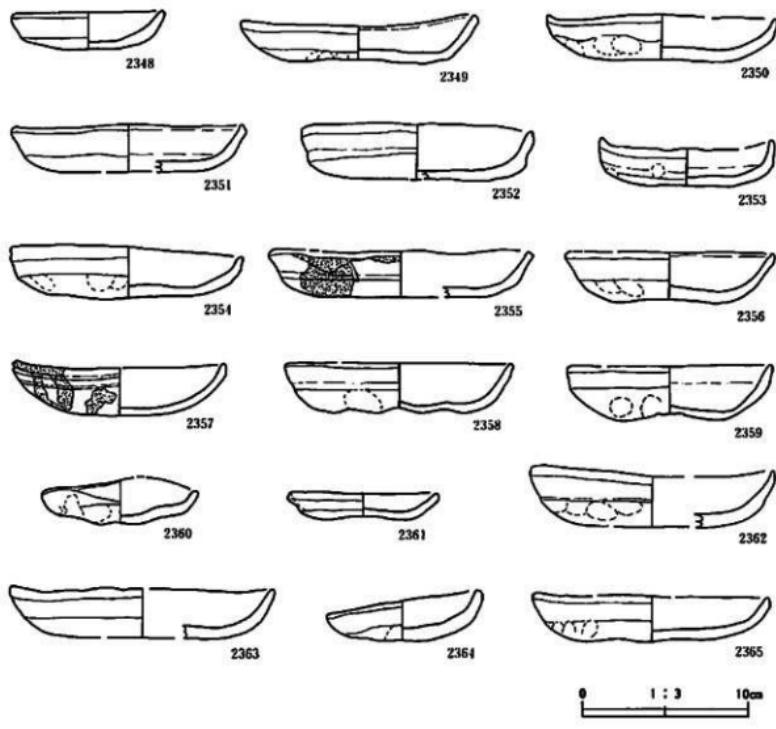
番号	出土地点	朝代	分類	口径	底径	厚度	鋸痕	内面ナメ	外底・内面	色調	残存	備考
2311	NH1 i	Ir	D2	9.4		2.0	毎?			に赤い黄緑	100%	
2312	NH1 i	5d	縦溝中部	D2	8.6	1.9		指紋		に赤い黄緑	100%	
2313	NH1 i	5d	D2	9.0	2.0		指紋多い			に赤い黄緑	100%	成成後穿孔
2314	NH1 i	5d	D2	9.2	1.8		寸のこ痕、指紋			淡黄緑	90%	
2315	NH1 i	Iq	D3	8.7	2.3	2.3	?	寸のこ痕、指紋		に赤い黄緑	100%	内面の手形にターナー状物質付着
2316	NH1 i	Iq	D3	9.2	2.4	2.4	指	寸のこ痕		淡黄緑	100%	内面にターナー状物質付着
2317	NH1 i	Iq	D3	9.1	1.8		指	指凹み、指紋		に赤い黄緑	100%	
2318	NH1 i	Iq	D3	8.7	1.8	ヘラ	寸のこ痕、指紋			に赤い黄緑	100%	
2319	NH1 i	Iq	D3	8.4	1.7		指	指紋		淡黄	100%	
2320	NH1 i	Iq	D3	8.1	1.6		指	指紋		に赤い黄緑	85%	
2321	NH1 i	Iq	D3	8.4	1.9	1.9	?	寸のこ痕、指紋		淡黄緑	75%	
2322	NH1 i	Ir	D3	12.6	3.3					淡黄緑	95%	
2323	NH1 i	Ir	D3	8.8	2.1			寸のこ痕、縦ざじ		に赤い黄緑	90%	
2324	NH1 i	Ir	D3	8.3	1.8	1.8	?	指紋		に赤い黄緑	95%	IH鉛打ち欠きか?
2325	NH1 i	Ir	D3	9.4	2.1	2.1	?	縦ざじH		淡黄緑	100%	
2326	NH1 i	Ir	D3	9.0	2.0					淡黄緑	80%	
2327	NH1 i	Sd	D3	8.3	1.7		指凹み			に赤い黄緑	85%	
2328	NH1 i	Sd	D3	9.5	1.9		指	寸のこ痕、指紋		淡黄緑	70%	
2329	NH1 i	Sd	D3	8.4	1.6					に赤い黄緑	95%	IH鉛打ち欠きか?

第130図 かわらけ⑩



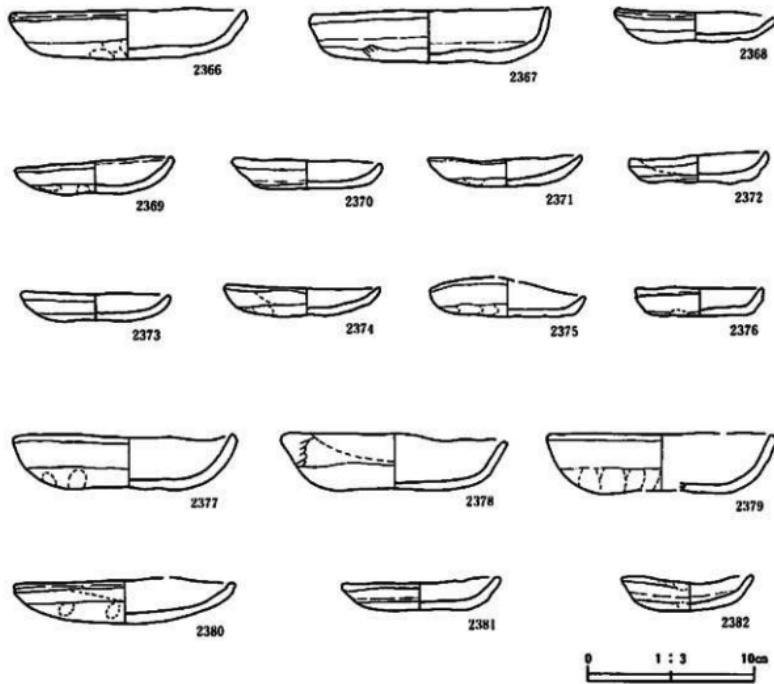
番号	出土地点	部位	分類	口径	底径	高さ	内面ナメ	外底・内面	色調	残存	備考
2330	NH1 i		Sd	D3	9.2	2.0			にぶい黄緑	100%	
2331	NH1 i		Sd 集中部	D3	14.3	3.1	指	すのこ底、指凹み	浅黄緑	85%	
2332	NH1 i		Sd 集中部	D3	13.4	3.6		すのこ底、指紋	にぶい黄緑	90%	
2333	NH1 i		Sd	D3	8.5	1.9	毫?		淡黄緑	100%	
2334	NH1 i		Sd	D3	8.4	1.7	指	指紋	同上	90%	
2335	NH1 i		Sd	D3	9.0	1.9	指	すのこ底、指紋	にぶい黄緑	95%	
2336	NH1 i		Sd	D3	8.7	1.8	指	指紋	にぶい黄緑	100%	
2337	NH1 i	1i	D3	8.3	1.9		すのこ底、指紋	灰青緑	95%	LJ棒打ち欠きか?	
2338	NH1 i	1q	D4	14.0	3.3	毫?	すのこ底、指紋	灰青緑	65%	内外面にLJ棒打ち欠きか?	
2339	NH1 i	1q	D4	14.6	3.0	指?	すのこ底、指凹み	浅黄緑	50%		
2340	NH1 i	1q	D4	14.4	3.2	指	すのこ底	にぶい黄緑	75%	内外面にLJ棒打ち欠きか?	
2341	NH1 i	1q	D4	14.6	2.5	毫?	すのこ底、指紋	にぶい黄緑	50%		
2342	NH1 i	1q	D4	14.7	2.9		すのこ底、指凹み	灰青	40%		
2343	NH1 i	1q	D4	8.3	2.0	指?	すのこ底、指凹み、指紋	にぶい黄緑	85%		
2344	NH1 i	1r	D4	10.6	1.7	毫?	すのこ底	にぶい黄緑	90%	内外面にLJ棒打ち欠きか?	
2345	NH1 i	1r	D4	8.4	1.8		すのこ底	灰青	95%		
2346	NH1 i	1r	D4	8.7	2.0		すのこ底	にぶい黄緑	90%		
2347	NH1 i	1r	D4	8.6	1.9	ヘラ	すのこ底、指凹み	にぶい黄緑	70%		

第131図 カワラケ②

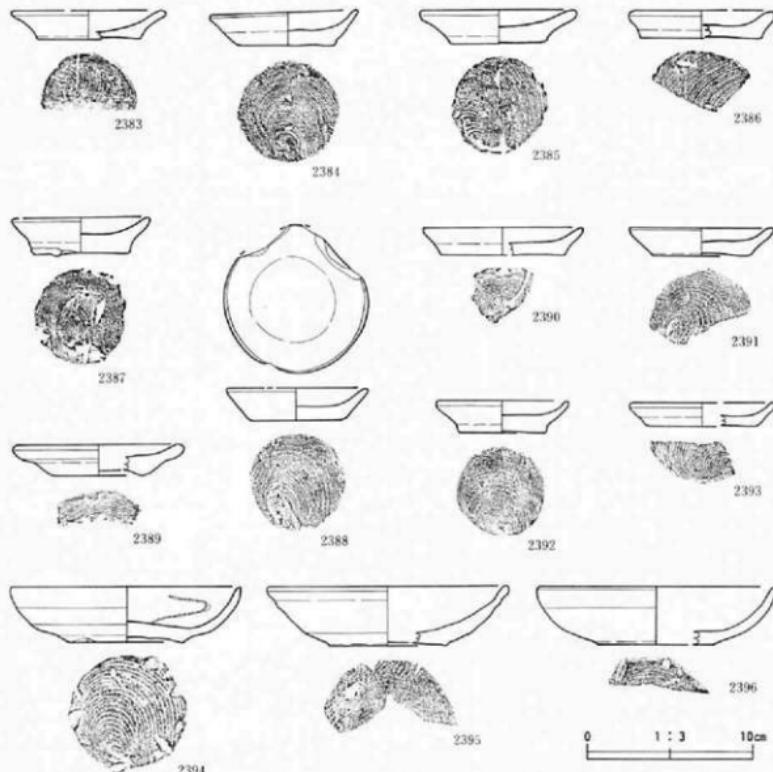


番号	出土地点	層位	分量	口径	底径	器高	内面ナメ	外底・内面	色調	残存	備考
2348	NH1 i	1r	D 4	9.0		2.2		にぶい黄緑	90%		
2349	NH1 i	1r	D 4	14.0		2.9	指門み	灰白	85%		
2350	NH1 i	1r	D 4	13.6		2.7	すのこ底、指門み	灰白	75%		
2351	NH1 i	1r	D 4	13.7		2.8	指?	浅黄緑	40%		
2352	NH1 i	1r	D 4	13.6		3.3	指	すのこ底	にぶい黄緑	40%	角底、口縁などに褐色剥離
2353	NH1 i	1r	D 4	10.2		2.8	指	すのこ底、指紋	にぶい黄緑	50%	
2354	NH1 i	5d	D 4	13.8		3.3	すのこ底、指門み	灰黄緑	85%		
2355	NH1 i	5d	D 4	(15.3)		2.6	すのこ底	にぶい黄緑	40%	円弧に付着するA特-1	
2356	NH1 i	5d	D 4	(12.2)		3.0	指?	すのこ底	灰黄緑	30%	
2357	NH1 i	5d	D 4	12.5		3.3	指	すのこ底	にぶい黄緑	45%	内側底にテール状物質付着
2358	NH1 i	5d	D 4	(13.4)		3.0	指	すのこ底	にぶい黄緑	35%	
2359	NH1 i	5d	D 4	(12.0)		3.3	へら明瞭	すのこ底、指門み	にぶい黄緑	20%	
2360	NH1 i	5d	D 4	9.2		2.75	すのこ底、指門み	にぶい黄緑	100%		
2361	NH1 i	5d	D 4	8.8		1.6	指	すのこ底、指紋	灰黄	65%	
2362	NH1 i	5d	D 4	14.4		(3.5)	すのこ底、指紋	にぶい黄緑	30%		
2363	NH1 i	5d?	D 4	15.7		3.0	指	すのこ底	にぶい黄緑	30%	
2364	NH1 i	5d 褐部中部	D 4	9.1		3.0	指?	すのこ底、指紋	にぶい黄緑	100%	
2365	NH1 i	5d	D 4	(13.9)		2.8	布?	指門み	にぶい黄緑	55%	

第132図 かわらけ①

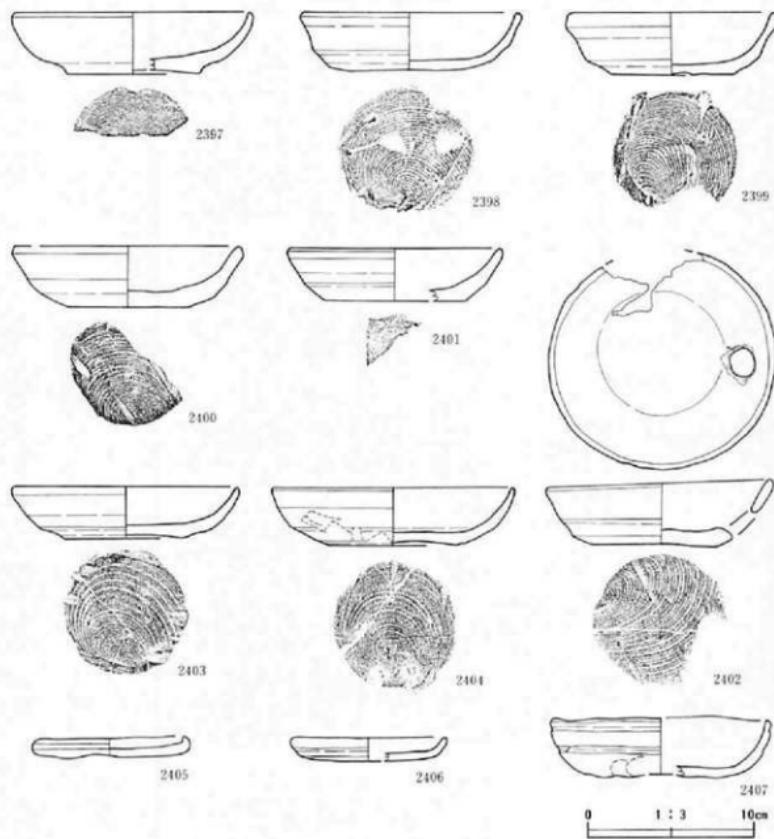


第133図 かわらけ②



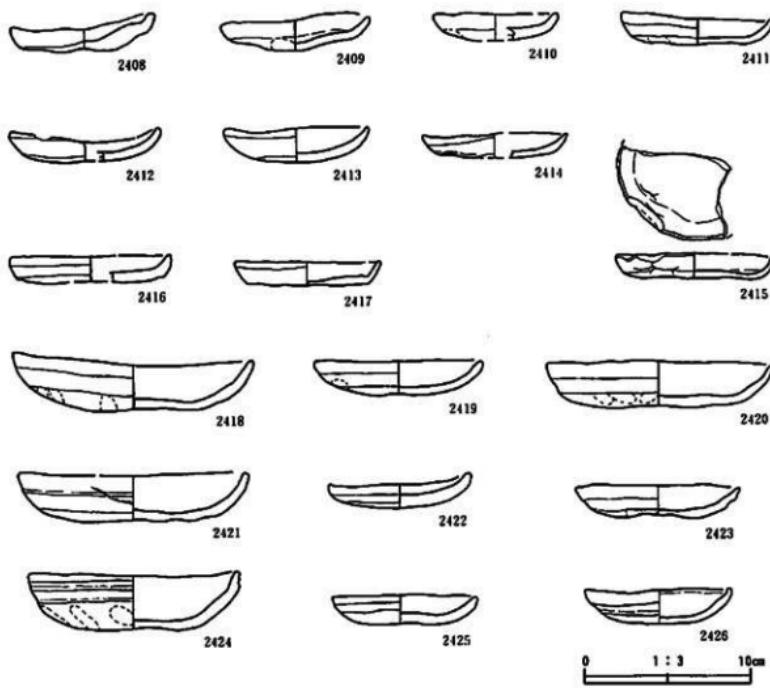
番号	出土地点	層位	分類	口径	底径	高さ	内面ナメ	外底・内面	色調	残存	備考
2383	NII i	1q	r d	(9.0)	(6.1)	1.7			褐	40%	
2384	NII i	1q	r d	8.7	5.7	2.1			にぶい褐	75%	
2385	NII i	1r	r d	9.1	5.3	2.0			褐	80%	
2386	NII i	1r	r d	8.4	(7.3)	1.8			にぶい黄褐	30%	
2387	NII i	1z	r d	8.0	5.7	2.2			にぶい黄褐	70%	
2388	NII i	5d	r d	8.4	5.0	2.0			にぶい黄褐	90%	口唇押しつけ
2389	NII i	5d	r d	9.8	(5.5)	1.9			浅黄褐	30%	外底凹あり
2390	NII i	5d	r d	9.4	(7.4)	1.6			褐	20%	
2391	NII i	5d	r d	8.5	5.8	1.7			にぶい黄褐	55%	
2392	NII i	5d	r d	7.8	5.2	1.9			浅黄褐	100%	
2393	NII i	5d 横窓中部	r d	(8.5)	(6.5)	1.5			灰黄褐	20%	
2394	NII i	5d	R d00	13.6	6.9	3.3			浅黄褐	100%	
2395	NII i	5d	R d05	14.2	(7.1)	3.6			浅黄褐	40%	
2396	NII i	5d	R d01	14.0	(7.0)	3.5	すのこ痕?		にぶい黄褐	25%	

第134図 かわらけ②



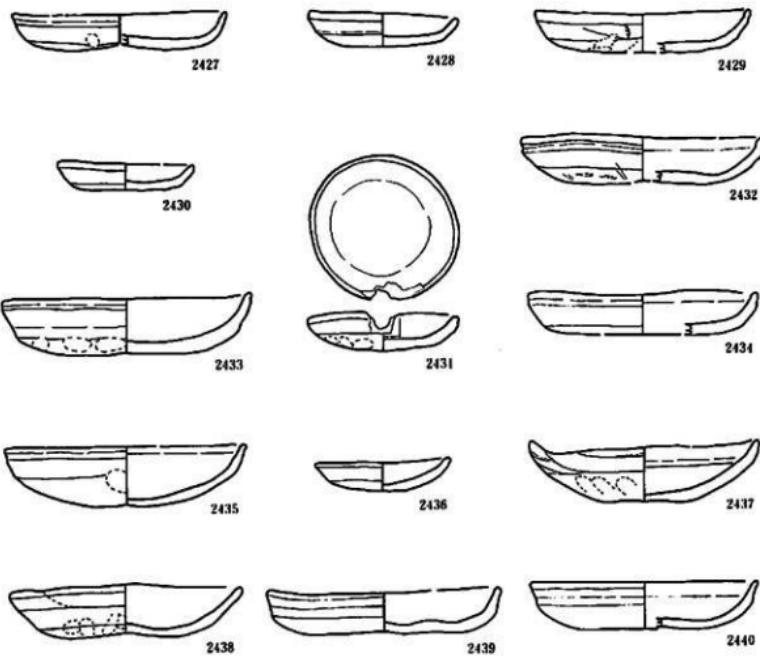
番号	出土地点	層位	分類	口径	底径	高さ	内面ナメ	外底・内面	色調	残存	備考
2397	NH1-i	5d	R d10	14.1	(8.0)	3.6			棕	35%	
2398	NH1-i	1q・1r	R d22	12.8	6.3	3.5	すのこ痕		にぶい・黄	75%	
2399	NH1-i	1q	R d22	12.1	7.2	3.9	すのこ痕		にぶい・黄	25%	
2400	NH1-i	1r	R d22	(13.3)	7.0	3.7	すのこ痕		にぶい・黄	35%	
2401	NH1-i	5d	R d22	12.6	(8.4)	3.1			にぶい・黄	20%	
2402	NH1-i	5d縁集中部	R d22	13.2	7.4	4.0			にぶい・黄	80%	口周部下手に焼成度の変化
2403	NH1-i	5d	R d23	13.4	7.2	3.1	すのこ痕		にぶい・黄	90%	
2404	NH1-i	5d	R d23	14.4	7.6	3.4	すのこ痕		浅黄	75%	
2405	NH1-i	5d縁集中部	内折れ	8.2		1.2	すのこ痕、指紋		浅黄	75%	
2406	NH1-j	5d	C 3	9.1		1.4			灰黒	25%	
2407	NH1-j	5d	C 5	12.8		3.6			にぶい・黄	25%	

第135図 かわらけ④



番号	出土地点	層位	分類	口径	底径	器高	内部ナメ	外底・内面	色調	残存	備考
2408	NH 1 j	6上	D 2	8.4	2.1	指?			浅黄褐	95%	底部四凸あり
2409	NH 1 j	5d	D 3	8.7	2.2	指?	すのこ痕、指紋	浅黄褐	100%		
2410	NH 1 j	5d	D 3	7.2	(1.7)		指紋	にぶい黄褐	30%		
2411	NH 1 j	5d	D 4	8.9	1.9		すのこ痕、指凹み	灰黄	80%		
2412	NH 1 j	5d	D 4	8.8	(1.9)	無	すのこ痕、指紋	浅黄	45%		
2413	NH 1 j	5d	D 4	8.5	2.0	指?	すのこ痕	浅黄褐	55%		
2414	NH 1 j	5d	D 4	8.5	1.5		縦状の压痕	にぶい黄褐	35%		
2415	NH 1 j	5d	D 4	(9.3)	1.6	無		灰黄	35%	0.4m、内凹テール状物質付着	
2416	NH 1 j	5d	D 4	(9.4)	1.7			にぶい黄褐	30%		
2417	NH 2 b	1i	D 4	8.6	1.4		すのこ痕	50%			
2418	NH 2 i	1q	C 3	14.2	3.6	有?	すのこ痕、指凹み、指紋	にぶい黄褐	65%		
2419	NH 2 i	1q	C 3	9.9	2.1	ヘラ?	無さ目、指紋	浅黄褐	45%	内凹テール状物質少部分	
2420	NH 2 i	1r	C 3	13.4	2.9	無	すのこ痕、指凹み、指紋	浅黄	80%		
2421	NH 2 i	1r	C 3	(13.5)	3.0	指?	指紋	灰黄	45%		
2422	NH 2 i	5d	C 3	8.3	2.1	無	すのこ痕	固灰	65%		
2423	NH 2 i	1i	C 3	9.6	2.0		すのこ痕	にぶい黄褐	30%		
2424	NH 2 i	1i	C 3	12.4	3.5	ヘラ?	指凹み	灰黄	75%		
2425	NH 2 i	1i	C 3	8.5	1.8	有?	すのこ痕	固灰	100%		
2426	NH 2 i	1i	C 3	8.6	2.1	有?	指紋	浅黄褐	90%		

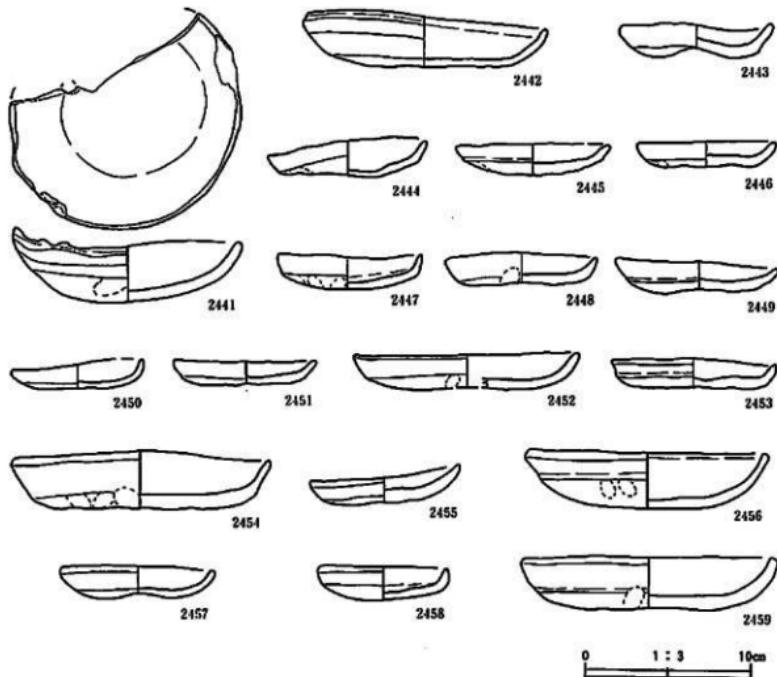
第136図 かわらけ②



0 1 : 3 10cm

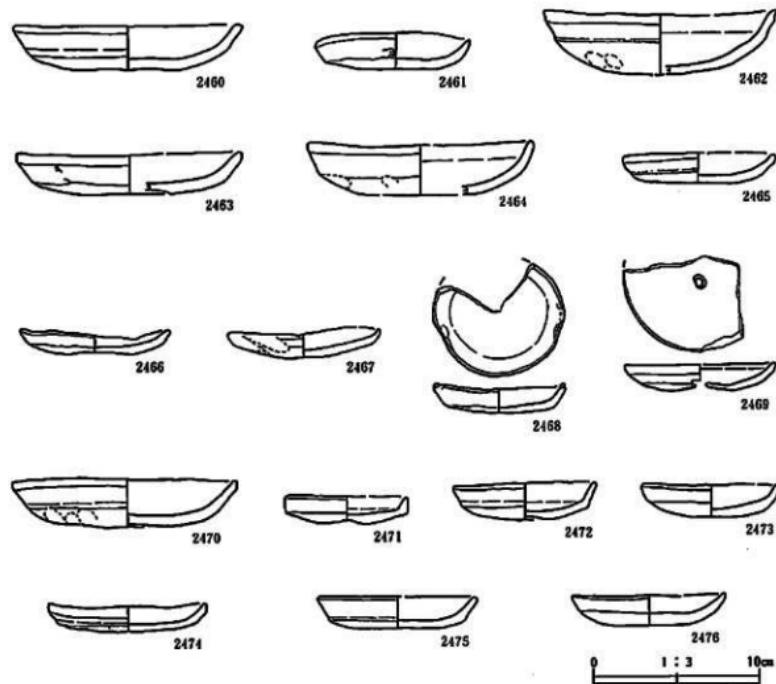
番号	出土地点	層位	分量	口径	底径	器高	内面ナメ	外底・外面	色調	残存	備考
2427	NH 2 i	l q	C 4 (12.7)		(2.3)	ヘラ?		にぶい黄緑	50%		
2428	NH 2 i	l q	C 4	8.8	2.3	指	すのこ底	浅黄	85%		
2429	NH 2 i	l q			12.7	2.6	ヘラ?	指紋	浅黄緑	45%	
2430	NH 2 i	l r	C 4	7.9	1.8	指	指紋	浅黄緑	85%		
2431	NH 2 i	l r	C 4	8.8	2.4	指	すのこ底、指門み、指紋	にぶい黄緑	100%	既成後口軽部打ち丸き	
2432	NH 2 i	l r	C 4	14.3	(3.1)	ヘラ?	すのこ底?	にぶい黄緑	45%		
2433	NH 2 i	l r	C 4	14.8	3.8	心?	すのこ底、指凹み、指紋	にぶい黄緑	75%		
2434	NH 2 i	5d	C 4	13.4	2.7	ヘラ?	指紋	にぶい黄緑	25%		
2435	NH 2 i	l i - l q	C 4	14.3	3.6		すのこ底	にぶい黄緑	25%		
2436	NH 2 i	l i	C 4	7.9	2.0	指	指紋	にぶい黄緑	60%	内面カール状物質付着	
2437	NH 2 i	l i	C 4	13.5	3.8	ヘラ明瞭	すのこ底、指紋	にぶい黄緑	50%		
2438	NH 2 i	l r	C 5	13.7	3.2	牽?	すのこ底、指凹み、指紋	浅黄緑	95%		
2439	NH 2 i	l r	C 5	13.7	2.8	ヘラ明瞭	すのこ底	にぶい黄緑	60%	外面カール状物質付着	
2440	NH 2 i	Sd	C 5	13.4	2.9	ヘラ明瞭	すのこ底	灰白	30%		

第137図 かわらけ④



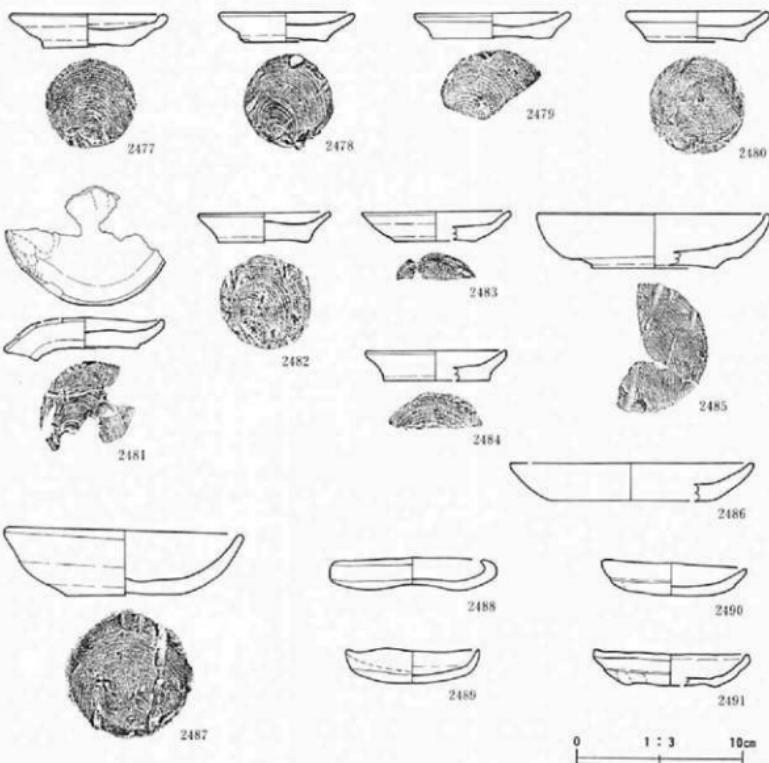
番号	出土地點	種類	分類	口径	底径	器高	内面ナメ	外底・内面	色調	残存	備考
2441	NH2 i	Sd	C5	13.5		4.5	赤?	十のこ紙、指紋	灰白	75%	内側裏テール状物質有
2442	NH2 i	Li - Iq	C5	14.2	3.3	ヘラ?				100%	
2443	NH2 i	Ir	D2	8.8	2.0	ヘラ		十のこ紙	にぶい黄緑	100%	
2444	NH2 i	Sd	D2	9.4	2.4			指紋	にぶい黄緑	100%	
2445	NH2 i	Sd	D2	9.0	1.9			十のこ紙	にぶい黄緑	45%	
2446	NH2 i	Iq	D3	8.1	1.5	ヘラ?			にぶい黄緑	25%	
2447	NH2 i	Ir	D3	8.5	2.1			指紋	にぶい黄緑	100%	
2448	NH2 i	Ir	D3	8.9	1.9	胎?		指門み	にぶい黄緑	100%	
2449	NH2 i	Ir	D3	9.5	2.2	胎?			褐色	60%	
2450	NH2 i	Sd	D3	8.9	1.8				褐色	50%	
2451	NH2 i	Li	D3	8.4	1.6	ヘラ明瞭			灰白	95%	
2452	NH2 i	Iq	D4	13.2	2.3			十のこ紙、指紋	にぶい黄緑	40%	
2453	NH2 i	Ir	D4	9.6	1.9	ヘラ		十のこ紙、指紋	にぶい黄緑	80%	
2454	NH2 i	Ir	D4	15.3	3.5	胎		十のこ紙、指紋	にぶい黄緑	90%	
2455	NH2 i	Ir	D4	8.8	2.4			十のこ紙	灰黒	70%	
2456	NH2 i	Ir	D4	14.1	3.6	ヘラ?		指紋	にぶい黄緑	100%	
2457	NH2 i	Ir	D4	9.0	1.9	胎		指紋、指門み	灰黒	65%	
2458	NH2 i	Ir	D4	7.6	2.0	胎?		十のこ紙	後黄緑	75%	
2459	NH2 i	Ir	D4	14.8	3.1	ヘラ?		十のこ紙、指紋	にぶい黄緑	55%	

第138図 かわらけ②



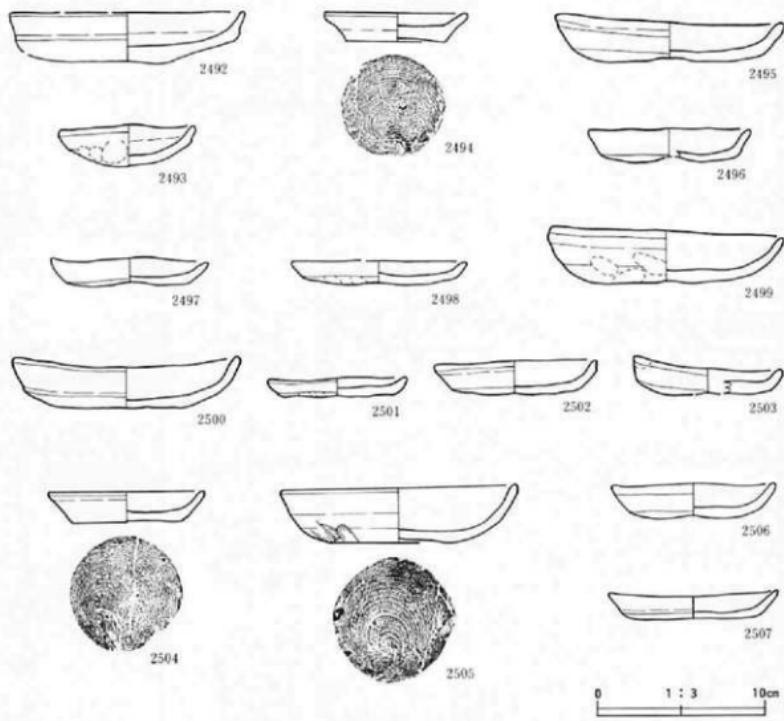
番号	出土地点	層位	分類	口径	底径	高さ	内面テテ	外底・内面	色調	残存	参考
2460	NH 2 i	I r	D 4	13.3	2.8	布?	寸のこ底	黒灰	55%		
2461	NH 2 i	6	D 4	9.1	2.2	ヘラ	寸のこ底	浅黄	100%		
2462	NH 2 i	5d	D 4	13.7	3.0		指紋	灰黄	45%		
2463	NH 2 i	5d	D 4	13.2	2.5	指?	寸のこ底	にぶい黄緑	35%	内面テール状物質付着	
2464	NH 2 i	5d	D 4	13.2	3.2		寸のこ底	浅黄緑	35%		
2465	NH 2 i	5d	D 4	8.9	1.9		寸のこ底	にぶい黄緑	65%		
2466	NH 2 i	5d	D 4	8.8	1.6	ヘラ		にぶい黄緑	50%		
2467	NH 2 i	5d	D 4	9.0	1.8	黒	寸のこ底, 指凹み	浅黄緑	75%		
2468	NH 2 i	5d	D 4	7.6	1.8		指紋	にぶい黄緑	75%		
2469	NH 2 i	5d	D 4	(8.9)	1.6			にぶい黄緑	35%	中央に焼成前穿孔あり	
2470	NH 2 i	I i · I q	D 4	13.2	3.0	布?	寸のこ底, 裂紋	深黄緑	85%		
2471	NH 2 i	I i	D 4	7.2	1.6	ヘラ?		にぶい黄緑	25%		
2472	NH 2 i	I i	D 4	8.4	2.3	指?		にぶい黄緑	80%		
2473	NH 2 i	I i	D 4	7.9	2.0			灰青緑	35%		
2474	NH 2 i	I i	D 4	9.3	1.7		裂ぎ目	にぶい黄緑	40%		
2475	NH 2 i	I i	D 4	9.2	1.9		寸のこ底	にぶい黄緑	45%		
2476	NH 2 i	I i	D 4	8.9	1.9		裂ぎ目, 寸のこ底	にぶい黄緑	70%		

第139図 かわらけ②



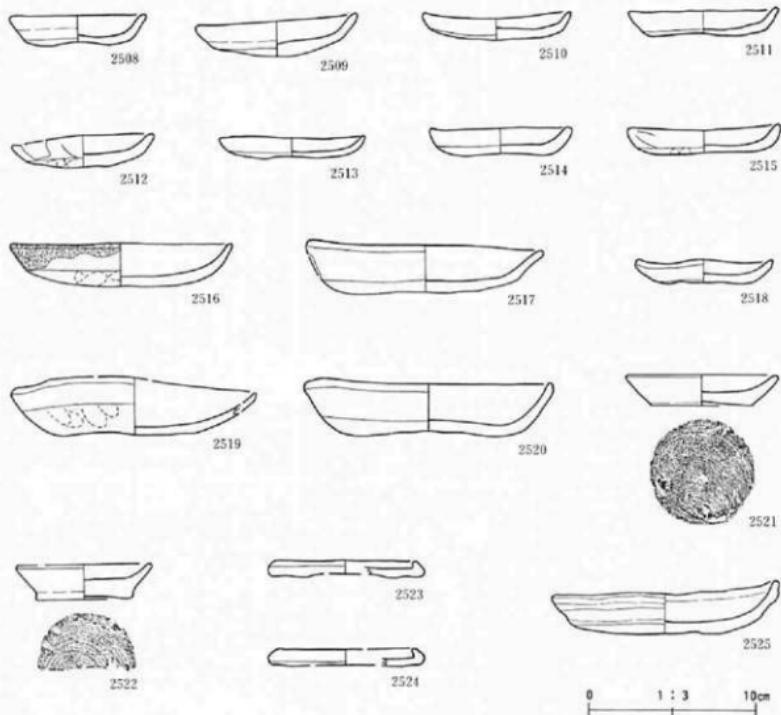
番号	出土地点	断片	分類	口径	底径	高さ	内面ナメ	外底・内面	色調	残存	備考
2477	NH 2 i	1q	r.d	5.3	2.1				褐	85%	海綿骨針
2478	NH 2 i	1q	r.d	8.0	4.8	1.8			に赤い黄橙	80%	海綿骨針
2479	NH 2 i	1q	r.d	9.1	6.9	1.5			褐	35%	海綿骨針
2480	NH 2 i	5d	r.d	8.3	5.7	1.8			褐	90%	海綿骨針
2481	NH 2 i	1i - 1q	r.d	(9.6)	6.3	2.3			褐	55%	大きいのがみ。海綿骨針
2482	NH 2 i	1i	r.d	7.8	5.4	1.7			褐	95%	海綿骨針
2483	NH 2 i	1i	r.d	8.8	(4.9)	1.7			褐	40%	海綿骨針
2484	NH 2 i	1i	r.d	8.2	(6.3)	1.8			褐	30%	海綿骨針
2485	NH 2 i	5d	R.d.00	13.7	7.5	3.3			褐	65%	海綿骨針
2486	NH 2 i	1i	R.d.00	(14.4)	(9.7)	2.2			褐	20%	海綿骨針
2487	NH 2 i	1q	R.d.22	14.0	7.0	4.2			に赤い黄橙	85%	内面カール状物質付着
2488	NH 2 i	1r	内折R	8.4		2.0	褐	暗白	85%		
2489	NH 2 i	1q	D.2	7.9		2.0	ヘラ		浅黄橙	50%	
2490	NH 2 j	1i	D.3	8.4		2.1	網目	に赤い黄橙	65%		
2491	NH 2 j	7e 1	D.4	9.0		2.0	指紋	灰黄褐	35%		

第140図 カワラケ



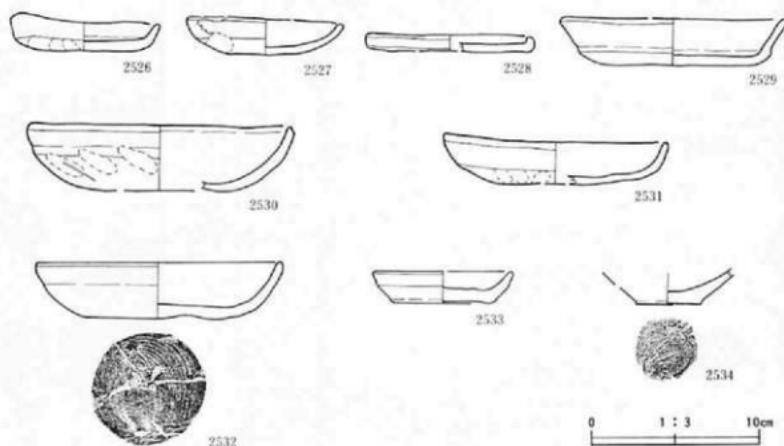
番号	出土地点	編位	分類	口径	底径	器高	内面サギ	外底・内面	色調	残存	備考
2492	NH 2 j	5d	D 4	(13.7)		3.0	布	指紋	浅黄櫻	45%	
2493	NH 2 j	不明	D 4	7.8		2.4	指?	すのこ痕	浅黄櫻	95%	
2494	NH 2 j	5d	r d	8.2	6.0	1.7			桙	100%	
2495	NH 3 h	1 i	C 3	13.3		2.9	ヘラ明瞭	すのこ痕, 指紋	浅黄櫻	45%	
2496	NH 3 h	1 i	D 2	9.4		(1.9)			褐灰	30%	
2497	NH 3 h	1 i	D 2	9.2		1.7			灰白	80%	
2498	NH 3 h	1 i	D 3	(10.1)		1.4	織目, 指紋		にぶい黄櫻	70%	
2499	NH 3 h	1 i	D 4	13.6		3.4	指?	すのこ痕, 指紋	浅黄櫻	60%	
2500	NH 3 h	1 i	D 4	13.1		3.0	指?	すのこ痕, 指紋	にぶい黄櫻	80%	内外面ケル状物質付着
2501	NH 3 h	1 i	D 4	8.0		1.2	ヘラ	指紋	浅黄櫻	25%	口縁部面取り
2502	NH 3 h	1 i	D 4	9.5		2.0			にぶい黄櫻	65%	
2503	NH 3 h	1 i	D 4	8.6		(2.3)		すのこ痕	浅黄櫻	55%	
2504	NH 3 h	1 i	r d	9.0	6.5	1.9			桙	90%	海綿骨針
2505	NH 3 h	1 i	Rd2	13.8	7.1	3.4		すのこ痕	にぶい櫻	85%	雪柳
2506	NH 3 i	1 i	C 3	9.5		2.1		すのこ痕, 指紋	にぶい黄櫻	65%	
2507	NH 3 i	1 q	D 2	9.8		1.7			浅黄櫻	45%	

第141図 かわらけ⑩



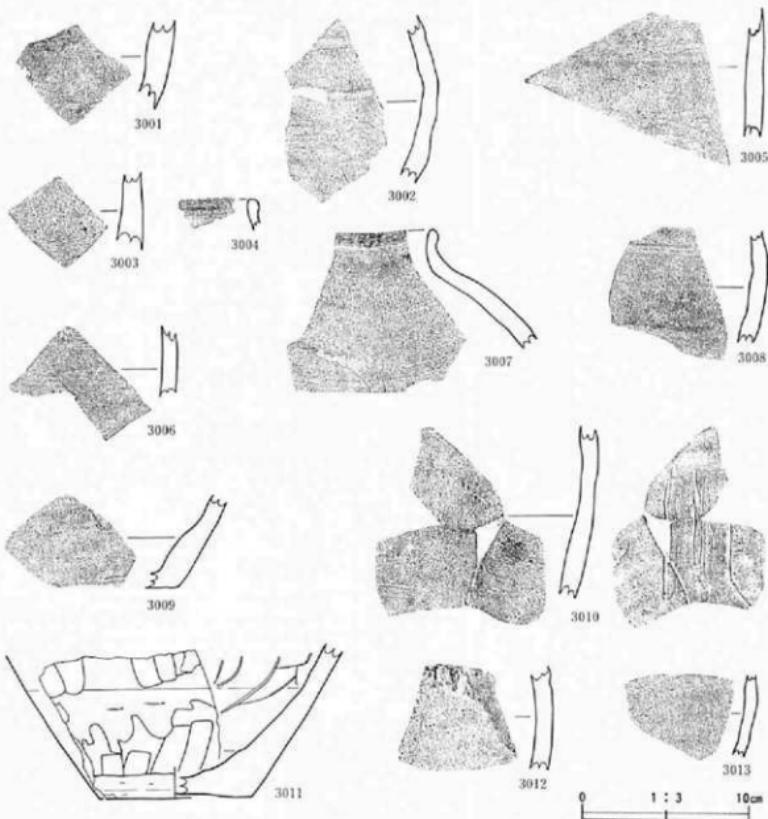
番号	出土地點	層位	分類	口径	底様	器高	内面ナメ	外底・内面	色調	残存	備考
2508	NH3 i	1q	D 2	8.1		1.8	すのこ底	にぶい黄緑	70%	内外面タール状物質付着	
2509	NH3 i	1r	D 2	9.5		2.5	指?	すのこ底、指紋	浅黄緑	100%	
2510	NH3 i	1q	D 3	8.6		1.7	すのこ底	にぶい黄緑	65%		
2511	NH3 i	1q	D 3	8.7		1.7	すのこ底、指紋	浅黄緑	60%		
2512	NH3 i	1q	D 3	8.3		2.0	すのこ底、指紋	にぶい黄緑	45%	口縁部打ち欠き?	
2513	NH3 i	1q	D 3	8.5		1.4	縫合目	浅黄緑	50%		
2514	NH3 i	1q	D 3	8.2		1.7		灰黄	45%		
2515	NH3 i	1r	D 3	8.8		1.7	ハケ?	指紋	灰黄	50%	
2516	NH3 i	1q	D 4	13.1		2.7		指紋	浅黄緑	45%	内底鉛鉬跡付
2517	NH3 i	1q	D 4	13.9		3.4	ハケ明瞭	鰯回み、指紋	にぶい黄緑	85%	幅かく破缺
2518	NH3 i	1r	D 4	7.9		1.5	指?	すのこ底	にぶい黄緑	35%	
2519	NH3 i	1r	D 4	(14.3)		3.5		すのこ底	灰黄	70%	
2520	NH3 i	1r	D 4	14.6		3.4	ハケ?	すのこ底、指紋	にぶい黄緑	55%	
2521	NH3 i	1q	r d	8.8	6.0	1.8			褐斑	80%	海綿骨針
2522	NH3 i	1i	r d	7.9	5.7	2.1			橙	35%	海綿骨針
2523	NH3 i	1q	西側	8.3		1.1			褐斑	45%	
2524	NH3 i	1q	内側	8.2		1.1			褐斑	20%	
2525	NH3 j	1q	C 5	13.2		3.2	布	すのこ底、指紋、指凹み	淡黄	95%	内外面タール状物質付着

第142図 カワラケ⑩



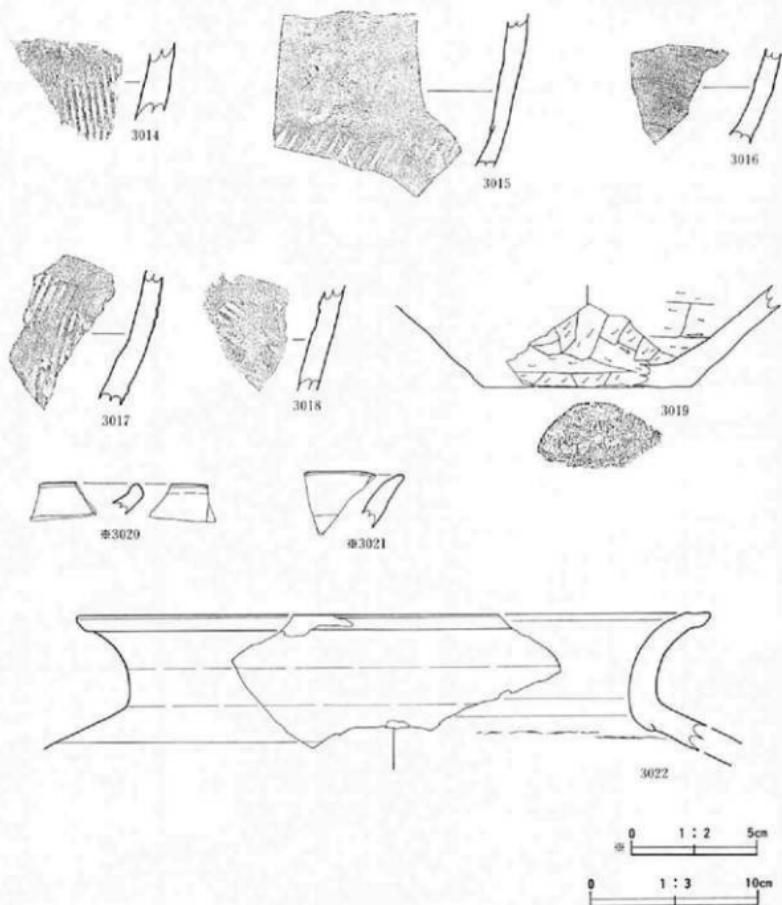
番号	出土地点	層位	分類	口径	底径	器高	内面ナメ	外底・内面	色調	残存	備考
2526	NH 3 j	1q	D 2	8.7		2.2		すのこ底、指紋	板黄	85%	内面有網目状・4枚割合
2527	NH 3 j	1r	D 4	9.0		2.2	布	すのこ底	浅黄褐	60%	
2528	NH 3 j	1r	内折れ	9.4		1.1	指?	すのこ底	にぶい黄褐	25%	内外墨タール状物質付着
2529	NH 4 h	1i	D 4	13.1		2.8		すのこ底	にぶい黄褐	40%	
2530	NH 4 j	1q	D 4	15.3		3.9	指?	すのこ底	にぶい黄褐	40%	
2531	NH 4 j	1q	D 4	13.1	(3.0)	布?	指紋	浅黄褐	55%		
2532	NH 4 j	1q	R d00	14.4	8.0	3.5		すのこ底	にぶい黄褐	25%	ゆがみ
2533	N I 1 a	7c 1	r d	8.1	5.9	1.9			浅黄褐	30%	
2534	N I 1 a	7c 1	r b			3.7 (2.2)		すのこ底	浅黄	45%	底径小さい

第143図 カワラケ⑩



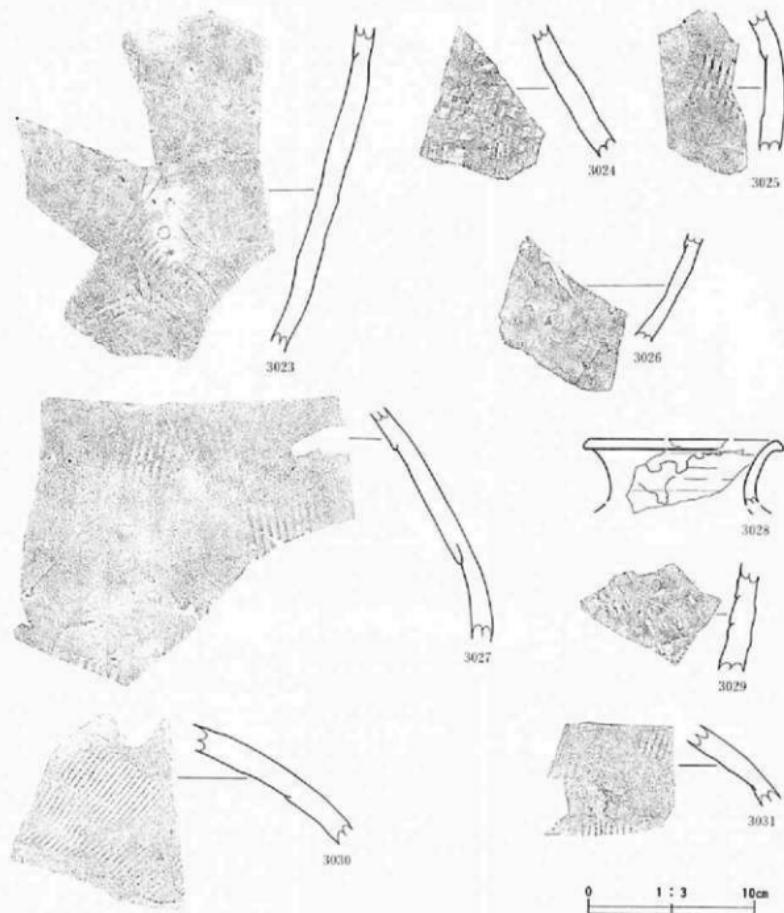
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3001	猿投	19S E 6	埋混土り層	壺	体部	灰オリーブ	12C後半
3002	猿投	ⅢH 0 g	5	壺	肩～体部	灰褐色	12C後半
3003	猿投	ⅢH 0 i	5b	壺	体部	褐灰	12C後半
3004	猿投	ⅢH 1 g	5	短頸壺	口輪部	灰褐色	12C後半
3005	猿投	ⅢH 2 h	5b	壺	体部	褐灰	12C後半
3006	猿投	ⅢH 3 g	4	壺	体部	褐灰	12C後半
3007	猿投	ⅢH 5 i	5b	短頸壺	口～肩部	灰褐色	3008と同一個体、12C後半
3008	猿投	ⅢH 6 i	5b	壺	体部	灰褐色	3007と同一個体、12C後半
3009	猿投	ⅢH 9 i	5d	壺	底部	灰褐色	内面底部に釉、12C後半
3010	猿投	ⅢH 9 i	5d	壺	体部	褐灰	内面ヘラによる括き上げ痕、12C後半
3011	猿投	ⅣH 1 j	5d	壺	底部	褐灰	内面ヘラによる括き上げ痕、12C後半
3012	猿投	ⅣH 2 i	1i	壺	体部	褐灰	内面ヘラによる括き上げ痕、12C後半
3013	猿投	不明	不明	壺	肩部	灰褐色	外面に釉

第144図 猿投産陶器



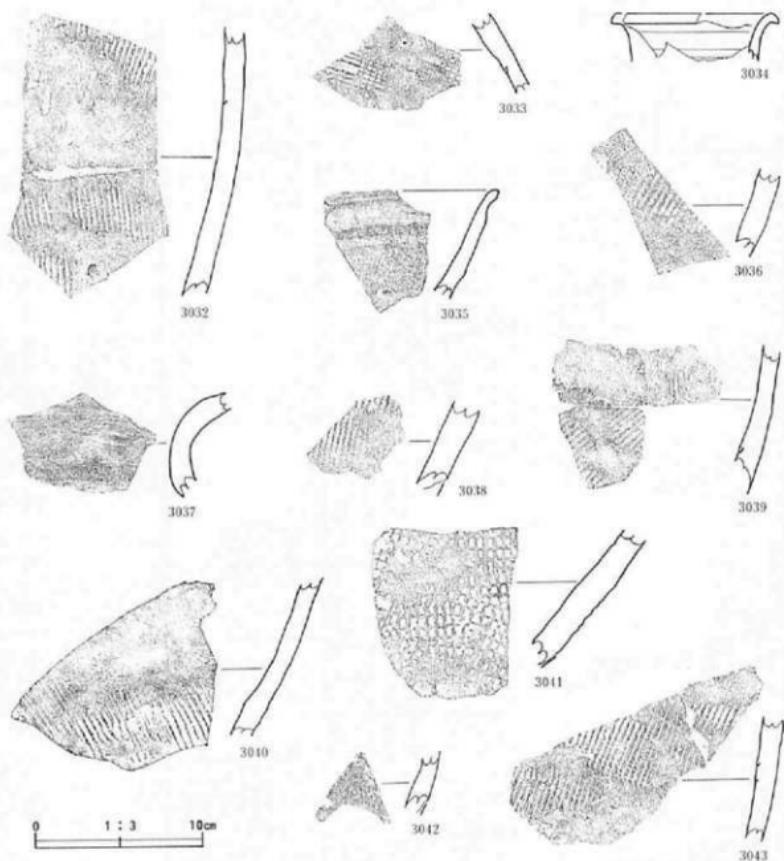
番号	種名	出土地点	部位	器種	部位	色調	備考
3014	渥美	19P141		壺	体部	褐灰	押印
3015	渥美	19P312	アタリ	壺	体部	灰	押印
3016	渥美	19S D 6 Ⅱ G 8 j		壺	体部	褐灰	
3017	渥美	19S D 6 Ⅱ G 5 j	埋土上部	壺	体部	褐灰	押印
3018	渥美	19S D 9 Ⅲ H 6 j		壺	体部	灰白	押印
3019	渥美	19S D 9 Ⅲ H 7 j		壺	底部	灰	
3020	渥美	19S D 9 Ⅲ H 8 j		壺	口縁部	黄灰	12C中業
3021	渥美	19S D 9 Ⅲ H 9 j		壺?	口縁部	褐灰	
3022	渥美	19S D 9 Ⅲ H 4 j	椚出面	壺	口~肩部	灰	

第145図 渥美産陶器①



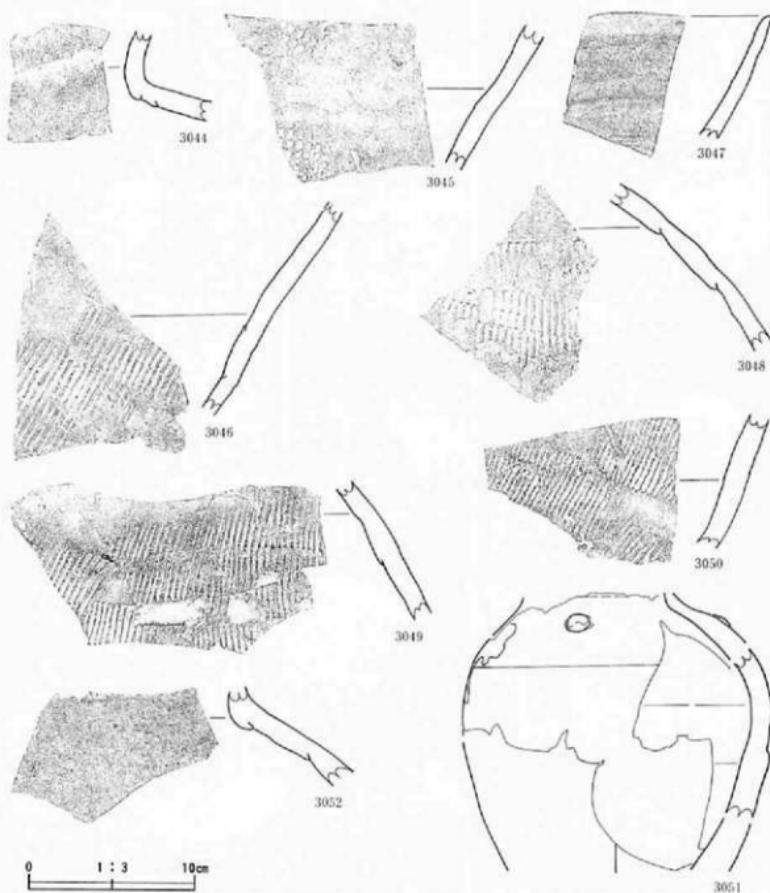
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3023	渥美	19S D 9 NH 3 j		甕	体部	褐灰	釉垂下、外面に赤変部あり、押印
3024	渥美	19S E 3 南半	1~7	甕	体部	褐灰	押印
3025	渥美	19S E 3 南半	1~7	甕	体部	褐オリーブ	外面に釉、押印
3026	渥美	19S E 3 南半	1~7	甕	体部	灰	外面にケズリ
3027	渥美	19S E 3 南半	1~7	甕	肩部	褐オリーブ	押印、釉垂下
3028	渥美	19S E 3 南半	埋土上部	釜	口縁部	褐灰	網目文?、12C第3四半期
3029	渥美	19S E 3 北半	1	甕	体部	黄灰	押印
3030	渥美	19S E 3 北半	1	甕	肩部	オリーブ黄	外面に釉、押印
3031	渥美	19S E 3 北半	1	甕	肩部	オリーブ黄	外面に釉、押印

第146図 渥美産陶器②



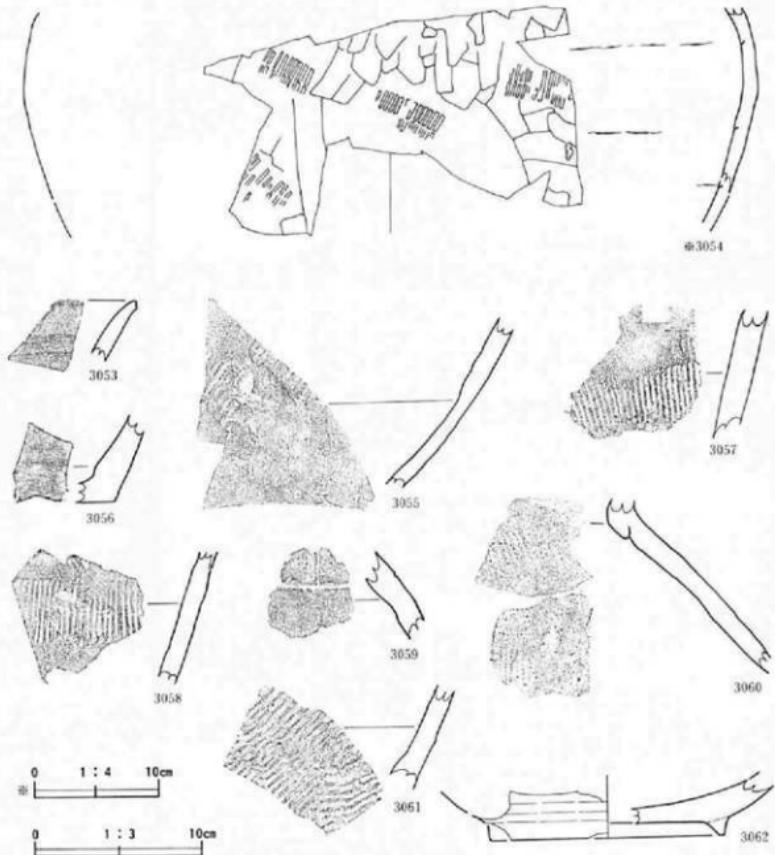
番号	種名	出土地点	号位	器種	部位	色調	備考
3032	渥美	19S E 3 北半	1	壺	体部	にぶい褐色	押印
3033	渥美	19S E 3 北半	3	壺	肩部	褐色	押印
3034	渥美	19S E 3 北半	4	壺	口縁部	褐色	内面に釉
3035	渥美	19S E 3 北半	6	鉢	口～体部	褐色	内面に釉
3036	渥美	19S E 5 南半		壺	体部	暗灰褐色	押印
3037	渥美	19S E 5 北半	1	壺	肩部	褐色	内面に釉
3038	渥美	19S E 6		縦溝じり唇	壺	褐色	押印
3039	渥美	19S E 6		縦溝じり唇	壺	にぶい黄褐色	押印
3040	渥美	19S E 6 南半		壺	体部	褐色	押印
3041	渥美	19S E 6 南半		壺	体部	褐色	押印
3042	渥美	19S E 6 南半		壺	体部	灰オリーブ	外面上に釉
3043	渥美	19S E 6 南半		壺	体部	にぶい黄褐色	押印

第147図 渥美産陶器③



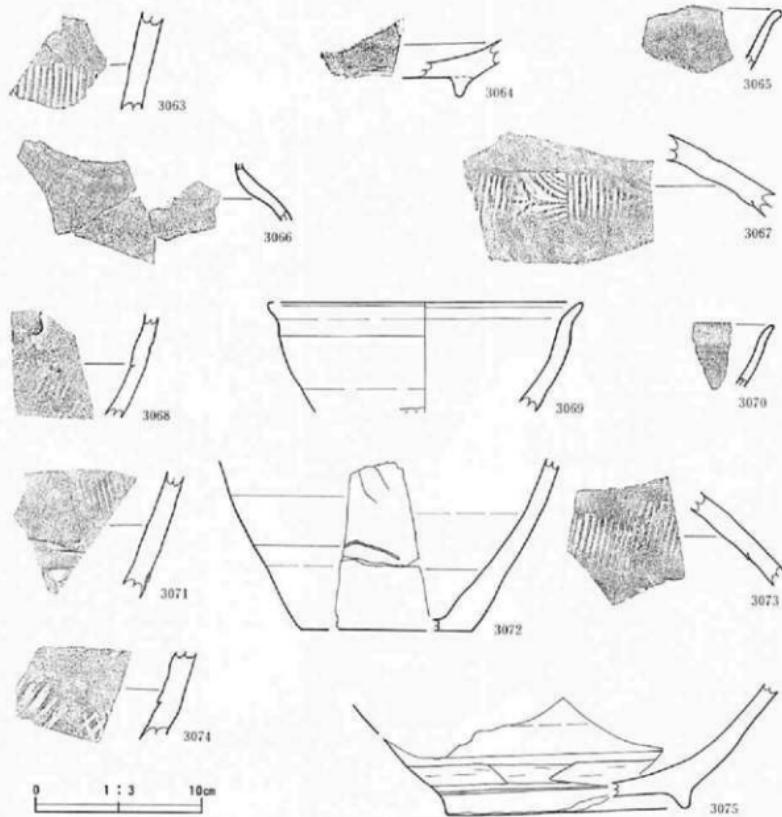
番号	様式	出土地点	層位	断片	部位	色調	備考
3044	渥美	19S X 1 南手	上層	甕	頸～肩部	灰黃	外側に釉
3045	渥美	21S X 5	焚き口覆土	甕	体部	灰	押印
3046	渥美	Ⅲ H 8 ①		甕	体部	灰	押印
3047	渥美	Ⅲ H 8 ②	5d	盆	口～体部	灰	内面に釉、12C後半
3048	渥美	Ⅲ H 8 ③	5d	甕	肩部	灰オーリーブ	押印、外側に釉
3049	渥美	Ⅲ H 8 ④	5d	甕	肩部	灰	押印、12C後半
3050	渥美	Ⅲ H 8 ⑤	5d	甕	体部	灰黄褐色	押印
3051	渥美	Ⅲ H 8 ⑥	1h	甕	体部	灰オーリーブ	釉垂下、外側体部縮状、四耳處
3052	渥美	Ⅲ H 8 ⑦	1e	甕	肩部	灰	

第148図 渥美産陶器④



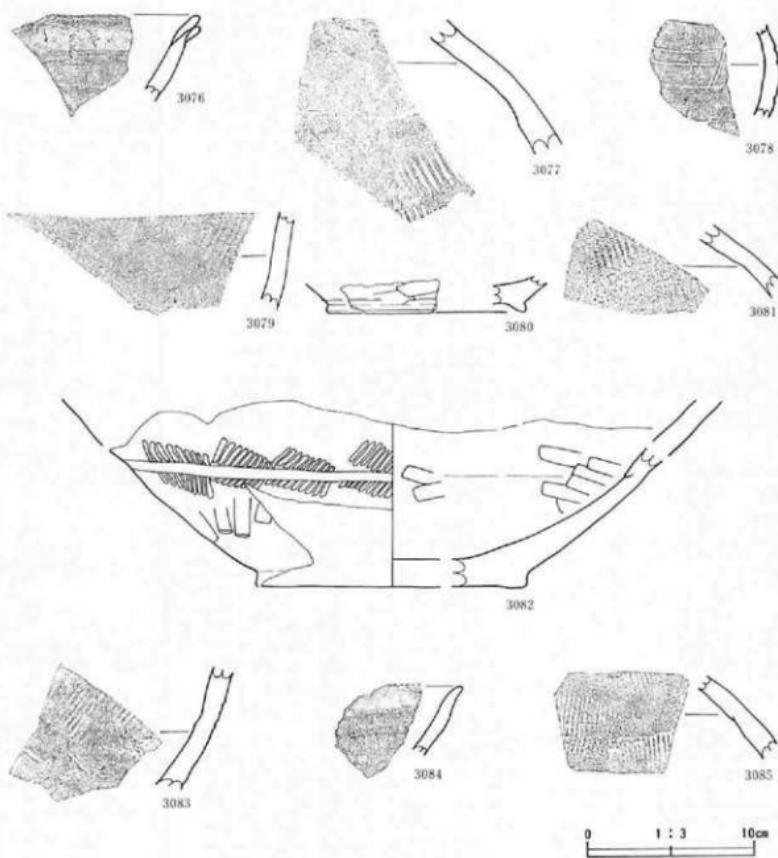
番号	種名	出土地点	層位	若様	部位	色調	備考
3053	渥美	III H 1 g	5b	鉢	口縁部	黄灰	
3054	渥美	III H 1 g	5d	甕	体部	灰	押印
3055	渥美	III H 1 g	5d	甕	体部	灰	押印
3056	渥美	III H 1 g	5	甕	底部	褐灰	内面に粒
3057	渥美	III H 2 f	5	甕	体部	褐灰	押印
3058	渥美	III H 2 g	5	甕	体部	灰	押印
3059	渥美	III H 3 g付近	5	甕	肩部	暗灰黄	製泥模文
3060	渥美	III H 3 h	5	甕	肩部	オリーブ灰	押印
3061	渥美	III H 3 h	5	甕	体部	灰黄	押印
3062	渥美	III H 4 g	5	鉢	底部	黄灰	内面擦毛

第149図 渥美産陶器⑤



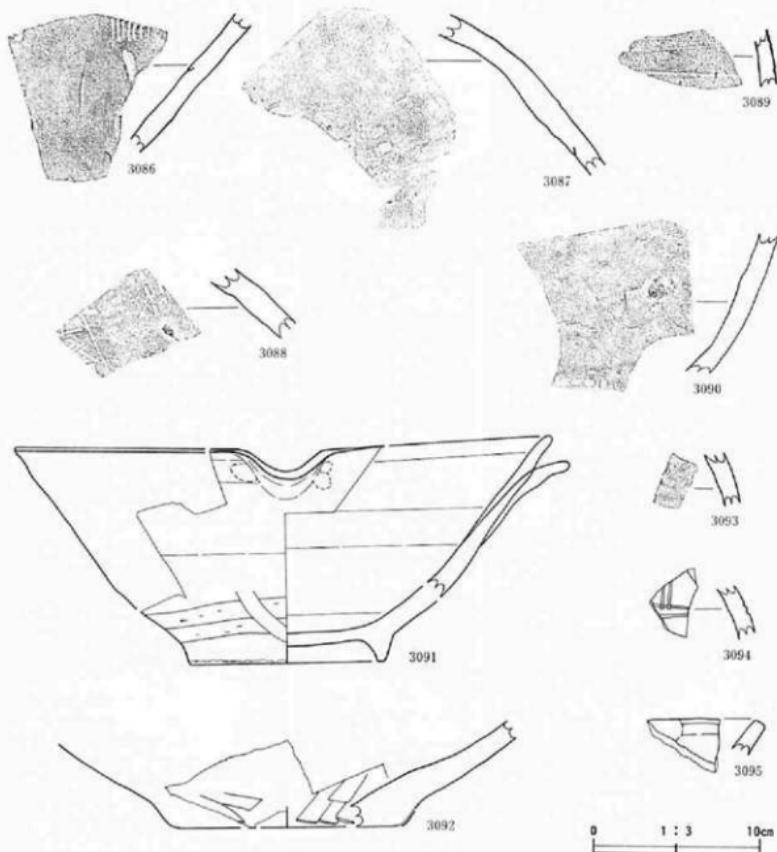
番号	種名	出土地点	部位	器種	部位	色調	備考
3063	渥美	三日 4 i	5b	要	体部	褐色	押印
3064	渥美	三日 4 i	5b	鉢	底部	灰	内面摩耗、内面に輪
3065	渥美	三日 4 i	5b	碗	口縁部	灰黃	外面部無釉
3066	渥美	三日 4 i - 5 i	5b	壺	明部	にぶい黄	外面に輪。胎土 2 種類の粘土
3067	渥美	三日 5 i	5b	壺	明部	淡黃	外面部に輪、複合押印?
3068	渥美	三日 5 i	5b	壺	体部	灰オーリーブ	外面に輪、押印
3069	渥美	三日 5 i	5d	鉢	口~体部	灰	内面に輪、12世紀第1四半期含む12世紀中葉
3070	渥美	三日 6 i	5b	碗	口縁部	灰白	山茶碗、内面に輪
3071	渥美	三日 6 i	5c	壺	体部	黄灰	押印、ケズリ
3072	渥美	三日 7 i	5d	壺	体~底部	褐色	内面底部に輪
3073	渥美	三日 7 i	5d	壺	体部	褐色	押印、12C後半
3074	渥美	トレンチ 3	5b	鉢	体~底部	灰	押印、12C後半
3075	渥美	トレンチ 3	5b	鉢	体~底部	黄灰	内面摩耗

第150図 渥美産陶器⑥



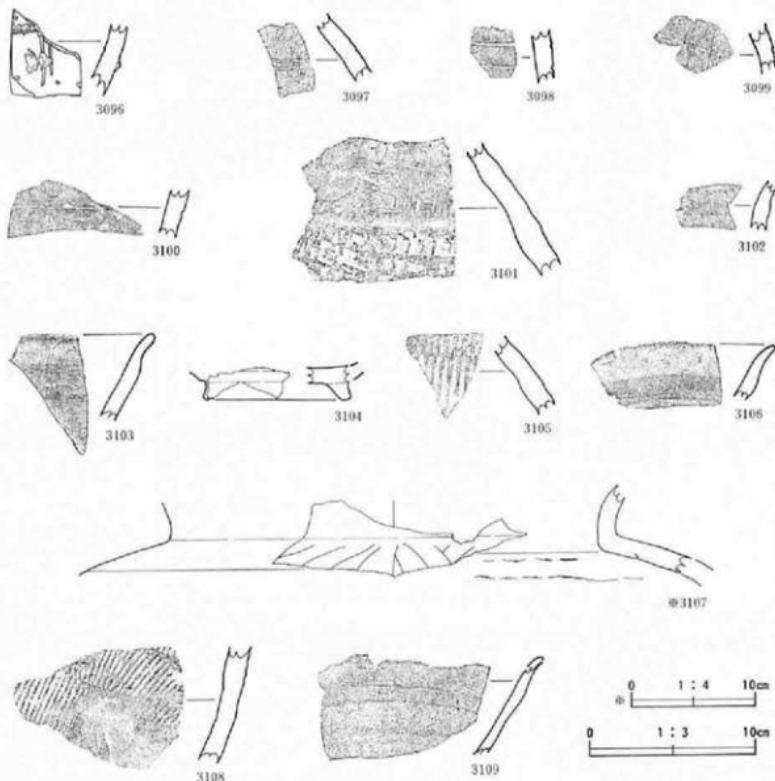
番号	種名	出土地点	器位	器種	部位	色調	備考
3076	渥美	三H 8-i	5d	鉢	口~体部	黄灰	片口、内面に軸垂、第2四半期含む12C中葉
3077	渥美	三H 8-i	5d	甕	肩部	黒褐	押印
3078	渥美	三H 9-c	II	甕	肩部	黄灰	施舟文？(袈裟縞文?)
3079	渥美	三H 9-h	5d	甕	体部	黄灰	外側に軸
3080	渥美	三H 9-i	5b	鉢	底部	灰	12C後半
3081	渥美	三H 9-i	5b	甕	体部	灰オリーブ	外側に軸
3082	渥美	三H 9-i	5d	甕	体~底部	黄灰	押印
3083	渥美	三H 9-i	5d	甕	体部	黒褐	押印、ケズリ、12C後半
3084	渥美	三H 9-i	5d	鉢	口縁部	黄灰	12C後半
3085	渥美	三H 1-i	1q	甕	底オリーブ	外側に軸、押印	

第151図 渥美産陶器⑦



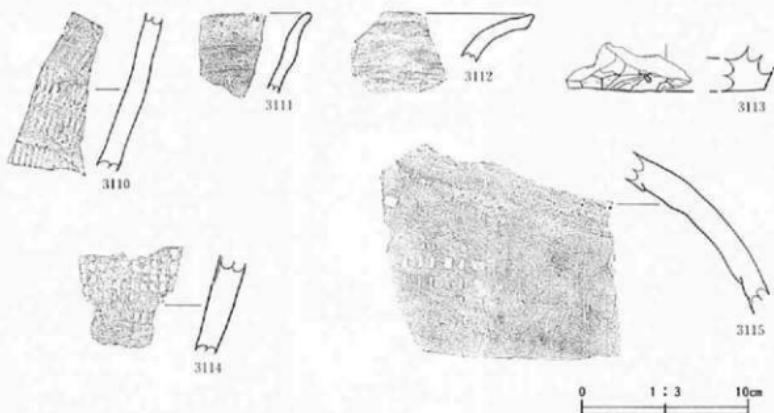
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3086	深美	NH1 i	1r	甌	体部	黄灰	押印、ケズリ
3087	深美	NH1 i	1r	甌	肩部	褐灰	押印
3088	深美	NH1 i	1r	甌	肩部	黄灰	押印、刻画文(绘画的文様)
3089	深美	NH1 i	5d?	甌	体部	褐灰	刻画文(繪線), 外側に崩
3090	深美	NH1 i	5d?	甌	体部	褐灰	外側に崩、押印、ケズリによる粘土の擦れ
3091	深美	NH1 i	5d	甌	口～底部	黄灰	片口、内面部分的に擦れ
3092	深美	NH1 i	1d	甌	底部	黄灰	ケズリ
3093	深美	NH1 i	1d	甌	体部	暗研黄	粗縞あり(刻画文?)
3094	深美	NH1 j	5d	甌	肩部	灰オーブ	外側に崩、製造摺文? (港舟文?)
3095	深美	NH2 i	1q	鉢	口縁部	褐灰	内面に崩

第152図 淀美産陶器⑧



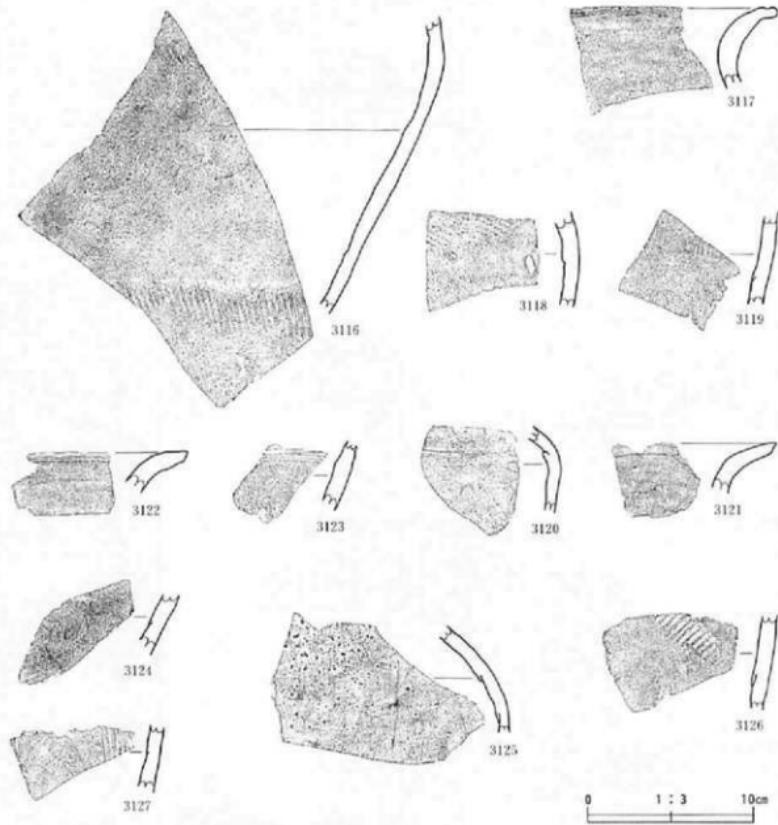
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3096	涙美	NH2-i	1q	壺	体部	灰オリーブ	外面に釉、製造修文？(未弁文?)
3097	涙美	NH2-i	1q	壺	体部	褐灰	竹管による平行沈線
3098	涙美	NH2-i	1q	壺	体部	灰	外面に平行沈線
3099	涙美	NH2-i	1q	壺	体部	褐灰	外面に釉、沈線
3100	涙美	NH2-i	1-i	壺	体部	褐灰	沈線、漆絞り
3101	涙美	NH2-i	1-i	壺	奥	灰黄褐色	押印
3102	涙美	トレンチ1	1-i	壺	指部	暗灰青	外面に釉
3103	涙美	トレンチ1	1-i	体	口～体部	灰	内面に釉
3104	涙美	NH2-j	1h	杯	底部	灰白	内面摩耗
3105	涙美	NH3-h	1-i	壺	体部	黄灰	押印
3106	涙美	NH3-h	1-i	壺	口縁部	灰	内面に釉
3107	涙美	NH3-i	1q	壺	瓶～肩部	灰オリーブ	外面に釉
3108	涙美	NH3-i	1q	壺	体部	に赤い黄褐	押印
3109	涙美	NH3-i	1q	体	口縁部	灰	内面に釉、内面擦耗

第153図 涙美産陶器⑨



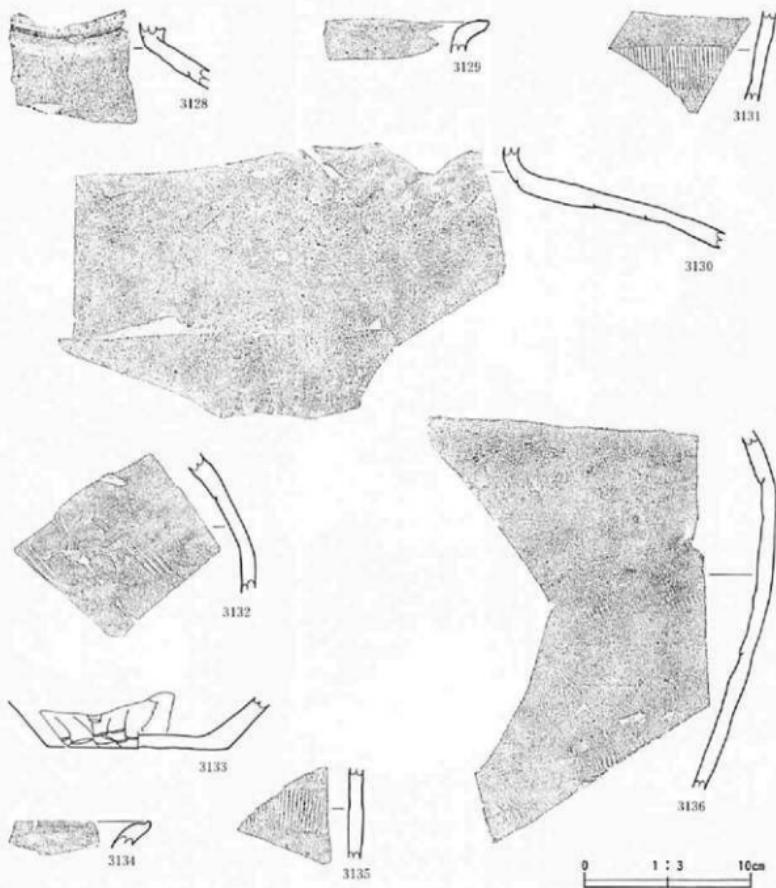
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3110	渥美	NH 3-i	1-i	羹	体部	褐灰	押印
3111	渥美	NH 3-i	1-i	钵	口縁部	灰	
3112	渥美	NH 3-i	1-i	羹	口縁部	褐灰	内面に輪
3113	渥美	NH 4-j	1-q	羹	底部	褐灰	内面底部に輪
3114	渥美	調査区南西部	盛土	羹	体部	灰	押印
3115	渥美	トレンチ1	1-e	羹	肩部	灰	押印、外面に輪

第154図 渥美産陶器⑩



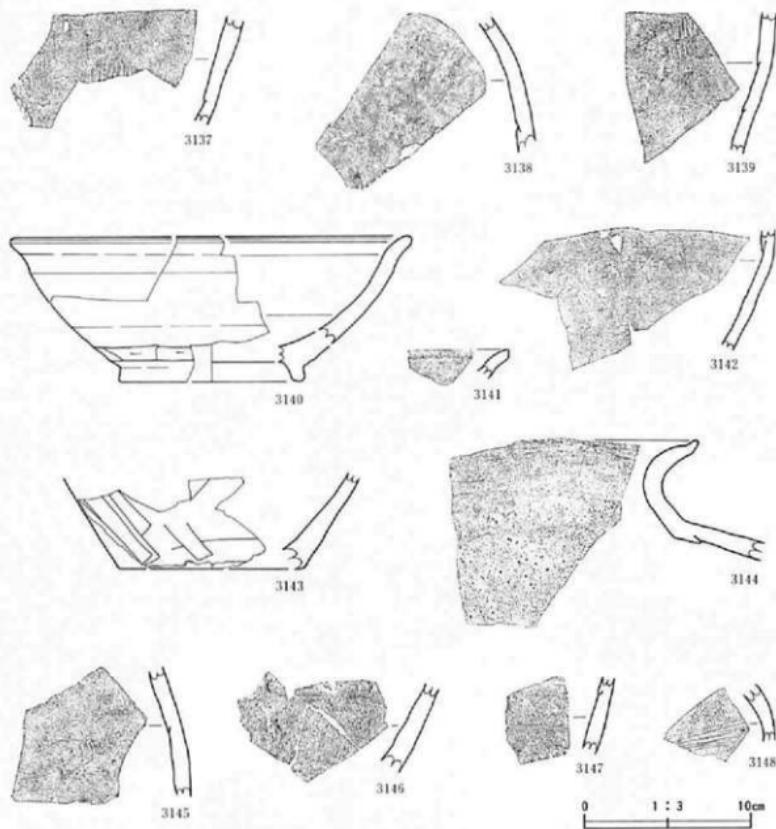
番号	件名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3116	常滑2型式	19S E 3	埋土上部	壺	体部	灰褐色	押印
3117	常滑2型式	19S E 3 南半	1~7	壺	口縁部	暗褐色	口唇部に凹線、内面に輪
3118	常滑2型式	19S E 3 南半	1~7	壺	体部	灰褐色	押印
3119	常滑2型式	19S E 3 北半	1	壺	体部	灰褐色	押印
3120	常滑2型式	19S E 3 北半	13	壺	肩部	褐灰	外面に筋、三筋窓
3121	常滑2型式	19S E 4 南半		壺	口縁部	にぶい黄褐色	内面に筋
3122	常滑2型式	19S E 6	礫混じり層	壺	口縁部	灰褐色	内面に灰オーブの施
3123	常滑2型式	19S E 6 南半		壺	体部	褐灰	外面に沈線(複線)、三筋窓
3124	常滑2型式	19S E 6 南半		壺	肩部	灰褐色	押印?
3125	常滑2型式	19S E 6 南半		壺	体部	黄褐色	灰オーブ
3126	常滑2型式	19S E 6 南半		壺	体部	黄褐色	押印
3127	常滑2型式	19H 0 i	5b	壺	体部	灰褐色	押印

第155図 常滑産陶器①



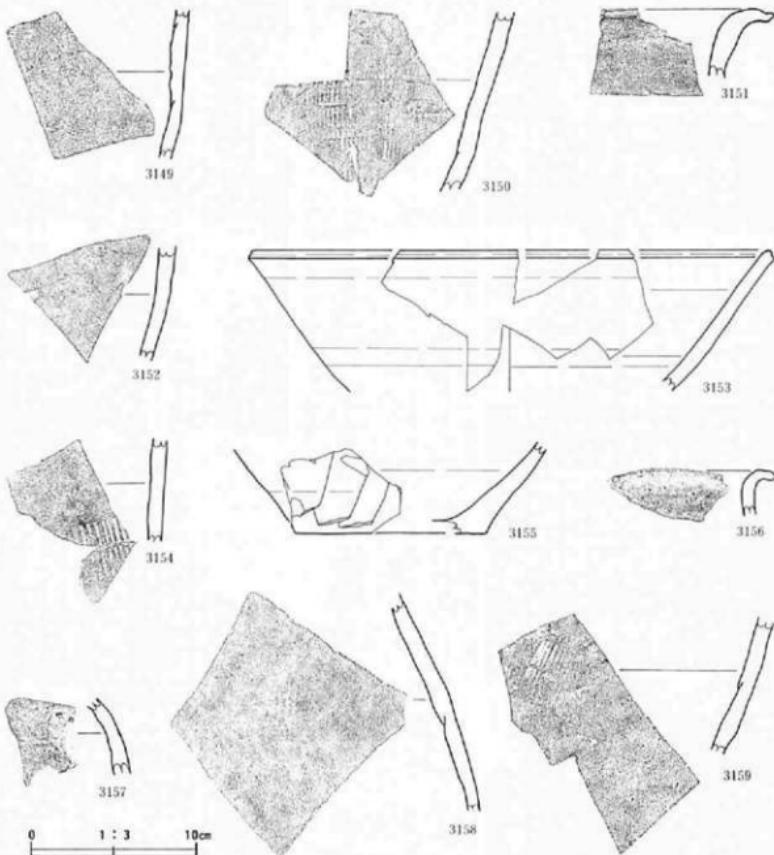
番号	種名	出土地点	場位	器種	部位	色調	備考
3128	常滑2型式	墓 H 0 i	5d	壺	頸部	黄土リーブ	突葉文、外側に輪
3129	常滑2型式	墓 H 0 i	5d	壺	口縁部	輪網	内面に輪
3130	常滑2型式	墓 H 0 i	5d	壺	頸～肩部	黄灰	押印なし
3131	常滑2型式	墓 H 0 i	5d	壺	体部	黄灰	押印
3132	常滑2型式	墓 H 0 i	5d	壺	肩部	にぶい赤褐	押印
3133	常滑2型式	墓 H 0 i	5d	壺	成部	にぶい赤褐	ケズリ、3155と同一個体
3134	常滑2型式	墓 H 1 f	5	壺	口縁部	輪赤邊	口唇部に四線、内面に輪
3135	常滑2型式	墓 H 1 g	5d	壺	体部	黄褐	外側に輪
3136	常滑2型式	墓 H 1 g	5d	壺	体部	にぶい赤褐	外側に環付着、3139と同一個体

第156図 常滑産陶器②



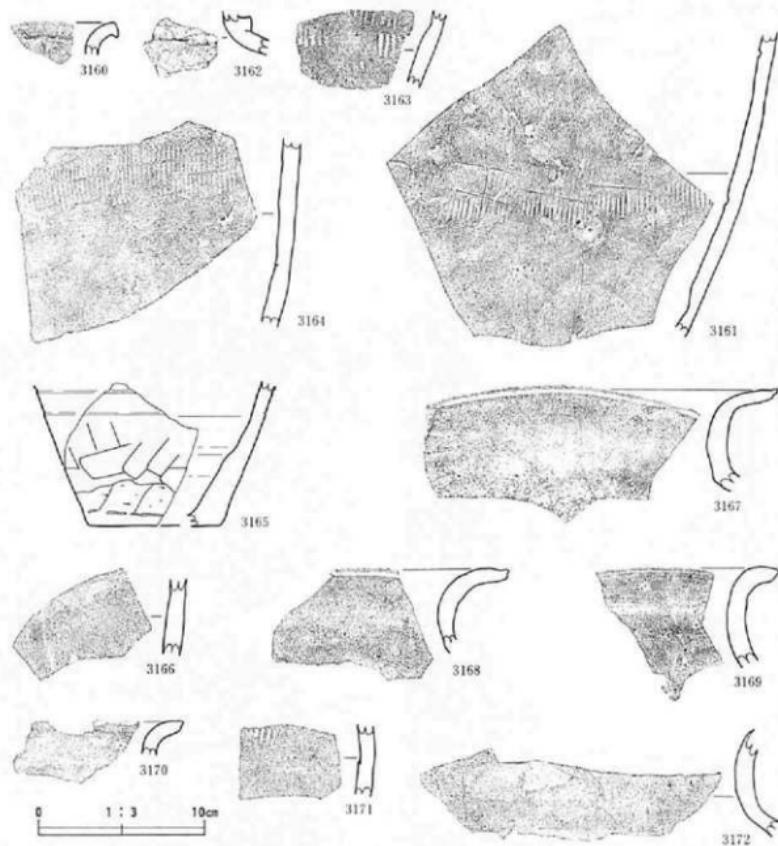
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3137	常滑2型式	ⅢH 1 g	5d	盞	体部	にぶい赤褐色	外面上に押印
3138	常滑2型式	ⅢH 1 g	5	盞	肩部	灰オリーブ	外面上に施
3139	常滑2型式	ⅢH 1 g	5	盞	体部	にぶい赤褐色	外面上に押印, 3136と同一個体
3140	常滑2型式	ⅢH 2 g	5b	盆	口～底部	灰	内面墨死
3141	常滑2型式	ⅢH 2 g	5	盞	口縁部	灰オリーブ	内外面上に施
3142	常滑2型式	ⅢH 2 g	5	盞	体部	褐灰	ケズリ, 3143と同一個体
3143	常滑2型式	ⅢH 2 g	5	盞	体～底部	にぶい赤褐色	ケズリ, 3142と同一個体
3144	常滑2型式	ⅢH 2 h	5b	盞	口縁部	灰オリーブ	外面上に施, 口肩部に凹線
3145	常滑2型式	ⅢH 2 h	5b	盞	体部	にぶい赤褐色	外面上に押印
3146	常滑2型式	ⅢH 2 h	5	盞	体部	灰	三筋窓, 外面上に複数, 3147と同一個体
3147	常滑2型式	ⅢH 2 h	5	盞	体部	褐褐	三筋窓, 外面上に複数, 3146と同一個体
3148	常滑2型式	ⅢH 3 f	5	盞	体部	灰	三筋窓, 外面上に施, 数条の沈線(竹管?)

第157図 常滑産陶器③



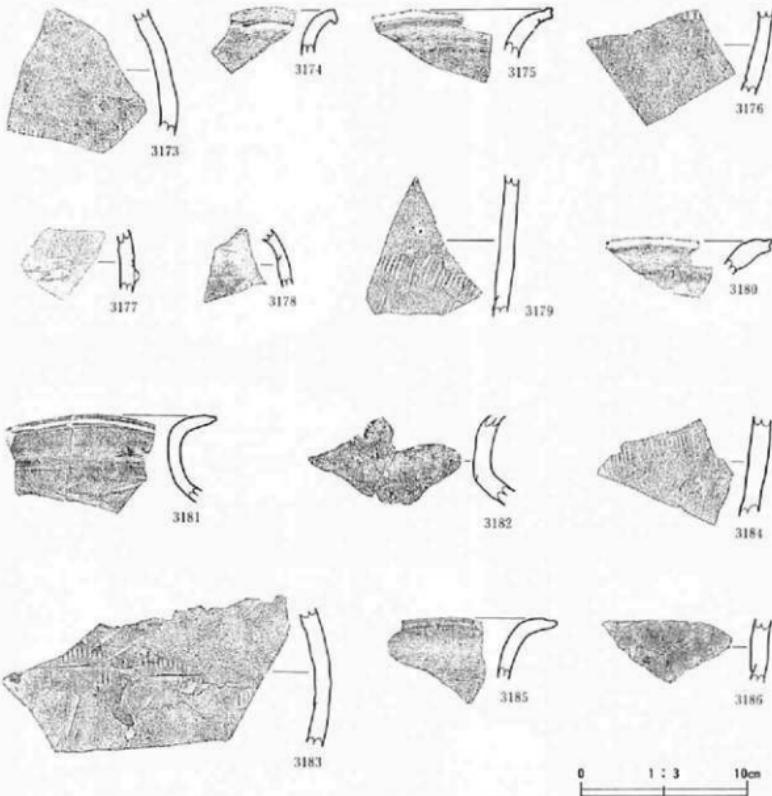
番号	種名	出土地点	層位	岩種	部位	色調	備考
3149	常滑2型式	ⅢH 3 h	5b	變	肩部	灰オリーブ	外面に釉、押印
3150	常滑2型式	ⅢH 3 h	5b	變	体部	灰赤	押印
3151	常滑2型式	ⅢH 6 i	5b	變	口縁部	褐色	口唇部に凹窓、内面に釉
3152	常滑2型式	ⅢH 6 i	5d	變	体部	に赤い赤褐色	ケズリ?
3153	常滑2型式	ⅢH 8 i + 9 i	5d	体	口～体部	黄灰	内側面に釉、内面摩耗
3154	常滑2型式	ⅢH 9 i	5d	變	体部	灰褐	押印
3155	常滑2型式	ⅣH 1 i	1q	變	底部	に赤い赤褐色	ケズリ、3133と同一個体
3156	常滑2型式	ⅣH 1 i	1r	變	口縁部	灰	内側面に釉
3157	常滑2型式	ⅣH 1 i	1r	變	体部	灰オリーブ	三筋帯、外面上模様、外面に釉
3158	常滑2型式	ⅣH 1 i	1r	變	体部	暗オリーブ	外面に釉、押印
3159	常滑2型式	ⅣH 1 i	1r	張	体部	灰青灰	押印

第158図 常滑産陶器④



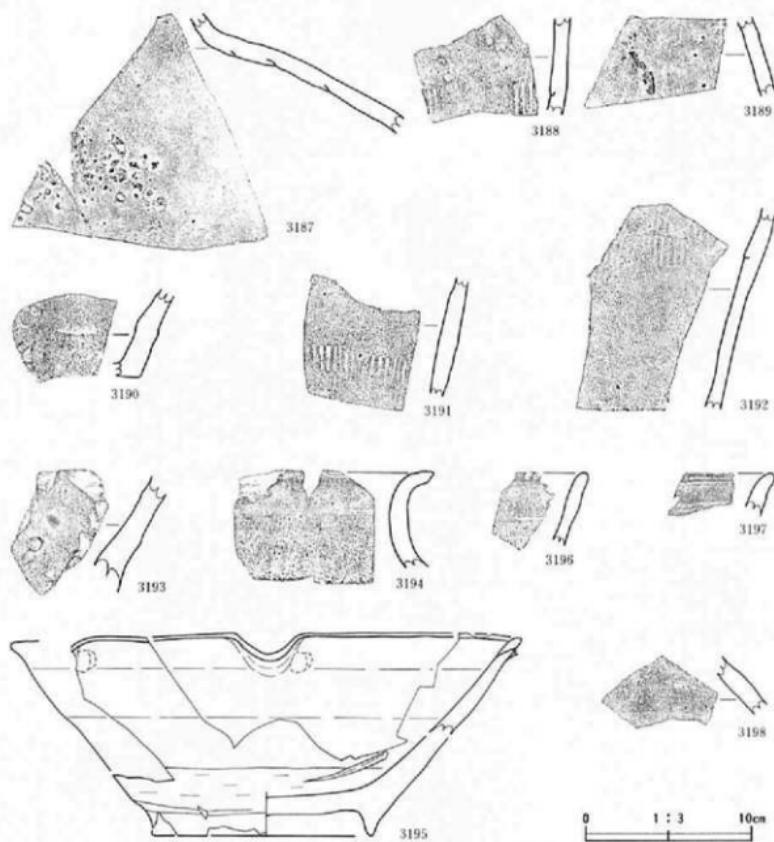
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3160	常滑2型式	NH1 i	5d?	壺	口縁部	褐灰	三筋帯?
3161	常滑2型式	NH1 i	5d	壺	体部	褐灰	押印
3162	常滑2型式	NH1 i	1e	壺	底部	オリーブ灰	突起文、外面に輪
3163	常滑2型式	NH1 j	1h	壺	体部	黄灰	押印
3164	常滑2型式	NH2 h	1i	壺	体部	に赤い赤堀	押印
3165	常滑2型式	NH2 i	1i	壺	体~底部	灰	三筋帯、外側に横線?、内面に輪
3166	常滑2型式	NH2 i	1q	壺	体部	灰	灰オリーブの輪垂下
3167	常滑2型式	NH2 i	1q	壺	口縁部	灰オリーブ	口縁部の内外面に凹線、3168と同一個体
3168	常滑2型式	NH2 i	1q	壺	口縁部	暗褐	口縁部の内外面に凹線、3167と同一個体
3169	常滑2型式	NH2 i	1q	壺	口縁部	褐灰	内外面に輪、3170と同一?
3170	常滑2型式	NH2 i	1q	壺	口縁部	褐灰	内外面に輪、3169と同一?
3171	常滑2型式	NH2 i	1q	壺	体部	褐灰	押印
3172	常滑2型式	NH2 i	1r	壺	加部	褐灰	内外面に輪

第159図 常滑産陶器⑤



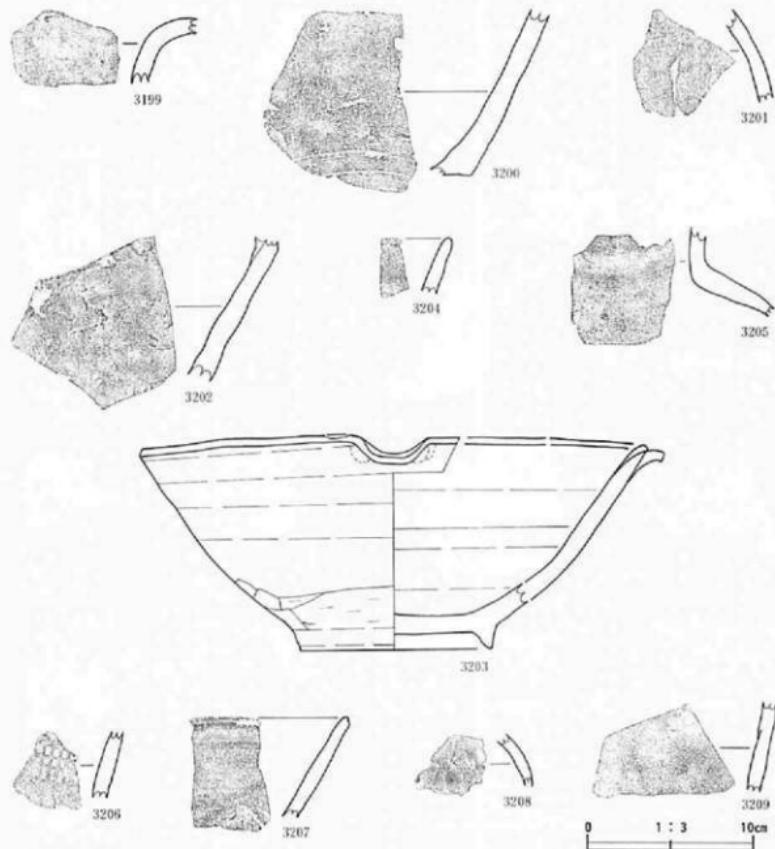
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3173	常滑2型式	NH2 i	1r	壺	肩部	黒褐色	外面上に輪
3174	常滑2型式	NH2 i	1i	壺	口縁部	褐灰	三筋壹?
3175	常滑2型式	NH2 i	1i	壺	口縁部	褐	口唇部に凹線
3176	常滑2型式	NH2 i	1i	壺	体部	褐灰	押印
3177	常滑2型式	トレンチ1	1i	壺	体部	灰オリーブ	耳付? 三筋壹, 褐灰, 3178と同一?
3178	常滑2型式	トレンチ1	1i	壺	体部	灰オリーブ	三筋壹, 褐灰, 3177と同一?
3179	常滑2型式	NH2 j	5d	壺	体部	灰褐	押印
3180	常滑2型式	NH3 h	1i	壺	口縁部	にぶい褐	口唇部内外に凹線
3181	常滑2型式	NH3 i	1r	壺	口縁部	灰オリーブ	口唇部内外に凹線
3182	常滑2型式	NH3 i	1i	壺	肩部	灰オリーブ	内外面上に輪
3183	常滑2型式	NH3 i	1i	壺	体部	にぶい褐	押印
3184	常滑2型式	NH3 i	1i	壺	体部	にぶい赤褐	押印
3185	常滑2型式	NH3 j	1r	壺	口縁部	褐灰	内面上に輪
3186	常滑2型式	NH4 h	1r	壺	体部	暗オリーブ	外面上に輪

第160図 常滑産陶器⑥



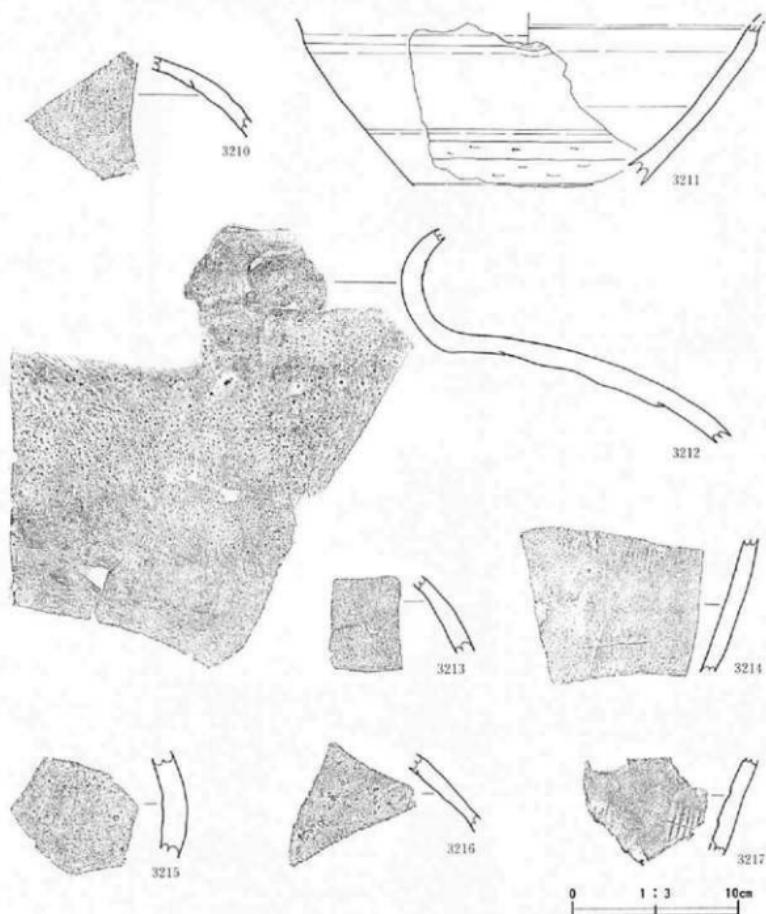
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3187	常滑2型式	NH 4 j	1q	壺	体部	暗オリーブ	外面に釉、押印、3189と同一個体
3188	常滑2型式	NH 4 j	1q	壺	体部	灰褐	押印
3189	常滑2型式	NH 4 j	1q	壺	体部	暗オリーブ	外面に釉、押印、3187と同一個体
3190	常滑2型式	調査区北側	複数	壺	体～底部	褐灰	内外無釉
3191	常滑2型式	調査区北側	複数	壺	体部	褐灰	押印
3192	常滑2型式	電柱西側	不明	壺	体部	に赤い赤褐色	押印
3193	常滑3型式	195 E 6両手	壺	体部	灰	内面に釉	
3194	常滑3型式	■日 0 i	5b	壺	口縁部	褐灰	内外面に釉
3195	常滑3型式	■日 1 g - 7 i	5d	盆	口縁部	褐灰	内面の一部に釉、内面摩耗
3196	常滑3型式	■日 2 g	5	盆	口縁部	に赤い赤褐色	内面に釉
3197	常滑3型式	■日 2 g	5	盆	口縁部	褐灰	内面に釉
3198	常滑3型式	■日 6 i	5d	盆	体部	灰	内面に釉

第161図 常滑産陶器⑦



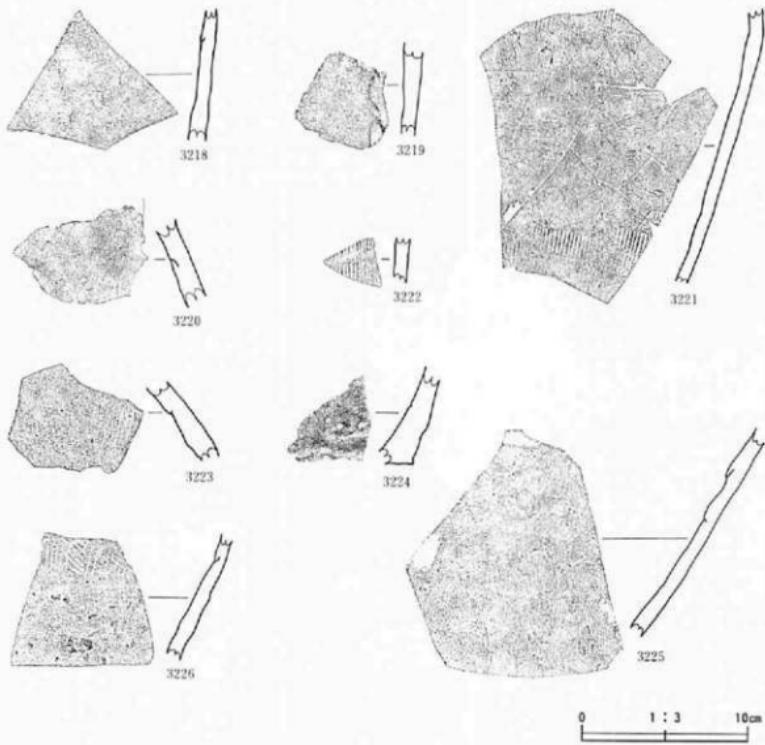
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3199	常滑3型式	Ⅲ H.7 i	5d	壺	頸部	灰褐色	
3200	常滑3型式	Ⅲ H.7 i	5d	壺?	体部	灰褐色	
3201	常滑3型式	Ⅲ H.1 i	5d	壺	体部	褐色	織紋
3202	常滑3型式	Ⅲ H.1 i	1d	壺	体部	灰褐色	にほい場
3203	常滑3型式	Ⅲ H.1 i + 1 j ほか	5d	钵	口～底部	灰白	内面に釉、内面摩耗
3204	常滑3型式	トレンチ1	1i	钵	口縁部	灰	内面に釉、内面摩耗
3205	常滑3型式	Ⅲ H.3 j	1q	壺	頸部	黄褐色	
3206	常滑2～3型式	19P.602		壺	体部	灰褐色	にほい場 押印
3207	常滑2～3型式	19S.D.9 Ⅲ H.7 j		鉢	口縁部	灰	内面わずかに摩耗
3208	常滑2～3型式	19S.D.9 Ⅲ 19 u	検出面	壺	体部	暗オリーブ	外曲面釉下
3209	常滑2～3型式	19SE.3両手	1～7	壺	体部	灰褐色	

第162図 常滑産陶器⑧



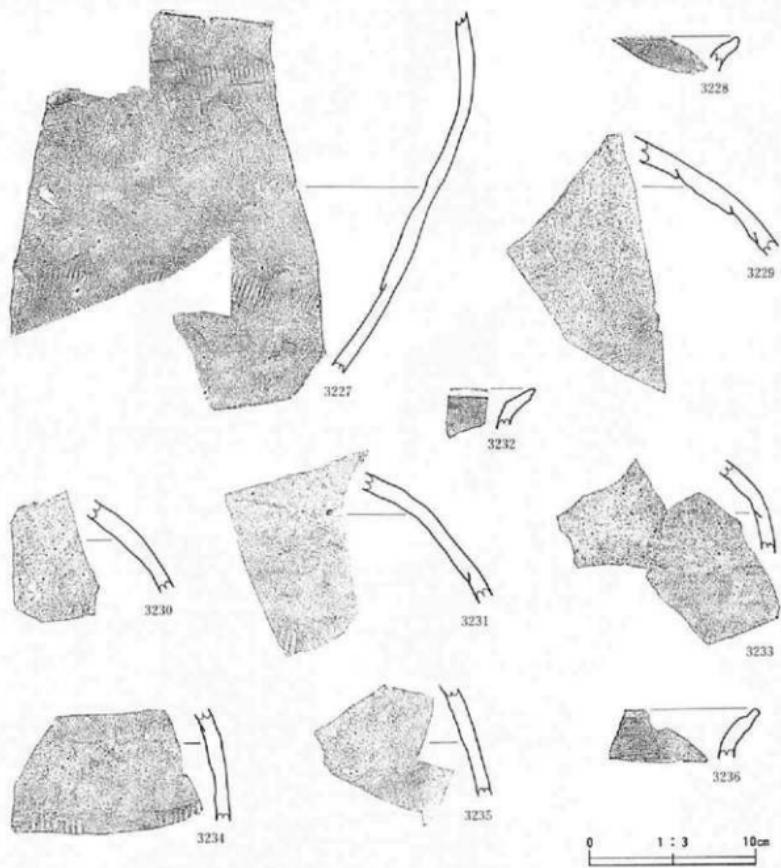
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3210	雀首2~3型式	19S E 3 南半	埋土	壺	肩部	灰褐色	外面に釉
3211	雀首2~3型式	19S E 3 北半	1	体	體	褐灰	内面擦耗
3212	雀首2~3型式	19S E 3 北半42か	1	壺	口~肩部	黄褐色	外面に釉、押印、局部に細線
3213	雀首2~3型式	19S E 3 北半	1	壺	肩部	灰褐色	外面に釉
3214	雀首2~3型式	19S E 3 北半	1	壺	体部	灰褐色	押印
3215	雀首2~3型式	19S E 6	確認じり層	壺	体部	灰オーラブ	外面に釉
3216	雀首2~3型式	19S E 6	確認じり層	壺	肩部?	灰オーラブ	外面に釉
3217	雀首2~3型式	19S E 6	確認じり層	壺	体部	灰	押印

第163図 常滑産陶器⑨



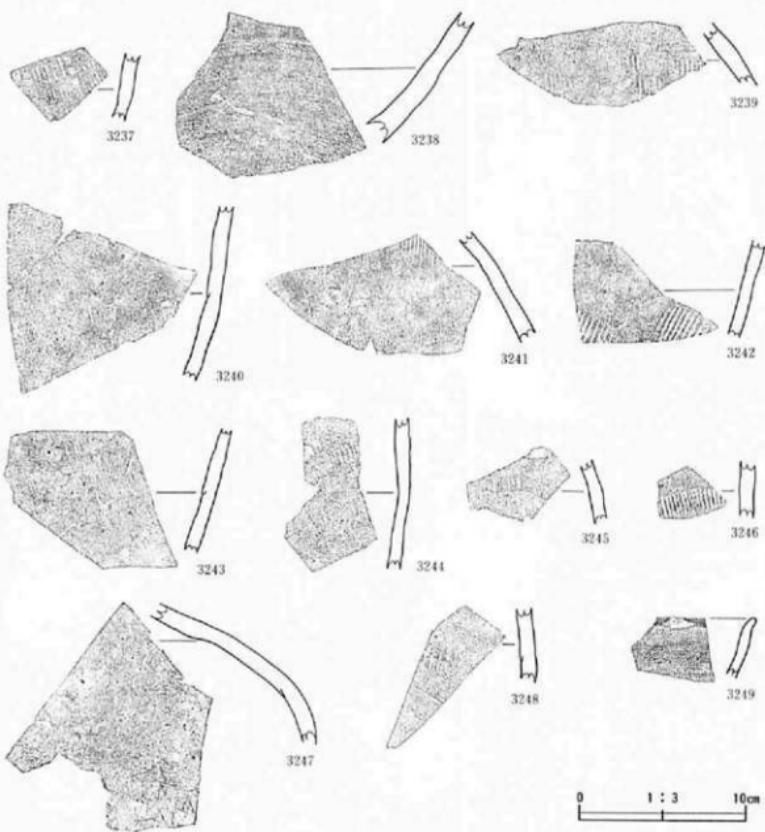
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3218	常滑2~3号灰	I9 S E 6	埋設しり崩	壺	体部	褐灰	
3219	常滑2~3号灰	I9 S E 6 南半		壺	体部	灰オリーブ	破片表面摩耗?
3220	常滑2~3号灰	I9 S E 7	下半	壺	体部	灰オリーブ	外側に釉
3221	常滑2~3号灰	II H 0 g	5	壺	体部	灰黒	押印
3222	常滑2~3号灰	II H 0 g	5	壺	体部	褐灰	押印
3223	常滑2~3号灰	II H 8 a	N	壺	肩部	灰白	外側に釉
3224	常滑2~3号灰	II H 8 i	不明	壺	底部	暗灰黒	
3225	常滑2~3号灰	III H 0 i	5 b	壺	体部	灰黒	
3226	常滑2~3号灰	III H 0 i	7 d	壺	体部	灰い周	押印

第164図 常滑産陶器⑩



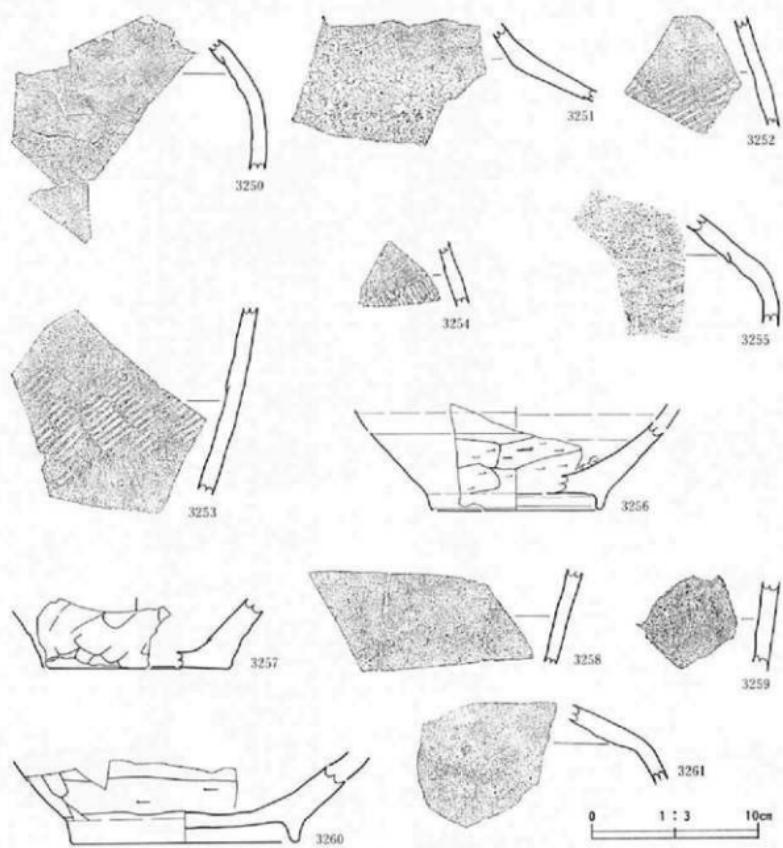
番号	地名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3227	吉井2~3号戸	Ⅲ且0.1	5d	甕	体部	灰黄褐	押印、外面上輪
3228	吉井2~3号戸	ⅢH0.1	5d	甕	口縁部	灰オリーブ	外面上輪、内面に凹窪
3229	吉井2~3号戸	ⅢH0.1	5d	甕	肩部	灰オリーブ	外面上輪、3230と同一個体
3230	吉井2~3号戸	ⅢH0.1	5d	甕	肩部	灰オリーブ	外面上輪、3229と同一個体
3231	吉井2~3号戸	ⅢH0.1	5d	甕	肩部	褐色	外面上輪
3232	吉井2~3号戸	ⅢH0.1	5d	甕	口縁部	灰褐色	内面上輪、外面上凹窪
3233	吉井2~3号戸	ⅢH0.1	5d	甕	肩部	灰オリーブ	外面上輪
3234	吉井2~3号戸	ⅢH0.1	5d	甕	体部	褐色	外面上輪、押印
3235	吉井2~3号戸	Ⅲ且1.1	5	甕	体部	灰褐色	押印
3236	吉井2~3号戸	Ⅲ且1.1	5b	甕	口縁部	灰黄褐	口沿部内面に凹窪

第165図 常滑産陶器①



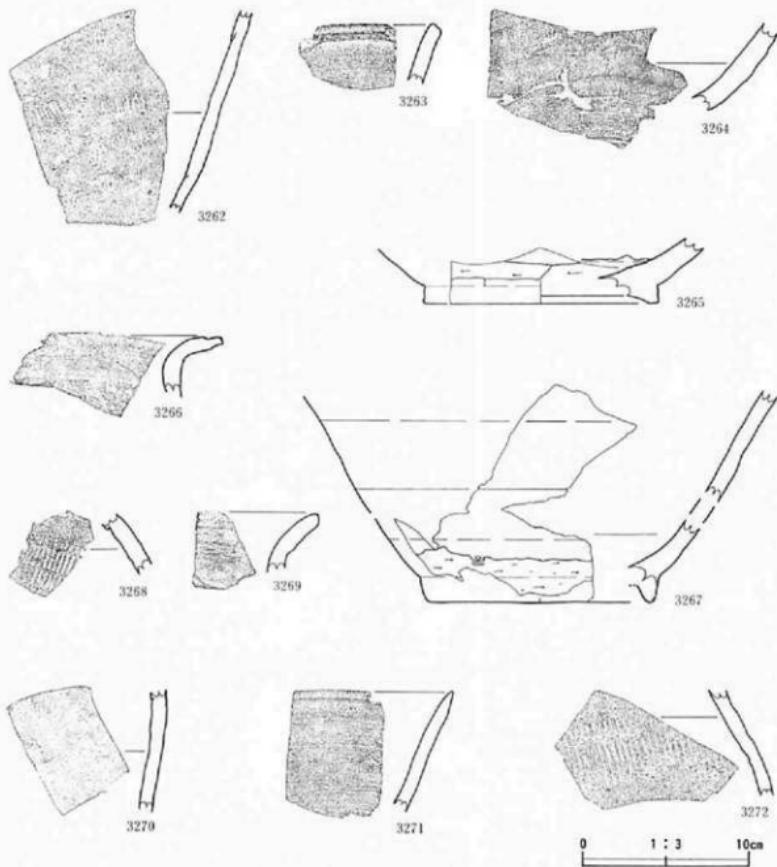
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3237	常滑2~3型丸	ⅢH 1 g	5b	壺	体部	灰褐	外面に押印
3238	常滑2~3型丸	ⅢH 1 g	5d	壺	体部	黄灰	内面墨色
3239	常滑2~3型丸	ⅢH 1 g	5d	壺	肩部	黄灰	外面上に粘、押印
3240	常滑2~3型丸	ⅢH 1 g	5d	壺	体部	灰赤	押印
3241	常滑2~3型丸	ⅢH 1 g	5d	壺	肩部?	灰褐	押印
3242	常滑2~3型丸	ⅢH 1 g	5d	壺	体部	灰褐	押印
3243	常滑2~3型丸	ⅢH 1 g	5d	壺	体部	灰褐	押印
3244	常滑2~3型丸	ⅢH 1 g	5d	壺	体部	灰褐	押印
3245	常滑2~3型丸	ⅢH 1 g	5	壺	体部	灰褐	押印
3246	常滑2~3型丸	ⅢH 1 g	5	壺	体部	灰褐	押印
3247	常滑2~3型丸	ⅢH 2 g	5b	壺	肩部	灰オリーブ	外面上に釉
3248	常滑2~3型丸	ⅢH 2 g	5b	壺	体部	灰褐	押印
3249	常滑2~3型丸	ⅢH 2 g	5	壺	口縁部	灰	内面上に釉

第166図 常滑産陶器⑫



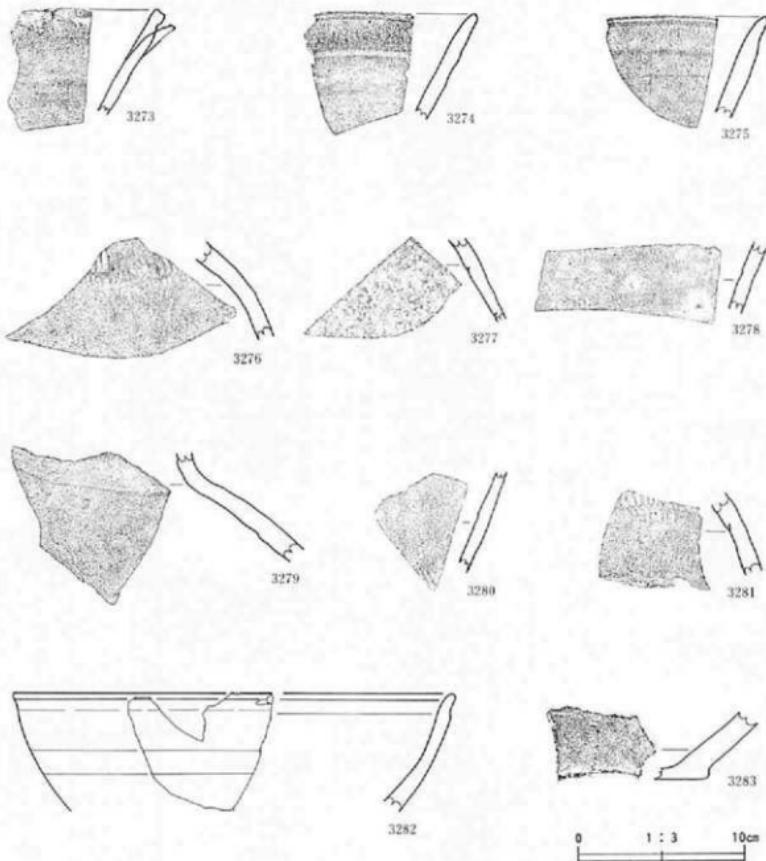
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3250	常滑2~3型丸	ⅢH 2 g	5	瓶	肩部	灰褐色	外面に釉、粘土のめくれ
3251	常滑2~3型丸	ⅢH 2 h	5b	甕	肩部	灰オリーブ	外面に釉
3252	常滑2~3型丸	ⅢH 2 h	5	甕	肩部?	にぶい褐色	押印
3253	常滑2~3型丸	ⅢH 3 f	5	甕	肩部?	にぶい褐色	押印
3254	常滑2~3型丸	ⅢH 3 g	5	甕	肩部?	灰褐色	押印
3255	常滑2~3型丸	ⅢH 3 h	5b	甕	肩部	灰オリーブ	外面に釉
3256	常滑2~3型丸	ⅢH 3 h	5b	钵	体~底部	黄灰	内面に釉
3257	常滑2~3型丸	ⅢH 3 h	5b	甕	体~底部	にぶい褐色	内面に釉
3258	常滑2~3型丸	ⅢH 3 h	5b	甕	体部	灰赤	
3259	常滑2~3型丸	ⅢH 3 h	更	体部	灰オリーブ	外面に釉	
3260	常滑2~3型丸	ⅢH 3 h・5 i・7 i	5d	钵	底部	灰	内面摩擦
3261	常滑2~3型丸	ⅢH 4 g	5	甕	肩部	褐灰	外面に釉

第167図 常滑産陶器⑬



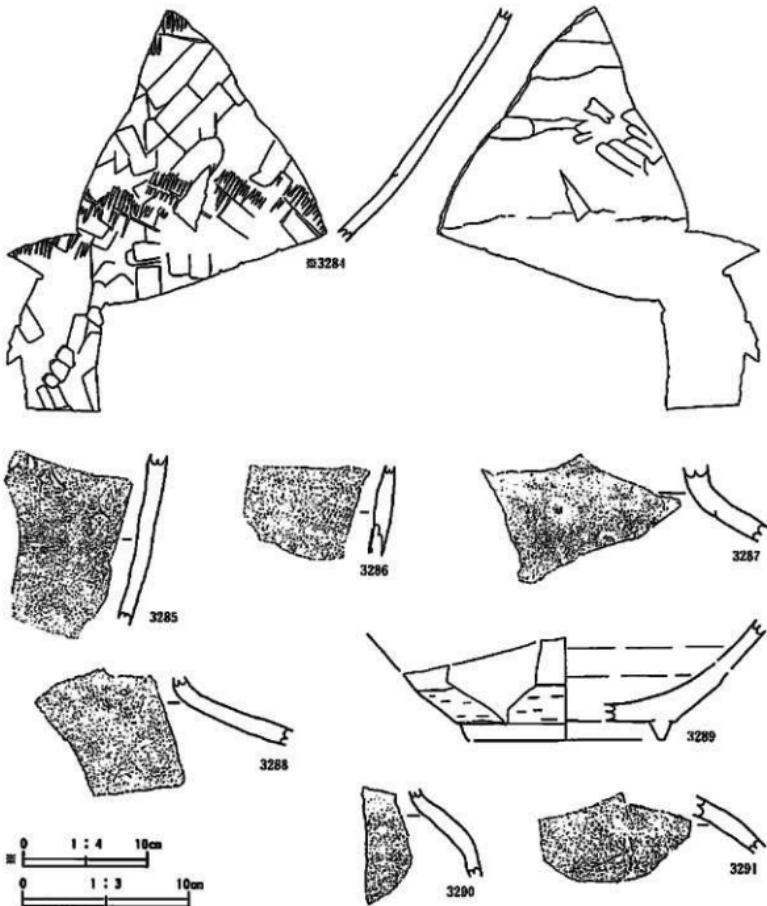
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3262	常滑2-1型丸	■H.4 h	5b	甕	体部	灰赤	押印
3263	常滑2-1型丸	■H.4 j	5c	鉢	口縁部	黄灰	
3264	常滑2-1型丸	■H.5 i	5b	鉢	体部	灰褐	内面黒滅。外面被熱による変色？
3265	常滑2-1型丸	■H.6 h	III	鉢	底部	黄灰	内面に脂、内面摩耗
3266	常滑2-1型丸	■H.6 i	5b	甕	口縁部	灰オリーブ	内外壁に脂、口唇部内面に凹線
3267	常滑2-1型丸	■H.6 i - 8 i - 9 i	5d	鉢	体～底部	黄灰	内面摩耗
3268	常滑2-1型丸	■H.7 i	5d	甕	肩部？	灰黄褐	押印
3269	常滑2-1型丸	■H.8 i	5d	甕	口縁部	灰	内外面に脂
3270	常滑2-1型丸	■H.8 i	5d	甕	体部	黄灰	押印
3271	常滑2-1型丸	■H.9 i	5b	鉢	口～体部	黄灰	内面摩耗
3272	常滑2-1型丸	■H.9 i	5d	甕	肩部	灰褐	押印

第168図 常滑産陶器⑭



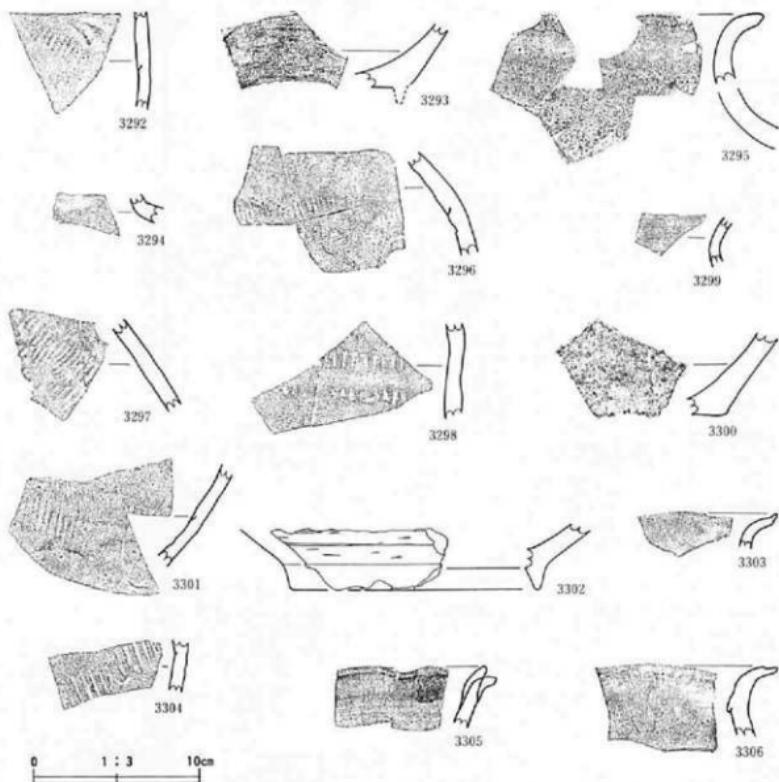
番号	種名	出土地点	部位	器種	部位	色調	備考
3273	普通2~3型丸	Ⅲ H 9 i	5d	鉢	口~体部	褐灰	片口
3274	普通2~3型丸	Ⅲ H 9 i	5d	鉢	口~体部	灰白	内外面に施
3275	普通2~3型丸	Ⅲ 10 c	5b ?	鉢	口~体部	黄灰	内面に施
3276	普通2~3型丸	NH 1 i	1q	壺	肩部	黄灰	外面上部、押印
3277	普通2~3型丸	NH 1 i	1r	壺	肩部?	灰オリーブ	外面上部
3278	普通2~3型丸	NH 1 i	1r	壺	体部	暗赤褐	外面上部垂下
3279	普通2~3型丸	NH 1 i	1r	壺	肩部	黄灰	外面上部
3280	普通2~3型丸	NH 1 i	1r	壺	体部	灰赤	押印
3281	普通2~3型丸	NH 1 i	1i	壺	体部	灰黄	押印
3282	普通2~3型丸	NH 1 j	5d	鉢	口~体部	灰青	内外面に施
3283	普通2~3型丸	NH 1 j	1h	壺	底部	褐灰	内外面に施

第169図 常滑産陶器⑮



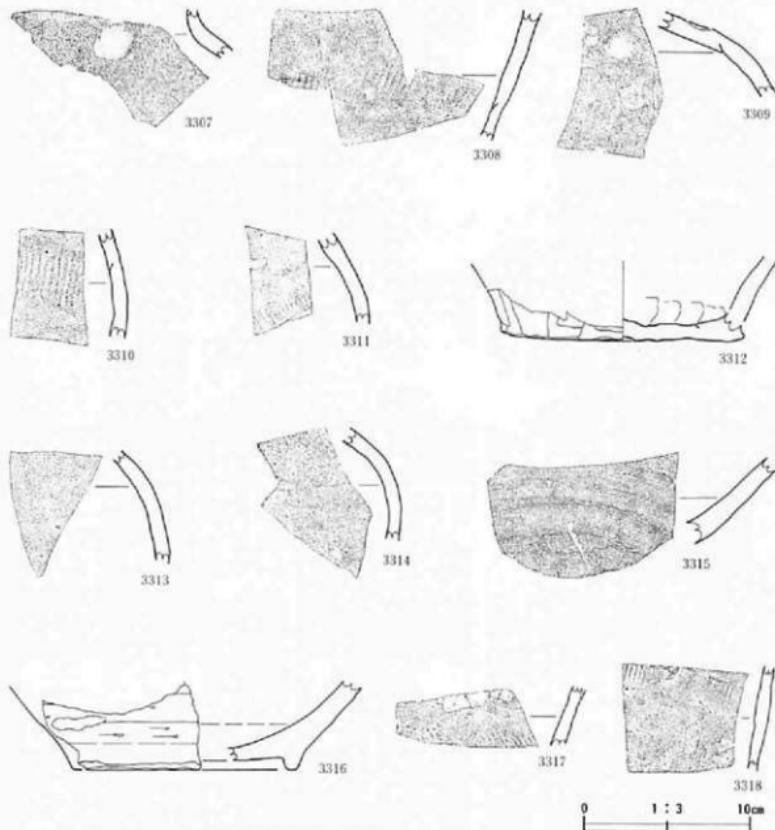
番号	種名	出土地點	層位	特徴	部位	色調	備考
3284	常滑2~3型A	W日1.1~2.1号小	1r	變	体部	にぶい赤褐	押印、内面にも有
3285	常滑2~3型A	W日2.1	1q	變	体部	暗赤灰	
3286	常滑2~3型A	W日2.1	1q	變	体部	灰褐	押印
3287	常滑2~3型A	W日2.1	1q	變	肩部	灰オリーブ	外側に輪
3288	常滑2~3型A	W日2.1	1q	變	肩部	灰オリーブ	外側に輪
3289	常滑2~3型A	W日2.1	1r	鉢	体~底部	灰	内面摩耗
3290	常滑2~3型A	W日2.1	1r	素	肩部	灰オリーブ	外側に輪
3291	常滑2~3型A	W日2.1	1r	變	肩部	灰オリーブ	外側に輪、押印

第170図 常滑産陶器⑤



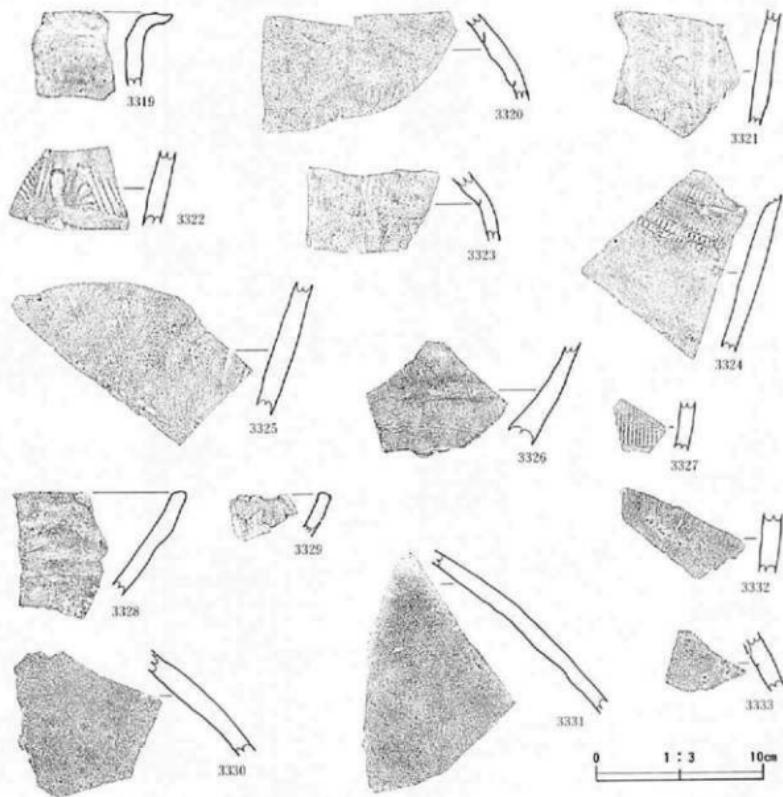
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3292	雪舟2~3型式	NH 2 i	1r	壺	体部	黄灰	押印
3293	雪舟2~3型式	NH 2 i	1i	体	底部	黄灰	高台欠損、被熱による変色
3294	雪舟2~3型式	NH 2 i	1i	壺	肩部	灰オリーブ	外側に釉
3295	雪舟2~3型式	NH 2 i	1i	壺	口縁部	灰オリーブ	外側に釉
3296	雪舟2~3型式	NH 2 i	1i	壺	肩部	暗オリーブ	押印
3297	雪舟2~3型式	NH 2 i	1i	壺	肩部?	黄灰	押印
3298	雪舟2~3型式	NH 2 i	1i	壺	体部	灰赤	押印
3299	雪舟2~3型式	トレンチ1	1i	壺	頸部	黄灰	内外側に釉
3300	雪舟2~3型式	トレンチ1	1i	壺?	体~底部	褐灰	内面に釉
3301	雪舟2~3型式	トレンチ1	1i	壺	体部	褐灰	押印
3302	雪舟2~3型式	NH 2 j	1h	鉢	底部	灰白	内面磨耗
3303	雪舟2~3型式	NH 3 h	1i	壺	口縁部	灰黄褐	内外側に釉
3304	雪舟2~3型式	NH 3 h	1i	壺	体部	褐灰	押印
3305	雪舟2~3型式	NH 3 i	1q	鉢	口縁部	灰	片口、内外側に釉、指痕压痕
3306	雪舟2~3型式	NH 3 i	1q	壺	口縁部	オリーブ黄	内外側に釉

第171図 常滑産陶器⑯



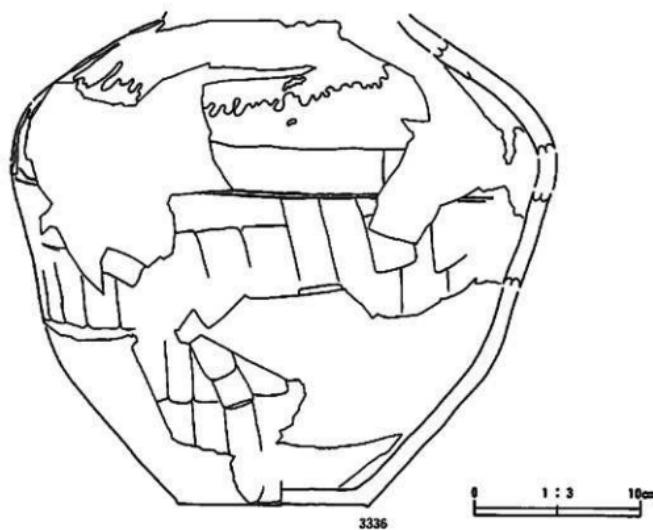
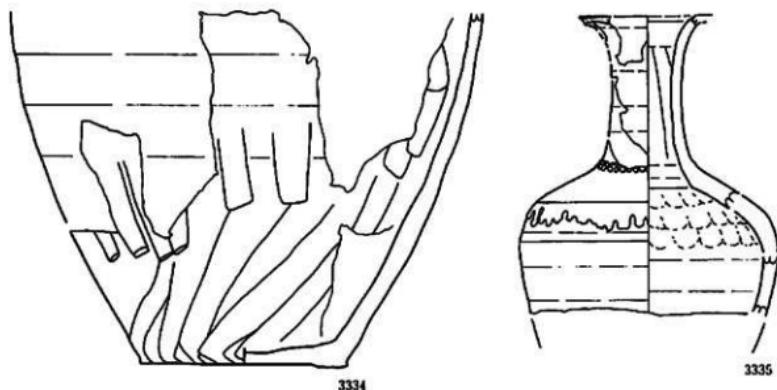
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3307	壺2-3型A	NH3-i	1q	壺	肩部	灰オーリーブ	外面に輪
3308	壺2-3型A	NH3-i	1q	壺	体部	褐色	押印
3309	壺2-3型A	NH3-i	1q	壺	肩部	黒褐	押印
3310	壺2-3型A	NH3-i	1q	壺	体部	灰オーリーブ	押印
3311	壺2-3型A	NH3-i	1q	壺	肩部?	灰黄褐	押印
3312	壺2-3型A	NH3-i	1q	壺	底部	に赤い黄褐	内面底部に輪
3313	壺2-3型A	NH3-i	1q	壺	肩部	オーリーブ黒	外面に輪
3314	壺2-3型A	NH3-i	1r	壺	肩部	灰黒	外面に輪
3315	壺2-3型A	NH3-i	1r	壺	体部	灰	内面摩耗
3316	壺2-3型A	NH3-i	1r	鉢	底部	灰	内面摩耗、外面底部に輪
3317	壺2-3型A	NH3-i	1r	壺	体部	に赤い赤褐	押印
3318	壺2-3型A	NH3-i	1r	壺	体部	灰黄褐	押印

第172図 常滑産陶器⑧



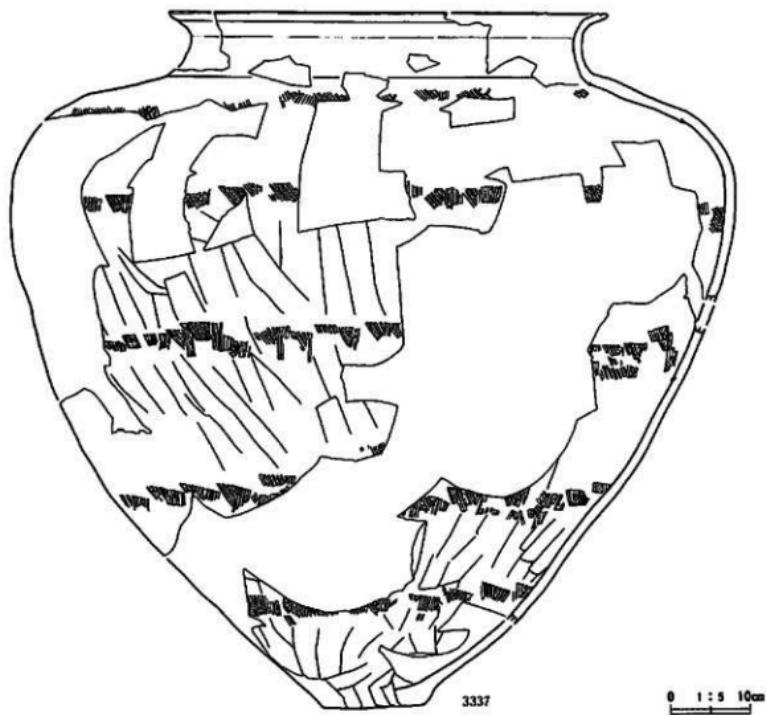
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3319	常滑2~3型式	Ⅳ H 3 j	1q	金	口縁部	灰オーリーフ	内外面に輪、口唇部内面は凹線
3320	常滑2~3型式	Ⅳ H 3 j	1q	黒	肩部	オーリーブ	押印
3321	常滑2~3型式	Ⅳ H 3 j	1i	黒	体部	黒褐	外表面色の釉低下
3322	常滑2~3型式	Ⅳ H 4 i	1i	黒	体部	に赤い赤褐色	押印
3323	常滑2~3型式	Ⅳ H 4 i	1i	黒	肩部	褐灰	外表面に輪、押印
3324	常滑2~3型式	Ⅳ H 4 j	1q	黒	体部	灰褐	外表面に輪、押印
3325	常滑2~3型式	Ⅳ 1 1 a	1g	黒	体部	灰褐	外表面に横筋状のケズリ
3326	常滑2~3型式	北半	II	休	体部	黄灰	内面に輪、内面摩耗
3327	常滑2~3型式	不明	表?	休	灰面	押印	
3328	常滑7型式	19 S E 6 南半	休	口~体部	灰黄褐	内面わずかに摩耗	
3329	常滑7型式	19 S E 6 南半	休	口縁部	灰		
3330	常滑 (BC)	19 P 101	埋土	黒	肩部?	褐灰	3333と同一個体
3331	常滑 (BC)	19 S D 6 II G 9 j	埋土上部	黒	肩部?	赤灰	
3332	常滑 (BC)	19 S D 6 II G 9 j	埋土上部	黒	体部	に赤い赤褐色	
3333	常滑 (BC)	19 S D 6 III G 4 j	表	肩部?	褐灰	3330と同一個体	

第173図 常滑產陶器⑩



番号	物名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3334	常滑3型式	195D2?		縦	体~底部	黒	外側ケズリ
3335	常滑2型式?	195D9・ⅢH8j		長縦	口~体部	灰オリーブ・黒	表面に円形の剥突列
3336	常滑2型式	195D9・ⅣH3j		縦	口~底部	青オリーブ・黒	体部上位に複数? 1条

第174図 常滑産陶器②

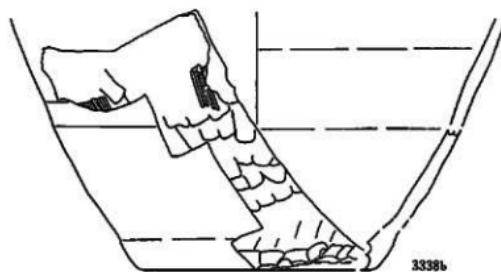


3337

0 1:5 10cm

番号	船名	出土地点	層位	形種	部位	色調	備考
3337	常滑3型式	195D 9はか		壺	口・底部	淡黄・黒褐	押印、口唇部内面に凹溝、接合破片約130点

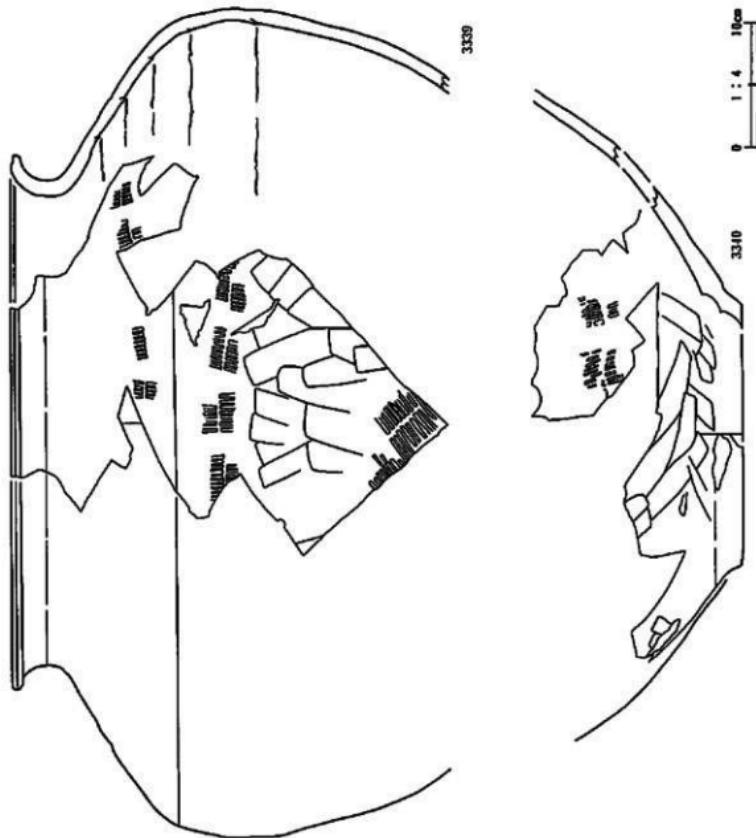
第175図 常滑産陶器②



0 1 : 5 10cm

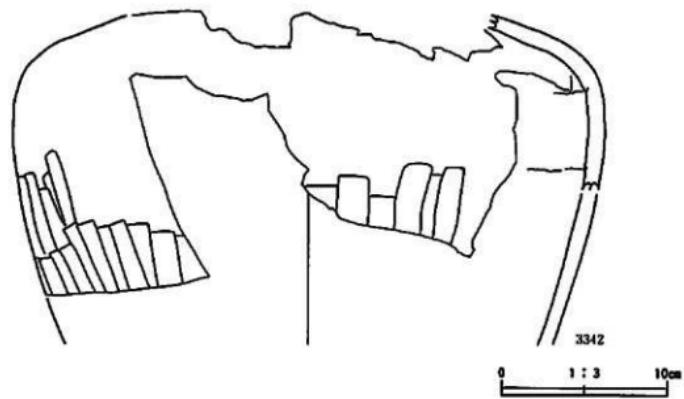
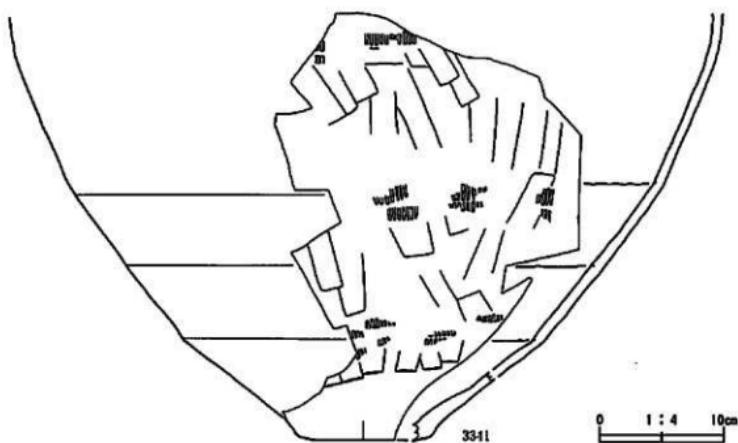
番号	種名	出土地点	所位	層位	部位	色調	圖考
3338	常滑3形式	195 E 3	1~7層・3号	底	底面・底部	青+白~7-青白	a作・b作あり。模耳、押印、接合破片約30点

第176図 常滑窑陶器②



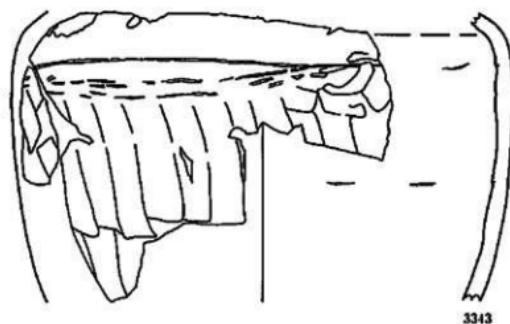
番号	種名	出土地点	層位	形状	部位	色調	備考
3339	常滑	19S E 3 南半ほか	1~7	丸	口~体部	灰青・暗赤褐	押印、口唇部内面に凹模
3340	名古2~3型式	19S E 3 南半ほか	1~7	丸	体~底部	灰青・淡	押印、内面に輪

第177図 常滑産陶器②

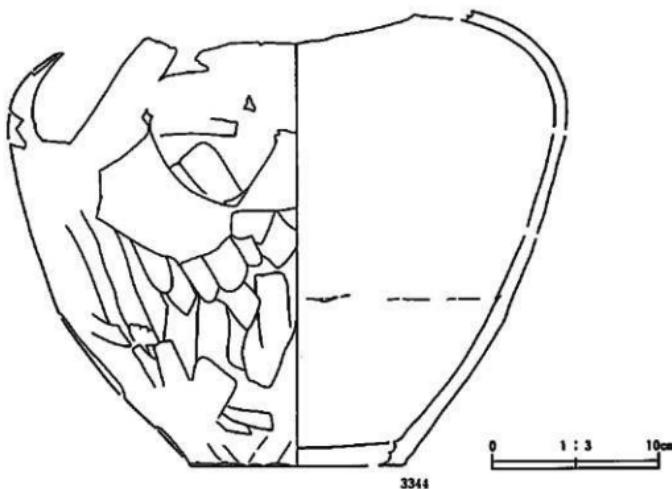


番号	器名	出土地点	層位	特徴	部位	色調	圖考
3341	常滑2~3型式	西日0.112号	5d	光	体~底部	黄灰	押印、ケズリ
3342	常滑3型式	西日2 g・3 g・3 h	5	光	肩~体部	灰4リーブ・断版	外墨ケズリ

第178図 常滑産陶器②



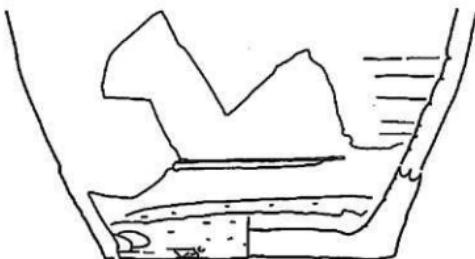
3343



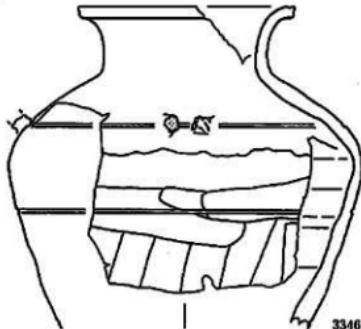
3344

番号	器名	出土地点	層位	基種	部位	色調	備考
3343	常滑2-3型式	三日2号・3号はか	5b	瓶	肩～体部	黒釉・灰オーラー	外腹に細縞?、ケズリ
3344	常滑2型式	三日3号・3号はか	5	甕	肩～底部	黒釉・灰オーラー	外腹に微筋状のケズリ、底部内面に釉

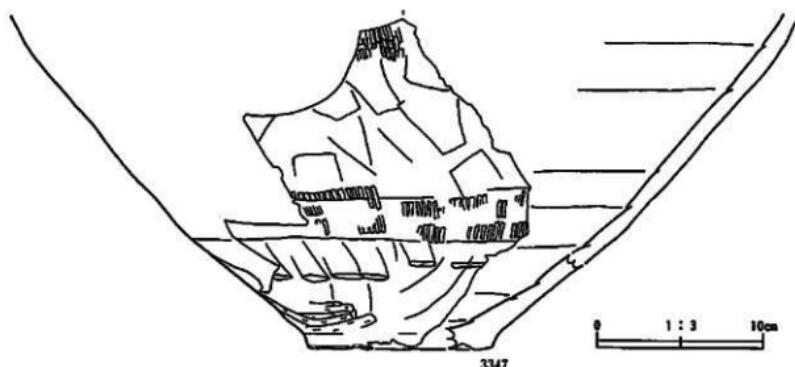
第179図 常滑産陶器②



3345



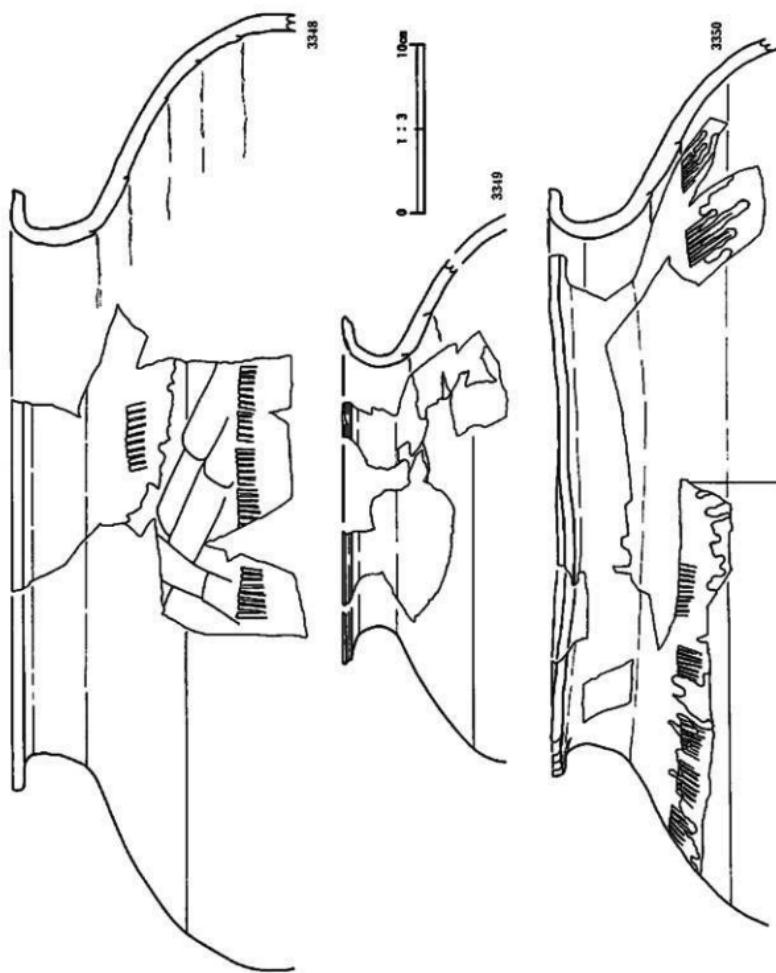
3346



3347

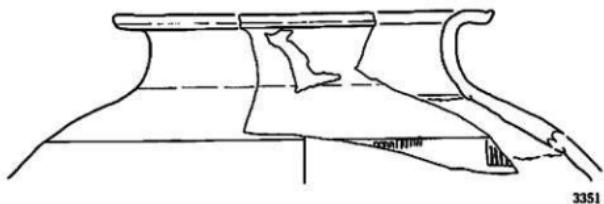
番号	地名	出土地点	層位	形状	部位	色調	備考
3345	常滑2~3世紀	昭和71・0H0gほか	5d	壺	底~底部	褐色	外腹ケズリ、底部内面に跡
3346	常滑2~3世紀	昭和71・0H2i	5d	壺	口~体部	オーラブ貝・陶灰	模様が行く三折線(平継)、口唇部内面に凹線
3347	常滑2~3世紀	昭和2i・3hほか	1q	壺	底~底部	黄灰	押印、ケズリ

第180図 常滑産陶器②

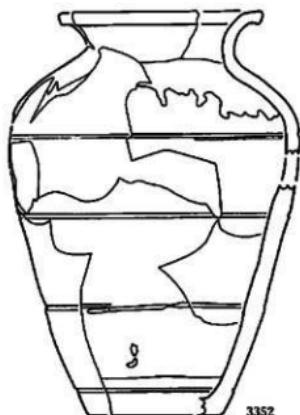


番号	種名	出土地点	部位	器種	部位	色調	説考
3348	常滑2型式	W H 2 i・3 i (はか)	1 r	先	口～肩部	墨タリーブ・灰黒	押印、口唇部内面に凹線
3349	常滑2型式	W H 2 i・3 i・3 j	1 i	先	体部	灰オリーブ	口唇部外向に凹線
3350	常滑2型式	W H 2 i・3 i	1 i	先	口～肩部	白～灰・白～灰	外面に胎、押印、口唇部内面に凹線

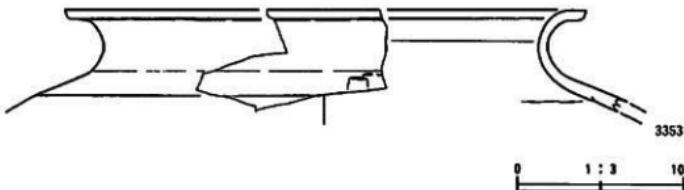
第181図 常滑産陶器②



3351



3352

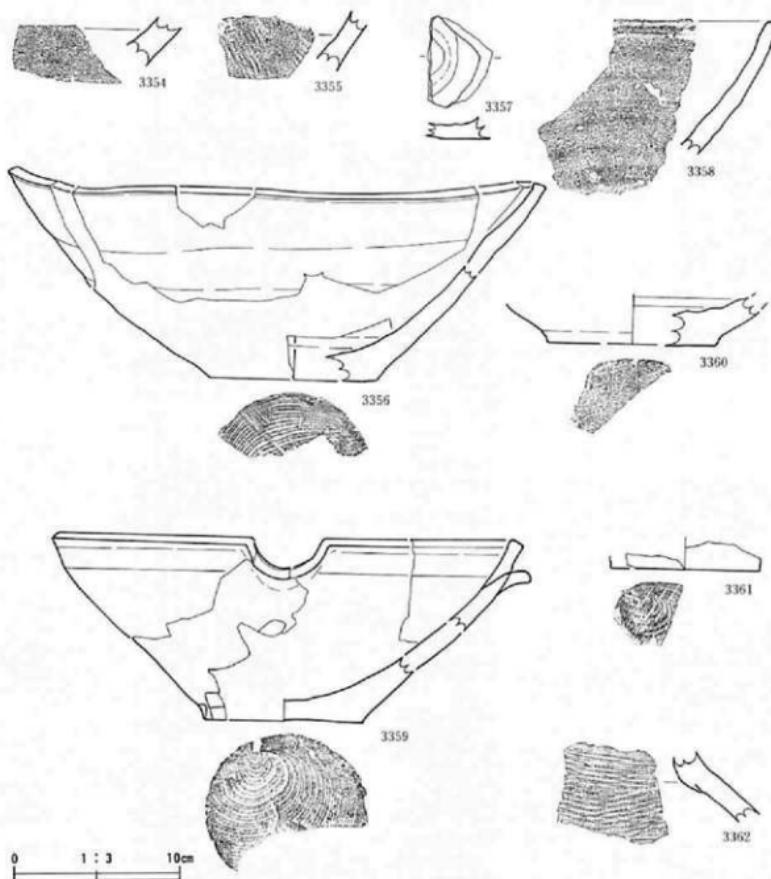


3353

0 1:3 10cm

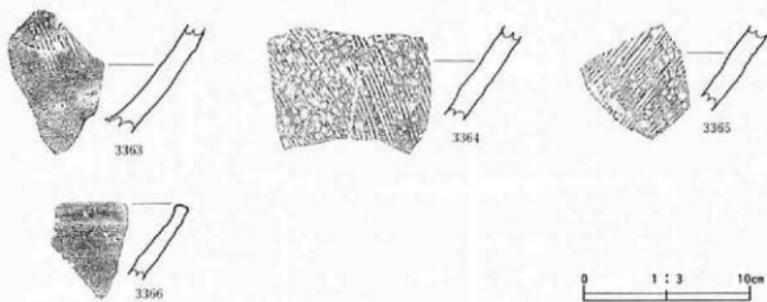
番号	様名	出土地点	層位	基種	部位	色調	備考
3351	常滑2-3型A	NH2-i・3-i	1e	灰	口~肩部	白-灰-白-灰	外面に軽い押印、口唇部内面に凹線
3352	常滑2-3型A	NH2-i・3-i上か	1r	灰	口~底部	灰オリーブ・灰	三筋縞(单線)
3353	常滑2-3型A	NH2-i・3-j	1r	灰	口輪部	暗オリーブ	内外面に粘

第182図 常滑産陶器②



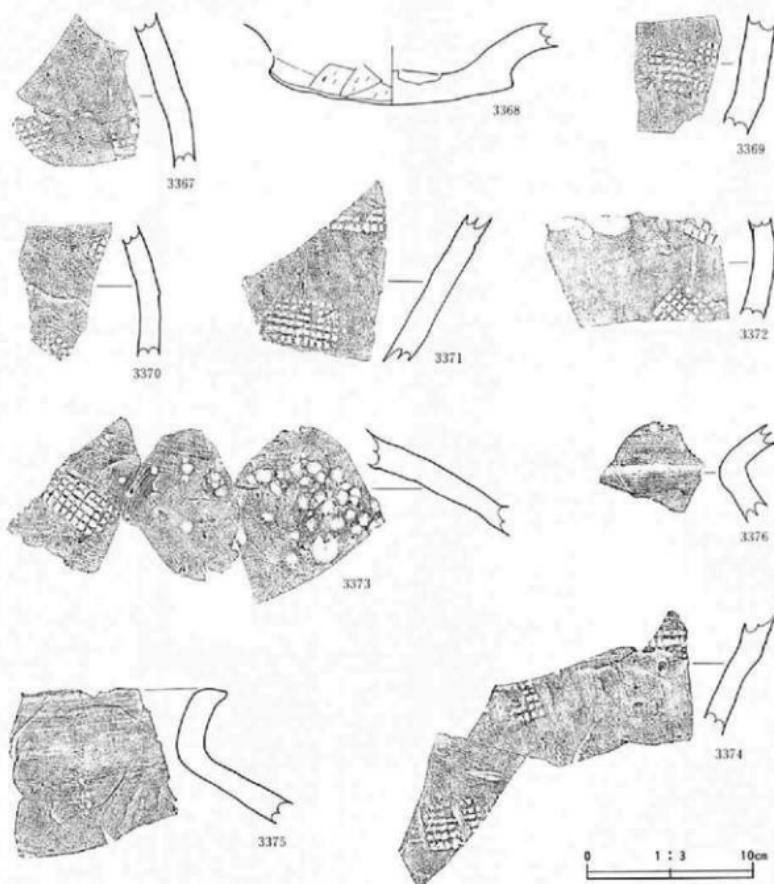
番号	種名	出土地点	部位	器種	部位	色調	備考
3354	須恵器系	19P440		鉢	底部近く	灰	内面擦耗、12C後半以降
3355	須恵器系	19S E 5 南半	埋土上部	甕	体部	灰	12C後半以前
3356	須恵器系	Ⅲ H 5 i ほか	5d	鉢	口～底部	灰	底部斜削系切り痕、12C後半以降
3357	須恵器系	Ⅲ H 6 i	6	鉢	底部	灰	12C後半以前
3358	須恵器系	Ⅲ H 6 j	6	鉢	口～体部	灰	外面光沢あり、12C後半以降
3359	須恵器系	Ⅲ H 7 i ほか	5b	鉢	口～底部	灰	片口。底部斜削系切り痕、12C後半以降
3360	須恵器系	NH 1 i	1d	甕	底部	灰	内面擦耗、底部斜削系切り痕、12C後半以前
3361	須恵器系	NH 2 i	5d	鉢	底部	灰	片口。底部斜削系切り痕、12C後半以前
3362	須恵器系	NH 3 i	1r	甕	肩部	灰	タガキ形成、12C後半以前

第183図 須恵器系陶器①



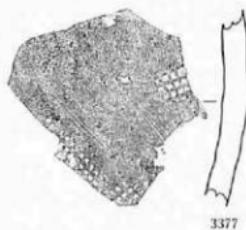
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3363	須恵器系	吉日3-i	1r	甕	体部	灰	タタキ成形、3365と同一?、12C後半以降
3364	須恵器系	吉日4-j	1q	甕	体部	灰	タタキ成形、12C後半以降
3365	須恵器系	吉日4-j	1q	甕	体部	灰	外面光沢、タタキ成形、3363と同一?、12C後半以降
3366	須恵器系	不明	不明	甕	口縁部	灰	内面に輪

第184図 須恵器系陶器②

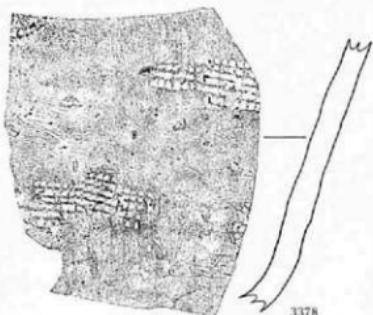


番号	種名	出土地點	層位	器種	部位	色調	備考
3367	支着系(木造)	Ⅲ H 0 i	5b	甕	肩部?	オリーブ黒	12C
3368	支着系(木造)	Ⅲ H 6 i	5b	甕	底盤	褐色	底面ゆがみ, 12C
3369	支着系(木造)	Ⅲ H 9 g	混乱	甕	体部?	灰	押印, 12C
3370	支着系(木造)	Ⅲ H 1 i	1q	甕	肩部?	灰	押印, 12C
3371	支着系(木造)	Ⅲ H 1 i	1r	甕	体部	灰	押印, 12C
3372	支着系(木造)	Ⅲ H 1 i	1r	甕	体部	灰	押印, 外面摩滅し滑らか, 12C
3373	支着系(木造)	Ⅲ H 2 i	1q	甕	肩部	灰	外面に敲打痕状のあばた、押印、ケズリ, 12C
3374	支着系(木造)	Ⅲ H 2 i	1q	甕	体部	灰	押印, 12C
3375	支着系(木造)	Ⅲ H 2 i	5d	甕	口縁部	灰	内面にあばた、ケズリ(撓曲状), 12C 中ごろ
3376	支着系(木造)	Ⅲ H 2 i	1i	甕	肩部	灰	内面にあばた, 12C

第185図 水沼産陶器①

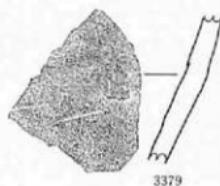


3377



3378

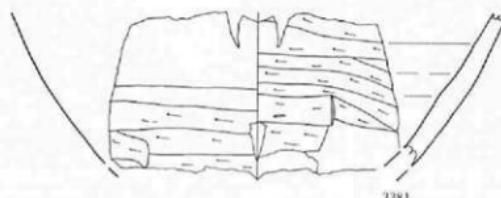
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3377	壺形(丸底)	NH 3 h	1 i	壺	体部	灰	押印、12C
3378	壺形(丸底)	NH 3 j	1 q	壺	体部	オリーブ黒	押印、ケズリ、12C



3379



3380

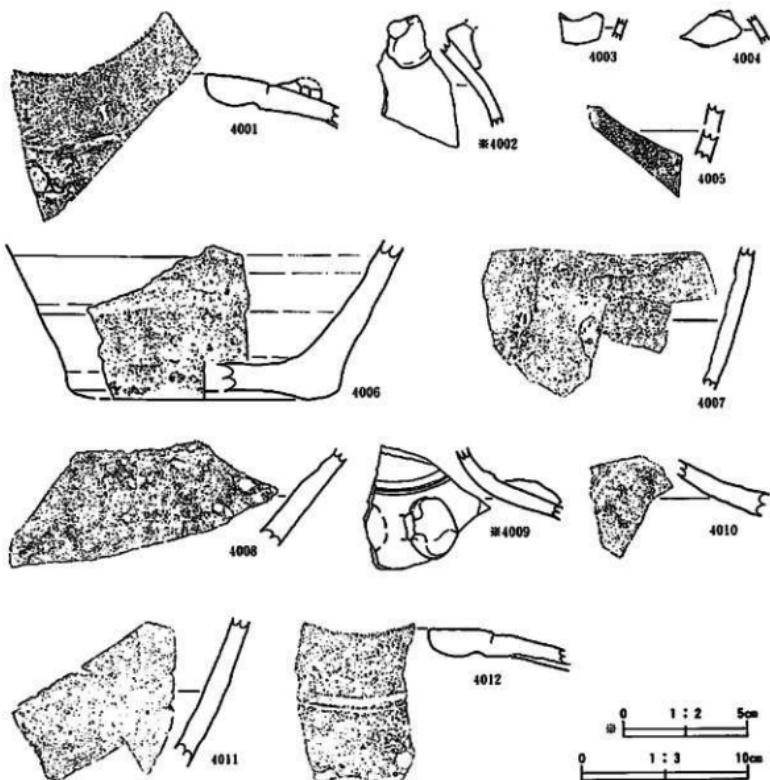


3381

0 1 : 3 10cm

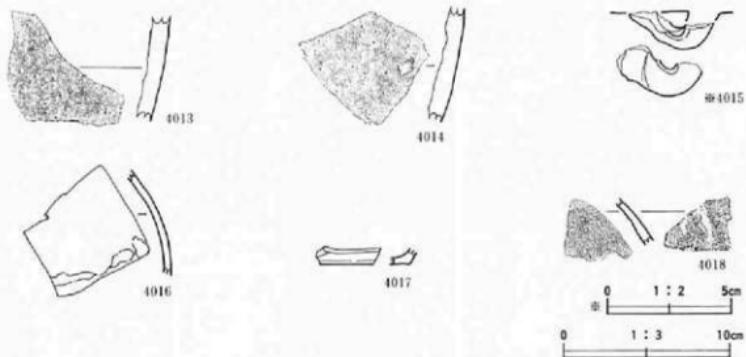
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3379	壺形(丸底?)	19SD 9	III H 2 j	壺	体部	にぼい赤褐	伊豆沼産?、13C後半~14C初
3380	壺形(丸底?)	19SD 9	III H 6 j	鉢	口縁部	オリーブ黒	伊豆沼産?、13C後半
3381	壺形(丸底?)	III H 6 i + 7 i	5b + 5 d	壺	体部	褐灰	伊豆沼産?、ケズリ、13C後半~14C初

第186図 水沼産陶器②・壺器系陶器



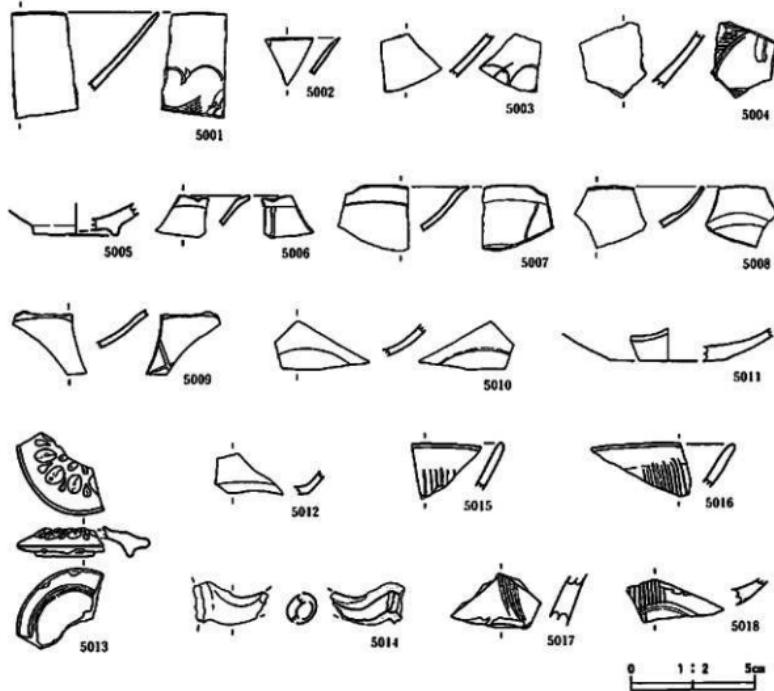
番号	器名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
4001	中国產陶器	BSD 9 ■ H 2 j		甕	口邊部 赤・オーブ星	斜めの耳付、中国南部～東南アジア(同一個体あり)	
4002	中国產陶器	195 E 3	埴土上位	甕	オリーブ黄	模耳？付、4004と同一個体、12C	
4003	中国產陶器	195 E 3	埴土上位	甕	灰オリーブ	4009と同一個体、12C	
4004	中国產陶器	195 E 3	埴土上位	甕	灰?	オリーブ黄 4002と同一個体、12C	
4005	中国產陶器	195 E 3		甕	白	内面に黒、12C	
4006	中国產陶器	■ H 0 i	5d	甕	体～底部 灰・灰オリーブ	中国南部～東南アジア	
4007	中国產陶器	■ H 0 i ほか	5d	甕	暗灰黄	内面にあびた、中国南部～東南アジア	
4008	中国產陶器	■ H 0 i	5d	甕	オリーブ黒	内面に黒、中国南部～東南アジア	
4009	中国產陶器	■ H 1 g	5d	甕	灰白	模耳付、4003と同一個体、12C	
4010	中国產陶器	■ H 1 b	3d	甕	白	内面無地、外腹輪走下、中国南部～東南アジア	
4011	中国產陶器	NH 1 j	5d	甕	暗灰黄	内面に黒、中国南部～東南アジア	
4012	中国產陶器	NH 2 i	1q	甕	口邊部 赤・オーブ星	内面にあびた、中国南部～東南アジア	

第187図 中国產陶器①



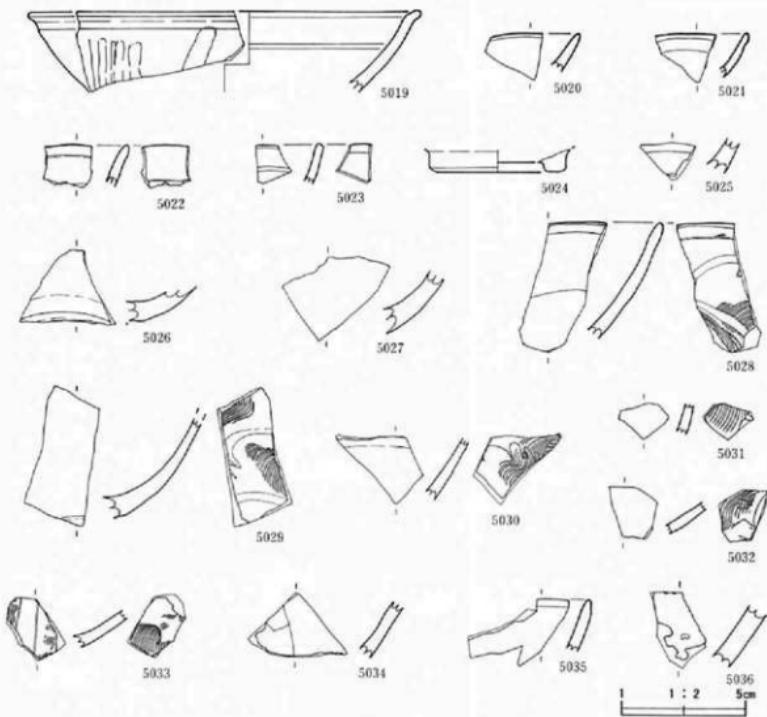
番号	種名	出土地點	層位	器種	部位	色調	備考
4013	中国縦陶器	NH 2 i	1 i	壺	体部	暗灰青	内面にあばた、中国南部～東南アジア
4014	中国縦陶器	NH 3 b	1 i	壺	体部	暗灰青	内面にあばた、中国南部～東南アジア
4015	中国縦陶器	NH 3 i		壺	耳	暗灰青	全体に輪、中国南部～東南アジア
4016	朝鮮縦陶器	19 S E 6 南半		壺	肩部	オリーブ	内外面に輪、4018と同一個体
4017	朝鮮縦陶器	19 S E 6 南半		壺	底部	輪オリーブ	内外面に輪、16C
4018	朝鮮縦陶器	不明	不明	壺	肩部	オリーブ	内外面に輪、4016と同一個体

第188図 中國產陶器②・朝鮮產陶器



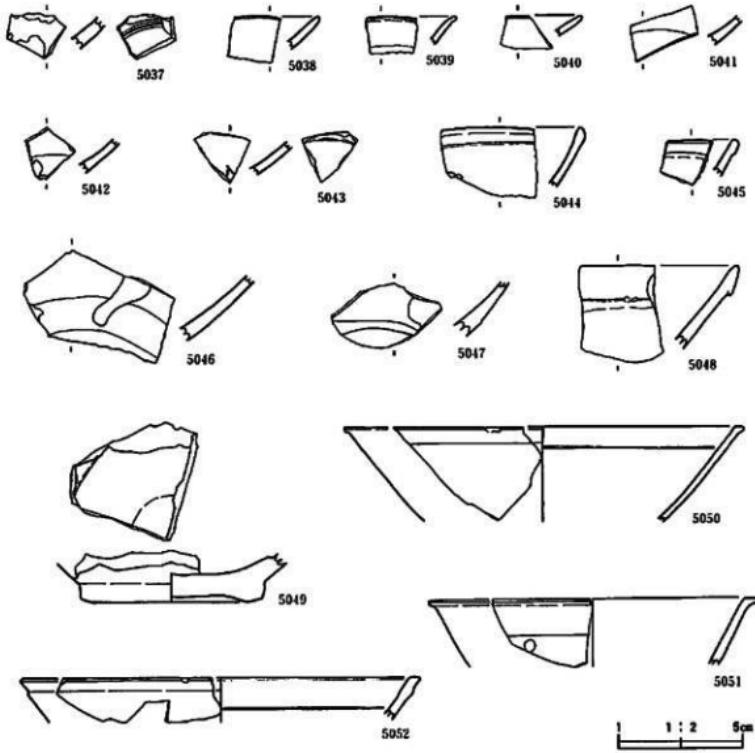
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	物調	分類・年代	参考・年代
5001	青白磁	ⅢH 0 i	5d	碗	口縁部～	灰白色	12世紀後半	ヘラと錐状工具による文様
5002	青白磁	ⅢH 0 i	5d	碗	口縁部	灰白色	12世紀後半	
5003	青白磁	ⅢH 9 i	1e	碗	体部	灰白色	12世紀後半	ヘラによる文様
5004	青白磁	ⅢH 9 i	5d	碗	体部	明緑灰	12世紀後半	ヘラと錐状工具による文様
5005	青白磁	ⅣH 2 i	1i	碗	底部	明緑灰	12世紀後半	見込み物の盛り取りなし
5006	青白磁	19SE 3 北半	1m	皿	口縁部	明緑灰	12世紀後半	輪花、白堆線
5007	青白磁	ⅢH 6 i	5d	皿	口縁部	灰白色	12世紀後半	輪花、白堆線
5008	青白磁	ⅢH 9 i	1e / 1 i	皿	口縁部	灰白	12世紀後半	内面に段
5009	青白磁	ⅣH 3 h	1i	皿	体部	灰白	12世紀後半	白堆線
5010	青白磁	ⅢH 5 i	5d	皿	底部	灰白	12世紀後半	内面に段
5011	青白磁	ⅣH 3 h	1i	皿	底部	灰白	12世紀後半	質入多い、底部窪なし
5012	青白磁	ⅣH 2 i	1i	皿	体部	明緑灰	12世紀後半	外面上焼台の痕？
5013	青白磁	ⅣH 2 j	1h	小盤	蓋	明緑灰	12世紀後半	菊文？、胎上は白色で非常に緻密
5014	青白磁	ⅣH 1 i	1q	水注	注口部分	明緑灰	12世紀後半	内面にも施
5015	青磁	ⅢH 0 i	5d	碗	口縁部	灰オリーブ	同安・鏡1類	外面に錐刺き文、12世紀末～13世紀初頭
5016	青磁	ⅢH 3 j	1r	碗	口縁部	灰オリーブ	同安・鏡1類	外面に錐刺き文、12世紀末～13世紀初頭
5017	青磁	ⅢH 8 i	5d	碗	底部付近	オリーブ灰	同安・鏡1類	外面に錐刺き文、12世紀末～13世紀初頭
5018	青磁	トレンチ1	1i	碗	底部付近	オリーブ灰	同安・鏡1類	内外面に錐刺さ文、12世紀末～13世紀初頭

第189図 中国磁器①



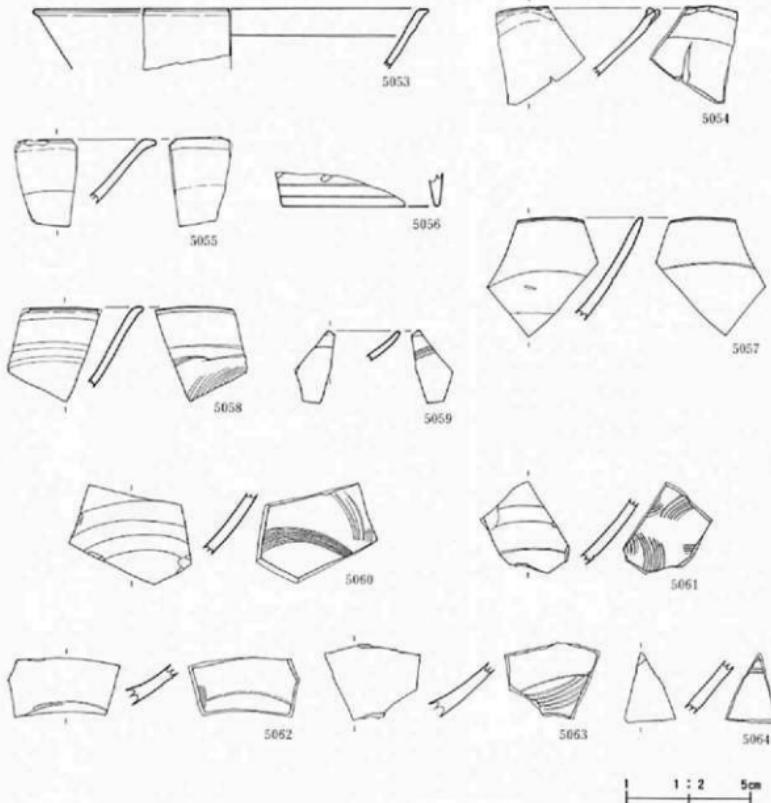
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	胎調	分類・年代	備考・年代
5019	青磁	ⅢH 0 i	5d	碗	口・体部	オリーブ灰 龍泉・輪0型(1150~)		幅広の押捺き、内面に片彫りの線
5020	青磁	ⅣH 2 i	1 i	瓶	口縁部	オリーブ灰 龍泉・輪I期		体部屈曲
5021	青磁	不明		盤	口縁部	オリーブ灰 龍泉・輪I期		外面上沈線
5022	青磁	ⅣH 4 j	1q	瓶	口縁部	灰オリーブ 龍泉・輪I期		内面に細縦
5023	青磁	旧河道部	5b	碗	口縁部	灰オリーブ 龍泉・輪I期		
5024	青磁	ⅣH 3 h	1 i	碗	高台	灰オリーブ 龍泉・輪I期		高台内の一端に輪
5025	青磁	ⅣH 3 h	1 i	碗	体部	灰オリーブ 龍泉・輪I期		
5026	青磁	ⅣH 3 h	1 i	碗	体部下半	オリーブ灰 龍泉・輪I・2期		
5027	青磁	ⅣH 3 i	1q	碗	体部下半	灰オリーブ 龍泉・輪I・2期		
5028	青磁	ⅢH 8 i	5d	碗	口縁・全体	灰オリーブ 龍泉・輪I・2 or I・3期		内面に片彫り。模状の施文具による文様
5029	青磁	ⅢH 3 g	5	碗	体部	オリーブ灰 龍泉・輪I・2 or I・3期		内面に片彫り。模状の施文具による文様
5030	青磁	ⅣH 1 i	1 i	碗	体部	灰オリーブ 龍泉・輪I・2 or I・3期		内面に片彫り?。模状の施文具による文様
5031	青磁	ⅢH 1 f	5	碗	体部	灰オリーブ 龍泉・輪I・2 or I・3期		模状施文具による文様
5032	青磁	ⅣH 2 j	1h	碗	体部	灰オリーブ 龍泉・輪I・2 or I・3期		模状施文具による文様
5033	青磁	ⅢH 9 d	表土	碗	体部	灰オリーブ 龍泉・輪I・5期		外面上片彫り。内面に模状の施文具による文様
5034	青磁	ⅣH 1 j	1h	碗	体部	オリーブ灰 龍泉・輪I・5期		模造が文。13世紀後半
5035	青磁	ⅣH 2 b	1 i	碗	口縁・体部	明緑灰色 龍泉・純■型		内外胎厚い。13世紀後半
5036	青磁	調査区北西部	不明	碗	体部	墨オリーブ灰 龍泉窯系		胎厚い。15世紀

第190図　中國産磁器②



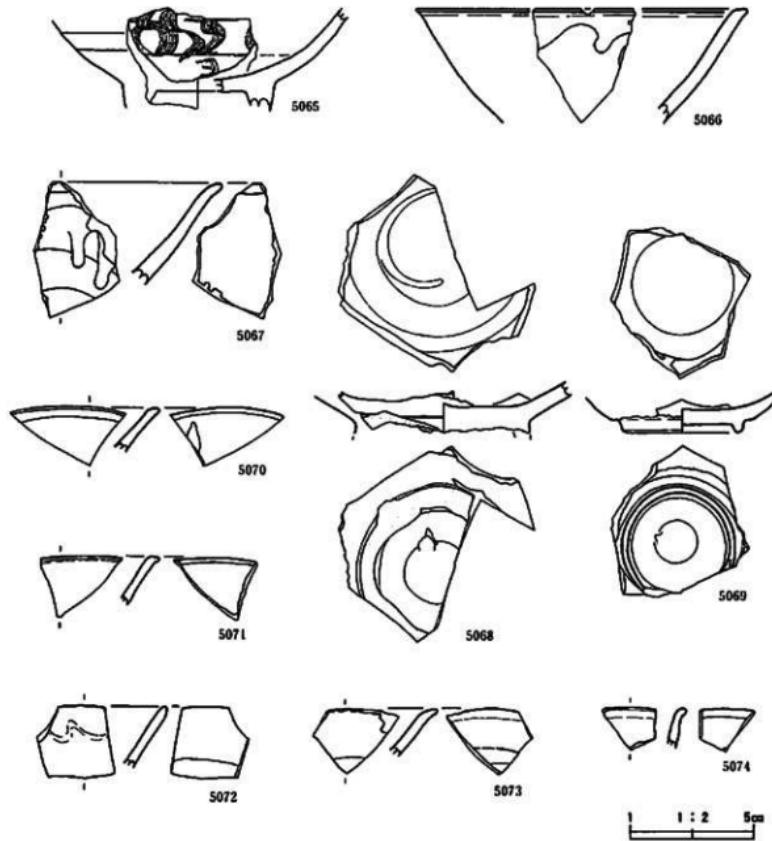
番号	種名	出土地点	順位	器種	部絆	胎焼	分類・年代	撮影・年代
5037	白磁	ⅢH 8 i	5d	盤	全体	灰白	直口沿盤	内面に片彫りの線
5038	白磁	ⅢH 3 h	1i	盤	口縁部	灰白	直V縁	12世紀前半
5039	白磁	ⅢH 2 i	3a	盤	口縁部	灰白	直V縁	化粧土？、12世紀前半
5040	白磁	ⅢH 0 c	IV	盤	口縁部	浅黄	直V縁	化粧土、12世紀前半
5041	白磁	ⅢH 1 i	1q	盤	全体	灰白	直V縁	外曲下反腹盤、12世紀前半
5042	白磁	ⅢH 1 j	1h	盤	全体	浅黄	直V縁	12世紀前半
5043	白磁	ⅢH 5 i	5b	盤	全体	灰白	直V縁	内面に片彫りの線、12世紀前半
5044	白磁	ⅢH 3 g	5	碗	口縁部	灰白	直II縁	小さな玉棒II縁、化粧土？、12世紀曲半
5045	白磁	ⅢH 6 i	5d	碗	口縁部	灰白	直II縁	小さな玉棒II縁、12世紀前半
5046	白磁	ⅢH 8 i	5d	碗	全体下半	灰白	直II縁	化粧土？、外曲下反腹盤、12世紀前半
5047	白磁	ⅢH 4 i	5b	碗	全体下半	灰白	直II縁	外曲下反腹盤、12世紀前半
5048	白磁	ⅢH 1 i	1q	碗	口縁部	灰白	直IV縁	全体の削り痕？、玉縁II縁、12世紀前半
5049	合磁	ⅢH 3 j	1r	碗	底部	灰白	直IV縁	底盤内面に沈線状の段、12世紀前半
5050	白磁	ⅢH 2 i	1q	碗	口縁部	灰白	直V縁	L線越端部に屈曲、全体内面上位に沈線
5051	白磁	ⅢH 2 i	1i	碗	口縁部	灰白	直V縁	L線端部横に屈曲
5052	白磁	ⅢH 1 i	1q	碗	口縁部	灰白	直V縁	口縁端部横に屈曲、全体内面上位に沈線

第191図 中国唐磁器③



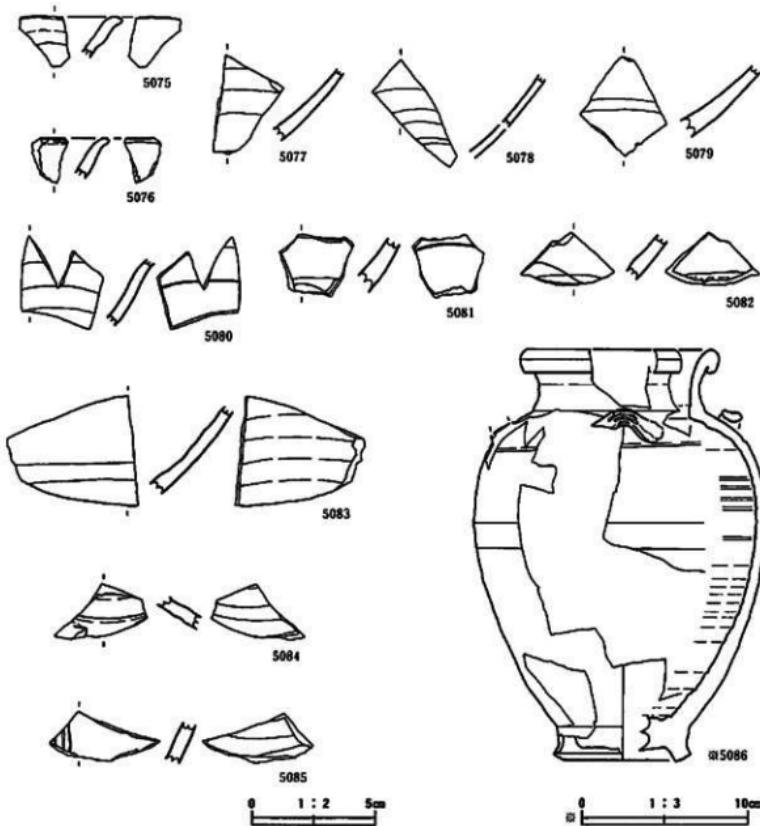
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	釉調	分類・年代	備考・年代
5053	白磁	ⅤH 2 i	1i	碗	口縁部	灰白	碗 V 類	口縁端部横に筋曲、体部内面上位に沈線
5054	白磁	ⅤH 3 i	1i	碗	口縁・体部	灰白	碗 V 類	口沿の一辺に変形、体部内面上位に粗緻
5055	白磁	ⅤH 3 i	1q	碗	口縁部	灰白	碗 V 類	口縁端部横に筋曲、体部内面上位に粗緻
5056	白磁	ⅤH 2 j	5d	碗	高台部	灰	碗 V 類	無釉部分、磁紋 2 条
5057	白磁	ⅤH 3 i	1i	碗	口縁部	灰白	碗 V 類	直口縁、体部内面上位に沈線
5058	白磁	ⅢH 0 g	5	碗	口縁部	灰白	碗 V 類	内面上に櫛搔き文、口縁端部横に筋曲
5059	白磁	ⅤH 2 i	1i	碗	口縁部	灰	碗 V 類	内面上に櫛搔き文、口縁端部外反
5060	白磁	ⅢH 9 i	5d	碗	体部	灰白	碗 V 類	内面上に櫛搔き文
5061	白磁	ⅤH 3 h	1i	碗	体部	灰白	碗 V 類	内面上に櫛搔き文
5062	白磁	ⅤH 1 i	1r	碗	体部	灰白	碗 V 類	内面上に櫛搔き文、見込み近くに沈線状の段
5063	白磁	19S K 4	1e	碗	体部	灰白	碗 V 類	内面上に櫛搔き文、化粧土?
5064	白磁	19S E 3 北半	2	碗	体部	灰白	碗 V 類	内面上に櫛搔き文

第192図 中国産磁器④



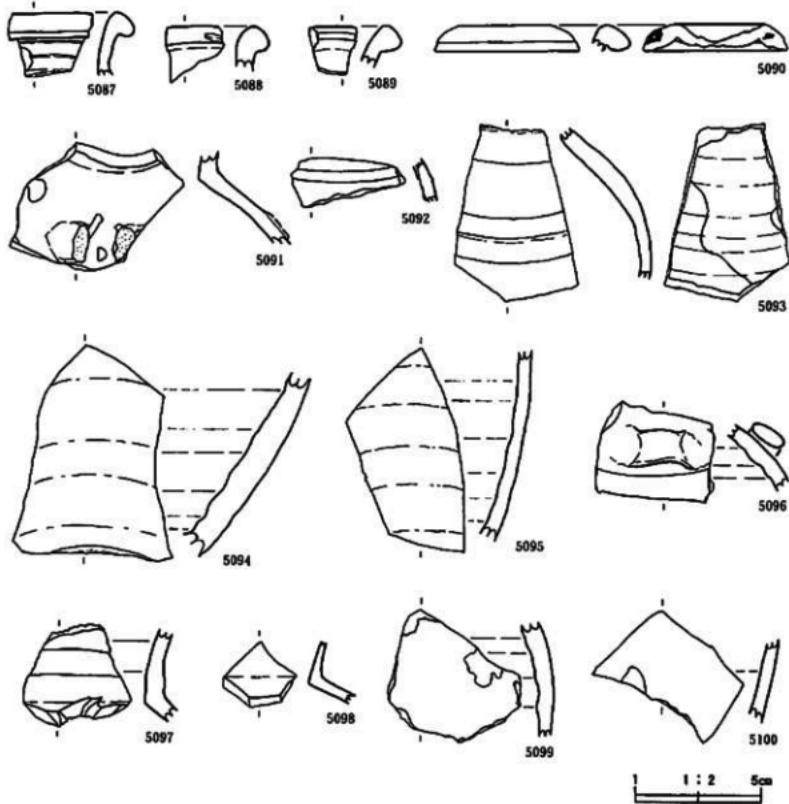
番号	種名	出土地点	層位	形質	部位	釉色	分類・年代	備考・年代
5065	白磁	Ⅷ H 0 g	5	碗	体~底部	灰白	純V 4類	内面に毫毛き文、足込みに近くに沈堆状の段
5066	白磁	トレンチ 1	1 i	碗	口縁部	灰白	純V 4類	口縁部横に屈曲、外面釉造下
5067	白磁	Ⅸ H 0 d	Ⅱ	碗	口~体部	灰白	純V 4類	口縁部横に屈曲、外面釉造下
5068	白磁	Ⅸ H 3 i	1 r	碗	体~底部	灰白	純V 4類	足込みの釉輪状に盛り取り、体部下辺面微
5069	白磁	Ⅸ H 7 i	不明	碗	底部	灰白	純V 4類	足込みの釉輪状に盛り取り、体部下辺面微
5070	白磁	Ⅸ H 1 i	5 d	碗	口縁部	灰白	純V or 司坂	口縁部横に屈曲
5071	白磁	Ⅸ H 8 i	5 d	碗	口縁部	灰	純V or 司坂	口縁部横に屈曲
5072	白磁	Ⅸ H 9 i	5 d	碗	口縁部	灰白	純V or 司坂	直口縁、体部内面に網様
5073	白磁	Ⅸ H 9 i	5 d	碗	口縁部	灰白	純V or 司坂	口縁部外反、体部内面に網様、体部下辺面微
5074	白磁	Ⅸ H 3 g	5	碗	口縁部	灰	純V or 司坂	口縁部外反、厚く光沢あり

第193図 中国産磁器⑤



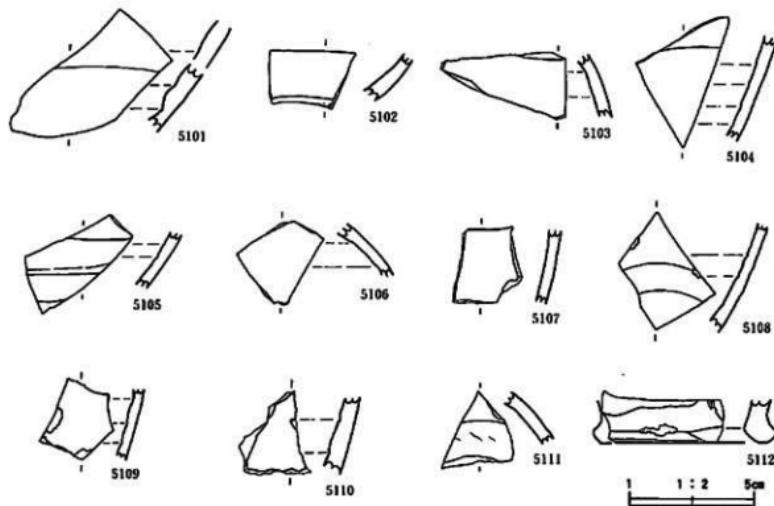
番号	地名	出土地点	層位	器種	部位	釉調	分類・年代	備考・年代
5075	白堜	Ⅲ H 6 i	5d	碗	口縁部	灰白	輪Vor環頸	口縁部外反
5076	白堜	Ⅲ S K 12	塗土	碗	口縁部	灰白	輪Vor環頸	口縫培塿後に残存
5077	白堜	トレンチ 1	1i	碗	体部	灰白	輪Vor環頸	
5078	白堜	Ⅲ H 1 i	1r	碗	体部	灰白	輪Vor環頸	体部下位露胎
5079	白堜	Ⅲ H 6 i	5d	碗	尖部付近	灰白	輪VorVor電頸	体部下位露胎
5080	白堜	Ⅲ H 1 i	1g	碗	体部上半	灰白	輪VorVor電頸	内面に細い沈澱状の段
5081	白堜	Ⅲ H 7 i	5d	碗	体部	灰白	輪VorVor電頸	体部下位露胎
5082	白堜	Ⅲ H 8 i	5d	碗	体部	灰白	輪VorVor電頸	体部下位露胎、足込みに沈澱状の段
5083	白堜	Ⅲ H 9 i	5d	碗	体部	灰白	笠口系	質入多い、12世紀前半
5084	白堜	Ⅲ H 5 i	不明	耳	耳	灰白	笠口系	耳の一部あり、外腹に残、12世紀前半
5085	白堜	Ⅲ H 2 i	1i	盘	体部	灰白	笠口系	外腹に環位の線?、内面一部施釉
5086	白堜	Ⅲ H 3 i	5b	盘	体部	灰白	笠口系	復原側体、接合破片多数

第194図 中国唐磁器⑤



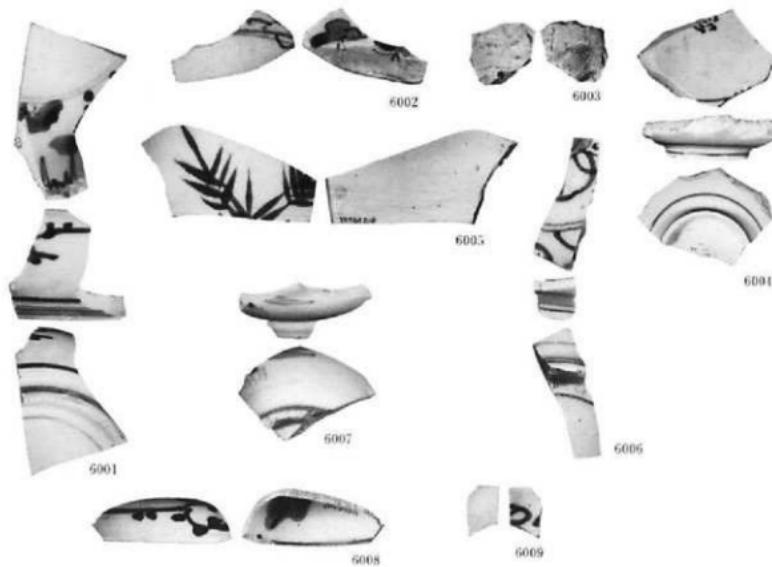
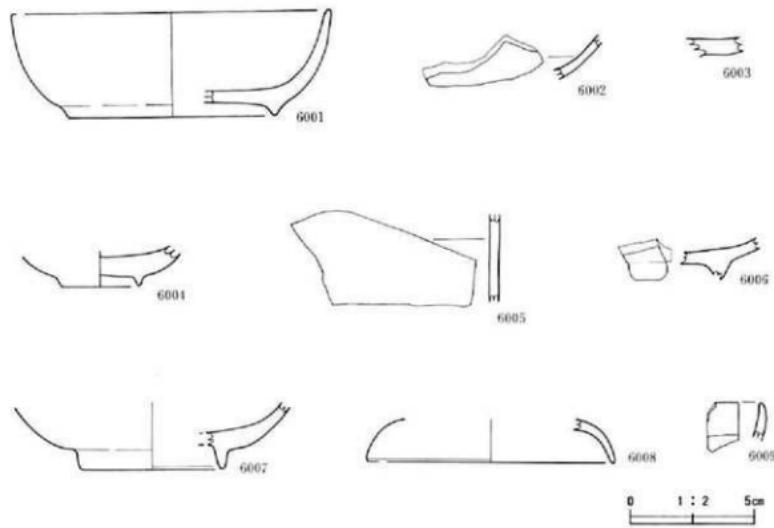
番号	機名	出土地点	朝代	器種	部位	物説	分類・年代	備考・年代
5087	白磁	NH 4 j	唐	盞	口縁～腹部	青白磁	青白系	内外面に釉
5088	白磁	NH 1 i	唐	盞	LH底部	灰オリーブ	青白系	内外面に釉
5089	白磁	NH 1 i	唐	盞	LH底部	明緑灰	青白系	内外面に釉
5090	白磁	Ⅲ H 5 i	唐	盞	LH外部	明緑灰	青白系	接頭部、12世紀後半
5091	白磁	NH 3 h	唐	盞	口縁	灰白	青白系	牙灰斑、内外面に釉
5092	白磁	NH 3 i	唐	盞	羽部	灰白	青白系	内外面に釉、外側に側方向の沈線
5093	白磁	NH 2 i	唐	盞	底部	灰オリーブ	青白系	外側に側方向の沈線の段、内面一部施釉
5094	白磁	NH 2 i	唐	盞	全体下半	青オリーブ	青白系	内側も施釉、四凸あり
5095	白磁	Ⅸ S E 3 南半	3d F	盞	全体	灰白	青白系	内外面に釉、内面凹凸あり
5096	白磁	Ⅲ H 1 g	唐	盞	羽部(耳)	明緑灰	青白系	内面の一帯に釉、耳付き
5097	白磁	トレンチ3	5b	盞	底部	明緑灰	青白系	緑がかった透明感のある釉、外側に沈線状の段
5098	白磁	NH 1 j	5d	盞	底部	青オリーブ	青白系	内外面に釉
5099	白磁	NH 1 j	1e	盞	全体	灰白	青白系	内面無釉、四凸あり
5100	白磁	NH 3 i	1i	盞	全体	灰白	青白系	内外面に釉、内面細かい凹凸あり

第195図 中國産磁器⑦

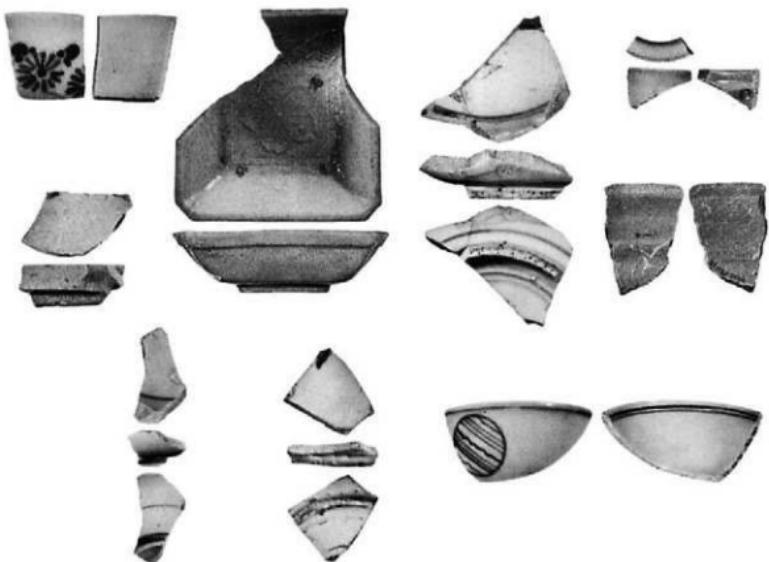
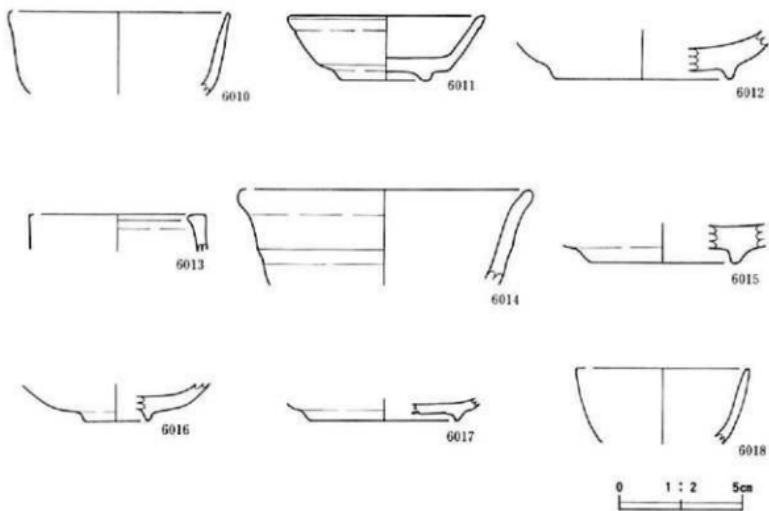


番号	施名	出土地点	層位	器種	部位	胎調	分類・年代	備考・年代
S101	白磁	NH2 i	1q	盤	体部下半	灰白	吸口系	漆模法、内面の胎は底部に近い部分のみ
S102	白磁	NH3 i	1r	盤	体部	明カリーブ	吸口系	内外面に輪、外面上に段
S103	白磁	NH3 b	1i	盤	体部	灰白	吸口系	内外面に輪
S104	白磁	NH1 i	1i	盤	体部	灰白	吸口系	内面無輪
S105	白磁	19SE3南半	周土上	盤	体部	灰カリーブ	吸口系	内外側に輪
S106	白磁	NH3 b	1i	盤	体部	明カリーブ	吸口系	内面無輪
S107	白磁	NH3 b	1i	盤	体部	灰白	吸口系	内面の一帯に輪、S108と同一個体
S108	白磁	NH1 i	1q	盤	体部	灰白	吸口系	内面の一帯に輪、S107と同一個体
S109	白磁	NH4 j	1q	盤	體部	灰白	吸口系	内外面に輪、内面に凹凸あり
S110	白磁	NSD9 BN3 j	煙上	盤	体部	灰白	吸口系	内外面に輪、胎土は白く緻密
S111	白磁	NH2 j	5d	盤	体部	灰カリーブ	吸口系	内外面に輪
S112	白磁	NH3 i	1i	盤	底部	灰～灰白	吸口系	底部外面に無輪部分あり

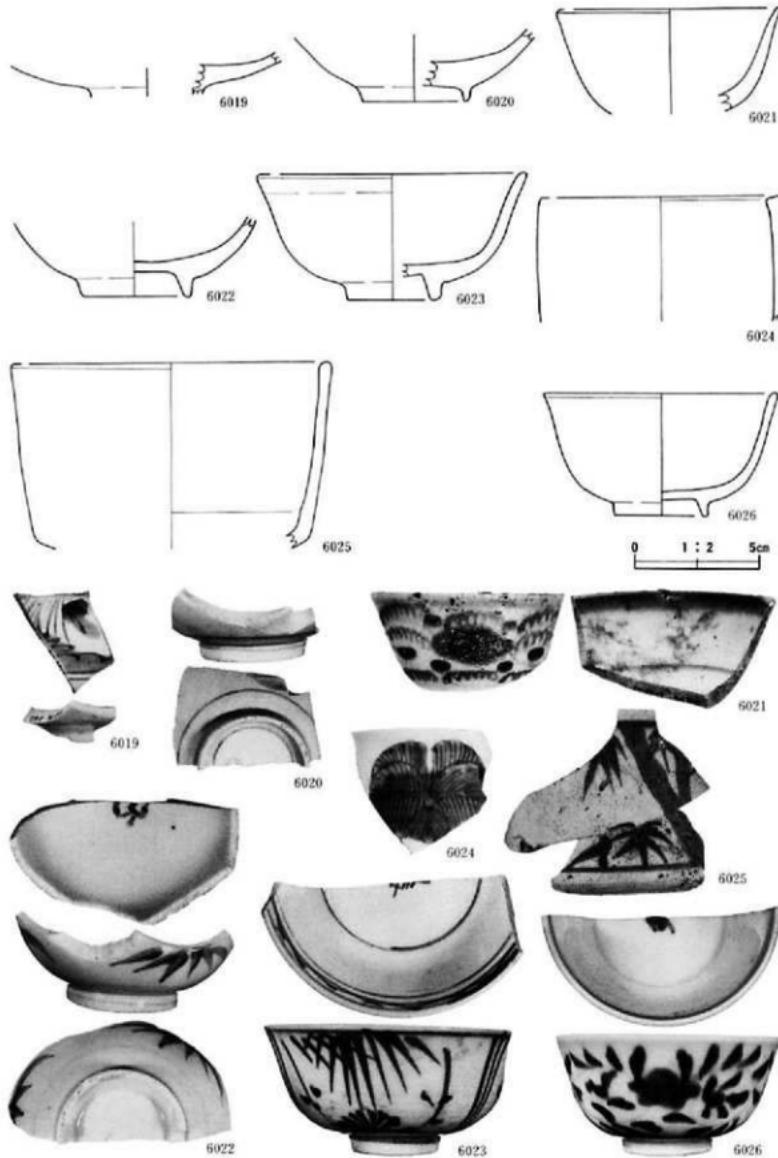
第196図 中國産磁器⑧



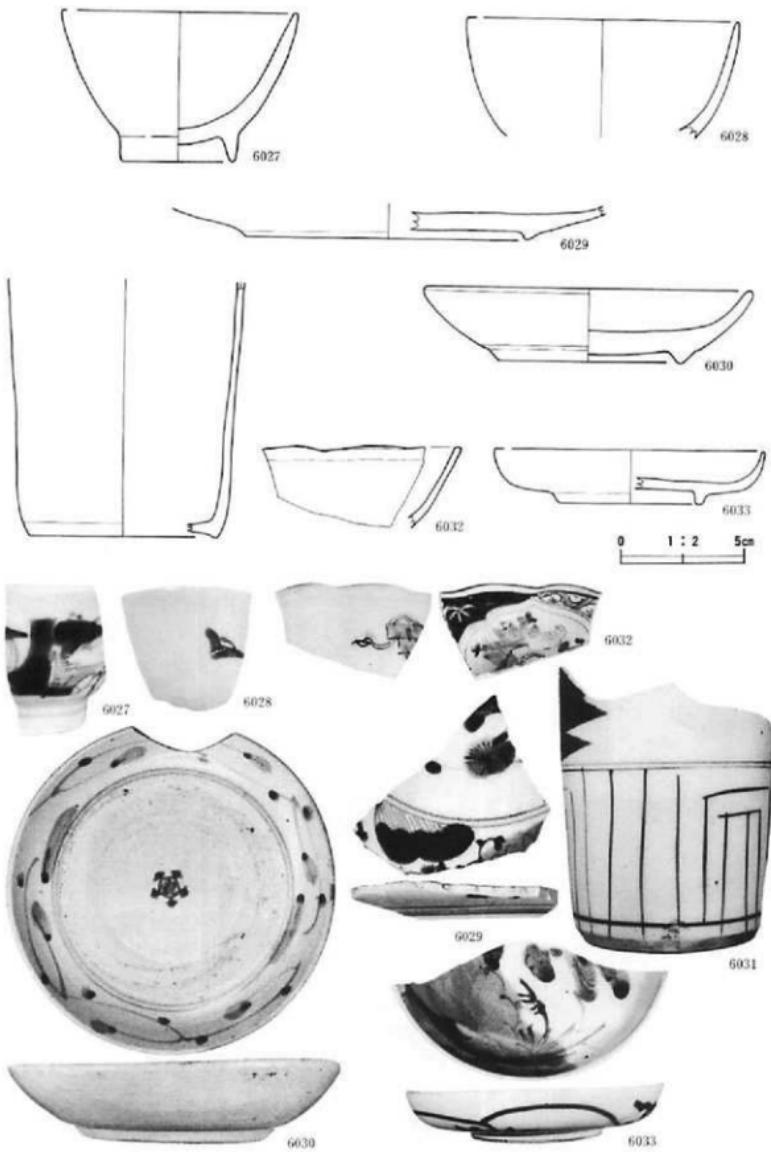
第197図 中・近世陶磁器①



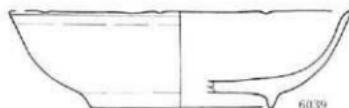
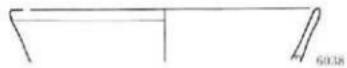
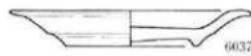
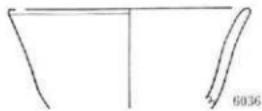
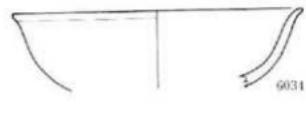
第198図 中・近世陶磁器②



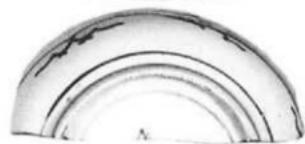
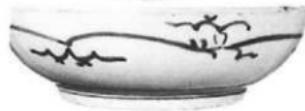
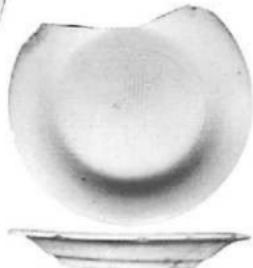
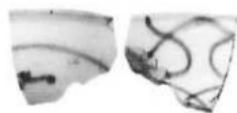
第199図 中・近世陶磁器③



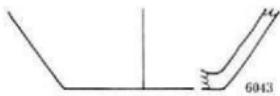
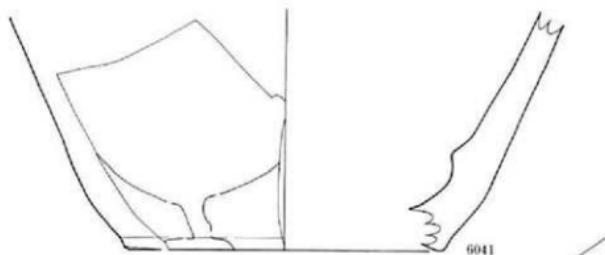
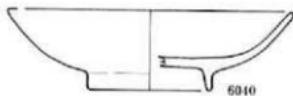
第200図 中・近世陶磁器④



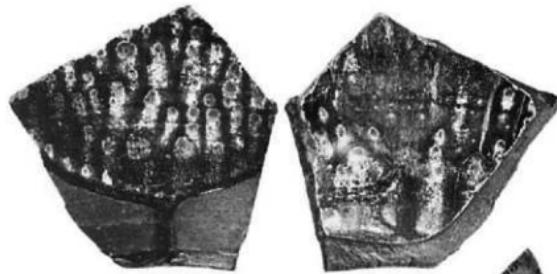
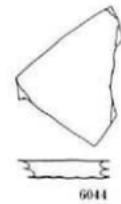
0 1 : 2 5cm



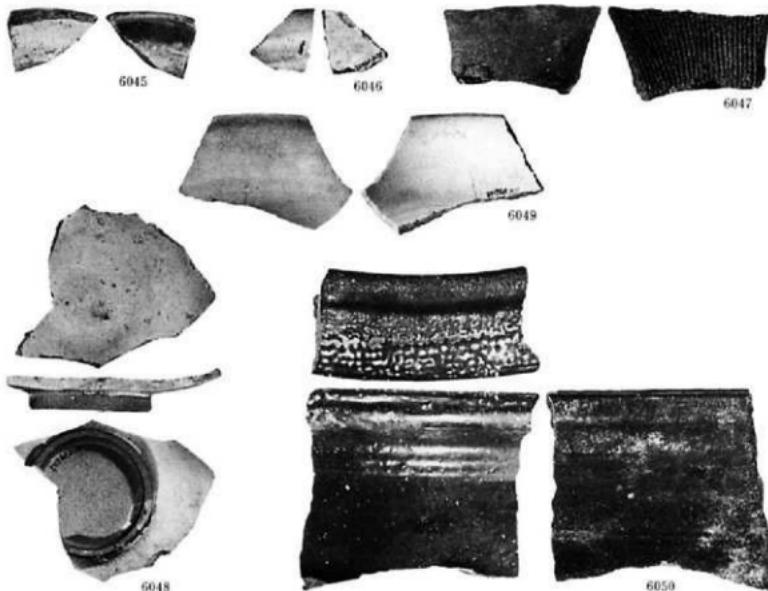
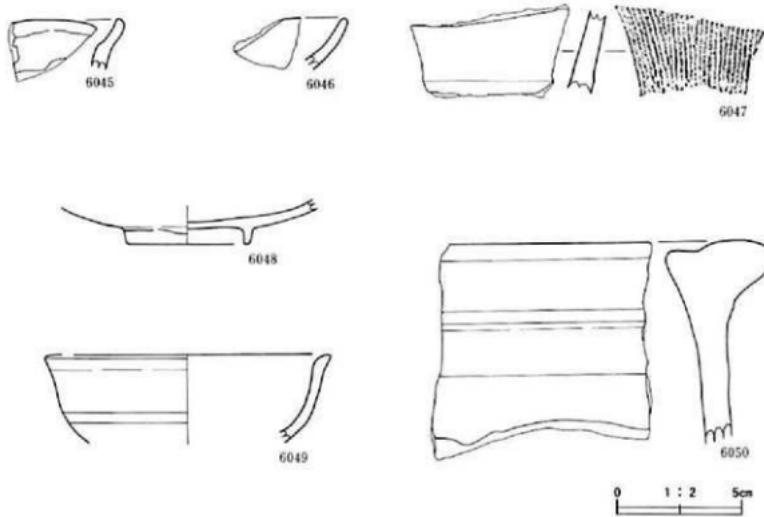
第201図 中・近世陶磁器⑤



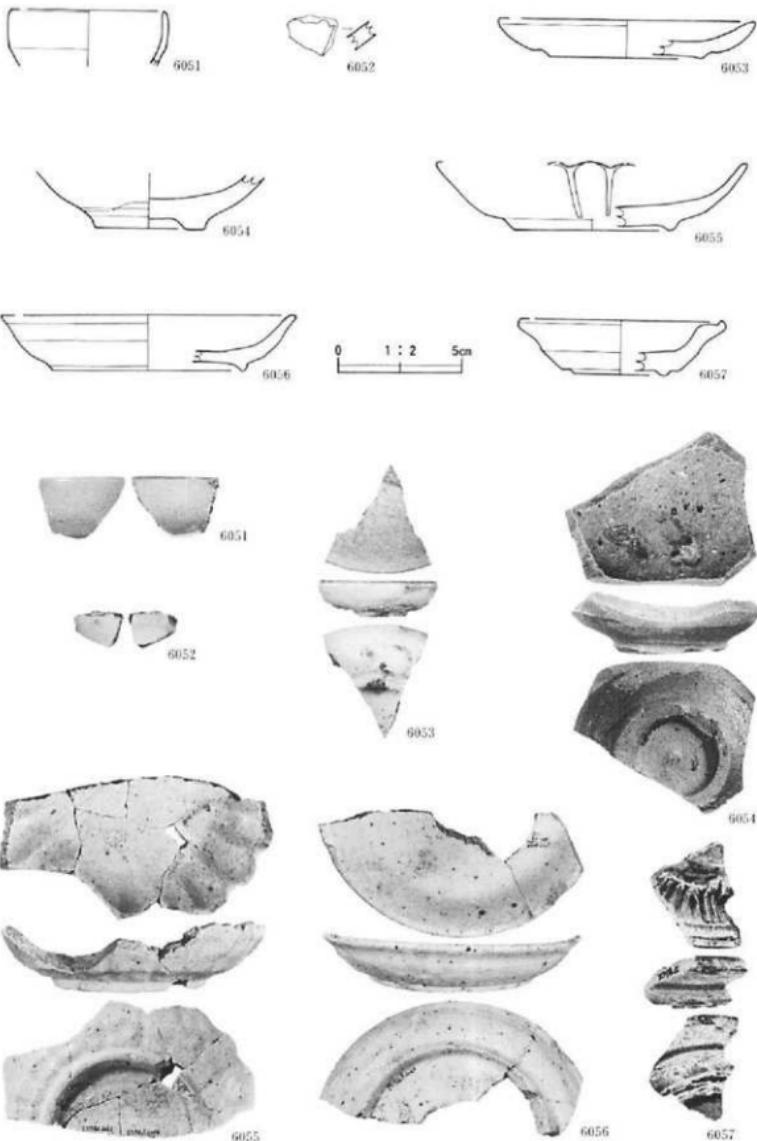
0 1 : 2 5cm



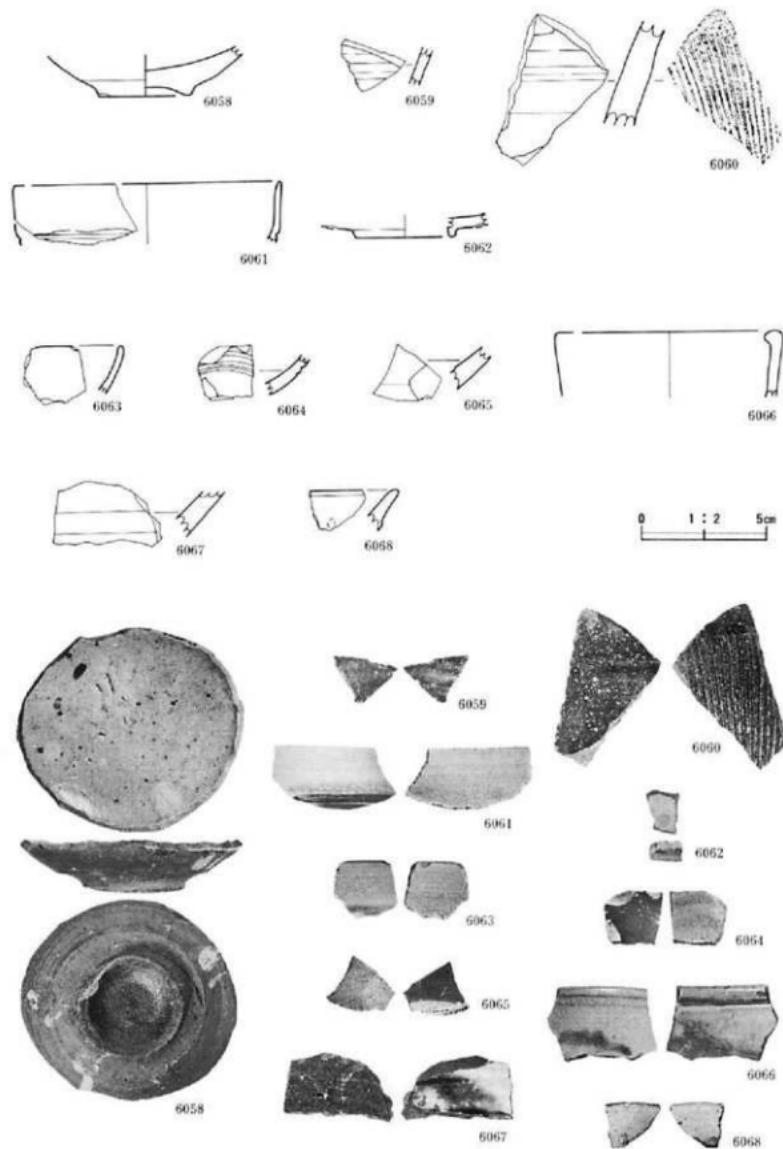
第202図 中・近世陶磁器⑥



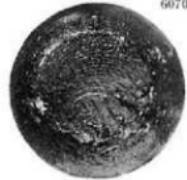
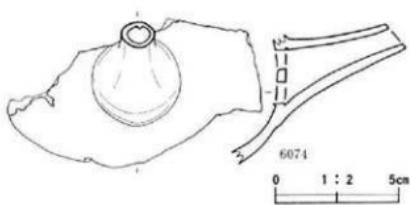
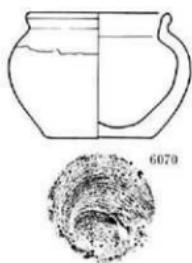
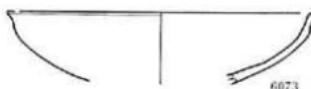
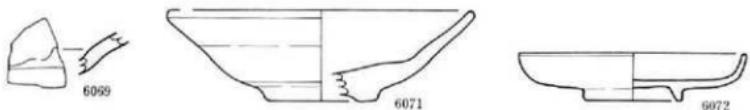
第203図 中・近世陶磁器⑦



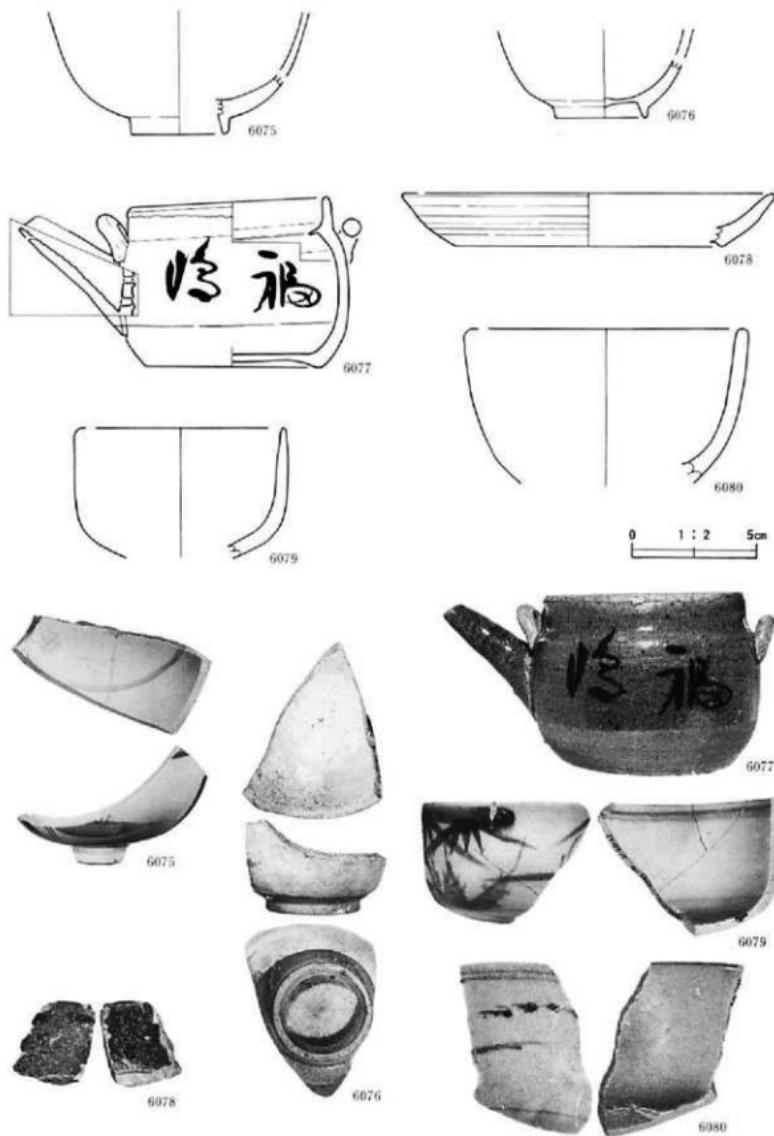
第204図 中・近世陶磁器⑧



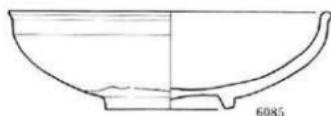
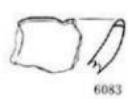
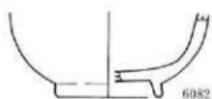
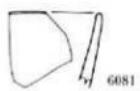
第205図 中・近世陶磁器⑨



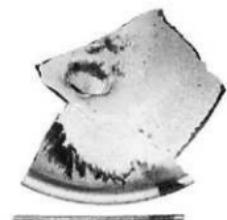
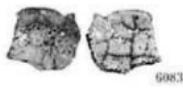
第206図 中・近世陶磁器⑩



第207図 中・近世陶磁器①



0 1 : 2 5cm

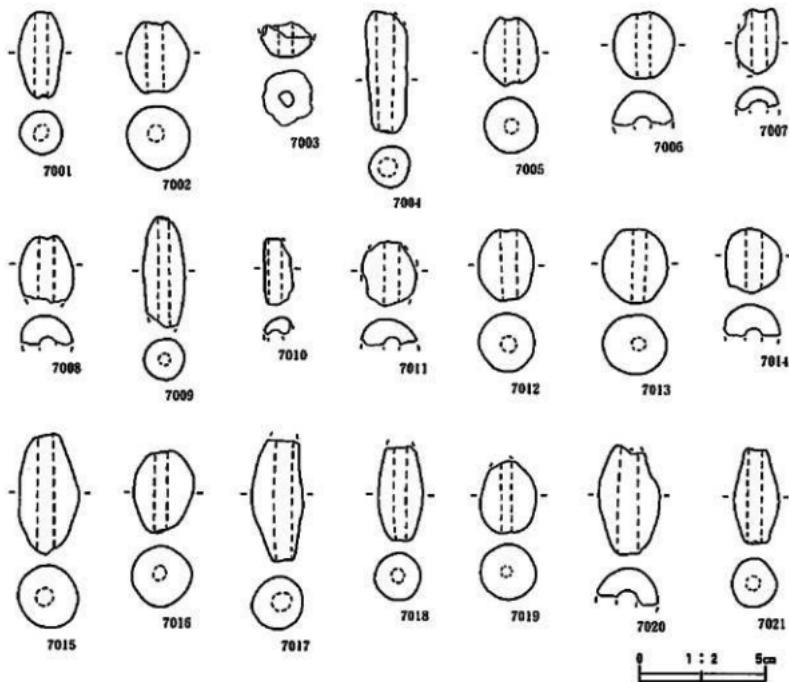


第208図 中・近世陶磁器⑫

表2 中・近世陶磁器觀察表

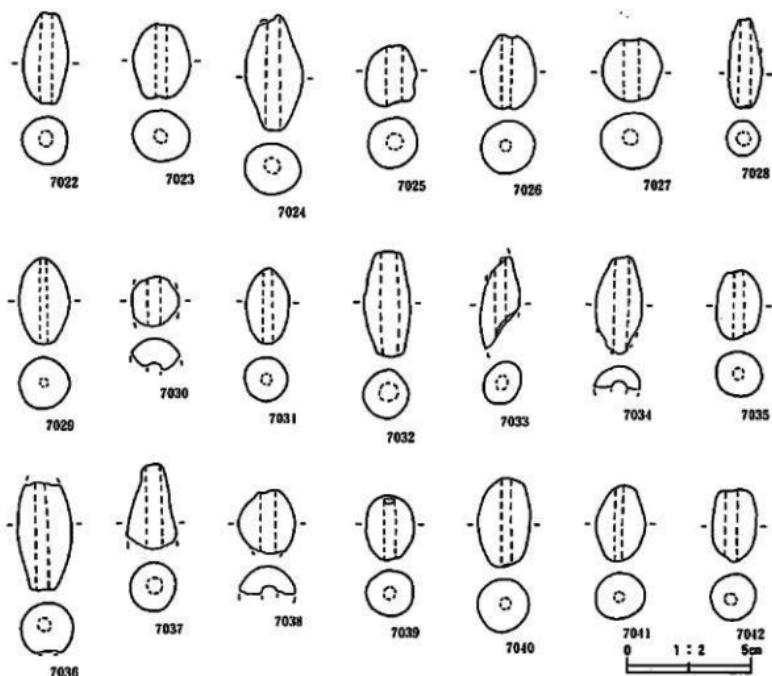
番号	製作地	出土地点	層位	種別・器種	胎土・釉薺	年代	口径	底径	器高	備考
6001	肥前窯	19S D 1	Ⅲ H 6 d	磁器・皿	白色・朱付	大徳V期(1380~1780)	12.7	8.3	4.1	草花文
6002	肥前窯	19S D 6	Ⅲ C 9 j	磁器・皿	白色・朱付	大徳V期(1380~1650)				
6003	肥前窯	19S D 6	Ⅲ G 9 j	磁器・皿	白色・朱付	大徳V期(1380~1650)				
6004	肥前窯	19S D 6	Ⅲ C 1 j	埋土上部	磁器・碗	白色・朱付	大徳V期(1380~1650)		3.0	
6005	肥前窯?	19S D 7	Ⅲ H 9 g	磁器・徳利	白色・朱付	大徳V期(1380~1650) ?				竹葉文
6006	肥前窯	19S D 7	Ⅲ H g 列	磁器・皿	白色・朱付	大徳V期(1380~1780)				
6007	肥前地方在地産	19S D 8	Ⅲ H 9 d	磁器・碗	白色・朱付	19C 中~			5.6	草花文
6008	肥前窯	19S D 8	Ⅲ H 9 d	磁器・蓋	白色・朱付	大徳V期(1380~1650)				内外面に草花文?
6009	肥前窯	19S E 2		磁器・皿	白色・朱付	大徳V期(1380~1780)				
6010	肥前窯?	19S K 5		磁器・碗	白色・朱付	19C 前半			8.9	草花文
6011	肥前地方在地産	19S K 5		磁器・皿	灰褐色	19C 中~			7.8	見込ハリ支え痕、閉口こし
6012	肥前窯	19S K 6		磁器・皿	白色・朱付	大徳V期(1380~1780)			6.9	
6013	肥前・相馬窯	19S K 6		磁器・香炉	灰白色	19C			7.0	
6014	肥前窯(辨津)	19S K 10		陶器・甕?	灰褐色	16C 末~17C 初			11.8	
6015	肥前窯	19S K 10	埋土下部	磁器・皿	灰褐色・朱付	大徳V期(1380~1780)			5.8	
6016	肥前窯	19S K 15	埋土	磁器・皿	白色・朱付	大徳V期(1380~1780)			2.6	
6017	中国窯	Ⅲ H 0 b		陶器・瓶	白色・朱付	16C ~17C 初			5.9	外腹の袖にムラ
6018	肥前窯	Ⅲ H 8 b		磁器・徳利	白色・朱付	大徳V~V期(13C後半~19C初)	6.8			丸文
6019	肥前窯	Ⅲ H 9 d		磁器・碗	白色・朱付	大徳V~1650 ?				草花文
6020	肥前窯	Ⅲ H 9 d	Ⅲ H 9 d 下位	磁器・碗	灰褐色・朱付	大徳V期(1380~1780)			4.0	
6021	肥前窯	Ⅲ H 9 g		磁器・碗	白色・朱付	大徳V期相当(19C前半)	8.8			再被熱による苔斑充れ
6022	京北地方在地産	Ⅲ H 9 g		磁器・碗	白色・朱付	19C 前~中			4.3	草花文、見込手縫き
6023	京北地方在地産	Ⅲ H 9 g		磁器・碗	白色・朱付	19C 前~中	10.6	3.5	5.1	草花文、見込手縫き
6024	肥前窯	Ⅲ H 9 g		磁器・香炉	白色・朱付	大徳V期(1380~1780)			9.3	内腹一部熱鉢
6025	肥前窯	Ⅲ H 9 g		磁器・火入れ	白色・朱付	大徳V~V期(13C後半~19C初)	12.5	9.5	7.3	竹葉文、呂宋文、内腹熱鉢
6026	肥前窯	Ⅲ H 9 g		磁器・碗	白色・朱付	大徳V朝相当(19C前半)	9.2	3.5	4.8	見込手縫き
6027	肥前窯	Ⅲ H 9 h		磁器・碗	白色・朱付	大徳V期相当	9.4	4.4	6.0	見込手縫き
6028	肥前窯	Ⅲ H 9 h		磁器・碗	白色・朱付	大徳V期(1380~1780)	10.8			
6029	肥前窯	Ⅲ H 9 h		磁器・皿	白色・朱付	大徳V~V期(13C後半~19C初)			11.3	草花文
6030	肥前窯	北半	Ⅲ 陶	磁器・皿	灰白色・朱付	大徳V期(1380~1780)	13.1	7.4	3.0	見込五弁花、蛇目輪調子
6031	京北地方在地産	調查区北側	埋土	磁器・徳利	白色・朱付	19C 前~中葉			7.5	内腹無輪、底部少損
6032	肥前窯	調査区北側	Ⅲ 陶	磁器・皿	白色・朱付	大徳V期(1380~1650)				内面絵
6033	肥前窯	調査区北半	Ⅲ 陶	磁器・皿	白色・朱付	大徳V~V期(13C後半~19C初)	10.8	5.7	2.2	草花文
6034	肥前窯	調査区北半	Ⅲ 陶	磁器・碗	白色・朱付	大徳V~V期(13C後半~19C初)	11.4			網目文
6035	肥前窯	調査区西北部	埋土	磁器・皿	白色・朱付	大徳V期相当(19C前半)			11.1	
6036	肥前窯	調査区西北部	土上	磁器・碗	灰褐色・朱付	大徳V期(1380~1780)			9.4	草花文
6037	京北地方在地産	調査区北半	埋土	磁器・皿	白色・透明釉	19C 前半、耳文組、頸凹部?			9.5	3.8
6038	切込窯	調査区北半	埋土	磁器・碗	灰色・朱付	19C 前半			12.3	草花文、茎路
6039	肥前窯	調査区北西	埋土	磁器・皿	灰褐色・朱付	大徳V期(1380~1780)	13.5	7.2	3.8	草花文、茎路、雷文
6040	肥前窯	調査区北西	埋土	磁器・皿	白色・朱付	大徳V期(1380~1650)	11.4	4.8	3.2	草花文、茎路、雷文
6041	在地産	19P 10 i	埋土	陶器・甕	灰褐色・鐵釉	19C			12.6	外腹熱鉢部分あり
6042	肥前窯(辨津)?	19P 19 i	埋土	陶器・皿	淡黄色・透明釉	16C 末~17C 初?			10.5	

番号	製作地	出土地点	場位	種別・形態	胎土・釉色	年代	口径	底径	器高	備考
6043	在地名?	19S D 1	Ⅲ H 7 d	陶器・人形	陶灰色・透明釉	19C 以降		6.3		内面無鉢
6044	窓戸・美濃州	19S D 1	Ⅲ H 7 d	陶器・鉢	淡青色	17C				内面鉢厚い
6045	窓戸・美濃州	19S D 1	Ⅲ H 8 d	陶器・鉢?	浅度橙色・灰釉	17C				外面一部鉢脚
6046	窓戸・美濃州	19S D 6	B G 4 j	陶器・皿	浅度橙色・灰釉	16C 後半				
6047	東北地方在地産	19S D 7		陶器・鉢脚	明示褐色・灰釉	19C 以降				
6048	大堀・相馬産	19S D 7	Ⅲ H 8 h	陶器・皿	灰色・褐灰釉	19C 前半		4.6		高台無鉢
6049	窓戸・美濃州	19S D 7	Ⅲ H g 列	陶器・皿	灰白色・長石釉	19C 前半		11.1		
6050	在地産	19S D 7	Ⅲ H 9 g	陶器・甕	陶灰色・灰釉	19C 曲半				
6051	窓戸・美濃州	19S E 2	2階北半	陶器・甕	にぶい黄褐色・長石釉	18C 技半	6.2			
6052	窓戸・美濃州 (志野)	19S E 4 南半	稻上土上部	陶器・甕?	浅黄褐色・灰釉	16C 末~17C 初				
6053	窓戸・美濃州 (志野)	19S E 6		陶器・皿	にぶい褐色・長石釉	16C 末~17C 初	10.2	6.2	1.6	志野絵
6054	肥前原 (吉津)	19S E 6	西堤じり塙	陶器・甕	陶灰色・長石釉	16C 末~17C 初		4.3		外面下部鉢脚
6055	窓戸・美濃州 (志野)	19S E 6 北半	西堤じり塙	陶器・皿	灰白色・長石釉	16C 末~17C 初	12.4	6.3	2.7	志野青虹
6056	窓戸・美濃州 (志野)	19S E 6 北半	西堤じり塙	陶器・皿	浅黄褐色・長石釉	16C 末~17C 初	11.8	7.6	2.2	志野絵・ハリ支え痕
6057	窓戸・美濃州	19S E 8		不明	陶器・皿	灰白色・灰釉	16C 後半	8.1	3.5	2.2
6058	肥前原 (吉津)	19S E 9	4層	陶器・甕	陶灰色・長石釉	16C 末~17C 初		3.5		
6059	肥前原 (吉津)	19S K 4	2	陶器・甕	にぶい褐色・灰釉	16C 末~17C 初				
6060	在地産	19S K 5		陶器・鉢脚	にぶい赤褐色・灰釉	19C 以降				
6061	大堀・相馬産	19S K 10	埋土下部	陶器・甕	灰白色・灰釉・灰胎	18C	10.6			錐錐窓
6062	大堀・相馬産	19S K 14	埋土	陶器・皿	灰褐色・褐灰釉	19C 前半		3.8		外面部鉢
6063	大堀・相馬産	Ⅲ H 0 a	陶瓦	陶器・甕	にぶい黄褐色・灰釉	16C 代				
6064	大堀・相馬産	B G 2 j	田端中	陶器・皿	灰白色・灰釉	18C				
6065	肥前原	Ⅲ H 3 b	直槽	陶器・皿	にぶい黄褐色・陶輪附	大綱IV期 (1690~1780)				外面部鉢部分あり
6066	肥前原	Ⅲ H 0 b	肥前塙第一括	陶器・火入れ	深褐色・朱付	18C 前半	8.5			陶器朱付・内面・部色跡
6067	肥前原	Ⅲ H 0 e	N層下位	陶器・鉢	陶灰色・透明釉	18C 前半				
6068	窓戸・美濃州 (志野)	19S H 3 a	N層上面	陶器・皿	にぶい褐色・長石釉	16C 末~17C 初				志野絵
6069	窓戸・美濃州 (志野)	Ⅲ H 7 e	直槽	陶器・皿	にぶい褐色・反石脚	16C 末~17C 初				志野絵
6070	東北地方在地産	Ⅲ H 7 e	直槽	陶器・甕	陶灰色・灰釉	19C	5.6	4.2	5.0	なまこ脚
6071	肥前原 (吉津)	Ⅲ H 7 e	直槽	陶器・皿	灰青褐色・透明釉	16C 末~17C 初	12.2	4.4	3.7	外面部鉢部分あり
6072	大堀・相馬産	19H 9 g	陶瓦	陶器・皿	灰白色・褐灰釉	19C 前~中	9.1	3.7	1.9	高台無鉢
6073	大堀・相馬産	Ⅲ H 9 h	複瓦	陶器・皿	灰色・褐灰釉	19C 前~中	12.4			
6074	大堀・相馬産	陶瓦区北側	複瓦	陶器・急傾	灰白色・褐灰釉	19C 前~中				
6075	東北地方在地産	陶瓦区北側	複瓦	陶器・圓	灰白色・朱付	19C 前~中		3.6		草花文
6076	大堀・相馬産	陶瓦区北半	日朝	陶器・甕	灰青色・褐灰釉	19C 前~中		3.6		高台無鉢
6077	產地不明	陶瓦区北西部	陶器・甕	陶灰色・透明釉?	20C 前半・『福島』・灰釉?	7.8	7.0	6.8		
6078	窓戸・美濃州	陶瓦区北側	複瓦	陶器・甕	灰白色・灰灰釉	16C 後半	14.9	10.7	2.1	
6079	窓戸・肥	陶瓦区南側	陶器・甕	灰白色・朱付	灰白色・朱付	16C 末~19C 初	8.2			陶器朱付・草花文
6080	肥前原	陶瓦区西北部	複瓦	陶器・甕	深灰色・朱付	18C 前半	11.1			陶器朱付
6081	肥前原	陶瓦区西北部	複瓦	陶器・甕	灰白色・透明釉	18C 後半				貢入
6082	大堀・相馬産	不明	陶器・甕	灰白色・灰釉	18C 代		4.0			高台無鉢
6083	窓戸・美濃州 (志野)	不明	陶器・皿	浅度橙色・長石釉	16C 末~17C 初					志野絵
6084	大堀・相馬産	南北ベルト	複瓦	陶器・甕	灰白色・褐灰釉・铁锈	19C 前~中		3.3		鐵銹紋
6085	大堀・相馬産	南北ベルト	複瓦	陶器・甕	青灰色・褐灰釉	19C 沈~中	12.8	4.8	3.9	高台無鉢



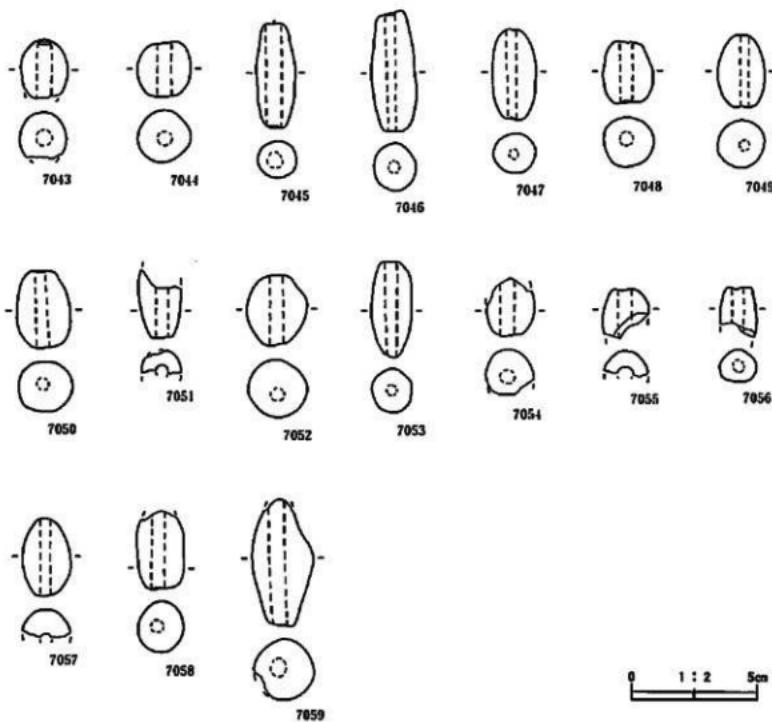
番号	種類	出土地点	層位	長さ	幅	重さ	備考
7001	土錐	19H272	標土	3.4	1.7	7.4	
7002	土錐	■H0 i	5b	2.8	2.5	14.7	
7003	土錐	■H0 i	6	(1.3)	(2.1)	3.7	
7004	土錐	■H0 i	5d	(4.8)	1.6	11.1	
7005	土錐	■H0 i	5d	(2.7)	2.1	10.3	
7006	土錐	■H0 i	5d	(2.5)	(2.4)	6.5	
7007	土錐	■H3 h	5b	(3.6)	(1.7)	2.3	
7008	土錐	■H3 h	5	(2.6)	2.1	5.4	
7009	土錐	■H3 i	5	4.3	1.6	9.9	
7010	土錐	■H5 i	5b	(2.6)	(1.2)	2.2	
7011	土錐	■H5 i	5d	(2.5)	(2.2)	4.3	
7012	土錐	■H5 j	6	2.7	2.2	11.2	
7013	土錐	■H6 i	6	2.8	2.6	14.3	
7014	土錐	■H7 i	6	(2.4)	(2.3)	5.8	
7015	土錐	■H7 j	6	4.7	2.4	19.0	
7016	土錐	■H7 j	6	3.3	2.4	14.3	
7017	土錐	■H7 j	9a	(4.8)	2.0	15.5	
7018	土錐	■H7 j	9a	(3.7)	1.8	9.5	
7019	土錐	■H7 j	9a	(2.6)	2.2	11.4	
7020	土錐	■H8 i	5d	(4.3)	2.4	10.5	
7021	土錐	■H8 i	5d	3.7	1.8	8.7	

第209図 土製品① 土錐



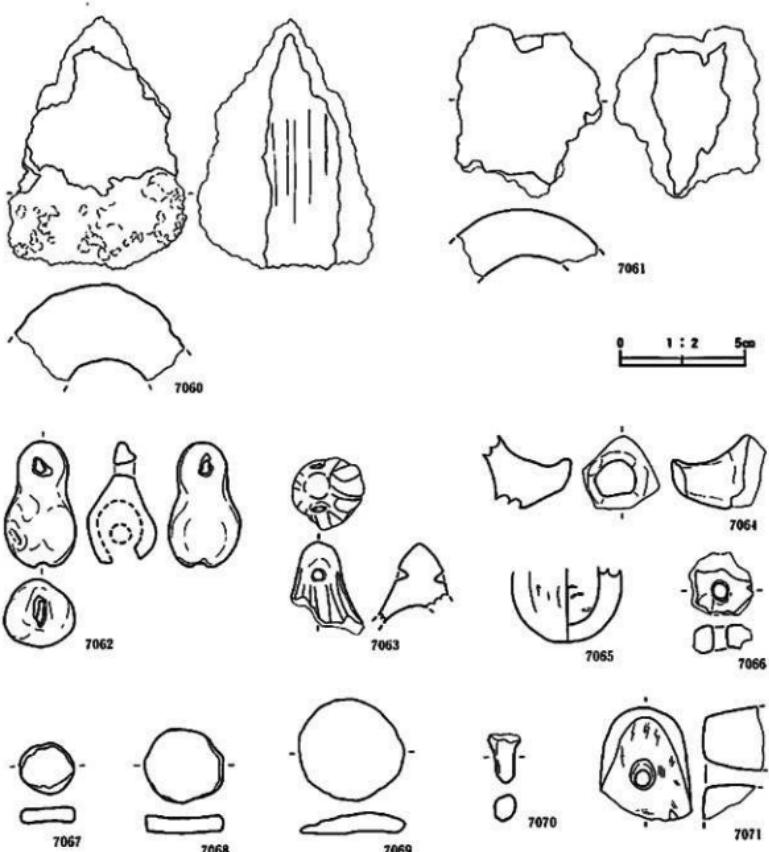
番号	種類	出土地点	層位	長さ	幅	高さ	参考
7022	土錐	ⅣH 8 i	5d	(3.5)	1.8	10.6	
7023	土錐	ⅣH 8 i	5d	2.9	2.3	12.5	
7024	土錐	ⅣH 8 j	5c	4.6	2.3	13.2	
7025	土錐	ⅣH 9 i	6	2.4	2.1	9.2	
7026	土錐	ⅣH 9 i	6	3.0	2.2	12.7	
7027	土錐	ⅣH 9 i	6	2.5	2.4	12.1	
7028	土錐	ⅣH 9 i	7e	3.6	1.3	3.8	
7029	土錐	ⅣH 9 i	5d	3.4	2.0	11.2	
7030	土錐	ⅣH 9 i	5d	(2.0)	(1.9)	3.7	
7031	土錐	ⅣH 9 j	9b	2.9	1.7	7.4	
7032	土錐	ⅣH 9 a	被瓦	4.2	1.9	11.3	
7033	土錐	ⅣH 1 i	1q	(3.6)	(1.5)	7.0	
7034	土錐	ⅣH 1 i	1r	3.8	(1.6)	5.4	
7035	土錐	ⅣH 1 i	6	2.8	1.8	9.3	
7036	土錐	ⅣH 1 i	5d	(4.3)	2.2	19.2	
7037	土錐	ⅣH 2 i	5d	(3.4)	(2.0)	7.2	
7038	土錐	ⅣH 2 i	1i	(2.5)	(2.3)	4.7	
7039	土錐	ⅣH 2 j	6	2.5	1.9	7.3	
7040	土錐	ⅣH 3 i	1q	3.6	2.1	13.7	
7041	土錐	ⅣH 3 i	1q	3.0	1.9	10.0	
7042	土錐	ⅣH 3 i	1q	2.9	1.7	7.8	

第210図 土製品② 土錐



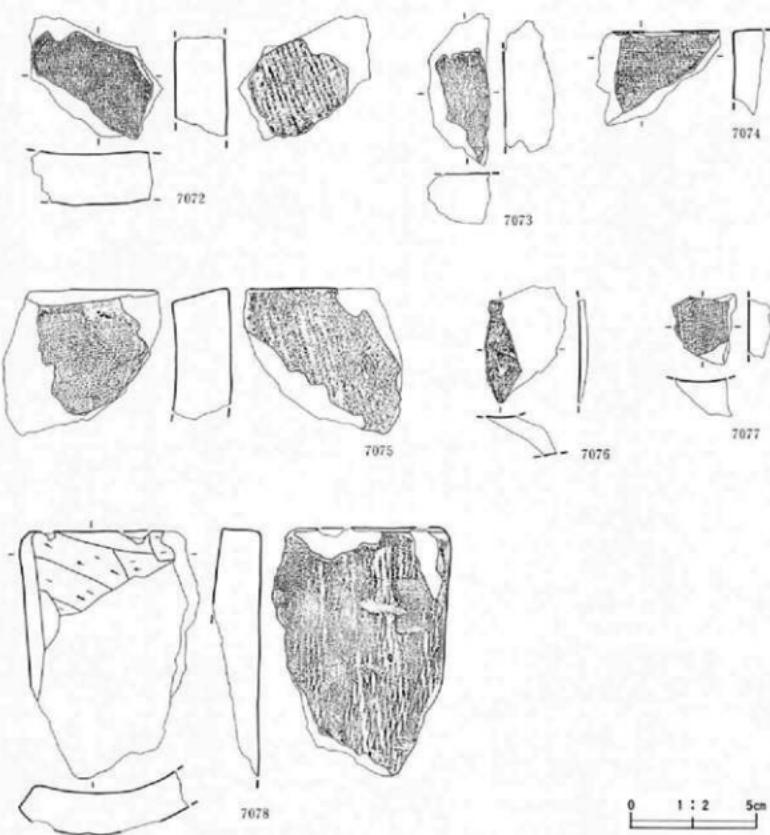
番号	種類	出土地点	用意	長さ	幅	高さ	備考
7043	土錐	NH3 i	1q	(2.3)	(1.9)	6.4	
7044	土錐	NH3 i	1q	2.1	2.1	8.4	
7045	土錐	NH3 i	1r	4.2	1.5	7.8	
7046	土錐	NH3 i	1r	4.7	1.7	14.1	
7047	土錐	NH3 i	1r	3.5	1.7	8.3	
7048	土錐	NH3 i	1r	2.5	2.0	8.8	
7049	土錐	NH3 i	1r	2.8	1.6	8.0	
7050	土錐	NH3 i	1r	3.0	2.1	12.2	
7051	土錐	NH3 i	1i	(2.7)	(1.7)	3.2	
7052	土錐	NH3 j	1n	2.8	2.4	12.0	
7053	土錐	NH3 j	1q	3.7	1.6	8.7	
7054	土錐	NH3 j	1r	(2.3)	(1.9)	5.6	
7055	土錐	NH4 h	1i	(1.9)	(1.8)	2.9	
7056	土錐	NH4 h	1i	(1.9)	(1.5)	3.2	
7057	土錐	NH4 j	1q	(3.1)	(1.9)	6.0	
7058	土錐	NH1 a	7d	(3.1)	1.9	8.9	
7059	土錐	不明	不明	(5.0)	2.4	18.0	

第211図 土製品③ 土錐



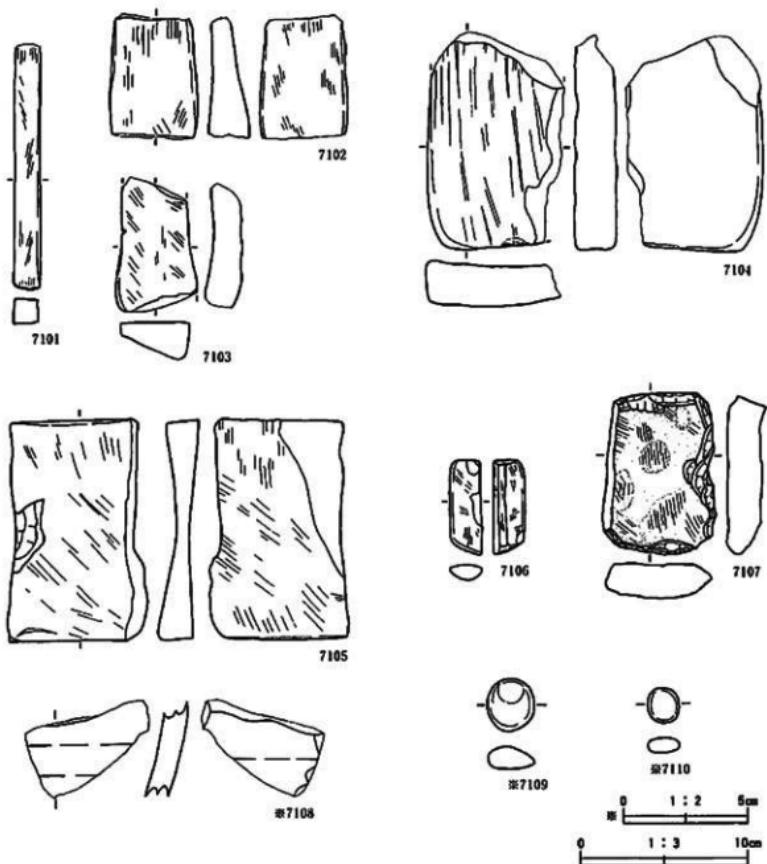
番号	種類	出土地点	層位	長さ	幅	重さ	備考
7060	羽口	Ⅲ H 6 i	7d				
7061	羽口	Ⅲ H 5 h	5b				
7062	土鉢	Ⅲ 19 a	9b	4.9	2.8	16.7	完形
7063	土鉢	Ⅲ H 8 j	7a	(3.6)	(2.9)	13.1	
7064	耳飾?	Ⅲ H 3 h	5b				
7065	レリiefs?	Ⅲ H 3 h	5b				
7066	不明	Ⅲ H 3 h	1i				化あり
7067	円盤状	Ⅲ H 5 i	5d	(2.2)			
7068	円盤状	Ⅲ H 5 i	5b	(2.1)			
7069	円盤状	Ⅲ H 5 i	5b	(2.4)			
7070	脚?	IV 11 7 e	H d	(2.0)			
7071	不明	Ⅲ H 9 i	1 ~ 3	(4.6)	(3.7)	37.0	

第212図 土製品④ フイゴ羽口・土鉢ほか



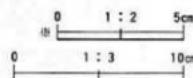
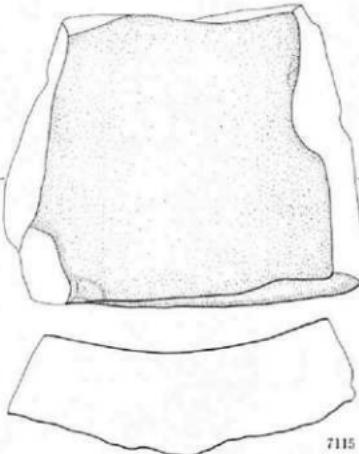
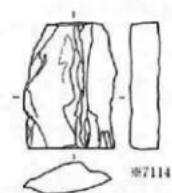
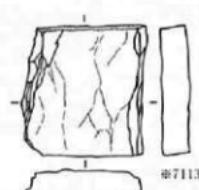
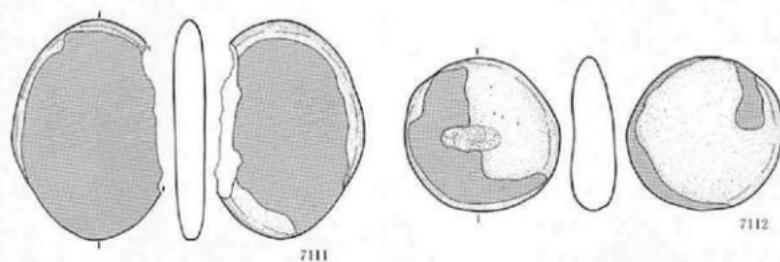
番号	種類	出土地点	層位	長さ	幅	重さ	備考
7072	瓦	19S E 3	理土上部	(3.8)	2.0		平瓦
7073	瓦	Ⅲ H 0 i	5 b	(5.0)			平瓦
7074	瓦	Ⅲ H 0 i	5 d	(3.2)			平瓦
7075	瓦	Ⅲ H 3 f	器物上部	(4.6)	2.2		平瓦
7076	瓦	Ⅲ H 2 j	1 q	(4.0)			平瓦
7077	瓦	Ⅲ H 2 j	5 d	(2.6)			平瓦
7078	瓦	Ⅲ H 2 i	1 q	(9.6)	1.8		平瓦

第213図 土製品⑤ 12世紀の瓦



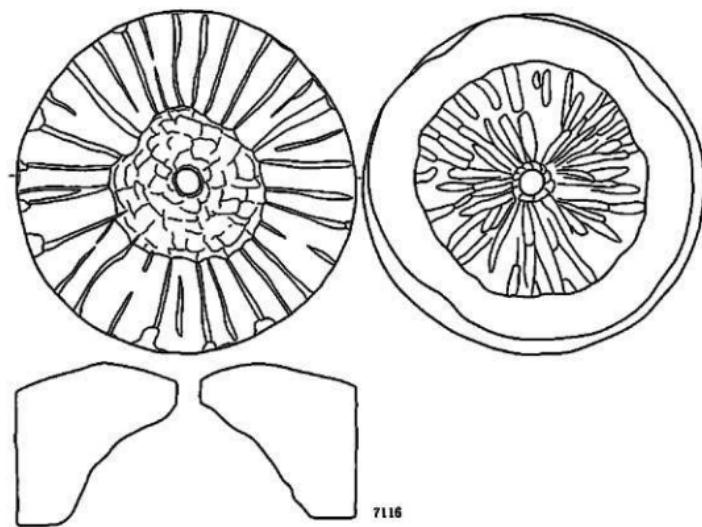
番号	出土地点	層位	性質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	产地
7101	I9SE3北半	1f	砾石?	14.5	1.7	1.4	60.1	石英安山岩	奥羽山脈
7102	IVH4 i	1q	砾石	7.3	5.3	2.5	145.1	霞灰岩	奥羽山脈
7103	IVH2 j	1i	砾石	(8.0)	4.8	2.2	106.0	石英安山岩	奥羽山脈
7104	IVH2 j	1q	砾石	(13.0)	(7.6)	2.6	337.2	霞灰岩	奥羽山脈
7105	IIIH8 i	5d	砾石	13.1	8.3	2.2	314.6	頁岩	北上山地
7106	IIIH0 i	5d	砾石	5.7	2.0	0.9	16.2	頁岩	北上山地
7107	IIIH0 i	5d	砾石	9.7	6.9	2.4	254.5	頁岩	北上山地
7108	I9SE3北半	1m	石鍋	(3.8)	(5.0)	1.0	24.8	霞石	北上山地
7109	IVH4 h	1i	砾石?	2.1	1.9	0.65	4.7	頁岩	北上山地
7110	IVH4 j	1r	砾石?	1.4	1.3	0.6	1.7	頁岩	北上山地

第214図 石製品① 砥石・石鍋・基石

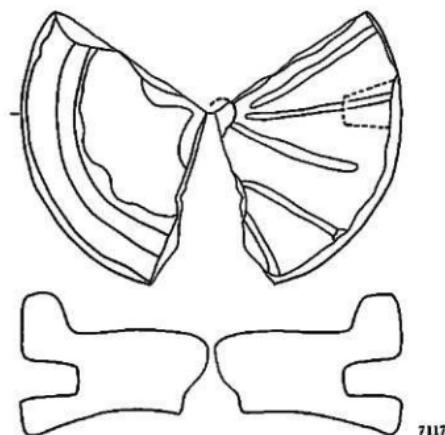


番号	出土地点	層位	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	产地
7111	ⅣH 1 i	5d	焼けた礫	12.9	8.9	1.8	298.6	安山岩	奥羽山脈
7112	ⅣH 1 i	5d	焼けた礫	9.0	9.2	2.7	306.3	安山岩	奥羽山脈
7113	ⅢH 8 i	5d	剥片状	5.0	3.7	1.3	29.1	頁岩	北上山地
7114	ⅢH 8 i	5d	剥片状	5.2	5.0	1.2	58.1	頁岩	北上山地
7115	19SD 6 II G 9 j		礫(両面)	(17.0)	21.3	8.0	3081.1	安山岩	奥羽山脈

第215図 石製品② 焼けた礫ほか



7116

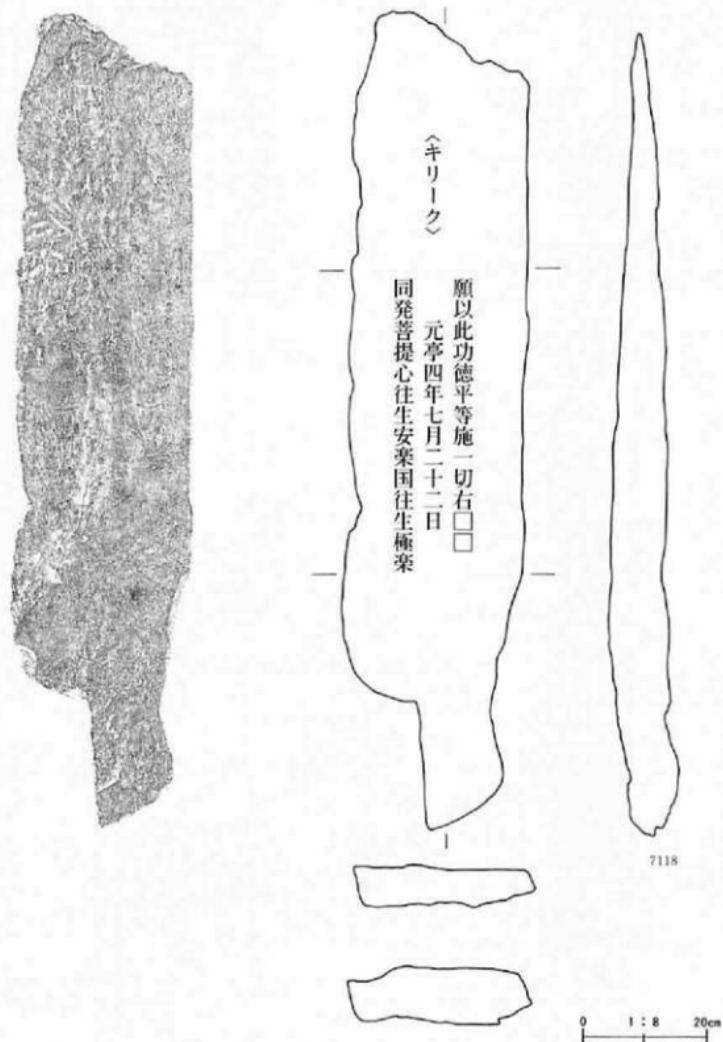


7117

0 1 : 4 10cm

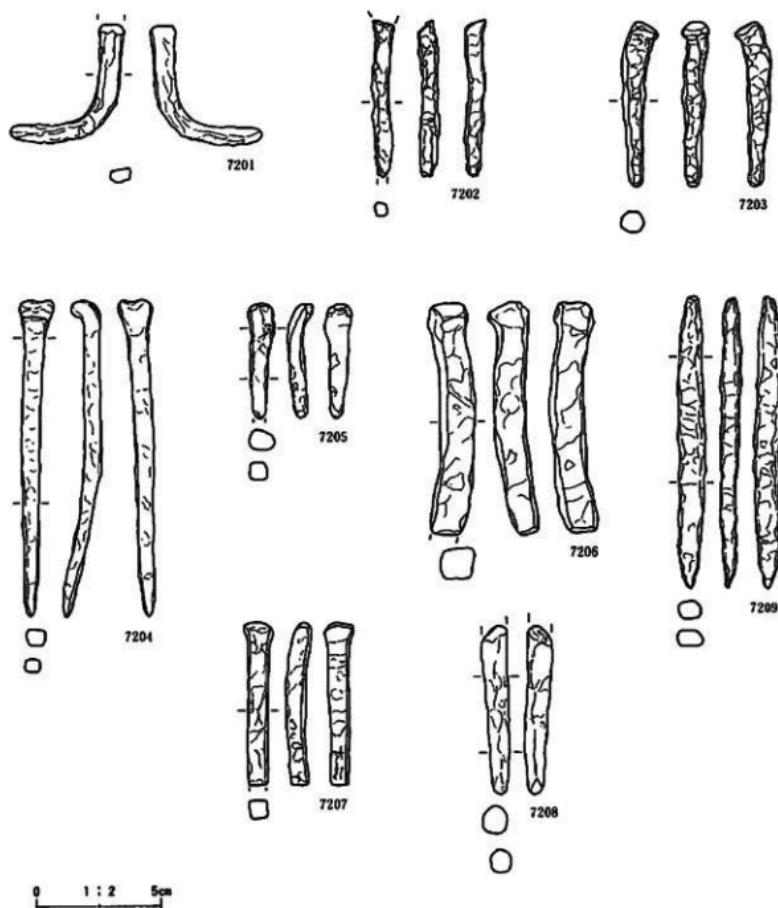
番号	出土地点	層位	種類	長径 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	产地
7116	I9P-242	埋土	石臼	127.2	12.9	104	安山岩	鳥羽山脈	
7117	I9P-246	埋土	石臼	15.0	11.4	2851.2	安山岩	鳥羽山脈	

第216図 石製品③ 石臼



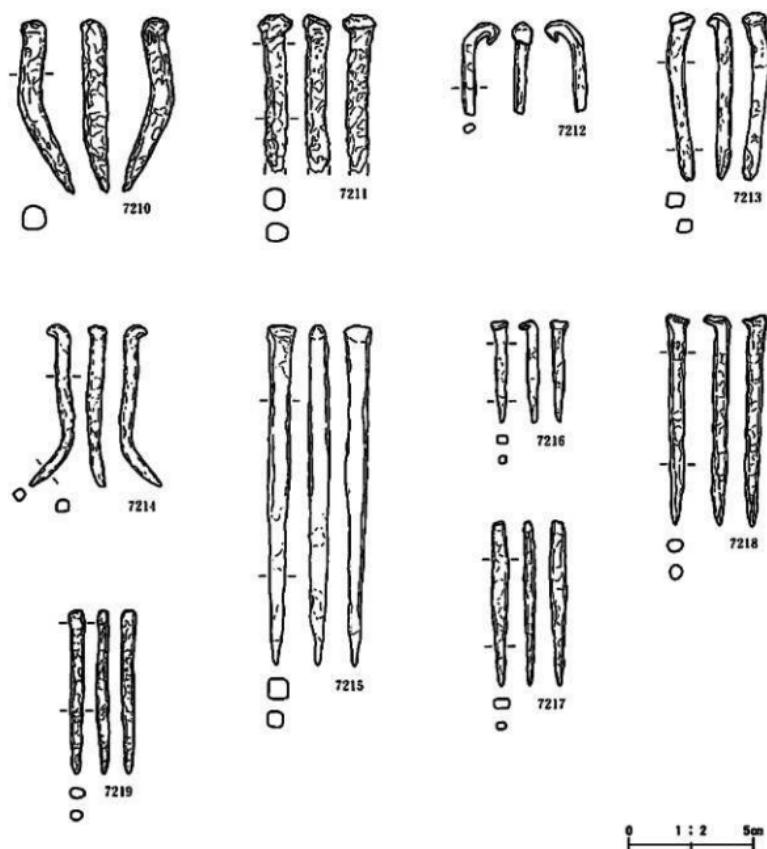
番号	出土地点	時代	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	産地
7118	19S E 6北半	理土	板碑	128.0	29.5	0.7~9.6	52.5kg	頁岩	北上山地

第217図 石製品④ 板碑



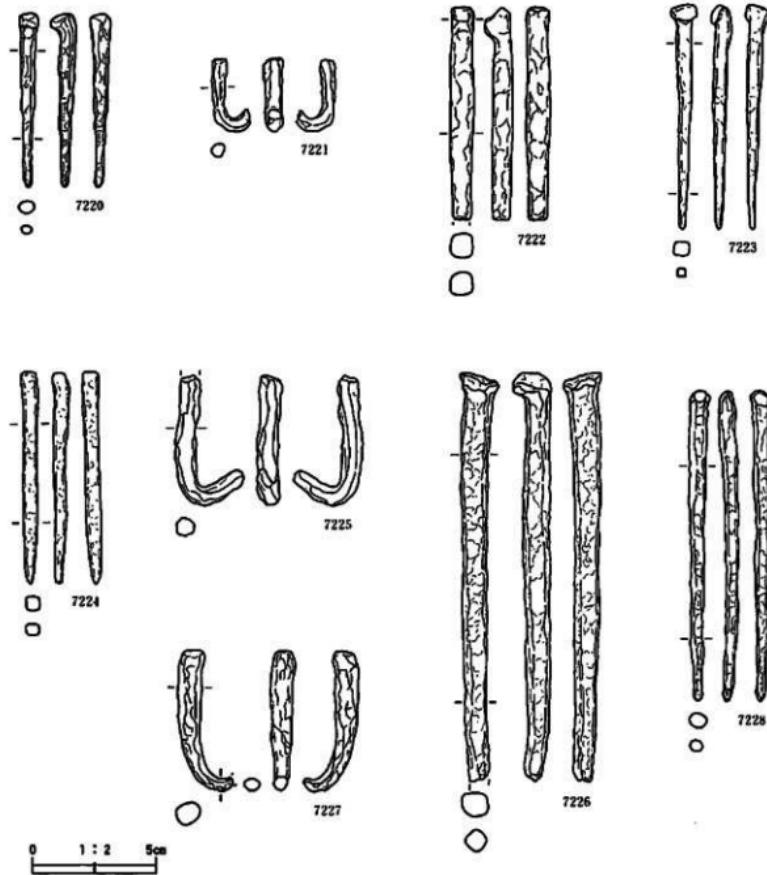
番号	出土地点	層位	種類	長さ	幅	厚さ	重量	備考
7201	19S D 9	埴土	角針	(4.7)	0.8	0.6	10.7	
7202	19S E 3	埴土	角針	(6.2)	0.5	0.6	5.1	
7203	19S E 3	埴土上部	角針	6.6	0.9	0.8	8.8	
7204	ⅢH 0 i	5d	角針	12.5	0.8	0.7	23.2	
7205	ⅢH 1 f	5	角針	(4.5)	1.1	0.8	4.9	
7206	ⅢH 1 g	5	角針	(9.3)	1.4	1.2	33.1	
7207	ⅢH 3 h	5b	角針	(6.5)	1.3	0.7	17.9	
7208	ⅢH 6 i	5b	角針	(6.7)	0.9	1.1	11.13	
7209	ⅢH 6 i	5d	角針	11.7	1.1	0.7	14.68	

第218図 金属製品①



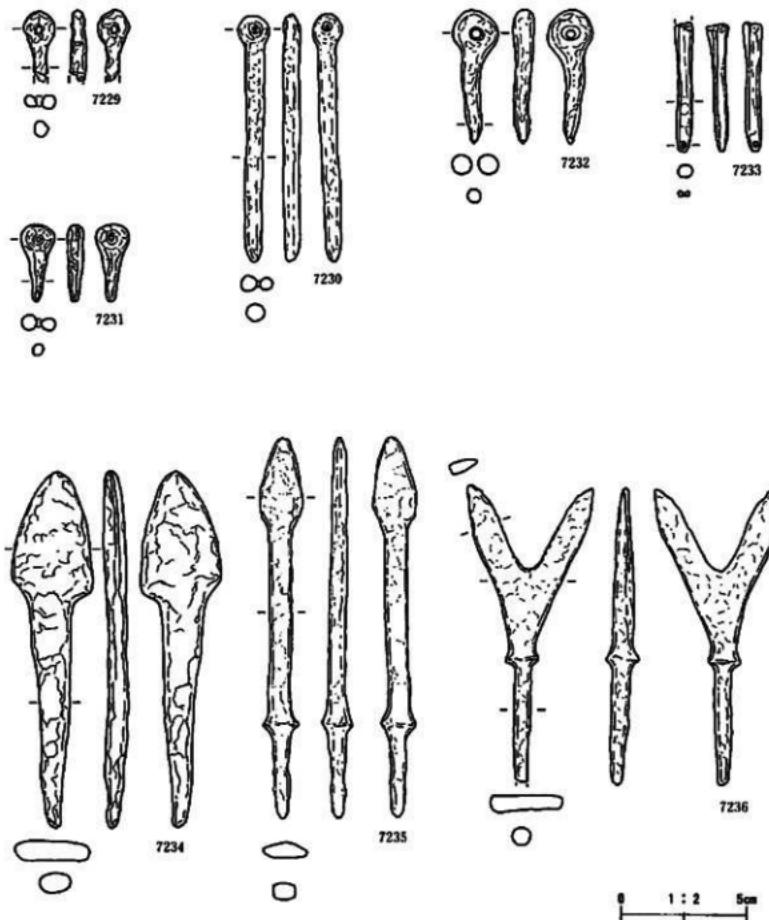
番号	出土地点	埋位	形態	長さ	幅	厚さ	重量	備考
7210	ⅢH 6 i	5d	角釘	6.9	0.9	0.9	9.3	
7211	ⅢH 7 i	5d	角釘	(6.3)	0.9	0.8	8.6	
7212	ⅢH 7 i	5d	角釘	3.6	0.5	0.4	2.6	
7213	ⅢH 7 i	5d	角釘	6.7	0.7	0.6	9.1	
7214	ⅣH 1 i	1r	角釘	6.5	0.5	0.5	7.7	
7215	ⅣH 1 i	1r	角釘	13.6	0.8	0.8	26.3	
7216	ⅣH 1 i	5d	角釘	4.1	0.4	0.4	7.9	
7217	ⅣH 1 i	5d	角釘	6.6	0.7	0.4	4.5	
7218	ⅣH 1 i	5d	角釘	8.4	0.6	0.6	8.6	
7219	ⅣH 1 i	5d	角釘	6.5	0.6	0.4	3.9	

第219図 金属製品②



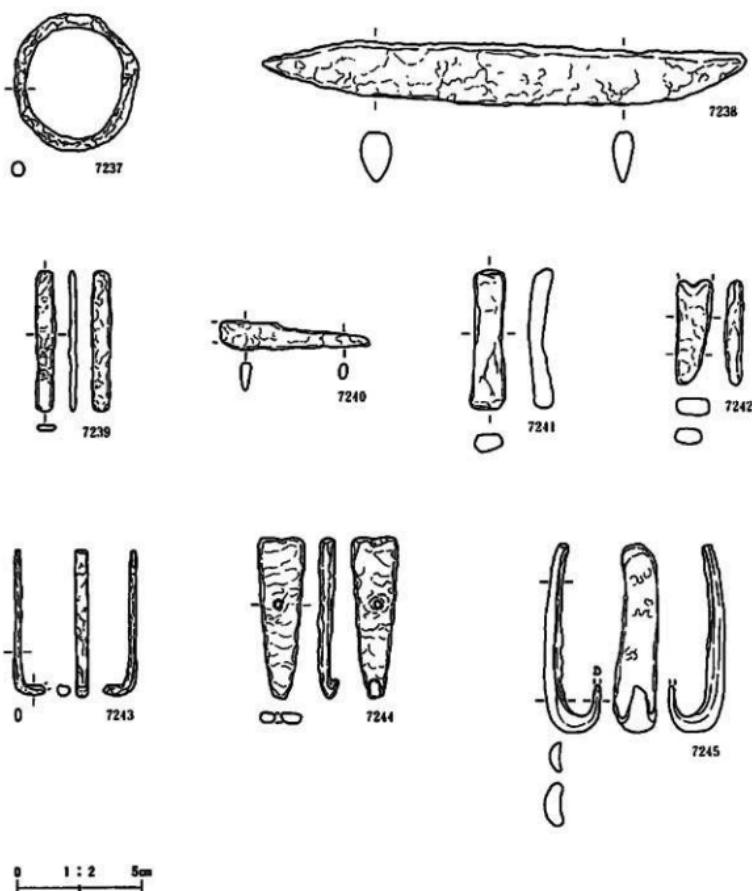
番号	出土地点	層位	種類	長さ	幅	厚さ	重さ	備考
7220	WH 1 i	Sd	角針	6.9	0.6	0.5	7.9	
7221	WH 1 i	1q	角針	2.9	0.5	0.5	2	
7222	WH 1 j	1i	角針	(8.5)	0.9	1.1	16.6	
7223	WH 2 i	1i	角針	8.9	0.6	0.6	9.1	
7224	WH 2 i	1q	角針	8.5	0.6	0.6	8.8	
7225	WH 2 i	1q	角針	(5.3)	0.7	0.7	9.9	
7226	WH 2 i	1q	角針	(16.4)	1.1	0.9	35.3	
7227	WH 3 i	1q	角針	(5.6)	1.1	0.9	10.4	
7228	WH 3 i	1r	角針	12.4	0.7	0.6	15.7	

第220図 金属製品③



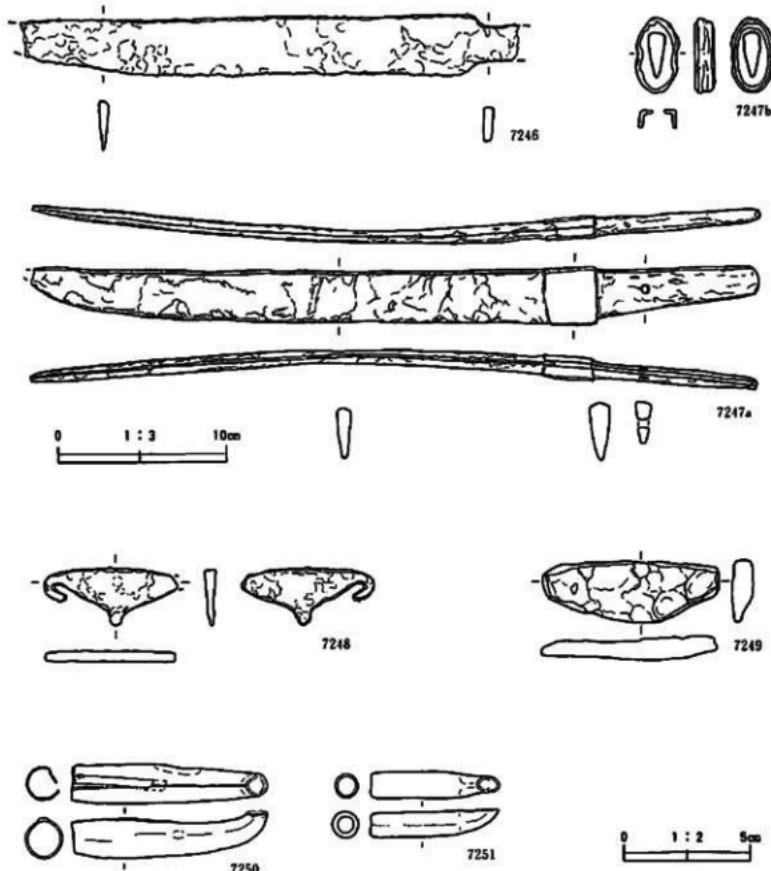
番号	出土地点	層位	種類	長さ	幅	厚さ	重量	備考
7229	ⅢH 6 i	5d	金具	(2.7)	1.3	0.6	2.3	
7230	ⅣH 1 i	1q	金具	9.6	1.2	0.7	17.7	
7231	ⅣH 1 i	5d	金具	3.1	1.4	0.6	2.6	
7232	ⅣH 3 h	1i	金具	5.2	1.8	0.7	7.6	
7233	ⅣH 1 i	1r	片状	(5.0)	0.6	0.5	3.2	
7234	ⅢH 9 i	5b	鉄錐	13.9	3.1	0.8	34.7	
7235	ⅣH 1 i	1q	鉄錐	14.8	1.7	0.7	26.8	
7236	ⅣH 1 i	1q	鉄錐	(11.5)	2.8	0.7	24.6	

第221図 金属製品④



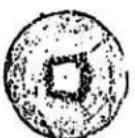
番号	出土地点	層位	機械	長さ	幅	厚さ	重量	備考
7237	NH4 i	1i	環状製品	5.3	0.5	0.6	11.4	
7238	NH3 h	1i	刀子	19.6	2.3	1.2	83.5	
7239	NH2 b	不明	不明	(5.5)	0.8	0.3	3.5	
7240	NH3 i	1q	刀子?	(6.1)	1.1	0.5	4.5	
7241	19SD08		不明	5.5	1.1	0.7	12.3	
7242	MH0 i	5d	不明	(4.2)	1.3	0.7	5.3	
7243	MH1 g	5d	不明	(5.7)	0.5	0.4	1.9	
7244	NH1 i	1q	不明	6.4	1.7	0.4	12.5	中央部に孔あり
7245	NH3 h	1i	不明	(7.5)	1.7	0.6	13.8	

第222図 金属製品⑤



番号	出土地点	層位	種類	長さ	幅	厚さ	重量	備考
7246	19P 1	柱土	刀	(29.8)	2.8	0.6	166.0	
7247 a	E G O j	Ⅱ層相当	刀	43.3	3.3	1.1	318.5	
7247 b	E G O j	Ⅱ層相当	切羽	4.4	2.3	1.1	11.9	
7248	19S D 6	埋土上部	火打ち金具	(2.2)	5.2	0.4	7.8	
7249	19S D 8		火打ち金具	2.3	7.1	0.8	26.45	
7250	調査K北西	壁上	キセル(管首)	7.8	1.4	1.6	17.2	
7251	調査K北西	Ⅱ層	キセル(管首)	5.2	0.9	0.9	9.8	

第223図 金属製品⑥



7252



7253



7254



7255



7256



7257

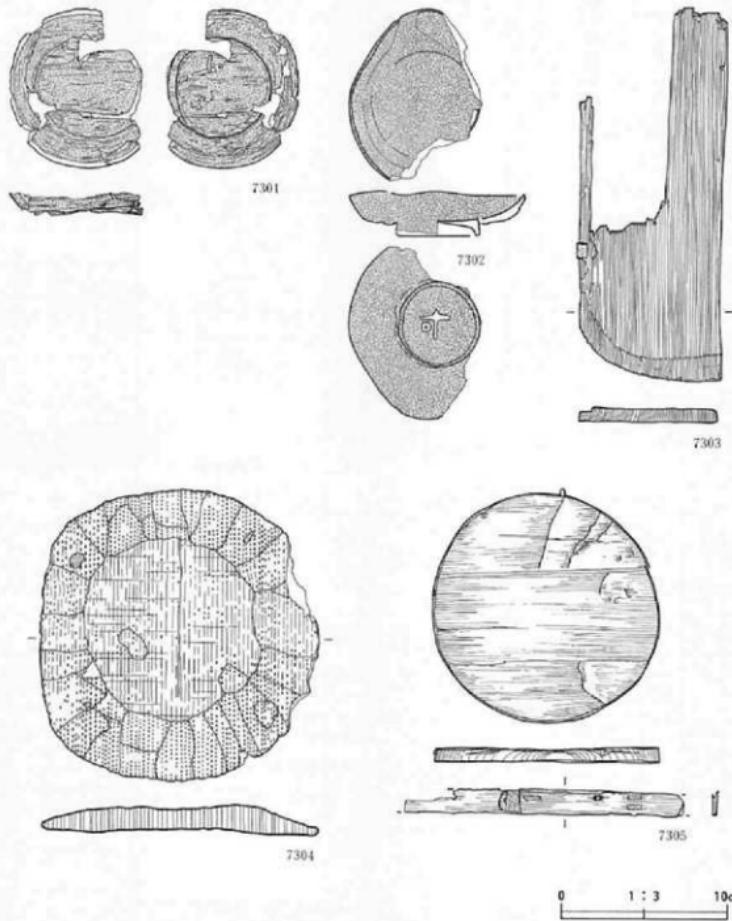


7258



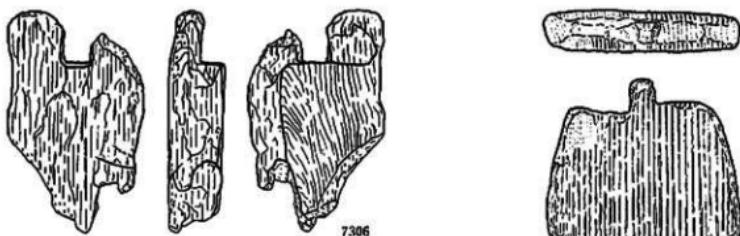
番号	出土地点	順位	種類	長さ	幅	厚さ	重量	備考
7252	ⅢH 6 i	5d	銭貨	径2.5		2.8		「元祐通寶」初鑄年1086年 北宋
7253	ⅢH 3 i	1r	銭貨	径2.5		2.4		「元祐通寶」初鑄年1017年 北宋
7254	ⅢH 9 g	横孔	銭貨	径2.7		3.9		「寛永通寶」新寛永・四文錢
7255	BG 8 i	5	銭貨	径2.5		2.5		「寛永通寶」
7256	ⅢH 9 g	横孔	銭貨	径2.3		2.0		「寛永通寶」
7257	19P103	埋土	銭貨	径2.2		2.2		「寛永通寶」
7258	ⅢH 9 g	横孔	銭貨	径2.3		2.1		「寛永通寶」

第224図 金属製品①



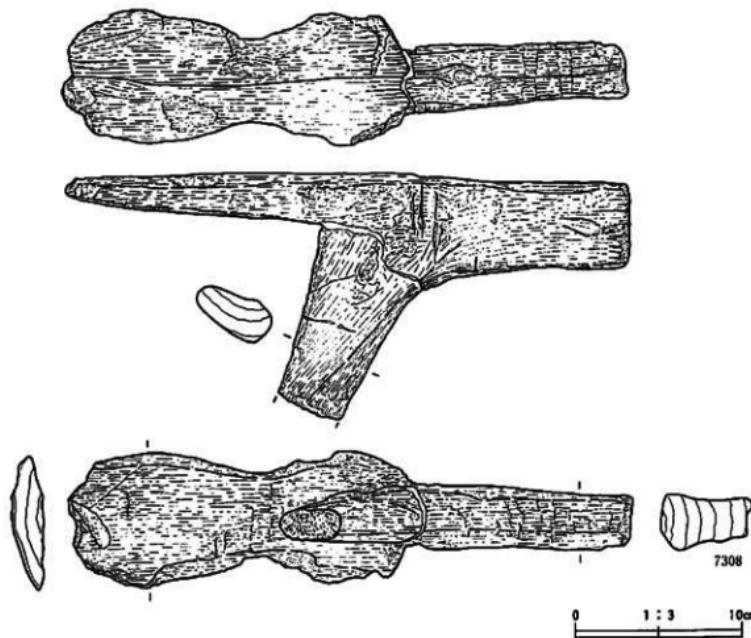
第225図 木製品①

番号	種類	長さ	幅	厚さ	出土地点	層位	樹種	同定番号	備考
7301	漆塗杓	(9.4)		(1.2)	III II 6 j	7 a	ケヤキ	32	
7302	漆塗杓	(10.7)		(2.7)	19SS E 2	1 j	ブナ属	1	
7303	曲物底板	(22.0)	(8.6)	0.8	IV I 2 a	8層下	アスナロ	31	
7304	曲物	(17.3)	(16.9)	1.5	III II 7 j	9 a	ケヤキ	37	
7305	曲物・タガ	径13.5		0.8	III H 7 j	8層下	ヒノキ属	30	タガー長さ (16.9)・幅1.5



7306

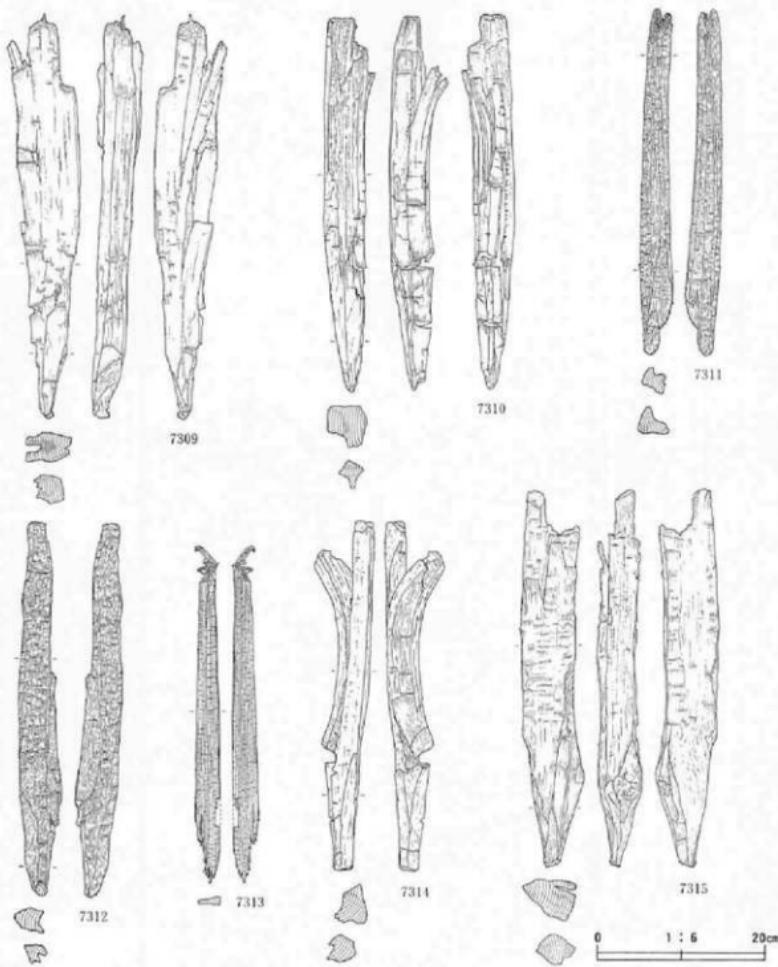
7307



0 1 : 3 10cm

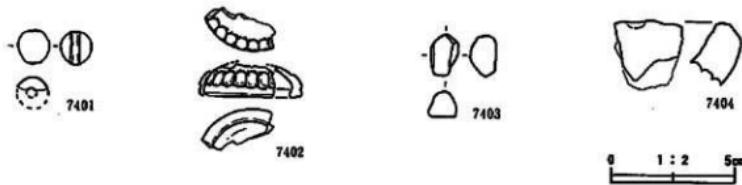
番号	種類	長さ	幅	厚さ	出土地點	層位	樹種	同定番号	備考
7306	下駄台	(13.0)	(8.2)	3.3	195E 8	1~6層	ケヤキ	4	
7307	下駄底面	9.7	11.8	2.4	195E 8	1~6層	クリ	5	
7308	筆	34.0	8.0	1.4~2.9	III 19 j	9d	エゴノキ属	38	削 - 664.2, 厚 32.3

第226図 木製品②



番号	種類	長さ	幅	厚さ	出土地点	層位	樹種	同定番号	備考
7309	木杭7	52.4	7.5		木柱列1	7d	コナラ属	11	
7310	木杭10	43.8	6.6		木柱列1	7d	コナラ属	12	
7311	木杭16	39.9	3.8		木柱列1	7c 4	コナラ属	13	
7312	木杭19	43.6	4.8		木柱列1	7c 5	クリ	14	
7313	木杭24	39.4	3.0		木柱列1	7c 5	クリ	15	加工されず
7314	木杭29	40.9	7.0		木柱列1	7d	コナラ属	16	
7315	木杭38	44.0	6.6		木柱列1	7c 5	コナラ属	17	

第227図 木杭



番号	種類	長さ	幅	厚さ	出土地点	層位	備考
7401	ガラス玉	径1.3			BH 6 I	5d	重量1.7g
7402	ガラス盤	径4.2			BH 7 I	5b	重量3.8g
7403	鐵鉗	1.8	1.0		NH 3 I	1g	
7404	環状	(2.6)		1.4	BH 8 I	5d	

第228図 その他の遺物

### 第3節 まとめ

本遺跡は、これまで二十数回にわたって発掘調査が行われ、12世紀都市平泉における泉屋遺跡の重要性は、その立地等から多くの指摘があるところだが、今回の道路南東端の調査によって、その内容にさらに良好な資料を追加することができた。ここでは、今回得られた遺構と遺物の内容を簡単にまとめてみたい。

#### 1 遺構

泉屋遺跡19・21次調査で検出された遺構は、掘立柱建物17棟、柱列3条、井戸9基、土坑34基、溝12条、古代の堅穴住居跡3棟、焼土10基、土器埋設遺構2基、カマド状遺構5基で、この他に遺跡南東端に旧河道跡が1箇所確認された。出土遺物や遺構の確認状況などから推測される各遺構の所属年代は、(1)縄文時代 (2)平安時代前半期(9~10世紀) (3)平安時代後半期(12世紀) (4)中世(13世紀~16世紀末) (5)近世以降(16世紀末ごろ~19世紀末)の概ね5期に分けられらうである。ここでは、それぞれの時期における遺跡の状況と、そのあり方に大きく関わる旧河道跡の様相について記述する。

##### (1) 縄文時代の段階

縄文時代の遺構は、基本層序第V層・第VI層で確認された土坑(19S K 9・21S K 1・21S K 2・21S K 10・21S K 11)5基と土器埋設遺構(19S X 10)1基が該当する。出土遺物を伴うことから、当該期に属すると判断した土坑は21S K 11のみで、他は検出された面をその根拠とした。一方、埋設された土器(19S X 10)の時期は、晚期初頭に属するものと思われる。19・21次調査区から出土する縄文土器の時期は、基本層序第IV層に含まれる後期初頭・後期末~晚期初頭を主体とする一群と、第V層に含まれる早期末~前期初頭の一群があるが、地山面(第VI層)で確認されたものは、後者に近い時期と思われる。

この時期における河道は、北から南に流れる深い沢となっていたものと思われるが、河幅・深さなど規模については確認できなかった。

##### (2) 平安時代前半期(9~10世紀)の段階

この段階に属する遺構は、残存状況が思わしくない堅穴住居3棟(19S I 1・21S I 1・21S I 2)と土坑2基(21S K 15・21S K 16)、可能性があるものとして焼土1基(21S X 7)がある。本来は、もう少し多くの当該期の遺構が存在したものと思われるが、12世紀以降に壊されてしまった可能性が高い。単独の焼土として報告した21S X 7は、住居跡に付属するカマドの燃焼部と思われるものである。また、旧河道跡から出土した土師器・須恵器の量、木製品の存在、そして墨書き器や土錠などがみられることから、おそらくは平安時代前半の段階で、藤原時代のベースとなる安定した生活基盤をもった集落がこの周辺に存在したものと考えられる。

この時期の河道については、火山灰が厚く二次堆積できるような状況、また火山灰を挟んで前後の土壤の様子から、流れのある川というよりは沼地とか湿地になっていたと考えられる。

##### (3) 平安時代後半期(12世紀)の段階

平泉がこれまで最も華やかであった奥州藤原氏の時代であるが、今回確認された当該期の遺構はあまり多くはない。掘立柱建物1棟(21S B 1)、井戸1基(19S E 3)、土坑9基(19S K 12・19S K 17・19S K 19・19S K 21・21S K 3・21S K 5・21S K 6・21S K 7・21S K 14)、溝3条(19S D 3・19S D 9・19S D 12)が12世紀に所属する可能性のある遺構群である。この他には旧河道内に確認された整地層があり、19S D 12はその整地と同時期の道路側溝となる可能性を含む溝である。何のために窪地(沼地・湿地)を整地す

る必要があったのかは、遺跡範囲外となるさらに東側の状況が気になるところであるが（思い切って言えば、川を利用した水運の舟着き場などが存在する可能性）、太田川の旧河道路となるこの地点は、もはやこの時代の痕跡を留めてはいないかもしれない。

次ぎに、整地層の上に形成された12世紀後半の遺物を主体とする包含層についてである。これが形成された時期およびその過程は、整地された面が使われなくなった後に自然とつくられたものではなく、おそらくは藤原氏滅亡後、それほど時間を使かずにいっきに人手で埋め立てられたのではないかと考えている。明確な根拠はないが、土層の堆積状況等から、12世紀後半以降藤原氏以後の人々によって大土木工事が行われ、その際に形成されたものと思われる。その普請が必要となった理由としては、藤原時代とは異なる土地利用、新たな都市計画などが想い浮かぶが、明らかには出来ない。

最後に構造施設の木柱列についてであるが、調査で確認できた唯一の事実は、「杭はいずれも整地表面よりも上層から打ち込まれていた」ということだけで、やはり時期を明確に述べることは出来ない。整地層と同時期に存在したものとは考えにくいが、12世紀代を含むそれ以降のものとしておく。

#### （4） 中世

中世（鎌倉時代）に属する可能性がある遺構としては、16次調査区から延びる19S D 2（16S D 13と同一）が挙げられる。この辺は、16次調査の報告で鎌倉時代の区画溝とされているもので、これと軸方向を同じくする掘立柱建物や、これらとほぼ同時期に使用されたと思われる井戸状遺構が存在するようである。鎌倉時代における泉屋遺跡の様相については、羽柴直人著「鎌倉時代の平泉の様相」『紀要XXI』に詳しい。

中世以降の河道は、その堆積状況から、ほとんど埋まりきっていたものと思われる。

#### （5） 近世以降

19・21次調査区の北西部に展開する近世民家で、年代は概ね16世紀末～18世紀ごろと考えられる。この時期に該当する掘立柱建物は、21S B 2・21S B 3・21S B 4・21S B 5・21S B 6-1（21S B 6-2）・21S B 7-1（21S B 7-2）の6棟である。これらのうち、付属屋になる可能性があるものを考慮した民家の変遷は、21S B 2（付属屋21S B 3）→21S B 4（付属屋21S B 5）→21S B 6→21S B 7と想定される。近世に属するものとした井戸は、19S E 1・19S E 4・19S E 6の3基で、上に示した掘立柱建物の変遷4期のいずれかとセットになるものと思われる。それ以降、近・現代の所属としたものは、19S E 2・19S E 7・19S E 8・19S E 9の4基である。

## 2 遺物

泉屋遺跡19・21次調査で出土した遺物の総量は、収納用コンテナ（容量40㍑）90箱あまりで、本報告書に掲載した遺物の総数は2,228点に及ぶ。これまで報告したように、その種類も多岐にわたりこれまで出土例があまり多くない遺物も存在する。ここでは、時期ごとにそれらについて触れながら、泉屋遺跡を特徴づける12世紀代の遺物の一部を中心に記述する。

#### （1） 繩文時代

土器・土製品は、「早期末葉～前期前葉」、「後期前葉～中葉」、「後期後葉～晚期初頭」の時期に属するものが出土した。主体は「後期後葉～晚期初頭」である。出土した土器の総重量は201.3kgである。特筆される遺物としては、ヘビがとぐろを巻いたような意匠をもつ壺状の土器？（803）や、接合する両端にアスファルトの付着が見られる大形の土偶（787・788）などがある。時期は、いずれも後期末葉～晚期初頭期のものと思われる。

## (2) 平安時代前半期（9～10世紀）

泉屋遺跡19・21次調査で出土した土器の年代は、壺・甕類の出土状況とその特徴から、16次調査のものと同様に9～10世紀代と考えられる。壺には酸化炎焼成で底部に再調整が施されない、いわゆる赤焼きのものが含まれている。須恵器では大甕の破片が多く、壺は4点出土したのみである。この他には、土錐・土鉢などの土製品や曲物・鋲先などの木製品が出土した。鋲先と土鉢2点は、いずれも十和田a降下火山灰二次堆積前の層から出土しており、今回奈良時代の遺物が全く出土していない状況から、これらは平安時代、9～10世紀前半以前に属するものと思われる。

## (3) 平安時代後半期（12世紀）

今回報告した12世紀代の遺物には、かわらけ、国産陶器（猿投産・渥美産・常滑産・須恵器系・瓷器系）、中国産陶器、中国産磁器（青白磁・青磁・白磁）、土製品（瓦・埴塊）、石製品（砥石・石鍋）、金属製品（釘・金具等）、木製品（曲物等）、ガラス製品（玉・蓋？）がある。ここでは、かわらけの分類結果と中国産陶器の類例について記述する。

なお、国産陶器・中国産磁器については、出土状況および接合関係等、検討を加えて別の機会に報告する予定である。

まず、掲載した534点のかわらけの分類結果示す。

「手づくねかわらけ」 計428点

C<sub>1</sub>類-65点 C<sub>2</sub>類-50点 C<sub>3</sub>類-33点 D<sub>1</sub>類-42点 D<sub>2</sub>類-79点 D<sub>3</sub>類-144点

内折れ-13点 高台付1点 手あぶり形1点

「ロクロかわらけ」 計106点

R b-3点 R b01-1点 R d・r d-64点

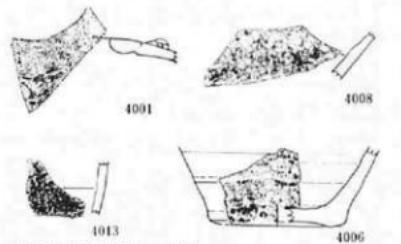
R d0-2点 R d00-2点 R d01-3点

R d02-2点 R d10-4点 R d12-1点

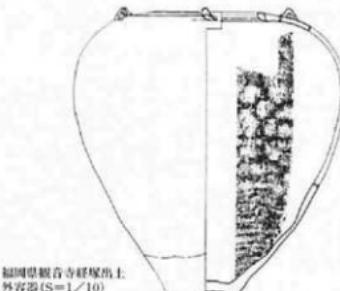
R d22-8点 R d23-5点 柱状高台-8点

他の不掲載となった多くのかわらけについても、このような作業をしなければ分類することに何の意味もなさないし、またこれをもって泉屋遺跡19・21次調査におけるかわらけの出土傾向などを云々することもできない。あえて言えば、「手づくねかわらけ」では1段なでと2段なでの割合は後者のほうが高く、「ロクロかわらけ」では圧倒的に皿形が多い、ということぐらいである。既述したが、これらはほとんどが12世紀後半に属し、13世紀以降のかわらけについては筆者は選び出せなかった。なお、柱状高台かわらけについては、12世紀後半を測る可能性をもつものと思われる。

次ぎに、4001～4015に示した中国産陶器についてであるが、これらは旧河道大別層5層を主体と



泉屋遺跡出土中国産陶器(S=1/6)



第229図 中國産陶器の比較

して出土したもので、少なくとも2~3個体存在する。このうち、4001・4006~4008・4010・4012~4015は1個体の造物破片と思われ、第229回に掲載した無頭の四耳付甕に類似するものである。これは、福岡県浮羽郡出主丸町に所在する石垣山觀音寺境内に営まれた経塚（5号経塚）の外容器として利用されていたもので、推定高は約56cm、底径は14cmを計るものである。調査報告では、この甕の釉薬の特徴として「耳から下、底より上にかけて渦った黄褐色あるいは褐緑色に発色した釉」、胎土は「赤褐色で1mmほどの砂粒が多い」ことを挙げ、当時福岡県内における四道跡（①太宰府市太宰府条坊跡②筑紫野市西小田地区道跡③福岡市博多第4次調査④同第45次調査）の出土例から、12世紀前半の年代を与えている。今回泉屋道跡から出土した破片資料には、無頭の口縁部（4001・4012）、底部付近（4006）、体部（4007・4008ほか）があり、いずれも釉薬や胎土の状態等、觀音寺5号経塚の外容器と同様のものと思われる。産地については、中国南部～東南アジアのいずれかの地域との鑑定を得ているが、觀音寺経塚の報告では產地には触れていない。

#### （4） 中世（13世紀後半～16世紀前半）

この時期にあたる出土遺物はかなり少くなる。国産陶器に常滑7型式（14世紀第1四半期～第2四半期）の鉢2点（3328・3329）、東北地方在地産（13世紀後半～14世紀初頭）の甕類が3点（3379～3381）あるほか、瀬戸・英譲産灰瓦軸（16世紀前半）の陶器皿（6078）、朝鮮産陶器壺（4017）、中国産磁器皿（6017）、板碑（7118）、北宋銭（7252・7253）がこれに属すると思われる遺物である。これまでの泉屋道跡の調査成果から、当該期の遺物が多く出土する地域は16次調査区を含むそれより西側の地域である。

#### （5） 近世以降（16世紀末～19世紀末）

多くの陶磁器が出土している。産地は、肥前産、瀬戸産、瀬戸・美濃産、大堀・相馬産、切込産、東北地方在地産で、器種には碗・皿・壺・甕・香炉・徳利・火入れ・擂鉢・急須などがある。これらの時期は、大権編年Ⅱ期からV期、概ね16世紀後半～19世紀末である。木製品には井戸から出土した漆器桶（7302）、下駄（7306・7307）、トイレ状造構から出土したちゅう木（樹種鑑定した10点あまり）が、金属製品では刀（7246・7247）、火打ち金具（7248・7249）、煙管（7250・7251）、寛永通寶（7254～7258）がある。石製品には挽き臼（7116・7117）があり、いずれも柱の礎盤として再利用されていたものである。なお、現代ものではあったが、「福島」と銘のある汽水茶瓶（6077）も掲載した。

#### おわりに

今回この報告書をまとめるにあたっては、面倒な造形、特殊な造物に対する筆者の知識不足・認識の誤りなど様々な問題を抱えてはいたが、何とかここまで来たというのが正直なところである。ほとんど事実のみしか示せなかった本書ではあるが、今後の平泉研究の一助となれば幸いである。

努力を怠った筆者に不足する部分を、多くの方々に補っていただいたことに深く感謝いたします。

<引用・参考文献>

- 赤羽一郎ほか 1968 「常滑窯」日本陶磁全集8 中央公論社
- 赤羽一郎 1982 「常滑焼」 ニューサイエンス社
- 岩手県教育委員会 2000 「柳之御所遺跡－第50次発掘調査報告－」岩手県文化財調査報告書第107集
- 岩手県教育委員会 2001 「柳之御所遺跡－第52次発掘調査報告－」岩手県文化財調査報告書第111集
- 岩手県教育委員会 2002 「柳之御所遺跡－第55次発掘調査報告－」岩手県文化財調査報告書第113集
- 大椎康二 1989 「肥前陶磁」 ニューサイエンス社
- 金子昭彦 1991 a 「大洞B2式の廢消純文について（上）－東北地方北部を中心として－」『紀要』X I (財) 岩文振興文センター
- 金子昭彦 1992 b 「大洞B2式の廢消純文について（中）－東北地方北部を中心として－」『紀要』X II (財) 岩文振興文センター
- 金子昭彦 1993 d 「大洞B2式の廢消純文について（下）－東北地方北部を中心として－」『紀要』X III (財) 岩文振興文センター
- 金子昭彦 1993 c 「新山様現社遺跡発掘調査報告書」岩文振第188集 (財) 岩文振興文センター
- 金子昭彦 1994 e 「東北地方北半部における縄文時代後期中葉の土器」『紀要』X IV (財) 岩文振興文センター
- 小林圭一 1999 「東北地方 後期（廢付土器）」「縄文時代10」
- 酒井宗孝 1997 「上巣生遺跡発掘調査報告書」岩文振第11集 (財) 岩文振興文センター
- 佐々木浩一 2001 「柱穴群から建物跡へ－建物跡検出から遺構変遷まで－」「樹立と壁穴 中世遺構論の課題」 東北中世考古学研究會2 東北中世考古学会
- 佐藤嘉廣 2000 「柳之御所遺跡の樹年代」「山形考古」第6卷第4号 (通巻30号) 山形考古
- 鈴木克彦 2001 「岩手県の後期前葉土器の編年－薪窯A・B式、川口2式－」「岩手考古学」第13号 岩手考古学会
- 舟橋 隆 1992 「東北地方における晩期純文土器の成立過程」「東北文化論のための先史学論集」加藤稔先生追悼記念会
- 高田 勝はか 2001 「荒井畠道跡（II・III・IV区）－第12・13次発掘調査報告－」郡山市教育委員会
- 高柳圭一 1988 a 「仙台西隅辺の縄文時代後期後葉から晩期初頭にかけての福島動向」「古代」85
- 鈴木克彦 2001 「岩手県の後期前葉土器の編年－薪窯A・B式、川口2式－」「岩手考古学」第13号 岩手考古学会
- 高柳圭一 1988 b 「宮城県金剛寺貝塚の再検討」「村上巣君追悼論文集」村上巣君追悼論文集編集委員会
- 平坂 均はか 1986 「出柄貝塚I」宮城県教育委員会
- 中野晴久 1995 「II. 土器 9. 中世陶器【2】常滑・渥美」「概説 中世の土器・陶磁器」
- 日本考古学協会 2001 「都市・平泉－成立とその意味－」 2001年日本考古学協会盛岡大会研究発表資料集
- 羽柴直人 2000 「志麻山遺跡第46・66・74・74次発掘調査報告書」岩文振第312集 (財) 岩文振興文センター
- 羽柴直人 2001 「平泉遺跡群のロクロかわらけについて」「岩手考古学」第13号 岩手考古学会
- 羽柴直人 2002 「平泉の道路と都市構造の変遷」「平泉の世界」奥羽史研究叢書3 高志書院
- 松本達也 1998 「柳之御所跡出土かわらけ福井試案」「紀要」X III (財) 岩文振興文センター
- 八時 異 2001 「柱状高台考」「中世土器研究論集－中世土器研究会20周年記念論集－」
- 八重樫忠郎 2000 「東日本における青磁の出現時期」「貿易陶磁研究」No.20 日本貿易陶磁研究会
- 八重樫忠郎 2002 「平泉藤原氏の支配領域」「平泉の世界」奥羽史研究叢書3 高志書院

## 第4節 自然科学的分析

### 泉屋遺跡第21次調査出土材の樹種

高橋利彦（木工舎「ゆい」）

#### 1. 試料

試料は40点（No.1~40）で、平安時代から近・現代までのものとされている木製品・加工材である（表1参照）。試料の検出された遺構は5基の井戸（19SE2・3・7・8・9）、2基の土坑（19SK4・15）、旧河道とそこを横断する木柱列である。試料の中には、第19次調査で検出されたものも一部含まれている。

遺跡は太田川の左岸（北側）の氾濫原（標高19~22m）にあり、東側には鈴沢川が南流し太田川に注いでいる。調査区は遺跡の南東隅に位置している。

#### 2. 方法

プレパラートの作製には、筆者が遺物から採取した材片を用いた。材片は少なくとも足かけ2年分を含み、かつできるだけ少ない量となるよう調査担当者と協議しながら採取した。「ちゅう木」は一括して取り上げられていた数十本の中から10点を選び同定試料とした。形状の異なる2種類のものが認められたため、それぞれから5点ずつを筆者が選び出した。すなわち、横断面が扇状～三角形で最大厚が1cm前後もある大型のもの（以下A型と仮称No.20~24）と横断面がほぼ長方形で厚さも数mm程度の薄型のもの（以下B型と仮称No.25~29）である。剃刀の刃を用い、試料の木口（横断面）・板目（放射断面）・板目（接縫断面）3面の徒手切片を作製し、これをガムクロラールで封入したプレパラートを、生物顕微鏡で観察・同定した。一部試料は乾燥状態にあったため、湯煎によって吸水・軟化させてから切片を作製した。併せて各分類群1点の顕微鏡写真図版を作成した（図版1~5）。作製したプレパラートはすべて木工舎「ゆい」に保管されている。

#### 3. 結果

No.6は広葉樹の3年枝であったが、手元の試料の中には該当するものが見いだせず種類は特定できなかった。残りの試料は以下の13分類群（ここでは亜科・属・亜属・節・種の異なった階級の分類単位を総称している）に同定された。試料の主な解剖学的特徴や一般的な性質は次のようなものである。なお、科名・学名・和名およびその配列は「日本の野生植物木本I・II」（佐竹ほか1989）にしたがい、県内での自然分布については「岩手県植物誌」（岩手植物の会1970）を参考した。また、一般的な性質などについては「木の事典第1~4・6~8・12巻」（平井1979~1981）も参考にした。

- マツ属複維管東亜属 (*Pinus subgen. Diploxylon* sp.) マツ科 No. 2, 40  
早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は広く、年輪界は明瞭。树脂細胞はなく、树脂道が認められる。放射組織は仮道管と柔細胞、エビセリウム細胞よりなり、仮道管内壁には顯著な鋸歯状の突出が認められる。分野壁孔は窓状。放射組織は単列、1~15細胞高のもの

と樹脂道をもつ紡錘状のものがある。

複維管束亞属（二葉松類）は国内に3種あるが、県内ではクロマツ（*Pinus thunbergii*）も沿岸部の一部に生育するものの、各地で普通にみられるのはアカマツ（*P. demsoiflora*）である。アカマツの材は重硬で、強度は大きく、保存性は中程度であるが耐水性に優れる。建築・土木・建具・器具・家具材など広い用途がある。

・スギ（*Cryptomeria japonica*）スギ科 No. 9, 24, 25, 26, 27, 28

早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広く、年輪界は明瞭。樹脂細胞はほぼ晩材部に限って認められ、樹脂道はない。放射組織は柔細胞のみとなる。分野壁孔はスギ型（Taxodioid）で2-4個。放射組織は単列、1-15細胞高。

スギは本州・四国・九州に自生する常緑高木で、また各地で植栽・植林される。国内では、現在植林面積第一位の重要樹種であり、長寿の木としても知られる。材は軽軟で割裂性は大きく、加工は容易、保存性は中程度である。建築・土木・樽桶類・舟材など各種の用途がある。

・ヒノキ属（*Chamaecyparis* sp.）ヒノキ科 No. 30, 35

早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭く、年輪界は明瞭。樹脂細胞は晩材部に限って認められ、樹脂道はない。放射組織は柔細胞のみとなる。分野壁孔はヒノキ型（Cupressoid）で1-4個。放射組織は単列、1-15細胞高。

ヒノキ属にはヒノキ（*Chamaecyparis obtusa*）とサワラ（*C. pisifera*）の2種がある。サワラは県中部地方以南に稀に自生する。園芸品種も多く、県内には自生しないヒノキとともに植栽されているものも多い。材は軽軟で割裂性は大きく、加工も容易、強度的にはヒノキに劣るが耐水性が高いため、樽や桶にするほか各種の用途がある。

・アスナロ（*Thujopsis dolabrata*）ヒノキ科 No. 10, 29, 31

早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩材部の幅は狭く、年輪界は明瞭。樹脂細胞はあるが樹脂道はない。放射組織は柔細胞のみとなる。分野壁孔は小型でヒノキ型～スギ型で1-6個。放射組織は単列、1-15細胞高であるが5細胞高以下のものが多い。

アスナロは本州・四国・九州に自生する日本特産の常緑高木で時に植栽される。「岩手県植物誌」には、県内に自生するのは変種ヒノキアスナロ（ヒバ）（*T. dolabrata var. hondai*）であるとされている。材はやや軽軟で保存性は高い。建築・土木・家具・器具材など各種の用途が知られている。

・ブナ属（*Fagus* sp.）ブナ科 No. 1, 7

散孔材で、管孔はほぼ單独、横断面ではやや丸みを帯びた多角形、管壁厚は中庸～薄く、分布密度は高い。道管はほぼ單穿孔をもつが、晩材部では段（bar）数が10前後の階段穿孔をもつものもある。放射組織は同性～異性、単列・数細胞高のものから複合組織まである。柔組織は短接線状、散在状。年輪界は明瞭。

ブナ属にはブナ（*Fagus crenata*）とイヌブナ（*F. japonica*）の2種がある。ブナは北海道南部（黒松内低地帯以南）・本州・四国・九州に分布し、県内各地に生育していた。イヌブナ

は本県以南の主として太平洋側に分布するが、「岩手県植物誌」には記載がない。

ブナは日本の冷温帯落葉樹林を代表する樹木である。材はやや重硬で、強度は大きいが加工はそれほど困難ではなく、耐朽性は低い。木地・器具・家具・薪炭材などの用途があったが、最近では各種の用途に用いられている。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus* sp.) ブナ科 No. 11, 12, 13, 16, 17, 18, 19

環孔材で孔圈部は1~3列、孔圈外で急激に管径を減じたのち漸減しながら火炎状に配列する。大道管は管壁は厚く、横断面では楕円形、小道管は管壁は中庸~薄く、横断面では多角形、ともに単独で配列する。道管は單穿孔をもち、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では柵状となる。放射組織は同性、単列、1~20細胞高のものと複合組織がある。

柔組織は短接線状、周囲状。年輪界は明瞭。

コナラ節は、コナラ亜属（落葉ナラ類）の中で果実（ドングリ）が開花の年に熟すグループで、カシワ（*Quercus dentata*）、ミズナラ（*Q. crispula*）、コナラ（*Q. serrata*）、ナラガシワ（*Q. aliena*）といくつかの変・品種がある。平野部で普通にみられるコナラは樹高20mになる落葉高木で、古くから薪炭材として利用され、植栽されることも多かった。材は重硬で、加工は困難、器具・機械・棒材などの用途があり、薪炭材としてはクヌギに次ぐ優良材である。

・クリ（*Castanea crenata*）ブナ科 No. 5, 14, 15

環孔材で孔圈部は1~多列、孔圈外で急激に管径を減じたのち漸減しながら火炎状に配列する。大道管は単独、横断面では楕円形~円形、小道管は単独および2~3個が斜（放射）方向に複合、横断面では角張った楕円形~多角形、管壁はともに薄い。道管は單穿孔をもち、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では柵状~網目状となる。放射組織は同性、単（-2）列、1~15細胞高。柔組織は周囲状、短接線状。年輪界は明瞭。

クリは北海道南西部から九州の山野に自生し、また植栽される落葉高木である。材はやや重硬で、強度は大きく、耐朽性が高い。土木・建築・器具・家具・薪炭材・橋樑木などに用いられる。

・ケヤキ（*Zelkova serrata*）ニレ科 No. 3, 4, 32, 34, 37

環孔材で孔圈部は1~2列、孔圈外で急激に管径を減じ塊状に複合し接線~斜方向の紋様をなす。大道管は管壁は厚く、横断面では円形~楕円形、単独。小道管は管壁は中庸~薄く、横断面では多角形で複合管孔をなす。道管は單穿孔をもち、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1~10細胞幅、1~60細胞高で、しばしば結晶を含む。柔組織は周囲状。年輪界は明瞭。

ケヤキは本州・四国・九州の谷沿いの肥沃地などに自生し、また屋敷林や並木として植栽される落葉高木で、時に樹高50mにもなる。材はやや重硬で、強度は大きいが、加工は困難でなく、耐朽性が高く、木理が美しい。建築・造作・器具・家具・機械・彫刻・薪炭材など各種の用途に用いられ、国産広葉樹材の中で最良のもの一つにあげられる。

・モクレン属 (*Magnolia* sp.) モクレン科 No.33,36

散孔材で管壁は薄く、横断面では角張った梢円形～多角形、単独および2～4個が放射方向に複合する。道管は單穿孔をもち、壁孔は階段状～対列状に配列、放射組織との間では網目状～階段状となる。放射組織は異性、1～2細胞幅、1～40細胞高。柔組織はターミナル状。年輪界は明瞭。

モクレン属はホオノキ (*Magnolia obovata*)・コブシ (*M.praecoccissima*)など6種が自生する。県内には3種あり、ホオノキが全域に、コブシ〔「岩手県植物誌」では変種キタコブシ (*M.praecoccissima var. bolealis*)とされる〕が北・中部に、タムシバ (*M.salicifolia*)が奥羽山系や宮古周辺などに自生する。ホオノキの材は軽軟で、割裂性が大きく、加工はきわめて容易で欠点が少ないとから、器具・建築・家具・建具材などのほか、指物・木地・下駄齒・刀物鞘など特殊な用途も知られている。

・エゴノキ属 (*Styrax* sp.) エゴノキ科 No.38

散孔材で管壁は薄く、横断面では梢円形、2～4個が複合または単独で配列、年輪界付近で管径を減少させる。道管は階段穿孔をもち、段数は5前後、壁孔は小型で密に交互～対列状に配列する。放射組織は異性、1～6細胞幅、1～50細胞高。柔組織は短接線状、散在状。年輪界は不明瞭。

エゴノキ属は3種あるが、県内にはエゴノキ (*Styrax japonica*)とハクウンボク (*S.obassia*)が自生する。山地や丘陵地に普通な落葉高木～低木である。材はやや重硬で割裂しにくく、加工はやや容易、旋作・器具・薪炭材などに用いられる。

・サワフタギ (*Symplocos chinensis* var.*leucocarpa* forma *pilosa*) ハイノキ科 No.20,21,22,23

散孔材で管壁は薄く、単独および2～3個が複合する。道管は階段穿孔をもち、段は多数。放射組織は異性、1～2(3)細胞幅、1～20細胞高で単列異端部が目立つ。柔組織は散在状。年輪界は不明瞭。試料はいずれも乾燥による収縮・変形と劣化が著しい。

ハイノキ属は国内に20種ほどあるが、県内にはサワフタギのみが自生する。サワフタギは北海道から九州の山野に普通な小高木で、材は重硬・強韌で割裂しにくく、各種工具の柄や、旋作・器具・薪炭材などに用いられる。

・トネリコ属 (*Fraxinus* sp.) モクセイ科 No.39

環孔材で孔圈部は3～4列、孔圈外で急に管径を減少させたのち漸減する。管壁は厚く、横断面では梢円形～円形、単独または2個が複合、複合部はさらに厚くなる。道管は單穿孔をもち、壁孔は小型で密に交互状に配列、放射組織との間では網目状～筒状となる。放射組織はほぼ同性、1～3(5)細胞幅、1～20(40)細胞高。柔組織は周囲状、ターミナル状。年輪界は明瞭。

トネリコ属には9種あるが、県内にはヤチダモ (*F.mandshurica* var.*japonica*)・ケアオダモ (*F.langinosa*)・マルバアオダモ (*F.sieboldiana*)など6種ほどが自生する。いずれも落葉高木で、材質は種によって異なるが、一般には中庸～やや重硬で、韌性があり、加工は容易で、建

築・器具・家具・旋作・薪炭材などに用いられる。

イネ科タケ亜科 (*Gramineae subfamily Banbuoidae* sp.) No. 8

中空の桿の基本組織の中に維管束が散在する不齊中心柱をもつ。

タケ亜科 (タケ・ササ類) には多数の種が含まれるが、解剖学的特徴のみでは区別できない。

以上の同定結果を検出遺構や推定されている用途などともに一覧表で示す (表1)。

#### 4. 考察

同定対象となった試料は、用途ごとに使われている樹種が限られている例が多いようである (表2)。この点には、その推定されている所属年代が大きく異なっていたり、試料数が限られていることも寄与しているようである。

「ちゅう木」は12世紀以降のものとされているが、A型としたものはサワタギ4点、スギ1点であったのに対して、B型はスギ4点、アスナロ1点と、その形状によって用材に明らかな違いが認められた。「ちゅう木」にはおそらく他の用途に用いられていた材料が転用された、すなわち木材の二次・三次利用があった (高橋2000a) と考えているが、割裂性に優れた針葉樹のスギやアスナロではかなりの薄さまで小削ができたものと思う。

これに対して、サワタギは広葉樹の中でも割りにいい樹種ではあるが、こうした材でも放射方向だけには他方向より割りやすいことから試料のような形状 (扇状～三角形) になってしまったものと推察する。なお、スギ・アスナロ製の「ちゅう木」は、町内の柳之御所跡 (能城1995) や志羅山遺跡第74次調査 (高橋2000a) でも12世紀のものとされる遺構から検出されている。柳之御所跡試料ではスギ (121点) が総数の85%強を占め、アスナロはネズコとともに9点と少ない (クリ1点もある) のに対し、志羅山遺跡74次調査試料ではアスナロ (21点) とスギ (9点) の数が逆転している。この点は小割りする前の (板) 材の大きさが反映されたもの (高橋2000a) ではないかと思う。

杭は旧河道に棧橋状に2列に打ち込まれていたもので12世紀以降のものとされるが、対象となった9点はコナラ節 (7点) とクリ (2点) が用いられていた。ともに強度や耐朽性が期待できる樹種であることから、こうした材質から選択されたものと思う。ただ、対象外とされた杭材が30本以上残されていることから「棧橋」の杭材が、こうした重硬材のみで構築されていたのか否かはわからない。

漆器は5点が対象となったが、器種と時代によってその用材に違いも認められた。椀は近・現代および近・現代? とされる2点がともにブナ属に、12世紀? とされる1点はケヤキに同定された。皿はともに12世紀のものとされるが、複維管東亞属とケヤキに同定された。泉屋遺跡第15次調査検出の近世とされるSE9と近世～近代とされるSE16の2基の井戸跡から出土した各1点 (高橋1997) と、志羅山遺跡第25次調査検出の近世～近代とされるSE1井戸跡出土の4点 (高橋1995a) の漆塗椀はいずれもブナ属に同定されている。

一方、柳之御所跡試料ではケヤキに比してブナ属の例が少ない (能城1995, 高橋1995b) ことから、「東北地方の他の遺跡とくらべ、ケヤキが圧倒的で、トチノキとブナ属が無いかわずかである」点に柳之御所跡試料の特徴がある (能城1995) ともされている。今回の試料もこうし

表1 泉屋遺跡第21次調査出土材の樹種（19次調査試料を含む）。

試料番号	検出遺構・層位など	時代	用途	種名
1	19S E 2 10層	近・現代	漆塗椀	ブナ属
2	19S E 3 13層	12世紀		マツ属複維管束亞属
3	19S E 3 13層	12世紀	漆塗皿	ケヤキ
4	19S E 8 1-6層	近・現代	下駄台	ケヤキ
5	19S E 8 1-6層	近・現代	下駄差歎	クリ
6	19S E 7 底	近・現代		広葉樹（散孔材）3年枝
7	19S K15	近・現代？	漆塗椀	ブナ属
8	19S K15	近・現代？	竹	イネ科タケ亜科
9	旧河道 十和田a直下	平安	曲物側板	スギ
10	19S K15	近・現代？	木片	アスナロ
11	木柱7	12世紀以降	杭	コナラ属コナラ亜属コナラ節
12	木柱10	12世紀以降	杭	コナラ属コナラ亜属コナラ節
13	木柱16	12世紀以降	杭	コナラ属コナラ亜属コナラ節
14	木柱19	12世紀以降	杭	クリ
15	木柱24	12世紀以降	杭	クリ
16	木柱29	12世紀以降	杭	コナラ属コナラ亜属コナラ節
17	木柱38	12世紀以降	杭	コナラ属コナラ亜属コナラ節
18	木柱A	12世紀以降	杭	コナラ属コナラ亜属コナラ節
19	木柱B	12世紀以降	杭	コナラ属コナラ亜属コナラ節
20	19S K 4	12世紀以降	ちゅう木	サワフタギ
21	19S K 4	12世紀以降	ちゅう木	サワフタギ
22	19S K 4	12世紀以降	ちゅう木	サワフタギ
23	19S K 4	12世紀以降	ちゅう木	サワフタギ
24	19S K 4	12世紀以降	ちゅう木	スギ
25	19S K 4	12世紀以降	ちゅう木	スギ
26	19S K 4	12世紀以降	ちゅう木	スギ
27	19S K 4	12世紀以降	ちゅう木	スギ
28	19S K 4	12世紀以降	ちゅう木	スギ
29	19S K 4	12世紀以降	ちゅう木	アスナロ
30	旧河道 十和田a下	平安	曲物底板	ヒノキ属
31	旧河道 十和田a直下	平安	曲物底板	アスナロ
32	旧河道 32層相当	12世紀？	漆塗椀	ケヤキ
33	旧河道 搾乱	平安？	板	モクレン属
34	旧河道 搾乱	不明	不明	ケヤキ
35	19S E 9	近世	曲物側板	ヒノキ属
36	旧河道 34/35層	12世紀？	板	モクレン属
37	旧河道 40層	平安	板	ケヤキ
38	旧河道 43層	平安	鉢	エゴノキ属
39	旧河道 十和田a下	平安	部材？	トネリコ属
40	19S E 3 北半13層	12世紀	木片	マツ属複維管束亞属

た見解に当たはまる例となるのかもしれないが、試料数が限られていることから断定はできない。なお筆者の知る限りでは、複雑管東亜属製の漆器の出土例は県内ではこれまでなく、全国的にもごく稀なよう (伊東ほか1987, 伊東1990)、手元の資料では石川県穴水町桜町遺跡の鎌倉時代 (13世紀) とされる試料 1 例を知るのみである (山田1993による)。

曲物は平安時代のものとされる底板 2 点 (ヒノキ属・アスナロ) と側板 1 点 (スギ)、近世のものとされる側板 1 点 (ヒノキ属) が対象となったが、これまでに知られている例の大半と同じく、割裂性に富んだ針葉樹材が用いられていた。なお、アスナロ底板とスギ側板という異種材による組み合わせ (No. 31 と No. 9) があるが、同様の例は志羅山遺跡第 66 次調査試料の 13 世紀後半～14 世紀前半とされるスギ底板とヒノキ属側板という組み合わせでも認められている (高橋2000a)。

下駄は差歎下駄の台と歎で近・現代のものとされている。同一遺構から検出されているものの中にはならないようである。台はケヤキ、歎はクリ製であった。両種とも下駄としの用例が多い樹種であるが、県内の出土例ではこれまで、近世以降のケヤキ例は知られていないかった (高橋2000b)。

歛は平安時代のものとされるが、枝分かれの部分を巧みに利用した一木作りのもので、エゴノキ属製であった。削れにくく掛性のある材質を生かした用材といえよう。ただ、手元の資料では出土例の圧倒的多数をコナラ属 (アカガシ亜属・コナラ節・クヌギ節) が占め、エゴノキ属は県内はもちろん、国内でも初出 (かそれに近い) 例となるようである (伊東ほか1987, 伊東1990)。

No. 6 は、井戸埋めの儀式との関連かウメではないかとされていたが、その解剖学的特徴はウメ (*Prunus*) には一致しなかった<sup>1)</sup>。

表 2 泉屋遺跡第 21 次調査出土材の主な用途別樹種構成 (19 次調査  
試料を含む)。所属時期は考慮していない。

分類群/用途	ちゅう木	杭	漆器	曲物	下駄	その他	合計
複雑区第東亜属			1		1		2
スギ	5			1			6
ヒノキ属				2			2
アスナロ	1			1		1	3
ブナ属			2				2
コナラ節		7					7
クリ		2			1		3
ケヤキ			2		1	2	5
モクレン属						2	2
エゴノキ属						1	1
サワフタギ	4						4
トネリコ属						1	1
不明広葉樹						1	1
タケ亜属						1	1
合 計	10	9	5	4	2	10	40

注) No. 6は、道管が階段穿孔をもち、放射組織が異性で1-2細胞幅、単列翼端部と鞘状細胞をもつなどの特徴がある。

#### 引用文献

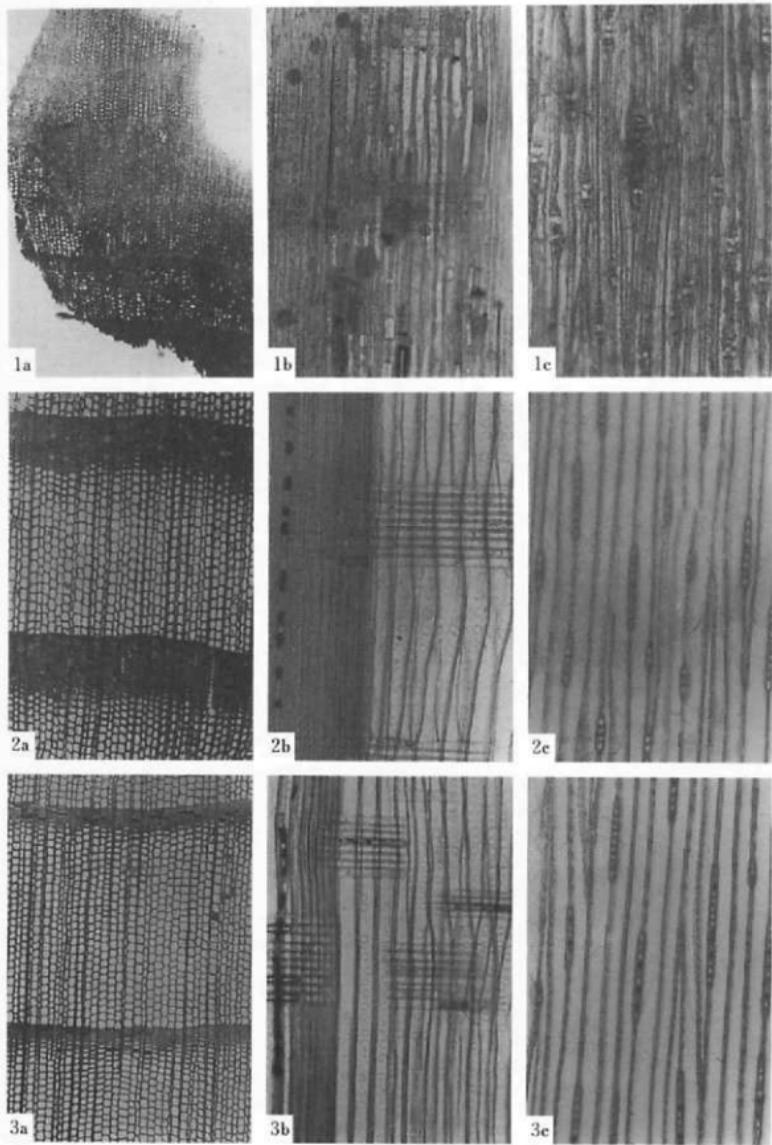
- 平井信二 1979-1981 「木の事典第1-4・6-8・12巻」、かなえ書房。
- 伊東隆夫・山口和穂・林 昭三・布谷知夫・島地謙1987日本の遺跡から出土した木材の樹種とその用途、木材研究・資料、第23号、42-210。
- 伊東隆夫 1990 日本の遺跡から出土した木材の樹種とその用途Ⅱ、木材研究・資料、第26号、91-189。
- 岩手植物の会 1970 「岩手県植物誌」、703pp.
- 能城修一 1995 柳之御所跡から出土した木製品の樹種、「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第228集柳之御所跡一閑遊水池・平泉バイパス建設関連第21・23・28・31・36・41次発掘調査《分冊1本文・図版》」、(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、433-456。
- 佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫(編) 1989 「日本の野生植物木本I・II」、平凡社、321・305pp.
- 高橋利彦 1995 a 柳之御所跡第23次・31次調査出土材の樹種、「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第228集柳之御所跡一閑遊水池・平泉バイパス建設関連第21・23・28・31・36・41次発掘調査《分冊1本文・図版》」、(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、423-432。
- 高橋利彦 1995 b 平泉町志羅山遺跡25次調査出土材の樹種、「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第216集志羅山遺跡第14・25次発掘調査報告書一閑遊水地事業関連遺跡発掘調査」、(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、115-118。
- 高橋利彦 1997 平泉町泉屋遺跡第15次調査出土材の樹種、「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第247集泉屋遺跡第10・11・13・15次発掘調査報告書一閑遊水池事業関連遺跡発掘調査」、(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、40ト411。
- 高橋利彦 2000 a 志羅山遺跡第66次・第74次調査出土材の樹種、「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第312集志羅山遺跡第46・66・74次発掘調査報告書一閑遊水池事業関連遺跡発掘調査」、(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、433-1仙。
- 高橋利彦 2000 b 県内の遺跡から出土した木質遺物の樹種 I. 下駄、「岩手考古学会第25回研究大会発表資料」(岩手考古学会編)、33-35。
- 山田昌久 1993 日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成一用材からみた人間・植物関係史、植生史研究、特別第1号、1-242。

- 図版 1      1. マツ属複維管束亞属 No.40  
              2. スギ No.25  
              3. ヒノキ属 No.30
- 図版 2      4. アスナロ No.10  
              5. ブナ属 No.7  
              6. コナラ属コナラ亜属コナラ節 No.12
- 図版 3      7. クリ No.15  
              8. ケヤキ No.34  
              9. モクレン属 No.36
- 図版 4      10. エゴノキ属 No.28  
              11. サワフタギ No.21  
              12. トネリコ属 No.39
- 図版 5      13. イネ科タケ亜科 No.8

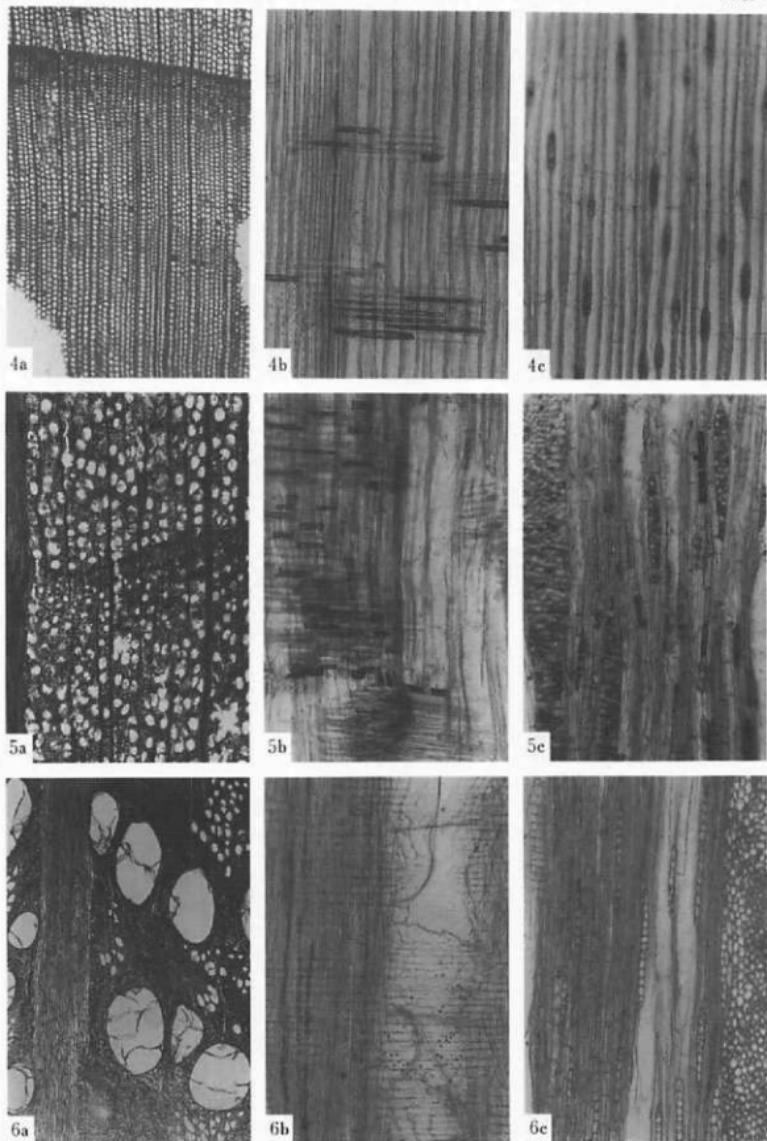
a : 木口 x 40   b : 桟目 x 100   c : 板目 x 100

樹木の肥大生長方向は木口では画面下から上へ、査目では左から右

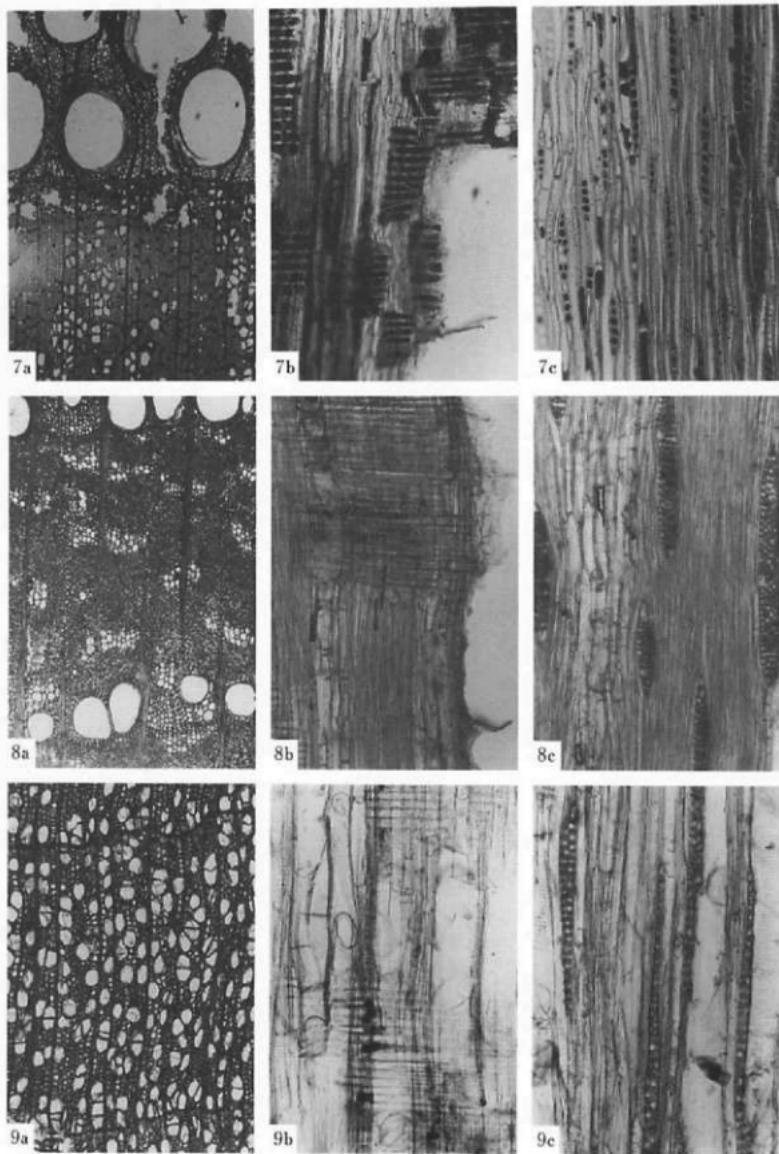
図版 1



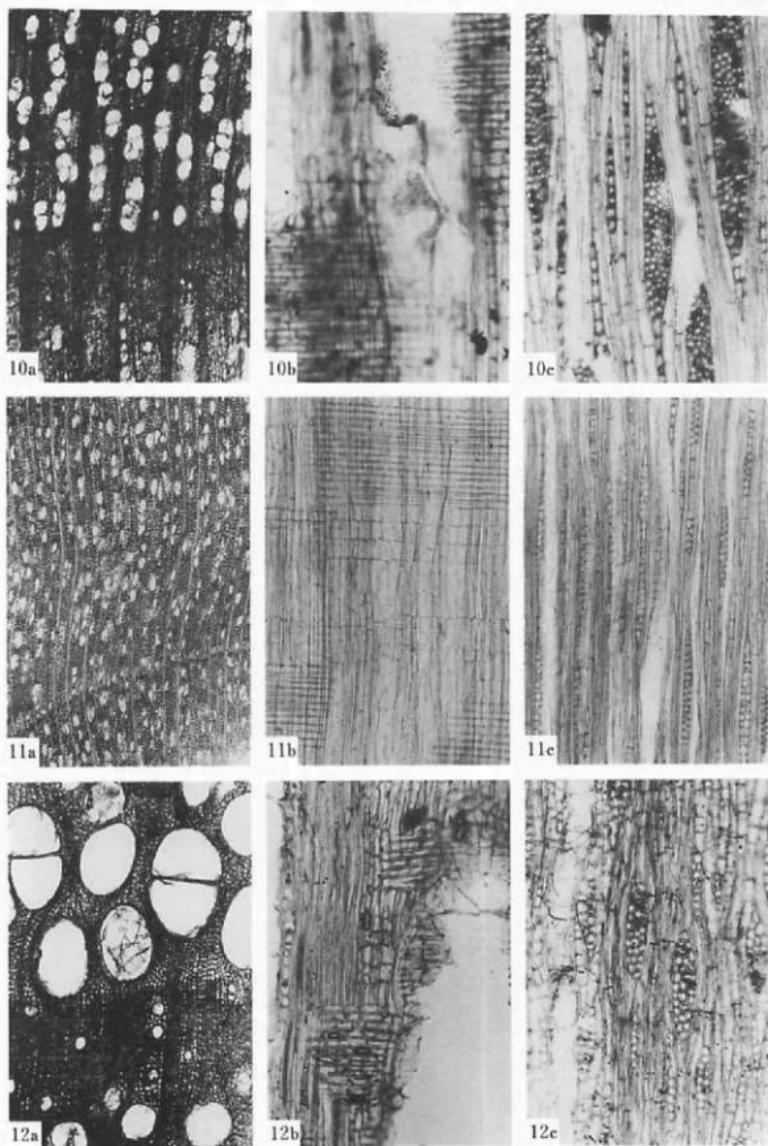
图版2

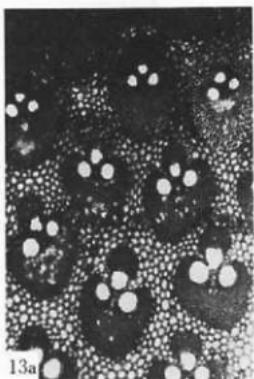


图版3



図版4





# 泉屋遺跡出土ガラス玉の非破壊分析法による調査結果

岩手県立博物館 咲山まさか、赤沼英男

## 1はじめに

平安時代に比定される泉屋遺跡19次・21次調査で確認された旧河道内の遺物包含層(12世紀代か?)から、1点のガラス玉(小玉、半分欠損、淡緑色)が検出された。古代のガラス玉については研究者によると、6世紀ごろまでは主として青緑色のアルカリ石灰ガラスが多くみられ、7世紀末ごろからは国産の鉛ガラスの製造が行われている。その後一時衰退し、再びガラスが出現するのは11世紀の終わりから12世紀初頭であると推定されている<sup>1)-3)</sup>。ガラス玉1点についてエネルギー分散型蛍光X線分析装置(EDS)により分析し、融剤と着色剤に着目して検討したところ、鉛ガラスであり、着色剤としては鉄鉱物、銅鉱物を素材としていることが明らかとなった。以下では自然科学的調査によって得られた知見について述べる。

## 2 分析資料

分析した資料は泉屋遺跡から出土したガラス玉1点である。資料表面は全体に風化しており、ほぼ半分は白色化し、経年累月の小さくほみも見られる。資料の外観形状ならびに色を表1に、外観写真およびEDSのX線照射位置をそれぞれ写真1、写真2に示す。

## 3 分析方法

蛍光X線分析法では試料にX線を照射し、試料を構成する原子から発生する蛍光X線(特殊X線)を測定するものである。非破壊で元素の定性が可能であり、試料採取が困難な文化財の分析に適している。

分析は以下の方法によった。分析対象としたガラス玉をアルコールで超音波洗浄した後、十分に自然乾燥した。資料の変色を抑制するため、EDSのX線照射範囲を0.1mm<sup>2</sup>に絞込み分析を行った。

測定条件は以下のとおりである。

電圧30kV 電流0.3mA

## 4 分析結果ならびに考察

Na1(小玉・緑淡色)をEDSにより分析し、そのチャートを図1に示す。球面側の緑色部分と白色部分、裏側白色部分の3箇所を測定した。3箇所からはナトリウム(Na)のK<sub>a</sub>線(1.0KeV)、マグネシウム(Mg)のK<sub>a</sub>線(1.2KeV)、アルミニウム(Al)のK<sub>a</sub>線(1.5KeV)、珪素(Si)のK<sub>a</sub>線(1.7KeV)、カリウム(K)のK<sub>a</sub>線(3.3KeV)、カルシウム(Ca)のK<sub>a</sub>線(3.7KeV)、マンガン(Mn)のK<sub>a</sub>線(5.9KeV)、鉄(Fe)のK<sub>a</sub>線(6.7eV)、銅(Cu)のK<sub>a</sub>線(8.0eV)、鉛(Pb)のL<sub>a</sub>線(10.6eV)が確認された。X線照射位置および表面の色による顕著な違いは見られなかった。これらの半定量値が40%以上60%未満を「+++」、1%以上2%未満を「++」、1%未満を「+」とし、結果を整理すると表2のとおりとなる。図1、表2に従えば、主原料にSi、融剤にはPbが使用されており、着色剤はFe鉱物、Cu鉱物と推定された。

ところでガラスは珪酸を主原料に、融剤にNa、Caなどのアルカリ元素を使用したアルカリ石灰ガラスと、融剤にPbを使用した鉛ガラスに分類される。上記の分析結果からNa1ガラスはPbを融剤とする鉛ガラス(PbO-SiO<sub>2</sub>系)として扱うことができる。鉛ガラスは土中に長く埋没していると地下水と反応し、炭酸

鉛 ( $PbCO_3$ ) および硫酸鉛 ( $PbSO_4$ ) を生成し、白色の風化物で被われるが、No.1ガラスは、この特徴が顕著である。さらに着色剤としてFe、Cuを含み、緑淡色を呈している。

図2に肥塚により明らかにされた弥生時代から奈良時代のガラス組成の変遷を示す<sup>4)</sup>。今回調査を行った資料No.1のガラスは ( $PbO-SiO_2$ 系) 鉛ガラスで、遺物包含層の年代が12世紀代と考えられており、図2の直線Fの延長上にある。直線Fが示すように6世紀後半ころから ( $PbO-SiO_2$ 系) 鉛ガラスが流通し始め、7世紀末ごろには同産の ( $PbO-SiO_2$ 系) 鉛ガラスが製造され、装飾品として多量に流通していた。その後ガラス製造は衰退し、再びガラスが出現したのは11世紀の終わり頃から12世紀頃である(図2の直線G)。この時期には中国で10~11世紀頃発明された、融剤に鉛・カリウムを多く使用している ( $K_2O-PbO-SiO_2$ 系) 鉛ガラスが製造されている。<sup>5)</sup> 今回の調査により、( $PbO-SiO_2$ 系) 鉛ガラスの使用が平安時代まで延びることが推定された。今後更に分析数を増やし、破壊可能な資料についてはICP(誘導プラズマ発光分光度計)による定量分析がなされることにより、その流通の過程が明らかになること、また、同位体分析により鉛同位対比から、鉛の起源が推定されることが期待される。

#### 註

- 1) 富沢威他「古代ガラスの化学」「化学の領域」43
- 2) 吉武素水「ガラスの製造」・ガラス・35~73
- 3) 小林行雄「続古代の技術」篠井房、東京
- 4) 日本の美術37「ガラス」
- 5) 肥塚隆保「文化財論叢」966 国立奈良文化財研究所

表1 資料一覧

資料No	遺物番号	肉眼観察						出土地	推定年代
		色形	状態	直径(mm)	内径(mm)				
1	I Y00210615	緑玉	半分	9.4	4.2			泉屋(平泉町)	平安(12C頃)

資料番号、遺物番号、肉眼観察、年代は埋蔵文化財センター浜田氏による。

表2 資料1のEDSによる分析結果

資料No	主原料							融剤			着色剤		
	S i	P b	C a	N a	A l	K	M g	M n	F e	C u			
1	+++	+++	+	-	+	++	-	-	+	+			

表の「+++」は40%以上60%未満、「++」は1%以上2%未満、「+」は1%未満の半定量値を、「-」は検出されずを表す。

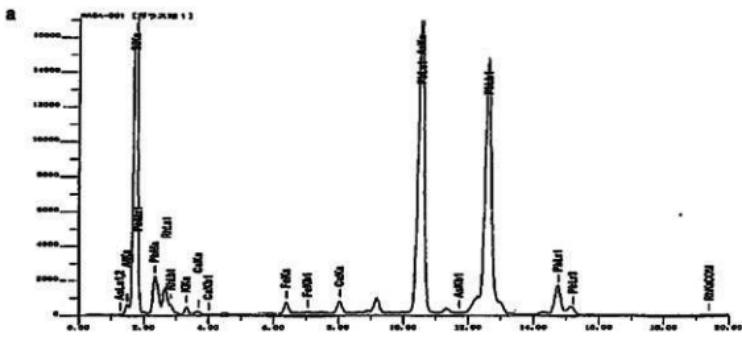


図1a 資料1の定性分析チャート（緑色部）

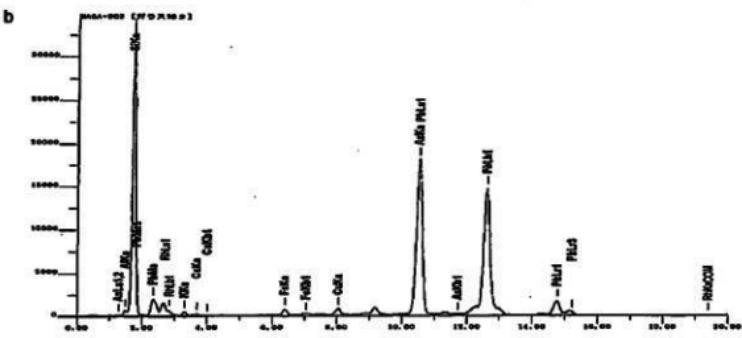


図1b 資料1の定性分析チャート（内側白色部）

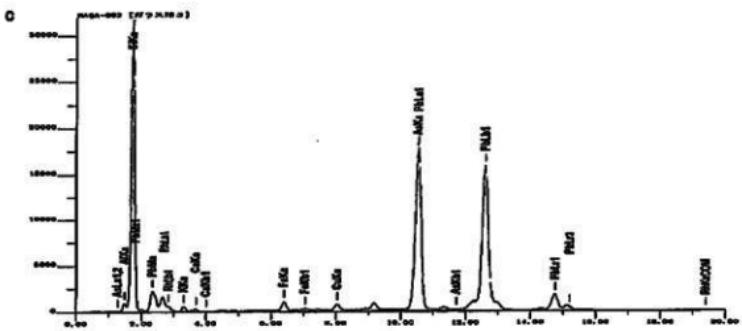


図1c 資料1の定性分析チャート（白色部）

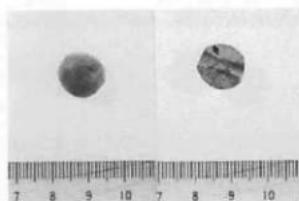
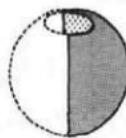


写真1 資料の外観写真



略図

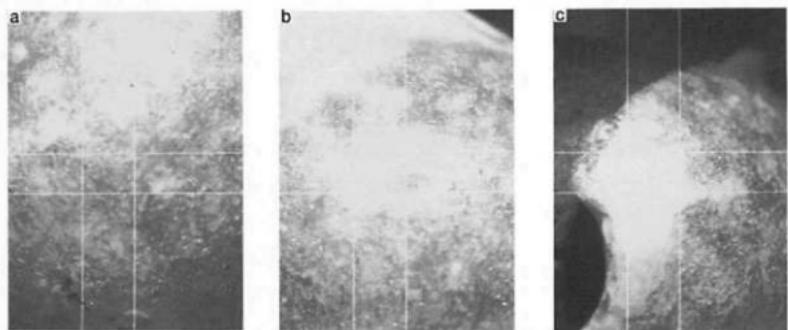


写真2 EDSのX線照射位置

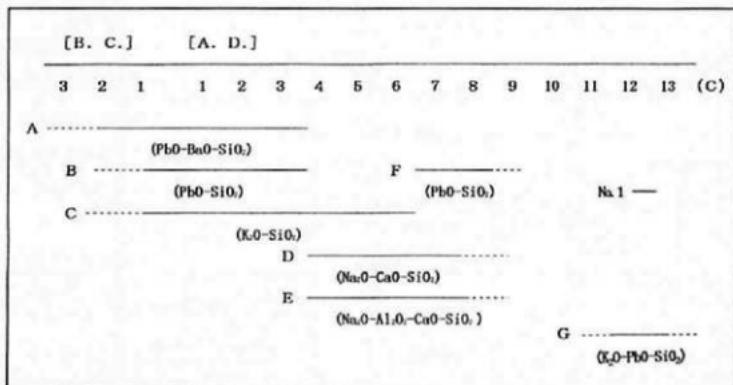


図2 古代ガラスの変遷

# 泉屋遺跡の火山灰分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

泉屋遺跡は、岩手県南部の平泉町に所在している。泉屋遺跡の発掘調査では、旧河道内に火山灰と推定される土層が認められた。今回の分析調査では、この土層が火山噴出物（いわゆるテフラ）に由来するものであるかを検証し、テフラであれば指標テフラとの対比を行う（テフラ分析）。また試料に火山ガラスが含まれている場合、より確実にテフラの対比を行うために、火山ガラスの屈折率を測定することとする。

これらの結果から、旧河道が埋積された年代に関する資料を得ることとする。

## 1. 試料

分析試料は、旧河道内に認められた灰白色の火山灰層より採取された火山灰サンプル1点である。この火山灰層の上位および下位の土層から、土器類および須恵器が出土していることから、火山灰は十和田aテフラ（To-a；町田ほか, 1981）に由来すると考えられており、またその堆積状況から二次堆積物と推定されている。試料は、灰白色を呈する細砂質土である。

## 2. 分析方法

### （1）テフラ分析

試料約20gを蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象として観察し、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。火山ガラスについては、その形態によりバブル型と中間型、軽石型に分類する。各型の形態は、バブル型は薄手平板状あるいは泡のつぎ目をなす部分であるY字状の高まりを持つもの、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは塊状のもの、軽石型は表面に小気泡を非常に多く持つ塊状および気泡の長く伸びた纖維束状のものとする。

### （2）屈折率測定

テフラ分析用に洗い出された試料から細粒な砂分を採取し、この中に含まれる火山ガラスの屈折率を測定する。屈折率測定には、温度変化型屈折率測定装置“MAIOT”（古澤, 1995）を用いて、火山ガラス30片程度を目標として計測する。

## 3. 結果

試料中の粒子は、ほとんどが火山ガラスと軽石により構成されている。これら以外の粒子は非常に少ないが、斜方輝石や長石等の鉱物粒が認められる。

火山ガラスは中量含まれ、無色透明の軽石型が最も多く、次いで無色透明のバブル型が多く認められる。軽石型の火山ガラスでは纖維束状のものが多く認められる。軽石は多量に含まれており、透明がかった白色を呈し発泡がやや良好～やや不良であるものが認められる。

#### (2) 屈折率測定

屈折率測定結果を図1に示す。火山ガラスの屈折率は、1.5046–1.5089である。屈折率が1.506付近にピークがあり、狭い範囲に集中して認められる。

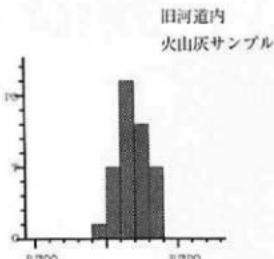


図1 火山ガラスの屈折率  
横軸は屈折率、縦軸は測定個数を表す。

#### 4. テフラの対比

今回認められた軽石と火山ガラスは、その形態と火山ガラスの屈折率、遺跡の地理的位置、町田ほか(1981)および町田・新井(1992)等の記載から、To-aに由来すると考えられる。To-aはA.D.915年に十和田カルデラより噴出したとされ、給源から南方の東北地方一帯に広く分布している(町田・新井, 1992)。To-aに含まれる火山ガラスの屈折率は、町田ほか(1981)では1.499–1.508、町田・新井(1992)では1.496–1.504と記載されている。

旧河道における堆積状況の詳細は不明であるが、試料採取時の所見では二次堆積物と推定されている。この場合、旧河道内の火山灰層が堆積したのは、To-aが噴出したA.D.915年よりも後であると考えられる。

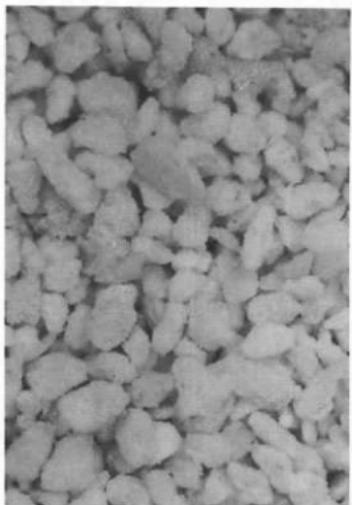
#### 引用文献

古澤明(1995)火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別、地質学雑誌, 101, P.123–133.

町田洋・新井房夫(1992)「火山灰アトラス」, 276 p., 東京大学出版会,

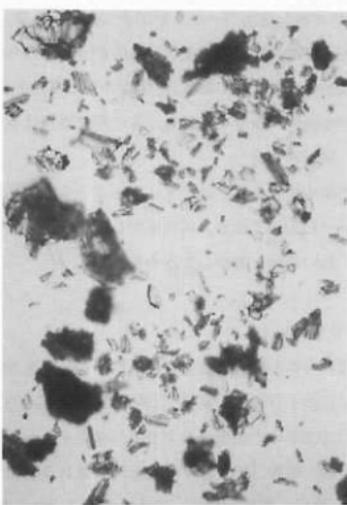
町田洋・新井房夫・森脇広(1981)日本海を渡ってきたテフラ、科学, 51, P.562–569.

図版1 テフラ



1. T o - a の軽石  
(旧河道内火山灰サンプル)

1mm



2. T o - a の火山ガラス  
(旧河道内火山灰サンプル)

0.5mm

## 動物遺存体鑑定結果

陸前高田市立博物館 熊谷 賢

番号	出土地点	層位	種	部位	備考	写真図版
1	トレンチ1	5c	ウマ	頭骨?		
2	トレンチ1	5c	ウマ	上顎道歯齒		写図145②
3	トレンチ1	5c	ウマ	上顎道歯齒		
4	トレンチ1	5c	ウマ	上顎道歯齒		
5	トレンチ1	5c	ウマ	上顎道歯齒		
6	トレンチ1	5c	ウマ	上顎道歯齒		
7	III H 7 j	8 (To-a) 直上	シカ	右角座部 - 第1枝	落角でない	写図145③
8	III 7 a	8 (To-a) E?	哺乳類	同定できない		
9	NH 3 i	5c	ウマ	同定できない		
10	不明	不明	ウマ	同定できない		
11	NH 1 i	5a	同定不可			
12	19SD12 (NH 1 i)	検出面	同定不可			
13	19SD12 (NH 1 i)	検出面	同定不可			
14	NH 3 i	4	同定不可			
15	NH 3 i	4	同定不可			
16	NH 1 i	5a	同定不可			
17	NH 1 i	5a	同定不可			
18	III 10 a	9b	同定不可			
19	NH 1 i	5a	同定不可			
20	III H 9 i	5d	同定不可			
21	NH 1 j	3c	不明	骨南		
22	NH 1 j	3c	不明	骨南		
23	NH 3 i	5a	同定不可			
24	III H 7 i	5d	同定不可			
25	III H 0 j	9a	同定不可			
26	III H 0 j	9a	同定不可			
27	NH 2 i	5a	同定不可			
28	NH 3 i	5a	同定不可			
29	III 10 a	9a	同定不可			
30	III 10 a	9a	同定不可			
31	NH 3 i	5a	同定不可			
32	III H 0 j	9a	同定不可			
33	NH 1 j	5d	同定不可			
34	NH 1 j	3c	ウマ?	前		
35	NH 1 j	3c	ウマ?	前		
36	NH 1 j	3c	ウマ?	前		
37	NH 1 j	3c	ウマ?	前		
38	NH 1 j	6	ウマ	前(若い)		
39	NH 1 i	5a				
40	19SE 3	5e	不明	脊椎骨		
41	NH 3 i	5a	(含) シカ	歯片		
42	19SD 9 (III H 2 j)	検出面	ウマ	歯?		
43	NH 2 i	5a	同定不可			
44	NH 1 i	5a	シカ	角	金属性による傷?	
45	NH 3 i	4	シカ	角片		
46	NH 2 i	5c	同定不可			
47	NH 3 i	5a	同定不可			
48	NH 1 i	4	同定不可			
49	NH 1 i	不明	同定不可			
50	NH 2 i	5a	哺乳類	不明		
51	III H 8 a	IV	同定不可			
52	NH 3 h	4	同定不可			
53	III H 8 i	5d	ウマ	由		写図145①
54	III H 7 i	5d	ウマ	由?		
55	NH 3 i	不明	ウマ	不明		
56	III H 8 i	5d	ウマ	頸骨	同じ頭骨?	
57	III H 0 j	6	ウマ	上顎道歯齒	臺地周辺下部	写図145⑤
58	19SD12 (NH 1 i)	埋土上部	ウマ?	歯?		
59	19SD12 (III H 0 j)	埋土上部	ウマ?	歯?		写図145④
60	III H 0 j	9b	シカ	角(右・落角)		写図145⑥
61	III G 2 j	IV				
62	NH 3 i	5a				

※本表は鑑定結果を基に濱田が作成した

## 平泉町泉屋遺跡から産出した植物遺体群

辻 誠一郎・辻 圭子（国立歴史民俗博物館）

### はじめに

平泉町泉屋遺跡の第21次調査終盤の2000年10月25日、主として平安時代の遺構・遺物を包含する地層の層序および十和田火山を給源とする十和田aテフラの産状を観察する機会が与えられた。その際、大型の植物遺体群が発掘調査の際に現地で採取されていることを知り、その中に球形のヒョウタンの果実も含まれていることを知った。古代の人と植物の関係を知るのに貴重な資料となると考え、これらの植物遺体群を検討させていただくことにした。

植物遺体群は二つのグループに分けられる。一つは、発掘調査の際に各層位から直接採取された植物遺体群である。これらはモモの核やオニグルミの核など比較的大型の目につきやすいものばかりである。他は水洗選別（フローティング処理）によって得られた植物遺体群で、主に19SK4遺構（便所遺構とされる）のIV層とV層からのものである。処理に用いられた堆積物の量などは不明であるが、栽培植物の種実が多数含まれているので、種類・組成を記載しておきたい。

### 各層位から採取された植物遺体群

植物遺体群が採取されたのは、最下位では49層、最上位では27層であった。おおむね十和田aテフラの下位の40層および上位の37・36層から集中的にモモ核やオニグルミ核が採取された。時期は9世紀から12世紀におよび、十和田aテフラは10世紀初頭と考えられているので、植物遺体群の大半は10世紀頃と考えることができる。

最下位の49層からは、モモ核、燃焼によって炭化したモモ核（図版1-7）、ネズミ類の食害痕があるオニグルミ核（図版1-6）が産出した。炭化したモモ核は半分に破碎されており、燃焼の上に破碎という人為がかかるものである。

41層からオニグルミ核、40層からモモ核、オニグルミ核（炭化、ネズミ類の食害痕含む）、トチノキ果皮、37層～34層からモモ核（36層からは仁も）、オニグルミ核、トチノキ果皮、32・31層からモモ核のみ、27層から炭化したモモ核のみが産出した。とくに十和田aテフラ直下の40層および直上の37層からはモモ核とオニグルミ核を主体としたたくさんの植物遺体群が産出した（図版1-4、5）。

40層前後（詳細な層位は不明）からはヒョウタンが単体で産出した。

以上のように現地で採取されたものは目につきやすい大型のモモ核、オニグルミ核、およびトチノキ果皮のみであった。これらのうちモモ核は人とのかかわりが認められ、とくに最下位の炭化した核は、祭祀の際に火に掛けられたものの可能性があるものである。オニグルミ核も頂部に打痕のあるものが見られ、人の利用が確認できる。それぞれ若干の形態記載を行っておきたい。

オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Miyabe et Kudo)

Kitamura (クルミ科)：核（内果皮）が産出した。表面には粗い彫紋があり、側面観で見られる縫合線によってオニグルミと同定される。

ヒョウタン *Lagenaria siceraria* Stand. (ウリ科)：果実が産出した。2000年10月25日に現

地で確認した際には、取り上げられた状態が観察され、ミカン状の球形をしていたが、その後乾燥保存されたため、果皮は縮小し、かつ球形の形状は破壊されてしまった（図版1-1、2）。しかし、果実の断面に見られる細胞形態および細胞群の配列はヒョウタンの果皮のそれに一致し、ヒョウタン果実と同定できる（図版1-3）。

モモ *Prunus persica* (Linn.) Batsch. (バラ科)：核（内果皮）が産出した。現地で採取された試料のほとんどに含まれていた。計測した46個の核の長さは23~32mm、幅18~27mmで、大きさにかなりばらつきがある。核の表面には深い彫紋と孔点がある。縫合線は一方に顕著に見られ、他方ははっきりしたものになっていない。これらの特徴からモモの核と同定される。最下位の49層と十和田aテフラ直下の40層からは燃焼して炭化したモモの核が産出した。

トチノキ *Aesculus turbinata* Blume (トチノキ科)：種子が産出した。黒色の光沢のある部分と褐色の光沢のない部分とが認められることからトチノキの種皮と同定される。すべて現地で採取されたものである。

#### 19S K 4 造構から産出した植物遺体群

19S K 4 造構は、平安時代の造構が検出されるIV層で検出されており、平面では円形を呈し、深さ74cmの穴状の造構で、形状およびちゅう木など出土遺物から便所造構と考えられている。植物遺体群は、造構を埋積する最下位のV層およびその直上のIV層から採取された堆積物を水洗して得られたものである。

V層とIV層の植物遺体群の組成は類似しており、共通して産出したものは、ウメ核、ヤマブドウ種子、サルナシ核、マツブサ種子、メロン種子、キイチゴ属核、ナス属種子、シソ属-イヌコウジユ属分果、ヤマグワ種子、カナムグラ果実、キブシ種子であった。これらのうち、マツブサ種子、メロン種子、およびキイチゴ属核はV層からは多量に産出したのに対して、IV層からは少なかった。V層のみから産出したのは、カタバミ種子とグミ属果実のみであった。IV層のみから産出したのは、モモ核、イネ炭化胚、ガマズミ核のみであった。V層から多量に産出したメロンやキイチゴ属は果実が食用となるもので、その他も食用となる植物が多いことから、排泄物もしくは生ゴミに含まれた遺体群であると考えられる。ただ、マツブサ種子は、その産出がきわめて稀であり、一般には食用とはされないため、別の目的で使用されたものか、偶然この造構内に混入した可能性がある。

水洗で得られたものは上記の同定できた種実類以外にも、木材片および燃焼して炭化した木炭片が含まれていた。これら的一部を観察したところ、木材片ではスギが、木炭片ではV層からカエデ属、IV層からエゴノキ属、コナラ属、クリが確認された。

同定できた種実類の若干の記載を行っておきたい。

イネ *Oryza sativa* L. (イネ科)：炭化した胚が産出した。長さ5.2~5.5mm、幅2.8~3.0mm、側面観は長辺円形、両背面はやや偏平の長辺円形で、2~3本の浅い溝があり、背部が斜めに切れているためイネと同定される。

マツブサ *Schisandra nigra* Maxim. (マツブサ科)：種子が産出した。側面観は径5~4mm腎形で、ヘソを中心にはくくなる。背面観は長方形である。種皮はコブ状の複雑な突起となり、密に分布する。黒褐色から褐色で光沢がないことからマツブサの種子と同定される（図版2-5）。

ヤマグワ *Morus bombycina* Koidz. (クワ科) : 種子が産出した。長さ1.9mm、幅1.5mm、厚さ1.3mm程度の広三角形で、背面は少し角張り、腹部は稜をなす。ヘソの部分に爪状の突起が確認され、黄から茶灰褐色、光沢はなく、種子表面がでこぼこしていることからヤマグワ種子と同定される。

カナムグラ *Humulus japonicus* Sieb. et Zucc. (クワ科) : 果実が産出した。長さ5.2mm、幅5.0mmで、ほぼ球形。ヘソの部分に白いハート型の隆起部があり、黒色、光沢があまりないことでカナムグラに同定される。

サルナシ *Actinidia arguta* (Sieb. et Zucc.) Planch. ex. Miq. (マタタビ科) : 種子が産出した。大きさは2.0~2.5mm、幅1.5~1.8mmで狭倒卵形~長楕円形、偏卵形といろいろな形を呈し、側面はやや偏平な長方形で、赤褐色~黒褐色で光沢がある。種皮は幅のある稜により網目模様を呈する。稜の頂点が平らで、網目模様が結合して稜をつくっていることからサルナシに同定される(図版2-4)。

キブシ *Stachyurus praecox* Sieb. et Zucc. (キブシ科) : 種子が産出した。長さは1.8mm、幅1.3mm、厚さ1.5mm、丸みのある三角形で、背部はやや角張り、ヘソは斜めに稜をなす。表面の細胞は均一、黄~淡褐色で光沢があることからキブシと同形される。

メロン *Cucumis melo* L. (ウリ科) : 種子が産出した。大きさはかなりばらつきがあり、長さ6.0~9.8mm、幅2.9~4.6mm、倒卵形で、中央がいくらか膨らみ、基部に行くにつれて薄くなる。基部の一部が突出するものもあるが、種皮の細胞は縦軸に沿って縦長に並び、キュウリとは区別できる。藤下(1984)は現生のメロン種子の長さを計測し、6.0mm以下をA:ザツオメロン型、B:6.1~8.0mmをシロウリ・マクワウリ型、C:8.1mm以上をモモルディカメリオン型としている。19SK4造構のIV層から産出したメロン種子の3型の割合は、A:1、B:68、C:31%であった。また、V層からのものは、A:2、B:72、C:32%であった。これによれば、シロウリ・マクワウリタイプが多く、モモルディカメリオンも相当量含まれることになる(図版2-1、2)。

カキノキ属 *Diospyros* (カキノキ科) : 種子が産出した。一部破損しているが、非対称の楕円形で、薄く偏平、暗褐色を呈し、表面に不規則な大きい筋波状紋があることからカキノキ属と同定される。

キイチゴ属 *Rubus* (バラ科) : 小核が産出した。側面観は横広三角形で、背面は長方形、腹面は直線もしくはヘソの部分が少し尖る。正中線上に稜がある。長さは1.1~1.7mm、幅1.0~1.3mmで核の表面は先の尖った山形の稜で、網目模様を呈する。褐色で光沢がないことからキイチゴ属と同定される(図版2-3)。

ウメ *Prunus mume* (Sieb.) Sieb. et Zucc. (バラ科) : 核が産出した。先の尖った卵形で、細かな孔点と稜紋があることからウメ核と同定される。

ヤマブドウ *Vitis coignetiae* Pulliat ex Planch. (ブドウ科) : 種子が産出した。大きさは3.0~5.0mm、幅2.0~3.0mmで広三角形、背面は広長方形、細長い二つの孔がある。もう一方の面には中央に円形の齊帶がある。暗茶~黒褐色を呈する。

グミ属 *Elaeagnus* (グミ科) : 果実が産出した。黒色で光沢がなく、広被針形で、基部は鈍く丸くなり、先端は鈍く尾状に尖る。表面に8本の隆起線をもつことからグミ属と同定される。

カタバミ *Oxalis corniculata* L. (カタバミ科) : 種子が産出した。大きさは1.3mm、幅1.0

mm、広楕円形、基部と先端は少し尖る。側面観では、縦に2~3本の稜線が走り、横方向には4~7列の肋骨状隆条が陥しく並ぶ。黒色で光沢はない。

ナス属 *Solanum* (ナス科) : 種子が産出した。大きさは1.2~1.5mm、3.3~3.5mmと大きさがかなり異なる。側面観は腎形、背面観は平たい偏平で、腹面観はほぼ中央にヘソがある。ヘソの一方はくちばし状に尖る。褐色で光沢はなく、うすく透けたように見える。種皮表面はくちばし上部に収斂する。柱状の高いうねによって仕切られた網目が見られることからナス属と同定される（図版2-6）。

シソ属-イヌコウジュ属 *Perilla - Mosla* (シソ科) : 分果が産出した。大きさは1.5~2.0mmの縦長の偏円形で、表面には山形の稜による不規則な亜甲状の低い網目模様が見られる。網目をつくっている稜の先が尖っていて、重なり合っていること、種皮の断面は厚く3層からできていること、基部の脐点が尖っていることからシソ属-イヌコウジュ属と同定される（図版2-7）。

エゴマ *Perilla frutescens* (L.) Britton var. *frutescens* (シソ科) : 果実が産出した。大きさは2.0~2.5mm、側面観は楕円形で、基部が唇状に尖出し、表面はうね状の突起がなく多角形の網目模様を呈することからエゴマと同定される。

ガマズミ *Viburnum dilatatum* Thunb. (スイカズラ科) : 核が産出した。長さは4.6~4.8mm、広楕円形で先が少し尖る。側面は薄い偏平で、背面と腹面に2本と3本の浅い溝をもつ。背面の正中線は隆起しているが、腹面はくぼんでいる。表面はでこぼこが多い。

灰茶、ガサガサしていて光沢がないことからガマズミと同定される。

#### 引用文献

藤下典之 (1984) 出土遺体からみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法、「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学-総括報告書」 p.638-654.

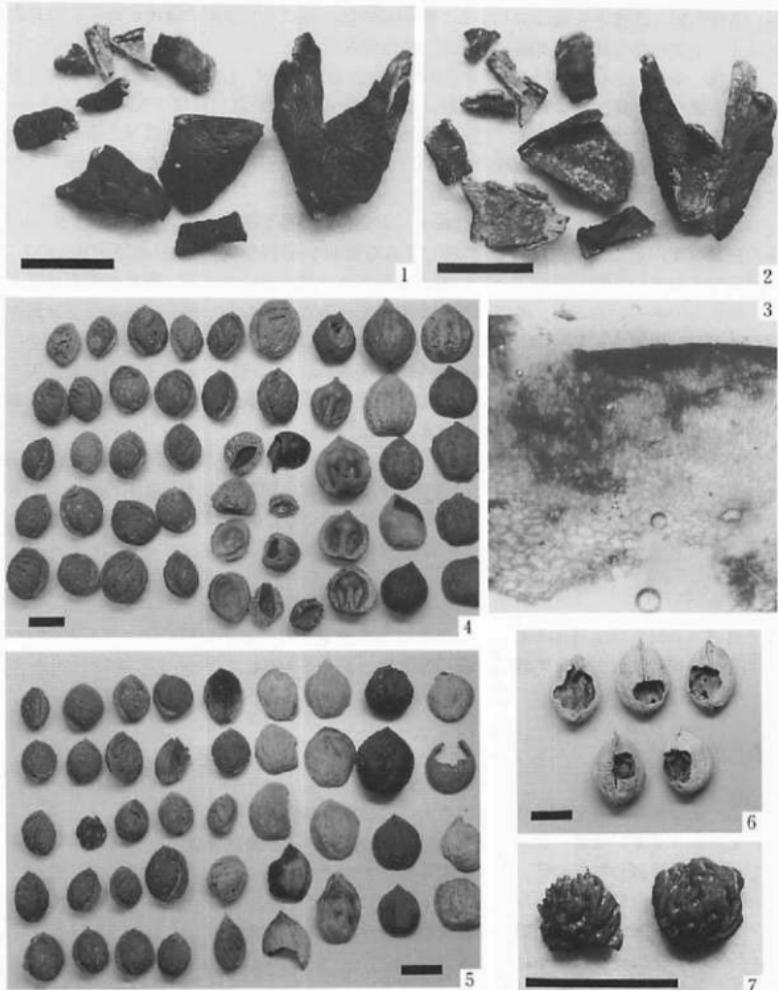
#### 写真図版の説明

##### 図版1 泉屋遺跡から産出した現地取り上げの植物遺体群

1. 2. ヒヨウタン果実 3. ヒヨウタン果実の断面、上が果皮表面
  4. 37層から産出したモモ核、オニグルミ核、トチノキ種皮
  5. 40層から産出したモモ核とオニグルミ核
  6. 49層から産出したネズミ類の食害痕が認められるオニグルミ核
  7. 49層から産出した炭化したモモ核
- 黒のスケールは2cm

##### 図版2 泉屋遺跡の19S K 4 遺構から産出した植物遺体群

1. 2. メロン種子 3. キイチゴ属小果 4. サルナシ核 5. マツブサ種子
  6. ナス属種子 7. シソ属-イヌコウジュ属分果
- 黒のスケールは1mm



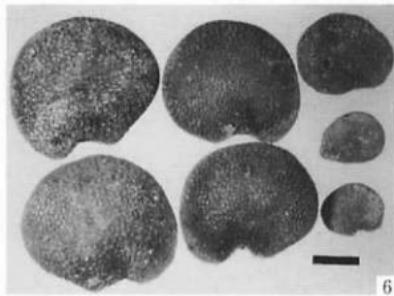
(黒のスケールは2cm)



1

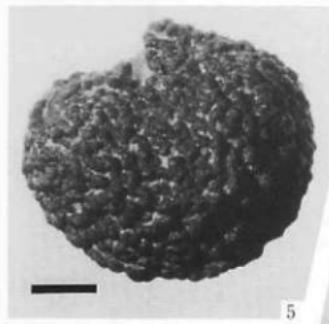
2

4



3

6



5



7

(黒のスケールは 1 mm)

# 写 真 図 版



泉屋遺跡全景

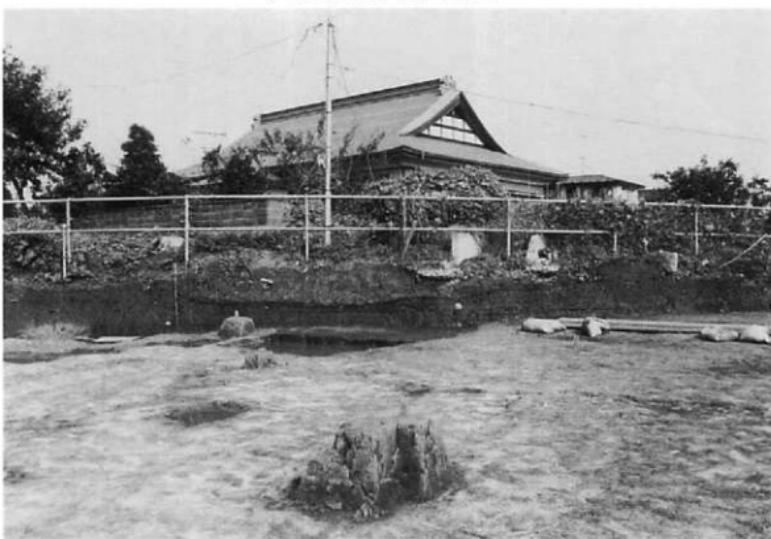


第19次調査 調査区全景

写真図版 1 空中写真



第19次調査 調査区近景（南面→）



基本層序

写真図版 2 遺跡近景・基本層序



21SB10 完掘（第19次調査）



21SB11-17 完掘（第19次調査）



21SB1 完掘



21SB7 完掘



21SB4 完掘



第21次調査 調査風景



第19次調査 調査前の状況

### 写真図版 3 挖立柱建物・調査風景



19SE1 完掘



19SE2 完掘



19SE1 断面



19SE2 断面



19SE3 完掘



19SE4 完掘



19SE3 断面

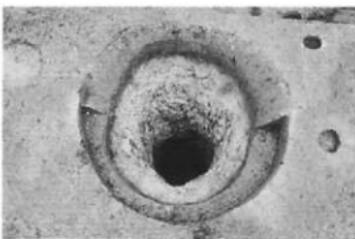


19SE4 断面

写真図版 4 井戸①



19SE5 完掘



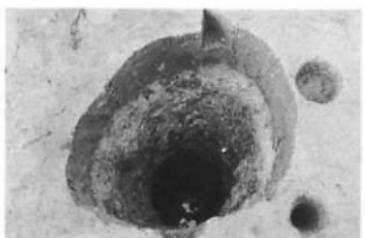
19SE6 完掘



19SE5 断面



19SE6 断面



19SE7 完掘



19SE8 完掘



井戸跡精査状況



19SE8 断面

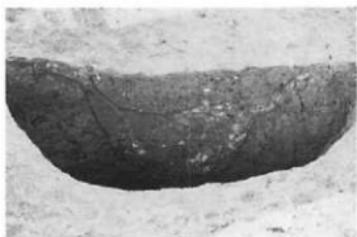
写真図版5 井戸②



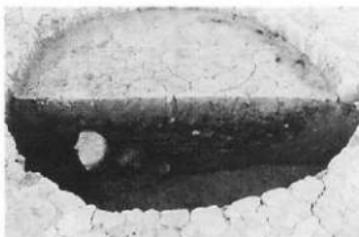
19SE9 完掘



19SK1 完掘



19SE9 断面



19SK1 断面



19SK2 完掘



19SK3 断面

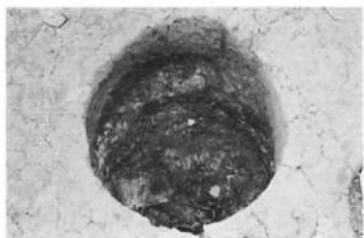


19SK2 断面



第19次調査 調査風景

写真図版 6 井戸③・土坑①



19SK4 完掘



19SK5 精査状況



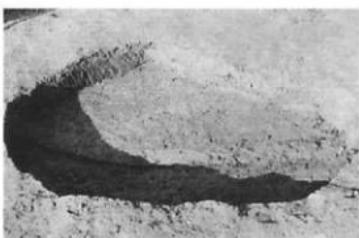
19SK4 断面



19SK5 断面



19SK6 完掘



19SK8 完掘



19SK6 断面



19SK8 断面

#### 写真図版 7 土坑②



19SK9 完掘



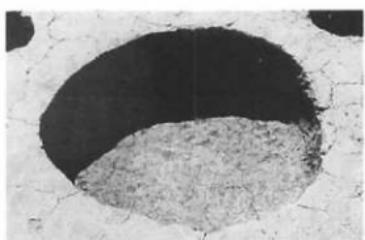
19SK10 完掘



19SK9 断面



19SK10 断面



19SK11 完掘



19SK12 完掘



19SK11 断面



19SK12 断面

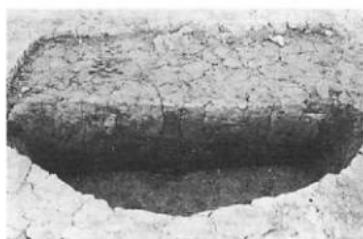
### 写真図版 8 土坑③



19 SK 13 完掘



19 SK 14 完掘



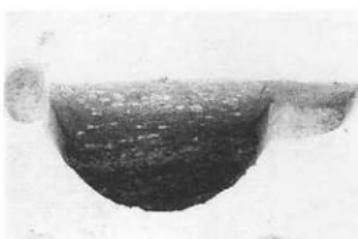
19 SK 13 断面



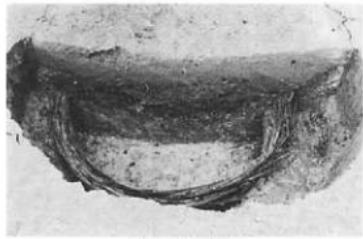
19 SK 14 断面



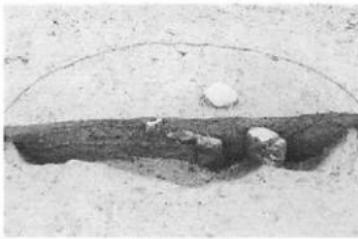
19 SK 15 完掘



19 SK 16 断面



19 SK 15 断面



19 SK 17 断面

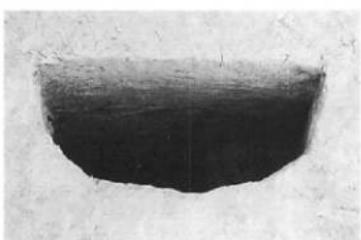
写真図版 9 土坑④



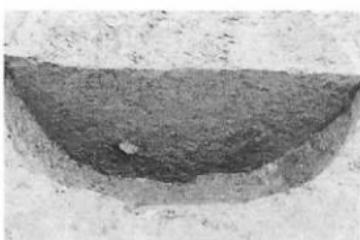
19SK18 完掘



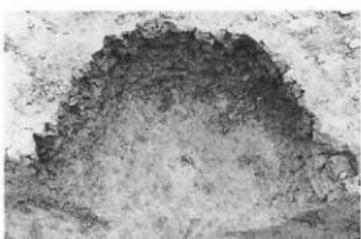
19SK20 完掘



19SK19 断面



19SK20 断面



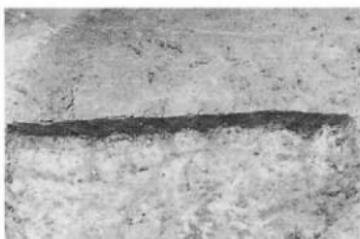
19SK22 完掘



21SK1 完掘



19SK22 断面



21SK1 断面

#### 写真図版10 土坑⑤



21SK 2 完掘



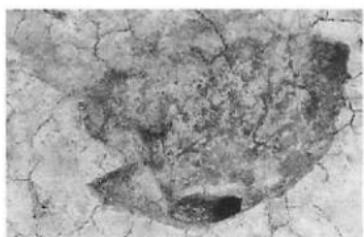
21SK 3 完掘



21SK 2 断面



21SK 3 断面



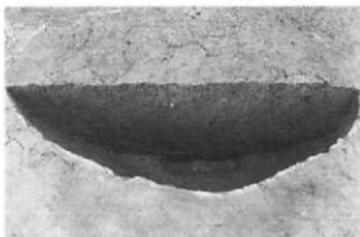
21SK 4 完掘



21SK 5 完掘



21SK 4 断面



21SK 5 断面

写真図版11 土坑⑥



21SK 6 完掘



21SK 7 完掘



21SK 6 断面



21SK 7 断面



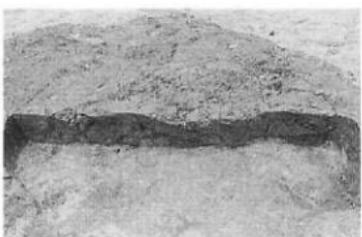
第19次調査 IV層検出状況



21SK 9 完掘

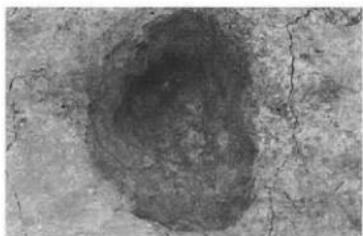


第21次調査 IV層検出作業



21SK 9 断面

### 写真図版12 土坑⑦



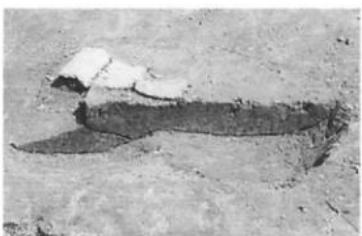
21SK10 完掘



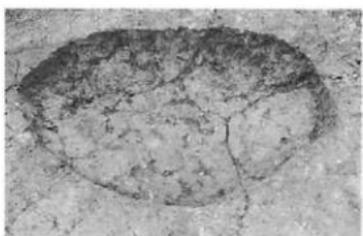
21SK11 完掘



21SK10 断面



21SK11 断面



21SK13 完掘



21SK14 完掘



21SK13 断面



21SK14 断面

写真図版13 土坑⑧



21SK15 完掘



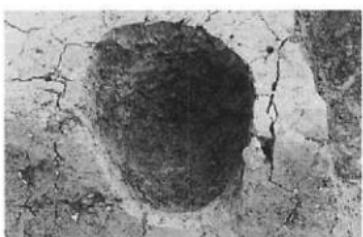
21SK16 完掘



21SK15 断面



21SK16 断面



21SK17 完掘



第21次調査 旧河道 調査風景(1)



21SK17 断面



同上(2)

写真図版14 土坑⑨



19 S D 1 完掘



19 S D 2 完掘



19 S D 1 断面



19 S D 2 断面



19 S D 3 完掘



19 S D 4 + 19 S D 5 完掘



19 S D 3 断面



19 S D 4 断面

写真図版15 溝①



19SD 6 完掘



19SD 7 完掘



19SD 6 断面



19SD 8 完掘



19SD 9 完掘



19SD 8 断面



19SD 9 断面

写真図版16 溝②



19 S D 10 完掘



19 S D 11 完掘



19 S D 10 断面



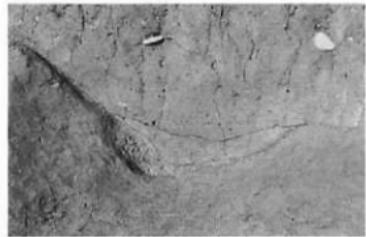
19 S D 11 断面



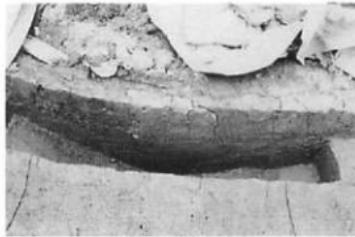
19 S D 12 完掘



19 S D 12 遺物出土状況



19 S D 12 断面(1)

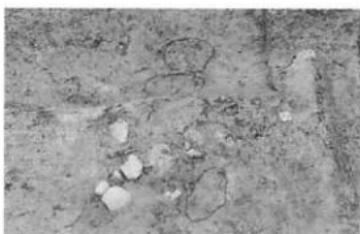


19 S D 12 断面(2)

写真図版17 溝③



19S I 1 完掘



21S I 1 カマド全景



19S I 1 断面



21S I 1 カマド 断面



21S I 2 断面



21S I 2 燃焼部焼土 断面

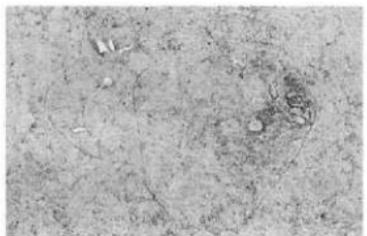


21S I 2 遺物出土状況



VI層地山面の検出状況

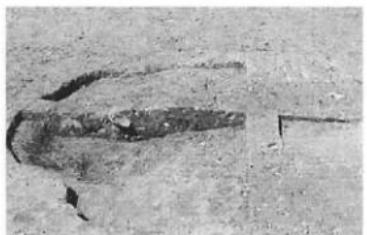
#### 写真図版18 古代の竪穴住居



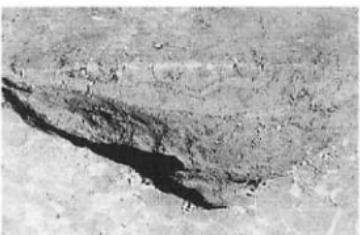
19S X 1 検出



19S X 2 検出



19S X 1 断面



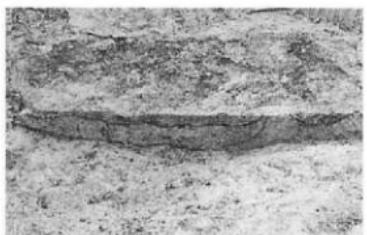
19S X 2 断面



19S X 3 検出



19S X 4 検出

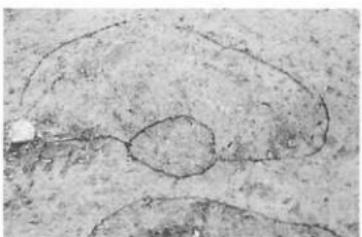


19S X 3 断面



19S X 4 断面

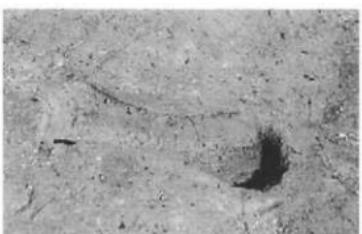
写真図版19 烧土①



19S X 5 検出



19S X 6 検出



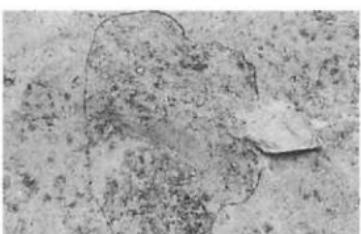
19S X 5 断面



19S X 6 断面



19S X 7 検出



19S X 8 検出

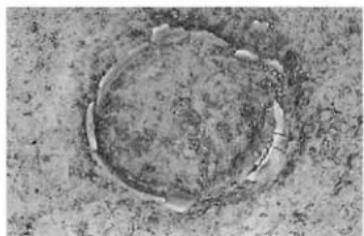


19S X 7 断面

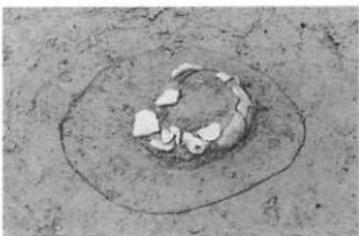


19S X 8 断面

写真図版20 烧土②



19S X 10 検出



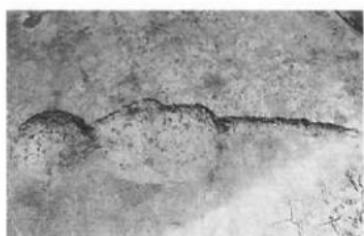
注入土器 出土状況



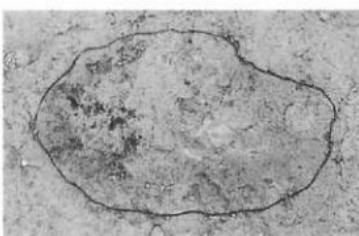
19S X 10 断面



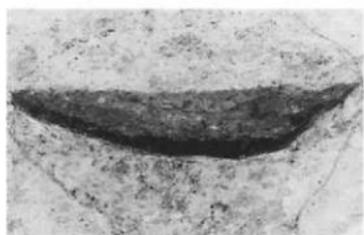
断ち割り 断面



21S X 1 検出



21S X 2 検出



21S X 1 断面

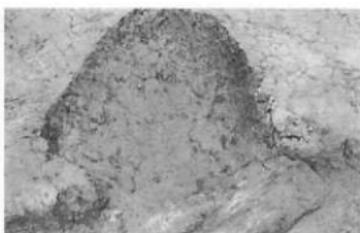


21S X 2 断面

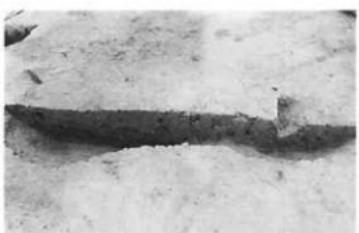
写真図版21 土器埋設遺構・カマド状遺構①



21S X 3 検出



21S X 4 検出



21S X 3 断面



21S X 4 断面



21S X 5 検出



21S X 6 検出



21S X 5 断面

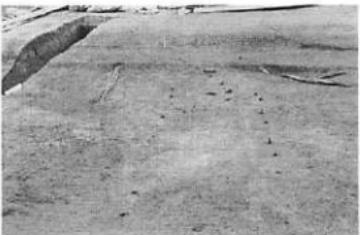


21S X 6 断面

写真図版22 カマド状遺構②



21S X 7 検出



木柱列1 (東→) 検出(1)



21S X 7 断面



木柱列1 (西→) 検出(2)



整地局面で検出された木柱列1の一部



木柱11 断面



木柱8 断面



木柱22 断面

写真図版23 カマド状造構③・木柱列



土偶



勾玉



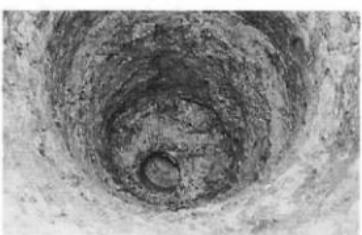
縄文土器（包含層）



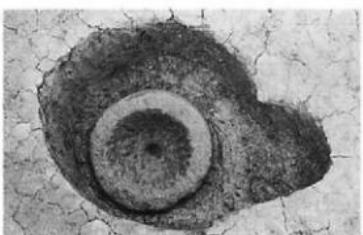
縄文土器（旧河道内）



19S E 2 桶のタガ



19S E 9 曲物



19P 242 石臼



19P 246 石臼

#### 写真図版24 遺物出土状況



第19次調査 作業風景



第21次調査 調査開始時



トレンチ3 断面（第19次調査）



トレンチ2 断面（第19次調査）



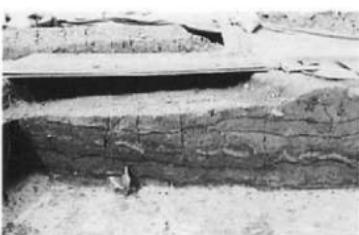
トレンチ2 断面（第21次調査）



トレンチ1 断面（第21次調査）



北東端 深掘り 断面



北西端 須恵器 出土状況

#### 写真図版25 旧河道の調査状況①



III H 8 i 繩文土器 出土状況



M H 1 i (C 5 d 層) かわらけ 出土状況



III H 0 i (C 5 d 層) かわらけ 出土状況



19 S D 12 検出面 かわらけ 出土状況



M H 2 i 馬歯 出土状況



M H 3 i 獣骨(馬) 出土状況



M H 1 i 獣骨(馬) 出土状況



第21次調査 作業風景

写真図版26 旧河道の調査状況②



十和田 a 火山灰層面での検出



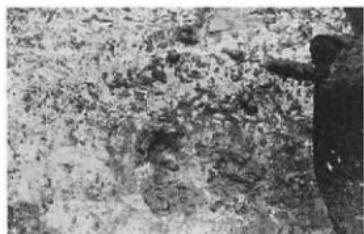
調査終了時の状況



十和田 a 火山灰除去作業



III H 6 i (C 7 a 層) 漆器椀 出土状況



III I 7 a 十和田 a 直上 堅果類 出土状況



III H 7 i 十和田 a 直上 曲物 出土状況

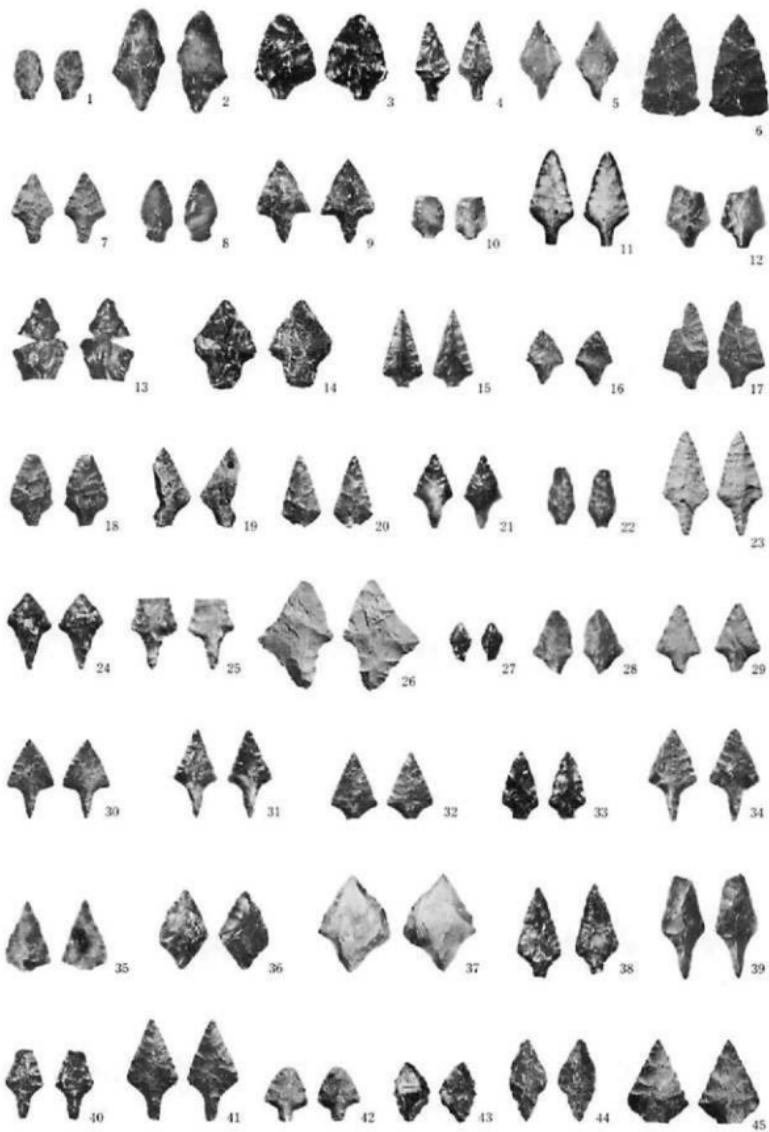


III I 9 a (C 9 b 層) 出土 土鈴

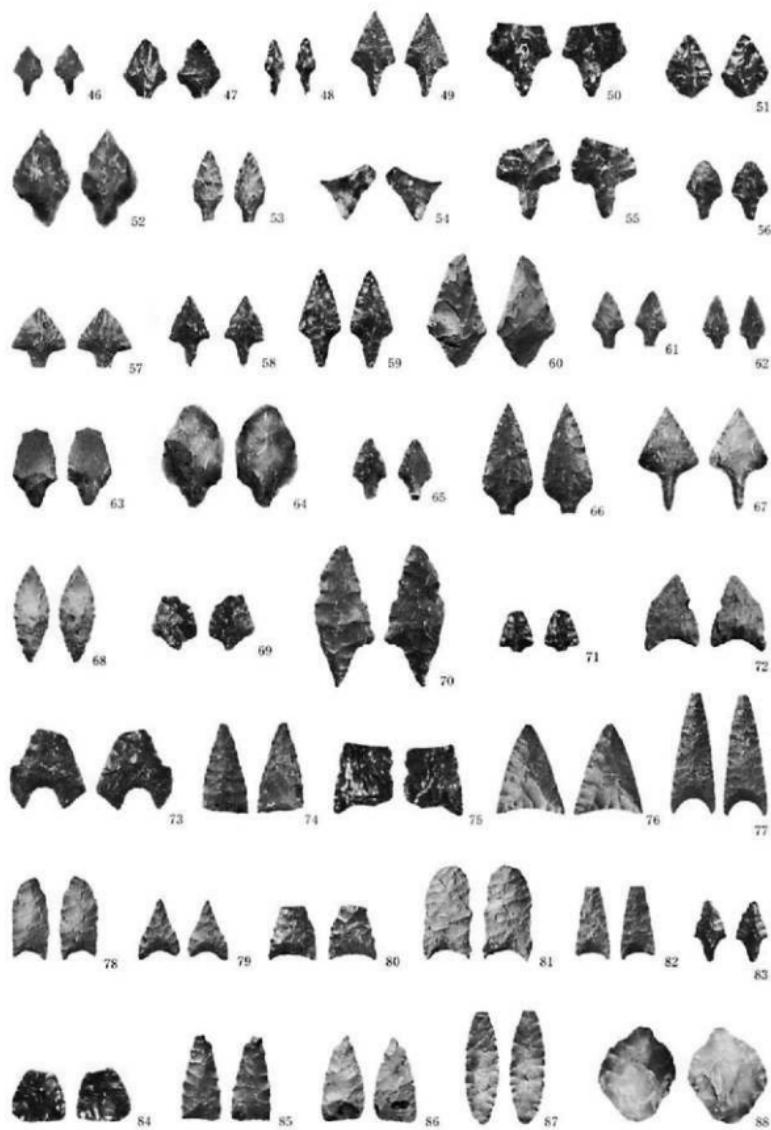


III H 0 i 十和田 a 下 出土 木鉢

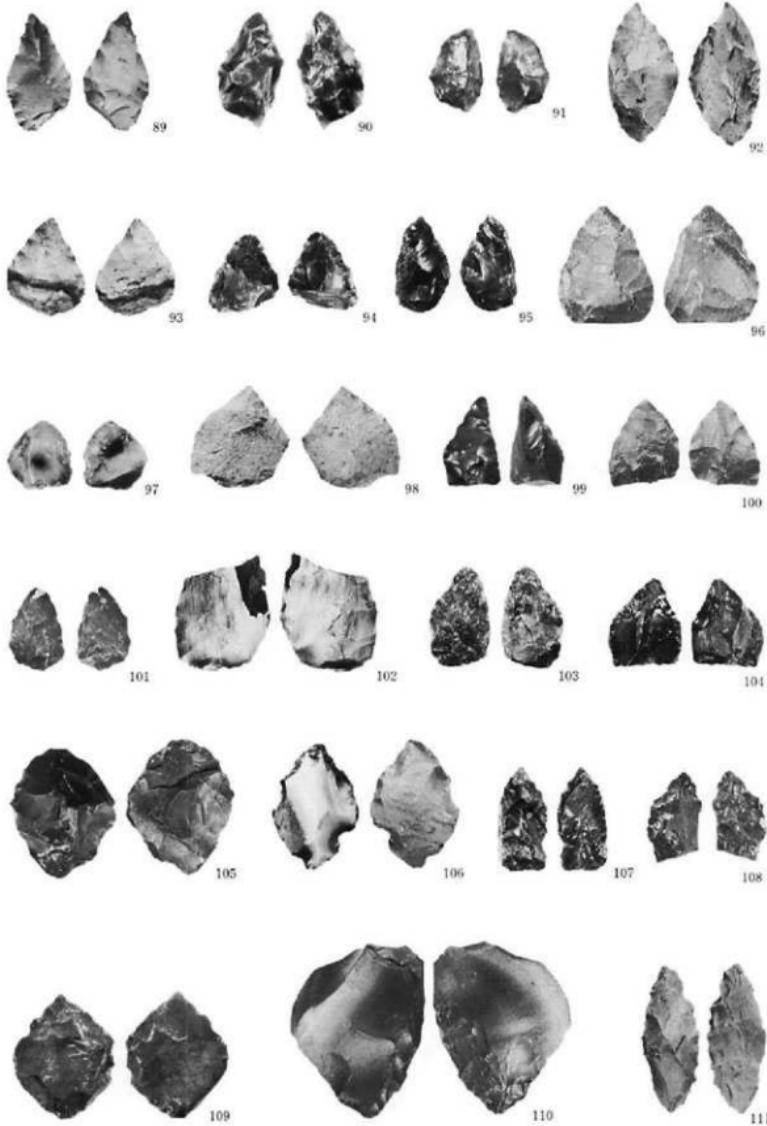
写真図版27 旧河道の調査状況③



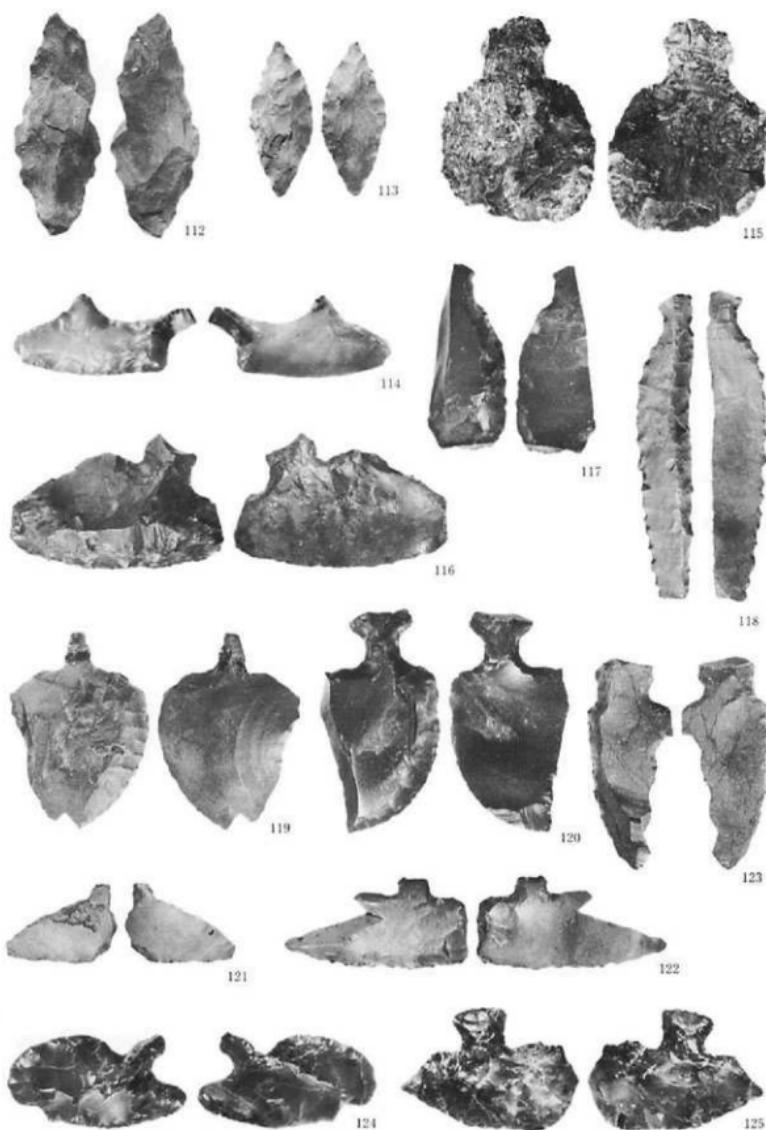
写真図版28 縄文時代の石器①



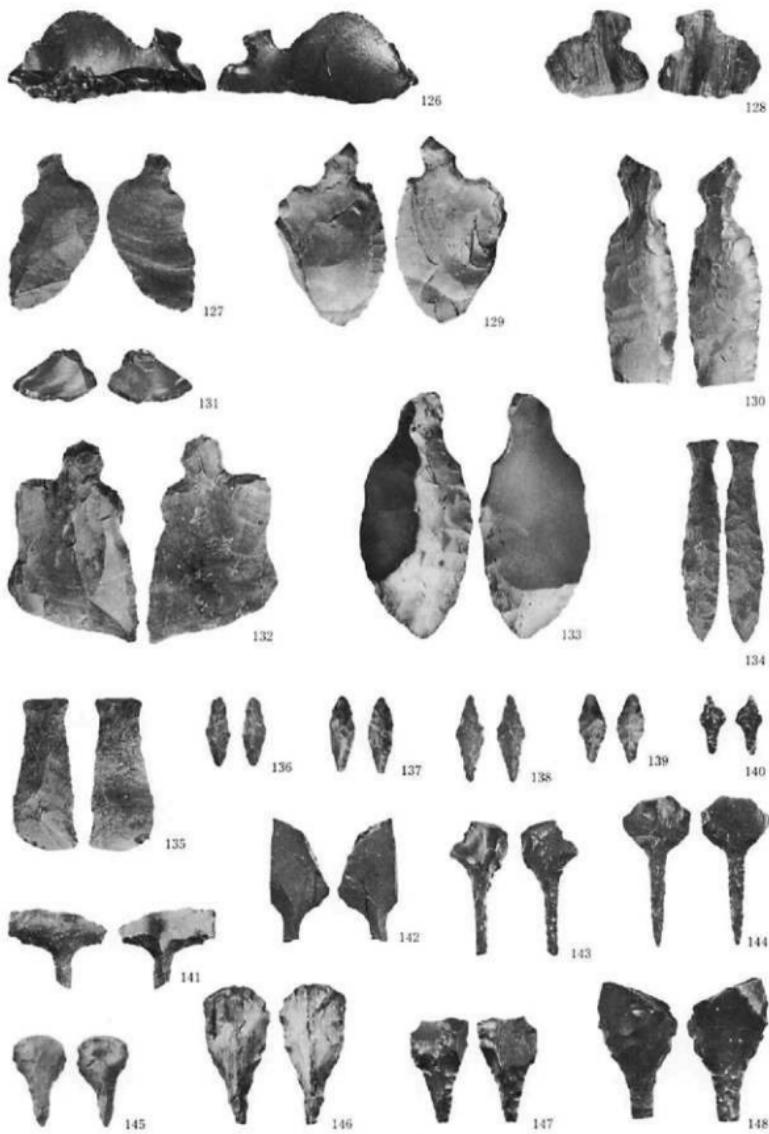
写真図版29 縄文時代の石器②



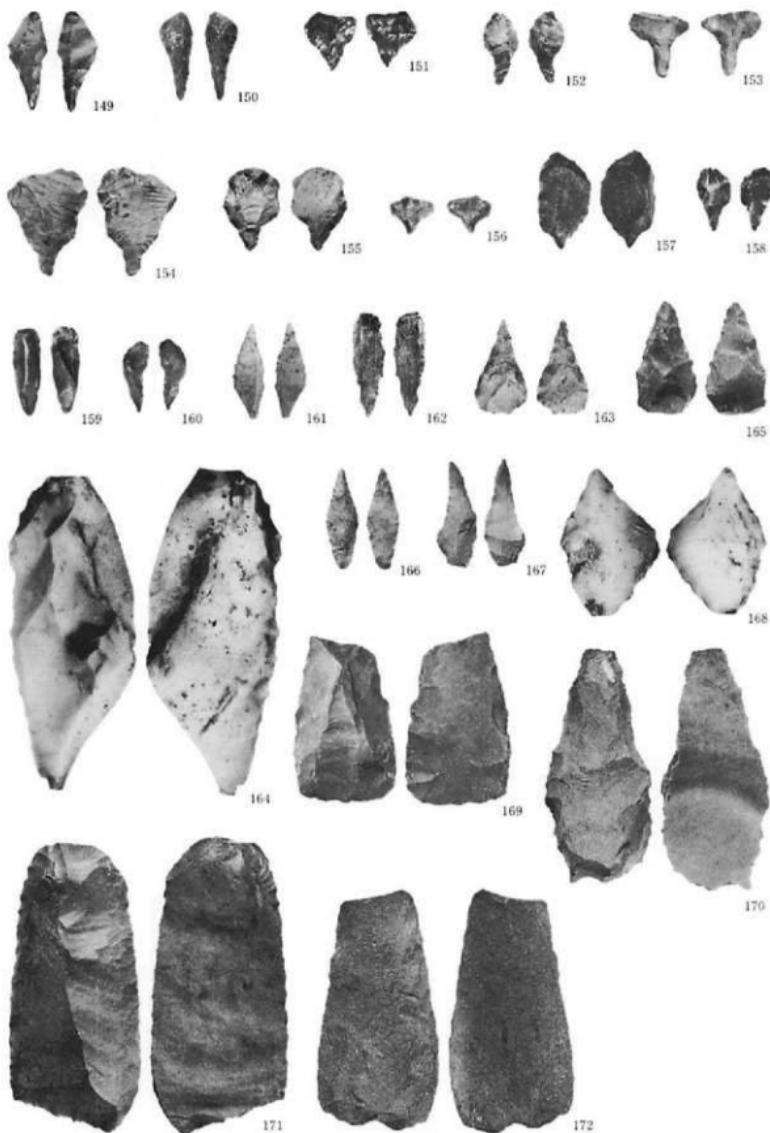
写真図版30 縄文時代の石器③



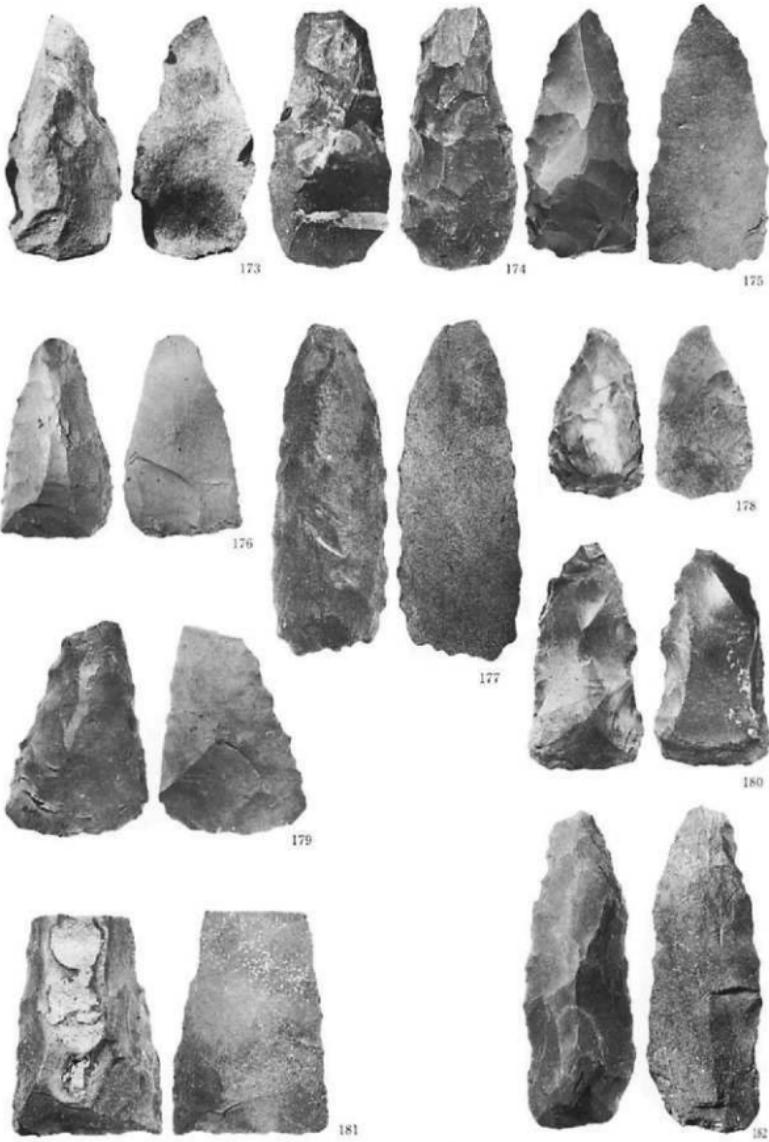
写真図版31 縄文時代の石器④



写真図版32 縄文時代の石器⑤



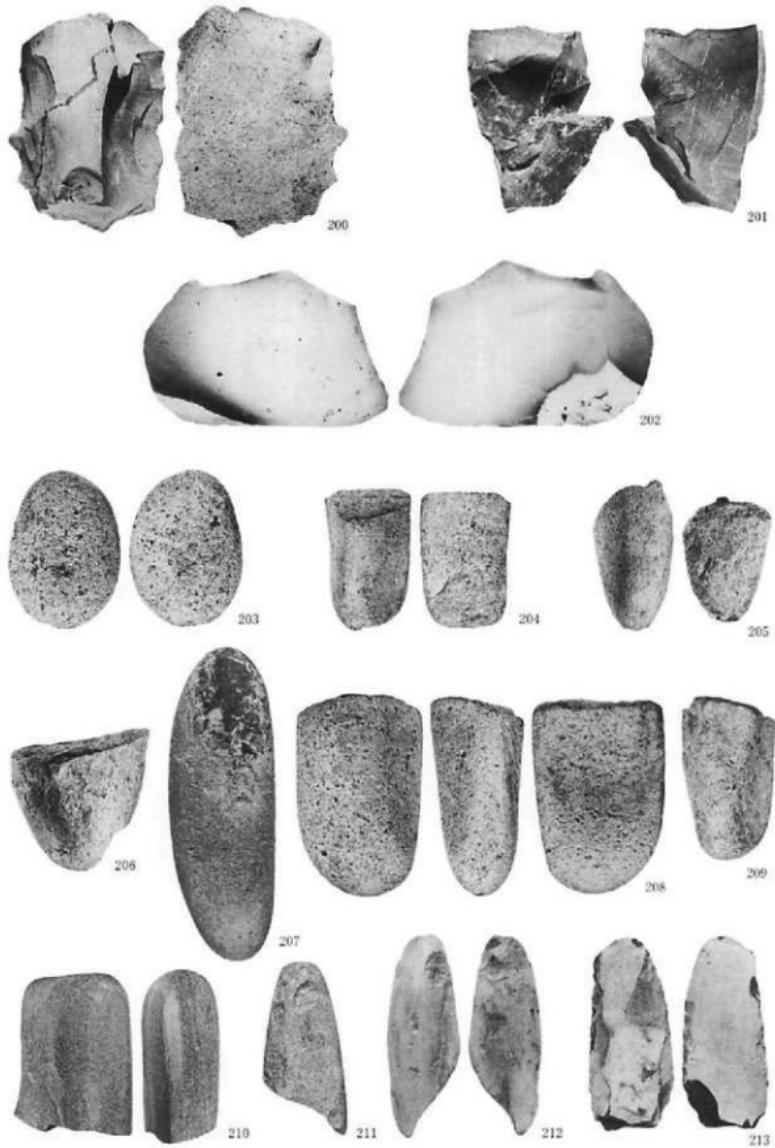
写真図版33 繩文時代の石器⑥



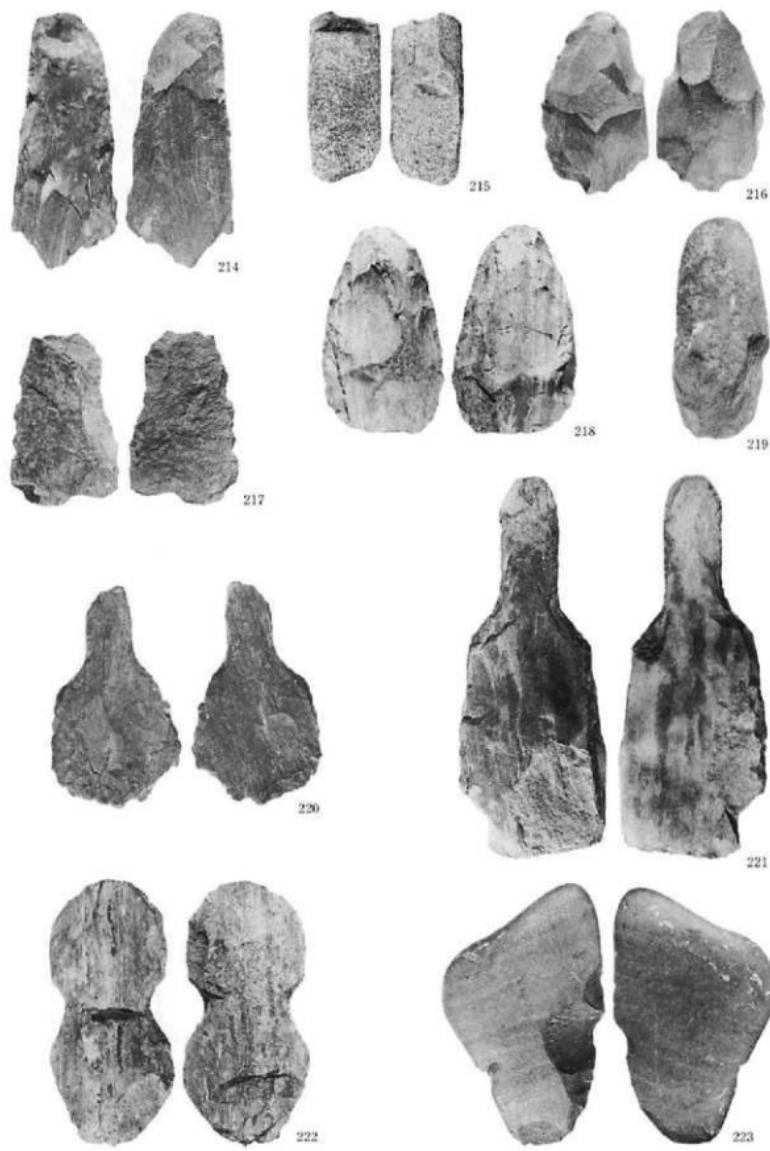
写真図版34 繩文時代の石器⑦



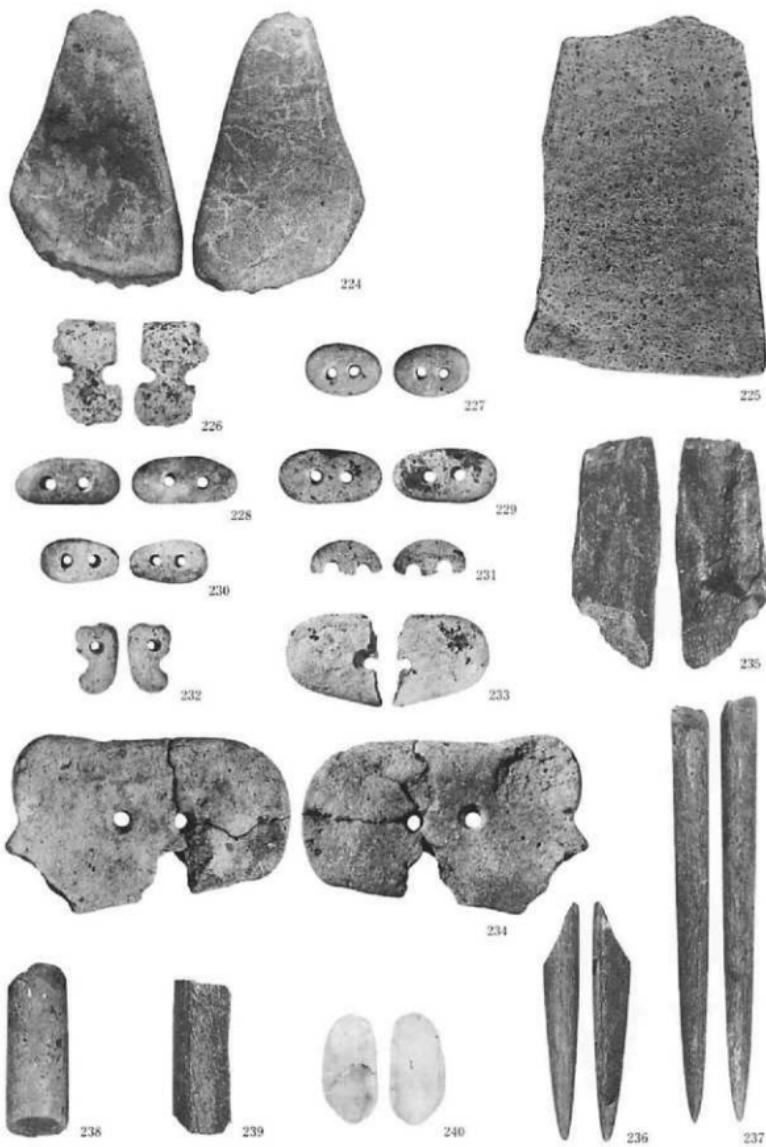
写真図版35 縄文時代の石器⑧



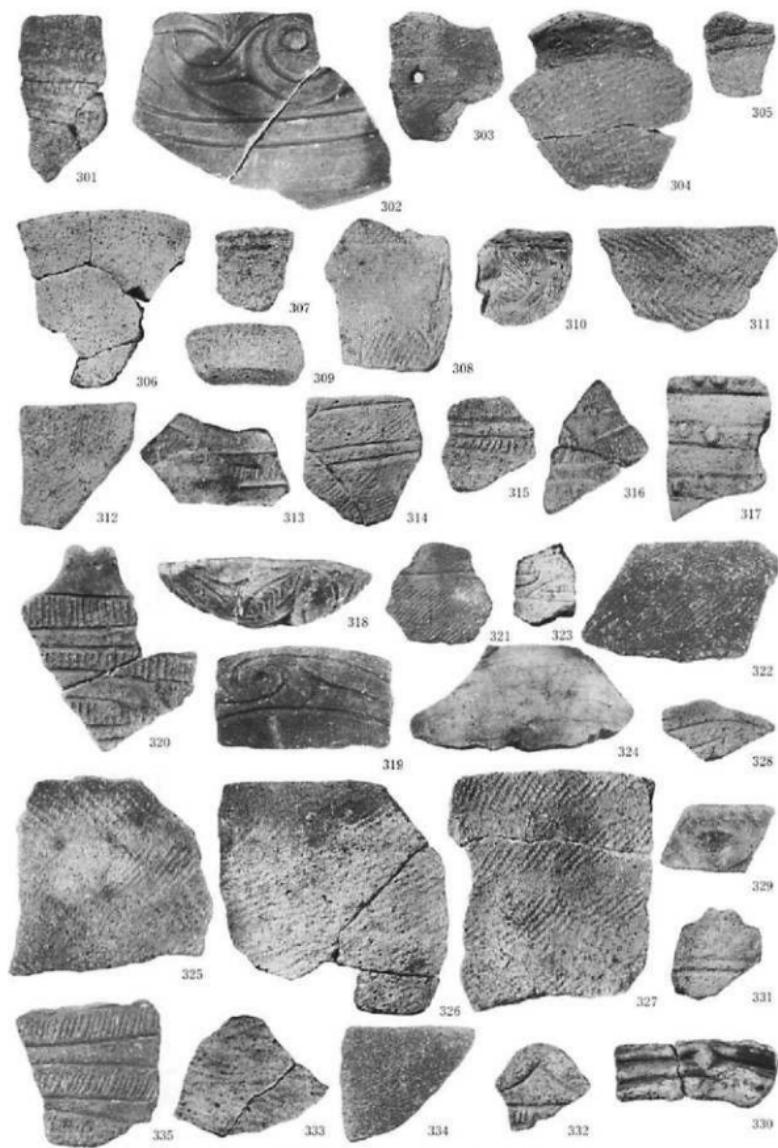
写真図版36 縄文時代の石器⑨



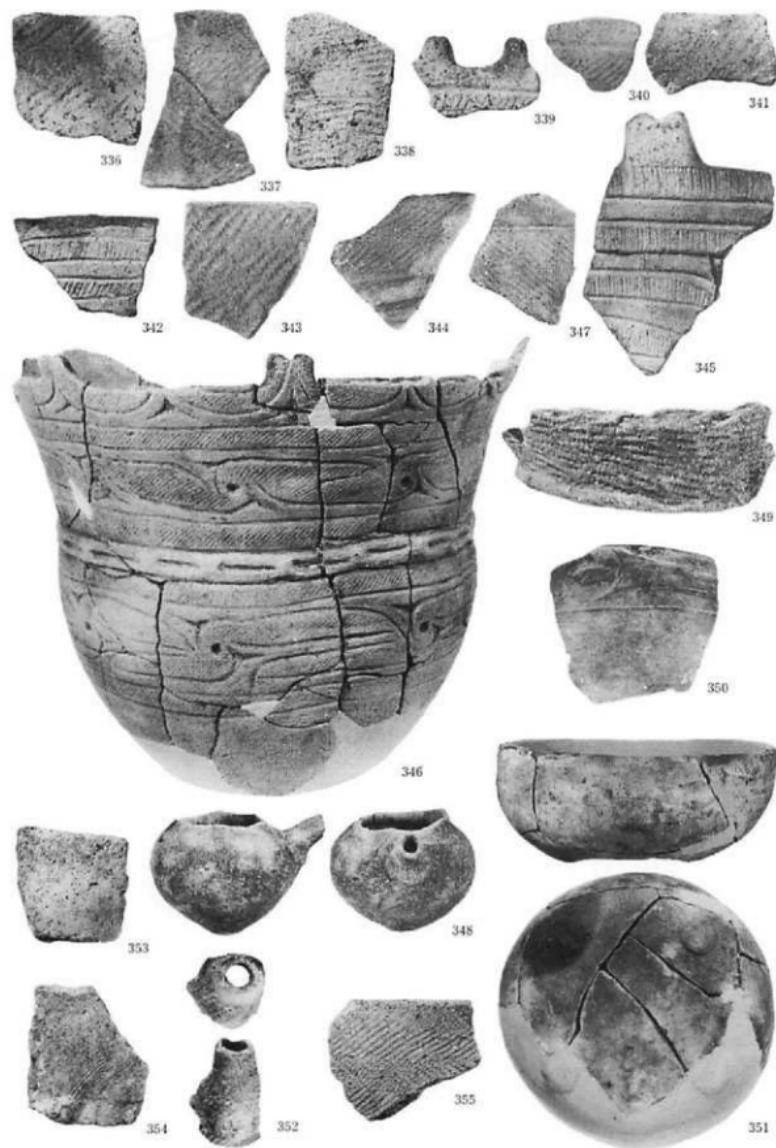
写真図版37 繩文時代の石器⑩



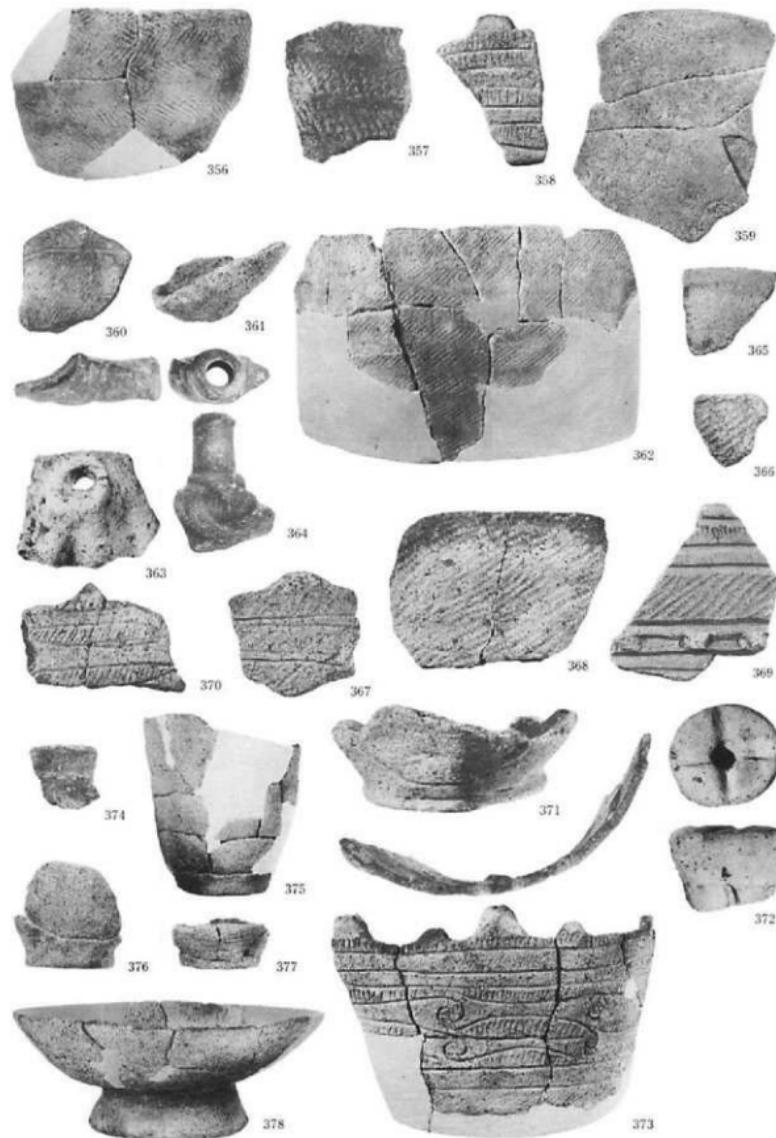
写真図版38 縄文時代の石器⑪・石製品



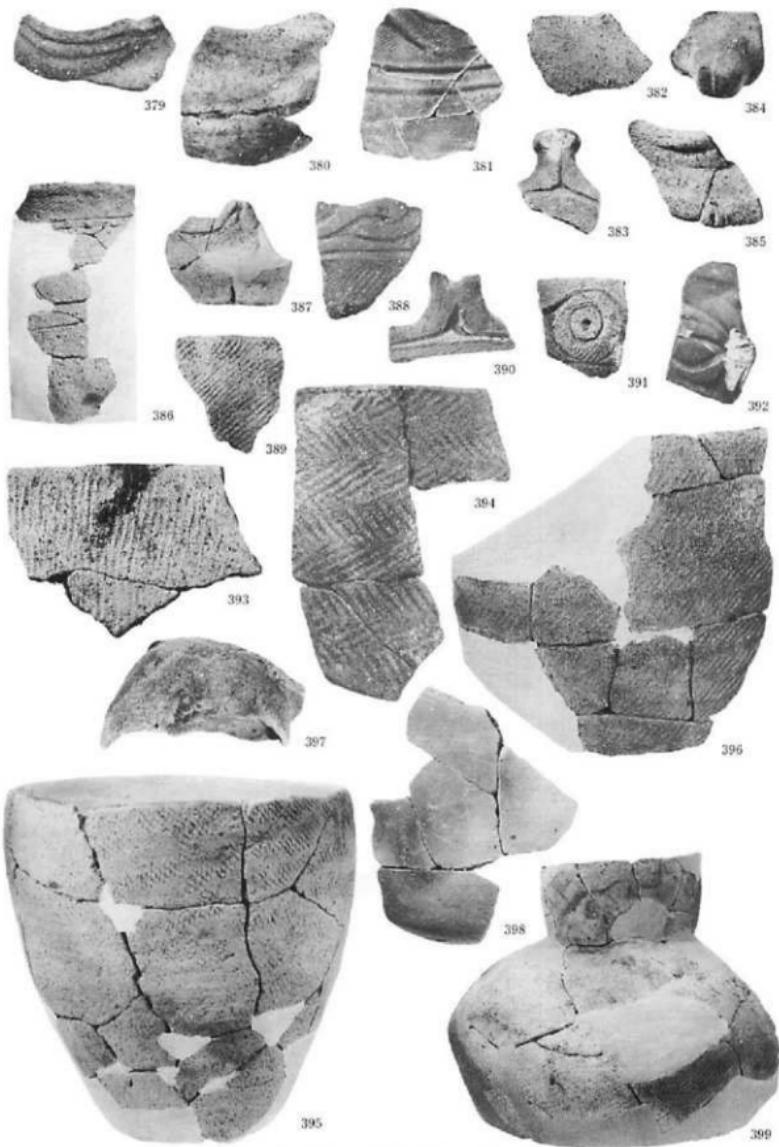
写真図版39 縄文時代の土器①



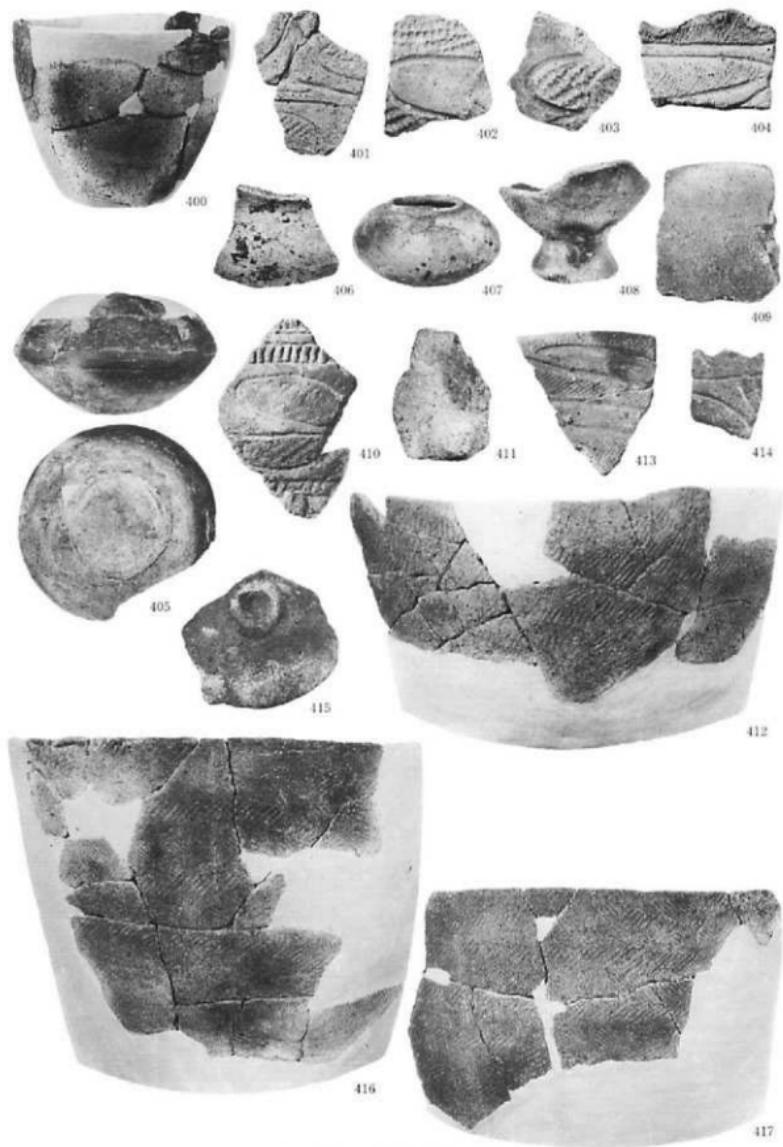
写真図版40 繩文時代の土器②



写真図版41 縄文時代の土器③



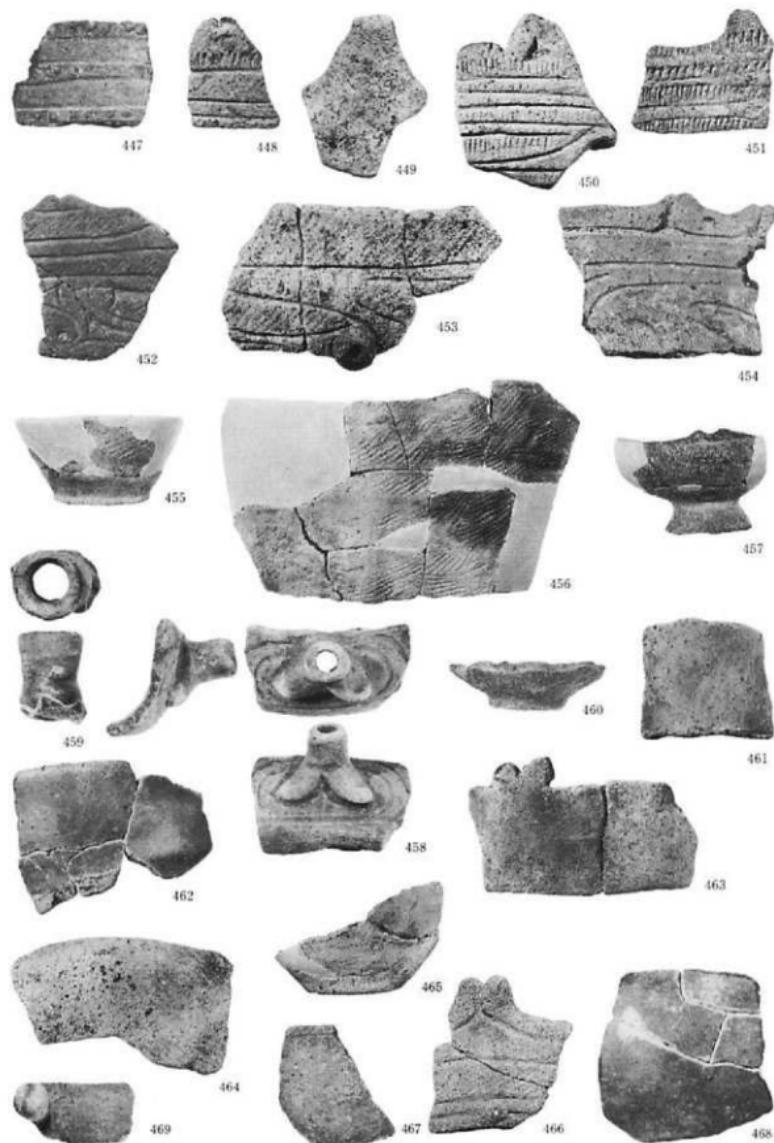
写真図版42 縄文時代の土器④



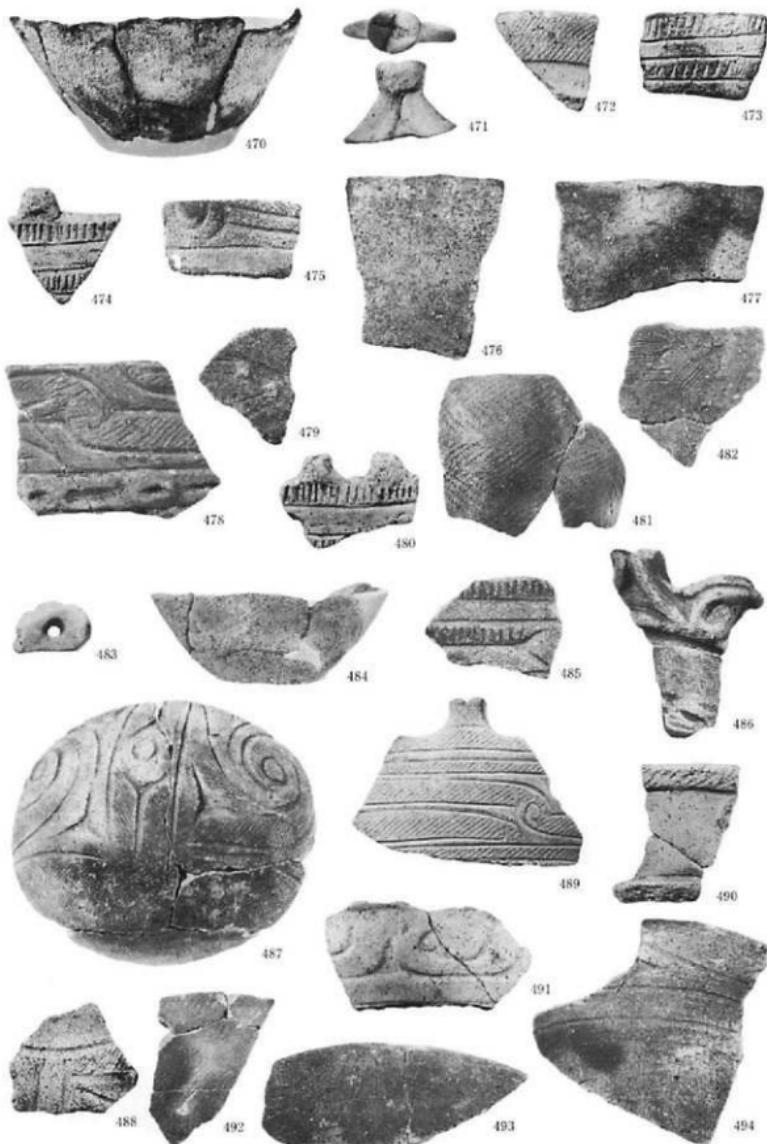
写真図版43 縄文時代の土器⑤



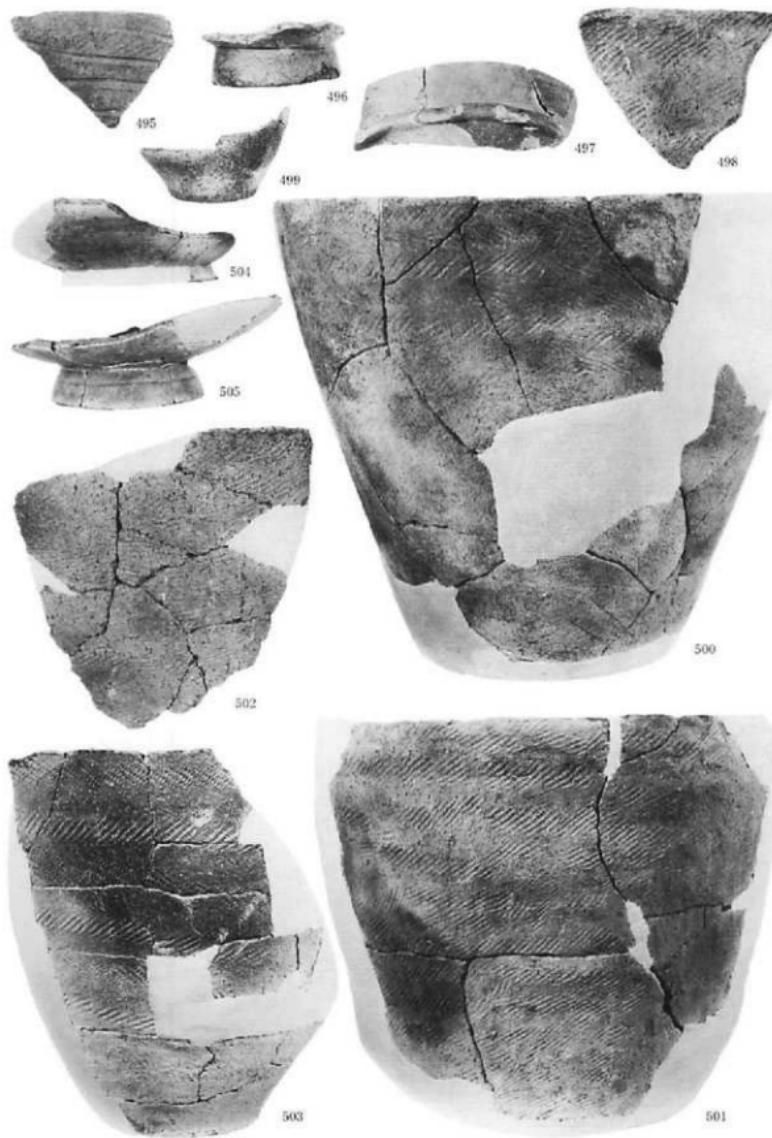
写真図版44 縄文時代の土器⑥



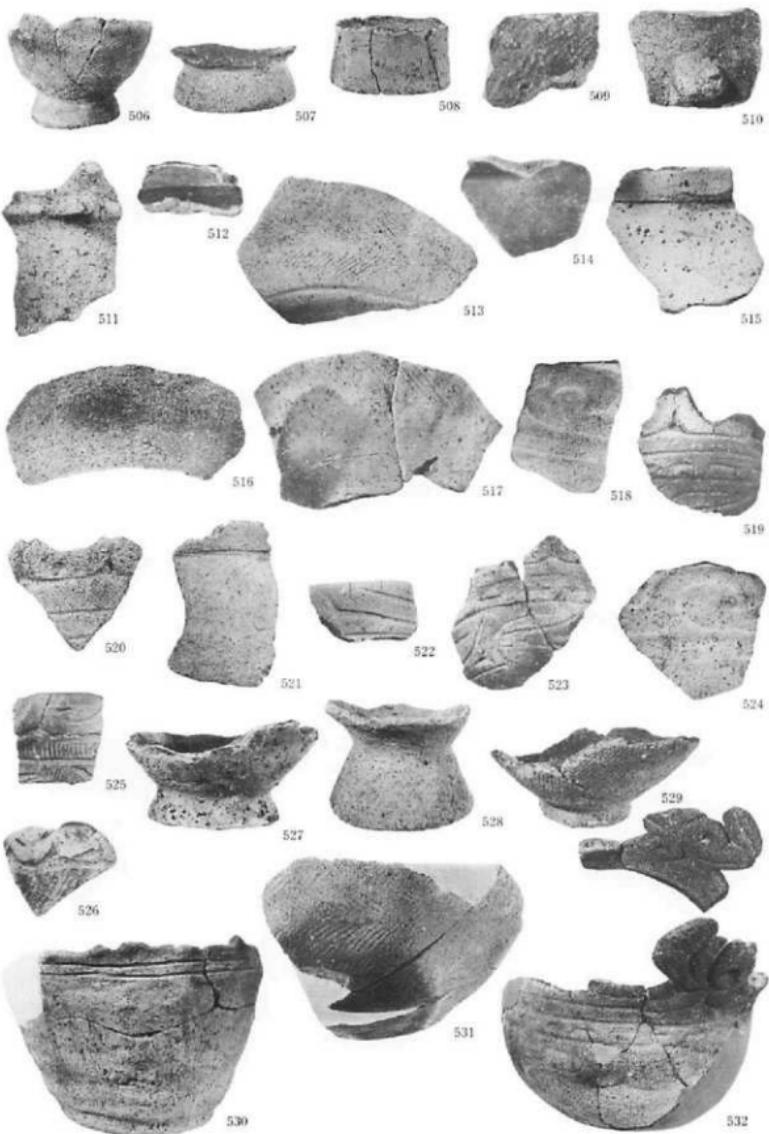
写真図版45 縄文時代の土器⑦



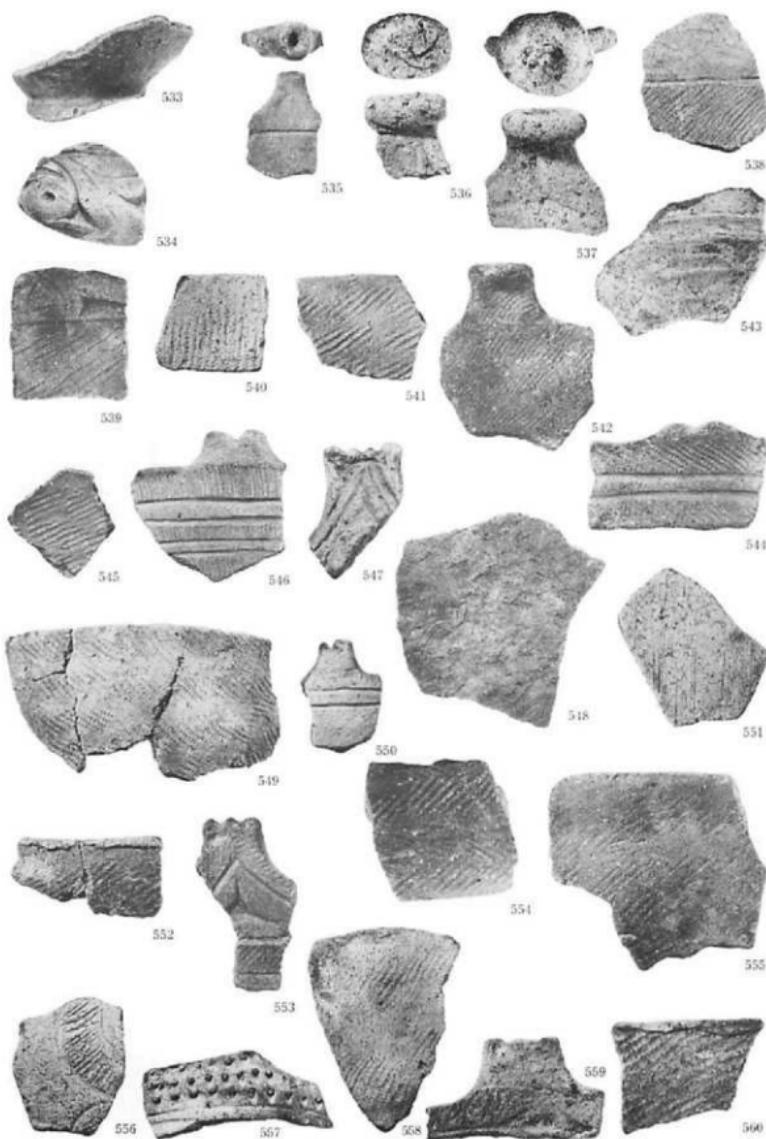
写真図版46 繩文時代の土器⑧



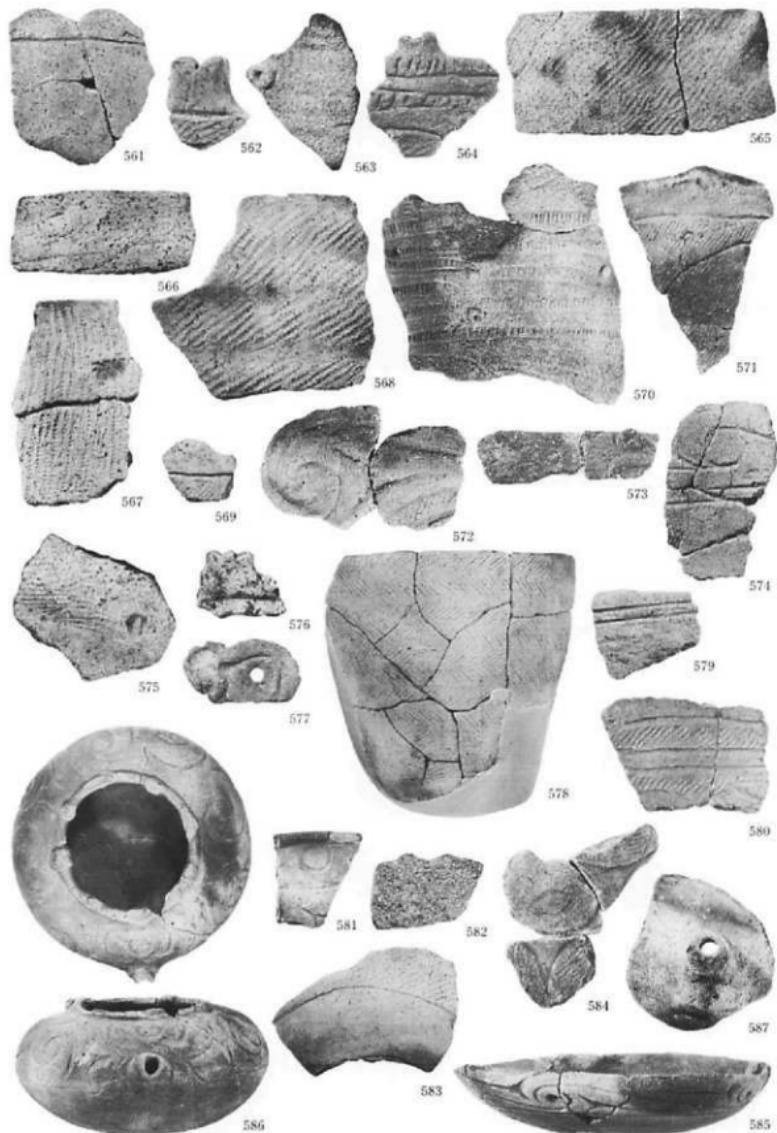
写真図版47 縄文時代の土器⑨



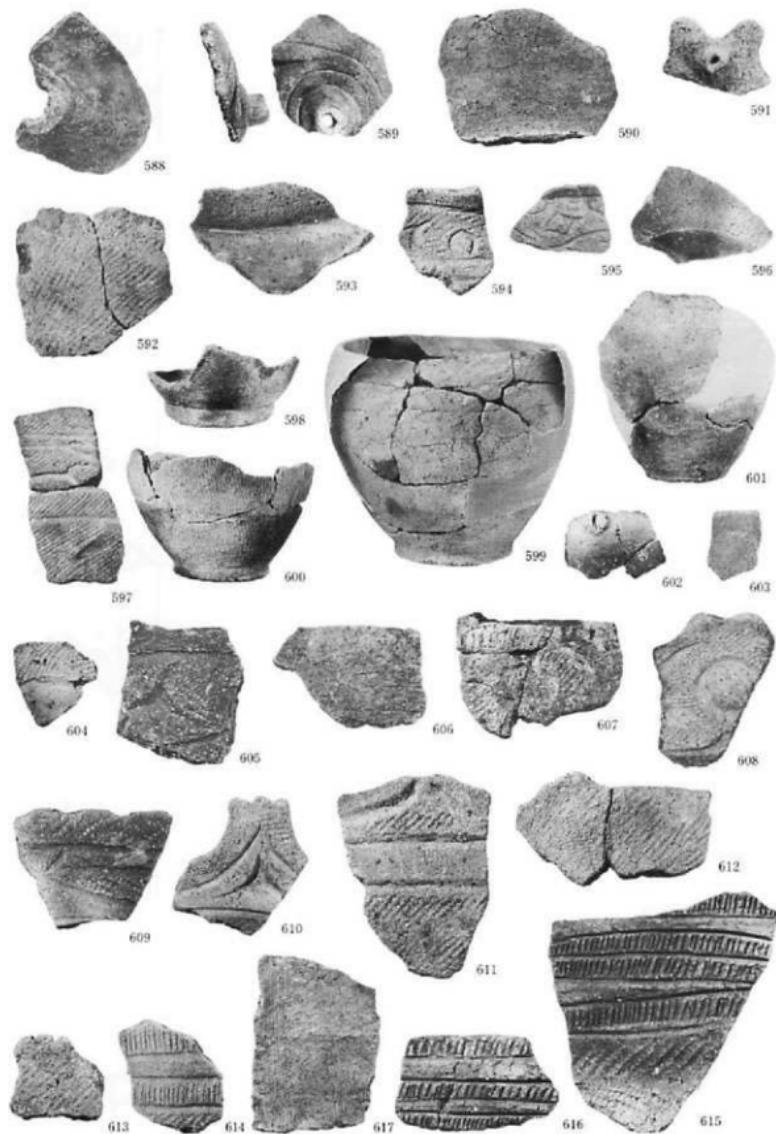
写真図版48 繩文時代の土器⑩



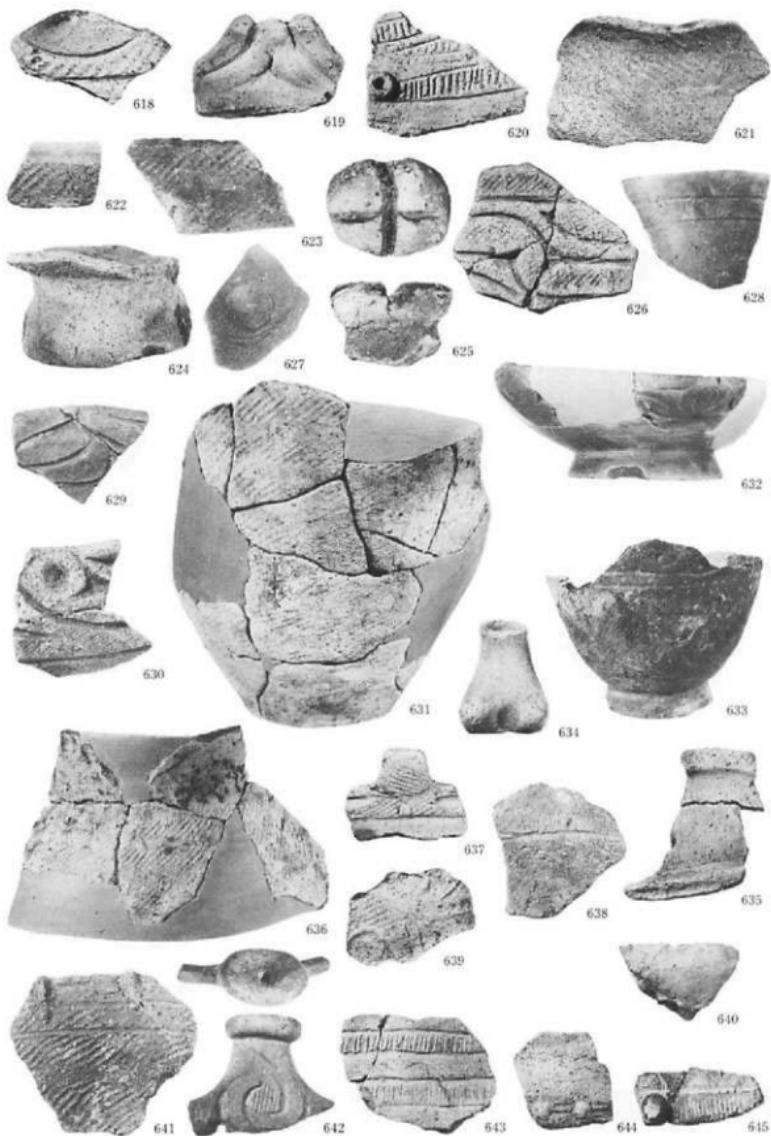
写真図版49 縄文時代の土器①



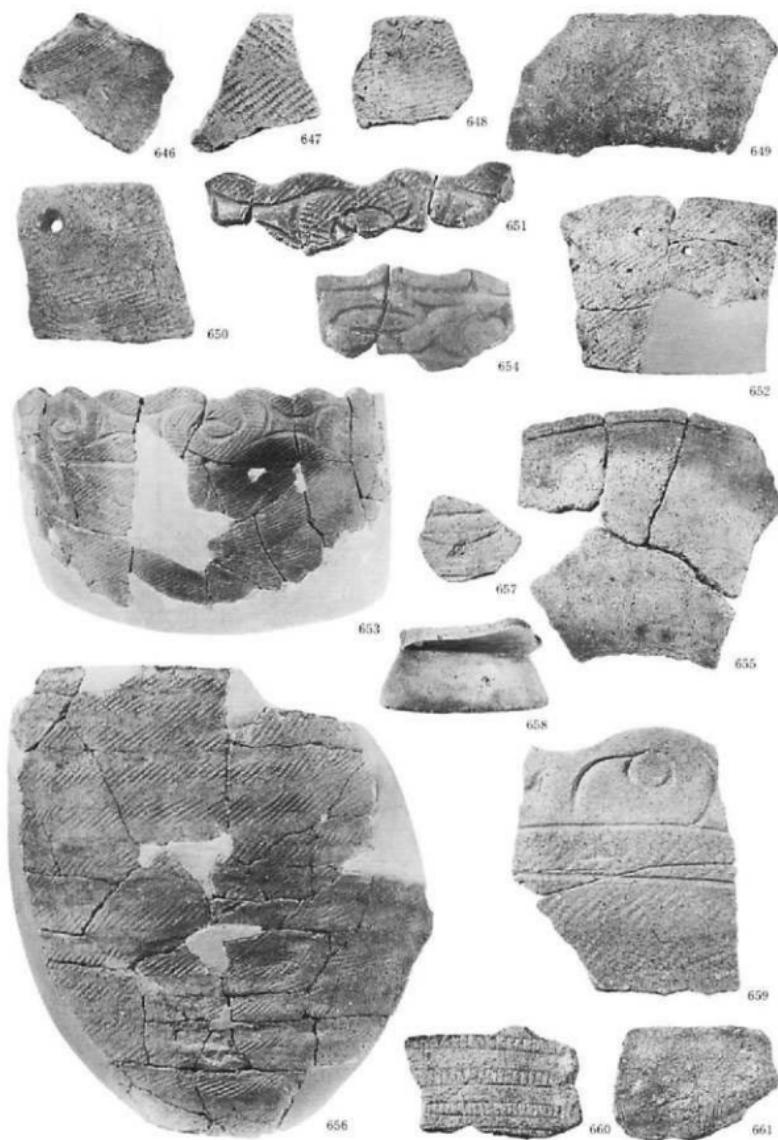
写真図版50 縄文時代の土器⑫



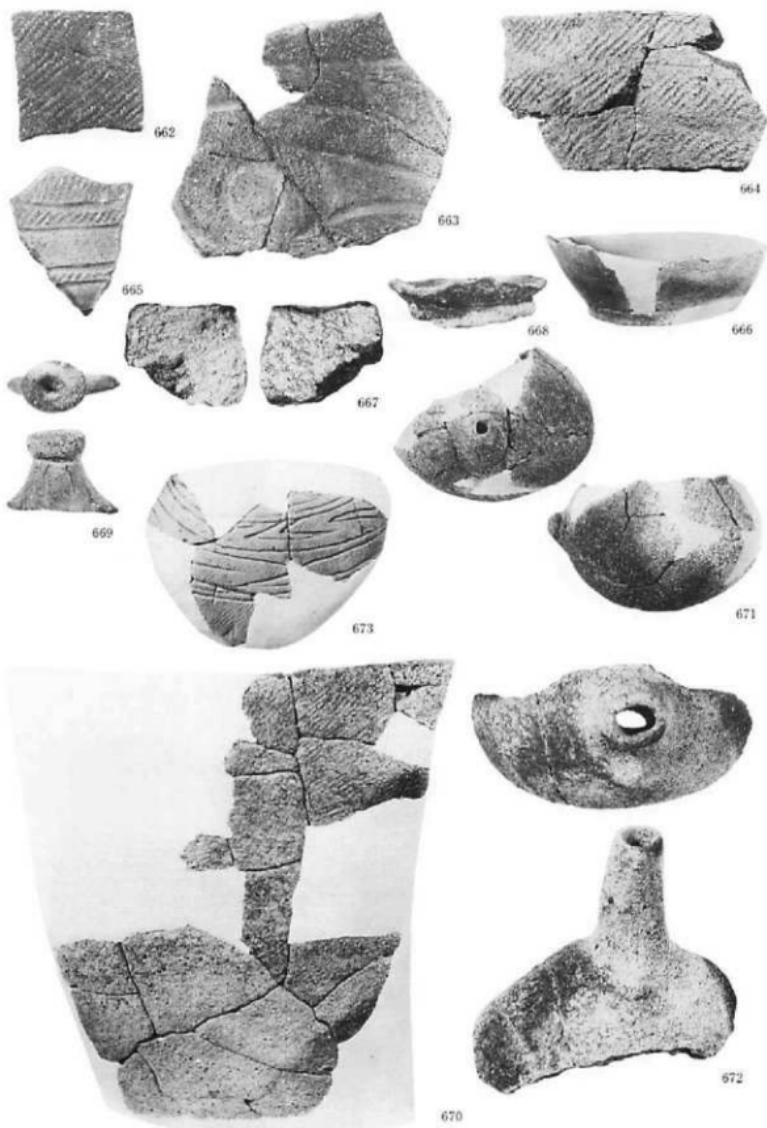
写真図版51 縄文時代の土器⑬



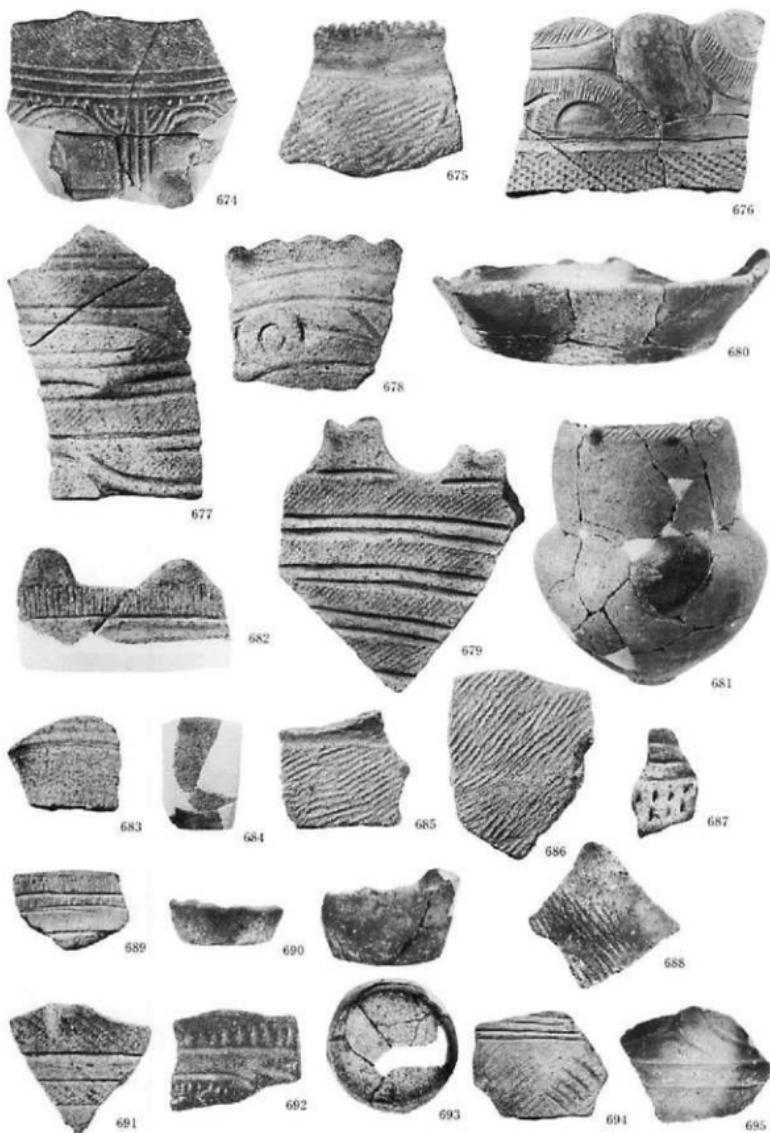
写真図版52 縄文時代の土器④



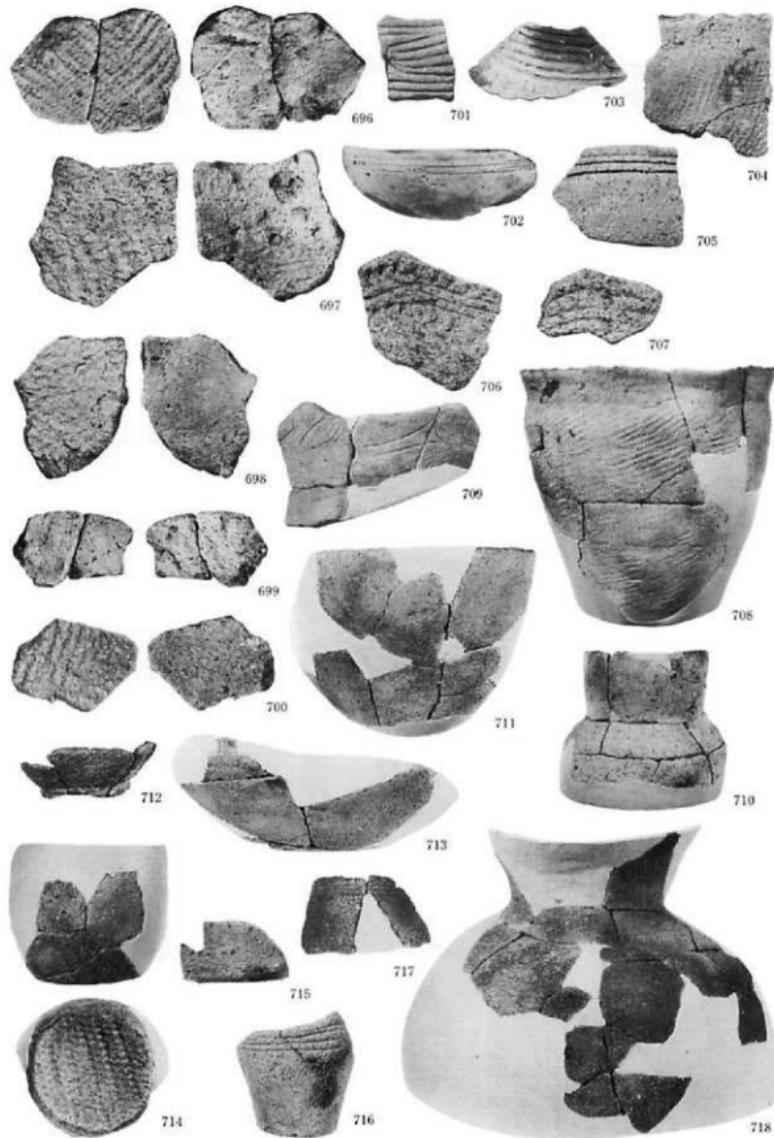
写真図版53 縄文時代の土器⑯



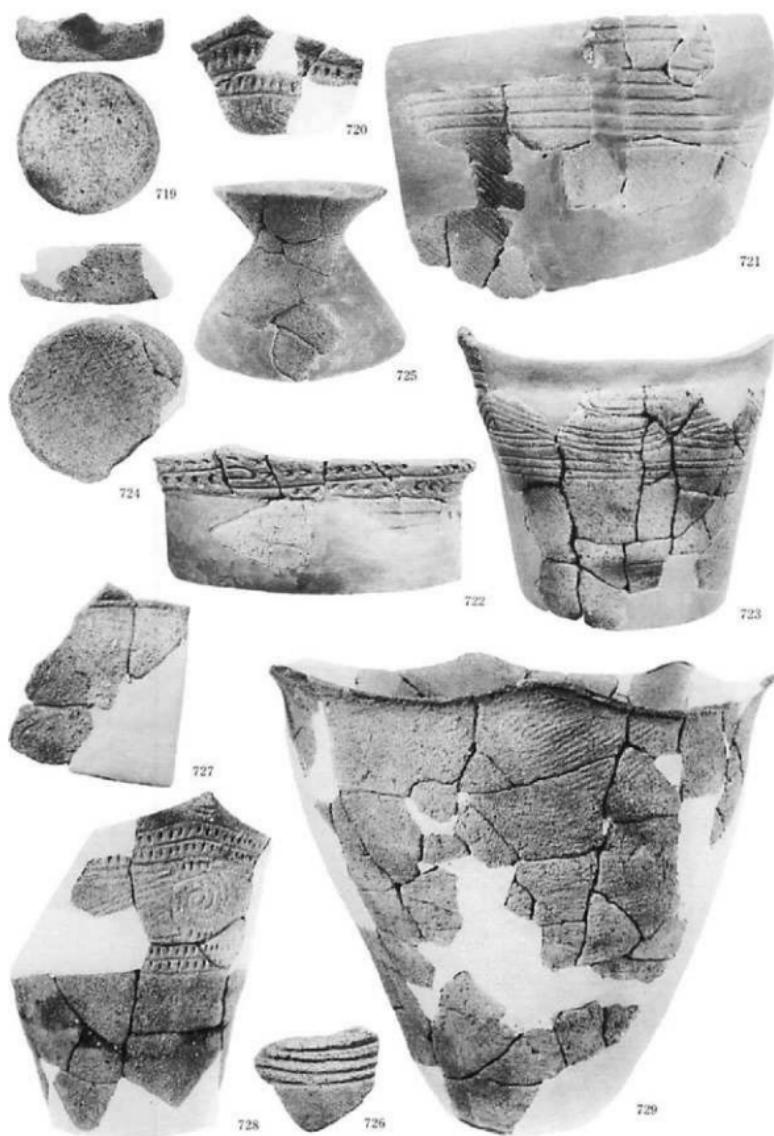
写真図版54 繩文時代の土器⑯



写真図版55 縄文時代の土器⑦



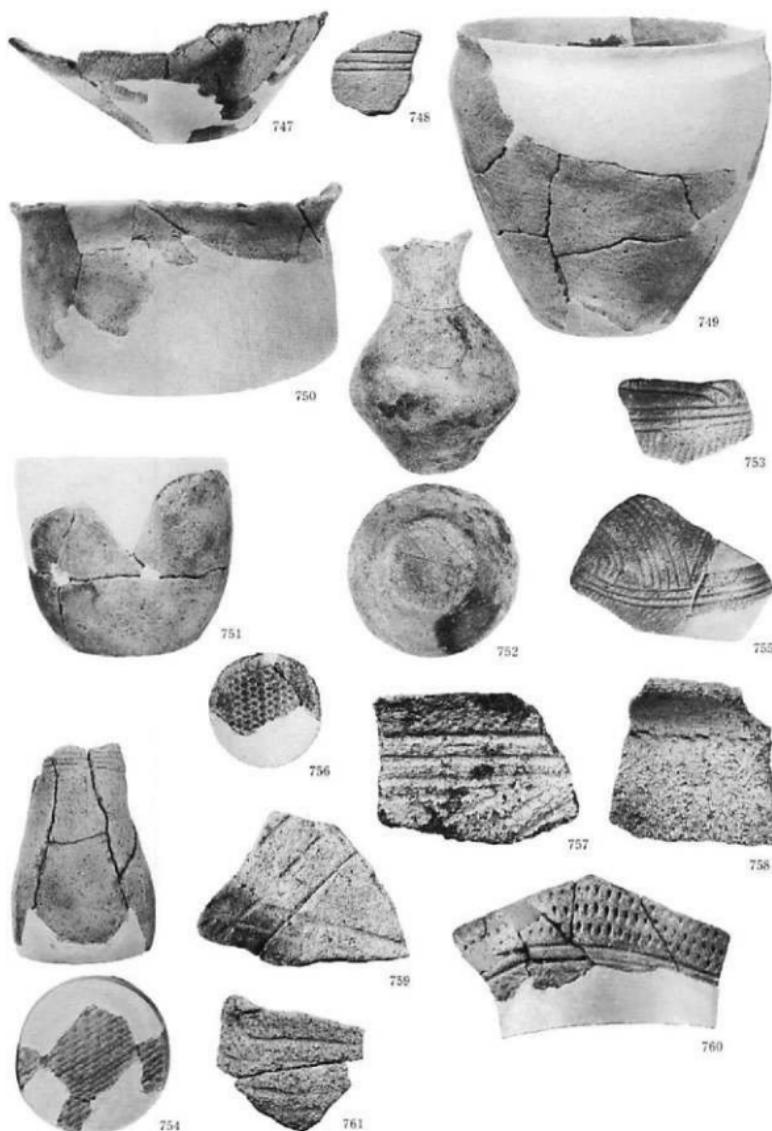
写真図版56 繩文時代の土器⑫



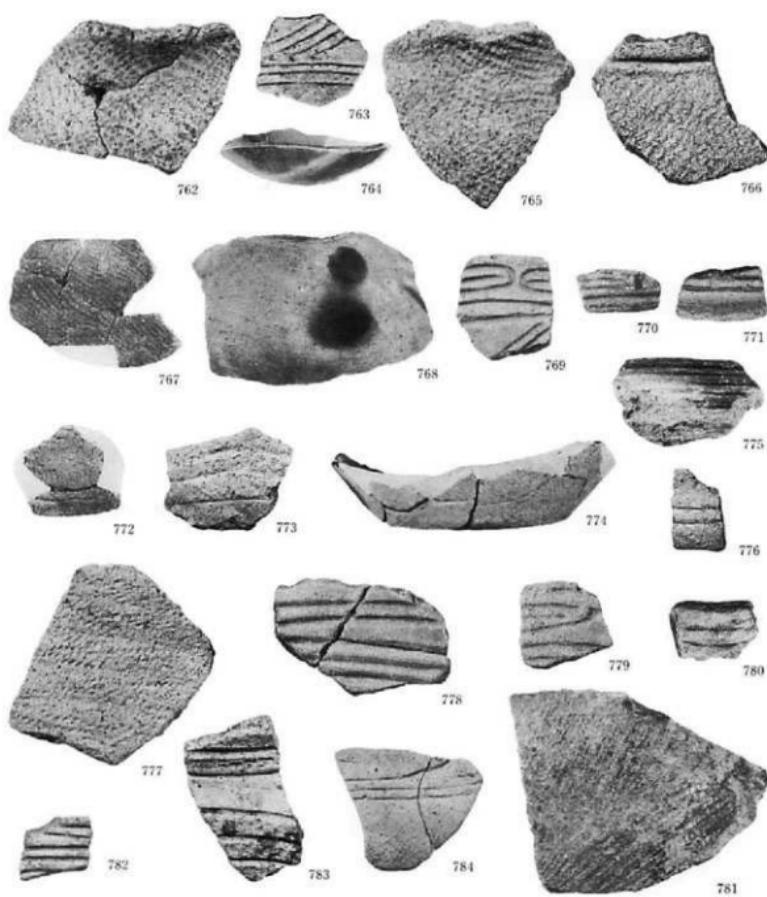
写真図版57 縄文時代の土器⑯



写真図版58 縄文時代の土器②



写真図版59 縄文時代の土器②



写真図版60 縄文時代の土器②



785



786



788



789



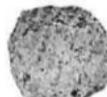
791



792



793



794



795

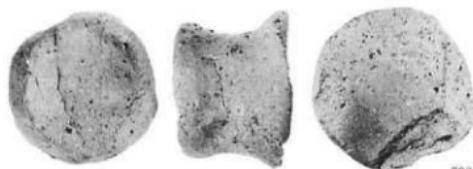


787-788

写真図版61 縄文時代の土製品①



796



798



797



799



802



800



801



803

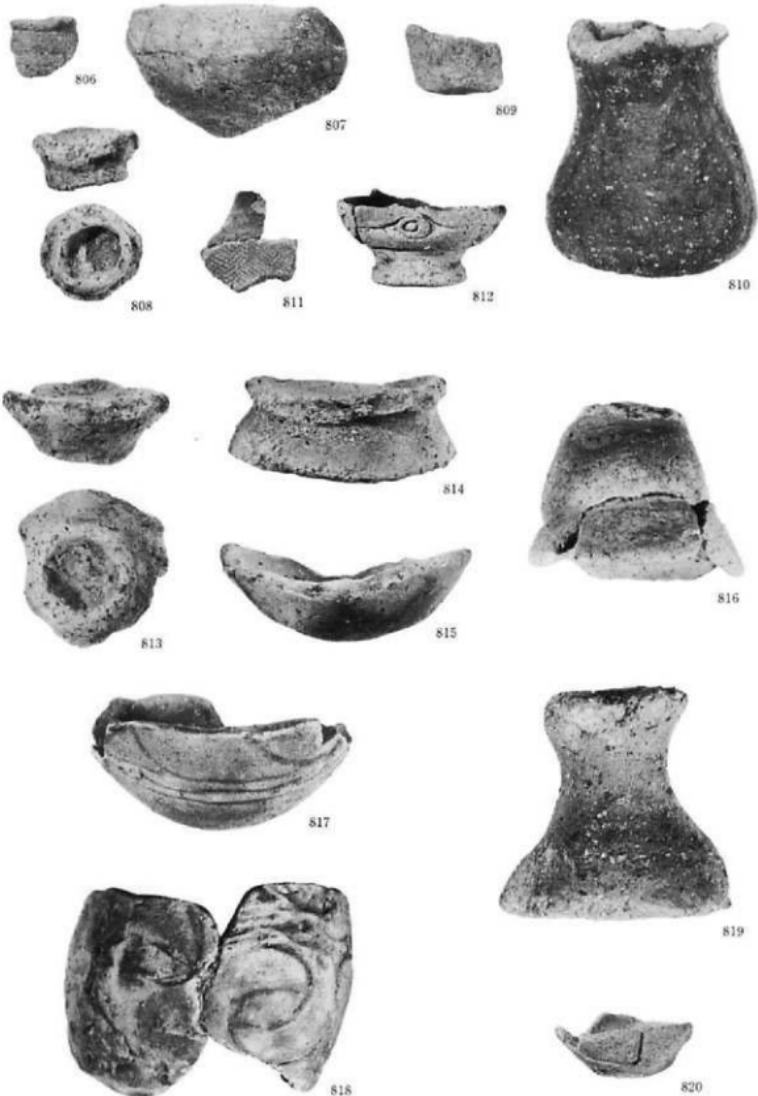


805

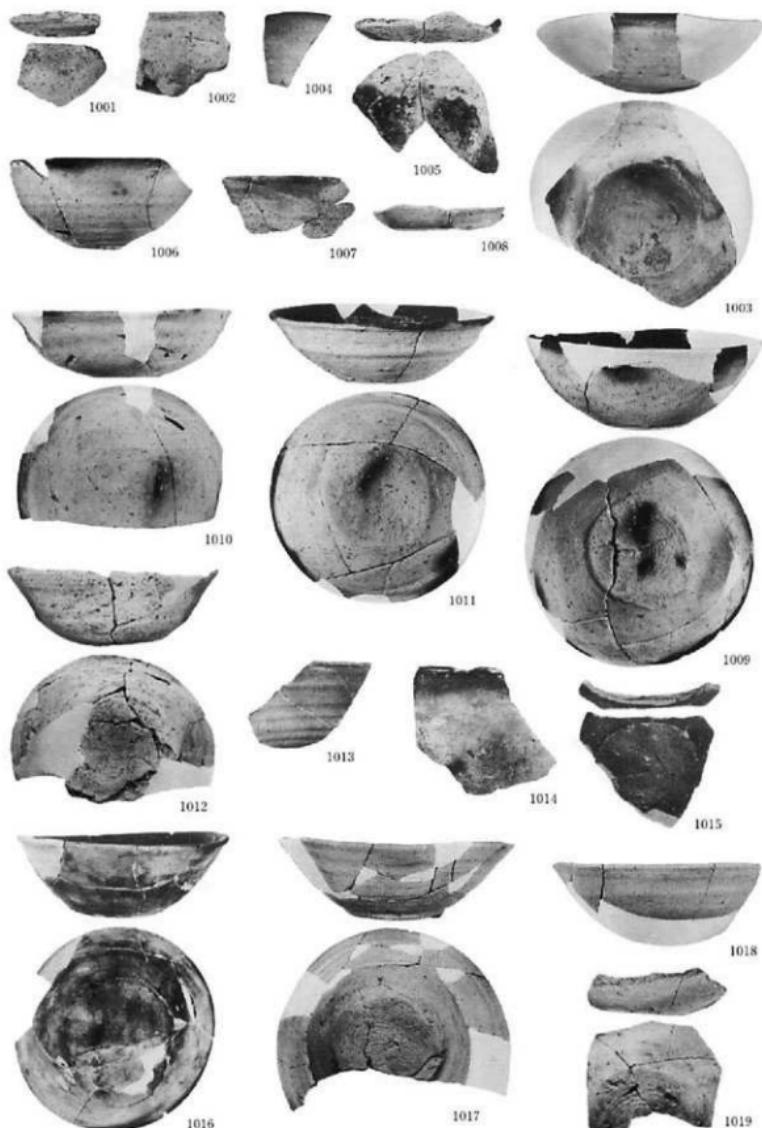


804

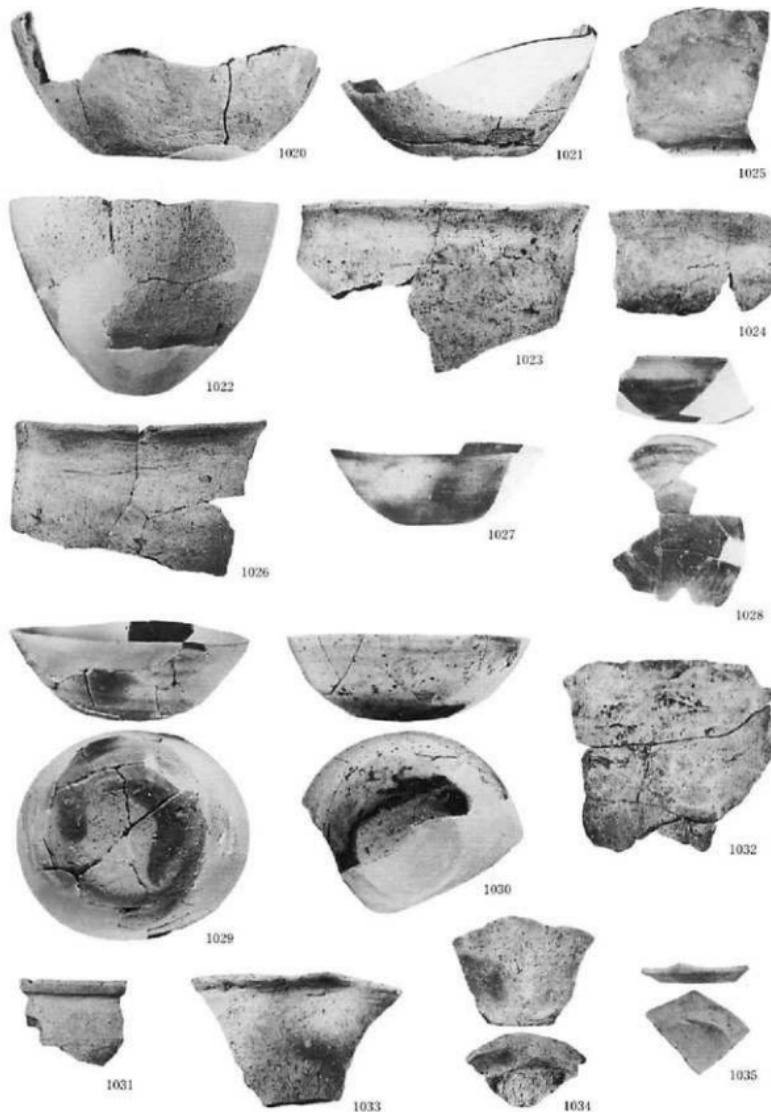
写真図版62 繩文時代の土製品②



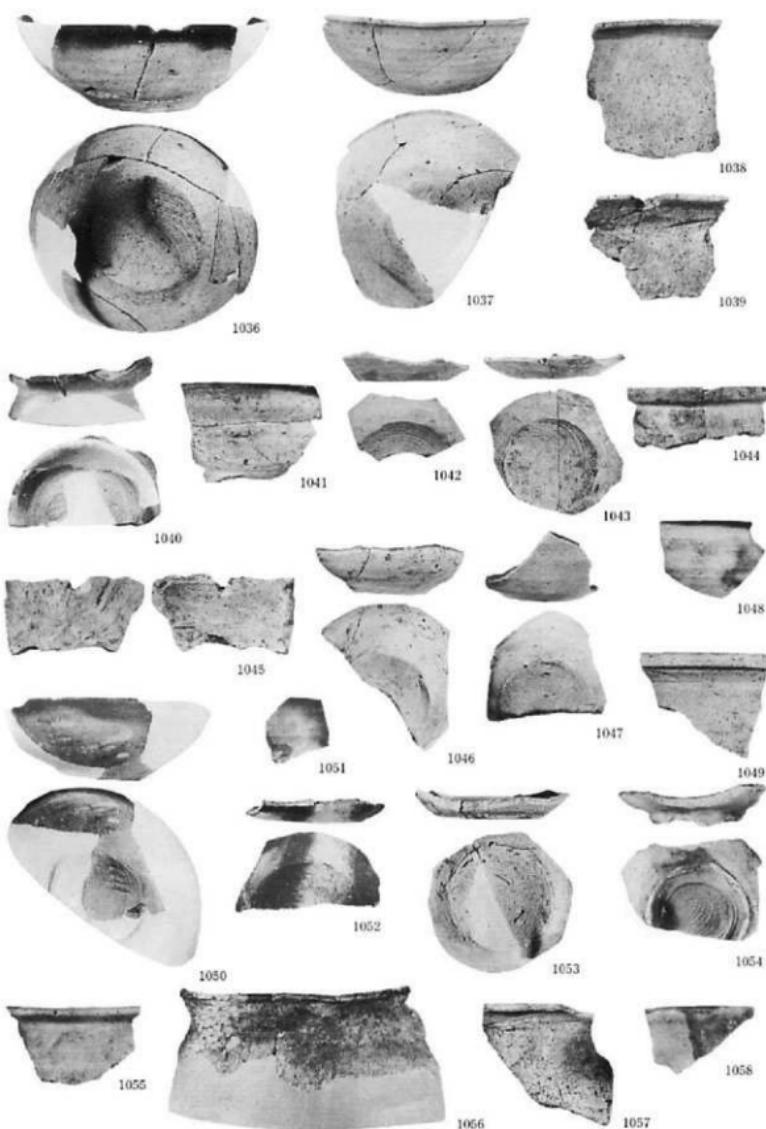
写真図版63 縄文時代の土製品③



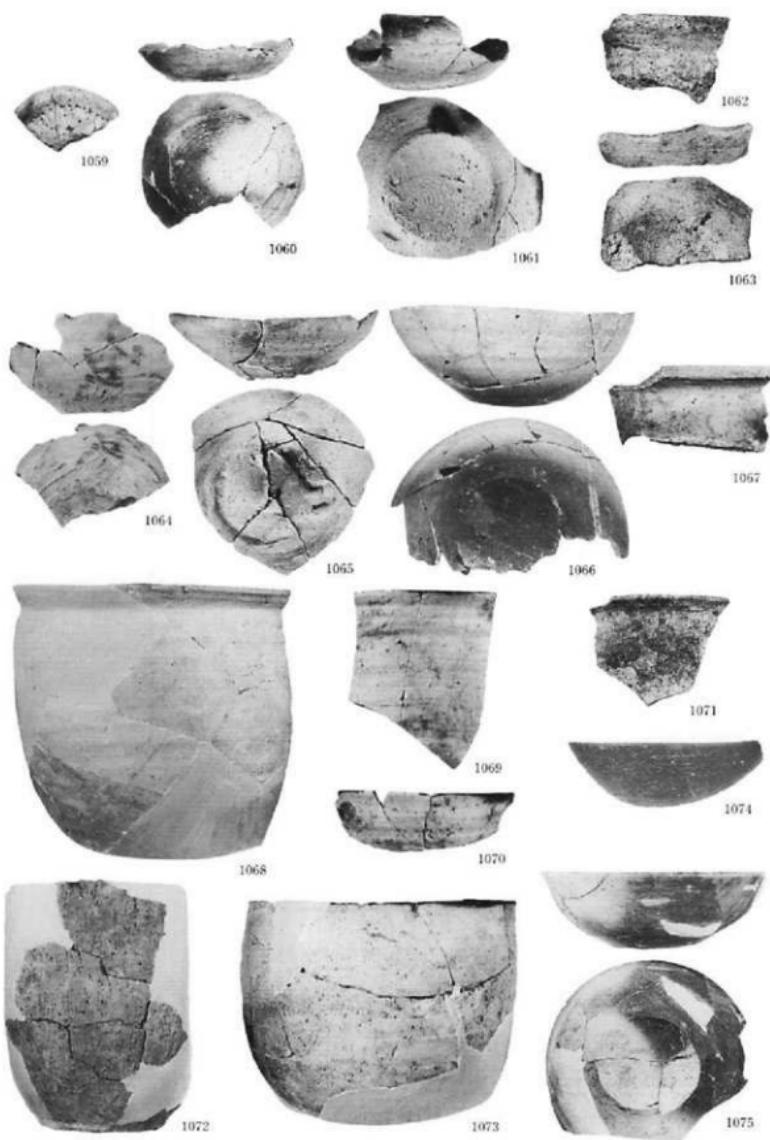
写真図版64 土師器①



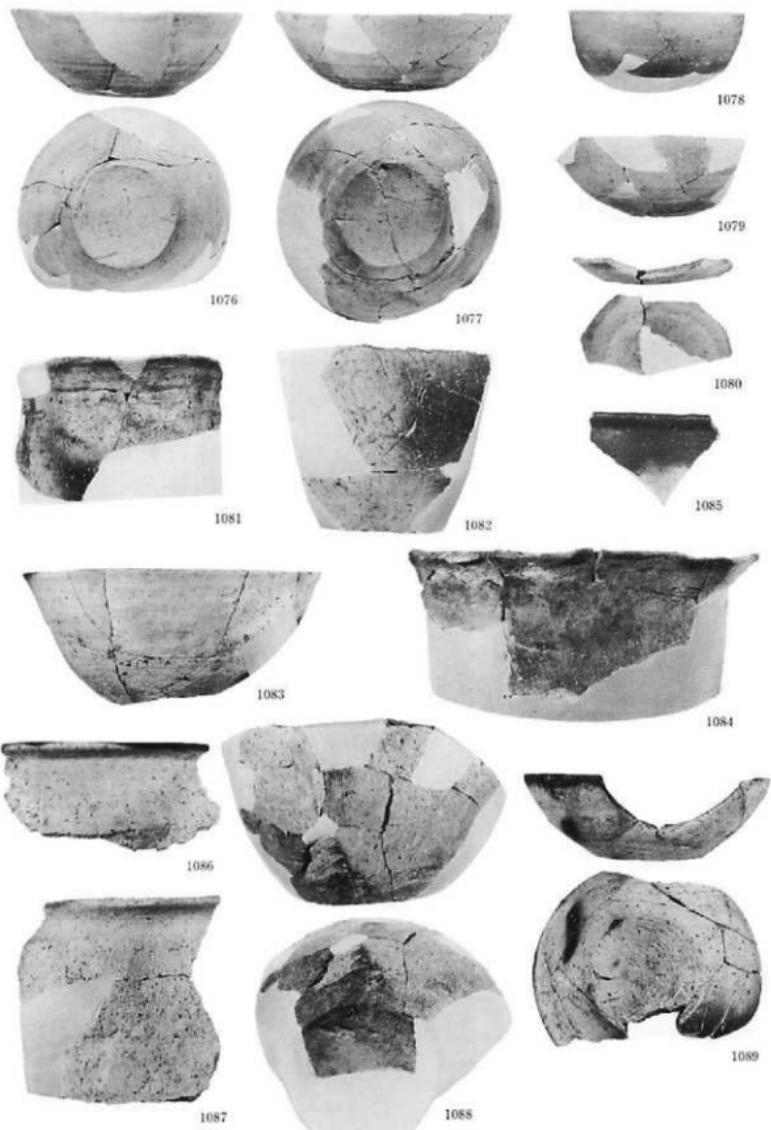
写真図版65 土師器②



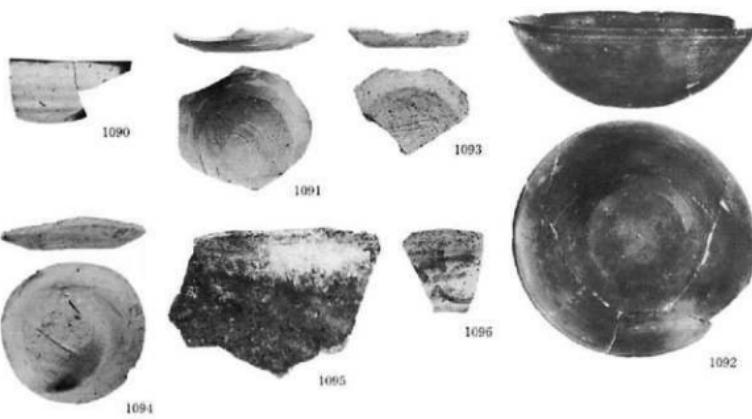
写真図版66 土師器③



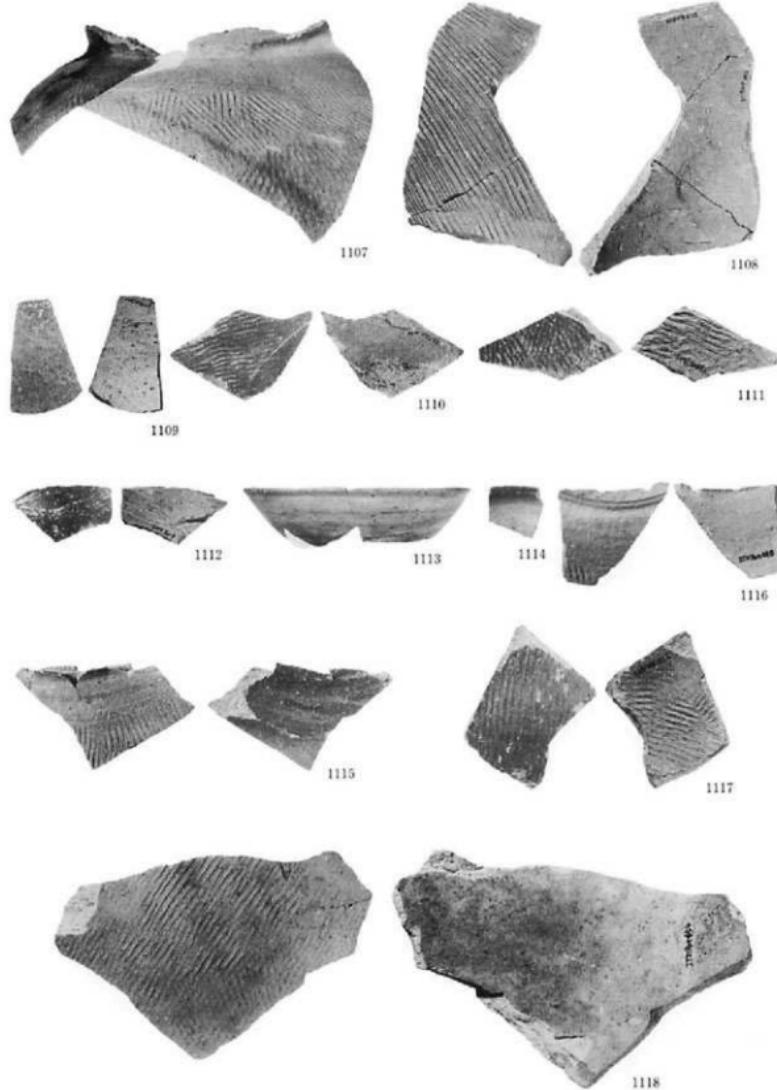
写真図版67 土師器④



写真図版68 土師器⑤



写真図版69 土師器⑥・須恵器①



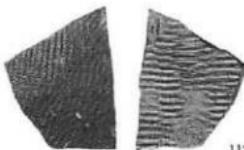
写真図版70 須恵器②



1120



1119



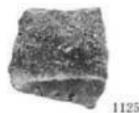
1121



1123



1122



1125



1124



1126



1127

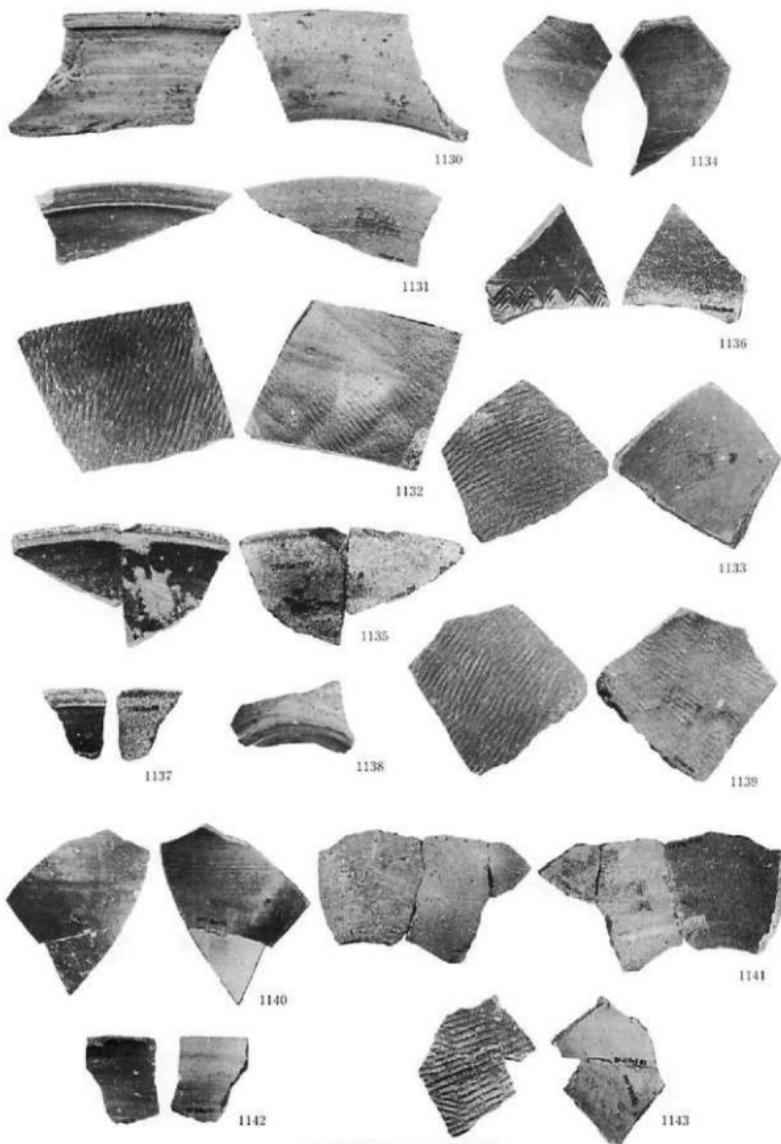


1128

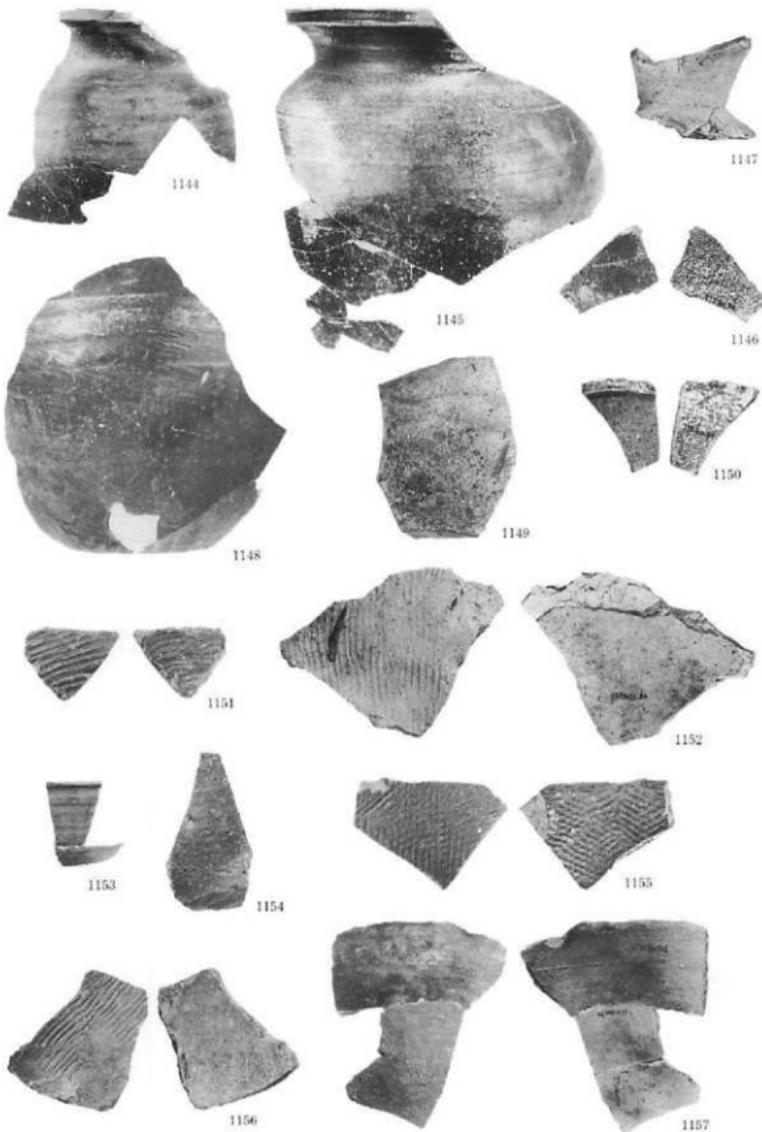


1129

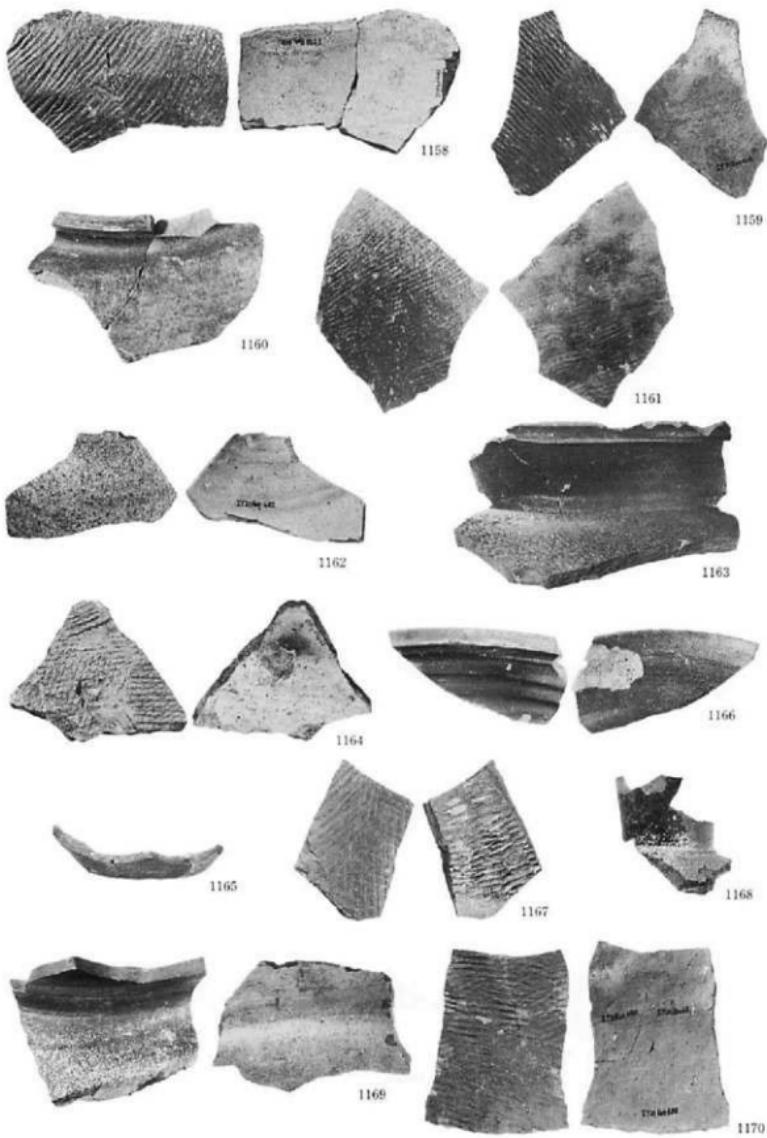
写真図版71 須恵器③



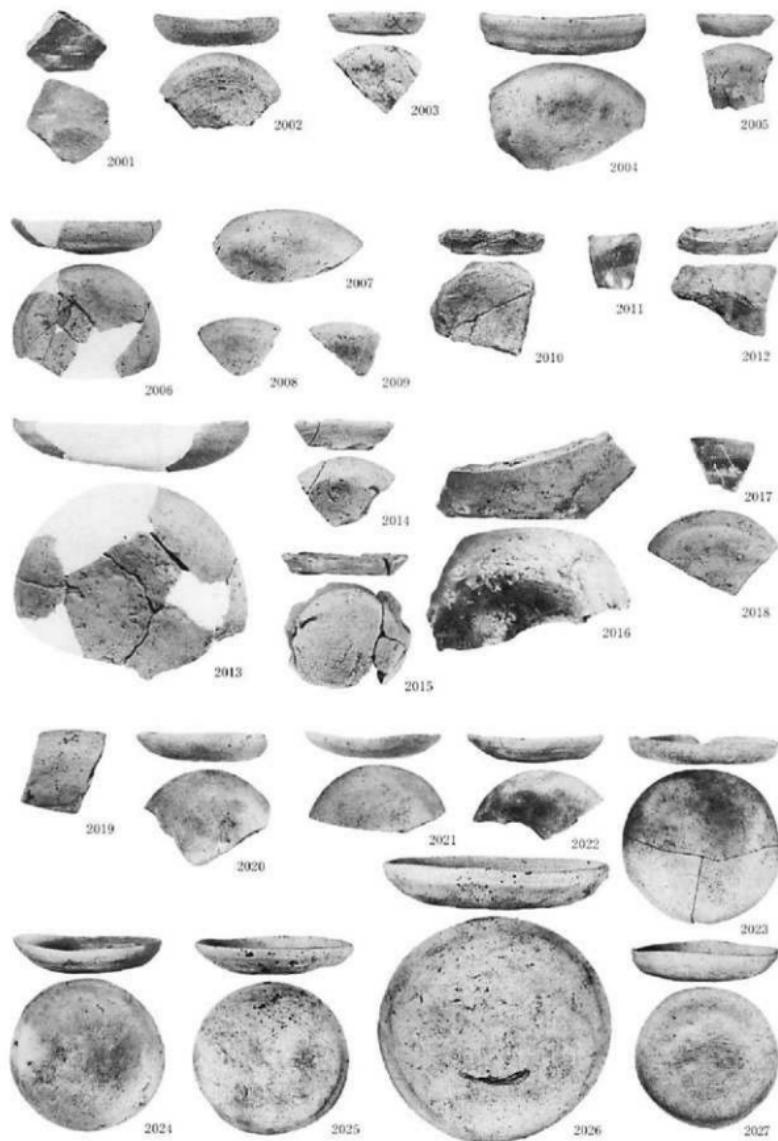
写真図版72 須恵器④



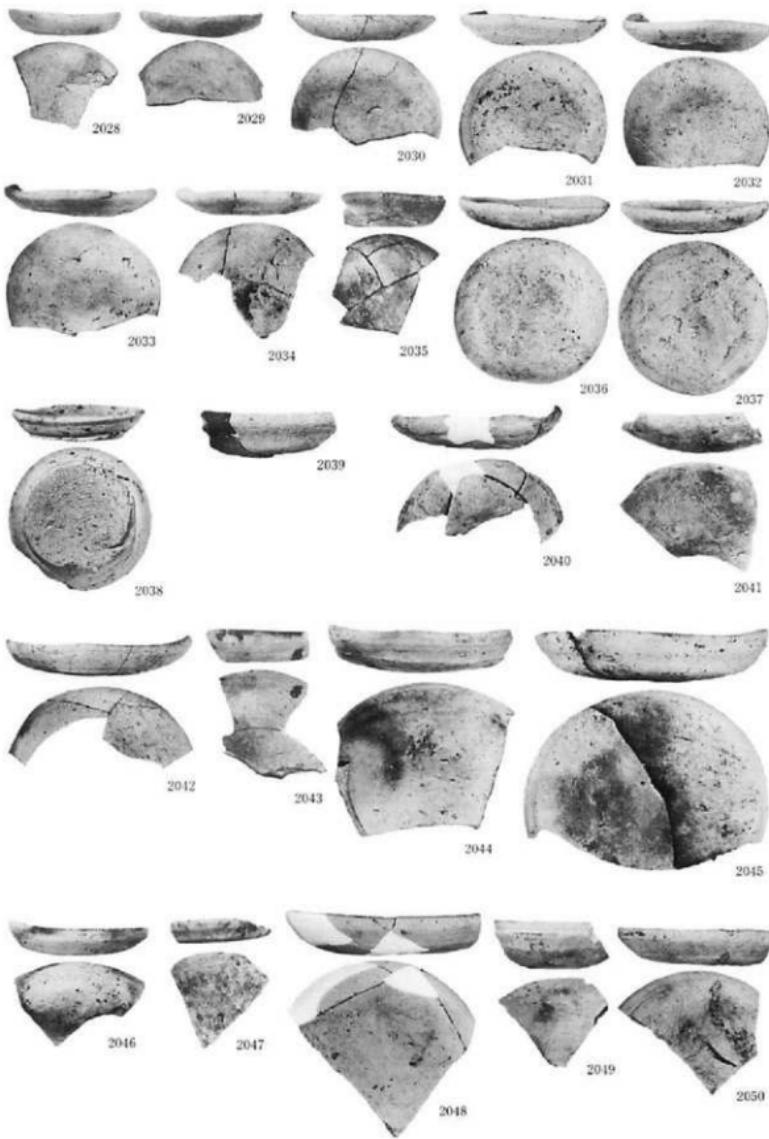
写真図版73 須恵器⑤



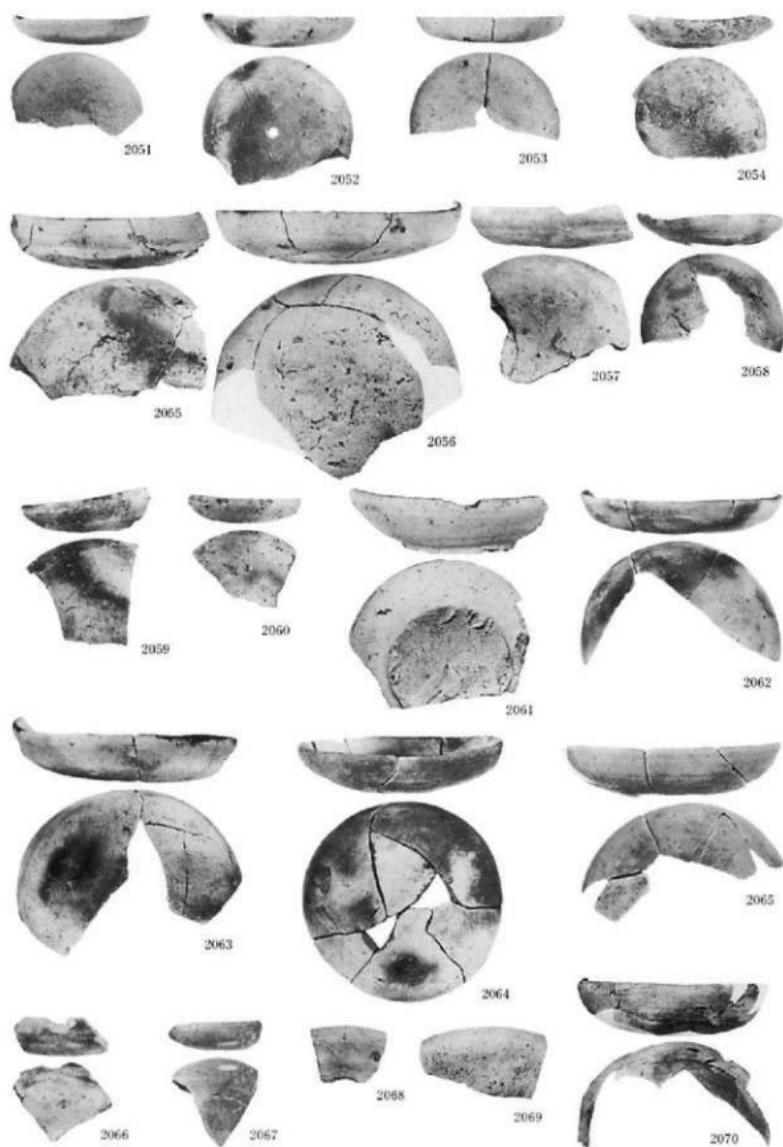
写真図版74 須恵器⑥



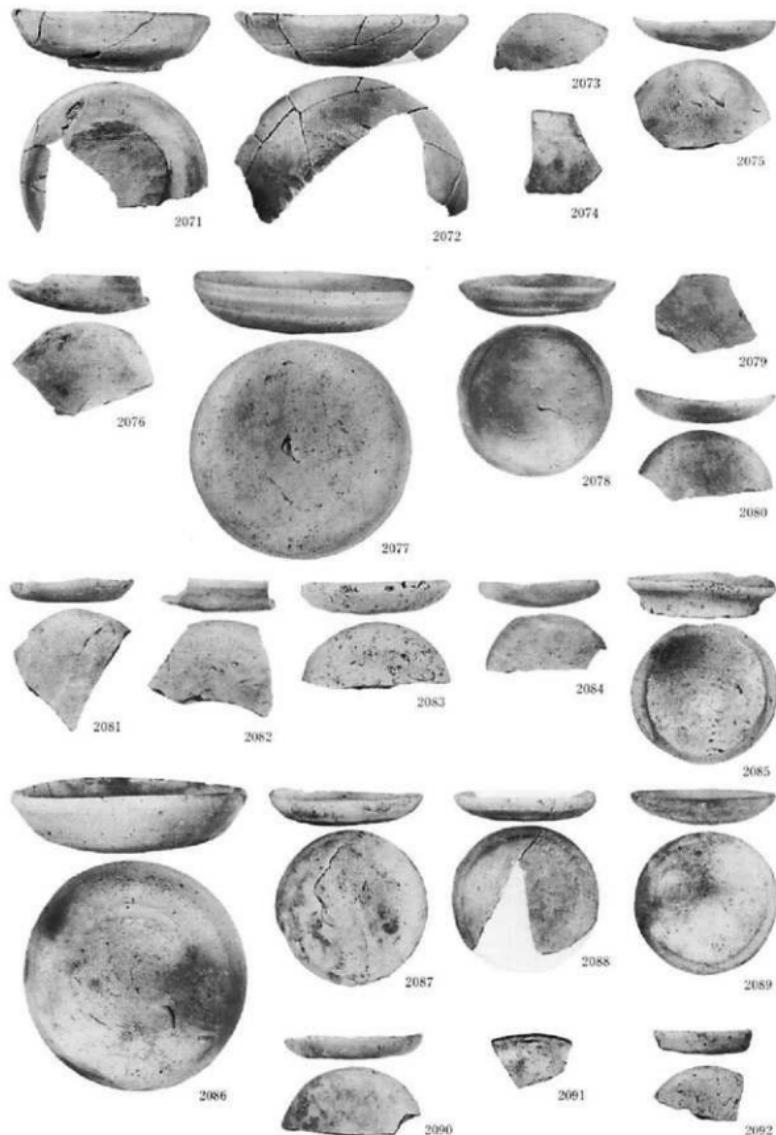
写真図版75 かわらけ①



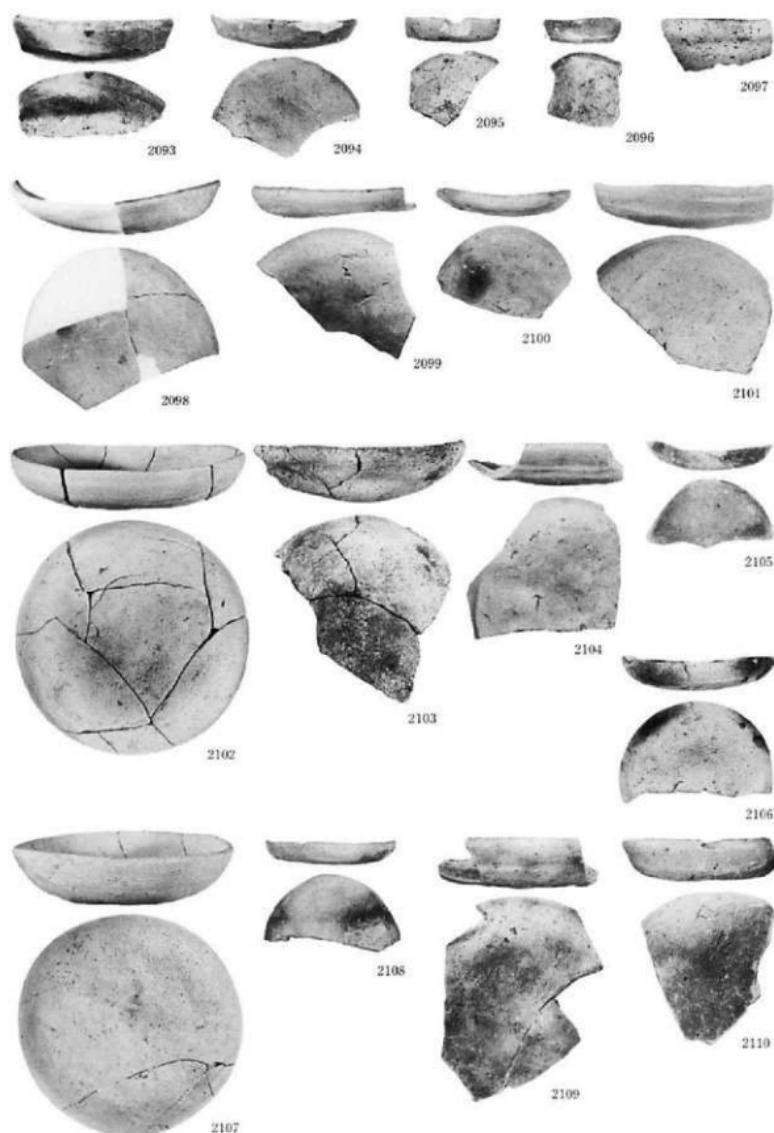
写真図版76 かわらけ②



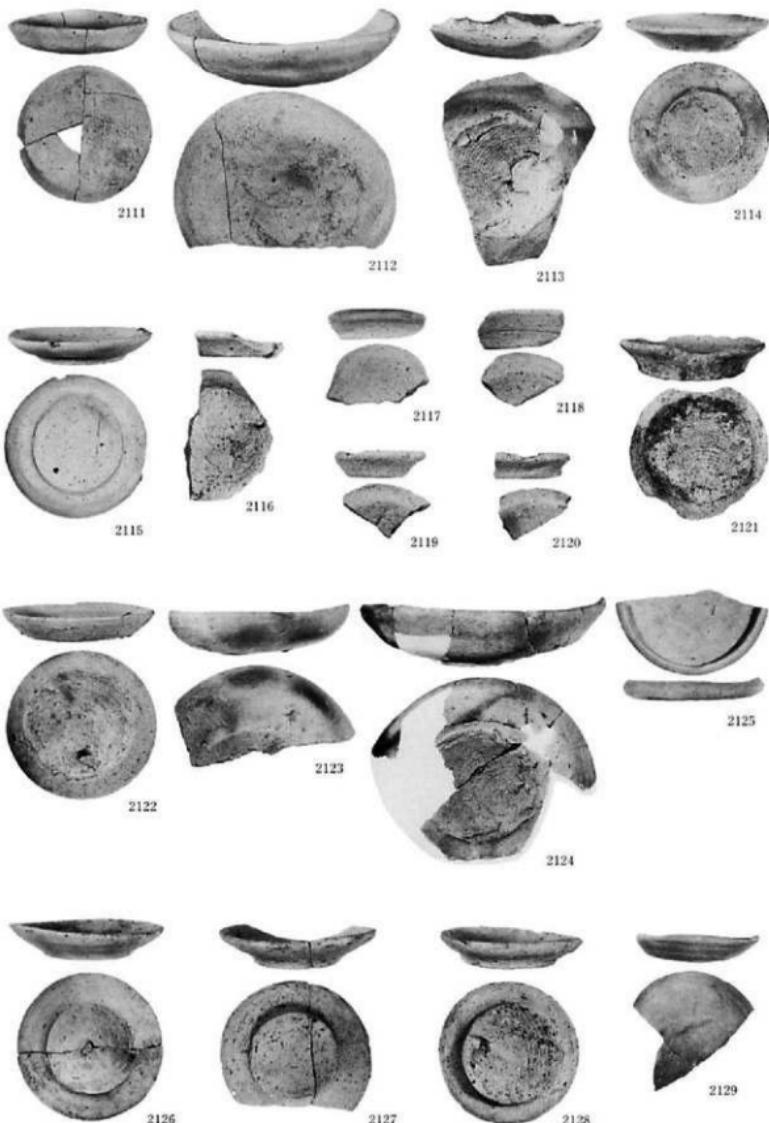
写真図版77 かわらけ③



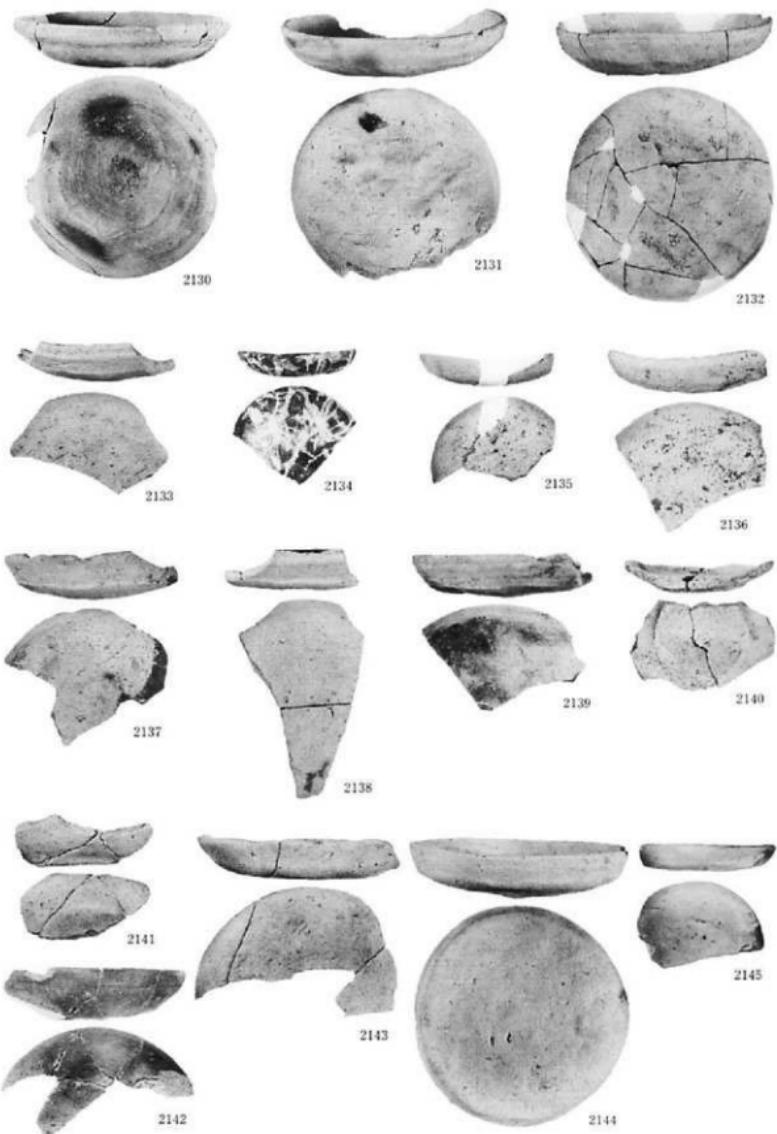
写真図版78 かわらけ④



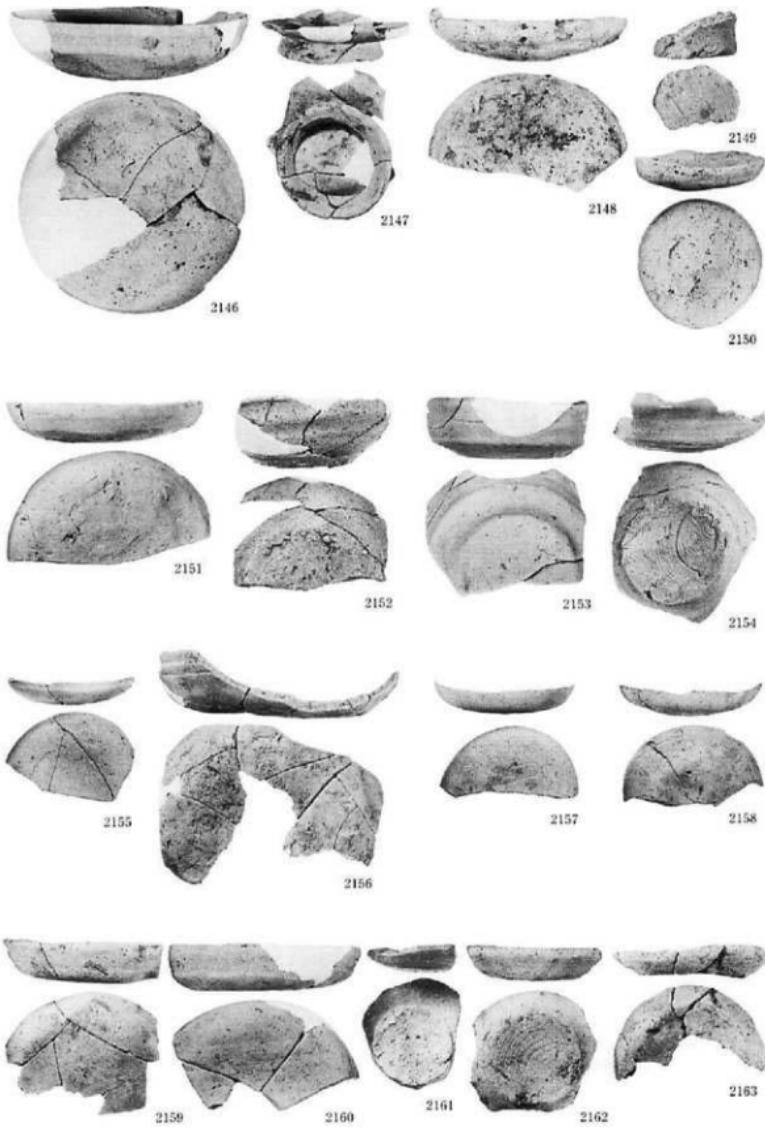
写真図版79 かわらけ⑤



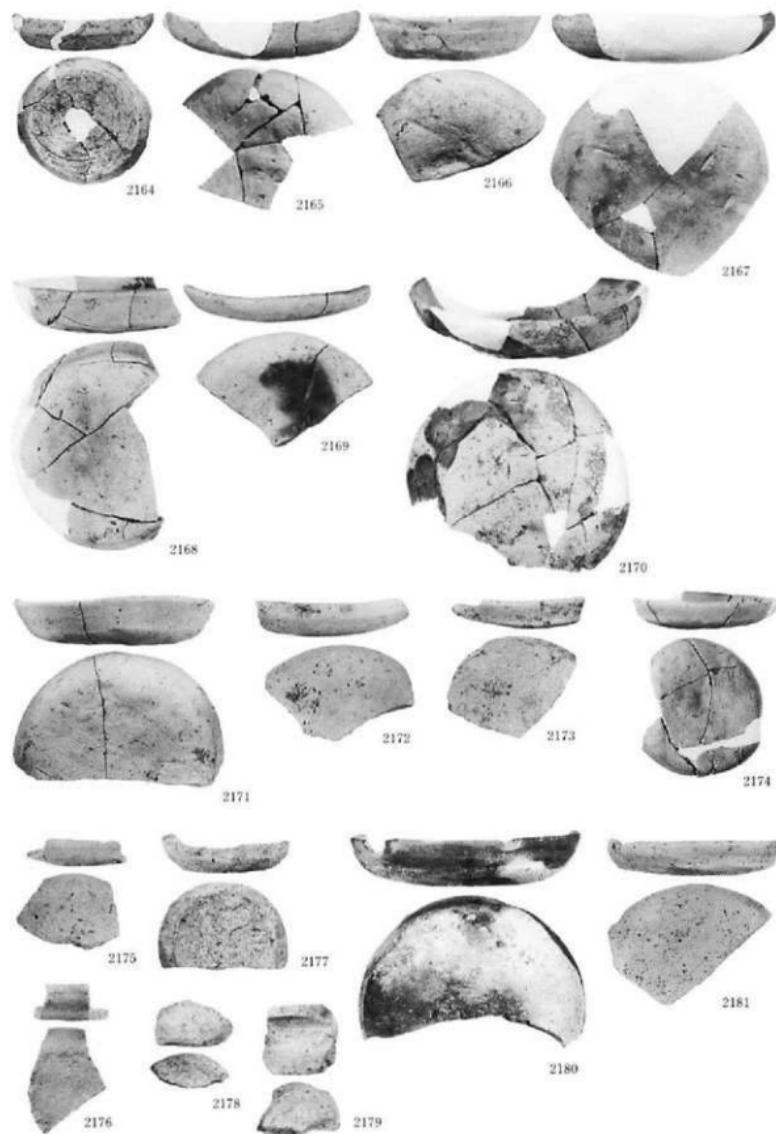
写真図版80 かわらけ⑥



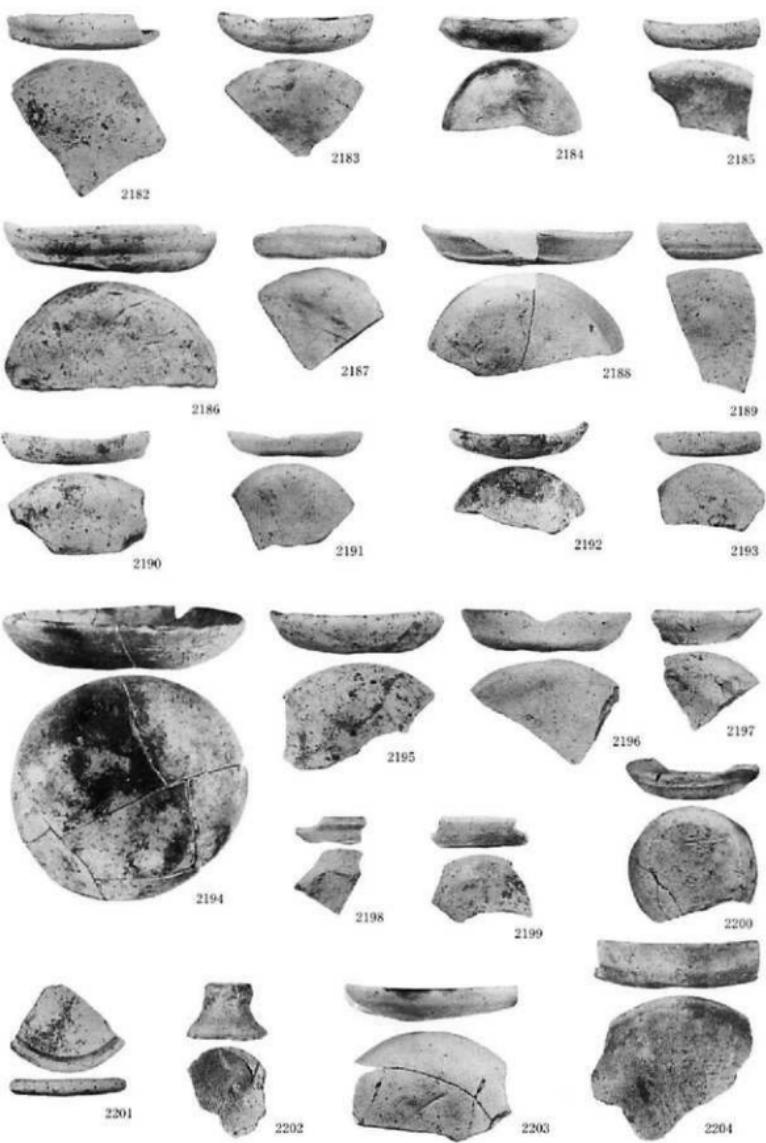
写真図版81 かわらけ⑦



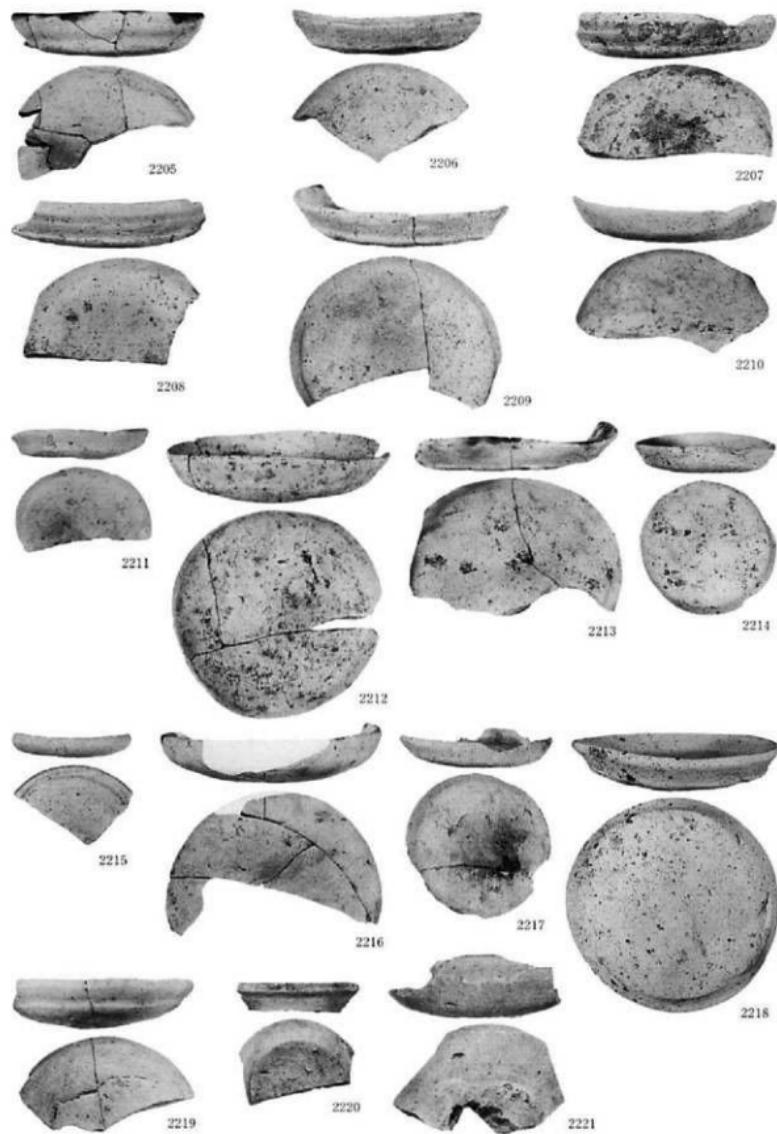
写真図版82 かわらけ⑧



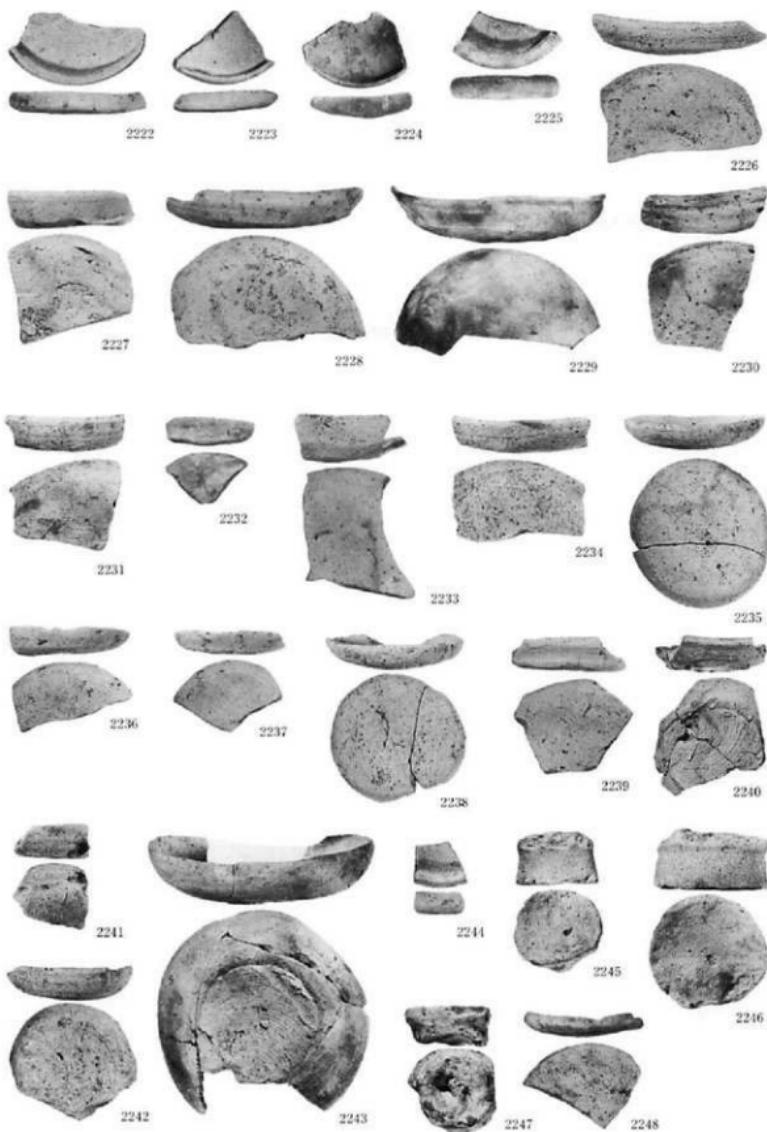
写真図版83 かわらけ⑨



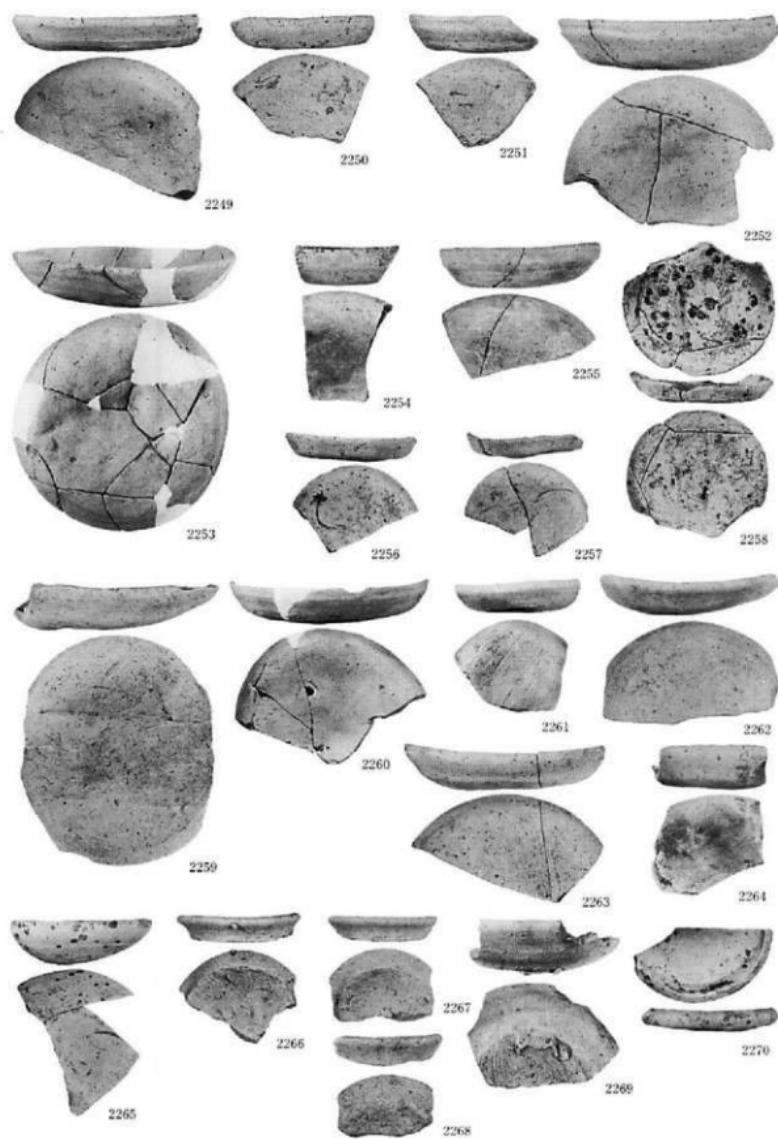
写真図版84 かわらけ⑩



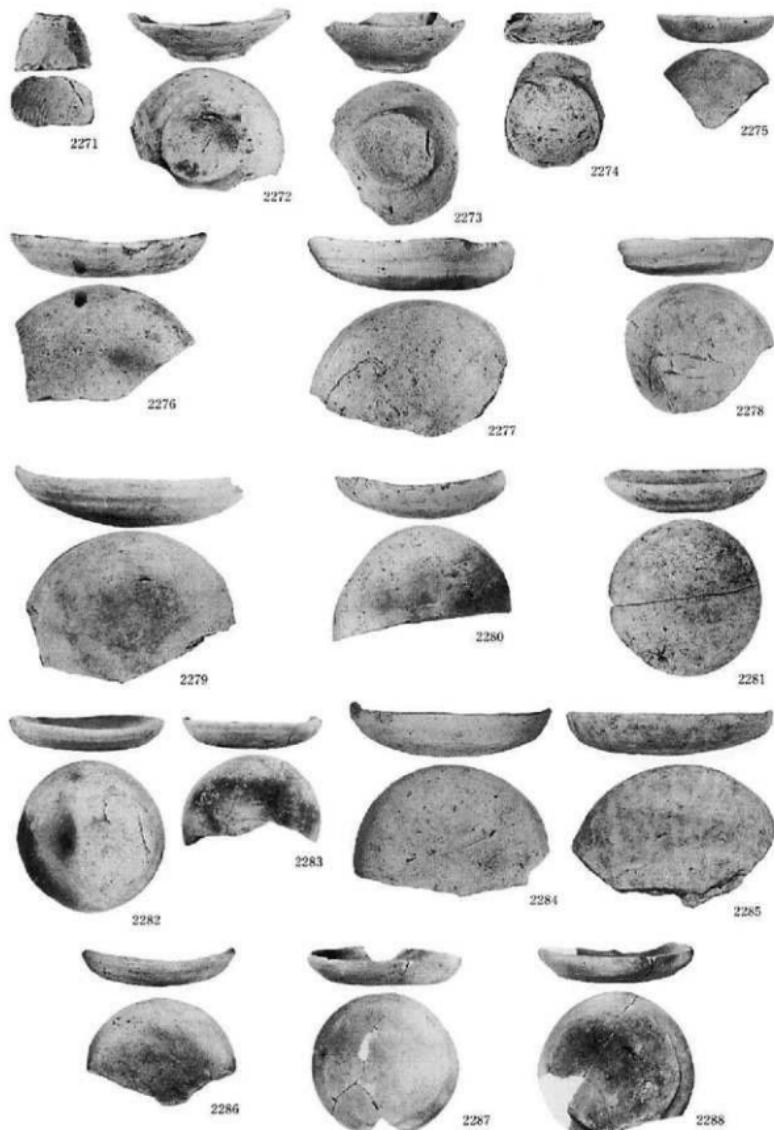
写真図版85 かわらけ①



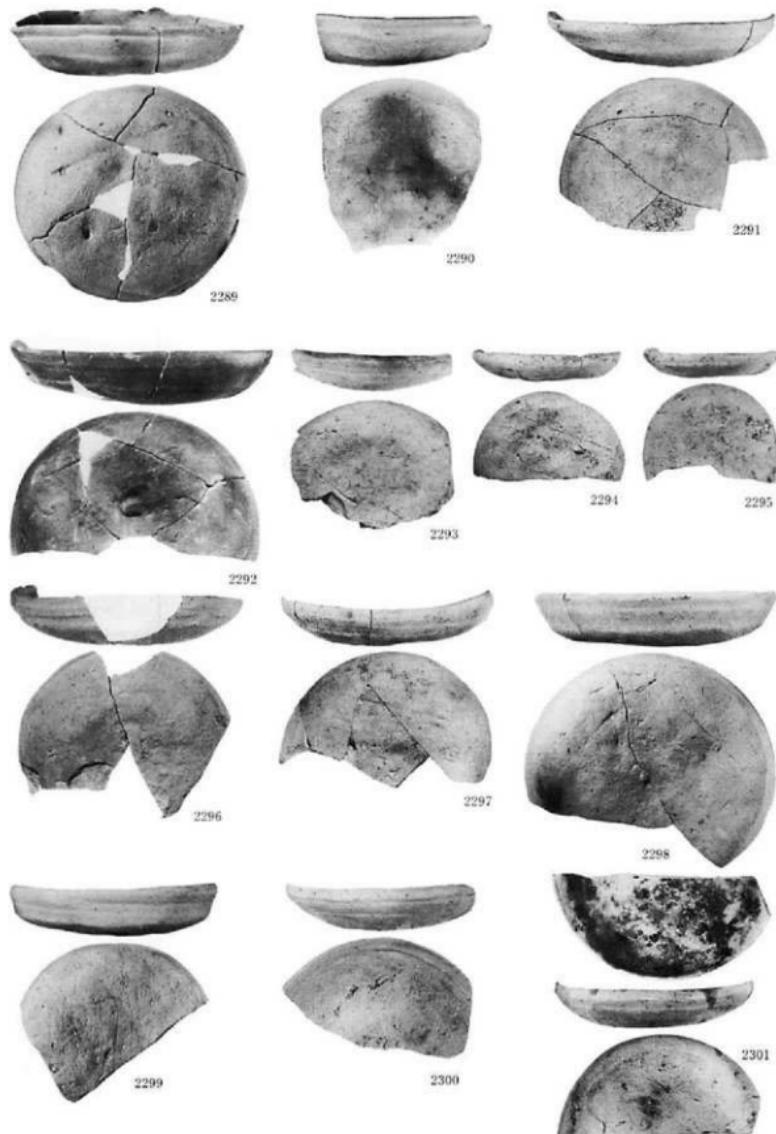
写真図版86 かわらけ⑫



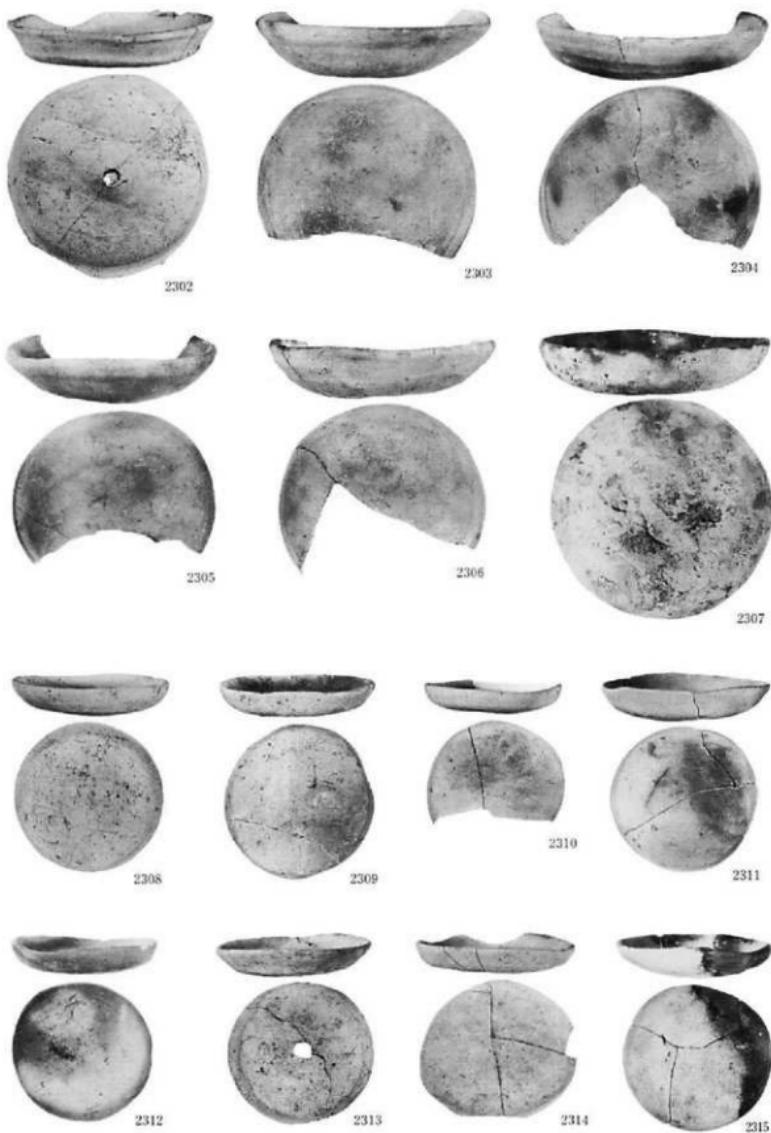
写真図版87 かわらけ⑬



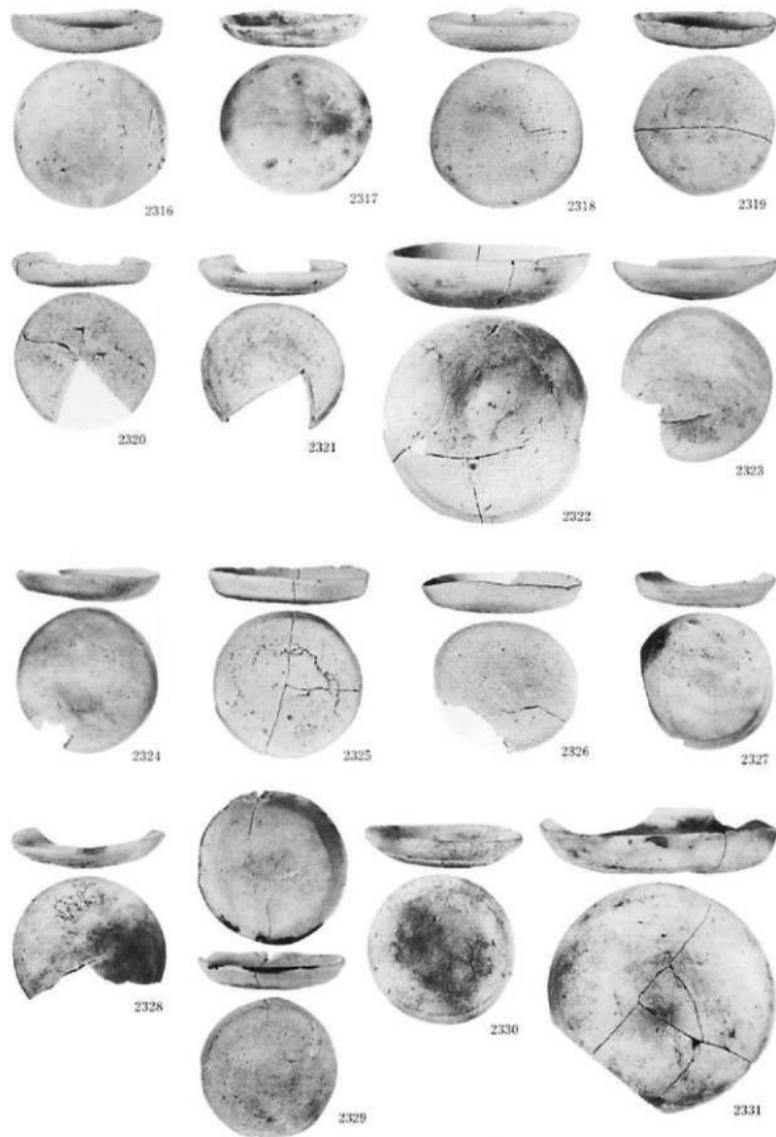
写真図版88 かわらけ④



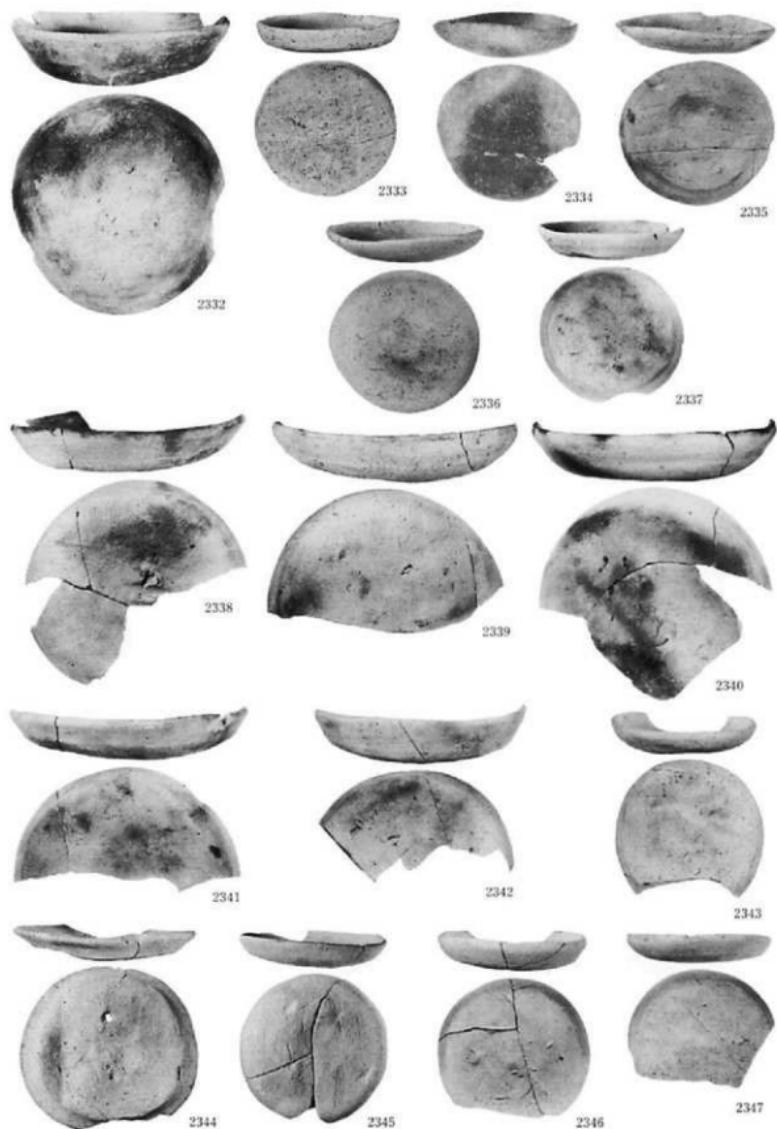
写真図版89 かわらけ⑯



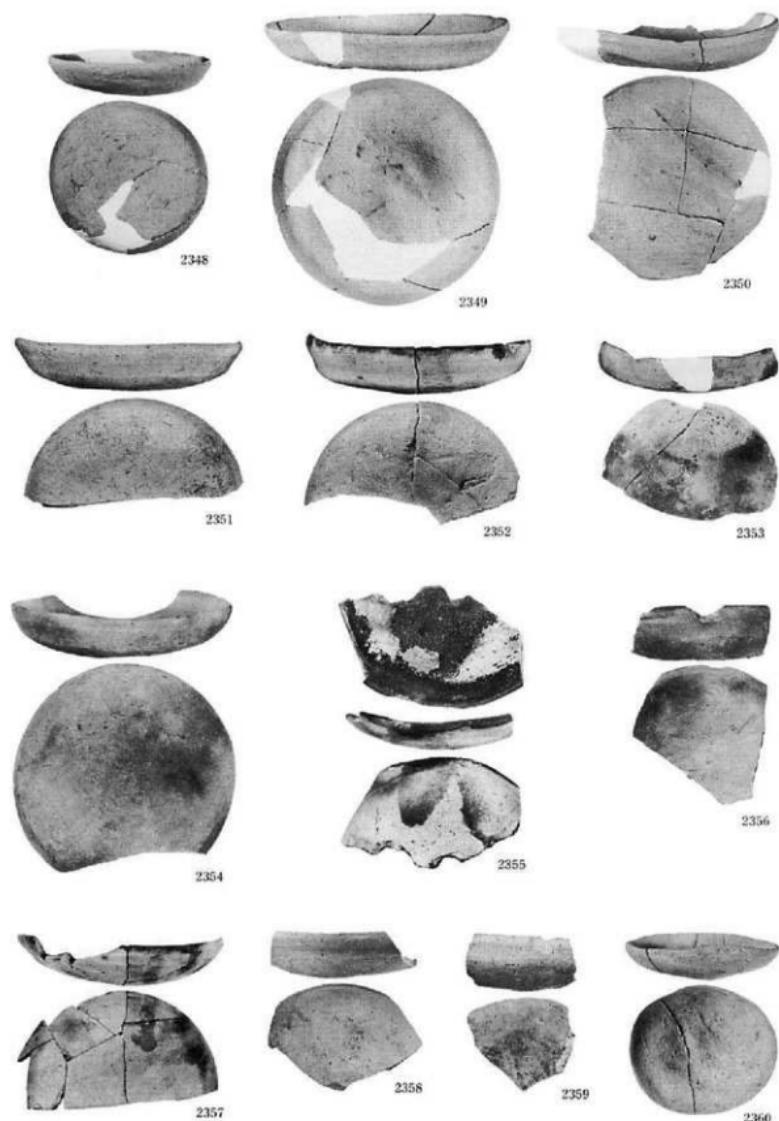
写真図版90 かわらけ⑥



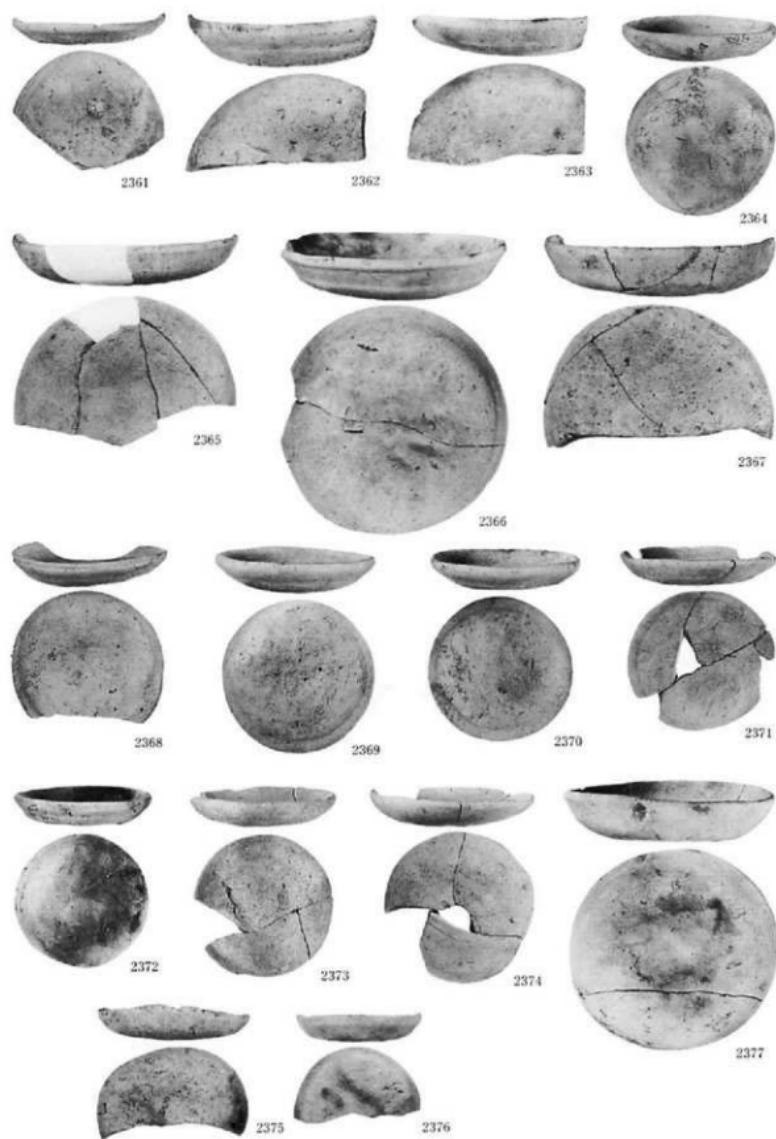
写真図版91 かわらけ⑦



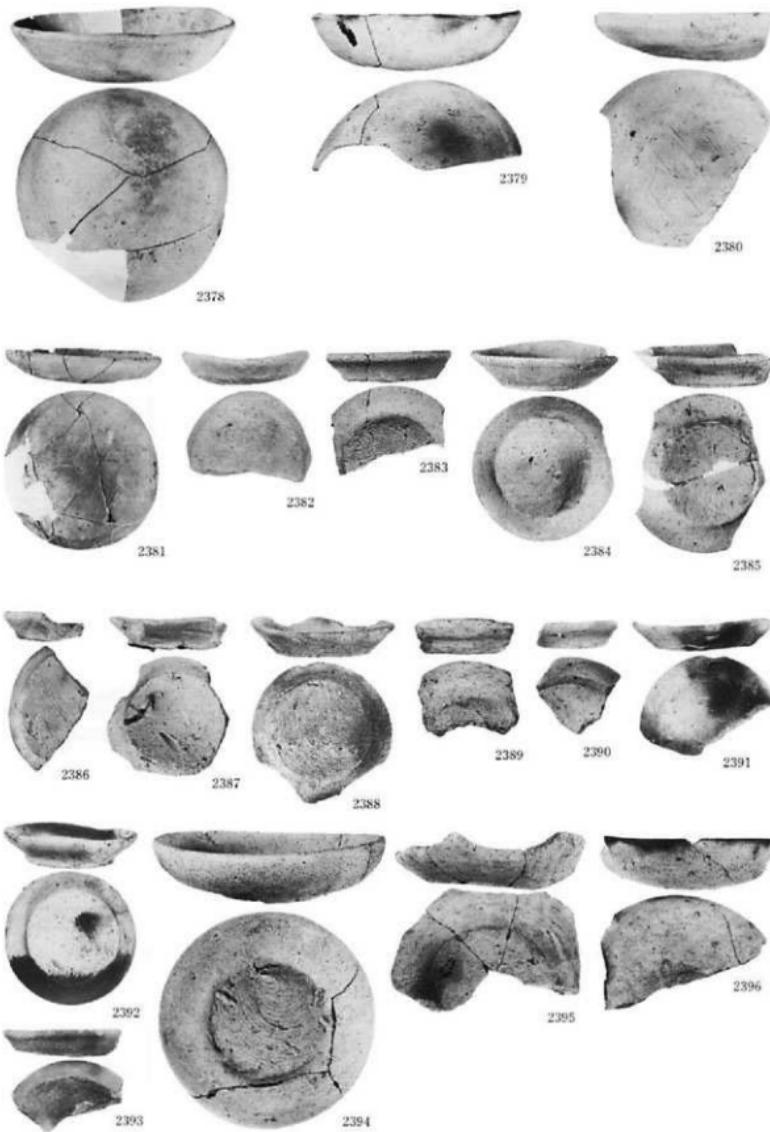
写真図版92 かわらけ⑧



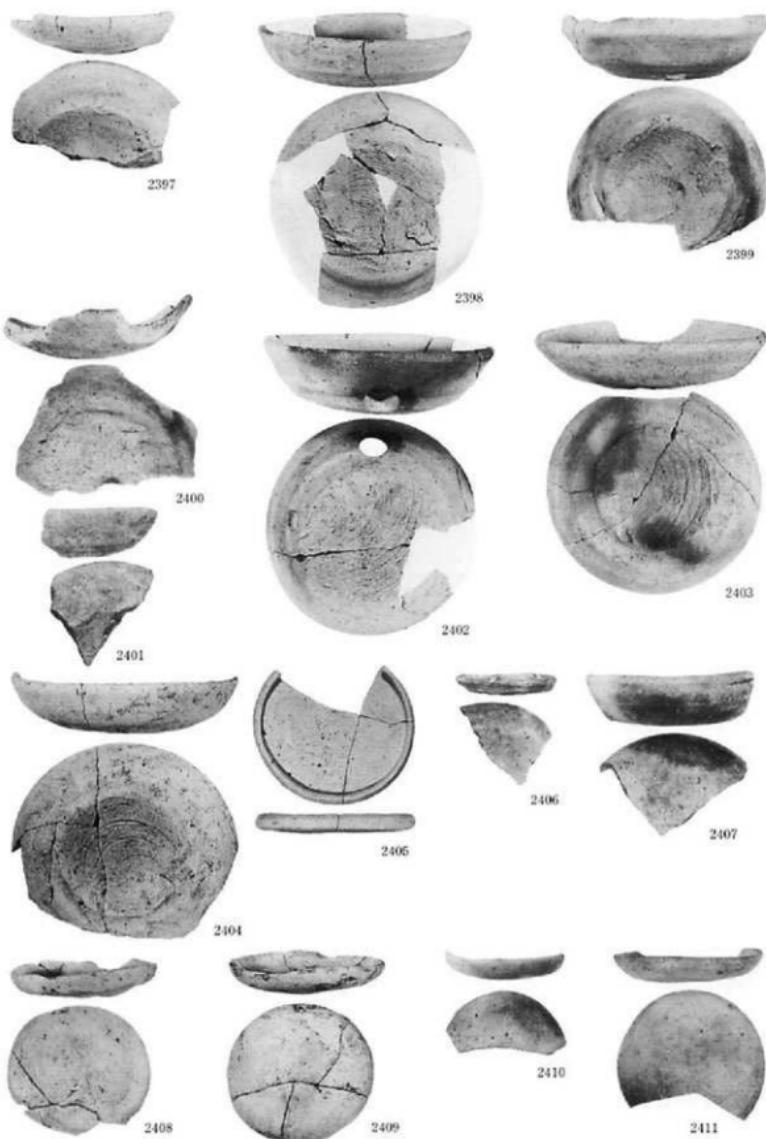
写真図版93 かわらけ⑩



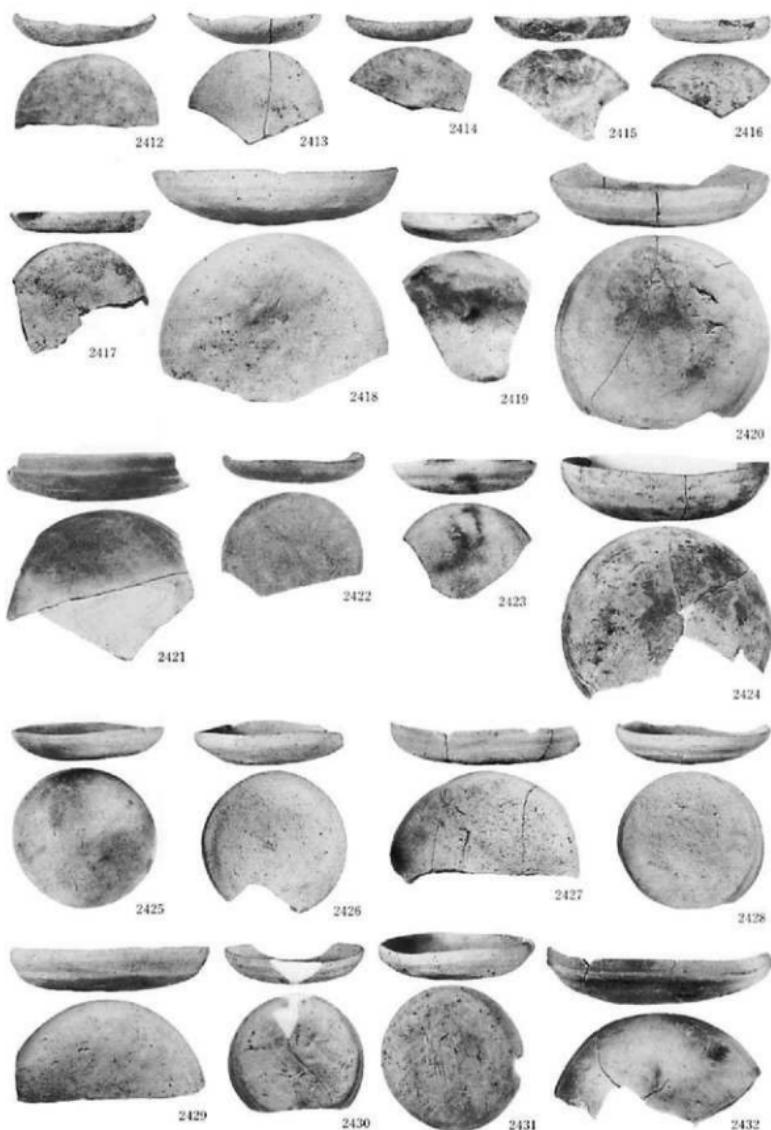
写真図版94 かわらけ②



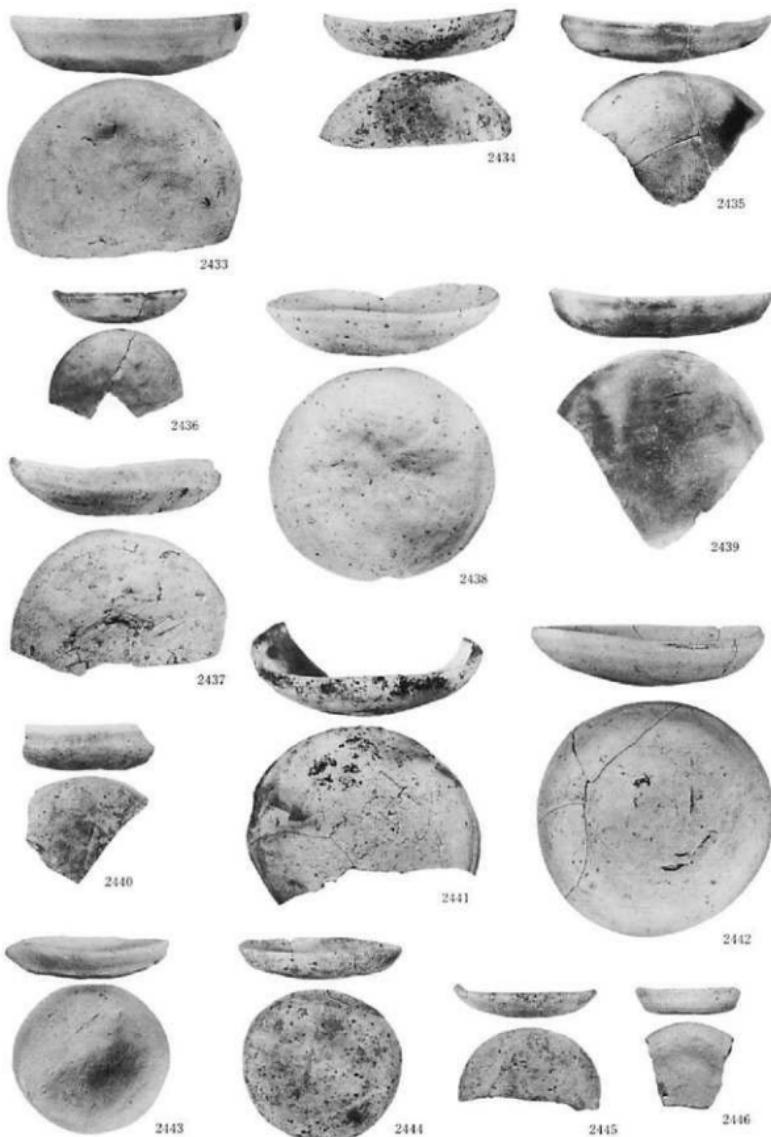
写真図版95 かわらけ②



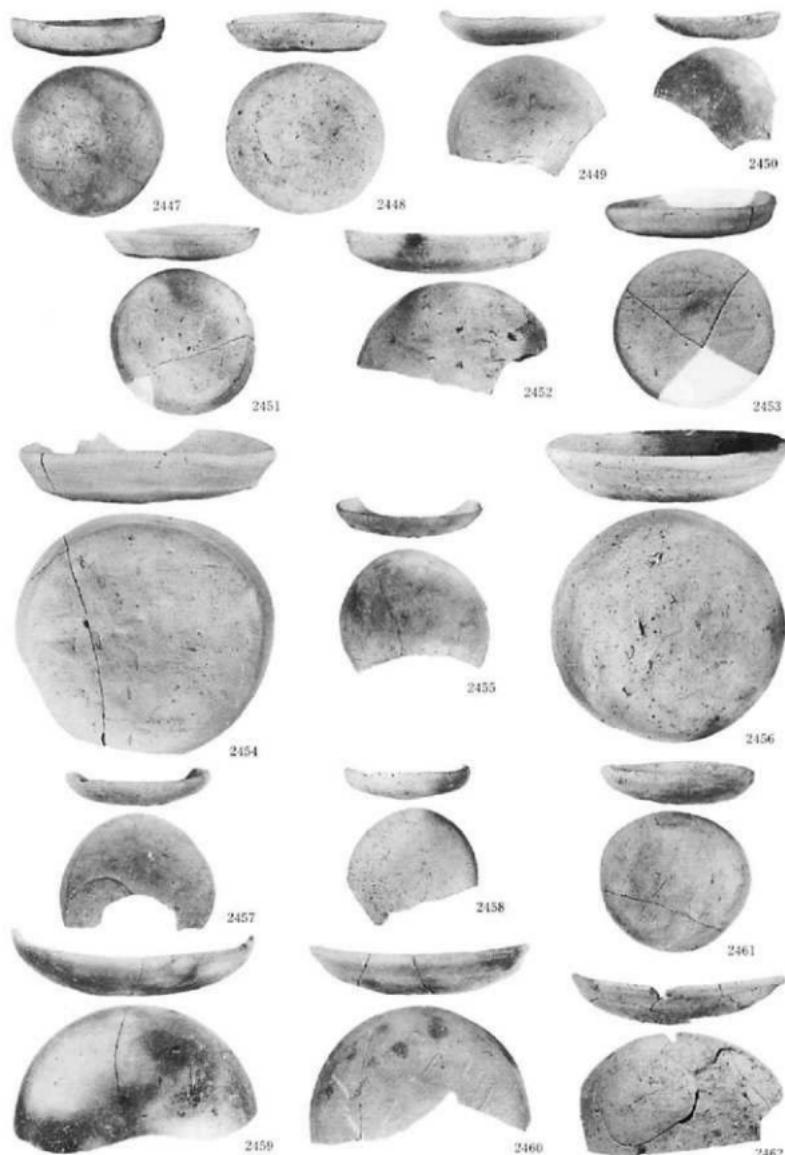
写真図版96 かわらけ㉙



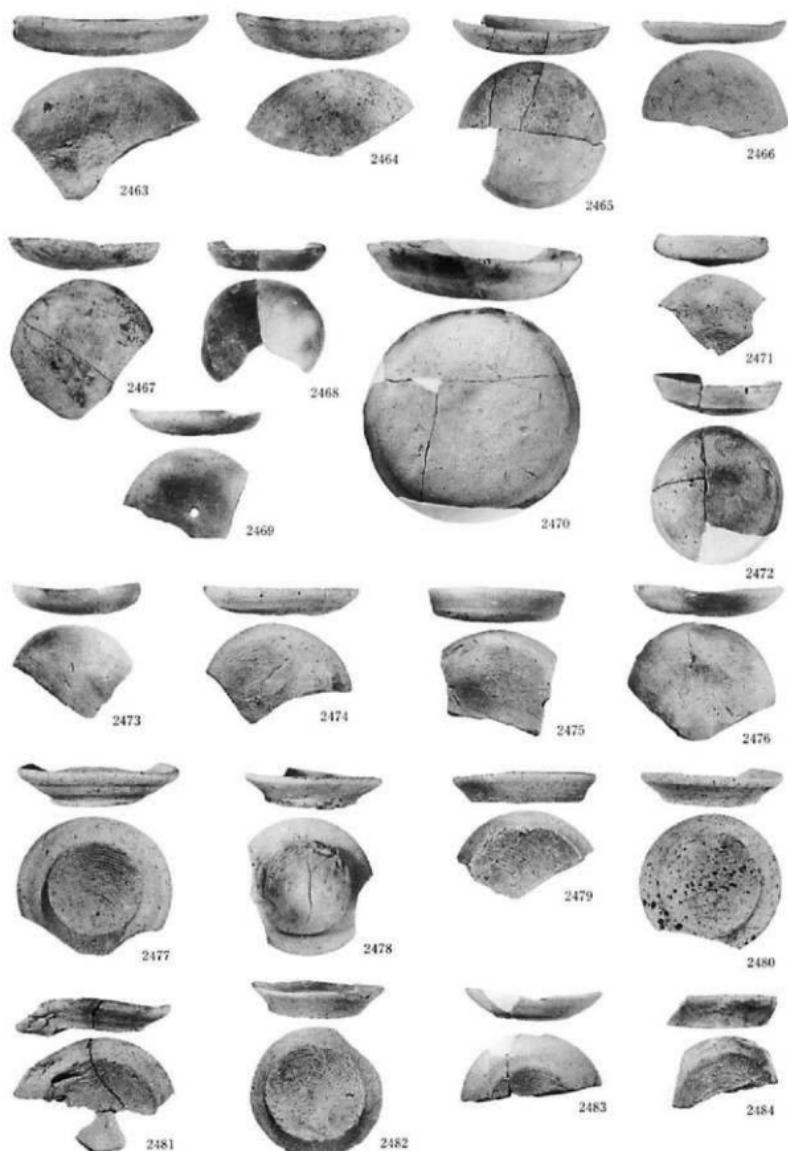
写真図版97 かわらけ②



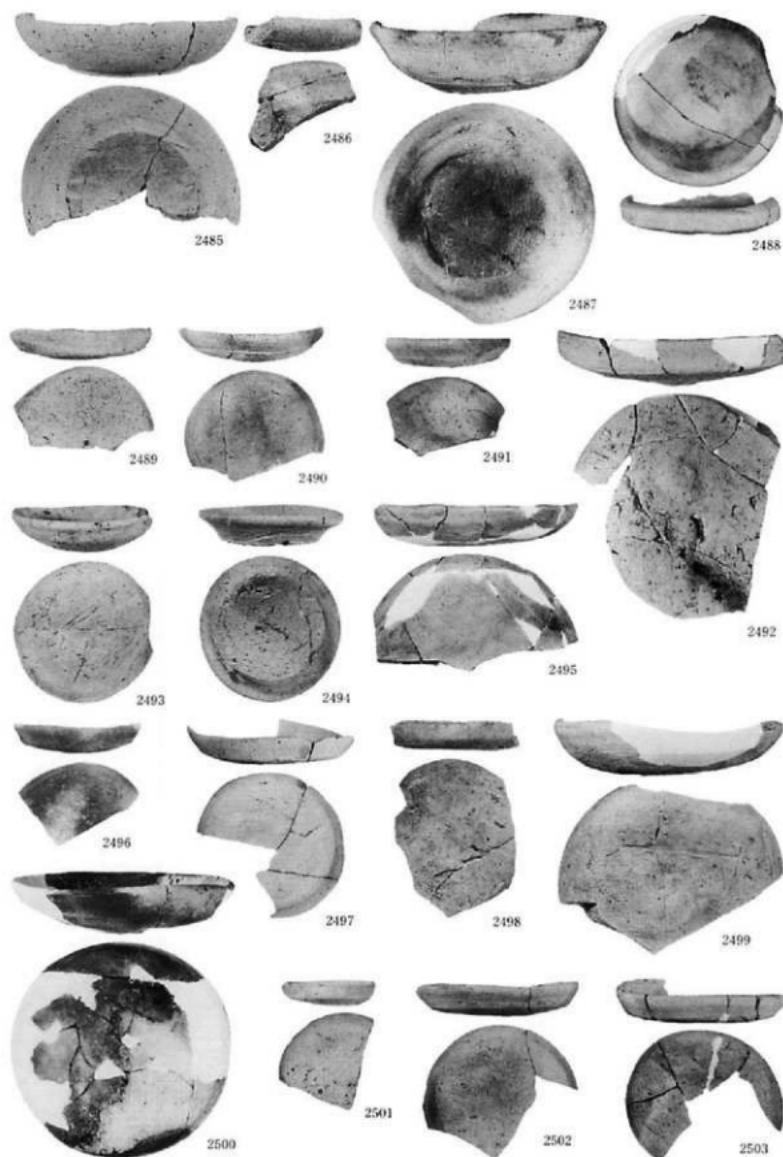
写真図版98 かわらけ④



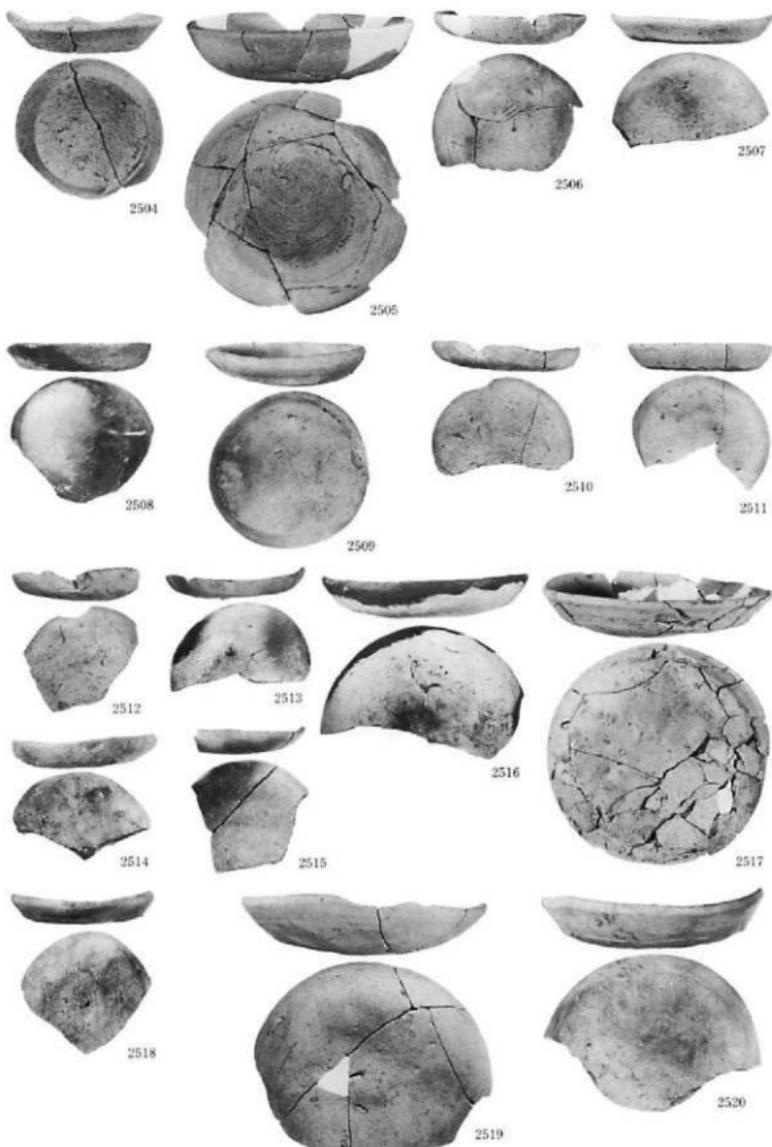
写真図版99 かわらけ②



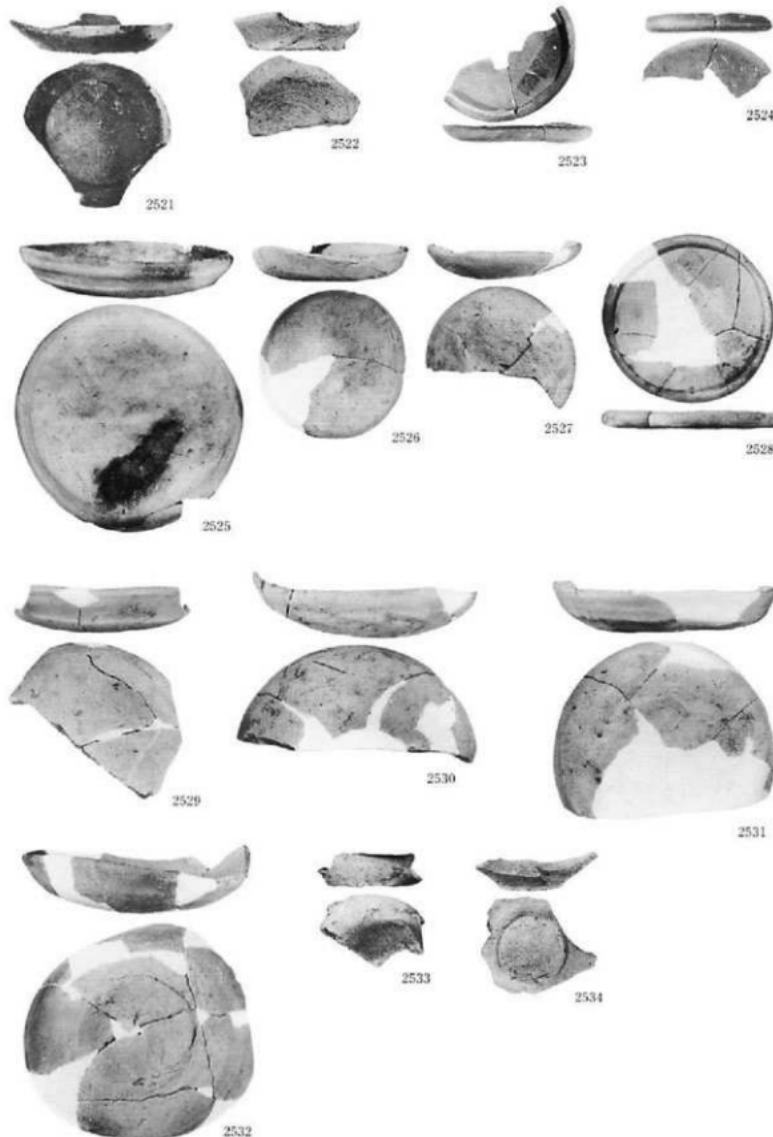
写真図版100 かわらけ②



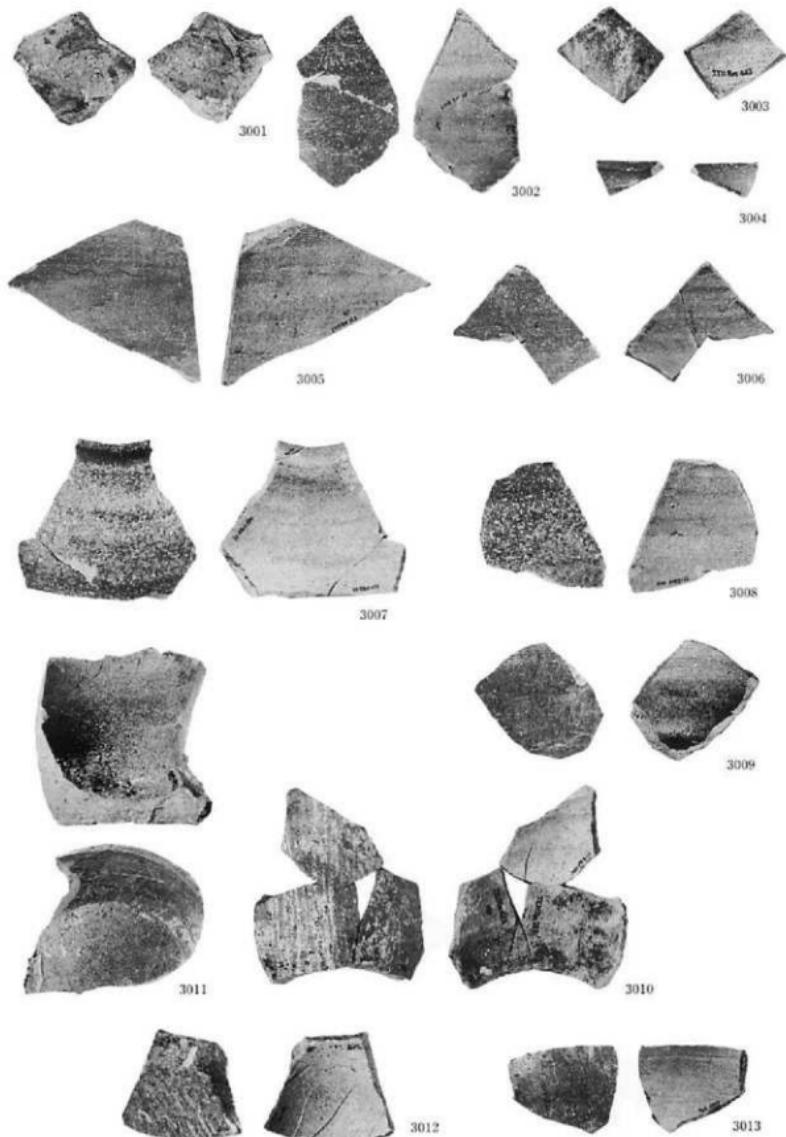
写真図版101 かわらけ②



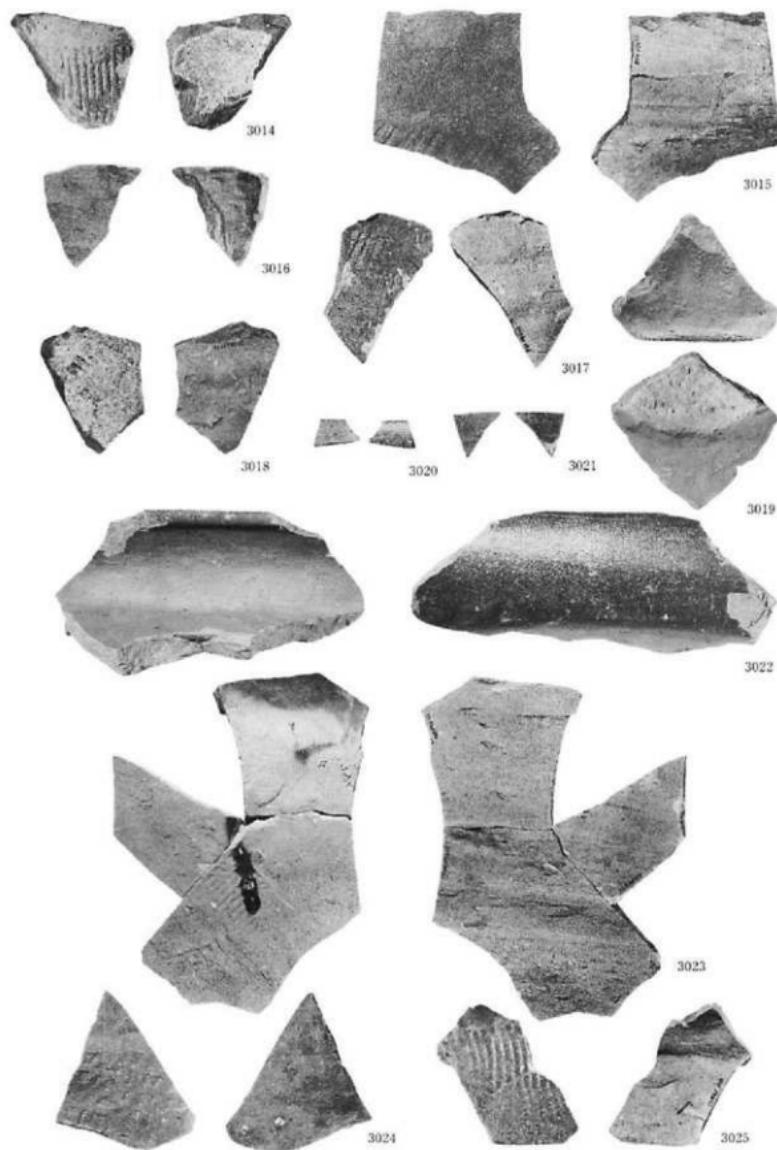
写真図版102 かわらけ②



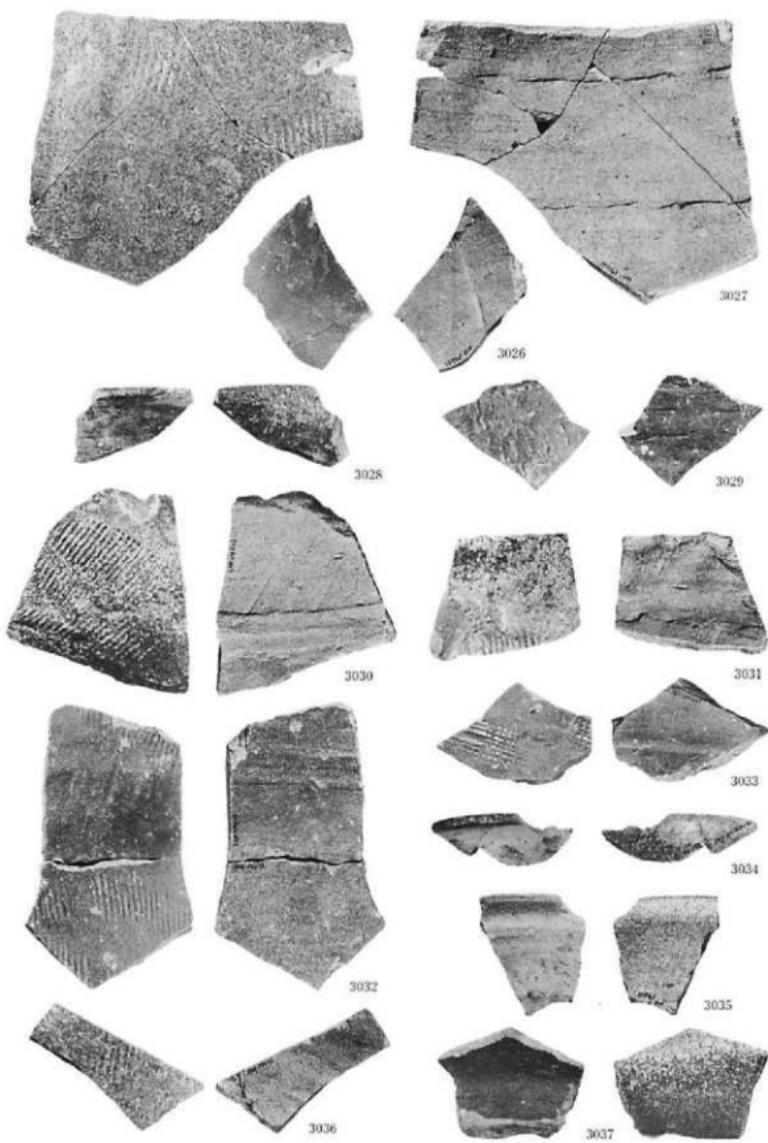
写真図版103 かわらけ②



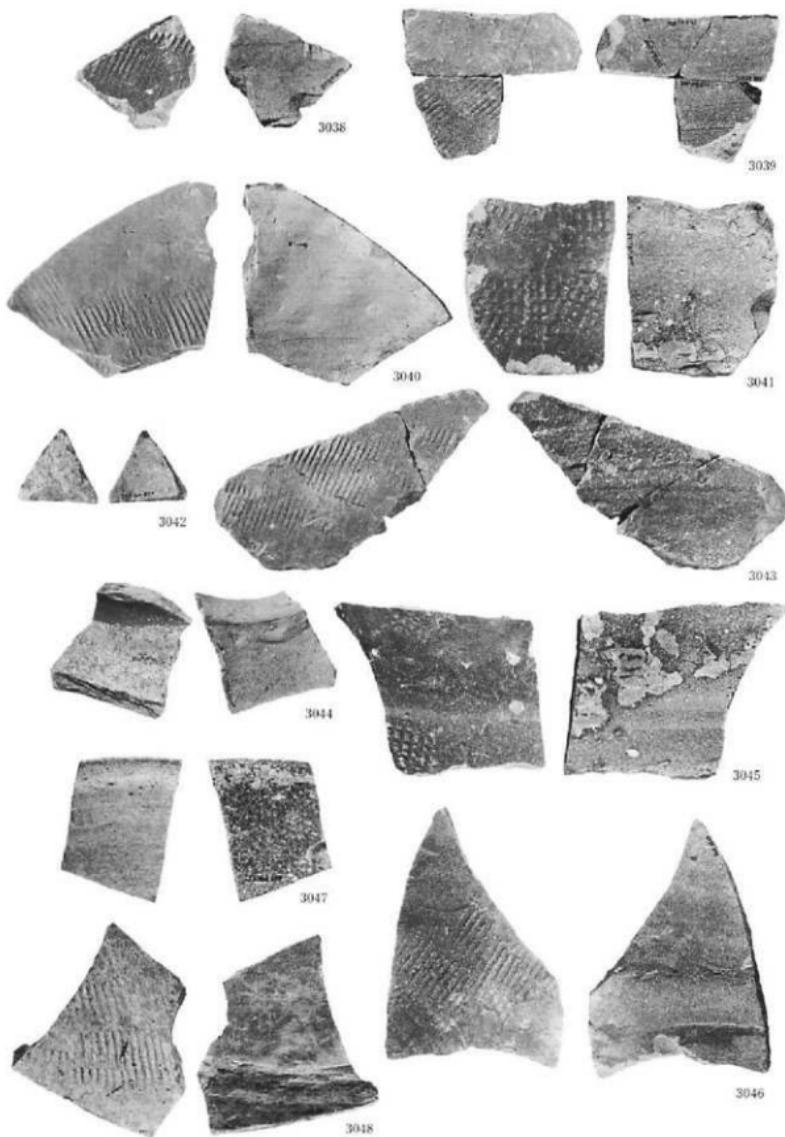
写真図版104 猿投産陶器



写真図版105 淀美産陶器①



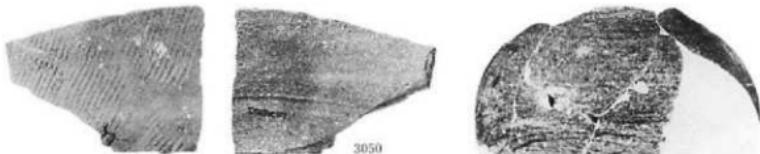
写真図版106 涅美産陶器②



写真図版107 濱美産陶器③



3049



3050

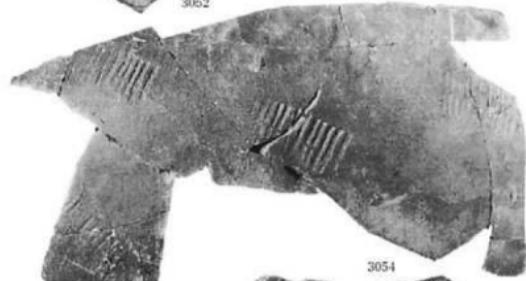


3051

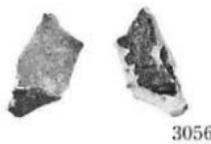
3052



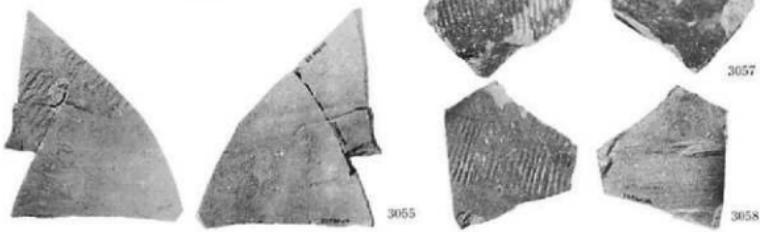
3053



3054



3056

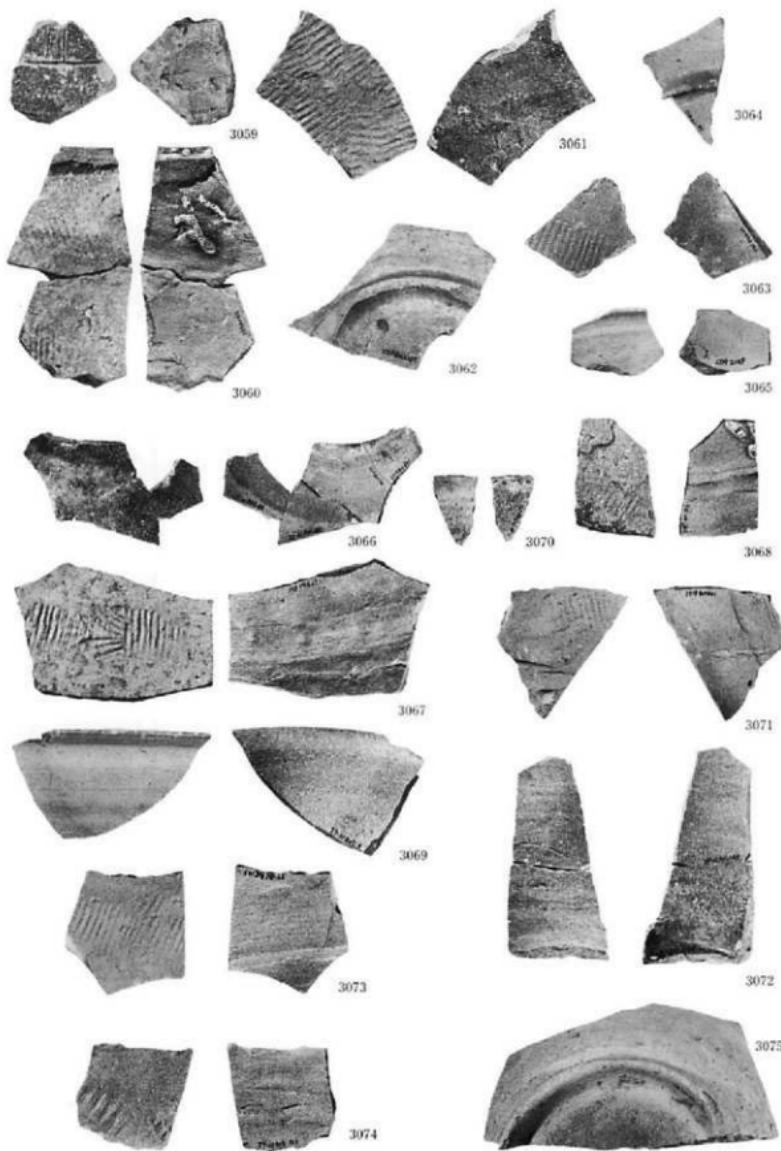


3055

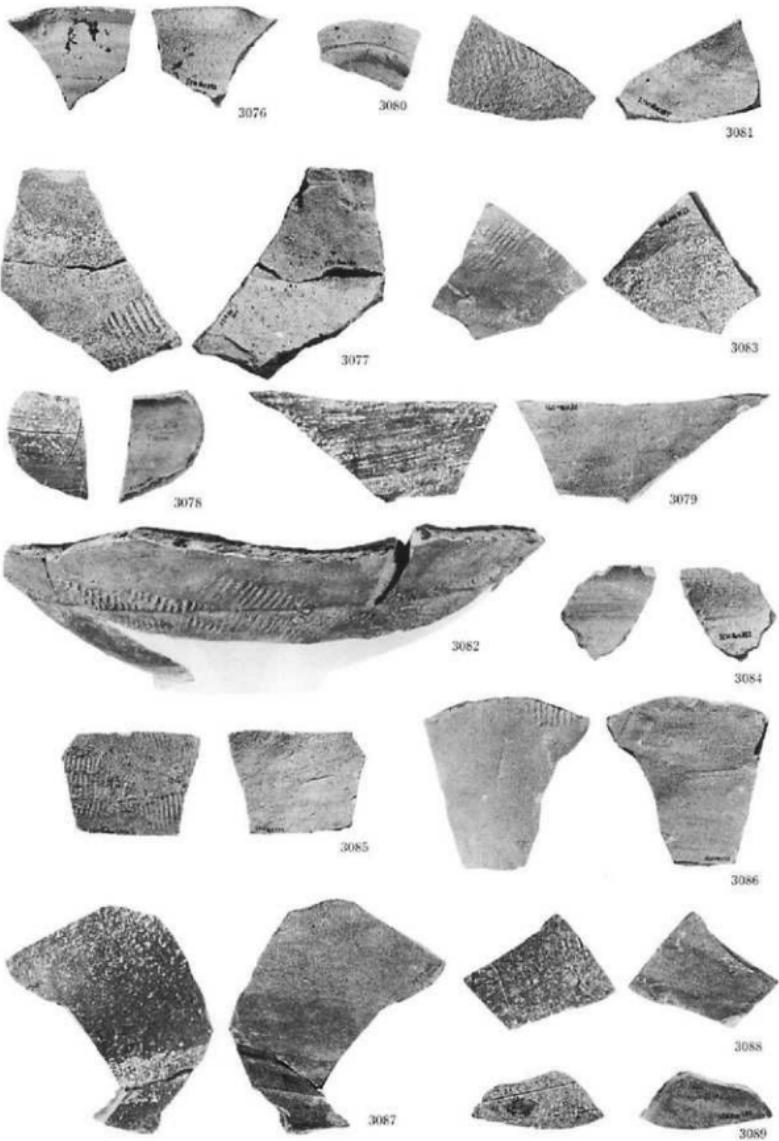
3057

3058

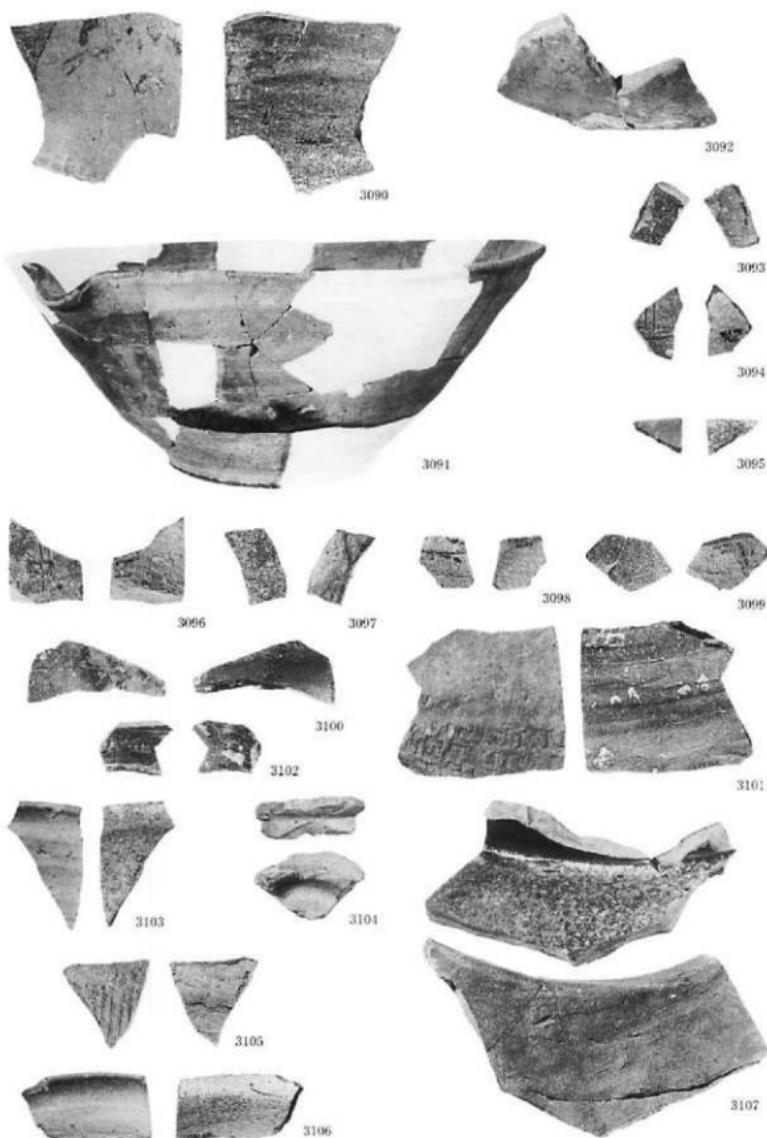
写真図版108 涅美産陶器④



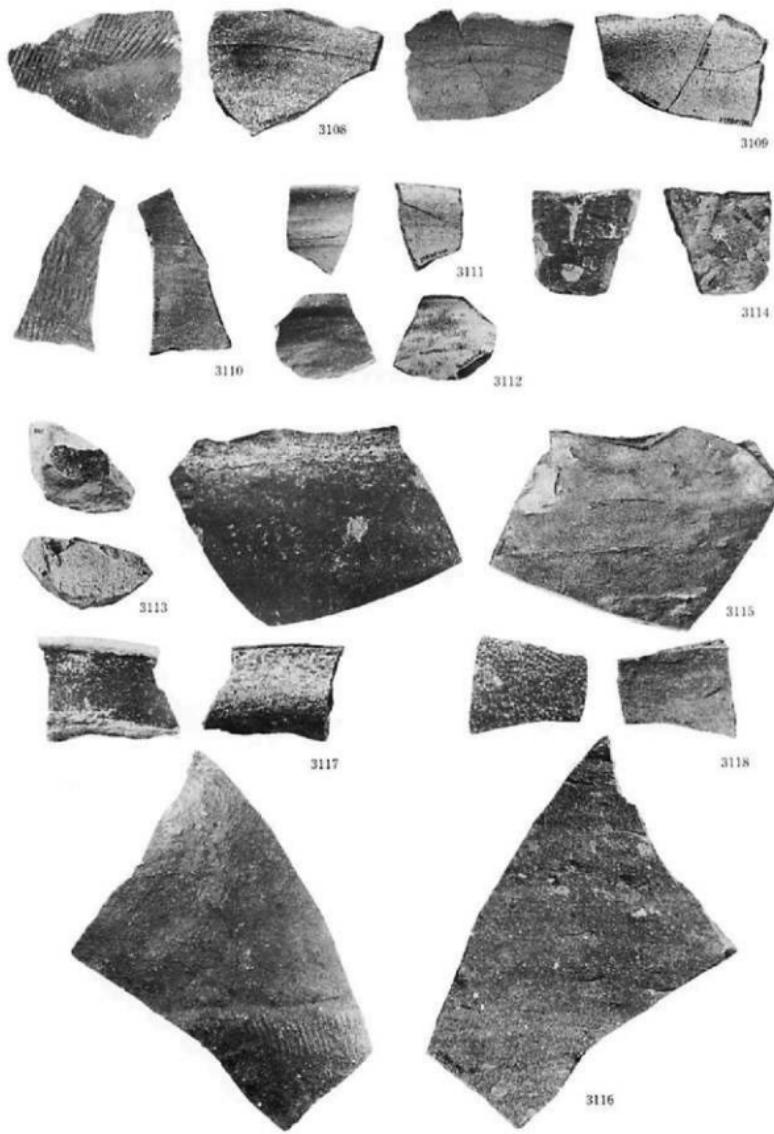
写真図版109 涅美産陶器⑤



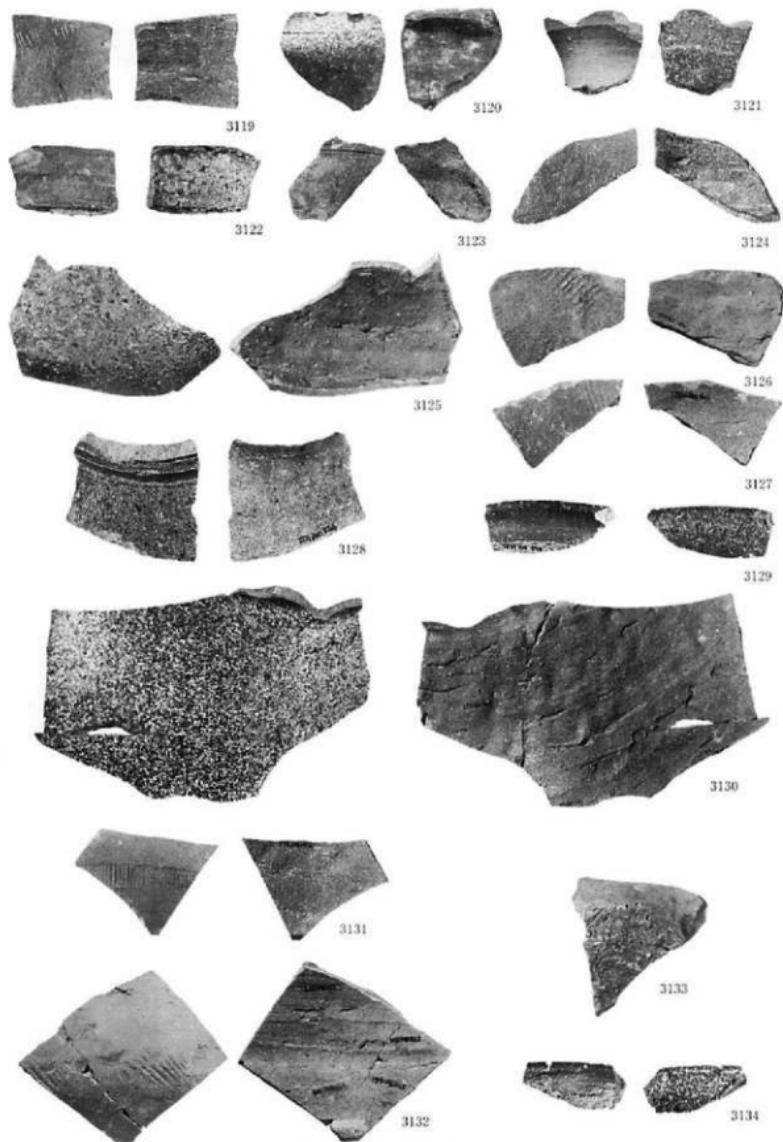
写真図版110 涅美産陶器⑥



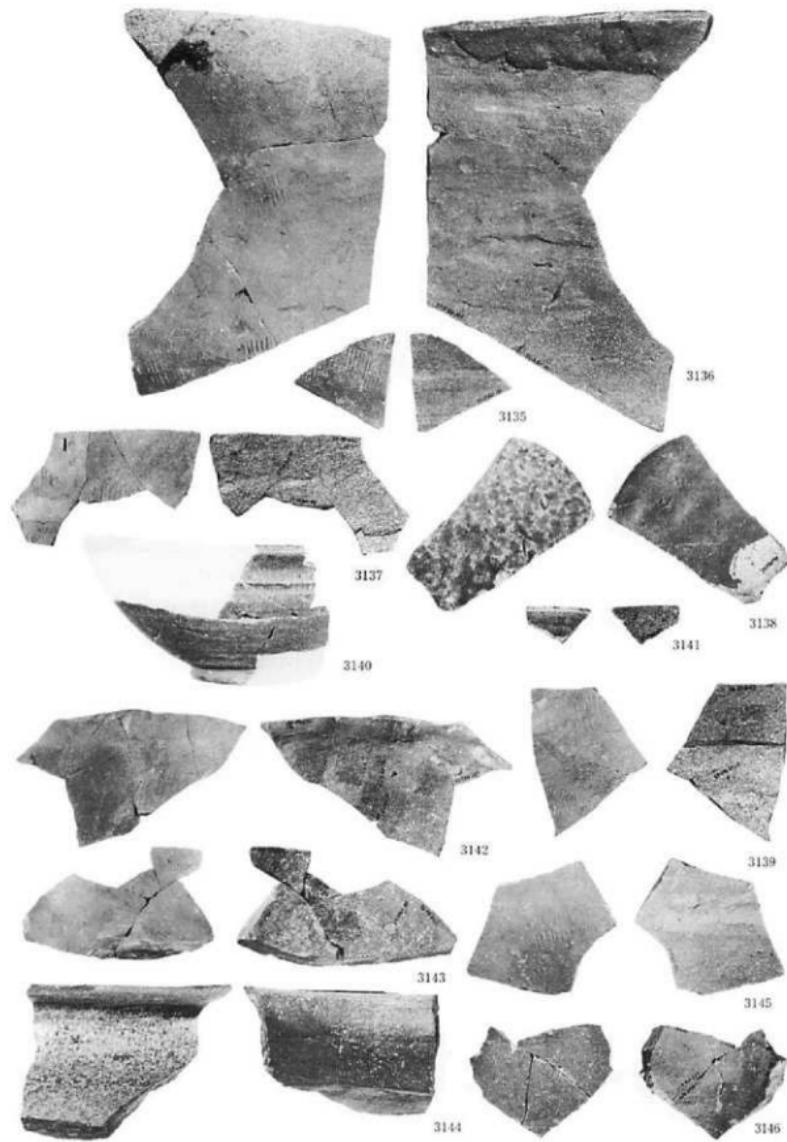
写真図版111 混美産陶器⑦



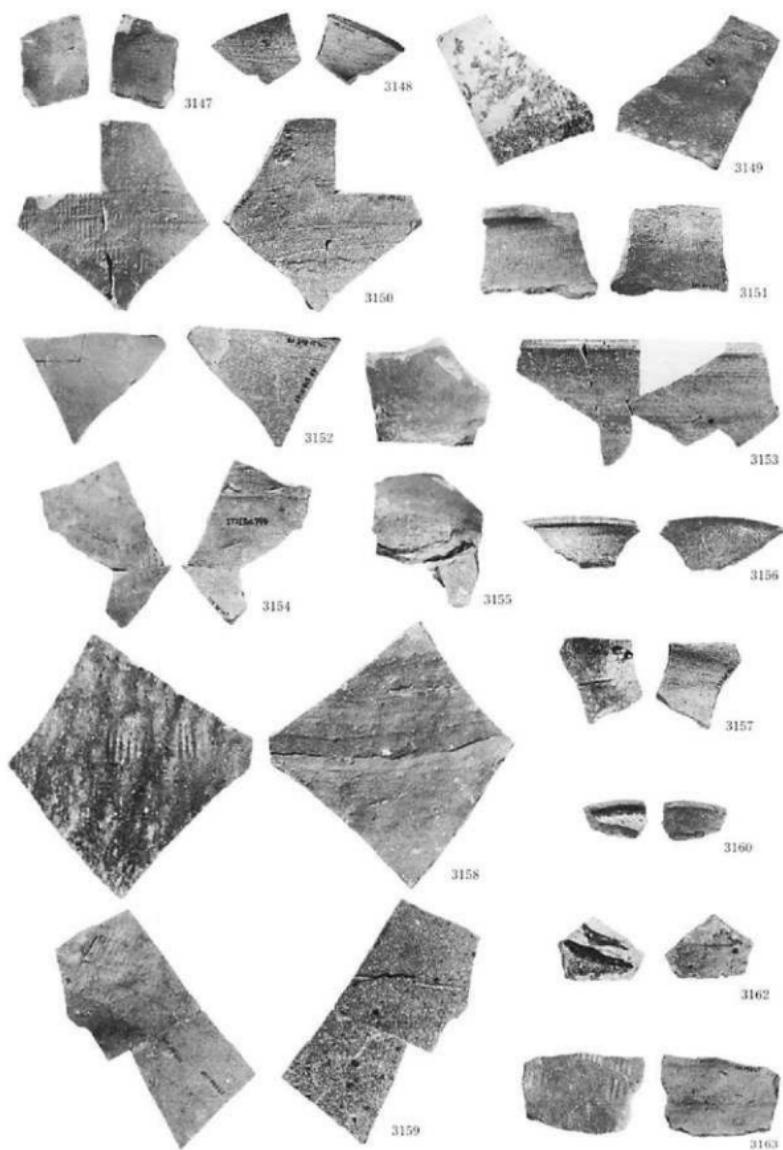
写真図版112 湿美産陶器⑧・常滑産陶器①



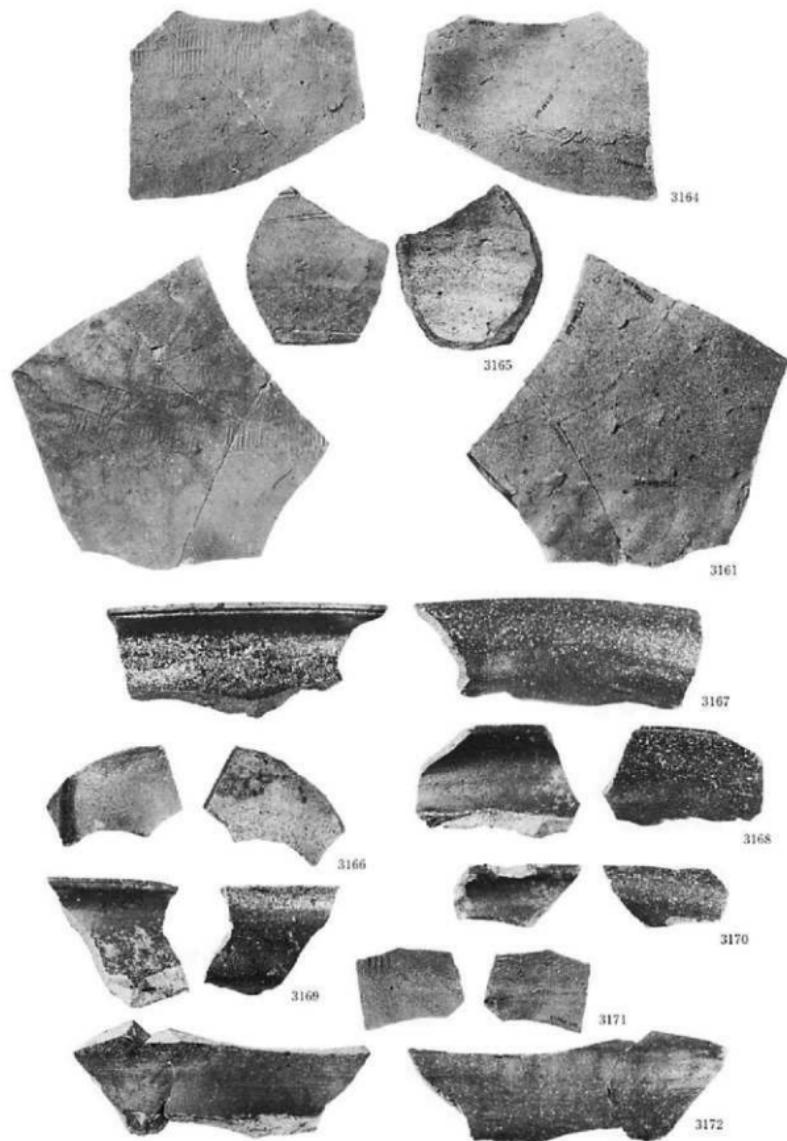
写真図版113 常滑産陶器②



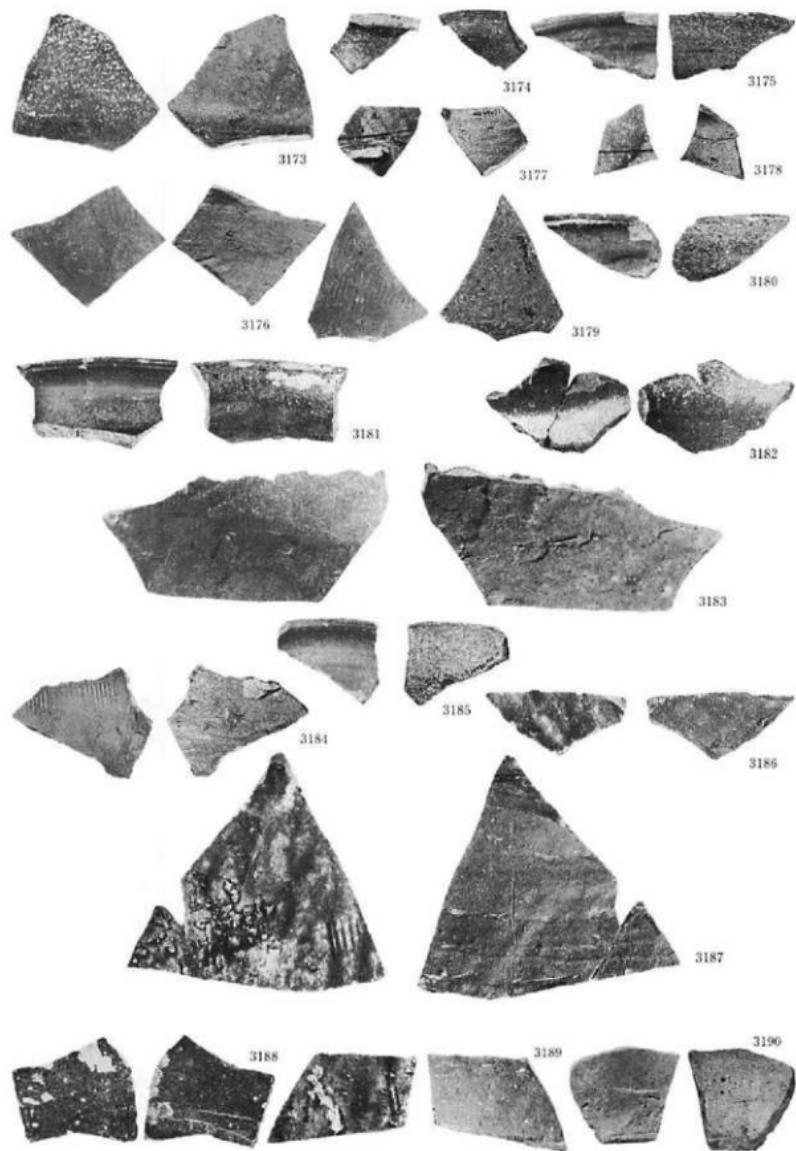
写真図版114 常滑産陶器③



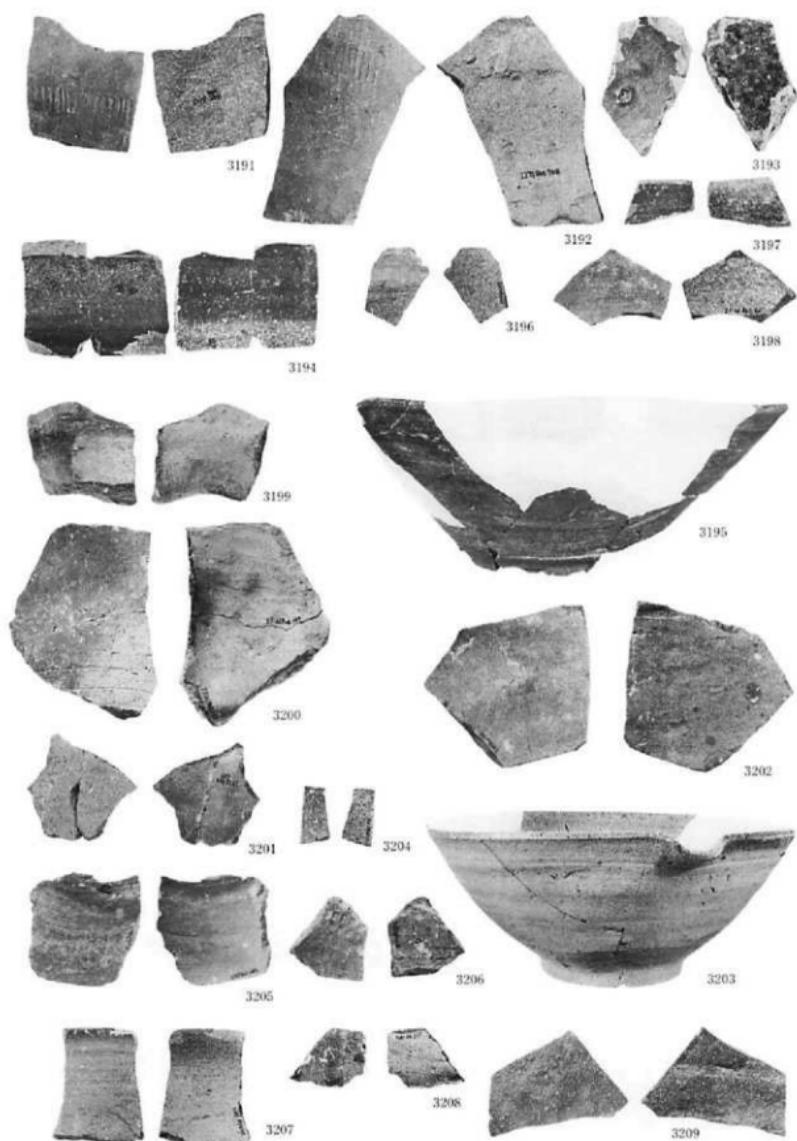
写真図版115 常滑産陶器④



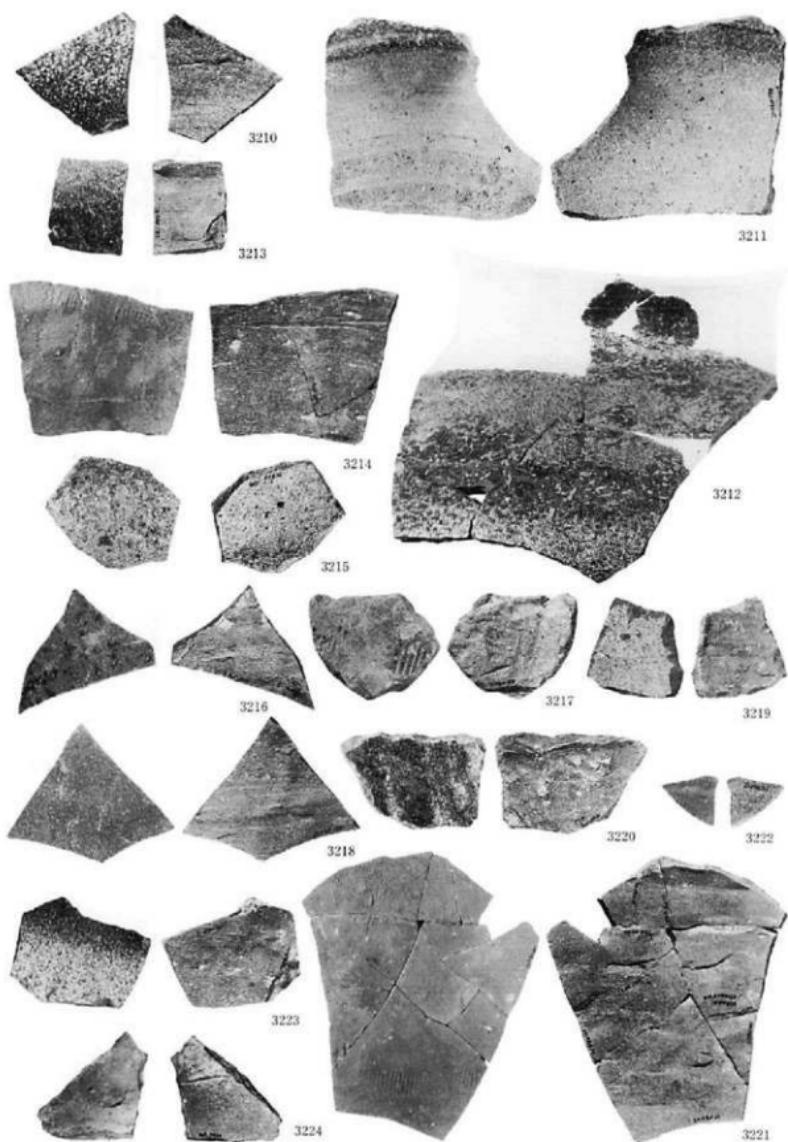
写真図版116 常滑産陶器⑤



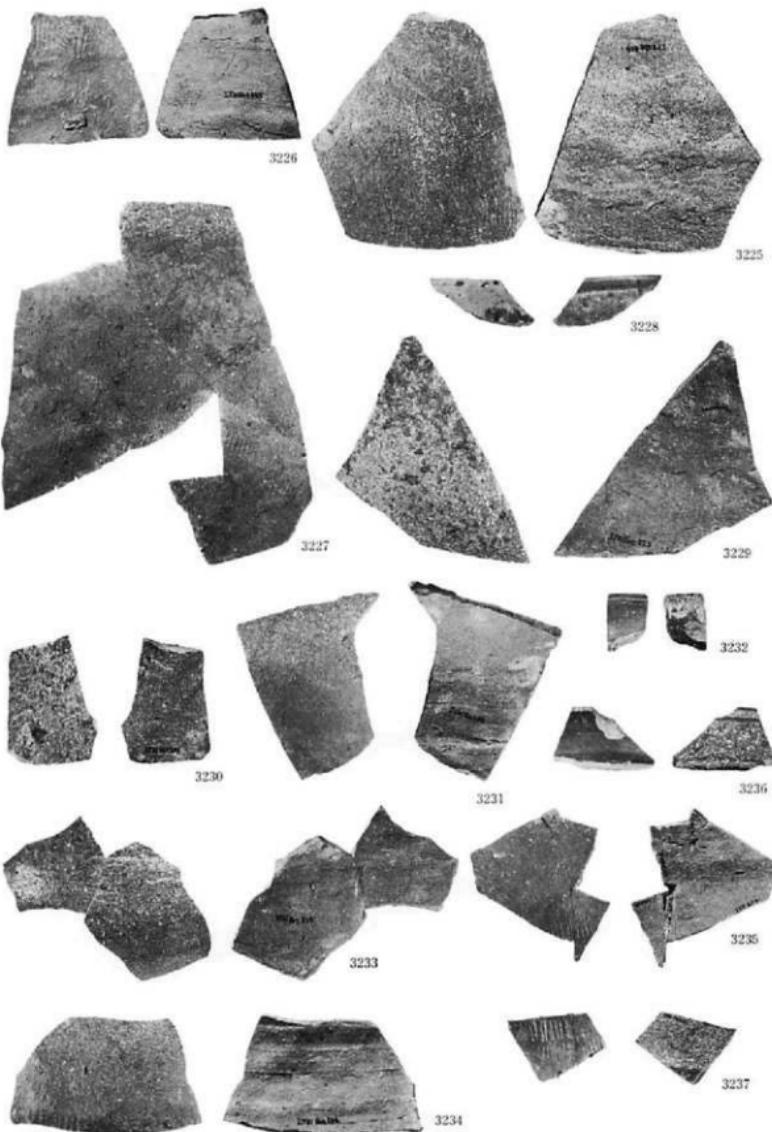
写真図版117 常滑産陶器⑥



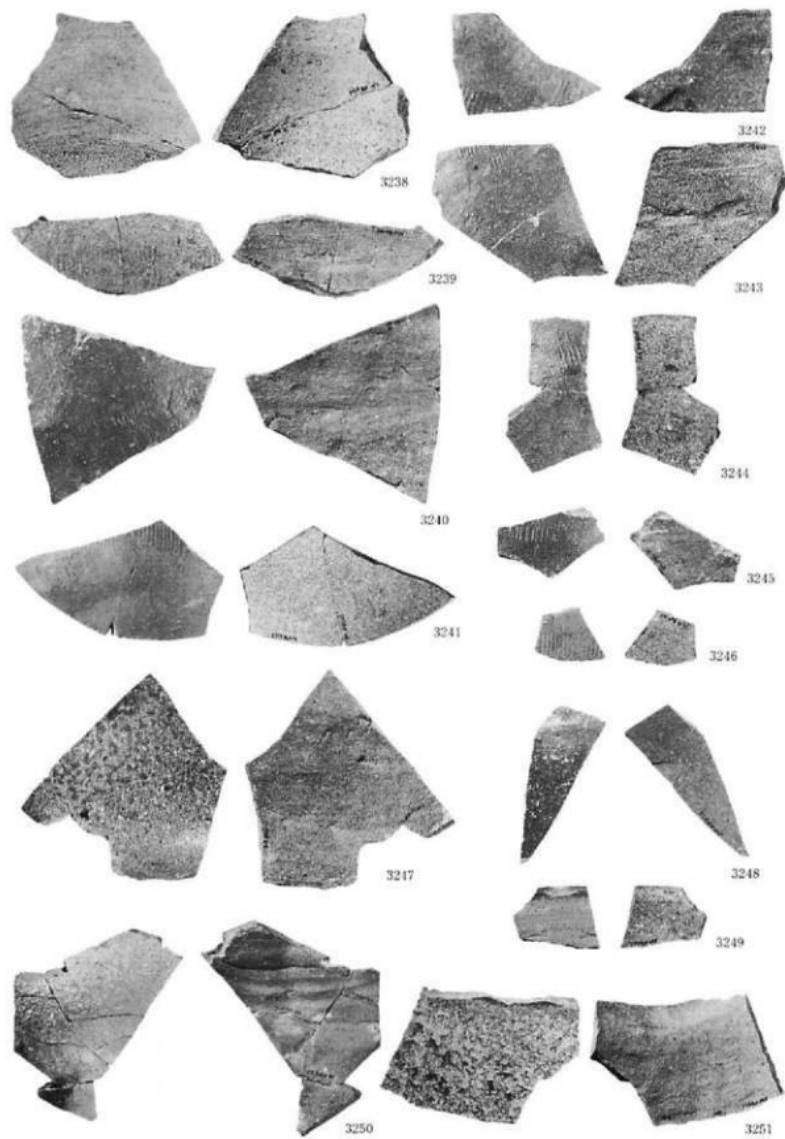
写真図版118 常滑産陶器⑦



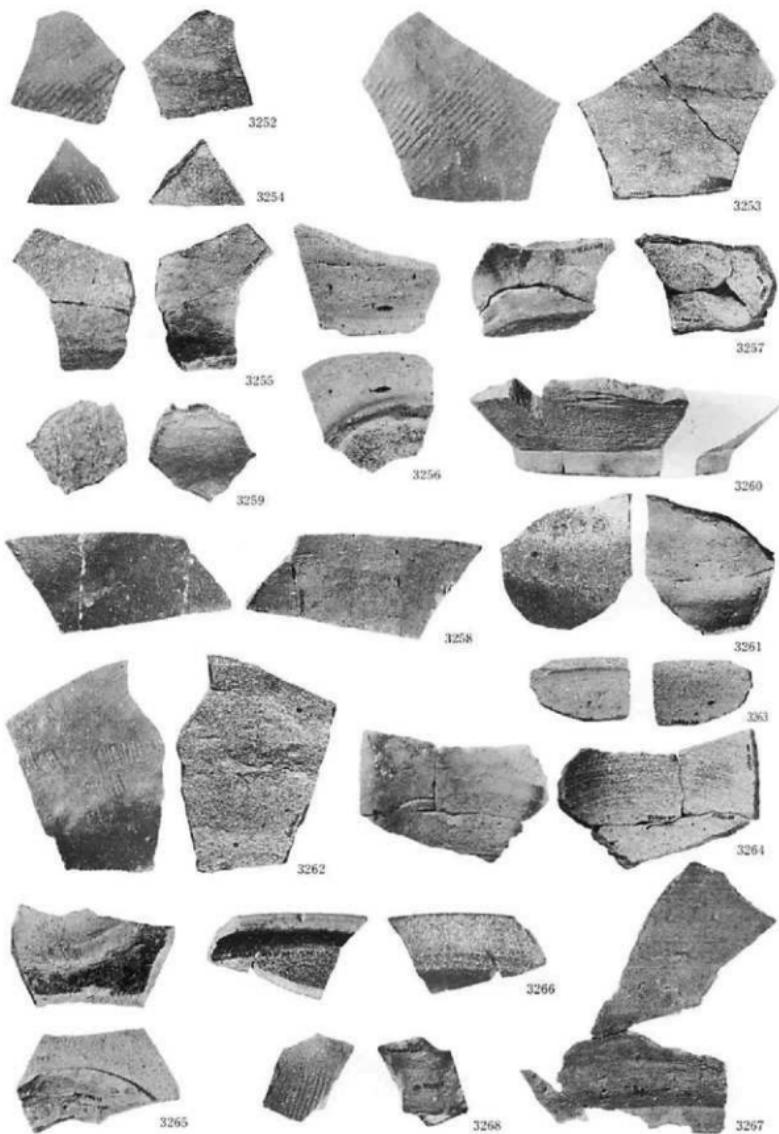
写真図版119 常滑産陶器⑧



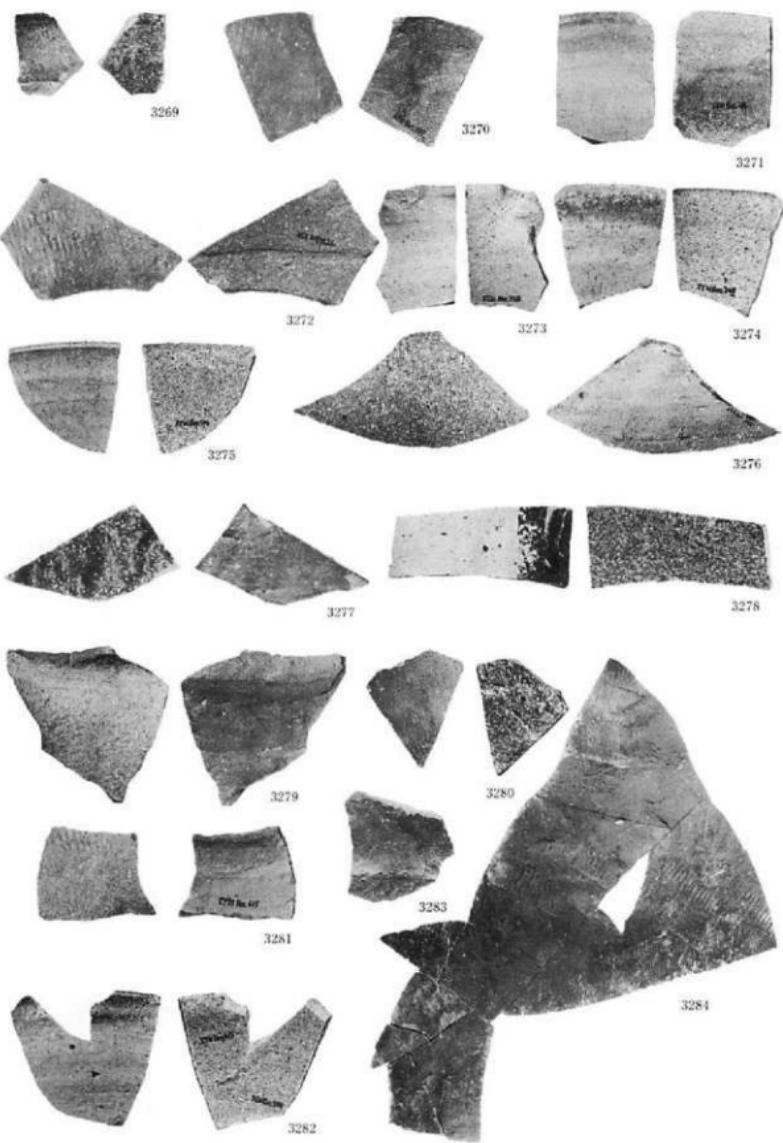
写真図版120 常滑産陶器⑨



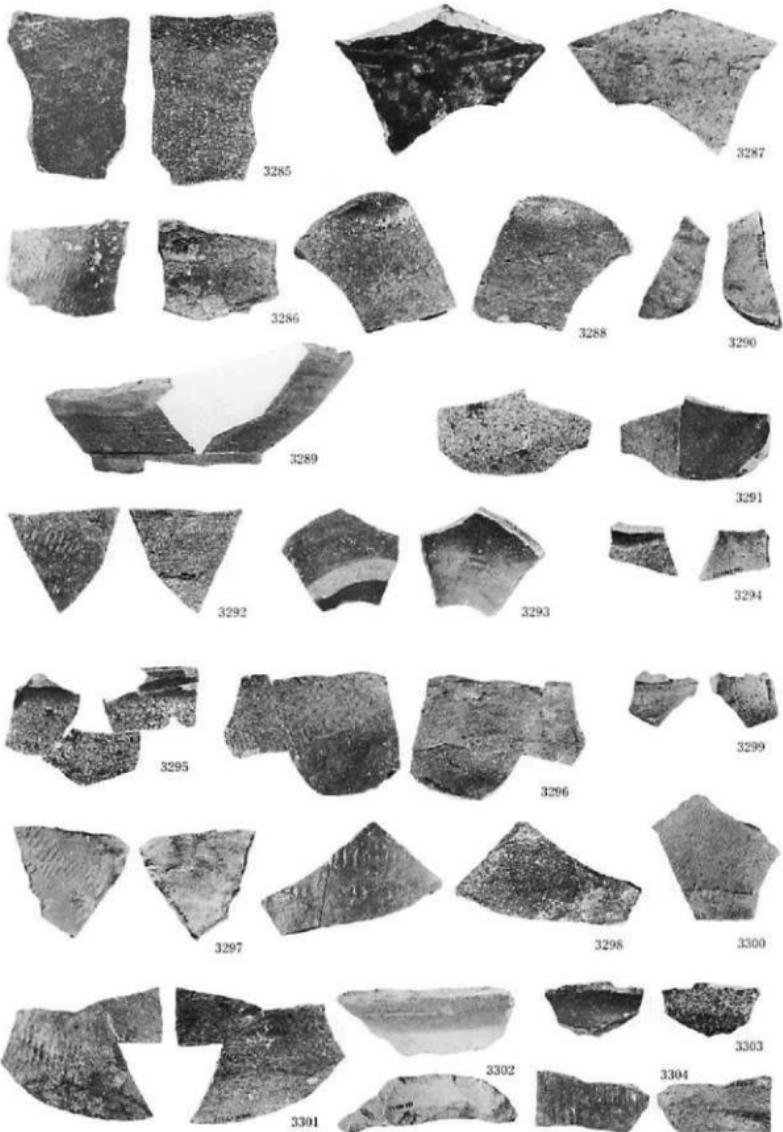
写真図版121 常滑産陶器⑩



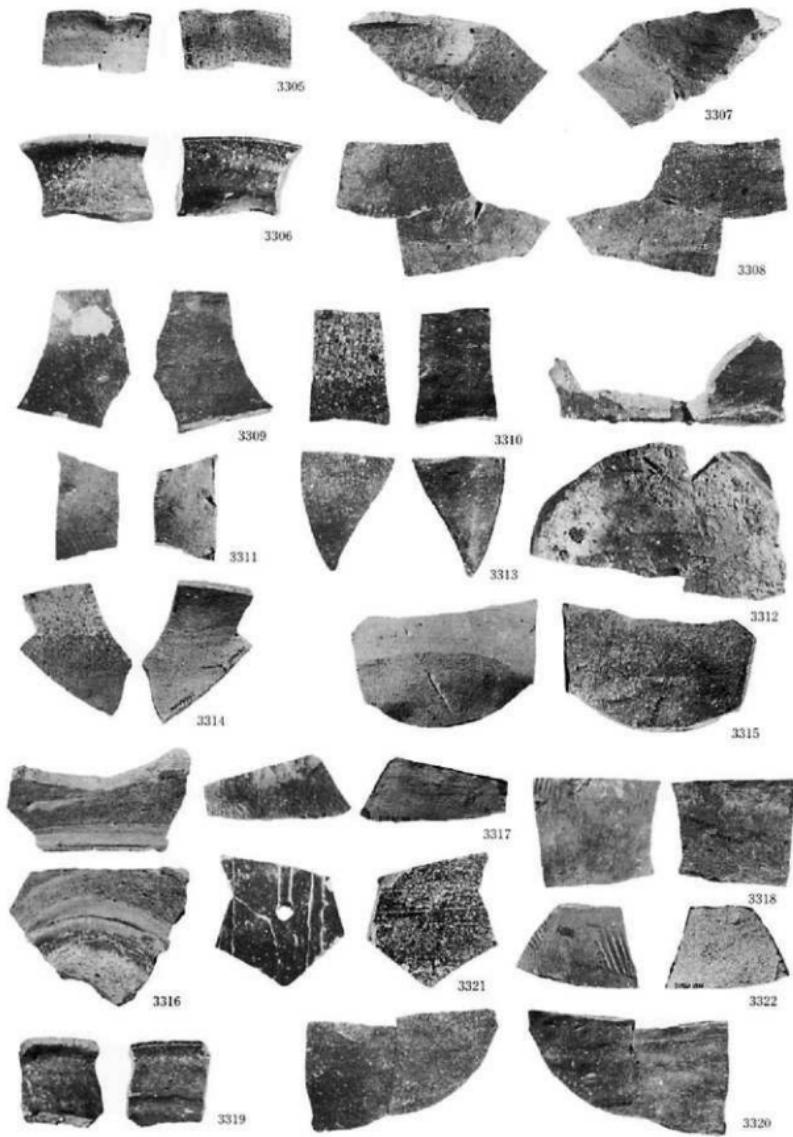
写真図版122 常滑産陶器①



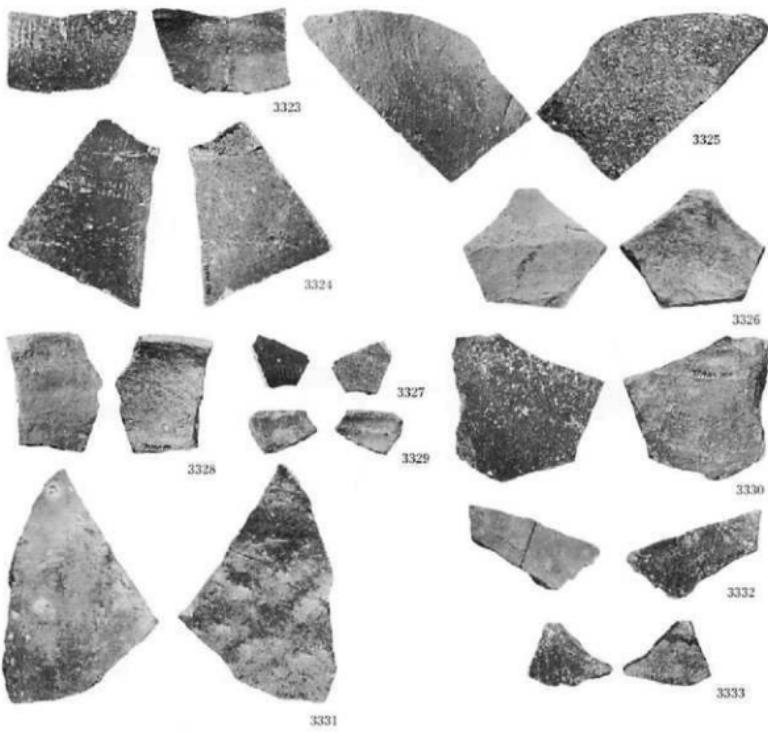
写真図版123 常滑産陶器⑫



写真図版124 常滑産陶器⑬



写真図版125 常滑産陶器④



写真図版126 常滑産陶器⑯



3336



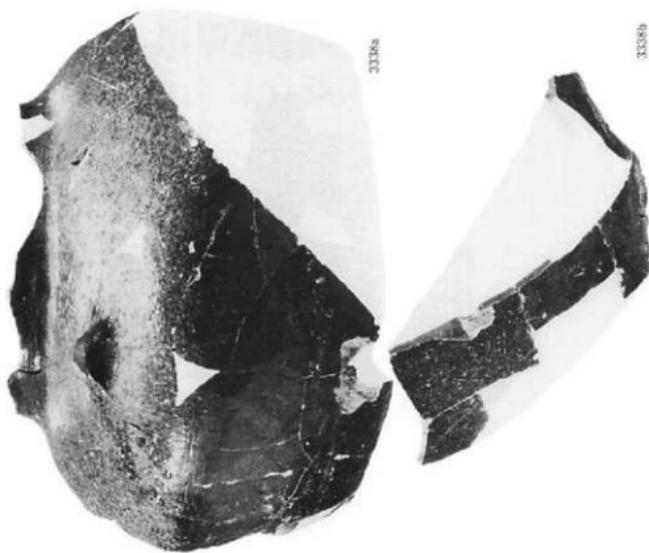
3337

写真図版127 常滑産陶器⑯



3339

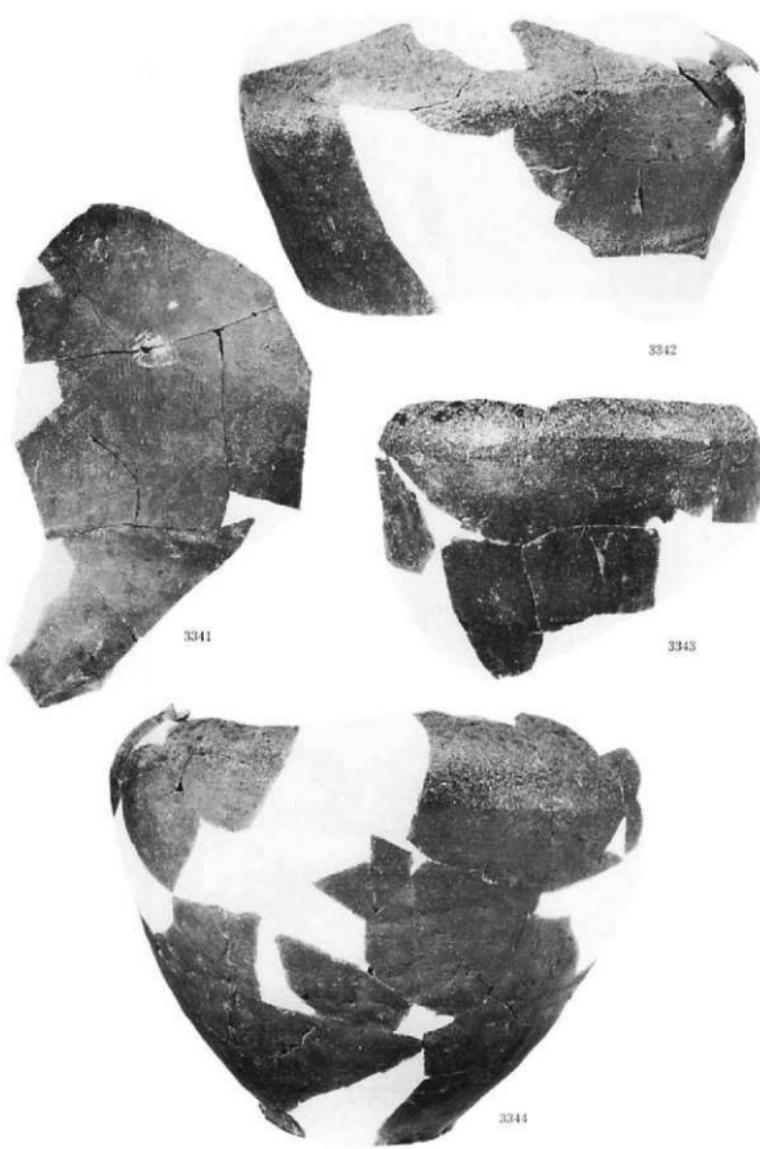
3340



3339a

3339b

写真図版128 常滑産陶器⑩



写真図版129 常滑産陶器⑧



3345



3346



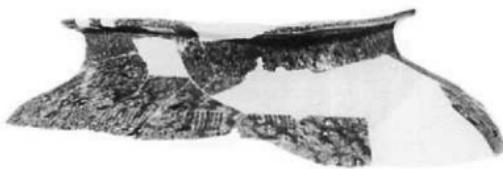
3347



3348



3349



3350

写真図版130 常滑産陶器⑩



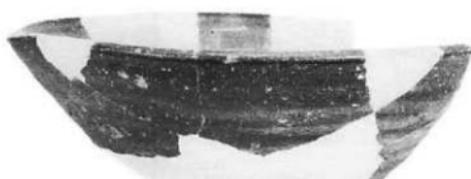
3351



3353



3352



3354



3356



3355

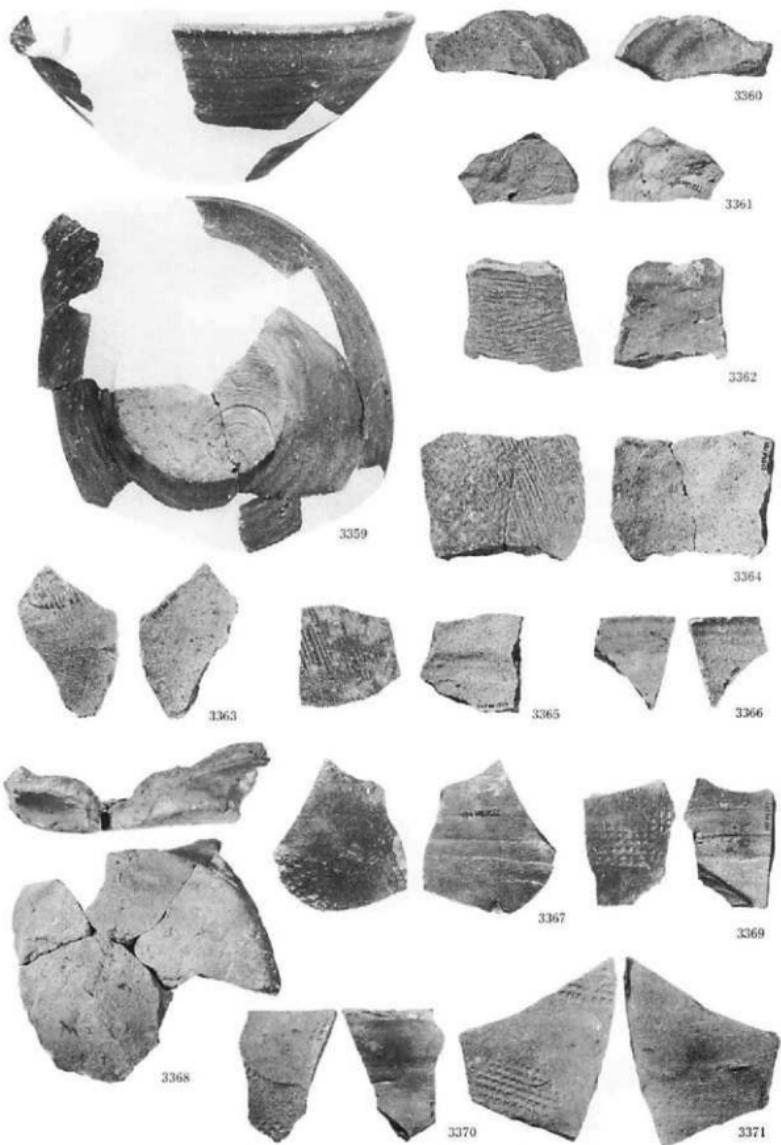


3357

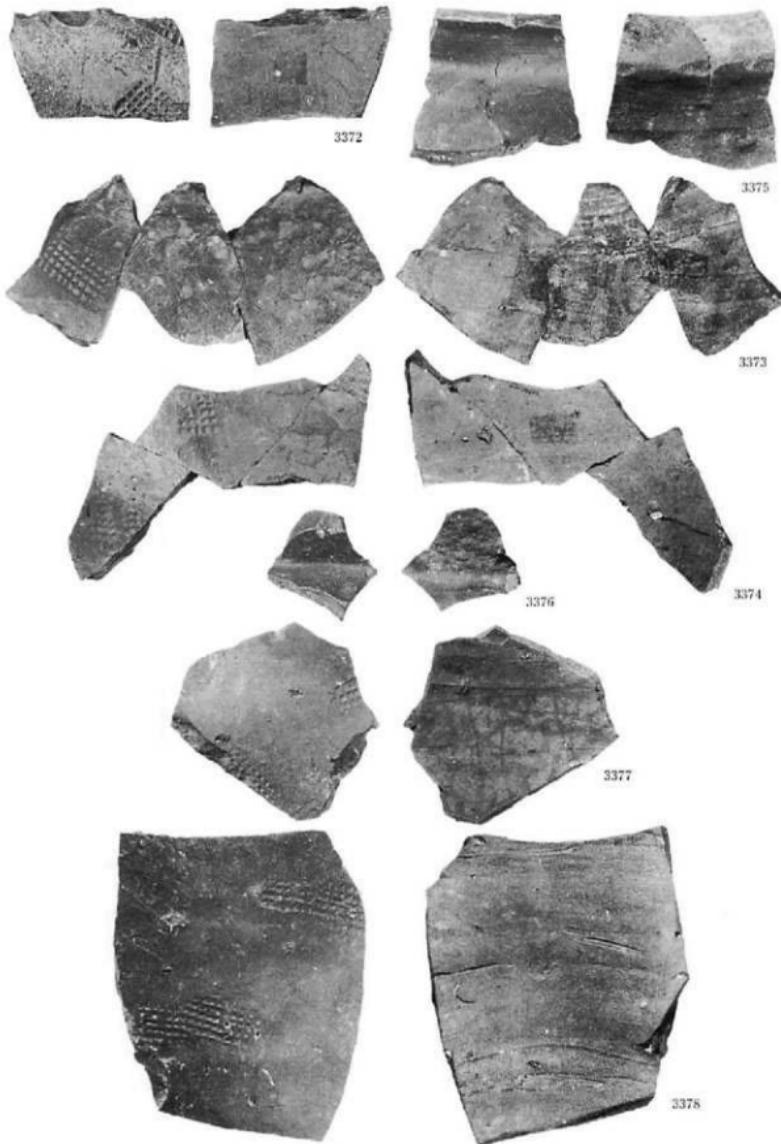


3358

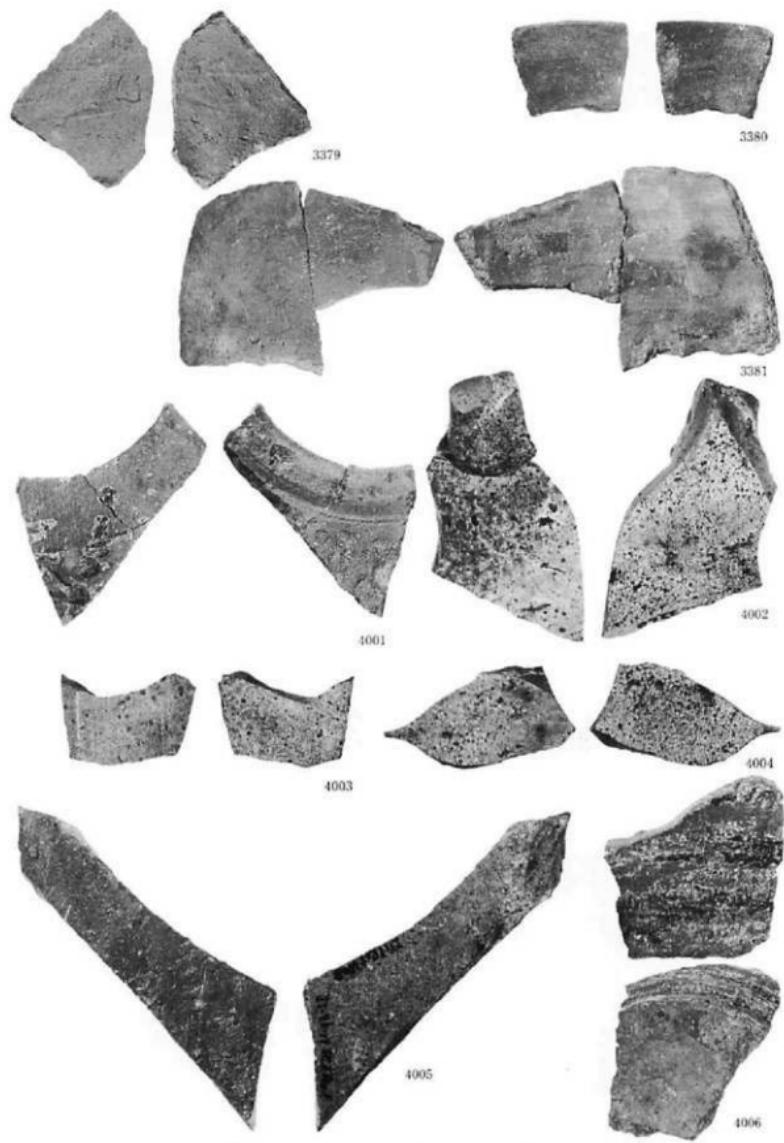
写真図版131 常滑産陶器⑩・須恵器系陶器①



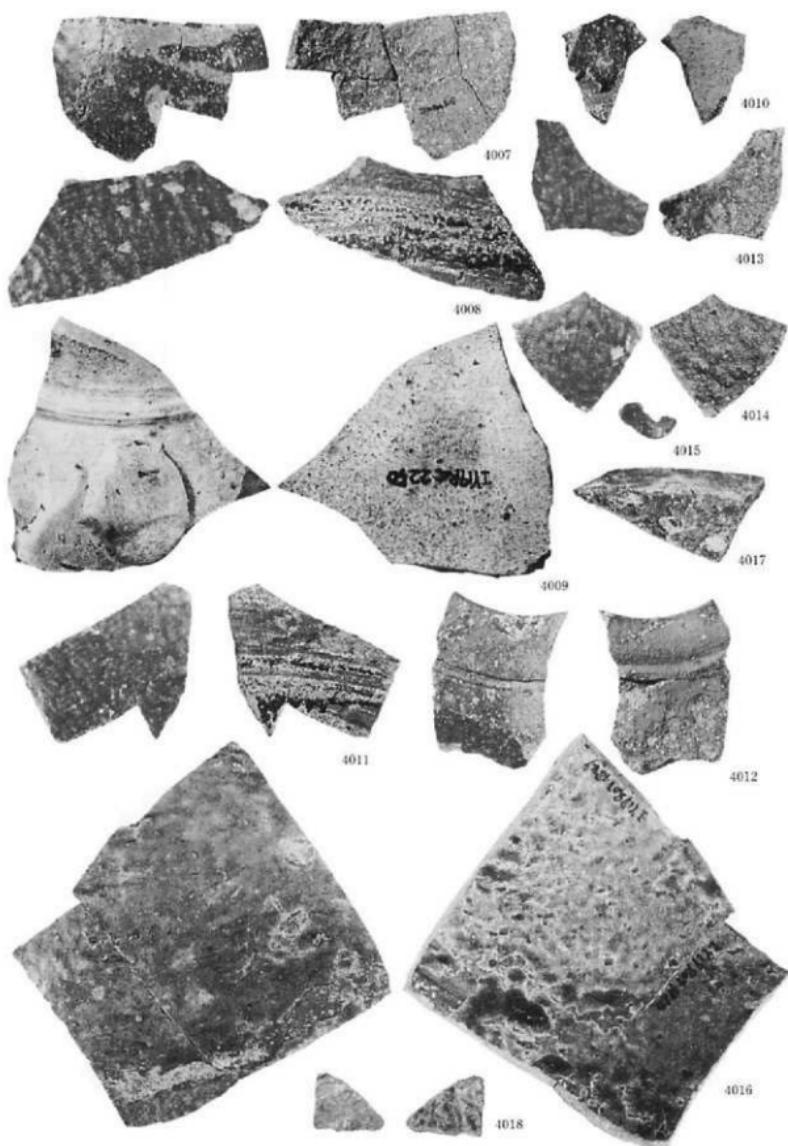
写真図版132 須恵器系陶器②・水沼産陶器①



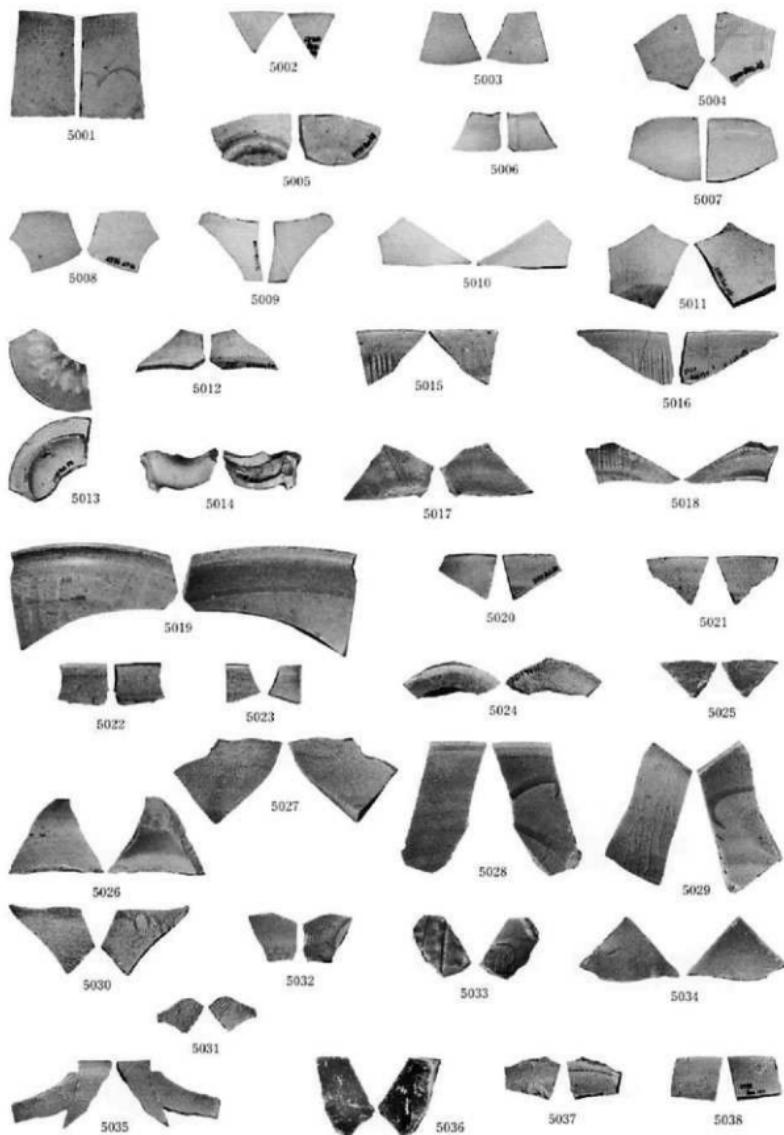
写真図版133 水沼産陶器②



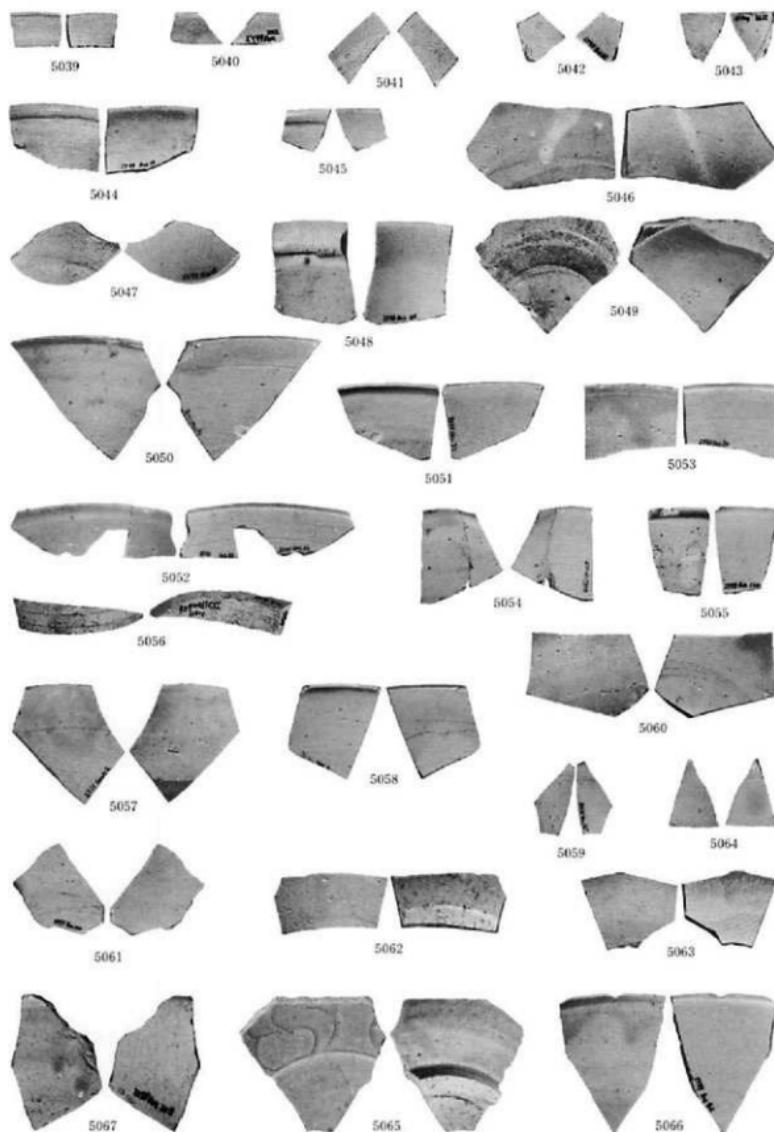
写真図版134 瓷器系陶器・中国産陶器①



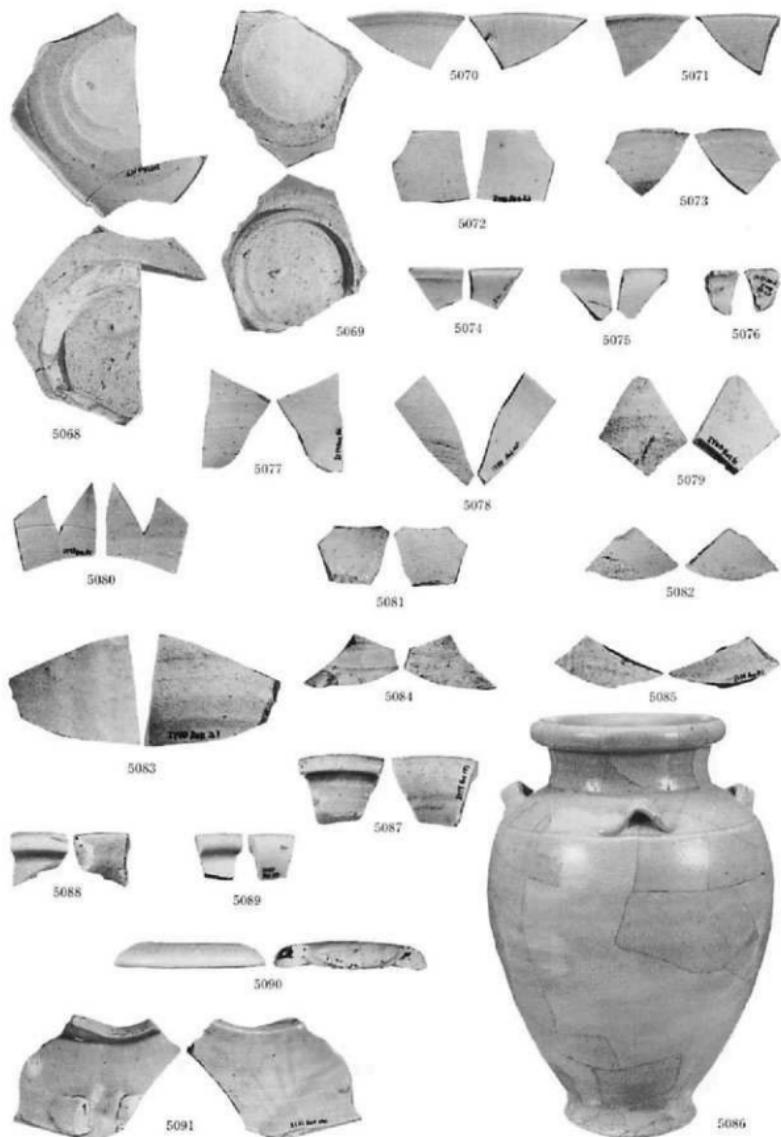
写真図版135 中国産陶器②・朝鮮産陶器



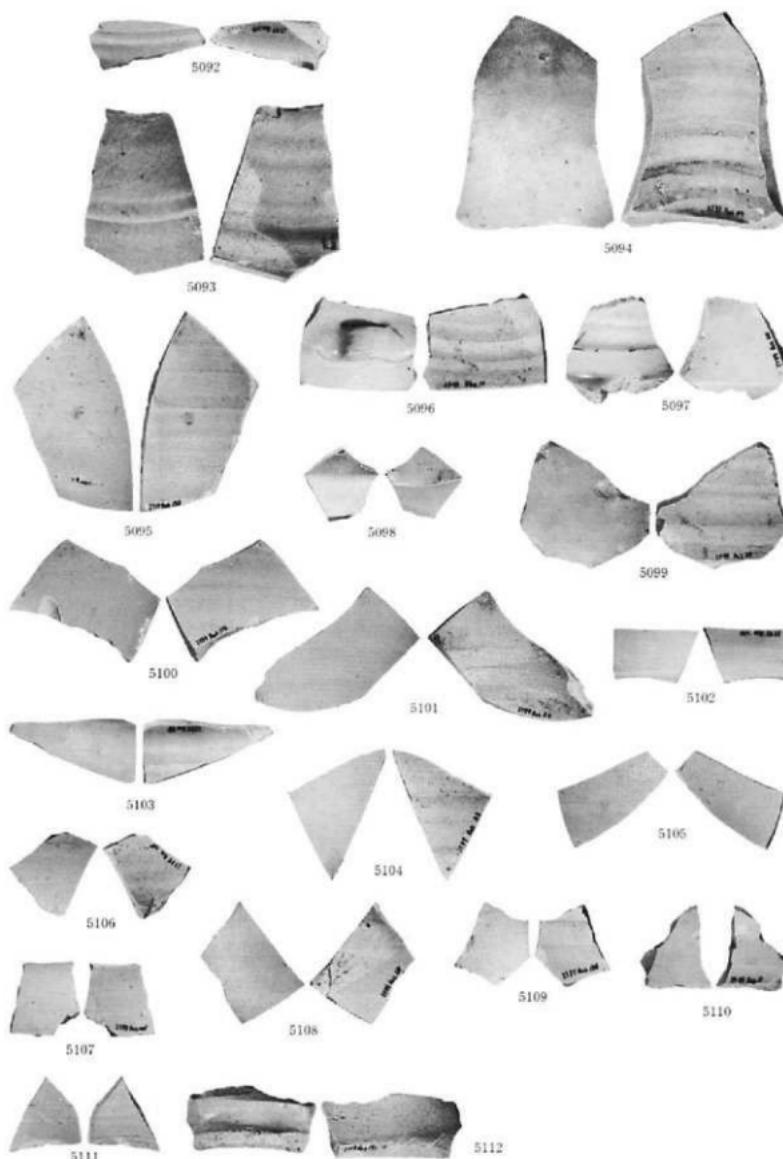
写真図版136 中国産磁器①



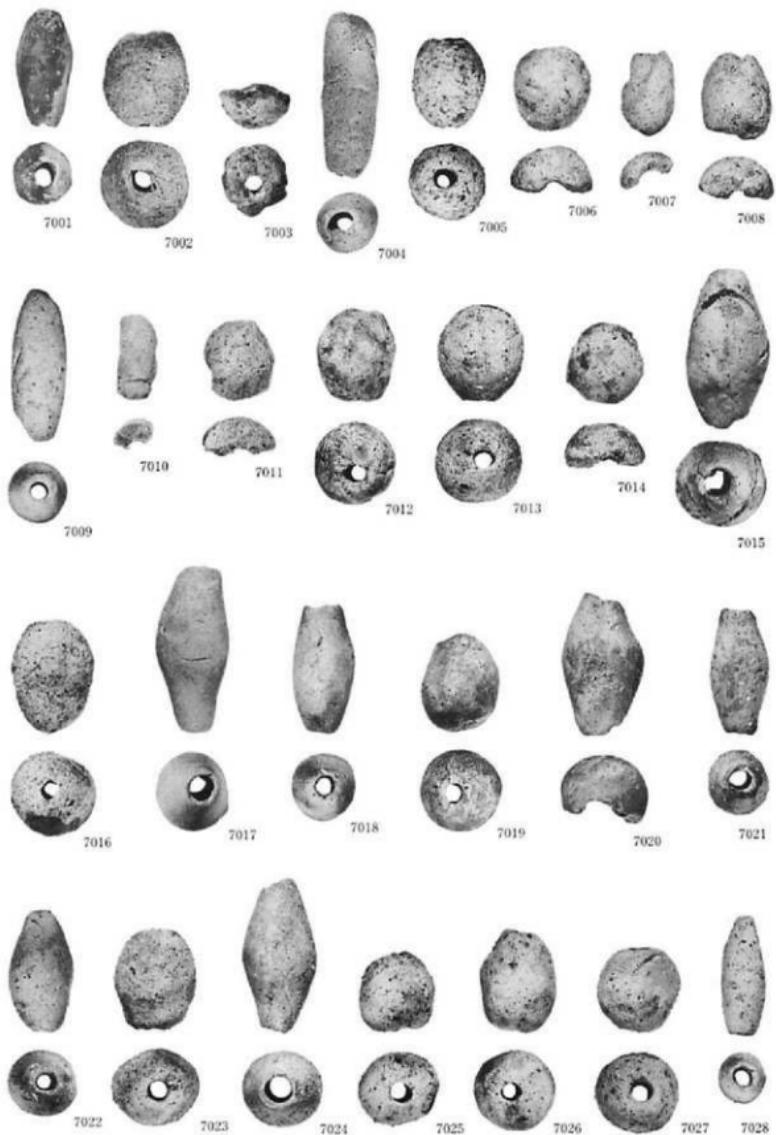
写真図版137 中国産磁器②



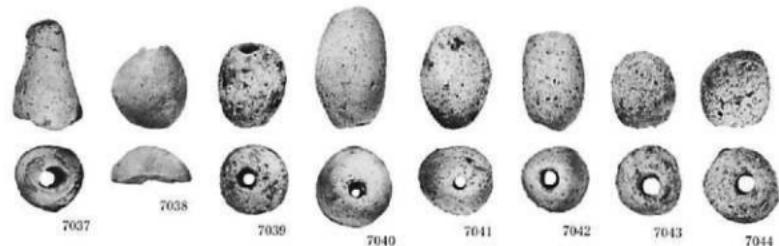
写真図版138 中国産磁器③



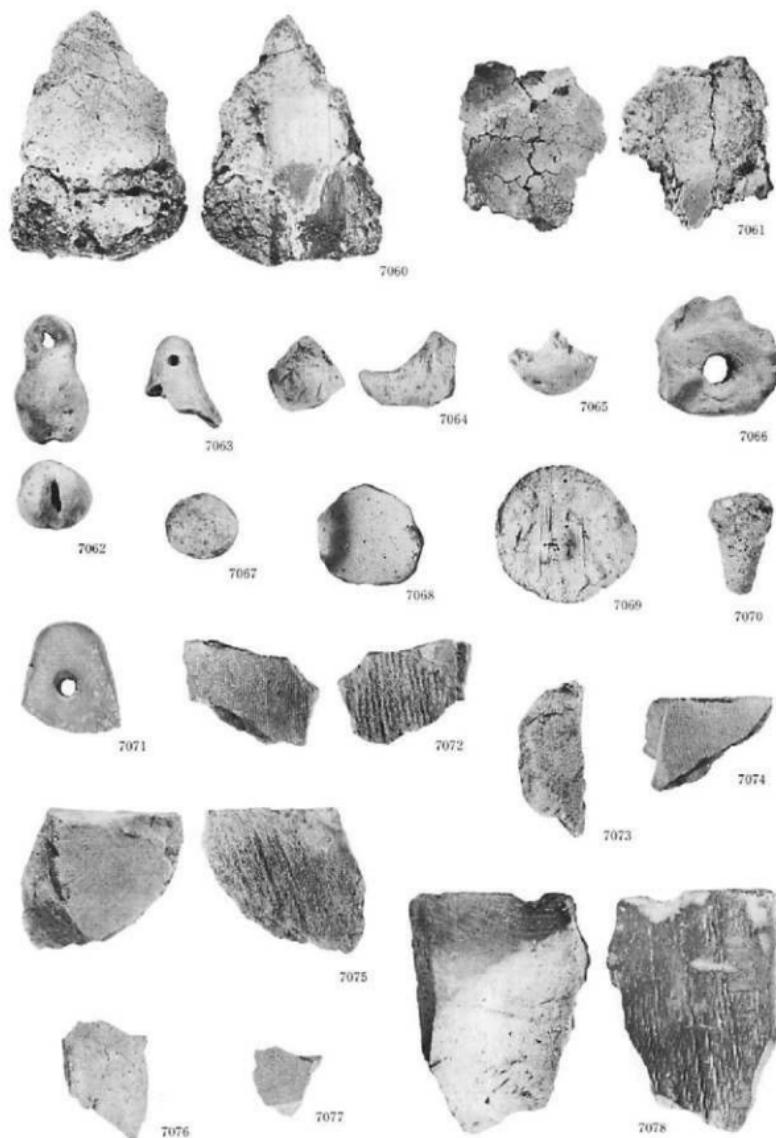
写真図版139 中国産磁器④



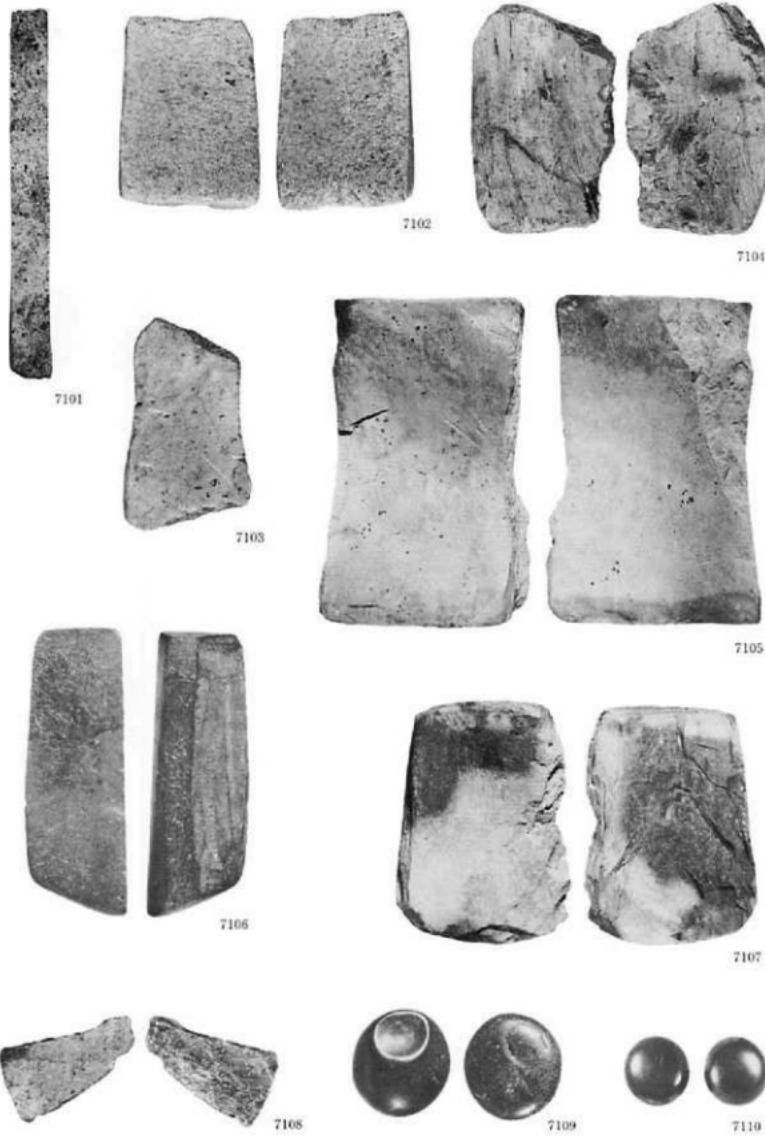
写真図版140 土製品①



写真図版141 土製品②



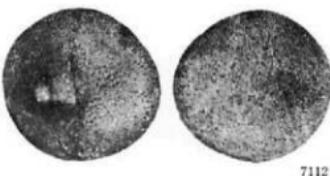
写真図版142 土製品③



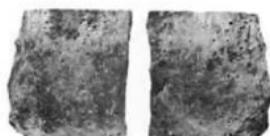
写真図版143 石製品①



7111



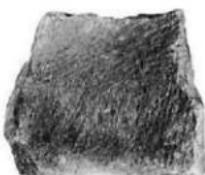
7112



7113



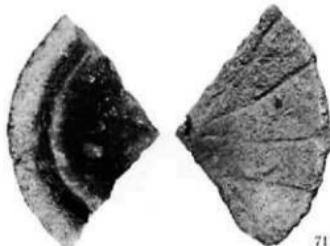
7114



7115



7116



7117

写真図版144 石製品②



7118

（キリ一ク）

願以此功德平等施一切石□□

元亨四年七月二十二日

同卷菩提心往生安樂國往生極樂



④ IIIH8i C5d層 相當(馬齒)



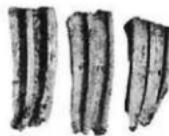
② IIIH7i To-a直上(鹿角)



③ NH2i (馬齒)



④ 19SD9埋土上部(馬齒)  
(IIIH9i)

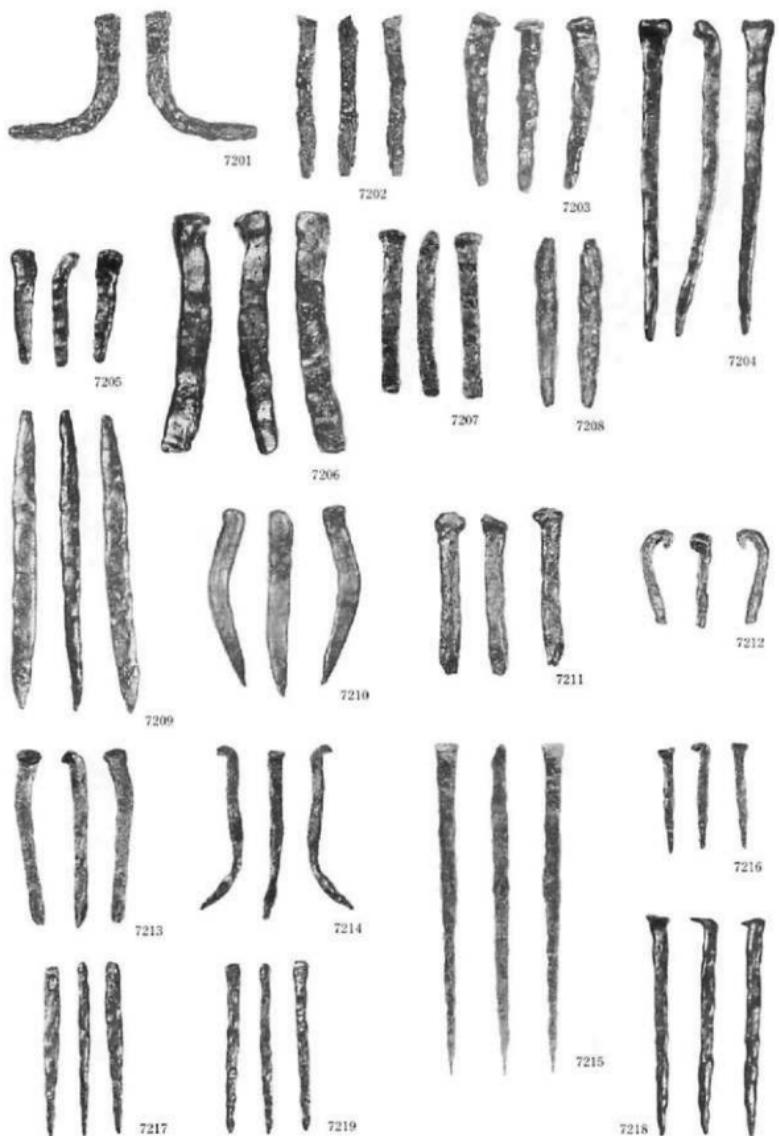


⑤ IIIH0j C6層(馬齒)

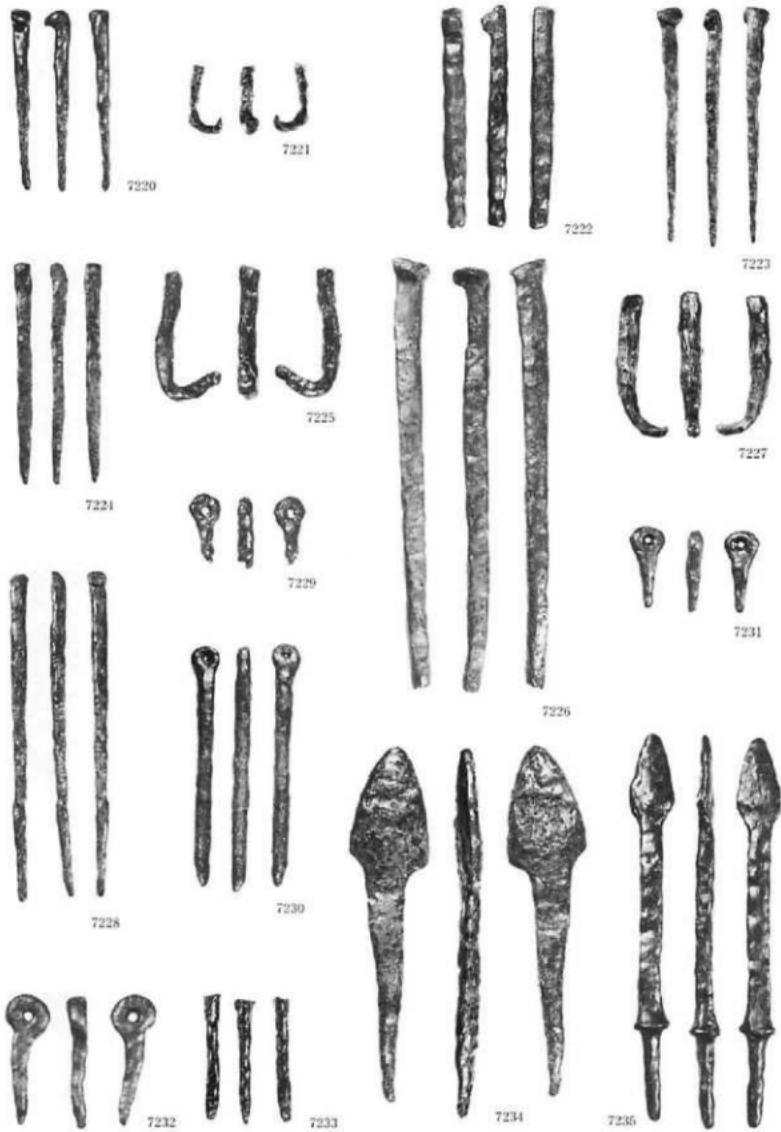


⑥ IIIH0j C9b層(鹿角)

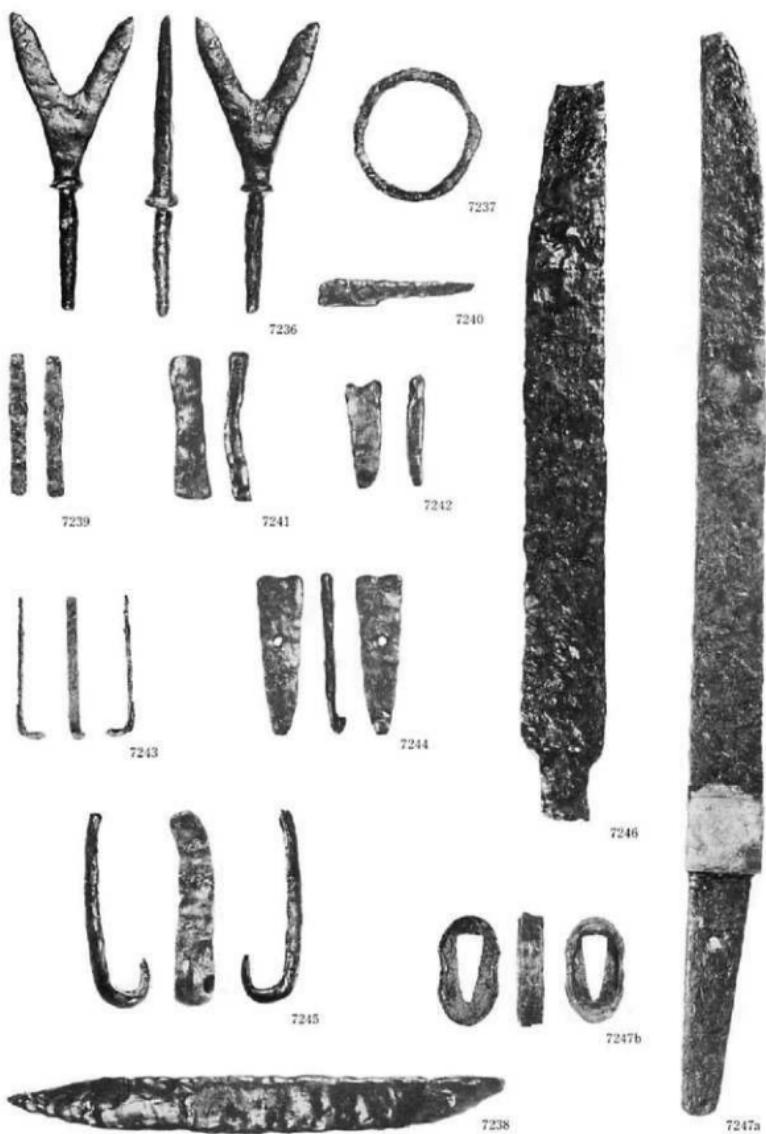
### 写真図版145 石製品③・動物遺存体



写真図版146 金属製品①



写真図版147 金属製品②



写真図版148 金属製品③



7248



7249



7250



7251



7252



7253



7254



7255



7256



7257



7258



写真図版149 金属製品④



7301



7302



7303



7304



7305



7306

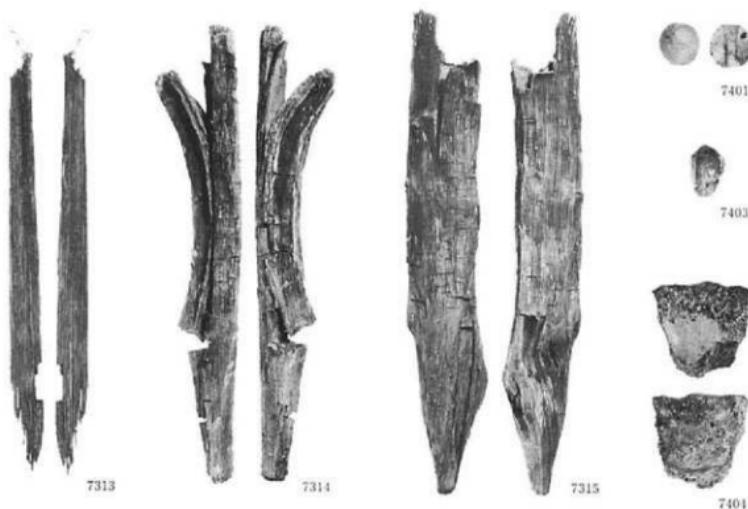
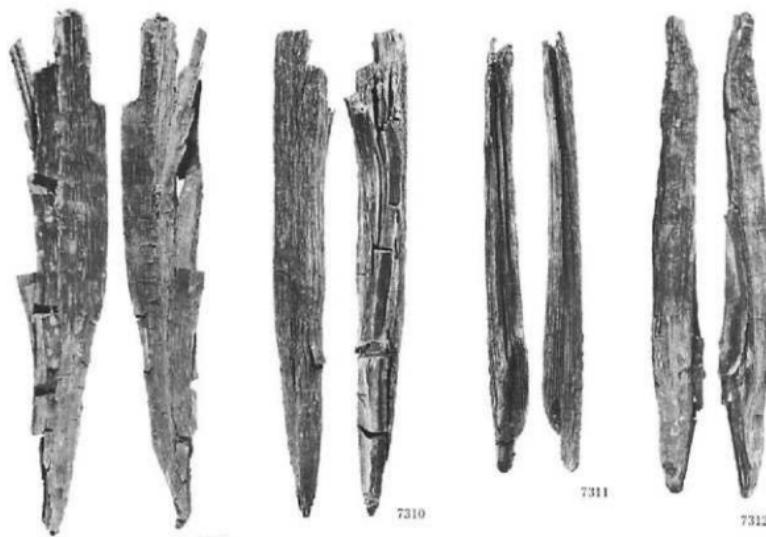


7307



7308

写真図版150 木製品



写真図版151 木杭・その他の遺物

## 報告書抄録

ふりがな	いづみやいせきだい16・19・21じはくつちょうさほうこくしょ							
書名	泉屋遺跡第16・19・21次発掘調査報告書							
副書名	中小河川改修事業関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第399集							
編著者名	羽柴直人・佐々木喜・濱田 宏・吉川 健							
編集機関	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185 TEL (019) 638-9001							
発行年月日	西暦 2001年3月日							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いづみやいせき 泉屋遺跡	いわてけん じしゅいせき 岩手県西磐井 市平泉町平泉 あいせいみや 字泉屋27-8 ほか	03402	NET6-1079	38度 58分 59秒	141度 7分 21秒	第16次 19960409~ 19960930 第19次 19990414~ 19991112 第21次 20000518~ 20001110	1,760m <sup>2</sup>  2,565m <sup>2</sup>  1,875m <sup>2</sup>	…閑遊水地事 業開拓 太田川堤防工 事に伴う緊急 発掘調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
泉屋遺跡 第16・19・21 次調査	都市	・12世紀 ・槇文時代 (前・後・ 晩期) ・9~10 世紀 ・13~14 世紀 ・16世紀 ・近世	堅穴住居跡 堅穴建物 掘進柱建物跡 井戸 土坑 溝跡 柱列 焼土 カマド状遺構 土器埋設遺構	3棟 2棟 86棟 23基 94基 33条 8条 10基 5基	国陶器・中国産磁器 かわらけ・瓦・木製品 (曲物・木歛ほか)・ 鉄製品(釘ほか)・漆器 土製品(土鍤ほか)・ ガラス玉・中近世陶磁 器・純文土器(前・後・ 晩期)・石器・動物依存 体・植物依存体など	・12世紀の大型建物 (16SB6)の検出 ・旧河道内に12世紀遺物包含 層と整地層検出 ・旧河道内に大量の十和田a 層下火山灰二次堆積層 ・中国産白磁四耳壺出土 ・ヘビの表鈴のある純文後期 末~晩期の遺物出土		

(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

---

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第399集  
泉屋遺跡第16・19・21次発掘調査報告書  
一関遊水地事業関連遺跡発掘調査  
(第2分冊)

印刷 平成15年3月24日

発行 平成15年3月31日

発行 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒 020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185

電話 (019)638-9001

印刷 小松総合印刷株式会社

〒 020-0827 岩手県盛岡市鉢屋町15-4

電話 (019)624-1374

